仙台市文化財調査報告書第389集

郡山遺跡第190次調査

－仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路
長町八木山線発掘調査報告書－

2011年 12月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第389集
郡山遺跡第190次調査
－仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路
長町八木山線発掘調査報告書－
二〇一一年一二月
仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第 389 集

郡山遺跡第190次調査

－仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路
長町八木山線発掘調査報告書－

2011年 12月

仙 台 市 教 育 委 員 会

Ⅳ区東側全景(東から)

Ⅳ区東側全景(北西から)

Ⅳ区SI６竪穴住居跡全景(東から)

Ⅳ区河川跡全景(東から)

第190次調査出土土師器

第190次調査出土須恵器

Ⅳ区SI6竪穴住居跡出土土器

Ⅳ区SI8竪穴住居跡出土土器

Ⅳ区SI4竪穴遺構出土土器

Ⅳ区古墳面出土土器

Ⅳ区Ⅵ層出土弥生土器

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残っております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残した貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら次の世代に継承していけるよう努めているところであります。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国史跡指定を受けた郡山遺跡官衙の西側で整備が進められている「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に関連する「都市計画道路長町八木山線」の調査成果をまとめたものです。

区画整理事業に伴う調査では、総数500軒近くの竪穴住居跡が発見されており、古墳時代後期～奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落がこの事業地内にあったことが明らかになってきました。また、この集落は、郡山遺跡の官衙の造営や運営に携わった人々の集落であったことなども考えられております。

今回の調査は郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙北部で行われ、弥生時代後期の土器や、古墳時代前期からⅡ期官衙後半期までの竪穴住居跡や溝跡などの遺構が発見されました。また、これらの遺構を浸食する広瀬川と考えられる大規模な河川跡も発見されるなど、遺跡北部での環境や土地利用の変遷を考える上で貴重な成果が得られました。

当教育委員会といたしましても、こうした発掘調査状況の公開・活用を進めるため、調査の概要を紹介する広報板の掲示や遺跡見学会の開催など、今後もより多くの市民の皆様に興味を持っていただけるような活動を行っていきたいと考えております。そのためにも、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、本年3月11日14時46分に発生した東日本大震災では、仙台市東部の沿岸部だけでなく、西部の丘陵地でも大きな被害を受けております。文化財につきましても、仙台城の石垣をはじめとして、仙台市内の多くの文化財が被害を受けております。仙台市では震災からの復興に向け、「ともに、前へ ～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めておるところです。そうした中、発掘調査から本報告書の刊行に際しまして、ご指導、ご協力下さいました皆様に深く感謝申し上げる次第です。

平成23年12月

仙台市教育委員会

教育長　青沼　一民

例　言

1. 本書は、仙台市教育委員会が実施した郡山遺跡第190次(仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路長町八木山線)発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3. 報告書刊行にあたっては、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係工藤信一郎、水野一夫の監理の下、遺物実測・トレース・遺構図トレース、遺物写真撮影、原稿執筆、編集に至るまでの作業を株式会社玉川文化財研究所が担当した。
4. 本書の執筆については、第1章第1・2節、第3章を工藤信一郎、第1章第3節、第2章第2節、第4・5・7章、第10章第1・3節を秋山重美(株式会社玉川文化財研究所以下同じ)、第6章を石川真紀、第8章を伊藤貴宏が担当し、第6～8章の土層説明、遺構・遺物図版及び観察表の作成は主に石川・伊藤が行った。第2章第1節については、東北学院大学教授の松本秀明氏に執筆していただいた。第10章第2節は、水野・工藤・斎野裕彦(文化財課調査指導係)の協議による。
5. 第9章の自然科学分析については、下記の諸氏及び機関に分析・執筆を依頼した。
   第1節　パリノ・サーヴェイ株式会社
   第2節　加速器分析研究所株式会社
6. 石器・石製品の石材については、蟹澤 聰史東北大学名誉教授(理学博士)に鑑定していただいた。
7. 発掘調査及び資料の整理に際して、次の方々から多くの指導・助言を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順・敬称略)
   今泉隆雄、岡田茂弘、蟹澤聰史、桑原滋郎、進藤秋輝、須藤隆、松本秀明、宮本長二郎
8. 本書の調査成果については、すでに現地説明会資料や古代城柵官衙検討会資料などに内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
9. 調査・整理に関するすべての資料は仙台市教育委員会が保管している。
10. 本報告書については、本年3月に刊行される予定であったが、3月11日に発生した東日本大震災の影響により刊行が12月となった。そのため、報告書集数については、3月時点で付けられたものになっている。

凡　例

1. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:50,000地形図「仙台」と1:10,000「長町」の一部を改変・縮小して使用している。
2. 遺構図の座標値は、「世界測地系平面直角座標第Ⅹ系」を基準としている。図中の方位北は、原則として座標北を基準とした。
3. 土層断面図中の数値は海抜高度(T.P.)を示す。
4. 本文及び土層註記表に記載している土色は、『新版　標準土色帖』(小山・竹原　1977)に基づいて認定した。
5. 検出遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構別に番号を付した。
   SA：柱穴列・材木列　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SI：竪穴住居跡・竪穴遺構　SK：土坑
   SM：小溝状遺構　SX：性格不明遺構　Pit：遺構外ピット　P：遺構内ピット
6. 本書に使用した遺構挿図の縮尺は以下の通りで、スケールとともに図中に示した。遺構配置図1/200、1/300、1/500、各種遺構配置図1/100、1/150、1/200、1/250、1/300、1/400、1/500、遺構平面図1/30、1/60、1/100、断面図1/30、1/40、1/60、1/100、遺物出土位置図1/200、遺物接合図1/150。

7. 各遺構番号は整理段階で振り替えを行っており、欠番などもあるため、旧遺構名称・番号とともに種別毎の遺構一覧表に記載した。
8. 竪穴住居跡の主軸方位は、カマド位置と対辺との直交線で求めた。カマドが検出されない場合には、付帯施設を参考とした推定方向を優先的に記載し、不明な場合には残存部で長辺となる壁を基準とした。
9. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

柱痕跡 焼土 炭化物範囲

10. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別毎にアラビア数字を付した。石器については分類種別を示す小文字アルファベットを付している。

B：弥生土器　C:土師器(非ロクロ調整)　D：ロクロ土師器　E：須恵器　F：丸瓦　G：平瓦
I：陶器　Ka-e1：剥片石器　Kc-a：磨石　Kc-c：敲石　Kc-g：台石　Kc-h：その他の礫石器
Kd-a：砥石　Kd-e：石製模造品　Kd-h：軽石製品　Kd-i：硯　N：金属製品　P：土製品　S：埴輪

11. 遺物実測図の縮尺については、石製模造品は2/3、剥片石器と銭貨は1/2、それ以外は1/3とした。
12. 土師器の実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

黒色処理 磨滅

13. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。

敲打痕 被熱による黒変 火ハネ

14. 土師器、石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、その都度図中に示した。
15. 掲載した遺物写真の縮尺は原則として遺物実測図に準じた。但し、その縮尺での掲載が困難な場合は、適宜縮尺を変更した。
16. 座標値及び海抜高度については、平成23年 3 月11日の東日本大震災前のものを使用している。

目　次

巻頭カラー写真

序文

例言

凡例

第１章　調査に至る経緯……1

第１節　調査事由……1

第２節　調査要項……3

(1)平成20年度調査体制……3

(2)平成21年度調査体制……3

(3)平成22年度調査報告書作成体制……3

(4)平成23年度調査報告書作成体制……3

第３節　遺構確認調査……3

(1)確認調査に至る経緯……3

(2)確認調査区の設定と調査の方法……4

(3)第１次確認調査(平成20年度)の概要……4

(4)第２次確認調査(平成21年度)の概要……4

(5)第１・２次確認調査(平成20・21年度)の所見……7

第２章　遺跡の立地と環境……12

第１節　郡山遺跡及びその周辺の地形環境　－扇状地と旧河道地形－……12

(1)郡山遺跡の地形的位置と仙台平野におけるその特異性……12

(2)名取川・広瀬川合流扇状地を構成する砂礫層……12

(3)名取川・広瀬川合流扇状地上に残された旧河道地形……12

(4)郡山遺跡周辺の旧河道地形の分布……13

(5)郡山遺跡北縁部の河道の形成と放棄年代……13

(6)郡山遺跡の位置と地形環境……14

第２節　郡山遺跡の位置と周辺の遺跡……18

(1)郡山遺跡の位置……18

(2)周辺の遺跡……18

第３章　調査の方法と概要……20

第１節　調査の方法……20

第２節　調査概要……20

(1)調査経過……20

(2)測量基準・図面の作成……20

(3)遺物の取り上げ・調査記録の作成 …… 20
(4)遺構登録番号 …… 20
(5)調査報告書作成作業 …… 22

第4章　基本層序と河川堆積土(Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区) …… 22
第1節　Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区の基本層序 …… 22
第2節　Ⅱ区の河川堆積土 …… 35
第3節　Ⅳ・Ⅴ区の河川堆積土 …… 35
(1)Ⅳ区の河川堆積土 …… 35
(2)Ⅴ区の河川堆積土 …… 35

第5章　確認調査・河川跡調査の出土遺物 …… 37
第1節　確認調査の出土遺物 …… 37
第2節　河川跡調査と出土遺物 …… 37

第6章　Ⅱ区の検出遺構と出土遺物 …… 39
第1節　Ⅱ区の本調査 …… 39
第2節　中世以降の遺構と遺物 …… 39
(1)掘立柱建物跡 …… 39
(2)柱穴列 …… 45
(3)溝跡 …… 49
(4)小溝状遺構群 …… 50
(5)土坑 …… 56
(6)ピット …… 59
(7)性格不明遺構 …… 63
(8)遺構外出土遺物 …… 65

第7章　Ⅳ区の検出遺構と出土遺物 …… 66
第1節　Ⅳ区の本調査 …… 66
第2節　中世以降の遺構と遺物 …… 66
(1)小溝状遺構群 …… 68
(2)杭列 …… 78
(3)土坑 …… 79
(4)ピット …… 79
第3節　古墳時代後期～終末期の遺構と遺物 …… 91
(1)竪穴住居跡 …… 91
(2)掘立柱建物跡 …… 146
(3)柱穴列 …… 158
(4)材木列 …… 167

(5)土坑 ……167
(6)性格不明遺構 ……172
(7)ピット ……179
(8)遺構外出土遺物 ……186
第4節　古墳時代前期～中期の遺構と遺物 ……192
(1)小溝状遺構群 ……192
(2)溝跡 ……195
(3)窪地状地形 ……203
(4)ピット ……213
(5)遺構外出土遺物 ……213
第5節　弥生時代の調査 ……216
(1)基本層Ⅵ層出土遺物 ……216
(2)炭化物集中箇所 ……221
(3)ピット状小穴 ……227

第8章　Ⅴ区の検出遺構と出土遺物 ……228
第1節　Ⅴ区の本調査 ……228
第2節　中世以降の遺構と遺物 ……228
(1)溝跡 ……228
(2)土坑 ……232
(3)性格不明遺構 ……234
(4)ピット ……234
第3節　古墳時代後期～終末期の遺構と遺物 ……237
(1)竪穴住居跡 ……237
(2)遺構外出土遺物 ……244
第4節　古墳時代前期～中期の遺構と遺物 ……244
(1)小溝状遺構群 ……244
(2)ピット ……244
第5節　弥生時代の調査 ……246

第9章　自然科学分析 ……247
第1節　郡山遺跡第190次調査Ⅳ区の古環境 ……247
第2節　郡山遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) ……262

第10章　総　括 ……264
第1節　検出された遺構と遺物 ……264
(1)出土遺物 ……264
(2)検出遺構 ……272
第2節　方四町Ⅱ期官衙の区画施設と造営尺について ……276

第3節　まとめ……280
引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　第190次調査区位置図……2
第 2 図　確認調査トレンチ配置及び本調査範囲図‥5
第 3 図　基本層序　1トレンチ……8
第 4 図　基本層序　4トレンチ……8
第 5 図　基本層序　21トレンチ……9
第 6 図　基本層序　24トレンチ……10
第 7 図　基本層序　27トレンチ……10
第 8 図　基本層序　31トレンチ……11
第 9 図　扇状地を構成する砂礫層の上面高度分布‥15
第10図　合流扇状地を構成する砂礫層断面図……15
第11図　名取川・広瀬川合流扇状地を流下する
　　旧河道群……16
第12図　郡山遺跡周辺の地形分類図……16
第13図　Ⅳ区東調査区を通過する旧河道断面……17
第14図　郡山遺跡の位置と地盤高……17
第15図　郡山遺跡と周辺の遺跡……19
第16図　Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区グリッド配置図……21
第17図　Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区基本層序断面位置図……23
第18図　Ⅱ区基本層序(1)……24
第19図　Ⅱ区基本層序(2)……25・26
第20図　Ⅳ区基本層序(1)……27・28
第21図　Ⅳ区基本層序(2)……29・30
第22図　Ⅳ区基本層序(3)……31・32
第23図　Ⅴ区基本層序……33・34
第24図　確認調査出土遺物……37
第25図　Ⅳ区河川跡出土遺物……38
第26図　Ⅱ区遺構配置図(河川堆積土1層上面)……40
第27図　Ⅱ区遺構配置図(河川堆積土4層上面)……41
第28図　Ⅱ区SB1掘立柱建物跡……43・44
第29図　Ⅱ区SA1～4柱穴列配置図……45
第30図　Ⅱ区SA1柱穴列……46
第31図　Ⅱ区SA1柱穴列出土遺物……46
第32図　Ⅱ区SA2柱穴列……47
第33図　Ⅱ区SA3柱穴列……48
第34図　Ⅱ区SA4柱穴列……48
第35図　Ⅱ区SD1溝跡……49
第36図　Ⅱ区SD2溝跡……50
第37図　Ⅱ区小溝状遺構A～E群配置図……51
第38図　Ⅱ区小溝状遺構A群……51
第39図　Ⅱ区小溝状遺構B群……52
第40図　Ⅱ区小溝状遺構C群……53
第41図　Ⅱ区小溝状遺構D群……54
第42図　Ⅱ区小溝状遺構E群……55
第43図　Ⅱ区土坑(1)……57
第44図　Ⅱ区土坑(2)……58
第45図　Ⅱ区土坑出土遺物……59
第46図　Ⅱ区ピット配置図……60
第47図　Ⅱ区ピット……61
第48図　Ⅱ区SX1性格不明遺構……64
第49図　Ⅱ区SX1性格不明遺構出土遺物……64
第50図　Ⅱ区SX3～5性格不明遺構……64
第51図　Ⅱ区SX2性格不明遺構……65
第52図　Ⅱ区遺構外出土遺物……65
第53図　Ⅳ区遺構配置図(Ⅱc層上面)……67
第54図　Ⅳ区小溝状遺構A～F群配置図……69
第55図　Ⅳ区小溝状遺構A群……70
第56図　Ⅳ区小溝状遺構B群……72
第57図　Ⅳ区小溝状遺構C群……73
第58図　Ⅳ区小溝状遺構D群……74
第59図　Ⅳ区小溝状遺構E群……75・76
第60図　Ⅳ区小溝状遺構F群……77
第61図　Ⅳ区杭列配置図……78
第62図　Ⅳ区杭列1……80
第63図　Ⅳ区杭列2……81

第64図　Ⅳ区杭列3 …… 82
第65図　Ⅳ区土坑（Ⅱc層上面） …… 83
第66図　Ⅳ区ピット（Ⅱc層上面） …… 84
第67図　Ⅳ区ピット配置図（Ⅱc層上面） ……85・86
第68図　Ⅳ区遺構配置図（Ⅳa層上面） ……89・90
第69図　Ⅳ区SI1竪穴住居跡（1） …… 92
第70図　Ⅳ区SI1竪穴住居跡（2） …… 93
第71図　Ⅳ区SI1竪穴住居跡出土遺物…… 95
第72図　Ⅳ区SI2竪穴住居跡 …… 97
第73図　Ⅳ区SI2竪穴住居跡出土遺物…… 98
第74図　Ⅳ区SI3竪穴住居跡 ……100
第75図　Ⅳ区SI3竪穴住居跡出土遺物（1）……101
第76図　Ⅳ区SI3竪穴住居跡出土遺物（2）……102
第77図　Ⅳ区SI4竪穴遺構……104
第78図　Ⅳ区SI4竪穴遺構出土遺物（1） ……105
第79図　Ⅳ区SI4竪穴遺構出土遺物（2） ……106
第80図　Ⅳ区SI5竪穴住居跡（1） ……108
第81図　Ⅳ区SI5竪穴住居跡（2） ……109
第82図　Ⅳ区SI5竪穴住居跡出土遺物……110
第83図　Ⅳ区SI6竪穴住居跡（1） ……112
第84図　Ⅳ区SI6竪穴住居跡（2） ……113
第85図　Ⅳ区SI6竪穴住居跡（3） ……114
第86図　Ⅳ区SI6竪穴住居跡出土遺物（1）……116
第87図　Ⅳ区SI6竪穴住居跡出土遺物（2）……117
第88図　Ⅳ区SI7竪穴住居跡 ……119
第89図　Ⅳ区SI7竪穴住居跡出土遺物……120
第90図　Ⅳ区SI8Ａ竪穴住居跡（1）……121
第91図　Ⅳ区SI8Ａ竪穴住居跡（2）……122
第92図　Ⅳ区SI8Ａ竪穴住居跡出土遺物（1） ……125
第93図　Ⅳ区SI8Ａ竪穴住居跡出土遺物（2） ……126
第94図　Ⅳ区SI8Ｂ竪穴住居跡 ……127
第95図　Ⅳ区SI9竪穴住居跡 ……129
第96図　Ⅳ区SI10竪穴住居跡……130
第97図　Ⅳ区SI10竪穴住居跡出土遺物 ……131
第98図　Ⅳ区SI11竪穴住居跡……132
第99図　Ⅳ区SI11竪穴住居跡出土遺物 ……133
第100図　Ⅳ区SI12竪穴住居跡……134
第101図　Ⅳ区SI13竪穴住居跡（1）……136
第102図　Ⅳ区SI13竪穴住居跡（2）……137
第103図　Ⅳ区SI13竪穴住居跡出土遺物 ……139
第104図　Ⅳ区SI14竪穴住居跡（1）……141
第105図　Ⅳ区SI14竪穴住居跡（2）……142
第106図　Ⅳ区SI15竪穴住居跡……143
第107図　Ⅳ区SI15竪穴住居跡出土遺物 ……143
第108図　Ⅳ区SI16竪穴住居跡……144
第109図　Ⅳ区SI16竪穴住居跡出土遺物 ……145
第110図　Ⅳ区SB1・SA1・窪地状地形1位置図…147
第111図　Ⅳ区SB1掘立柱建物跡 ……148
第112図　Ⅳ区SB1掘立柱建物跡出土遺物（1）……150
第113図　Ⅳ区SB1掘立柱建物跡出土遺物（2）……151
第114図　Ⅳ区SB2掘立柱建物跡 ……152
第115図　Ⅳ区SB3掘立柱建物跡（1） ……154
第116図　Ⅳ区SB3掘立柱建物跡（2） ……155
第117図　Ⅳ区SB4掘立柱建物跡 ……156
第118図　Ⅳ区SB5掘立柱建物跡 ……157
第119図　Ⅳ区SB6掘立柱建物跡 ……158
第120図　Ⅳ区SA1柱穴列……160
第121図　Ⅳ区SA1柱穴列出土遺物 ……161
第122図　Ⅳ区SA2柱穴列……162
第123図　Ⅳ区SA4柱穴列……163
第124図　Ⅳ区SA5柱穴列……164
第125図　Ⅳ区SA6柱穴列……165
第126図　Ⅳ区SA7柱穴列……166
第127図　Ⅳ区SA3材木列（1）……168
第128図　Ⅳ区SA3材木列（2）……169
第129図　Ⅳ区土坑（Ⅳa層上面） ……170
第130図　Ⅳ区土坑出土遺物 ……171
第131図　Ⅳ区SX7性格不明遺構（竪穴状遺構） …173
第132図　Ⅳ区SX7性格不明遺構（竪穴状遺構）
出土遺物 ……173
第133図　Ⅳ区SX2・3性格不明遺構 ……174
第134図　Ⅳ区SX4 ～ 6・8・10・20性格不明遺構
……175
第135図　Ⅳ区SX3・4性格不明遺構出土遺物……176
第136図　Ⅳ区ピット配置図（Ⅳa層上面）… 177・178
第137図　Ⅳ区ピット出土遺物 ……179
第138図　Ⅳ区ピット（Ⅳa層上面1） ……180
第139図　Ⅳ区ピット（Ⅳa層上面2） ……181

第140図　Ⅳ区ピット（Ⅳa層上面3）……182
第141図　Ⅳ区遺構外出土遺物（1）……187
第142図　Ⅳ区遺構外出土遺物（2）……188
第143図　Ⅳ区遺構外出土遺物（3）……189
第144図　Ⅳ区遺構外出土遺物（4）……190
第145図　Ⅳ区遺構配置図（Ⅵ層上面）……193・194
第146図　小溝状遺構Ａ群（Ⅵ層上面）……196
第147図　小溝状遺構Ｂ群（Ⅵ層上面）……197・198
第148図　小溝状遺構Ｂ群変遷図……199
第149図　Ⅳ区SD5溝跡……200
第150図　Ⅳ区窪地状地形1……201・202
第151図　Ⅳ区窪地状地形1遺物出土位置図……204
第152図　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物（1）……205
第153図　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物（2）……206
第154図　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物（3）……207
第155図　Ⅳ区窪地状地形2……209・210
第156図　Ⅳ区窪地状地形2出土遺物……212
第157図　Ⅳ区遺構外出土遺物……213
第158図　Ⅳ区東側ピット配置図（Ⅵ層上面）……214
第159図　Ⅳ区東側出土弥生土器接合図……217
第160図　Ⅳ区Ⅵ層出土遺物……218
第161図　Ⅳ区炭化物集中1～7分布図（Ⅵ層）
……219・220
第162図　Ⅳ区炭化物集中1……221
第163図　Ⅳ区炭化物集中2……222
第164図　Ⅳ区炭化物集中3……222
第165図　Ⅳ区炭化物集中4……223
第166図　Ⅳ区炭化物集中5……224
第167図　Ⅳ区炭化物集中7……224
第168図　Ⅳ区炭化物集中6……225
第169図　Ⅳ区東側ピット状小穴配置図（Ⅵ層）……226
第170図　Ⅴ区遺構配置図（表土直下）……229
第171図　Ⅴ区SD1溝跡……230
第172図　Ⅴ区SD2～4溝跡……231
第173図　Ⅴ区土坑……233
第174図　Ⅴ区土坑出土遺物……234
第175図　Ⅴ区SX11性格不明遺構……235
第176図　Ⅴ区ピット……235
第177図　Ⅴ区遺構配置図（Ⅳ層上面）……238
第178図　Ⅴ区SI17竪穴住居跡（1）……239
第179図　Ⅴ区SI17竪穴住居跡（2）……240
第180図　Ⅴ区SI17竪穴住居跡出土遺物……241
第181図　Ⅴ区SI18竪穴住居跡……242
第182図　Ⅴ区SI18竪穴住居跡出土遺物……243
第183図　Ⅴ区遺構外出土遺物……244
第184図　Ⅴ区遺構配置図
（Ⅵ層上面・弥生下層調査区）……245
第185図　Ⅴ区小溝状遺構群……246
第186図　主要珪藻化石群集の層位分布……252
第187図　植物珪酸体群集の層位分布……253
第188図　珪藻化石……259
第189図　植物珪酸体……260
第190図　花粉分析・寄生虫卵分析プレパラート内
の状況・種実遺体……261
第191図　1～3期出土基準資料……265
第192図　4a～5a期遺構内出土基準資料……266
第193図　5a・5b期遺構内出土基準資料……267
第194図　各遺構内出土遺物（1）……268
第195図　各遺構内出土遺物（2）……269
第196図　各遺構内出土遺物（3）……270
第197図　窪地状地形出土遺物……271
第198図　第190次調査Ⅳ・Ⅴ区検出遺構時期別
変遷模式図……273
第199図　Ⅳ・Ⅴ区主要遺構配置図（1～3期）……274
第200図　Ⅳ・Ⅴ区主要遺構配置図（4a～5b期）……275
第201図　郡山遺跡Ⅱ期官衙の区画施設と方格
地割計画線……278
第202図　藤原宮の区画施設と条坊計画線……278

写真図版目次

写真図版 1　確認調査(1)……285
写真図版 2　確認調査(2)……286
写真図版 3　Ⅱ区調査区全景・掘立柱建物跡(1)……287
写真図版 4　Ⅱ区掘立柱建物跡(2)……288
写真図版 5　Ⅱ区柱穴列・溝跡・性格不明遺構(1)……289
写真図版 6　Ⅱ区性格不明遺構(2)・土坑(1)……290
写真図版 7　Ⅱ区土坑(2)・小溝状遺構群……291
写真図版 8　Ⅱ区ピット……292
写真図版 9　Ⅳ区調査区全景……293
写真図版10　Ⅳ区竪穴住居跡・竪穴遺構(1)……294
写真図版11　Ⅳ区竪穴住居跡・竪穴遺構(2)……295
写真図版12　Ⅳ区竪穴住居跡(3)……296
写真図版13　Ⅳ区竪穴住居跡(4)……297
写真図版14　Ⅳ区竪穴住居跡(5)……298
写真図版15　Ⅳ区掘立柱建物跡・柱穴列……299
写真図版16　Ⅳ区材木列……300
写真図版17　Ⅳ区性格不明遺構(1)……301
写真図版18　Ⅳ区性格不明遺構(2)・河川跡……302
写真図版19　Ⅳ区土坑……303
写真図版20　Ⅳ区Ⅵ層上面遺構……304
写真図版21　Ⅳ区Ⅵ層調査(1)……305
写真図版22　Ⅳ区Ⅵ層調査(2)……306
写真図版23　Ⅴ区調査区全景……307
写真図版24　Ⅴ区土坑・溝跡……308
写真図版25　Ⅴ区竪穴住居跡……309
写真図版26　Ⅴ区河川跡・Ⅵ層上面・弥生下層調査区……310
写真図版27　Ⅳ区確認調査・河川跡、Ⅱ区柱穴列・土坑・性格不明遺構・遺構外出土遺物……311
写真図版28　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(1)……312
写真図版29　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(2)……313
写真図版30　Ⅳ区竪穴住居跡・竪穴遺構出土遺物(3)……314
写真図版31　Ⅳ区竪穴遺構出土遺物(4)……315
写真図版32　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(5)……316
写真図版33　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(6)……317
写真図版34　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(7)……318
写真図版35　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(8)……319
写真図版36　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(9)・掘立柱建物跡出土遺物……320
写真図版37　Ⅳ区柱穴列・土坑出土遺物……321

写真図版38　Ⅳ区性格不明遺構・ピット出土遺物 ……322
写真図版39　Ⅳ区遺構外出土遺物(1)……323
写真図版40　Ⅳ区遺構外出土遺物(2)……324
写真図版41　Ⅳ区遺構外出土遺物(3)・窪地状地形1出土遺物(1) ……325
写真図版42　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物(2)……326
写真図版43　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物(3)……327
写真図版44　Ⅳ区窪地状地形1・2出土遺物(4)……328
写真図版45　Ⅳ区遺構外出土遺物、Ⅳ区Ⅵ層出土遺物(1)、Ⅴ区土坑・竪穴住居跡・遺構外出土遺物 ……329
写真図版46　Ⅳ区Ⅵ層出土遺物(2) ……330

第1章　調査に至る経緯

第1節　調査事由（第1図）

都市計画道路長町八木山線（旧事業名称長町折立線）整備事業は、仙台市太白区長町に計画され、JR長町駅東側一帯で整備が進む「仙台市あすと長町土地区画整理事業」に関連する事業である。あすと長町土地区画整理事業の実施に当たり、仙台市教育委員会と事業主体者である住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）は埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、事業計画地内の計画路線にかかる西台畑遺跡・長町駅東遺跡及び郡山遺跡の一部について発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は区画整理事業地内の計画路線部分を対象として、事業計画の進行に合わせて実施することとし、平成10年の西台畑遺跡の調査から開始した。郡山遺跡については、平成13年の第144次調査から平成21年の第196次調査まで、7年間で調査次数では5次にわたり調査を実施している（註1）。平成22年度時点では、区画整理事業以外の調査事由による第200次調査を含め、別表の地点で調査を実施している。

区画整理事業に伴う長町八木山線を対象とした調査としては、平成16・17年の第167次調査がある。平成17年の調査で、Ⅱ期官衙外溝北西コーナー部と北辺の一部を確認したほか、外溝を含む古代の遺構面を浸食し東に伸びる河川跡（広瀬川）を発見している。

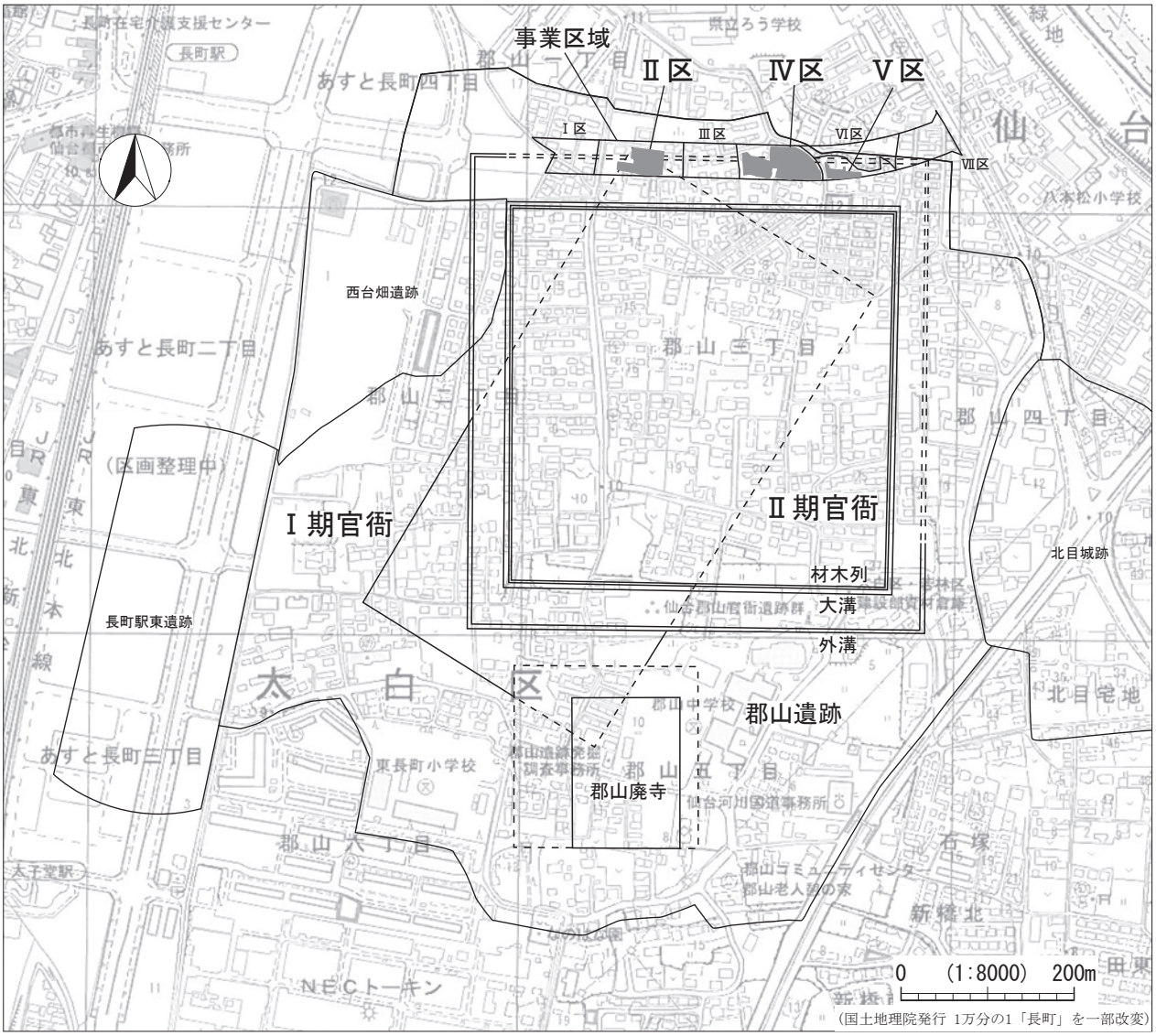
その後、区画整理事業地から東に伸びる長町八木山線整備事業についても、仙台市からの委託を受けた都市再生機構が実施することになり、事業の施行に伴う埋蔵文化財の取り扱いと、特に想定される外溝北辺が確認された場合の保存の可能性について協議を行った。協議を経て、平成19年9月5日付けで、「仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路3・3・322号長町八木山線整備事業の施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」を取り交わし、それを受けて平成20年3月5日付けで、「仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路3・3・322号長町八木山線整備事業の施行に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査に関する協定書」を取り交わし、平成20年度から発掘調査を実施することになった。

長町八木山線の計画路線内には、外溝北西コーナー部から想定される北辺の全域が含まれていたが、これまでの調査成果や航空写真の判読等から古代の遺構面を浸食する河川跡の存在も想定されていた（註2）。そこで調査の実施に当たり、事業計画地内全域を対象とした確認調査を実施し、外溝北辺の確認と河川跡の範囲を確認することとした。確認調査の結果、外溝北辺が確認された場合には、事業者である都市再生機構と協議を行い、可能な範囲で設計変更等を行い保存を図ることになった。

初年度の確認調査の結果、想定された河川跡が外溝北辺想定位置の全域を含みながら路線内に広範囲に拡がっている状況が明らかになった。当初、本調査については3年で完了する計画であったが、Ⅰ区・Ⅲ区・Ⅵ区・Ⅶ区については、確認調査成果をもとに本調査範囲から除外することにした。その結果、本調査は2ヶ年で実施することになり、計画路線の西側のⅡ区から開始することになった。初年度はⅡ区及びⅣ区西を対象とし、2年次にⅣ区東及びⅤ区を対象とすることになった。確認調査についても、用地買収の関係から初年度調査できなかった地点を中心に実施し、河川跡の範囲を明らかにすることを目的に行った。

註1：郡山遺跡については、遺跡の範囲と性格を明らかにするために調査計画を立案し、国庫補助事業として昭和55年（1980）以来継続的な調査を実施しており、調査次数が付与されている。区画整理事業に伴う郡山遺跡を対象とした調査についても同様に調査次数が付けられており、今回の調査については、都市計画道路整備事業に伴う調査であるが、郡山遺跡全体の調査次数では第190次調査となる。

註2：仙台市教育委員会 1990『郡山遺跡第84・85次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第145集



第１図　第１９０次調査区位置図

仙台市あすと長町土地区画整理事業関係郡山遺跡年度別調査成果一覧

調査年度	調査次数	調　査　事　由	調　査　成　果
平成 13 年 (2001)	第 144 次調査	22 ～ 25 街区区画道路	Ⅰ期官衙関連遺跡・溝跡 縄文・弥生時代遺物包含層
平成 16 年 (2004)	第 167 次調査	長町八木山線・環状線	住居跡 17 軒・掘立柱建物跡 8 棟・溝跡 9 条・土坑 河川跡（広瀬川？）
平成 17 年 (2005)	第 167 次調査	長町八木山線	住居跡 6 軒・掘立柱建物跡 1 棟・土坑 Ⅱ期官衙外溝北西コーナー部・河川跡（広瀬川？）
平成 18 年 (2006)	第 180 次調査	21 街区道路拡幅	住居跡 11 軒・掘立柱建物跡 1 棟・溝跡 6 条 河川跡（広瀬川？）
平成 20 年 (2008)	第 196 次調査	環状線東	古代の遺構検出無・河川跡 縄文・弥生時代遺物包含層
平成 21 年 (2009)	第 196 次調査	環状線東	住居跡 9 軒・掘立柱建物跡 6 棟・溝跡 27 条・土坑 水田跡（弥生中期）
平成 22 年 (2010)	第 200 次調査	21 街区内民有地 店舗建設	住居跡 10 軒・掘立柱建物跡 1 棟・溝跡 6 条・土坑 材木列 1 条

第2節　調査要項

遺跡名称：郡山遺跡(宮城県遺跡地名番号01003)

所在地：宮城県仙台市太白区郡山3丁目ほか

調査原因：仙台市あすと長町土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の事前調査

調査対象面積：18,800㎡

(1)平成20年度調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　主任工藤信一郎　文化財教諭早川潤一　文化財教諭藤田雄介

調査組織：株式会社玉川文化財研究所

主任調査員秋山重美　調査員石川真紀

調査期間：2008年(平成20年)4月25日～2009年(平成21年)3月6日

本調査面積：2,146㎡　　確認調査面積：1,120㎡

(2)平成21年度調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課調査係　主任工藤信一郎　文化財教諭早川潤一　文化財教諭佐藤正弥

調査組織：株式会社玉川文化財研究所

主任調査員秋山重美　調査員石川真紀　調査補助員伊藤貴宏　齊藤武士

調査期間：2009年(平成21年)4月1日～2010年(平成22年)3月12日

本調査面積：1,990㎡　　確認調査面積：162㎡

(3)平成22年度調査報告書作成体制

調査主体：仙台市教育委員会

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係　主任工藤信一郎　主事水野一夫

整理体制：株式会社玉川文化財研究所

主任調査員秋山重美　調査員石川真紀　調査補助員伊藤貴宏

整理期間：2010年(平成22年)7月12日～2011年(平成23年)3月18日

(4)平成23年度調査報告書作成体制

調査主体：仙台市教育委員会

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係　主任工藤信一郎　主事水野一夫

整理体制：株式会社玉川文化財研究所

主任調査員秋山重美

整理期間：2011年(平成23年)8月1日～2011年(平成23年)12月22日

第3節　遺構確認調査(第2～8図)

(1)確認調査に至る経緯

郡山遺跡は、昭和54年度における民間の宅地造成に伴う事前調査により、初めて本格的な発掘調査が行われた。この調査では、古代官衙の存在を示唆するような遺構(掘立柱建物跡)や、多賀城創建期よりも古い遺物(軒丸瓦・土師器・須恵器)が発見されたことにより、従来は断片的な採集品や散布遺物を頼りに推論がなされていた遺跡の重要性について、具体的な発掘資料の提示が可能となった。

この調査成果を受けて、郡山遺跡の範囲や究明を目的とした継続的な発掘調査が5ヶ年計画として立案され、昭

和55年度より第1次調査が実施された。以降、平成16年度までの25年間にわたり発掘調査が継続的に行われ、都合165次、総数166ヶ所、総面積約50,000㎡の調査が国庫補助事業費によってなされた。これらの調査成果については、『郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－』(仙台市教育委員会2005)として詳細が報告されている。

平成16・17年度には、郡山遺跡第167次調査があすと長町土地区画整理事業に伴う長町八木山線路線内で行われた。調査地点はJR長町駅の東方約400ｍに位置しており、郡山Ⅱ期官衙の北西隅部を画する外溝の一部が発見された。外溝の北西隅部については、発掘調査後に保護砂を充填して現行の道路下に埋戻し保存されている。

平成18年7月には、国指定史跡『仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡』として国指定を受けた。平成20年度には、長町八木山線の計画が具体化することになり、今回の第190次調査(長町八木山線)の実施が決定された。第190次調査の事業範囲は、Ⅱ期官衙の外溝北辺推定地として予知されていたことから、今回の調査では外溝を含む古代遺構及び河川跡の範囲確認を目的としている。

(2)確認調査区の設定と調査の方法

確認調査はトレンチ方式により事業区内の様相を把握し、河川跡の範囲とともに本格調査の必要箇所を確認することを目的とした。具体的には区域内の空閑地を対象として、平成20年度に第1次確認調査として25ヶ所(1～25トレンチ、面積1,120㎡)、翌平成21年度には第2次確認調査として7ヶ所(26～32トレンチ、面積162㎡)、計32ヶ所(総面積1,282㎡)のトレンチ調査を実施した。

トレンチ調査に際しては、現行道路及び水路を基準に全体を7区分(Ⅰ～Ⅶ区)して地区名を付した(第2図)。平成20年度の第1次確認調査では、西側のⅠ区から進め、平成21年度の第2次確認調査では東側のⅦ区から西側へ実施した。両年度とも精査及び記録後には、現状復旧に努めた。調査トレンチではすべてに基準点測量を実施し、「世界測地系平面直角座標第Ⅹ系」で表示している。

これらの確認調査の結果、Ⅱ区・Ⅳ区・Ⅴ区の3地区において古墳時代から近代に及ぶ遺構と遺物が発見され、この3地区に対する本調査の実施が決定した。

(3)第1次確認調査(平成20年度)の概要

第1次確認調査は25ヶ所(1～25トレンチ)である。各トレンチは、重機の通路や排土置き場、郡山Ⅱ期官衙の外溝想定位置を考慮して設定した。トレンチの規模は、幅1.5～5m、長さ3～30ｍである。

確認調査は、表土層や盛土層を重機で掘り下げて遺構確認面を検出し、その後は人力によって遺構の検出を実施した。その結果、10ヶ所(1・6・10・11・14～19トレンチ)から、遺構や遺物が検出された。遺構は1・11・19トレンチから近代以降と考えられる天地返しが、6・10・11トレンチから中世以降と考えられる小溝状遺構、土坑、溝跡、ピットなどが、14～18トレンチから古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑などが検出された。

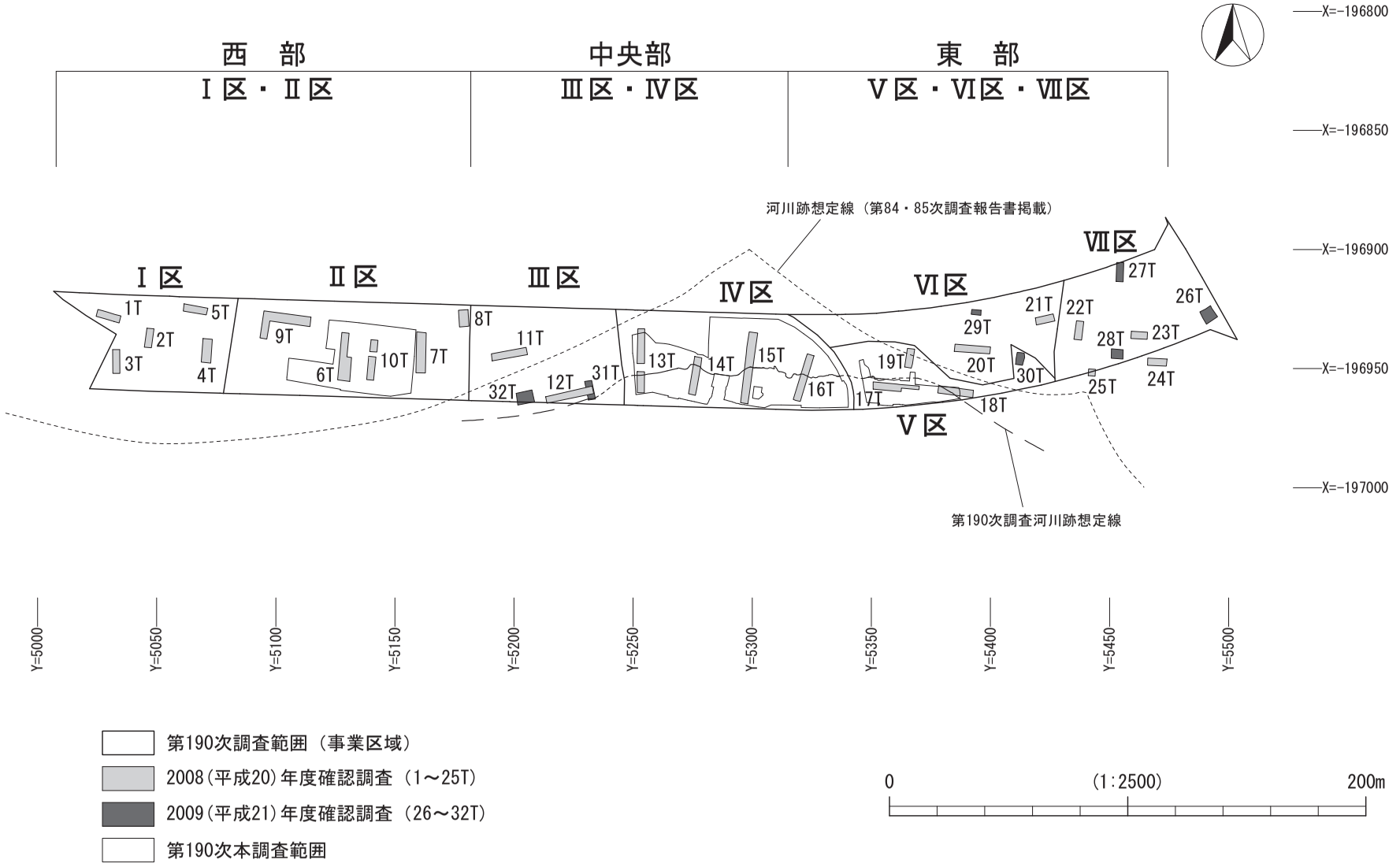
このうち、3ヶ所(1・11・19トレンチ)で検出された天地返しについては全掘し、記録後に、下層部の掘り下げを実施した。また、遺構や遺物が検出されなかった15ヶ所(2～5・7～9・12・13・20～25トレンチ)についても、同様に重機による掘り下げ調査を実施して下部の状況を確認し、調査区土層断面の記録を行った。

以上の成果をもとに本調査対象区域が決定し、そのうちのⅡ区とⅣ区西側半分の調査が同年度内に行われた。

(4)第2次確認調査(平成21年度)の概要

第2次確認調査は7ヶ所(26～32トレンチ)で実施した。各トレンチは、前年度に調査が実施できなかった事業区域の境界付近と、郡山Ⅱ期官衙の外溝想定位置を中心に設定した。トレンチの規模は、幅2～5m、長さ4～8ｍである。

調査方法は前年度と同様で、その結果、4ヶ所(29～32トレンチ)から遺構や遺物が検出された。遺構は29・30・32トレンチから近代以降と考えられる天地返しと溝跡が検出され、遺物は30～32トレンチで出土し、31トレンチの河川跡からは土師器の小破片が出土した。



第２図　確認調査トレンチ配置及び本調査範囲図

郡山遺跡第190次(長町八木山線)　第1次確認調査

路線部名	地区名	トレンチ名称	方向	規模	面積(㎡)	深度(m)	検出遺構	出土遺物	GL 標高(m)	検出面標高最大値(m)	検出面標高最小値(m)	砂層標高(m)	礫層標高(m)	備考
西部	Ⅰ区	1 トレンチ	東西	3 × 10 m	30	0.73	天地返し 18 条	なし	10.93	10.23	9.98	10.11	9.90	河川跡
		2 トレンチ	南北	3 × 8 m	24	1.39 1.83	なし	なし	10.94	−	−	9.80	−	河川跡
		3 トレンチ	南北	3 × 10 m	30	1.04 2.41	なし	なし	11.00	−	−	9.30	8.55	河川跡
		4 トレンチ	南北	4 × 10 m	40	1.29 2.15 2.44	なし	なし	11.38	−	−	9.20	8.85	河川跡
		5 トレンチ	東西	3 × 10 m	30	1.53 2.51	なし	なし	11.40	−	−	9.75	8.80	河川跡
	Ⅱ区	6 トレンチ	南北	5 × 10 + 3 × 10 m	80	0.90 1.18	小溝状遺構 5 条 竪穴住居跡？1 軒	土師器 陶磁器	11.22	10.22	−	−	−	
		7 トレンチ	南北	4 × 17 m	68	1.06	なし	なし	11.42	−	−	−	−	
		8 トレンチ	南北	4 × 7 m	28	1.09 2.23	なし	なし	11.22	−	−	10.10	8.90	河川跡
		9 トレンチ	東西 南北	4 × 20 + 3 × 8 m	104	0.69 0.98	なし	なし	10.89	−	−	10.10	10.00	河川跡
		10 トレンチ南	南北	3 × 10 m	30	0.97	小溝状遺構 6 条	なし	11.18	10.28	−	−	−	
		10 トレンチ北	南北	3 × 5 m	15	0.70	小溝状遺構 4 条 ピット 10 基 (小溝状遺構の一部？)	なし	10.89	10.25	−	−	−	
中央部	Ⅲ区	11 トレンチ	東西	3 × 15 m	45	1.18	天地返し 25 条 ピット 2 基 (天地返しの一部？)	なし	11.50	10.36	−	−	−	
		12 トレンチ	東西	3 × 20 m	60	1.72	なし	なし	11.71	−	−	−	−	
	Ⅳ区	13 トレンチ北	南北	3 × 15 m	45	1.38	なし	なし	11.52	−	−	10.10	−	河川跡
		13 トレンチ南	南北	3 × 9 m	27	1.26	なし	なし	11.54	−	−	10.00	−	
		14 トレンチ	南北	3 × 16 m	48	1.00	竪穴住居跡 3 軒 土坑 1 基 ピット 8 基	須恵器	11.86	11.38	−	−	−	
		15 トレンチ	南北	3 × 30 m	90	0.67 1.53	天地返し 16 条 溝跡 2 条 ピット 2 基	土師器	11.97	11.19	10.79	−	−	
		16 トレンチ	南北	3 × 20 m	60	0.62	竪穴住居跡 2 軒 掘立柱建物跡 1 棟 土坑 2 基 溝跡 1 条 小溝状遺構 4 条 ピット 6 基	須恵器	12.04	11.52	11.15	−	−	
東部	Ⅴ区	17 トレンチ	東西	3 × 12 m	36	0.84	ピット 2 基 焼土跡 1 基	須恵器	11.94	11.15	−	−	−	
		17 トレンチ 延長部	東西	1.5 × 7.5 m	11.25	0.21 0.59	ピット 1 基	なし	11.37	11.05	−	−	−	
		18 トレンチ	東西	3 × 15 m	45	0.84 1.43 1.84	溝跡 1 条 ピット 13 基	なし	11.41	10.13	9.92	−	−	
		19 トレンチ	南北	3 × 8 m	24	0.62 0.92 1.19	小溝状遺構 4 条	土師器	11.22	10.81	−	−	−	
	Ⅵ区	20 トレンチ	東西	3 × 15 m	45	1.38 2.15 3.09	なし	土師器	11.44	−	−	10.08	9.15	河川跡
		21 トレンチ	東西	3 × 8 m	24	1.22 2.22	なし	なし	11.38	−	−	10.16	9.29	河川跡
	Ⅶ区	22 トレンチ	南北	3 × 8 m	24	0.67 1.67	なし	なし	10.82	−	−	10.14	9.15	河川跡
		23 トレンチ	東西	3 × 7 m	21	1.11 2.01	なし	なし	11.01	−	−	9.90	9.01	河川跡
		24 トレンチ	南北	3 × 8 m	24	0.70 1.23 1.45	なし	なし	10.88	−	−	10.10	9.32	河川跡
		25 トレンチ	南北	3 × 3 m	9	1.27 1.61	なし	なし	10.67	−	−	9.29	9.07	河川跡

郡山遺跡第190次(長町八木山線)　第2次確認調査

路線部名	地区名	トレンチ名称	方向	規模	面積(㎡)	深度(m)	検出遺構	出土遺物	GL 標高(m)	検出面標高最大値(m)	検出面標高最小値(m)	砂層標高(m)	礫層標高(m)	備考
東部	Ⅶ区	26 トレンチ	南北	6 × 6 m	36	1.90	なし	なし	10.40	−	−	8.60	8.00	河川跡
		27 トレンチ	南北	3 × 8 m	24	2.30	なし	なし	11.20	−	−	10.40	−	河川跡
		28 トレンチ	東西	4 × 5 m	20	1.70	なし	なし	10.80	−	−	10.30	9.10	河川跡
	Ⅵ区	29 トレンチ	東西	2 × 4 m	8	3.30	天地返し 5 条	なし	11.60	10.30	10.10	10.20	−	河川跡
	Ⅴ区	30 トレンチ	南北	3 × 5 m	15	1.50	溝 1 条	陶磁器 埴瓦	11.00	10.20	10.10	9.40	−	河川跡
中央部	Ⅲ区	31 トレンチ	南北	3 × 8 m	24	2.70	なし	土師器 須恵器	11.60	−	−	9.80	−	河川跡
		32 トレンチ	東西	5 × 7 m	35	2.60	天地返し 11 条	土師器	11.70	10.80	10.60	10.00	−	河川跡

29·32トレンチで検出された天地返しと、31トレンチの溝跡については全掘作業し、記録後に下層部の掘り下げを実施した。また、遺構や遺物が検出されなかった26～28トレンチについても重機による掘り下げを実施し、調査区土層断面の記録を行った。

以上の成果をもとに、Ⅳ区東側半分とⅤ区の本調査が年度内に行われた。

(5)第1·2次確認調査(平成20·21年度)の所見

第1·2次確認調査の成果と所見について、全体の地区名を西部(Ⅰ·Ⅱ区)、中央部(Ⅲ·Ⅳ区)、東部(Ⅴ～Ⅶ区)に分けて述べる。各トレンチの詳細は一覧表に記載した。

西部(Ⅰ·Ⅱ区)

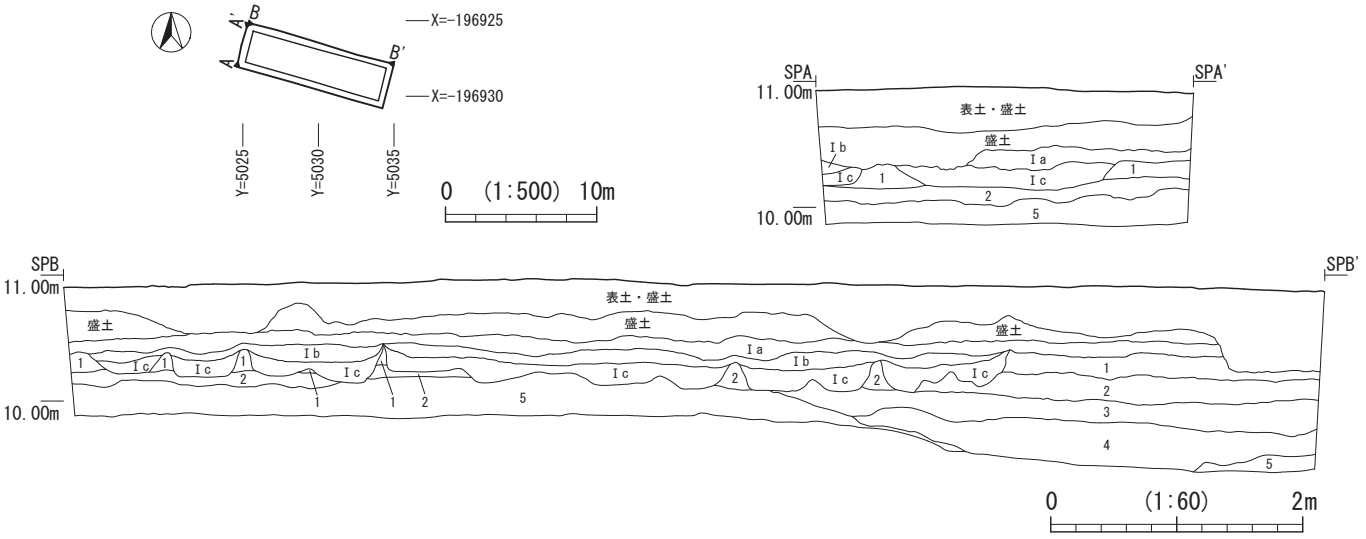
Ⅰ区西端の1トレンチの底面で砂礫層が検出され、3～5トレンチでも砂礫層が確認できた。Ⅱ区では北寄りの8·9トレンチで砂層及び砂礫層が確認され、これらの状況によりⅠ区全体とⅡ区北側半分については、河川堆積土であることが明らかになり、Ⅲ区の状況などを考慮すると、Ⅱ区6·10トレンチ検出の遺構は河川堆積土上に形成されたと考えられた。また、郡山Ⅱ期官衙の外溝想定位置と交差する2·4·6·7·10トレンチでは、外溝は検出されなかった。

中央部(Ⅲ·Ⅳ区)

Ⅲ区では、平成20年度に段掘りによる下部の掘り下げ調査を11·12トレンチで実施したが、砂層や砂礫層の堆積は確認できなかった。しかし次年度に調査した31トレンチでは河川の肩口部分が、32トレンチでは河川の底と考えられる砂礫層が確認された。また、Ⅳ区13·15トレンチでも河川の肩口が検出されており、河川による具体的な浸食範囲が推定されたといえる。なお、郡山Ⅱ期官衙の外溝想定位置と交差する11·13～16トレンチでは、外溝は検出されなかった。

東部(Ⅴ～Ⅶ区)

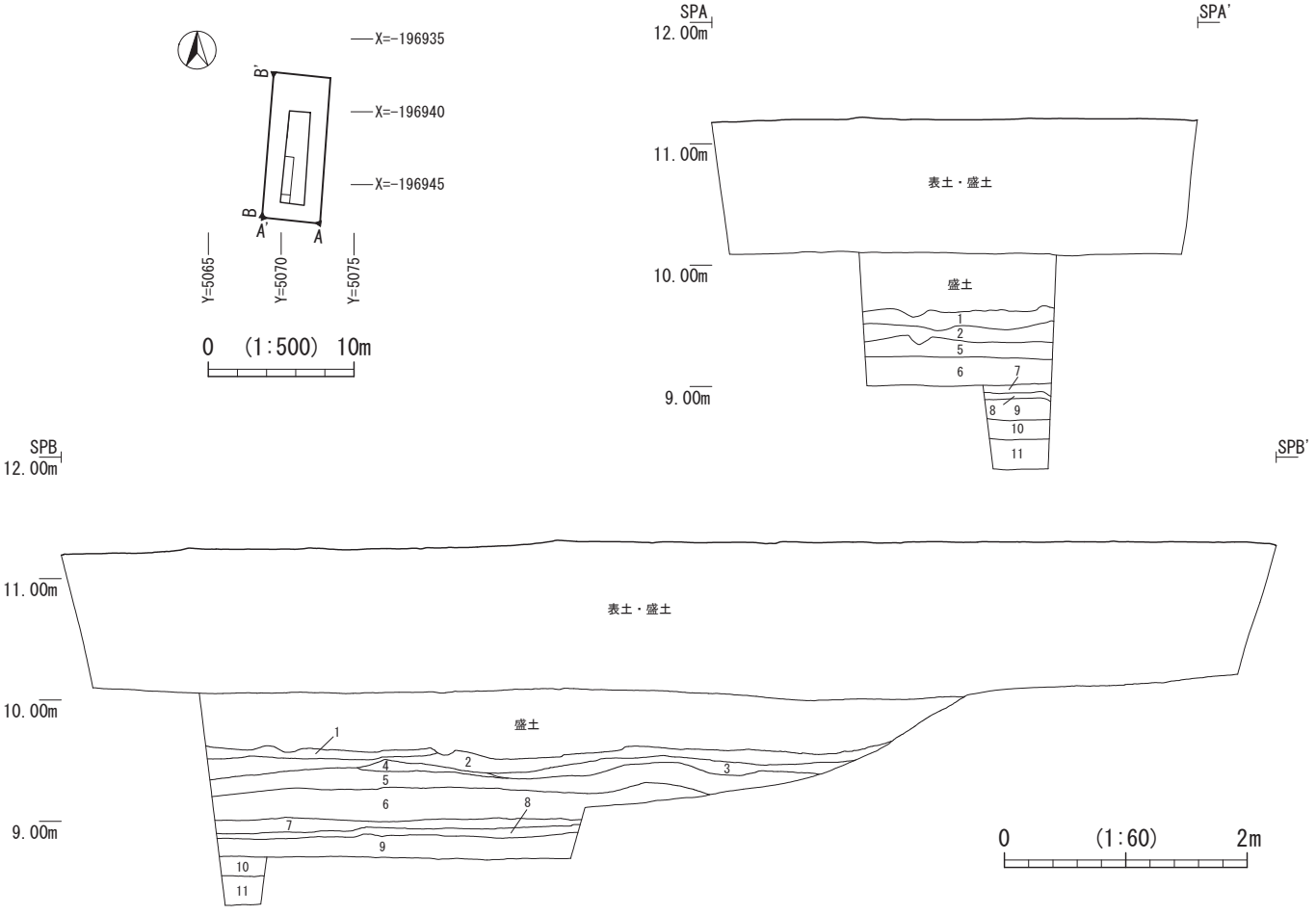
Ⅴ区では18トレンチの東端において近代以降の溝跡と推定される落ち込みが検出された。その後のⅤ区本調査でも河川の肩口部分が明らかになり、18トレンチ以東が河川による浸食を受けていたことが確実視された。Ⅵ区では20トレンチで砂質シルトと粘土質シルトの堆積が認められ、トレンチの底面で円礫を含む粗砂層が検出された。21トレンチでは、細砂層の厚い堆積が確認された。Ⅶ区では22～27トレンチで細砂層の厚い堆積が確認され、24·28トレンチでは粗い砂礫層が検出された。また、19·24·28·30トレンチでは、調査区を郡山Ⅱ期官衙の外溝想定位置に設定したが、外溝は検出されなかった。特に、24トレンチについては、長町八木山線への取付道路部分に設定した。この場所は、外溝北東コーナー部の想定位置に近接していたが、周辺のトレンチ同様に河川堆積土が確認されている。



1トレンチ

層位	土色		土性	備考
表土・盛土	10YR4/4	褐色	−	砂利・コンクリート片を含む盛土。
盛土	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	盛土。グライ化している。
Ⅰa	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	炭化物を少量、10YR3/2黒褐色土を斑紋状に含む。締まりと粘性を有する。
Ⅰb	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量、2.5Y5/6黄褐色シルト塊を斑紋状に含む。
Ⅰc	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を微量含む。
1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
5	2.5Y6/1	黄灰色	砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。

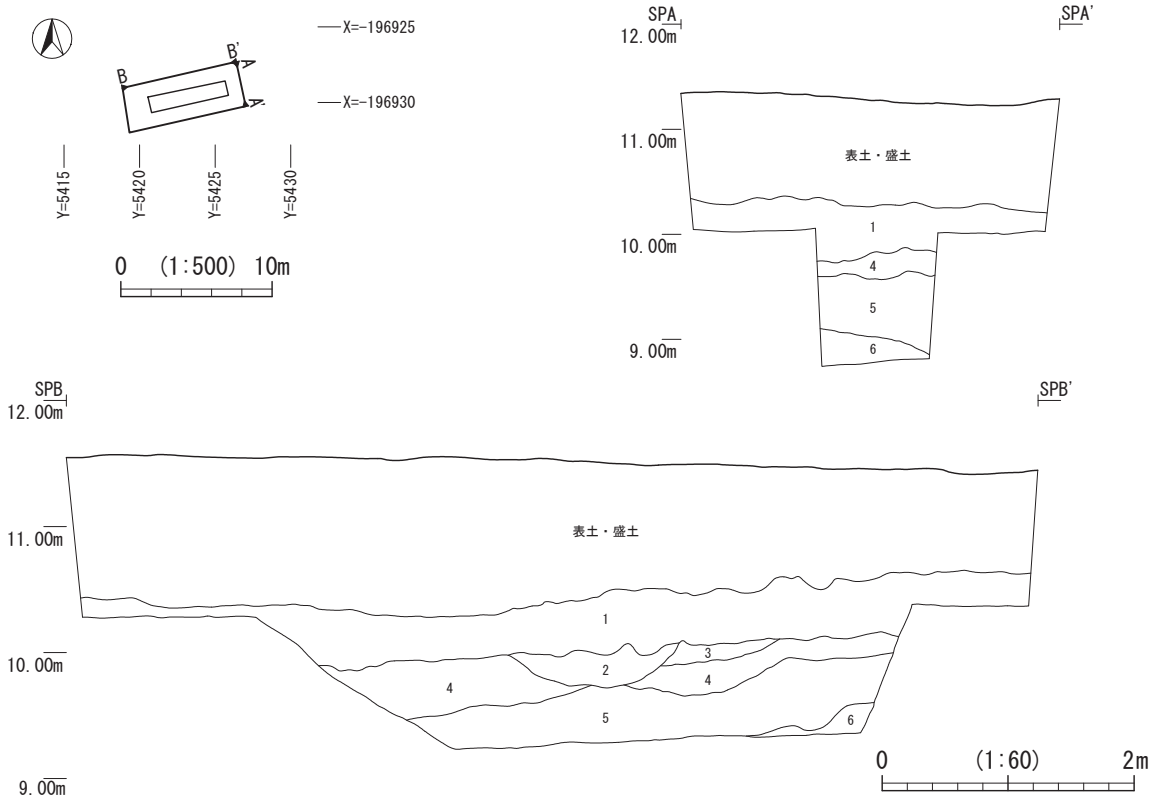
第3図　基本層序　1トレンチ



第4図　基本層序　4トレンチ

4トレンチ

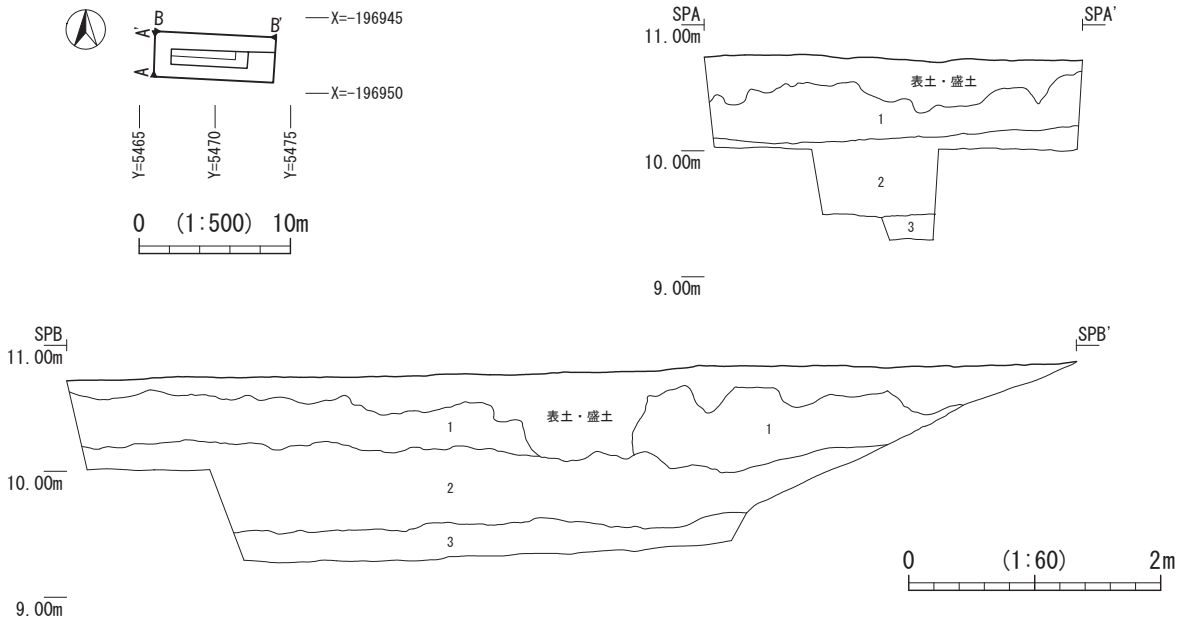
層位	土色		土性	備考
表土・盛土	10YR3/4	暗褐色	−	砂利・コンクリート片を含む盛土。
盛土	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	盛土。部分的にグライ化している。
1	7.5Y7/1	灰白色	粘土質シルト	板状酸化鉄が形成される。締まりと粘性を有する。河川堆積土。
2	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質シルト	薄層状の粘土堆積を挟む。河川堆積土。
3	10G6/1	緑灰色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
4	10G5/1	緑灰色	シルト	板状酸化鉄が形成される。河川堆積土。
5	5G5/1	緑灰色	粘土質シルト	板状酸化鉄が形成される。河川堆積土。
6	5G5/1	緑灰色	粘土質シルト	層上位に腐植植物層が入り、層中に板状酸化鉄が形成される。河川堆積土。
7	10G5/1	緑灰色	砂質シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。河川堆積土。
8	7.5YR5/8	明褐色	粗砂	層上位に腐植植物が入り、酸化が著しい。河川堆積土。
9	7.5Y6/2	灰オリーブ色	砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。
10	5BG6/1	青灰色	粗砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。
11	7.5Y6/2	灰オリーブ色	砂礫	拳大の円礫を多量に含む。河川堆積土。



21トレンチ

層位	土色		土性	備考
表土・盛土	10YR3/3	暗褐色	−	砂・砂利・コンクリート片を多量に含む盛土。
1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。河川堆積土。
2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	細砂粒を微量含む。河川堆積土。
3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	細砂粒を微量含む。河川堆積土。
4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。
5	2.5Y5/6	黄褐色	細砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。
6	2.5Y6/2	灰黄色	粗砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。

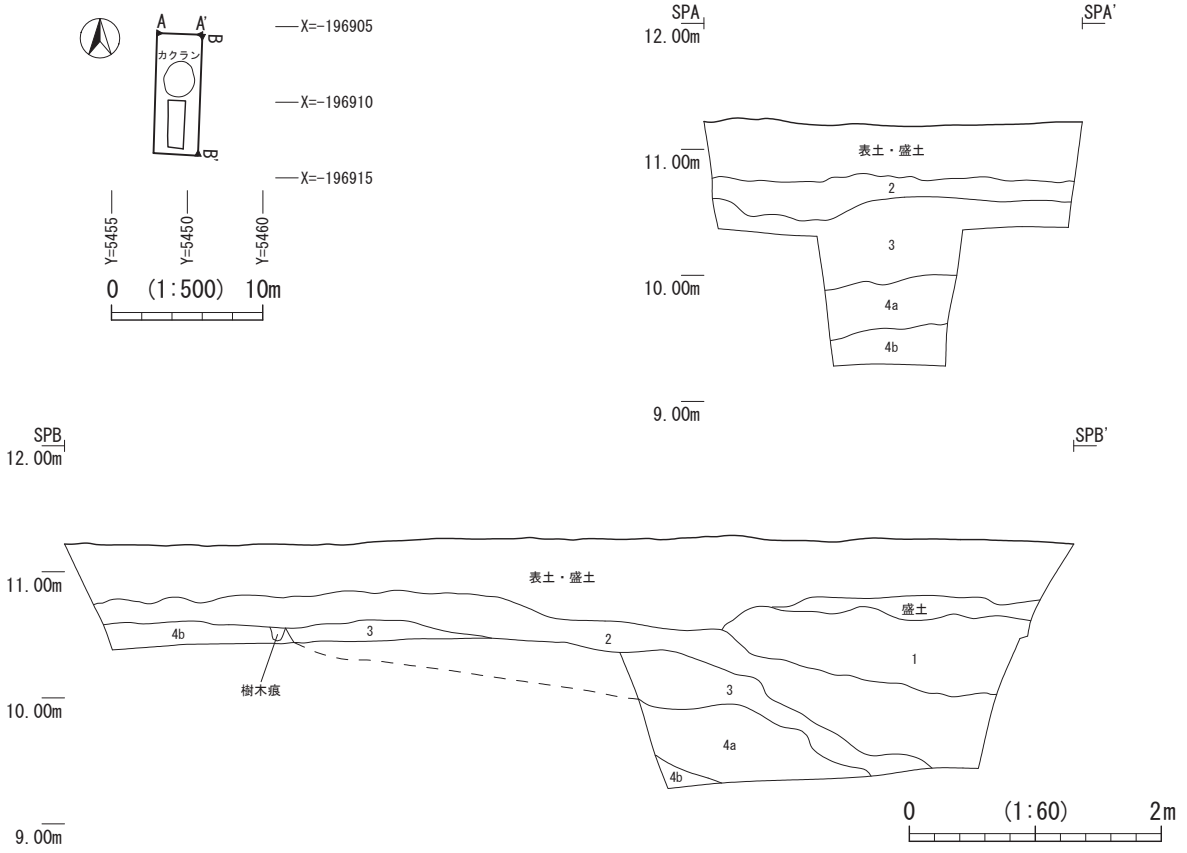
第5図　基本層序　21トレンチ



24トレンチ

層位	土色		土性	備考
表土・盛土	2.5Y6/2	灰黄色	−	砂・砂利・コンクリート片を多量に含む盛土。
1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
2	2.5Y5/6	黄褐色	砂	互層状に堆積。河川堆積土。
3	2.5Y6/6	明黄褐色	砂	2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂と 2.5Y6/6 黄褐色粗砂が互層状に堆積。河川堆積土。

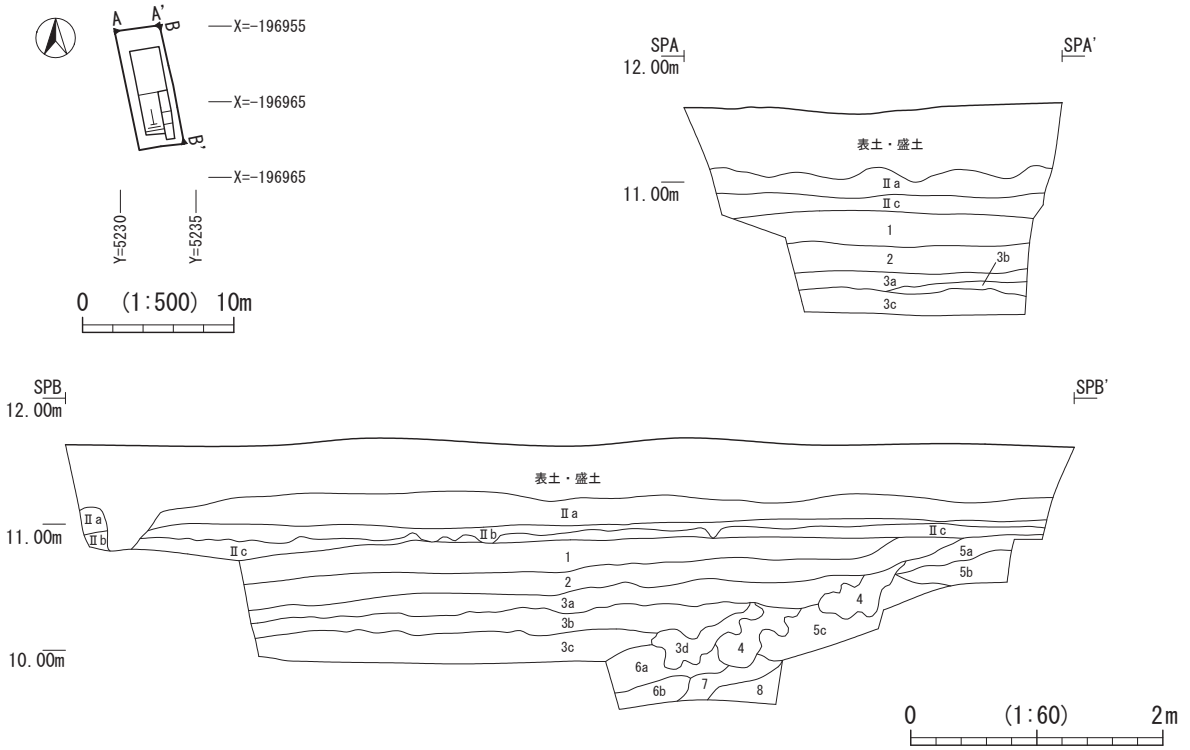
第6図　基本層序　24トレンチ



第7図　基本層序　27トレンチ

27 トレンチ

層位	土色		土性	備考
表土・盛土	5Y5/2	灰オリーブ色	砂質	小砂利・粗砂を含む盛土。
盛土	10YR3/3	暗褐色	砂利	小砂利・粗砂・コンクリート片を多量に含む盛土。
1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。河川堆積土。
2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。河川堆積土。
3	2.5Y7/3	浅黄色	粘土	薄層状の酸化鉄面を多く挟む。河川堆積土。
4 a	2.5Y6/3	にぶい黄色	細砂	締まりと粘性を欠く。河川堆積土。
4 b	5Y6/2	灰オリーブ色	細砂	締まりと粘性を欠く。河川堆積土。



31 トレンチ

層位	土色		土性	備考
表土・盛土	10YR6/8	明黄褐色	砂利	砂利主体盛土。
Ⅱa	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	φ1～2㎝の2.5Y5/4黄褐色シルト塊を微量含む。
Ⅱb	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ3～5㎝の2.5Y5/6黄褐色土塊をやや多く含む。
Ⅱc	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	φ1～2㎝の10YR3/2黒褐色シルト塊を少量含む。
1	10YR4/4	褐色	シルト	河川堆積土。
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	河川堆積土。
3 a	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	河川堆積土。
3 b	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	河川堆積土。
3 c	2.5Y5/4	黄褐色	砂	河川堆積土。
3 d	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	河川堆積土。
4	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3～5㎜の黄褐色シルト塊を含む。河川堆積土。
5 a	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	河川堆積土。
5 b	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	河川堆積土。
5 c	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	河川堆積土。
6 a	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	φ3～5㎜の酸化鉄を多量に含む。河川堆積土。
6 b	2.5Y7/2	灰黄色	粘土質シルト	筒状酸化鉄を多量に含む。河川堆積土。
7	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	河川堆積土。
8	2.5Y6/2	灰黄色	粘土	φ3～5㎜の酸化鉄を多量に含む。河川堆積土。

第8図　基本層序　31トレンチ

第2章　遺跡の立地と環境

第1節　郡山遺跡及びその周辺の地形環境　―扇状地と旧河道地形―

東北学院大学　地域構想学科　松本　秀明

(1)郡山遺跡の地形的位置と仙台平野におけるその特異性

郡山遺跡は仙台平野中央部を流れる名取川と支流の広瀬川の合流扇状地上に位置する。広瀬川が形成した扇状地は仙台市河原町付近(海抜16m)を扇頂に、勾配2.6/1000で東南東方向に高度を下げ、仙台市沖野や上飯田付近にあたる海抜5.5m地点付近で地表面下に没する。一方、名取川が形成した扇状地は仙台市山田付近(海抜21m)を扇頂に、勾配2.5/1000で東方に低下する。扇端部の一つである仙台市袋原付近では海抜は5.5mまで低下し地表面下に没する。両扇状地は仙台市郡山付近で合流し、合流扇状地を形成している。郡山遺跡は広瀬川の右岸0.5kmに位置し、海抜高度は約12mである。

南北約50kmにおよぶ仙台平野には、七北田川、名取川及び阿武隈川の3河川が流入しているが、臨海部に明瞭な扇状地を形成しているのは、本調査の対象である名取川及びその支流の広瀬川のみである。仙台平野の中にあってこの特異性は最終氷期以降の急速な海面上昇期においても同様に認められ、仙台平野の多くの地域に海域が侵入していた約7,500年前(海水準：－10m)においても扇状地として海側に突出する地形を有していた(松本，1981)。扇状地という地形的な特徴から、名取川及び広瀬川は上流から砂礫質の堆積物を多量に運搬してきた河川である。扇状地は低平な沖積平野の中にあって地盤高の高い地形面を提供するが、同時に、洪水の度に多量の土砂を伴う氾濫が発生するとともに土砂堆積による河床高度の上昇により、頻繁に河道変遷が繰り返される。

本報告では、名取川・広瀬川合流扇状地を構成する砂礫層、及びその地表に多く残された旧河道地形の分布についてふれた上で、郡山遺跡北縁部を通る旧河道の河道放棄時期などについて考察する。

(2)名取川・広瀬川合流扇状地を構成する砂礫層

名取川・広瀬川合流扇状地を構成する砂礫層は全体で20～40mの層厚をもち、仙台平野の地下に4/1000程度の勾配で連続する。そ上面は地表で確認される扇状地の扇頂部で15～20mの高度を持ち、海岸線直下で-25～-30mに低下している(第9図)。

砂礫層は風化の程度及び礫径、細粒堆積物の比率及び堆積年代をもとに「上位の砂礫層」と「下位の砂礫層」とに分けられる(第10図)。上位の砂礫層は断面の内陸部の仙台市富沢～郡山地区の狭い範囲に認められるのみであるが、層厚は10m程度、堆積時期は放射性炭素年代測定結果から7,500yrBP以降であると考えられる。下位の砂礫層は30m以上の層厚をもち、名取川・広瀬川合流扇状地の基盤としての形態をなしている。その形成時期は約26,000yrBPあるいはそれより古く(松本，1986)、名取川及び広瀬川の中流部に広がる河岸段丘を構成する砂礫層に対比される。上位の砂礫層直上に堆積する細粒堆積物中の腐植物の堆積年代から、約3,000yrBPには砂礫層の堆積が終了していたと考えられる。それ以降は粗粒砂を主体とする河床堆積物及びシルト～細粒紗を主体とする自然堤防を構成する洪水堆積物が断続的に堆積していたと考えられる。

(3)名取川・広瀬川合流扇状地上に残された旧河道地形

扇状地の地表には多くの旧河道が放射状に認められる。それらは扇状地を流下した後、海岸部に広がる低地部へ連続する(第11図)。旧河道は40～150mの幅をもち、層厚2～4mの腐植質粘土層により埋積されている(久連山・松本，2004)。8筋の旧河道において、旧河道埋積堆積物の下底から得られた試料について年代測定を行った結果、河道の放棄年代として、1,140±90、1,180±90、1,240±90、1,640±60、2,010±70、2,440±90、2,920±30、及び3,090±100yrBP の各年代値が得られている。これらの旧河道放棄年代から、約3000年前以降の激しい河道変遷の履歴を読み取ることができる。

(4)郡山遺跡周辺の旧河道地形の分布

郡山遺跡周辺には自然堤防、旧河道及び後背湿地の各地形が分布する。自然堤防は河川の氾濫時に河道から溢れ出た河水中の掃流・浮流物質である洪水堆積物から構成され、粒径はシルト～細粒紗である。旧河道は河道が流下した跡で、連続する凹地として残されるが、河道放棄後に近傍を通過する河川の氾濫時にその洪水堆積物によって凹地は埋積され、その形態は徐々に不明瞭となる。現在地表に残されている旧河道は、河道放棄後に洪水堆積物により埋積された後の地形である。名取川や広瀬川の場合、旧河道と両岸の自然堤防との高度差は現況として0.5～1.5mであるが、河道が放棄直された後は河川の水深に対応するように2～3mの高度差を有していたと考えられる。

旧河道埋積堆積物の下底には旧河道が河道として機能していた当時の河床堆積物が認められるが、本地域では粗粒砂あるいは直径数ミリメートル～数センチメートルの円礫あるいは亜円礫で構成されるのが一般的である。洪水時に自然堤防を越えて溢流した河水は隣接する自然堤防との間に広がる低湿地に流入し、長時間滞留する。後背湿地は洪水が終息し、滞留した水位が徐々に低下する過程で沈殿した粘土質の細粒堆積物で構成される。

ここでは国土地理院発行の空中写真のうち、1961年撮影の1万分の1空中写真と1947年米軍撮影の1万分の1空中写真の実体視により原地形を一部推定しながら地形分類図を作成した(第12図)。郡山遺跡周辺はJR線及びその付属施設としての操車場が西側に南北方向に展開していたほか，電力会社や運送会社の倉庫、各種製造工場などが広がり、地表形態が人工的に改変されている部分も多いため、空中写真判読による原地形の復元が困難な部分も少なくない。

郡山遺跡(長町八木山線Ⅳ区の調査地点)付近には西から東に弧を描いて通過する明瞭な旧河道地形が認められる。旧河道の北岸の位置については不明な部分も多いが、最大幅は約150m，追跡可能な東西長は約700mである。当該旧河道の西側1/3には時代の異なるもう一筋の旧河道が通過している。そのほか、西台畑付近を西から東へ通過するもの、さらにその南を西から東へ通過する120～150mの幅を持つ旧河道が不明瞭ながら追跡される。そのほか、郡山遺跡Ⅱ期官衙東縁に沿うように北から南へ流下する幅約100mの旧河道の存在も想定される。これらの旧河道は互いに切り合う関係が観察されることから、合流扇状地の概形が完成した約3000年前以降、地表部を縦横に河川が流れた履歴を読み取ることができる。

(5)郡山遺跡北縁部の河道の形成と放棄年代

調査区を通過する旧河道(前出)の一部が発掘調査により検出され、土層断面を観察するとともに放射性炭素年代測定用試料を採取する機会を得た。旧河道はほぼ西から東に通過しており、検出された部分の河道幅は30mを越えるが、検出された旧河道は右岸側の一部であり、河床最深部及び左岸の立ち上がりは確認できていない。

河床は地表から約3mの深度にあり、粗粒砂及び直径2～8cmの円礫～亜円礫で構成される河床堆積物が認められる(第13図)。また，同時堆積層として河床右岸側にシルト～細粒紗層の堆積が認められる。砂礫ならびにシルト～細粒紗は互層をなす部分もあることから、河川流芯部は左岸側(断面外)、右岸側にふれながら流下していたと考えられる。また、空中写真から判読された旧河道の幅が最大150mである点を考慮すると、河川の規模は比較的大きく、現在近傍を流下している広瀬川本流の流路跡であると判断される。河床堆積物(第13図のA層)の層厚は0.8mであり、下底付近の砂礫層中から炭化木片が発見された。同木片について(株)加速器分析研究所に依頼して放射性炭素年代測定を行った。その結果は、AMS年代測定のレンジ外の古い木片(IAAA-91268)であることを示している。これは、例えば広瀬川中流部に特徴的に認められる鮮新世堆積物中に挟在する亜炭層などの炭化木片が河岸崩壊等により崩壊し押し流され、当地点に漂着したものと考えられる。河床堆積物の下位には粘土～シルト質の堆積物及び細粒～中粒砂層が確認されるが、これらは当該河道形成以前の堆積層である。一方、河床堆積物(第13図のA層)直下の粘土～シルト質堆積物と対比される堆積物は2008年度に実施されたⅣ区西における深掘り調査の下底においても検出されている。その堆積物中の炭化物の放射性炭素年代は920±30yrBP(IAAA-91044)であり、暦

年補正後の年代(2σ)はAD1022 ～ AD1155年である。

河床堆積物の上位にはシルト～細粒紗からなる旧河道埋積堆積物が認められる(第13図のB層)。同堆積物は下位の河床堆積物を一部不整合に覆っている。さらに同層上位には淘汰良好な細粒～中粒砂(右岸部)及びシルト～細粒砂からなる旧河道埋積堆積物(第13図のC層)が堆積している。C層の各堆積ユニットの層理面は右岸側から左岸側に向かって20 ～ 38度の傾斜をなしており、右岸側から左岸側に向かってほぼ連続的かつ急速に堆積が進行したことを示している。このことから、C層の堆積時の河道は急速に左岸側(北方)に移動していたと考えられる。C層中のシルト～細粒堆積物中に炭化物が挟在し、それを試料として放射性炭素年代測定を行った。その結果は960 ± 30yrBP(IAAA-91269)であり、暦年補正後の年代(2σ)はAD1028 ～ AD1185年である。

なお、C層右岸側の細～中粒砂層は旧河道埋積堆積物として極めては淘汰が良好で、何らかの原因で同堆積物が一時的に多量に供給されたものと考えられる。同層中から2点の砂質試料を採取し粒度分析を行った。砂質堆積物1(第13図参照)は平均粒径2.24φ、淘汰度0.58、砂質堆積物2は平均粒径2.44φ、淘汰度0.63であった。これらは海成の砂質堆積物類似する値である。同堆積物は上流域から供給されたと考えられるが、具体的な供給源及び堆積過程は不明である。

河床堆積物及び旧河道埋積堆積物の堆積状況及び放射性炭素年代測定結果から、当該旧河道は暦年補正値でAD1022 ～ AD1185年の期間に形成され、埋積されたものと考えられる。

(6)郡山遺跡の位置と地形環境

郡山遺跡が位置する名取川・広瀬川合流扇状地は2河川が形成した扇状地であるが、扇状地を南北に横断する方向で高度変化を精査すると、合流扇状地完成後の旧河道形成期間(約3000年前以降)に河道変遷による侵食の痕跡がわずかに認められる。その侵食作用により起伏は極めて小さいものの両河川の流域を区切る尾根部が形成されたと考えられる。国土地理院発行の5mメッシュ高度データを分析すると郡山遺跡を東西に通過する尾根状地形の存在が確認された。地図中のA－A'、B－B'及びC－C'に沿う高度変化を図示すると(第14図)、B－B'断面に特徴的に認められるように、郡山遺跡Ⅱ期官衙跡の位置を中心に、広瀬川方向及び名取川方向にそれぞれ緩やかに地表面の高度が低下している。同遺跡は河道の移動が激しい名取川・広瀬川合流扇状地上にあって、地盤高の高い地帯に位置していることが分かる。このことから扇状地上の活発な河川活動による洪水や河道通過に伴う災害が最小となる地点を選択して造営された可能性が指摘される。

文　献

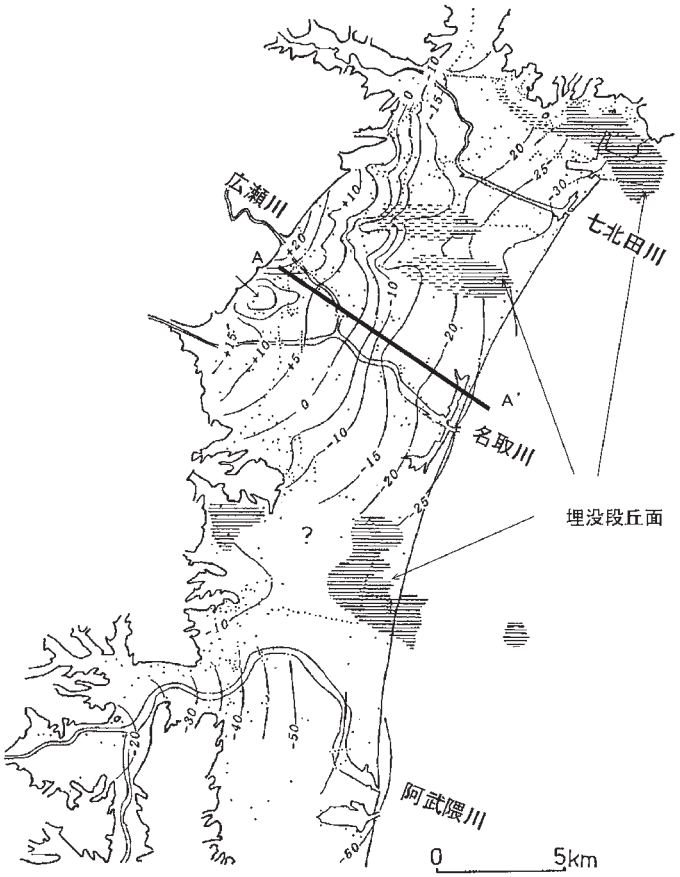
松本秀明(1981)：仙台平野の沖積層と後氷期における海岸線の変化．地理学評論，54巻，72-85頁

松本秀明(1986)：仙台平野の地下に認められる埋没段丘と沖積層．岩手大学文化論集，第2輯，89-100頁

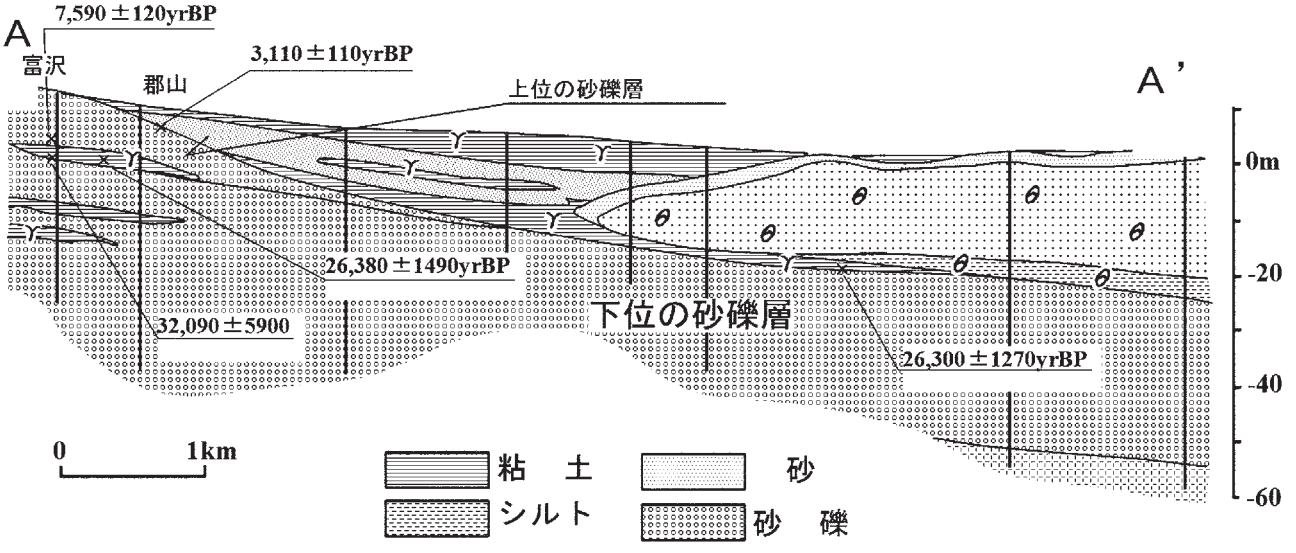
松本秀明(1994)：沖積平野の成り立ち．仙台市史「特別編1自然」，仙台市史刊行委員会編，264-277頁

久連山寛子・松本秀明(2004)：名取川下流域に広がる自然堤防－旧河道群の地形と河道放棄年代．2004年東北地理学会春季学術大会発表要旨．

松本秀明・久連山寛子・野中奈津子(2004)：仙台平野中部，名取川流域に発達する旧河道群の形成年代と沖積平野における河成堆積物の散布状況．2004年日本地理学会秋季学術大会発表要旨集

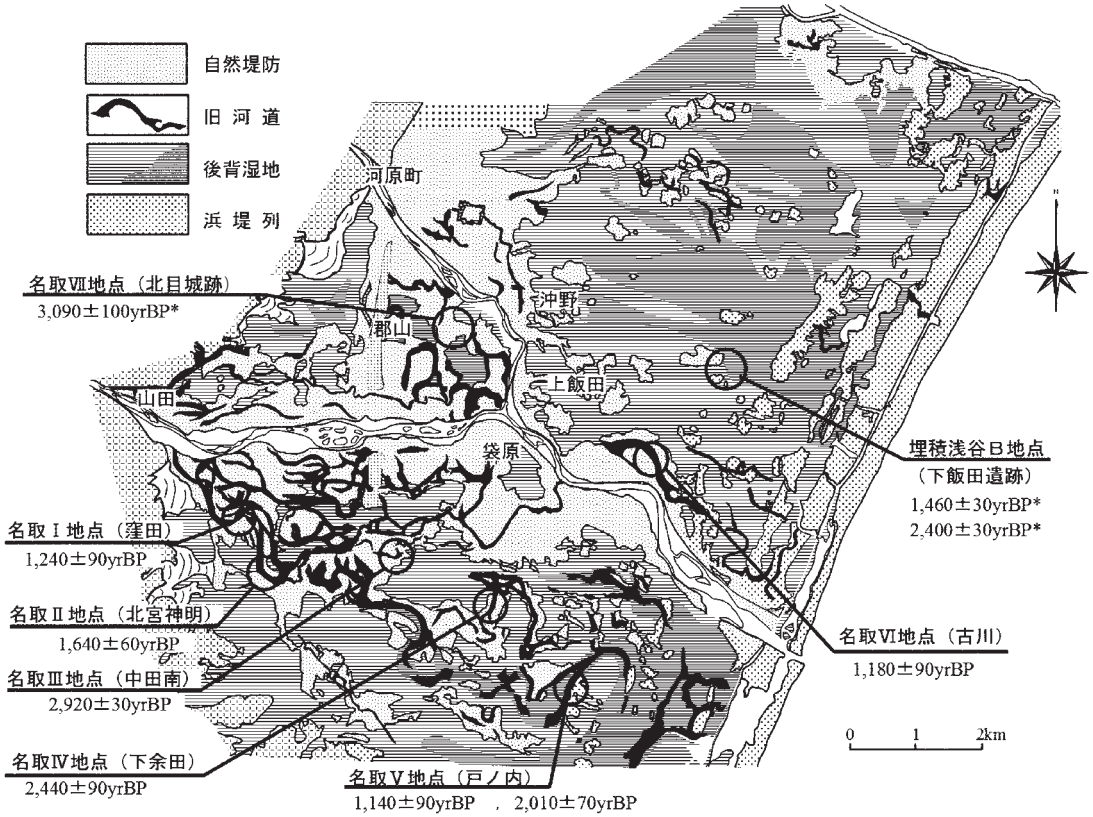


第９図　扇状地を構成する砂礫層の上面高度分布（単位：m）（松本，1994 による）

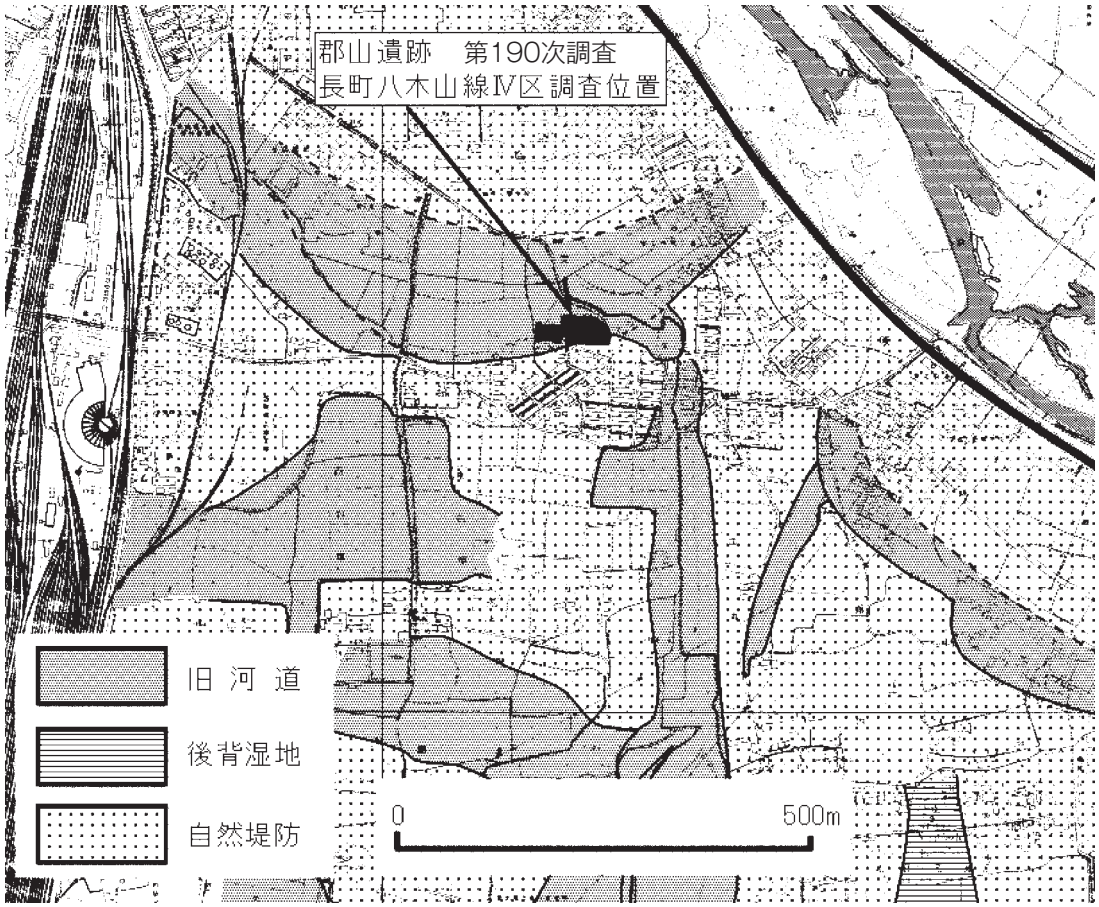


断面位置は第９図中のＡ−Ａ’（松本・久連山・野中，2004による）

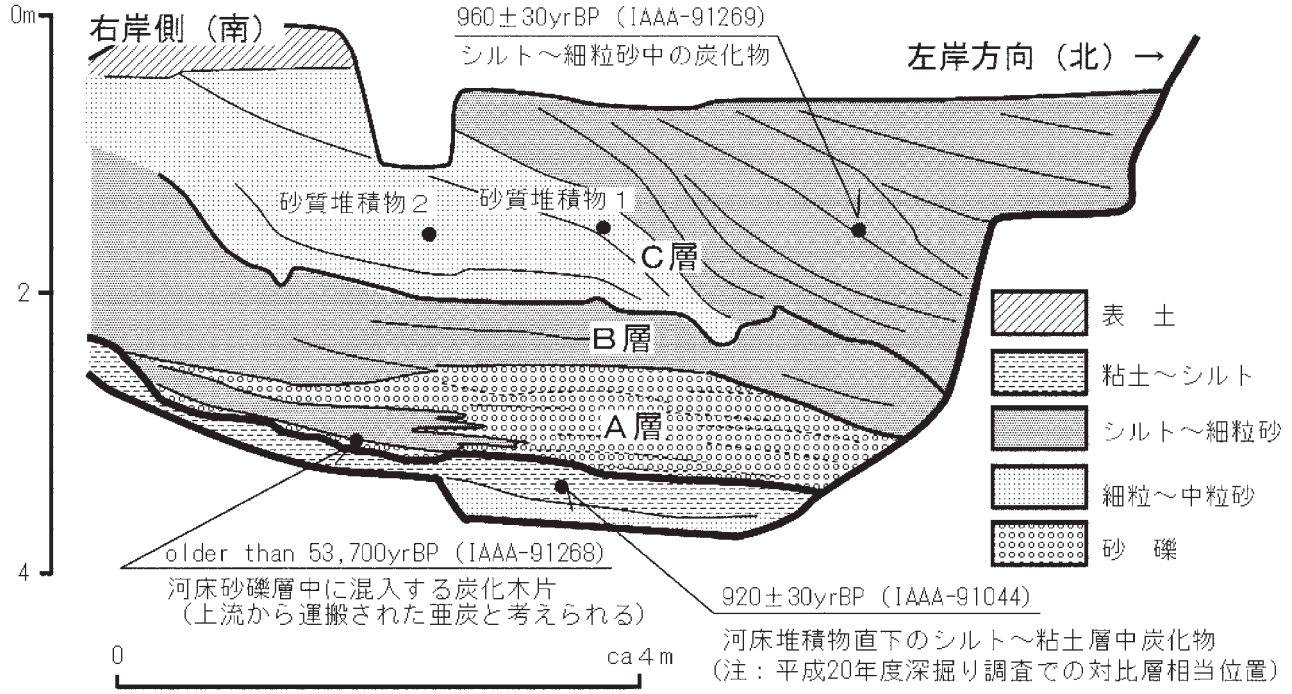
第１０図　合流扇状地を構成する砂礫層断面図



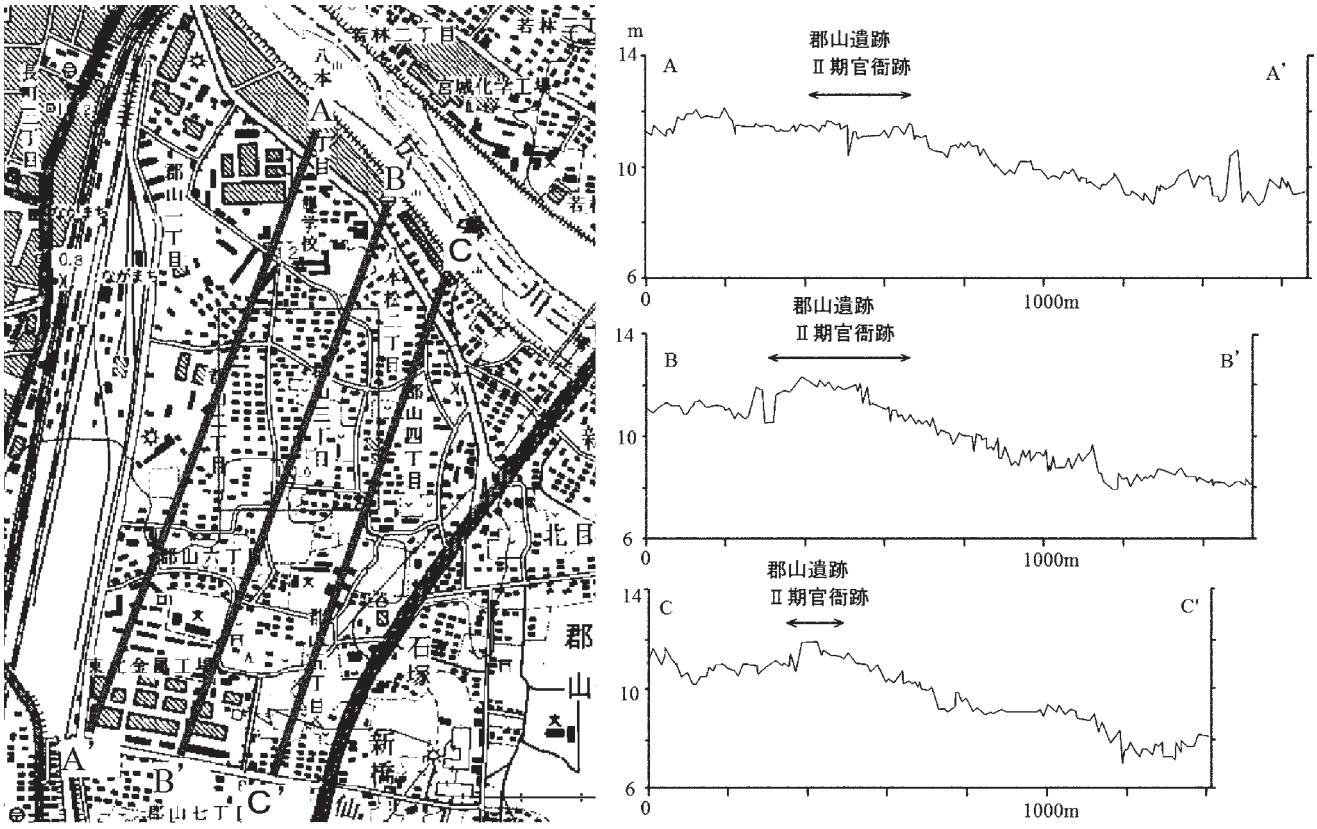
第11図　名取川・広瀬川合流扇状地を流下する旧河道群（久連山・松本，2004による）



第12図　郡山遺跡周辺の地形分類図



第13図　Ⅳ区東調査区を通過する旧河道断面



第14図　郡山遺跡の位置と地盤高

第２節　郡山遺跡の位置と周辺の遺跡

(1)郡山遺跡の位置

郡山遺跡は、宮城県の中央に所在する仙台市の南東部、太白区郡山二丁目から同六丁目にかけて広がっている。遺跡はJR東北本線と国道4号線バイパスに挟まれた位置にあり、北側に広瀬川、南方約1㎞に名取川が東流している。遺跡の範囲は、東西800ｍ、南北900ｍの約60万㎡に及んでおり、西側は西台畑遺跡と長町駅東遺跡に接し、東側は北目城跡と接している。遺跡の一部は、平成18年に『仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡』として国史跡に指定された。今回の郡山遺跡第190次調査地点は、郡山遺跡の最北部に位置している。標高は約11ｍである。

(2)周辺の遺跡

郡山遺跡の立地する名取川下流域は、旧石器時代から近世に至るまで多数の遺跡が分布している。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡としては富沢遺跡が知られている。2万年前の旧石器時代の焚火跡とピット、ナイフ形石器を含む100点以上の石器類が検出された。また、樹木や球果などの植物化石なども出土しており、当時の環境復元も行われ亜落葉性の気象条件下にあったことが明らかにされている。

縄文時代

早期では前葉の竪穴住居跡が下ノ内浦遺跡で検出されている。遺物は押型文土器、石器などが出土している。山口遺跡では早期末の包含層が発見されている。前期では西方の丘陵に三神峯遺跡がある。中期では六反田遺跡や下ノ内遺跡で、中期後葉から末葉の居住域が検出されている。後期では六反田遺跡や下ノ内遺跡や大野田遺跡などの遺跡がある。大野田遺跡と伊古田遺跡では土偶が多数出土している。晩期では長町駅東遺跡などで遺物の出土はあるが、遺構は検出されていない。

弥生時代

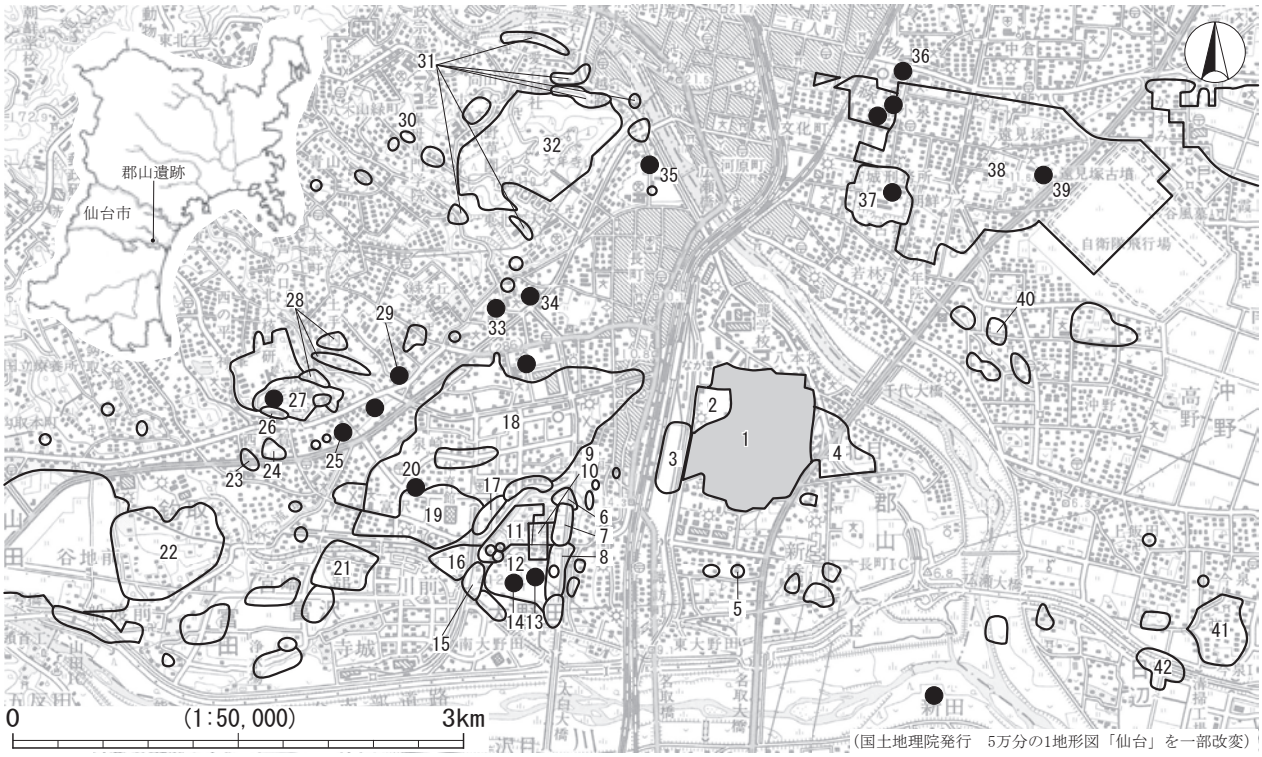
前期では郡山遺跡第65次で遺物が出土している。中期では水田跡が富沢遺跡や高田Ｂ遺跡、郡山遺跡、長町駅東遺跡で検出されている。長町駅東遺跡では土壙墓と竪穴住居跡が水田跡に隣接して発見されている。また、中在家南遺跡や高田Ｂ遺跡では木製農具類が多量に出土している。後期では富沢遺跡や山口遺跡などで水田跡が発見され、下ノ内浦遺跡では墓域が検出されている。丘陵上の八木山緑町遺跡では後期末葉の竪穴住居跡と土壙墓が発見されている。

古墳時代

前期では戸ノ内遺跡で方形周溝墓と竪穴住居跡、安久東遺跡で前方後方形の周溝墓が発見されている。また、前期末葉には全長100ｍを超える前方後円墳(遠見塚古墳・雷神山古墳)が仙台平野に造営される。中期から後期にかけては、5世紀後半から6世紀前半に古墳の築造が西方の丘陵沿いや大野田古墳群で確認される。六反田遺跡ではこの時期の石棺墓、木棺墓が検出されている。その時期に集落も旧笊川流域の六反田遺跡や下ノ内遺跡やその北方の富沢遺跡などに広がっていたと考えられる。後期・終末期になると、郡山遺跡や長町駅東遺跡、栗遺跡などで新たに集落が形成されるようになり、終末期には、西方の丘陵に横穴墓が造営される。高塚古墳は広瀬川左岸に法領塚古墳、名取川右岸に安久東古墳が築造されている。終末期後半、7世紀中頃から8世紀初頭には、郡山遺跡にⅠ期官衙、Ⅱ期官衙が営まれる。

奈良・平安時代

富沢周辺の下ノ内遺跡、伊古田遺跡、六反田遺跡、山口遺跡、名取川右岸の安久･安久東遺跡、清水遺跡、中田南遺跡、中田畑中遺跡、広瀬川左岸の南小泉遺跡がある。水田跡は富沢遺跡、山口遺跡、郡山遺跡で検出されおり、富沢遺跡、山口遺跡では条里水田の存在が確認されている。



※ ●は古墳

第15図　郡山遺跡と周辺の遺跡

No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	郡山遺跡	自然堤防	官衙関連・寺院跡・集落跡・散布地	縄文（後・晩）・弥生（中）・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
2	西台畑遺跡	自然堤防	官衙関連・集落跡・墓域	縄文・弥生（中）・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
3	長町駅東遺跡	自然堤防	官衙関連・集落跡・水田跡・墓域	縄文（晩）・弥生（中）・飛鳥・奈良・平安・中世
4	北目城跡	自然堤防	城館跡・集落跡・水田跡	縄文（後）・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
5	篭ノ瀬遺跡	自然堤防	集落跡	古墳～平安
6	元袋遺跡	自然堤防	集落跡	奈良・平安
7	大野田遺跡	自然堤防	祭祀跡・集落跡	縄文（後）・弥生（中）・古墳・奈良・平安
8	王ノ壇遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文（後）・弥生・古墳・奈良・平安・中世
9	大野田官衙遺跡	自然堤防	官衙関連	飛鳥・奈良
10	袋前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・奈良・平安
11	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（中～晩）・弥生・古墳・奈良・平安・近世
12	大野田古墳群	自然堤防	集落跡・円墳群	縄文・弥生・古墳・平安・中世
13	鳥居塚古墳	自然堤防	前方後円墳	古墳（中）
14	春日社古墳	自然堤防	円墳	古墳（中）
15	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文～平安
16	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（中～晩）・弥生・古墳・奈良・平安・中世
17	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡	縄文（早・前・後）・弥生・古墳・奈良・平安・中世
18	富沢遺跡	後背湿地	集落跡・水田跡・散布地	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
19	山口遺跡	自然堤防・沖積平野	集落跡・水田跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
20	教塚古墳	自然堤防	古墳	古墳
21	富沢館跡	自然堤防	城館跡	中世

No.	遺跡名	立地	種別	時代
22	上野遺跡	包含地	段丘	縄文・奈良・平安
23	西台窯跡	丘陵端部	窯跡	奈良
24	原遺跡	丘陵麓	集落跡・古墳群	弥生・古墳・飛鳥・平安
25	裏町遺跡	自然堤防	前方後円墳	古墳
26	富沢窯跡	丘陵斜面	窯跡	古墳・奈良・平安
27	三神峯遺跡	丘陵	集落跡	縄文（前・中）・平安
28	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
29	砂押古墳	自然堤防	前方後円墳	古墳
30	八木山緑町遺跡	丘陵	集落跡・墓域・散布地	縄文・弥生（後）・奈良・平安
31	向山横穴墓群	丘陵斜面	横穴墓群	古墳（後）・奈良
32	茂ヶ崎城跡	丘陵	城館跡	中世
33	二塚古墳	自然堤防	前方後円墳	古墳
34	一塚古墳	自然堤防	前方後円墳	古墳
35	兜塚古墳	自然堤防	前方後円墳	古墳
36	法領塚古墳	自然堤防	円墳	古墳
37	若林城跡	自然堤防	城館跡・古墳・集落跡	古墳・平安・中世・近世
38	南小泉遺跡	自然堤防	屋敷跡・集落跡	弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世
39	遠見塚古墳	自然堤防	前方後円墳・散布地	弥生・古墳（前・中）
40	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
41	今泉遺跡	自然堤防	集落跡・城館跡	弥生・古墳・平安～近世
42	高田Ｂ遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡・屋敷跡	縄文（後・晩）・弥生・古墳・平安・中世・近世

中世・近世

12世紀段階では、外周に堀の伴う屋敷跡の形成が山口遺跡、今泉遺跡、南小泉遺跡において確認される。13～16世紀には、溝区画や屋敷跡が中田南遺跡、安久東遺跡、戸ノ内遺跡、下飯田遺跡において検出され、今泉遺跡、南小泉遺跡では城館跡の伝承も残る。富沢遺跡では溝区画や屋敷跡に近接する水田跡も確認され、中世段階での生活空間が明らかになるとともに竪穴遺構からは特殊な遺物(付札木簡、烏帽子状漆製品)が出土している。王ノ壇遺跡では堀を伴う屋敷跡や火葬墓跡と中世段階での幹線道路跡(推定奥大道)が検出され、主要道と武士階級の居住域や墓域の在り方を示す一端が明らかとなった。近世では、郡山遺跡の北東側に北目城跡がある。17世紀初頭、慶長5年(1600年)関ヶ原の合戦により反徳川方の立場をとった会津上杉景勝の動向を見定めた伊達政宗が、同年7月に入城し、上杉氏との対峙拠点とした。

第3章　調査の方法と概要

第1節　調査の方法

計画路線は、路線幅40m、東西延長470mに及ぶことから、調査区の設定にあたり現道や水路を調査区境にすることにし、Ⅰ～Ⅶ区まで地区名を付し遺構確認調査を行った。

確認調査成果から本調査対象区域と判断したⅡ・Ⅳ・Ⅴ区の調査と、確認調査の補足調査の実施について都市再生機構と協議し、本調査は計画路線西側のⅡ区の調査を先行させ、その後Ⅳ･Ⅴ区の調査を実施することになった。

第2節　調査概要

(1)調査経過

初年度は、遺構確認調査により中世から古代の遺構面が確認された地点のうち、Ⅱ区を対象として、重機により道路予定範囲までの拡張と、その後遺構検出作業を行い、遺構分布の広がりと残存状況の確認を行った。Ⅳ区については残土処理の関係から東西に分割して調査を実施することにし、Ⅱ区調査終了後にⅣ区西を対象に調査を実施した。2年次はⅣ区東を対象に調査を実施し、その後Ⅴ区の調査を実施した。本調査区のうち、河川跡により古代の遺構面が削平されている部分については、河川跡調査区を設定し、河川の規模や堆積状況を確認することにした。

2年にわたる発掘調査により、郡山遺跡の官衙北部の状況が明らかになり、特に官衙南辺域での調査からこれまで空閑地と考えられていたⅡ期官衙の外郭大溝と外溝の間に、官衙期の遺構が存在することが確認されるという大きな調査成果が得られた。また、広瀬川と考えられる河川跡も発見されたことから、調査の成果について遺跡見学会を開催した。平成21年9月9日に報道発表を、9月12日に遺跡見学会を行い、203名の参加があった。

(2)測量基準・図面の作成

測量は、「世界測地系平面直角座標系第Ⅹ系」を基準としている。5×10mを単位とする平面区配図を作成し、Ⅱ区では北東端を1とし、南西端を末尾とした。Ⅳ・Ⅴ区では北西端を1とし、南東端を末尾とし、遺構図面の作成を行った(第16図)。本文中で遺構の所在位置を示す場合は、この番号をグリッド番号として使用している。

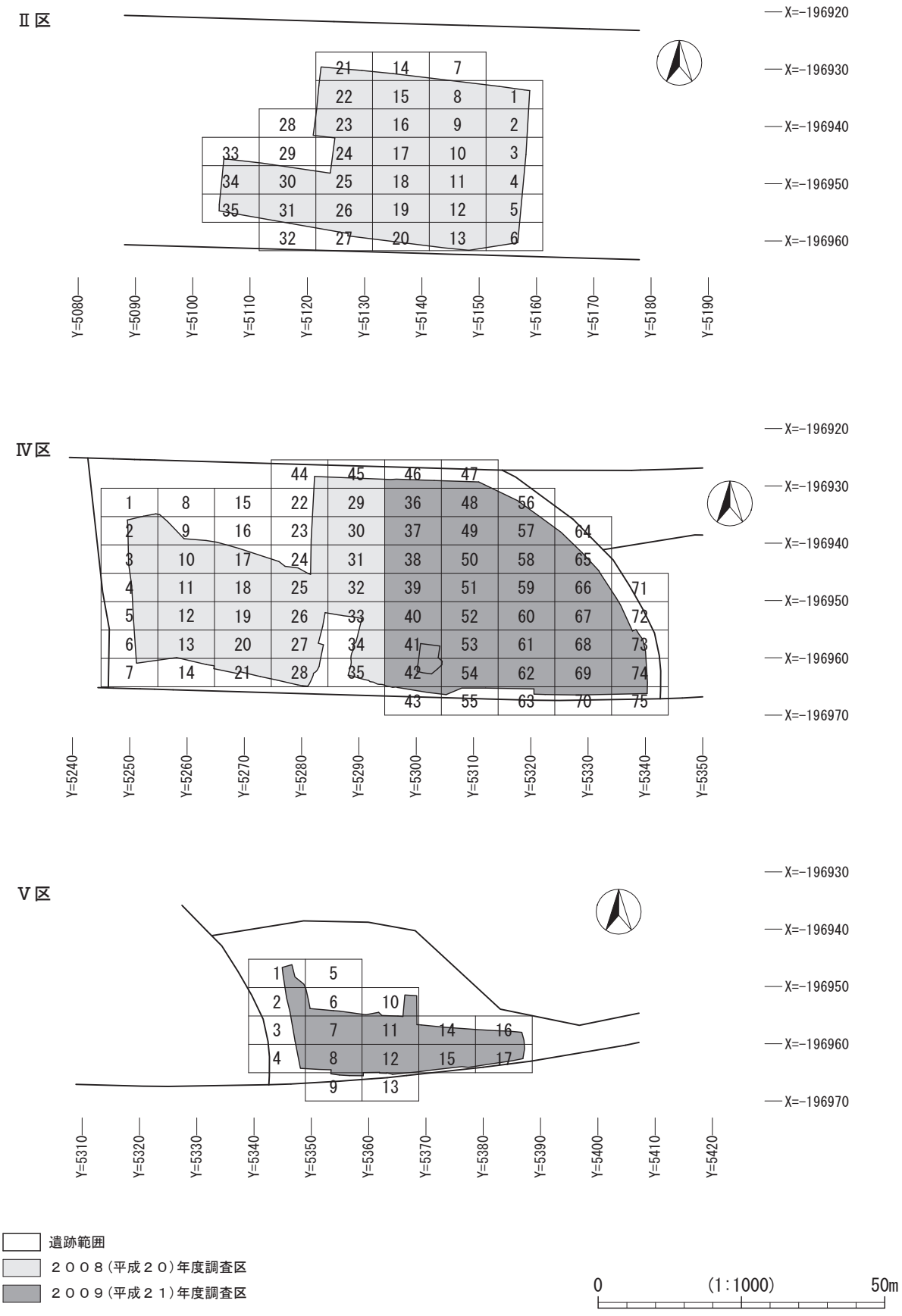
(3)遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺物の取り上げにあたっては、測量基準とした平面区配図の番号をグリッド名として利用した。特に必要と認められた遺物については、出土状態図を作成し、位置とレベルを記録している。

整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録している。

(4)遺構登録番号

各遺構の登録番号について、今回の長町八木山線を対象とした調査は、国庫補助事業に伴う調査やあすと長町土地区画整理事業とは別事業で調査地点も異なることから、それぞれ1番からの通し番号とした。



第16図　Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区グリッド配置図

(5)調査報告書作成作業

調査報告書作成に伴う整理作業についても、委託業務により実施することとした。基礎整理作業は、各年度の野外調査終了後に実施したが、22年度前半に出土遺物の整理の一部(接合・修復)、礫石器実測を仙台市が行い、その他の整理(水洗・註記・接合)、弥生土器の拓本・断面実測、遺構図面基礎整理、記録写真整理を株式会社玉川文化財研究所が行った。

報告書作成に向けた整理は、太白区富田に所在する株式会社玉川文化財研究所仙台事務所で行った。出土遺物の登録・実測図作成、遺物図版・遺構図版・写真図版の作成及び編集・原稿執筆を行ったが、その間必要に応じて整理作業内容の確認・協議を行っている。特に、弥生土器・土師器・須恵器の実測図及びデジタルトレースについては、仙台市西台畑遺跡発掘調査事務所において点検を行った。

第4章　基本層序と河川堆積土(Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区)

郡山遺跡第190次調査では、東西500ｍに及ぶ路線区間に32ヶ所の確認調査と3地区(Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区)の本調査を2年にわたって実施した。第2章で既述したように、遺跡周辺の地形は河川がもたらした要因により複雑な地形を呈しており、基本層序は全体的に不安定な状況であった。とくに事業区域の北半分を浸食する河川跡の堆積土は、確認調査では不明瞭であったが、Ⅳ区の本調査において平面的な拡がりが確認でき、河川堆積の全体的な状況を把握することができた。また河川跡の調査では、砂礫層までの掘り下げを実施し、堆積状況の把握につとめた。以下では、本調査を実施した3地区(Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区)の土層堆積図を掲載して、基本層序と河川堆積土の説明を行う。基本層序の層名についてはローマ数字(Ⅰ～Ⅵ層)で付した。

第1節　Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区の基本層序(第17～23図)

今回の調査における各地区の基本土層について、これまでのあすと長町土地区画整理事業に関連する調査の基本土層と対比すると、中世の遺構検出面となるⅢ層が今回の事業区域内では確認されていない。

基本層序の説明ではⅣ区調査区の模式図(第20図)をもとに、基本層序の特徴と遺構の検出面について説明を加える。掲載した土層図はⅡ・Ⅳ・Ⅴ区南壁の東西断面図とⅣ・Ⅴ区西壁の南北断面図である。

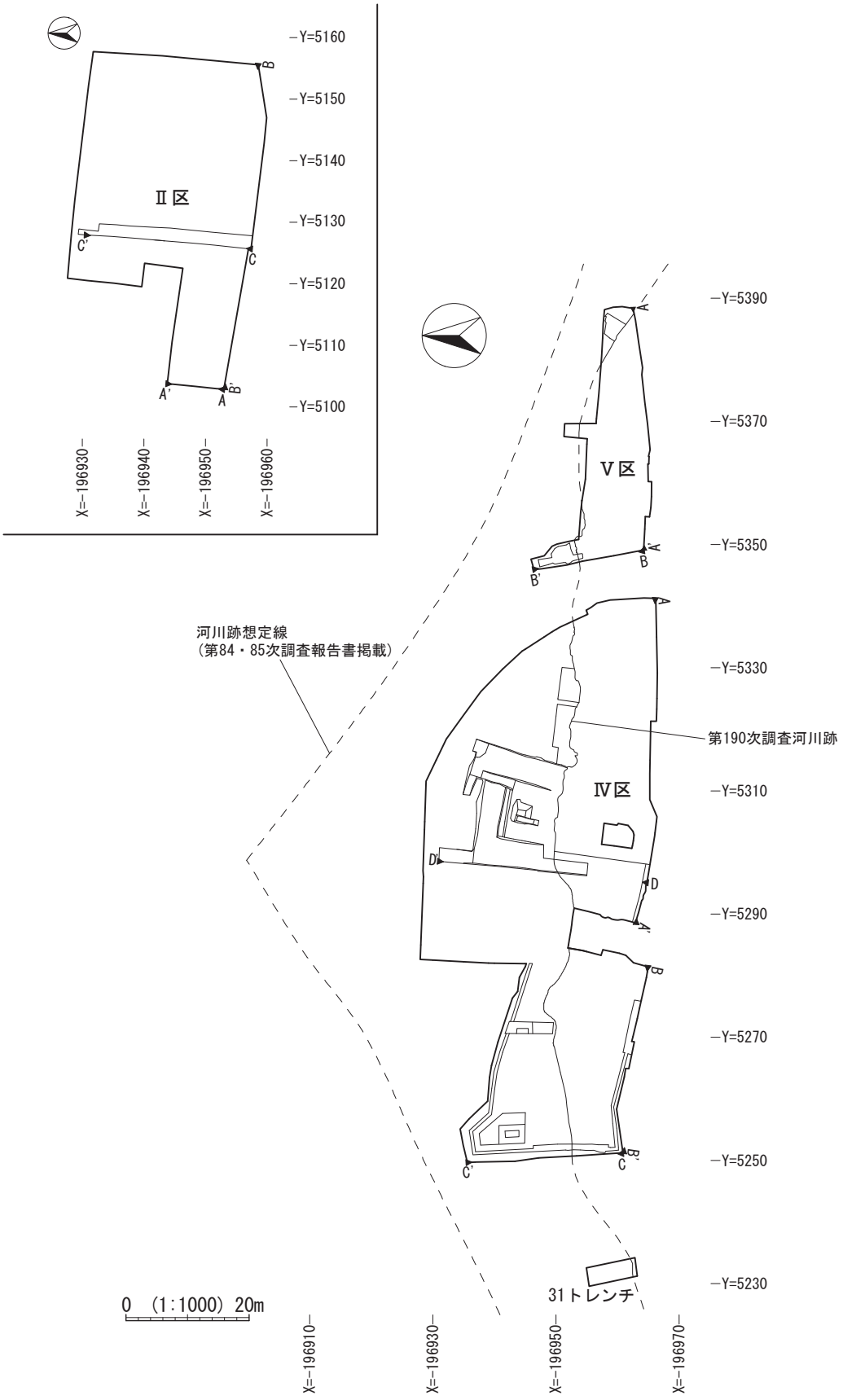
Ⅱ区では、Ⅰａ～Ⅱｄ層までの基本層序が確認された。Ⅰａ層は旧表土。Ⅱ層は近世以降の遺構掘り込み面で、ａ～ｄ層に細分される。Ⅱａ・Ⅱｂ層は暗褐色(10YR3/4～3/3)シルトを主体とし、層厚は約40㎝を測る。Ⅱａ層は調査区の全面で確認され、小溝状遺構を含む耕作土と考えられるⅡｂ層を一部削平している。Ⅱｃ・Ⅱｄ層は褐色(10YR4/6～4/4)を主体とし、Ⅱｃ層は調査区東側で観察され、Ⅱｄ層は調査区の西側で観察された。

Ⅳ・Ⅴ区では、表土下に盛土が確認されたが、以下ではⅠ・Ⅱ・Ⅳ～Ⅵ層に分層された。Ⅰ層は旧表土層と近現代の耕作土、Ⅱ層は中近世の遺構検出面、Ⅳａ層上面は古墳時代後期～終末期の遺構検出面、Ⅳｂ層～Ⅴ層は古墳時代前期～中期の遺構検出面、Ⅵ層は弥生時代後期の遺物包含層となる。Ⅵ層下位はシルト・砂質シルト・粘土質シルトが互層となってほぼ水平に堆積しており、遺構・遺物とも検出されていない。下位層では地表下約4ｍ前後で河床と考えられる岩盤状の凝灰岩が調査により確認されている。

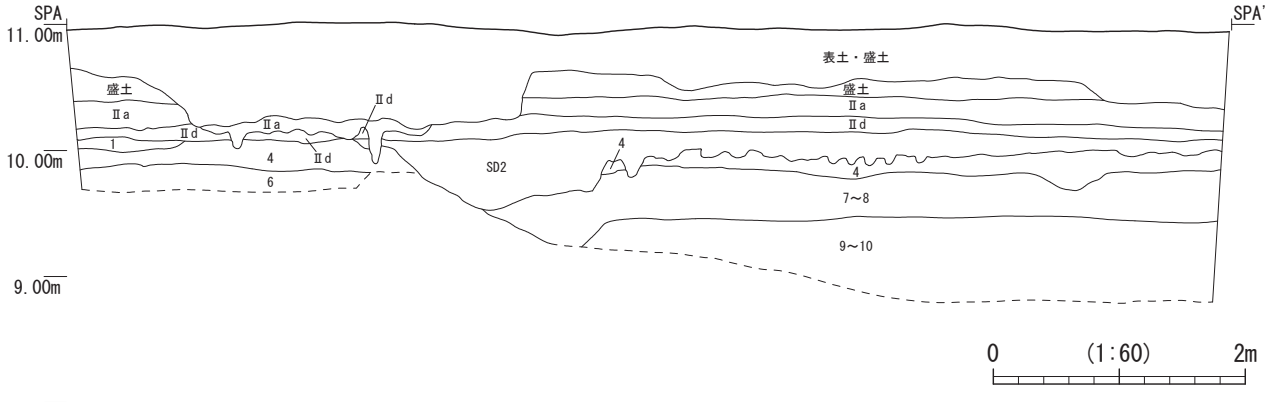
以下ではⅣ・Ⅴ区の基本層序Ⅰ層からⅥ層の説明を行い、明らかになった遺構検出面について述べる。

Ⅰ層　ａ～ｃ層に細分される砂質シルトである。色調はａ層がにぶい黄褐色(10YR4/3)、ｂ層が褐色(10YR4/6)、ｃ層が暗オリーブ褐色(2.5Y4/4)である。層厚は10～50㎝。Ⅳ区のほぼ全面とⅤ区西側で観察されるが堆積の分布は均等ではない。ｂ層は天地返しの旧耕作土、ｃ層は天地返しの堆積土である。

Ⅱ層　ａ～ｃ層に細分され、オリーブ褐色を基調とするシルトである。色調はａ層が暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)、



第17図　Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区基本層序断面位置図



第18図　Ⅱ区基本層序（1）

Ⅱ区 基本層序土層註記表　A-A'

層位	土色		土性	備考
表土・盛土	10YR3/4	暗褐色		砂利・コンクリート片を含む盛土。
盛土	5GY4/1	暗オリーブ灰色	シルト	盛土。部分的にグライ化しており、下層との層界には酸化鉄面を形成。
Ⅰa	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1㎜の白色粒を微量、φ5～10㎜の10YR6/6明黄褐色シルト塊を微量含む。
Ⅱa	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、φ5cm前後の10YR4/4褐色シルト塊を微量含む。
Ⅱb	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	φ5～10cmの10YR4/4褐色シルト塊を少量、φ3～5cmの10YR5/6黄褐色シルト塊を少量含む。撹拌された層。
Ⅱc	10YR4/6	褐色	シルト	2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。
Ⅱd	10YR4/4	褐色	シルト	φ1～3cmの10YR6/6明黄褐色シルト塊を微量含む。

b層が暗灰黄色(2.5Y4/2)、c層がオリーブ褐色(2.5Y4/3)である。層厚は10～40㎝。Ⅳ区の全面とⅤ区西側に観察され、堆積の分布は均等ではない。新旧2時期の小溝状遺構群が検出され、Ⅳ区東側では小溝状遺構群がⅡc層を掘り込み、西側ではⅡb層を掘り込む耕作土も確認された(Ⅳ区南壁土層断面Ａ－A'参照)。

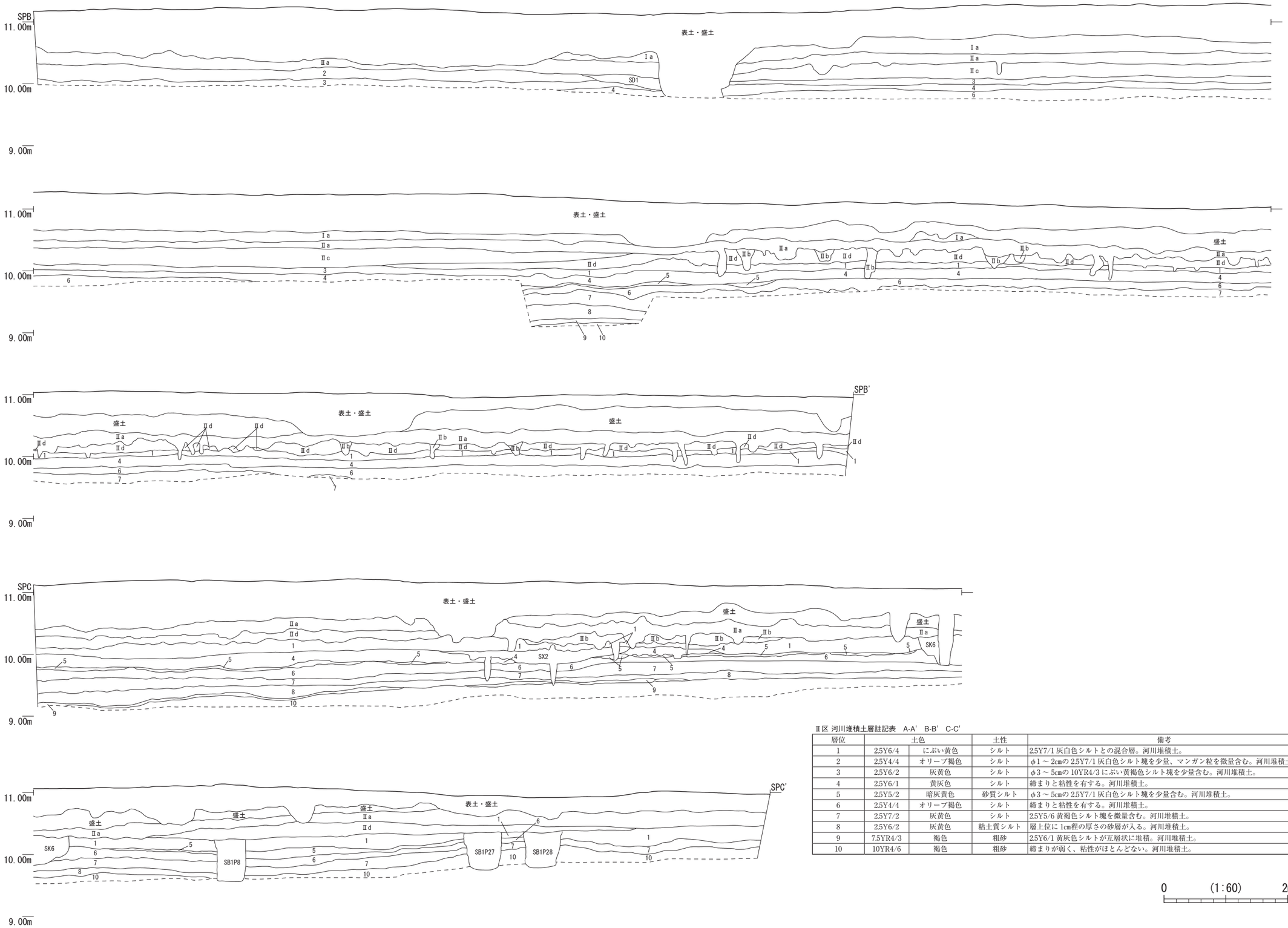
Ⅳ層　a～d層に細分され、黄褐色を基調とするシルトである。色調はa層がにぶい黄色(2.5Y6/4)、b層が黄褐色(2.5Y5/6)、c層が明黄褐色(2.5Y6/8)、d層が黄褐色(2.5Y5/6)である。下位に砂質シルトや粘土質シルトが含まれる。層厚は40～50㎝。Ⅳ区南側のほぼ全域とⅤ区南側に広く観察され、Ⅳa層上面が古墳時代後期の遺構検出面、Ⅳb層上面がSD5溝跡の掘り込み面である。

Ⅴ層　a･b層に細分され、暗褐色を基調とするシルトである。色調はa層が暗褐色(10YR3/3)、b層が黒褐色(10YR2/3)である。層厚10～20㎝で、Ⅳ区南側のほぼ全域とⅤ区西側の南側部分に観察される。

Ⅵ層　a～f層に細分され、黄色～黄褐色を基調とする粘土質シルトである。色調はa層がにぶい黄色(2.5Y6/4)、b層が暗灰黄色(2.5Y5/2)、c層が明黄褐色(2.5Y6/6)、d層がにぶい黄色(2.5Y6/3)、e層が明黄褐色(2.5Y7/6)、f層が灰黄色(2.5Y7/2)である。層厚は1m以上で、Ⅳ・Ⅴ区南側のほぼ全域で観察される。

Ⅳ・Ⅴ区 基本層序土層註記表　Ⅳ区：A-A' B-B' C-C' D-D'　Ⅴ区：A-A' B-B'

層位	土色		土性	備考
表土	10YR5/1	褐灰色	－	表土。コンクリート・炭ガラ・砂利。
盛土	5PB3/1	暗青灰色	粘土質シルト	青灰色還元粘土。上・下面に明瞭な酸化鉄が沈着する。
Ⅰa層	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりが強い。
Ⅰb層	10YR4/6	褐色	砂質シルト	天地返し直上層。
Ⅰc層	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	天地返し堆積土。
Ⅱa層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1～2cmの2.5Y5/6黄褐色シルト塊を微量含む。
Ⅱb層	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの2.5Y5/6黄褐色シルト塊を少量含む。
Ⅱc層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	腐植質。
Ⅳa層	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	締まりが強く、粘性を有する。
Ⅳb層	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性がやや弱い。
Ⅳc層	2.5Y6/8	明黄褐色	砂質シルト	φ1.5cmの2.5Y5/6黄褐色粘土塊を少量含む。
Ⅳd層	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性が弱い。
Ⅴa層	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	φ1～2㎜の10YR5/6黄褐色シルト塊を少量含む。
Ⅴb層	10YR2/3	黒褐色	シルト	φ1～2㎜の10YR5/6黄褐色シルト塊を少量、φ2～3㎜の炭化物を少量含む。
Ⅵa層	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。
Ⅵb層	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ3～5㎜の炭化物をやや多く含む。
Ⅵc層	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	部分的にφ5～10㎜の炭化物を含む。
Ⅵd層	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	細砂粒を均一に含む。
Ⅵe層	2.5Y7/6	明黄褐色	砂質シルト	締まりがあり、粘性に富む。
Ⅵf層	2.5Y7/2	灰黄色	粘土質シルト	層上下に硬化した酸化鉄面を形成。層中には筒状の酸化鉄が疎らに発達。

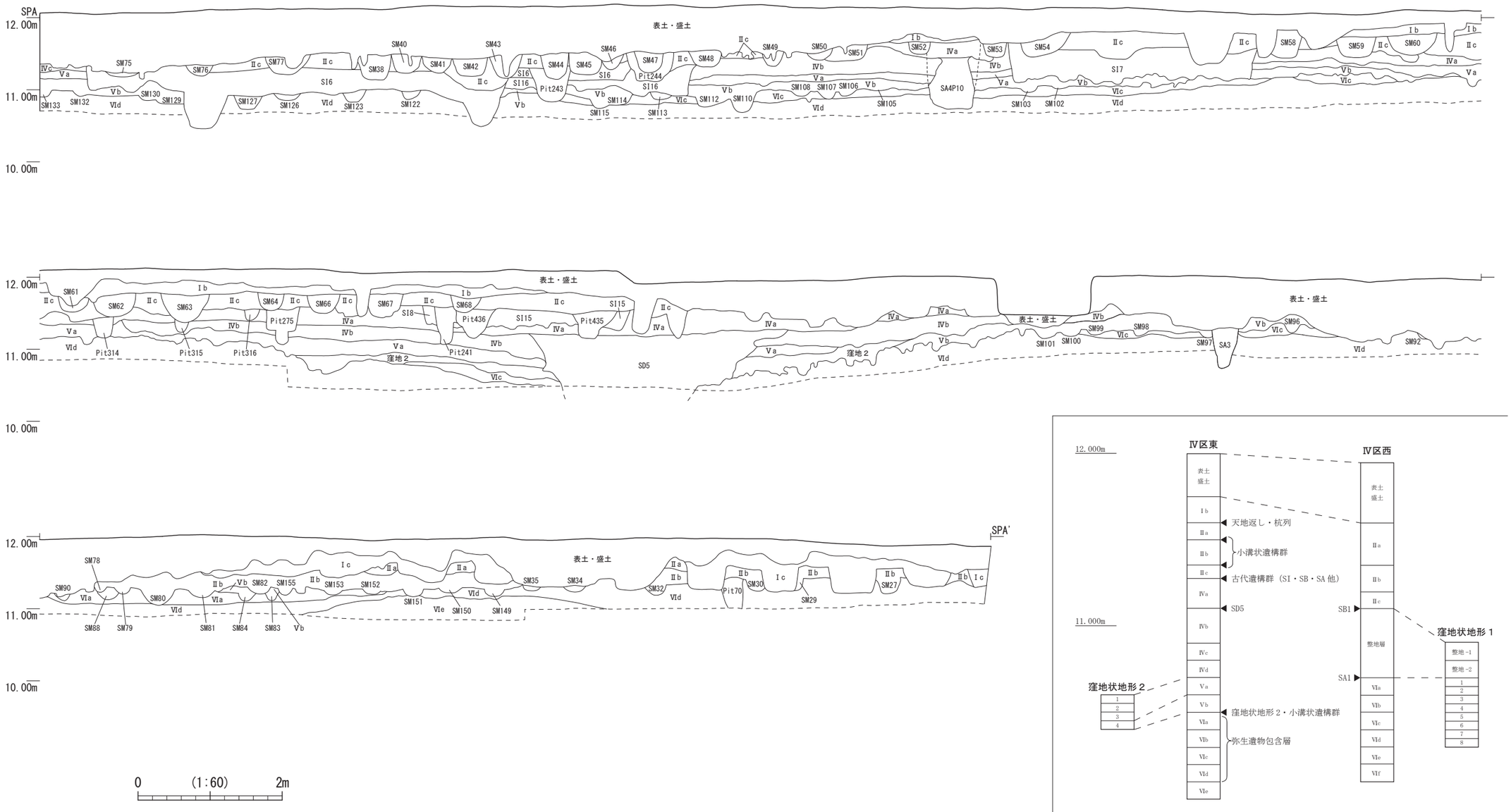


Ⅱ区 河川堆積土層註記表　A-A'　B-B'　C-C'

層位	土色		土性	備考
1	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルトとの混合層。河川堆積土。
2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量、マンガン粒を微量含む。河川堆積土。
3	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。河川堆積土。
4	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
5	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。河川堆積土。
6	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
7	2.5Y7/2	灰黄色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。河川堆積土。
8	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	層上位に 1cm程の厚さの砂層が入る。河川堆積土。
9	7.5YR4/3	褐色	粗砂	2.5Y6/1 黄灰色シルトが互層状に堆積。河川堆積土。
10	10YR4/6	褐色	粗砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。河川堆積土。

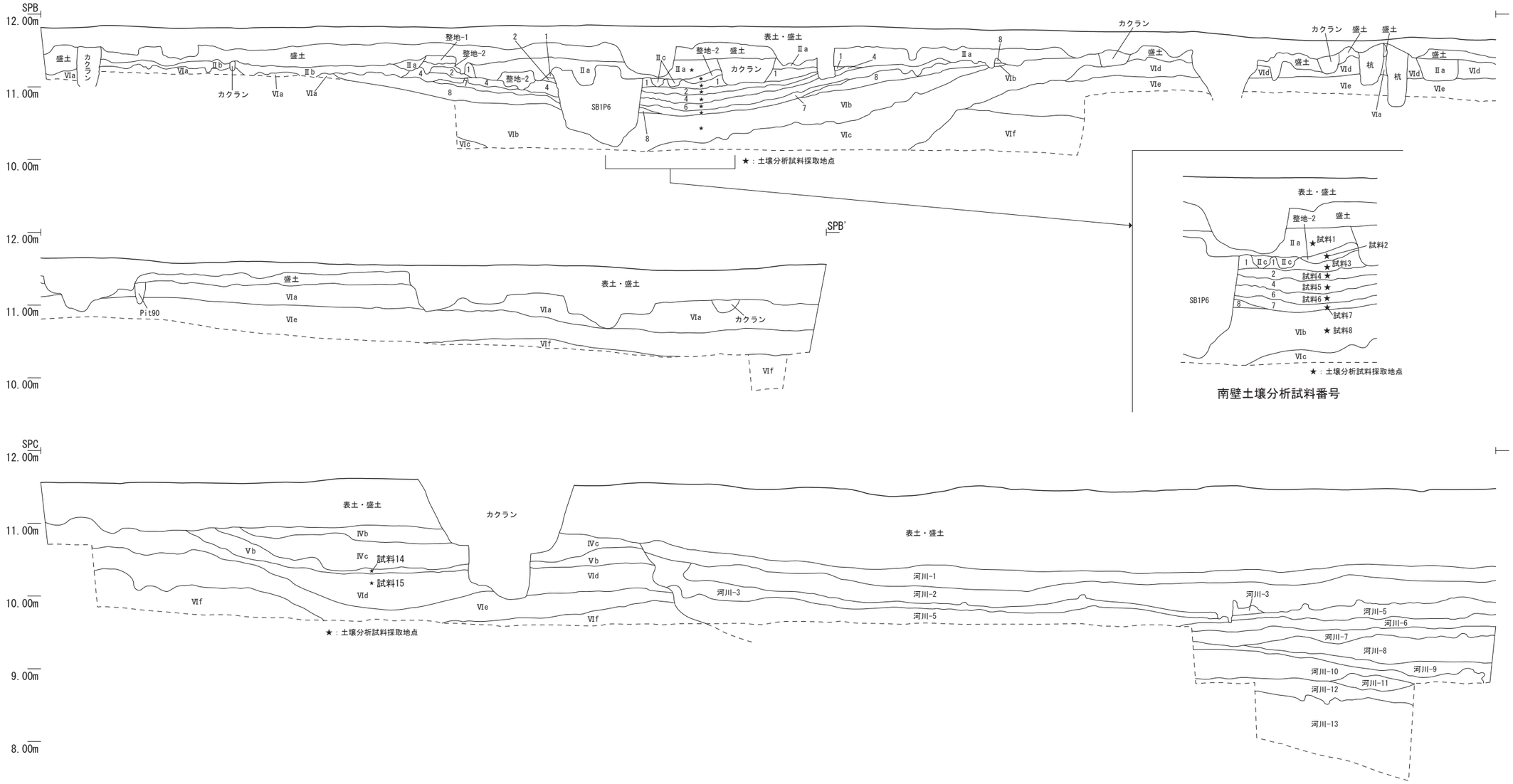
0　(1:60)　2m

第19図　Ⅱ区基本層序（2）



Ⅳ区基本層序模式図

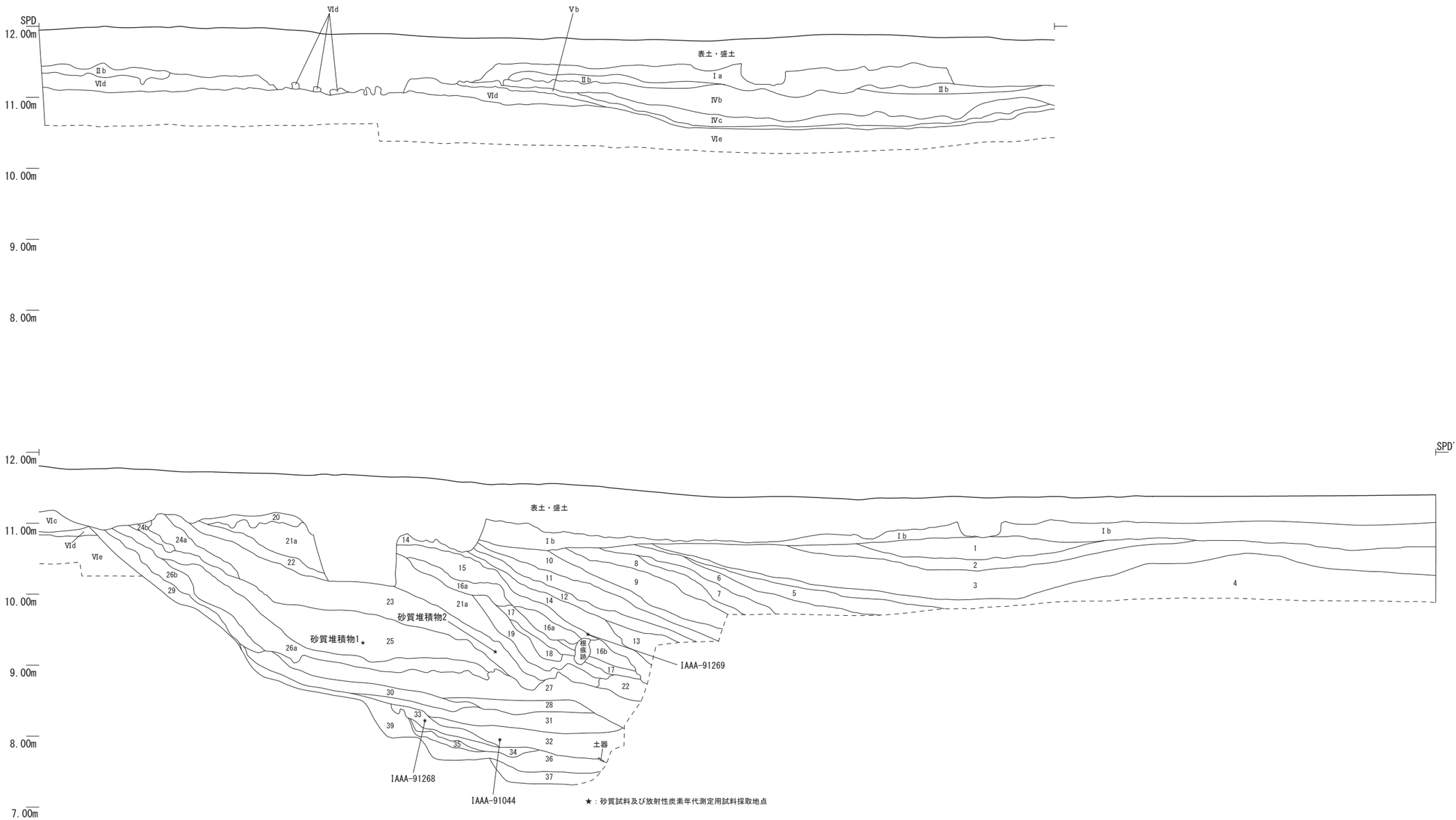
第２０図　Ⅳ区基本層序（１）



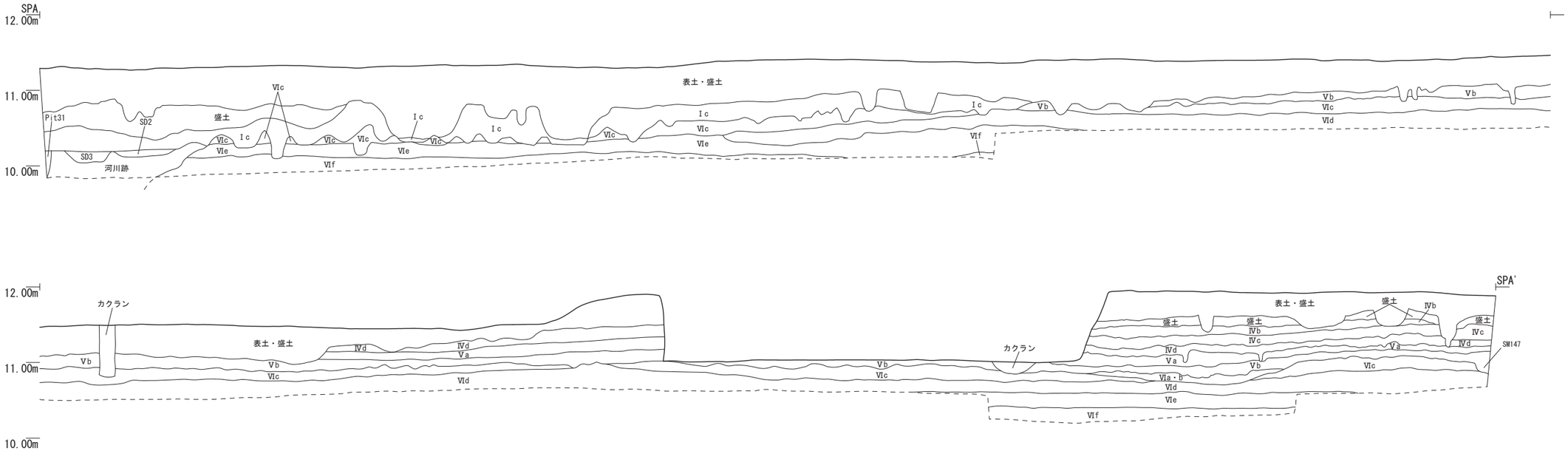
Ⅳ区　窪地状地形１土層註記表　B-B'

層位	土色		土性	備考
整地－1	10YR4/4	褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物と白色粘土塊をやや多く含む。本層上面がSB1検出面。
整地－2	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2～3㎜の2.5Y7/8黄色シルト塊を少量含む。
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	締まりが弱く、粘性を有する。本層上面がSA1検出面。
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	締まりが弱く、粘性を有する。
3	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ3～5㎜の2.5Y5/4黄褐色シルト塊を少量含む。
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
6	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
7	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	締まりが弱く、粘性を有する。
8	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ1～2㎝の2.5Y5/4黄褐色シルト塊をやや多く含む。

第２１図　Ⅳ区基本層序（２）



第２２図　Ⅳ区基本層序（３）



V区　河川堆積土層註記表　B-B'

層位	土色		土性	備考
①	2.5Y6/4	にぶい黄色	細砂	φ2 ～ 3㎜の炭化物を上面に含む。河川堆積土。
②	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を層中に多量に含む。河川堆積土。
③	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。河川堆積土。
④	5Y6/2	灰オリーブ色	細砂	上面にφ1 ～ 2㎜の炭化物を多量に含み、数 ㎜単位の互層堆積。河川堆積土。
⑤	2.5Y6/2	灰黄色	細砂	上面にφ1 ～ 2㎜の炭化物を含む。河川堆積土。
⑥	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。河川堆積土。
⑦	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ0.5 ～ 10㎜の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。河川堆積土。
⑧	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。北側は粘土質が強い。河川堆積土。
⑨	2.5Y7/2	灰黄色	粘土	筒状の酸化鉄が疎らに発達する。締まりと粘性を有する。河川堆積土。
⑩	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ0.5 ～ 10㎜の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。河川堆積土。

0　(1:60)　2m

第２３図　Ｖ区基本層序

第2節　Ⅱ区の河川堆積土

Ⅱ区掲載の土層断面図は、南壁の東西断面及び中央部の南北断面と西壁断面である（第18・19図）。表土・盛土直下にはⅠa層が形成され、Ⅱd層までが基本層序である。Ⅱd層以下が河川堆積土で、1～10層に細分される。河川堆積土は、シルトと砂質シルトが互層となってほぼ水平に堆積している。

河川堆積土1～10層

1層　にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト。層厚は10～30cm。Ⅱ区の北寄りに認められ、南東側で薄くなる。1層上面が掘立柱建物跡・柱穴列・土坑・溝跡・小溝状遺構などの検出面であるが、断面観察の結果、小溝状遺構については基本層Ⅱa層まで立ち上がることが確認されている。

2層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト。層厚は15～30cm。灰白色シルト塊とマンガン粒を含む。

3層　灰黄色（2.5Y6/2）シルト。層厚は5～15cm。Ⅱ区の全面に観察される。

4層　黄灰色（2.5Y6/1）シルト。層厚は10～25cm。上面は炭化物集中1～4の検出面である。

5層　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質シルト。層厚3～15cm。Ⅱ区でも部分的に観察される。

6層　オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト。層厚5～23cm。Ⅱ区の全面に観察される。

7層　灰黄色（2.5Y7/2）シルト。層厚は15～20cm。Ⅱ区の全面に観察される。

8層　灰黄色（2.5Y6/2）粘土質シルト。層厚は15～25cm。Ⅱ区の全面に観察される。

9層　褐色（7.5YR4/3）粗砂層。層厚は8cm前後。

10層　褐色（7.5YR4/6）粗砂層。層厚は30cm以上。南壁断面B－B'と西壁断面のA－A'で確認される。

第3節　Ⅳ・Ⅴ区の河川堆積土

(1) Ⅳ区の河川堆積土

Ⅳ区掲載の河川堆積土の土層断面は、中央部と西壁の南北断面である（第21・22図）。Ⅳ区中央の北側半分は、表土直下にⅠb層が堆積し、以下は河川堆積土である。Ⅳ区中央西壁面において1～37層まで分層した。土層の堆積状態は砂・細砂・砂質シルト・シルト・粘土質シルト・粘土などが互層となって堆積している。34・35層は下面に酸化鉄の集積があり、河床面を形成していた可能性がある堆積層である。深度は地表下約4mを測る。32層の底面では須恵器甕の小片が出土している。D－D'土層図の星印の箇所は炭化物サンプルの採取箇所を示すもので、32・33層で採取した2点について加速器分析AMS法によるC14年代測定（暦年代較正年代）を行った。分析結果は第9章に掲載した。

Ⅳ区の西壁では、表土直下に河川堆積土が確認された。河川－1～河川－13層とした土層で、上記したⅣ区調査区中央部の西壁で観察した1～37層とは対比ができなかった。

(2) Ⅴ区の河川堆積土

Ⅴ区掲載の河川堆積土の土層断面は西壁の南北断面である（第23図）。表土直下に基本層序のⅠb層及びⅠc層が確認され、河川堆積土は①～⑩層に分層された。全体的な状況としては、砂・細砂・砂質シルトなどが互層に堆積し、Ⅳ区中央部の砂層堆積部分と類似する。①～⑤層と⑥～⑩層は2回の氾濫による堆積状況を示している。各層の詳細は土層註記表に示した。

Ⅳ区 河川堆積(深掘区西壁)土層註記表　D-D'

層位	土色		土性	備考
1	2.5Y6/4	にぶい黄色	細砂	φ2 ～ 3㎜の炭化物を上面に含む。
2	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を層中に多量に含む。
3	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	腐植土壌化。φ2 ～ 3㎜の炭化物少量を含む。
5	2.5Y6/2	灰黄色	粘土	薄い酸化鉄面（明黄褐色 2.5Y6/6）含む。
6	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	上面にφ1 ～ 2㎜炭化物を含み、薄い酸化鉄面（明黄褐色 2.5Y6/6）形成。
7	2.5Y6/2	灰黄色	細砂	上面にφ1 ～ 2㎜の炭化物を含む。
8	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂粒	上面にφ1 ～ 3㎜の炭化物を含む。
9	5Y6/2・5Y5/2	灰オリーブ色	細砂	上面にφ2 ～ 3㎜炭化物をやや多く含み、細砂が数㎜単位で互層堆積。
10	5Y5/3	灰オリーブ色	細砂	上面にφ2 ～ 3㎜の炭化物を含む。
11	5Y6/2・5/2・5/3	灰オリーブ色	細砂	上面にφ2 ～ 3㎜の炭化物を含み、3 色の細粒が数㎜単位で互層堆積。
12	2.5Y7/2	灰黄色	細砂	数㎜単位で互層堆積。
13	5Y6/2	灰オリーブ色	細砂	上面にφ2 ～ 3㎜の炭化物を多量に含み、乾燥時には 2.5Y7/1 灰白色を呈し、数㎜単位の互層堆積。
14	2.5Y4/4	オリーブ褐色	細砂	上面にφ1 ～ 2㎜の炭化物を多量に含み、乾燥時には 2.5Y7/1 灰白色を呈し、数㎜単位の互層堆積。
15	5Y5/2	灰オリーブ色	細砂	上面にφ3 ～ 5㎜の炭化物を多量に含み、乾燥時には 5Y7/2 灰白色を呈し、数㎜単位の互層堆積。
16a	5Y6/2	灰オリーブ色	細砂	上面にφ1 ～ 2㎜の炭化物を多量に含み、乾燥時には 2.5Y7/1 灰白色を呈し、数㎜単位の互層堆積。
16b	5Y6/2・5/2・5/3	灰オリーブ色	細砂	上面にφ2 ～ 3㎜の炭化物を含み、3 色の細粒が数㎜単位で互層堆積。
17	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質シルト	層中にφ2 ～ 3㎜の炭化粒を含む。
18	5Y6/2	灰オリーブ色	細砂	上面にφ3 ～ 5㎜の炭化物を多量に含み、乾燥時には 5Y7/2 灰白色を呈し、数㎜単位の互層堆積。 層中にも 2 枚の炭化物層が入る。
19	5Y6/4	オリーブ黄色	砂質シルト	層中にφ3 ～ 5㎜の炭化物を多量に含む。
20	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を含む。腐植土壌化。
21a	2.5Y6/3	にぶい黄色	砂質シルト	上面にφ1 ～ 3㎜の炭化物を含み、数㎜単位で互層堆積。
21b	2.5Y6/3	にぶい黄色	細砂	数㎜単位で互層堆積。
22	2.5Y6/2	灰黄色	粗砂	φ3 ～ 5㎜の腐植土粒（2.5Y4/3 オリーブ褐色）を少量含む。
23	2.5Y7/2	灰黄色	粘土	上・下に硬化した酸化鉄面（5YR5/3 にぶい赤褐色）が形成される。
24a	5Y7/1	灰白色	粘土	上・下に硬化した酸化鉄面（5YR5/4 にぶい赤褐色）が形成される。
24b	2.5Y7/2	灰黄色	粘土	上・下に硬化した酸化鉄面（5YR5/3 にぶい赤褐色）が形成される。
25	2.5Y6/2	灰黄色	粗砂	締まりに欠け、粘性がほとんどない。
26a	5Y7/1	灰白色	粘土	上・下に硬化した酸化鉄面（7.5YR5/6 明褐色）が形成される。23 層と類似する粘土層。
26b	2.5Y6/2	灰黄色	粗砂	締まりに欠け、粘性がほとんどない。
27	5YR4/4	にぶい赤褐色	砂礫	φ3 ～ 5㎝の円礫を粗砂の混合層。数㎝単位で赤褐色酸化面が形成される。
28	5YR5/3	にぶい赤褐色	砂礫	φ3 ～ 8㎝の円礫と粗砂の混合層。27 層よりも密な数㎜単位で赤褐色面が形成される。
29	10YR3/2 ～ 2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物と黄色シルト（2.5Y6/3 にぶい黄色）を少量含む。腐植土壌化しており、古代遺物を含む頻度が高い。
30	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。
31	2.5Y7/2	灰黄色	粘土	上・下に硬化した酸化鉄面（7.5YR4/6 褐色）が形成される。
32	2.5Y7/2	灰黄色	砂礫	φ2 ～ 3㎜の円礫と粗砂の混合層。赤褐色酸化面が形成されるが、明瞭な硬化面はない。
33	5BG6/1	青灰色	粘土	厚さ 1㎝、幅 5㎝の炭化材片（分析用サンプル）と少量の炭化物を含む。
34	7.5YR5/4	にぶい褐色	砂礫	φ3 ～ 5㎝の円礫を粗砂の混合層。全体が酸化し、層下端には顕著な酸化鉄硬化面が形成される。河床面の可能性あり。
35	7.5YR6/4	にぶい橙色	粘土	河床粘土が酸化変色し、やや硬化。河床面の可能性あり。
36	2.5Y7/1	灰白色	粘土	φ1 ～ 2㎜の酸化鉄を含むが、酸化面は形成されない。より古い段階の河川堆積層か。
37	2.5Y5/6	黄褐色	砂	ほぼ均一な黄褐色砂で、より古い河川堆積層か。※下位はまた粘土層の可能性有り。

Ⅳ区 河川堆積土層註記表　C-C'

層位	土色		土性	備考
河川－ 1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
河川－ 2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
河川－ 3	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物をやや多く含む。
河川－ 4	2.5Y4/2	灰黄褐色	粗砂	2.5Y6/2 灰黄色シルトを少量含む。
河川－ 5	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりが強く、粘性をやや有する。
河川－ 6	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	酸化鉄を多く含む。
河川－ 7	2.5Y6/2	灰黄色	粗砂	上面に酸化した錆面を有する。
河川－ 8	2.5Y7/1	灰白色	粘土	筒状の酸化鉄が認められる。
河川－ 9	2.5Y6/1	黄灰色	粘土	締まりと粘性を有する。
河川－ 10	2.5Y7/1	灰白色	粘土	締まりと粘性を有する。
河川－ 11	2.5Y3/2	黒褐色	粗砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。
河川－ 12	2.5Y5/1	黄灰色	粘土	層下位に炭化物を多く含む。
河川－ 13	2.5Y6/8	明黄褐色	粗砂	粗砂と 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土が互層状に堆積。層下位には礫が混じる。

第5章　確認調査・河川跡調査の出土遺物

第1節　確認調査の出土遺物（第24図）

確認調査の調査方法と年度別の成果については、第1章第3節において既述した。ここでは確認調査トレンチから出土した遺物について記載する。確認調査トレンチから出土した遺物は、Ⅳ区のトレンチで土師器と須恵器の小片が認められるが、他の地区は僅少である。図示できたのは砥石1点である。

1はⅣ区14トレンチから出土した砥石である。上端部寄りに紐穴と考えられる穿孔が認められ、携帯用の提砥としての使用が推定される。形状は逆角錐形を呈し、長さ5.6cm、幅2.3cm、厚さ2.3cm、重さ49.8gである。正裏左右とも平滑な使用面が確認され、上端から中央に向けて砥ぎ窪む形状を示す。ほぼ完形品と考えられる。

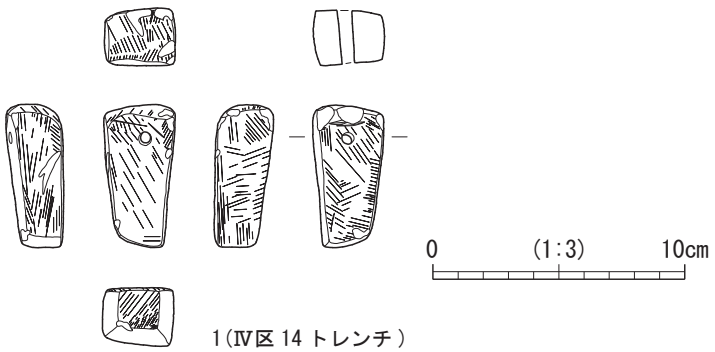
第2節　河川跡調査と出土遺物（第25図）

河川跡の調査はⅡ・Ⅳ・Ⅴ区において実施した。このうちⅡ区では、調査区の中央部に南北方向の下層調査を実施したが、砂層堆積の確認に留まった。

Ⅳ区では、北側に展開する河川跡の肩口を広く平面的に露出させ、郡山官衙期の遺構面が河川の浸食によって失われてしまった状況を明らかとした。また、西側に2ヶ所、中央部に1ヶ所、東側に1ヶ所の河川跡調査区を設定して、河川跡の河床面の有無を探った。その結果、東西部分では砂層内の掘削に留まったが、東西20m、南北15m規模の調査区を設けた中央部では、約4.0～4.2mの深さで酸化した砂礫層が検出され、大規模な河床面が形成されていた状況が明らかになった。

Ⅴ区では東西両端と中央部の3ヶ所に、やはり河川跡調査区を設定して河川跡の堆積土層について深度を探った。調査区域の制約から、Ⅴ区では河床面の存在は確認できなかったが、北側へ急激に落ち込む河川跡の肩口部分は3ヶ所ともに観察できた。これらⅣ区とⅤ区の河川跡の掘り下げ調査に伴って、少量の遺物が出土し、図示できた良好な6点について記載する。Ⅳ・Ⅴ区の河川跡内の堆積土層についての詳細は前章を参照されたい。

1･2は土師器、3～6が須恵器である。1は丸底を呈する土師器坏で、内面にヘラミガキと黒色処理が施され、外面の底部付近にもヘラミガキが施される。2は口縁部の外反が弱く、やや下膨れの胴部を有する土師器甕である。外面調整は胴部上位が縦位ヘラナデ、下位が横方向のヘラケズリである。内面は横位のヘラナデである。3は須恵器瓶である。口縁部は緩やかに外傾し、口縁下端の稜線は弱く長い頸部へ移行する。頸部から胴部には屈曲部

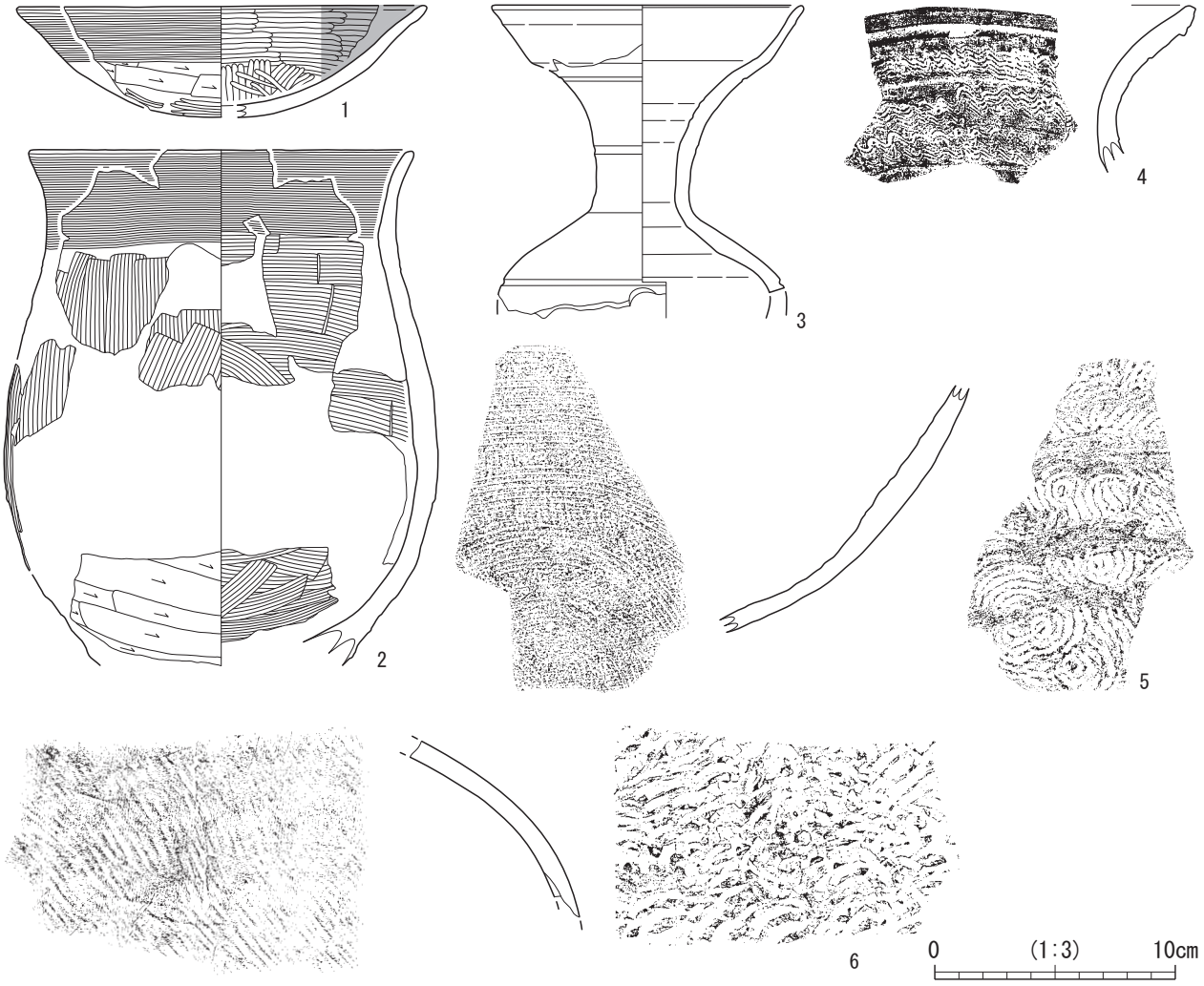


1（Ⅳ区 14 トレンチ）

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
1	Kd-a-01	Ⅳ区	14トレンチ	表土下	石製品	砥石	5.6	2.3	2.3	49.8	デイサイト	略完形　一部剥離　上部中央穿孔1つ 孔径5.0～5.5㎜　提砥	27

第24図　確認調査出土遺物

を有して、肩部に1条の横位沈線がめぐり、沈線直下に注口部が穿孔される。4～6は須恵器甕である。4は口縁部破片で、外面に横位の平行沈線3条がめぐり、折り返し部直下の沈線間には7条1単位の櫛描波状文が横位に一段、下位の沈線間には同種の櫛描波状文が横位に二段めぐらされる。5･6は甕胴部破片で、5は丸底の底部付近、6は肩口付近の小片である。5の外面は細かい格子目叩きののちにロクロナデ、内面は同心円状の叩き具痕跡のあとに、指ナデ状の横位のナデ調整が認められる。6は外面が平行叩き、内面は青海波文である。



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-001	Ⅳ区	河川跡 60Gr.	上層	土師器	坏	口縁～底部 破片	(17.0)	－	(3.9)	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ →底部横位ヘラミガキ	口縁部ヨコヘラミガキ、 体部～底部ヘラミガキ→黒色処理		27
2	C-002	Ⅳ区	河川跡 60Gr.	堆積土	土師器	甕	口縁～胴部 下端 1/2	(16.0)	－	(21.4)	口縁部ヨコナデ、 胴部縦位ヘラナデ・下半横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		27
3	E-001	Ⅳ区	河川跡 74Gr.	堆積土	須恵器	瓶	口縁～胴部 1/2	(13.0)	－	(13.0)	口縁部～胴部ロクロナデ、 胴部中位焼成前穿孔	口縁部～胴部ロクロナデ	自然釉付着	27
4	E-002	Ⅳ区	河川跡	堆積土	須恵器	甕	口縁部 破片	－	－	－	ロクロナデ→櫛描波状文３条	ロクロナデ		27
5	E-003	Ⅳ区	河川跡 60Gr.	堆積土	須恵器	甕	胴部下半 破片	－	－	－	格子目タタキ→ロクロナデ	同心円タタキ		27
6	E-004	Ⅳ区	河川跡 67Gr.	堆積土	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	平行タタキ	青海波文・同心円タタキ		27

第25図　Ⅳ区河川跡出土遺物

第6章　Ⅱ区の検出遺構と出土遺物

第1節　Ⅱ区の本調査（第26・27図）

Ⅱ区の調査は、排土置場の都合により調査区を東西に二分割して本調査を実施した。調査面積は、東側調査区が約850㎡、西側調査区が約340㎡で、合計では約1,190㎡である。

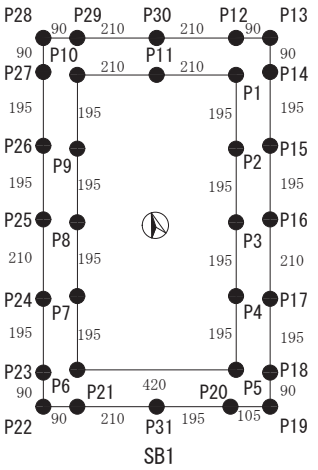
調査面は、中世以降の堆積土である河川堆積土1層上面、同4層上面の2面である。各調査面で検出された遺構の内訳は、河川堆積土1層上面では、掘立柱建物跡1棟、柱穴列4条、溝跡2条、小溝状遺構A群～E群の5群86条、土坑9基、ピット87基、性格不明遺構1基。河川堆積土4層上面では、性格不明遺構4基である。このうち河川堆積土1層上面で検出された小溝状遺構群については、土層断面の観察から基本層Ⅱa層まで立ち上がることが確認されている。

出土遺物には、土師器・須恵器・陶磁器などの小破片や石製品・鉄製品などがみられる。数量的には平箱で約1/3程度と非常に少ない。遺構内からの出土も少なく、小破片であるために時期の詳細については不明なものが多い。

第2節　中世以降の遺構と遺物（第26・28～52図）

(1)掘立柱建物跡（第28図）

今次調査で確認された中世以降の時期とみられる掘立柱建物跡は、Ⅱ区より検出されたSB1の1棟のみである。掘立柱建物跡と明確な重複関係を示す遺構は、SA3柱穴列のみであるが、後述する柱穴列間の重複関係を考慮すると、掘立柱建物跡よりも柱穴列が新しい遺構と判断される。



SB1　掘立柱建物跡（第28図）

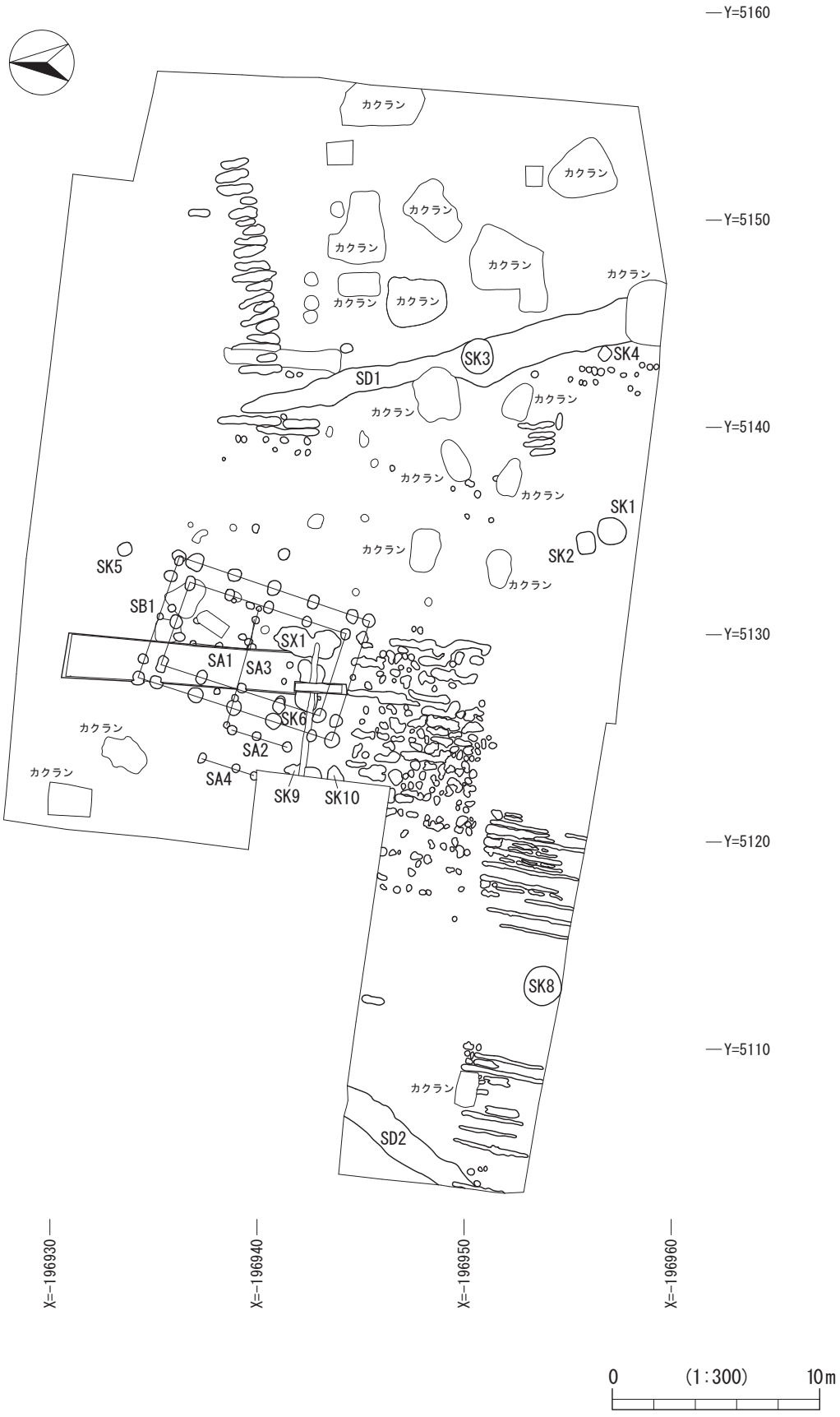
調査区のほぼ中央にあり、16・22～25グリッドに位置する。建物跡は、SA3に柱穴の一部が壊されている。またSK6・SX1とも重複関係が認められるが、直接的な切り合いがないため新旧関係に関しては不明である。

建物跡は河川堆積土1層上面で確認され、総数31基の柱穴から構成される。柱穴の配列から平面形式は、桁行4間×梁行2間を身舎とする南北棟側柱建物跡と考えられ、また身舎の四面には廂を有する。桁行方向を基準とした主軸方位は、N-18°-Eである。

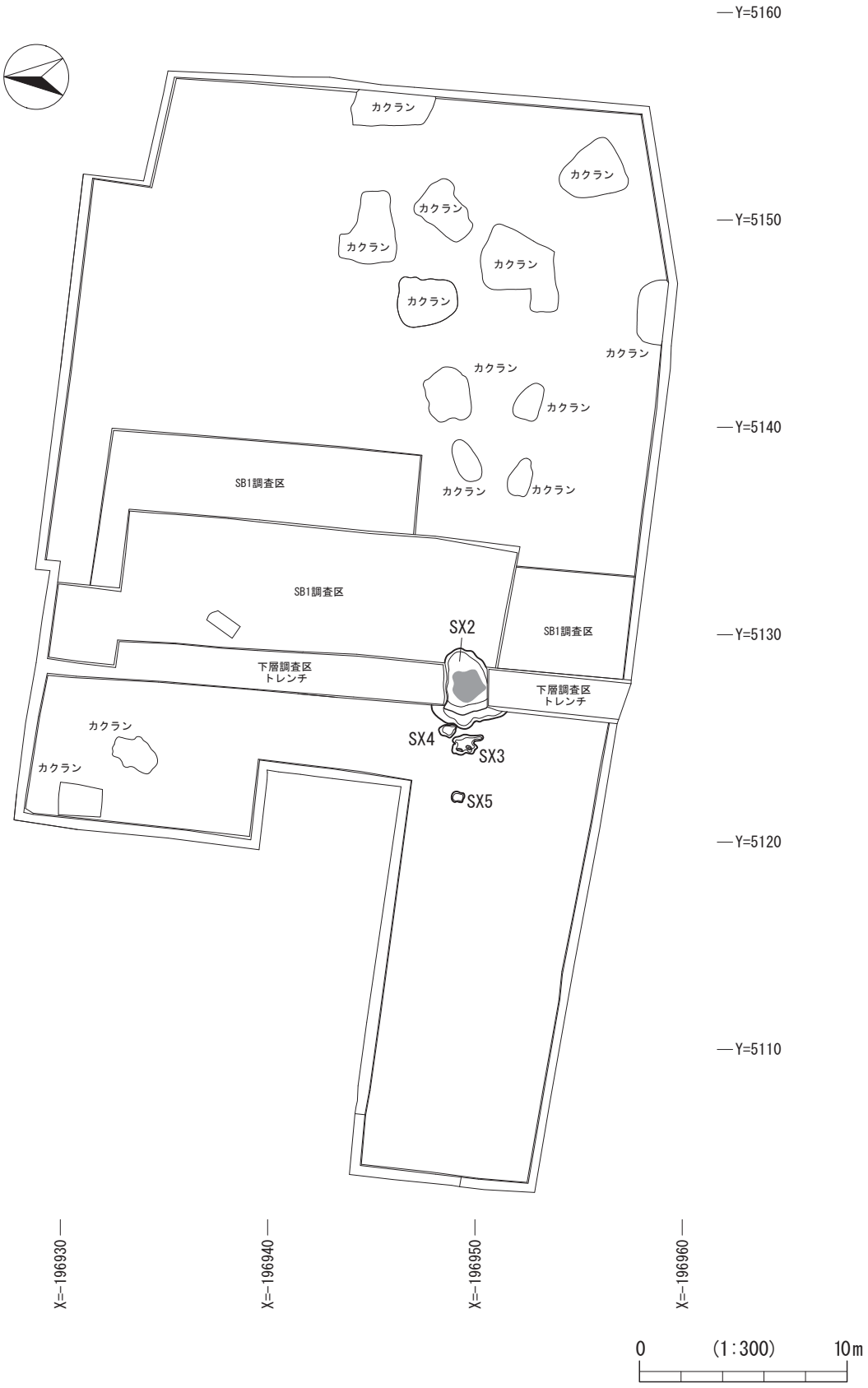
規模は桁行総長780㎝、梁行総長420㎝を測り、心々部分の床面積は32.8㎡、廂部分を加えると44.1㎡となる。柱間寸法は、桁行では東西両柱列ともに195㎝等間を測る。梁行方向では、南妻柱列の間柱が未検出であるが、北妻柱列との対応関係を考慮すると、南北両柱列ともに210㎝等間に収まると考えられる。廂は桁行両柱列で南北に90㎝、梁行両柱列では東西に90㎝の位置に設けられている。

柱穴の平面形は楕円形ないしは円形を基本形とするが、歪みの大きいものや隅丸方形を呈するものなどもみられる。各柱穴の掘り方規模は、梁行南北両廂の間柱（P30・P31）が径30㎝前後、深さ15㎝内外とやや小振りであることを除くと、径50～80㎝の範囲内に収まり、検出面からの深さは30～60㎝を測る。P1～P12・P15～P17・P19・P21・P23～P26の計21ヶ所では、土層断面で柱痕跡が確認されている。また廂部分のP13・P19～P22の5ヶ所では礎石が検出され、このうちP19・P20・P21では柱痕跡の上に礎石が確認されている。このような状況を踏まえると、建物の建て替えが行われていたことを示すものと考えられる。

堆積土には若干の色調差はみられるが、概ねオリーブ褐色シルトを主体としている。層中には灰白色シルト塊や砂粒が多く含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。



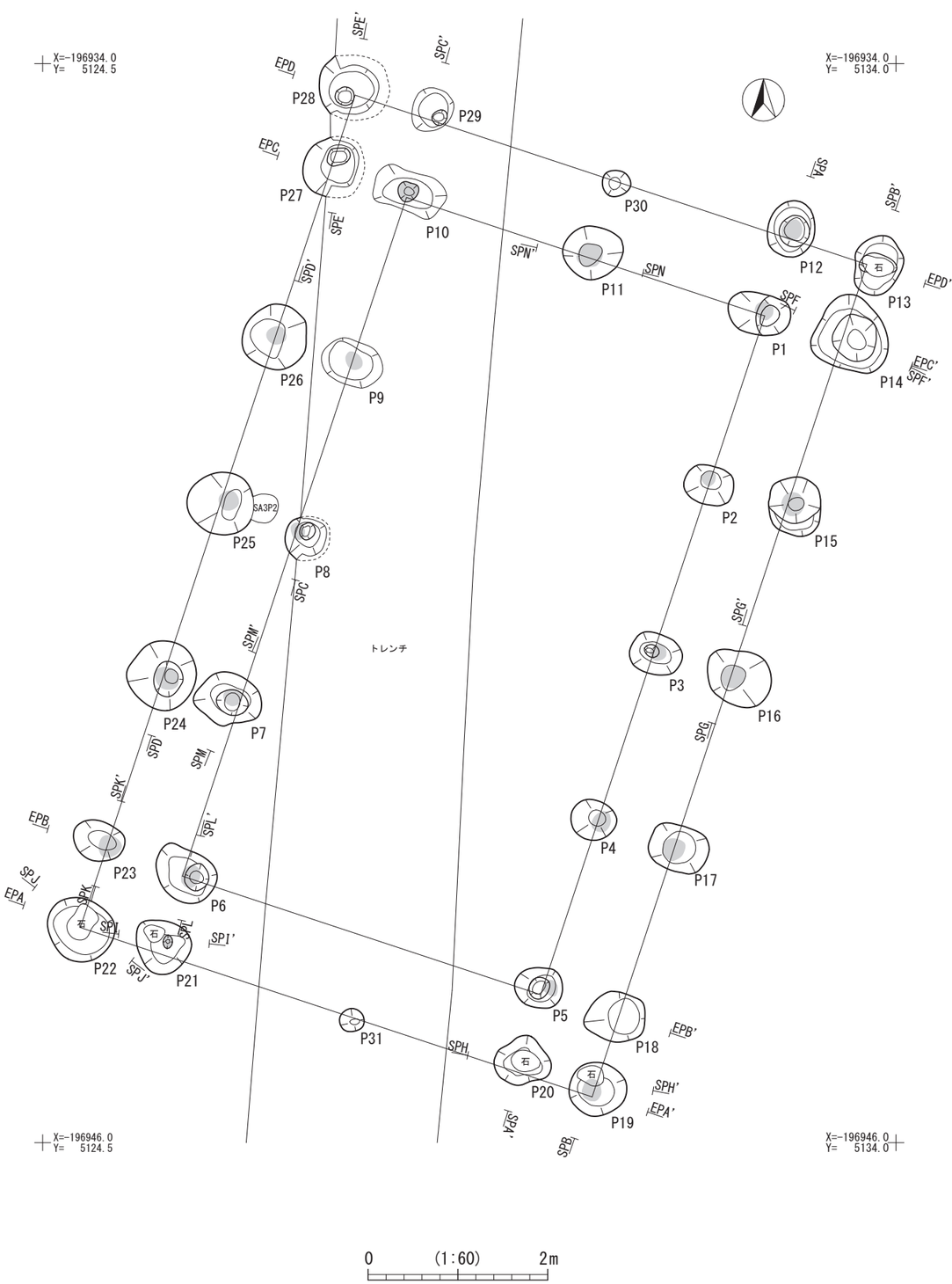
第２６図　Ⅱ区遺構配置図（河川堆積土１層上面）

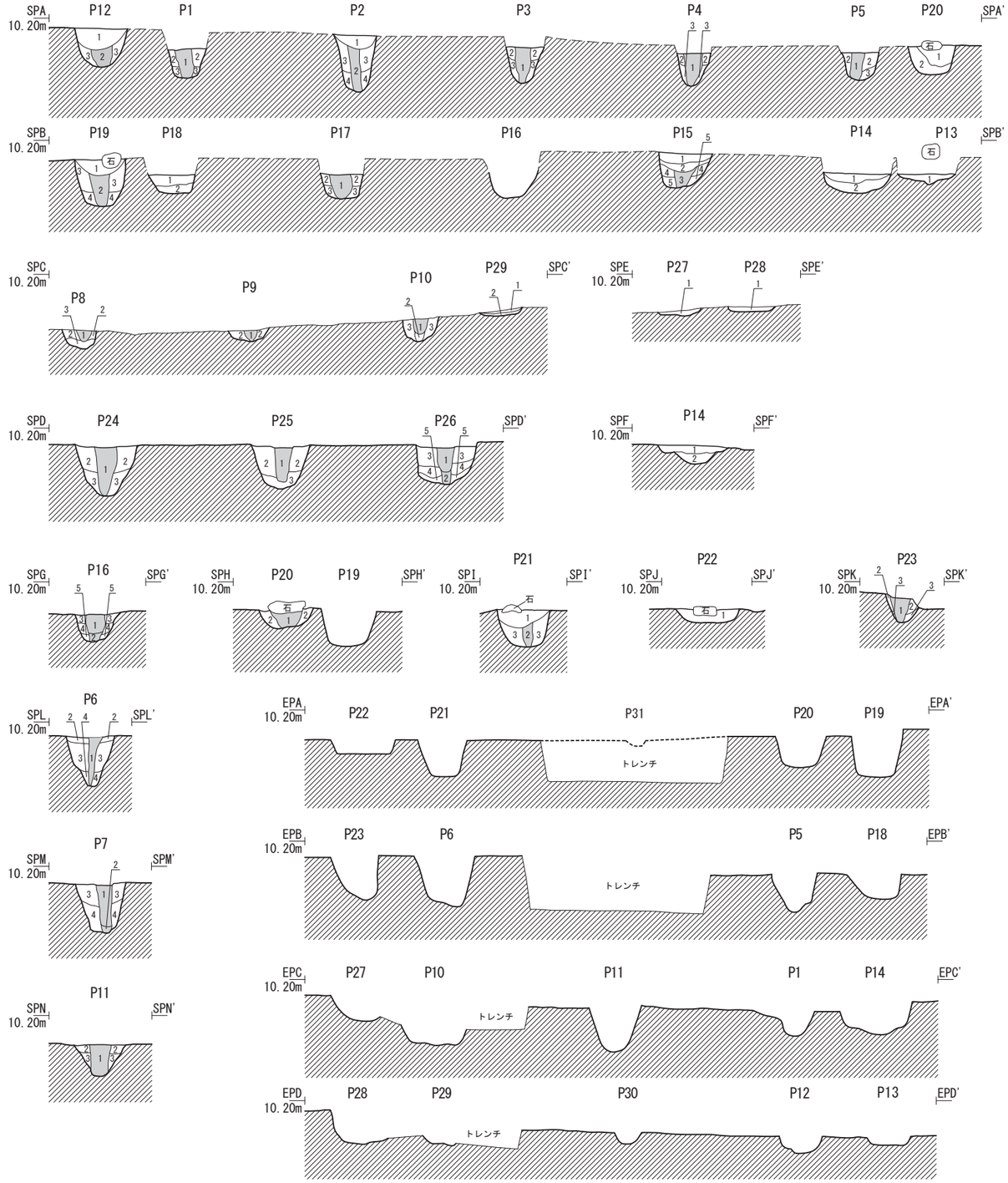


第２７図　Ⅱ区遺構配置図（河川堆積土４層上面）

SB1掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	16	楕円形	172 × 46	49	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
					3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
P2	16	楕円形	62 × 43	57	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒が混じる。	
					4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P3	17	楕円形	59 × 45	52	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒が混じる。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P4	17	円形	52 × 46	48	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒が混じる。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P5	17・24	円形	54 × 45	34	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P6	24	楕円形	72 × 57	57	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色の粗砂を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
					4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
P7	24	楕円形	76 × 62	54	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	Pit104→SB1P7
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、粗砂を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
					4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
P8	23	（円形）	（46 × 43）	63	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1cm前後の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P9	23	楕円形	71 × 51	8	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P10	23	隅丸方形	78 × 44	16	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P11	16	円形	67 × 62	52	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、粗砂を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
					3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
P12	16	円形	59 × 53	33	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ3 ～ 5㎜の 2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。柱痕跡。	
					3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
P13	16	円形	58 × 54	37	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	SB1P13→Pit70
P14	16	円形	85 × 83	47	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。	
					2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
P15	16	円形	67 × 59	33	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ3 ～ 5㎜の 2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒混じる。	
					5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P16	17	円形	78 × 54	30	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、粗砂を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒が混じる。	
					4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
					5	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色粗砂粒を少量含む。	
P17	17	隅丸長方形	67 × 52	45	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒混じる。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P18	17	隅丸長方形	70 × 58	26	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒が混じる。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P19	18	円形	65 × 56	35	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、砂粒混じる。	
					4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P20	17・18 24・25	円形	64 × 56	27	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜ の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。礫石 1。	SB1P20→Pit39
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P21	24	円形	66 × 60	37	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					3	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色の粗砂を少量含む。	
P22	24	円形	76 × 70	33	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
P23	24	楕円形	60 × 46	50	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色の粗砂を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P24	24	円形	76 × 74	55	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色の粗砂を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
P25	23	円形	75 × 70	51	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	SB1P25→SA3P2
					3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	





第２８図　Ⅱ区ＳＢ１掘立柱建物跡

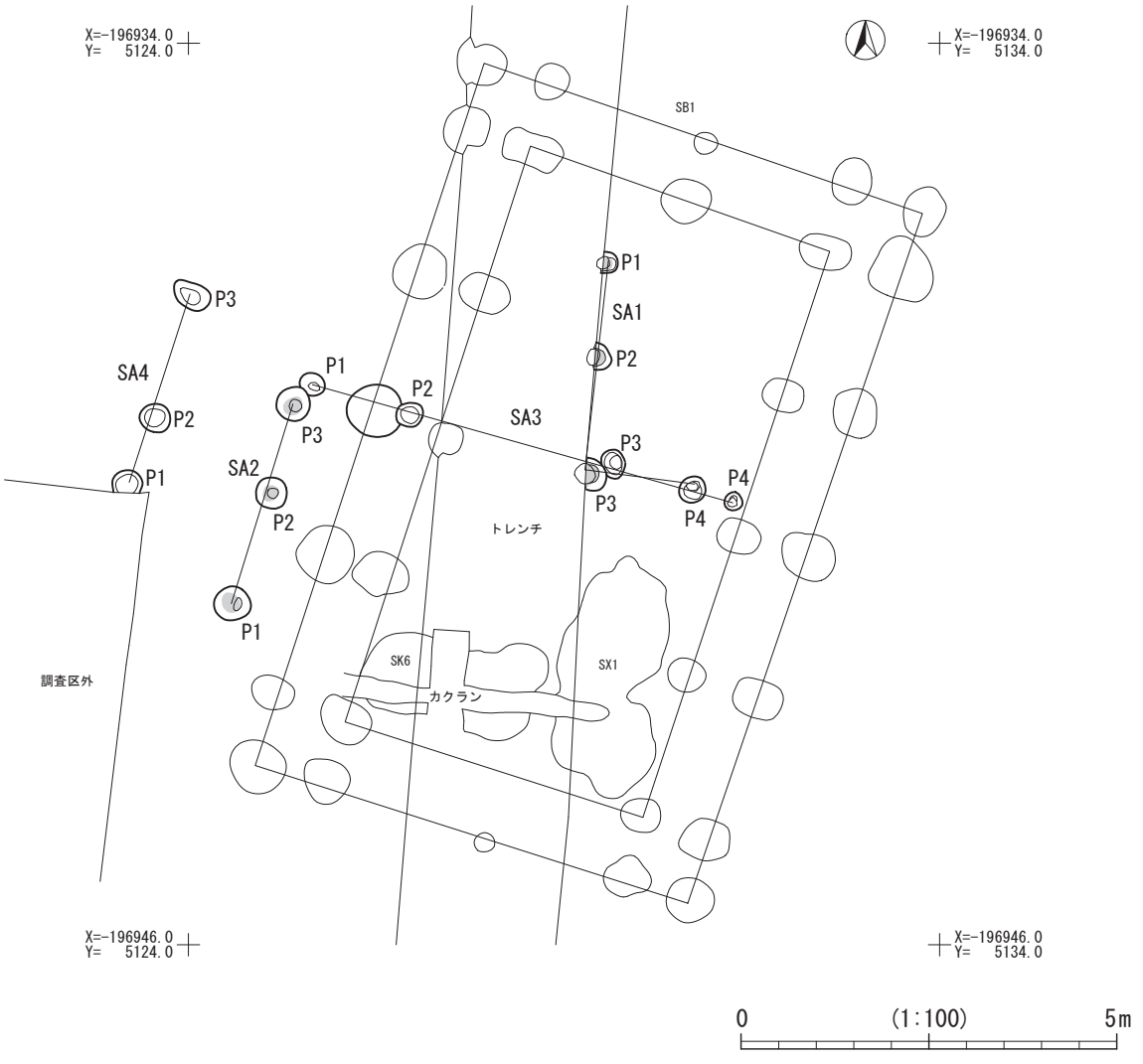
SB1掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P26	23	円形	73 × 72	50	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、粗砂を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含み、粗砂が少量混じる。	
					4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含み、粗砂が少量混じる。	
					5	10YR4/4	褐色	砂質シルト	砂粒をやや多く含む。	
P27	22・23	（円形）	（60 × 52）	40	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P28	22	（円形）	（67 × 56）	36	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P29	22	円形	52 × 46	17	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1cm前後の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含み、砂粒が少量混じる。	
P30	16	円形	32 × 29	15	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含み、粗砂が微量混じる。	
P31	24	円形	27 × 26	7	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	

(2)柱穴列（第29 ～ 34図）

Ⅱ区において4条の柱穴列を検出した。調査段階では、SA3･SA4の2条については各々単独のピットとして扱っていたが、ピットの配列や礎石・柱痕跡の有無などから、柱穴列として抽出するに至った。

柱穴列は、河川堆積土1層上面において検出された。遺構間の重複関係では、SA4を除く3条でSB1掘立柱建物跡との先後関係が確認され、いずれもSB1よりも新しいことが明らかになった。以下、各遺構ごとに詳述する。



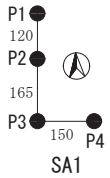
第２９図　Ⅱ区ＳＡ１～４柱穴列配置図

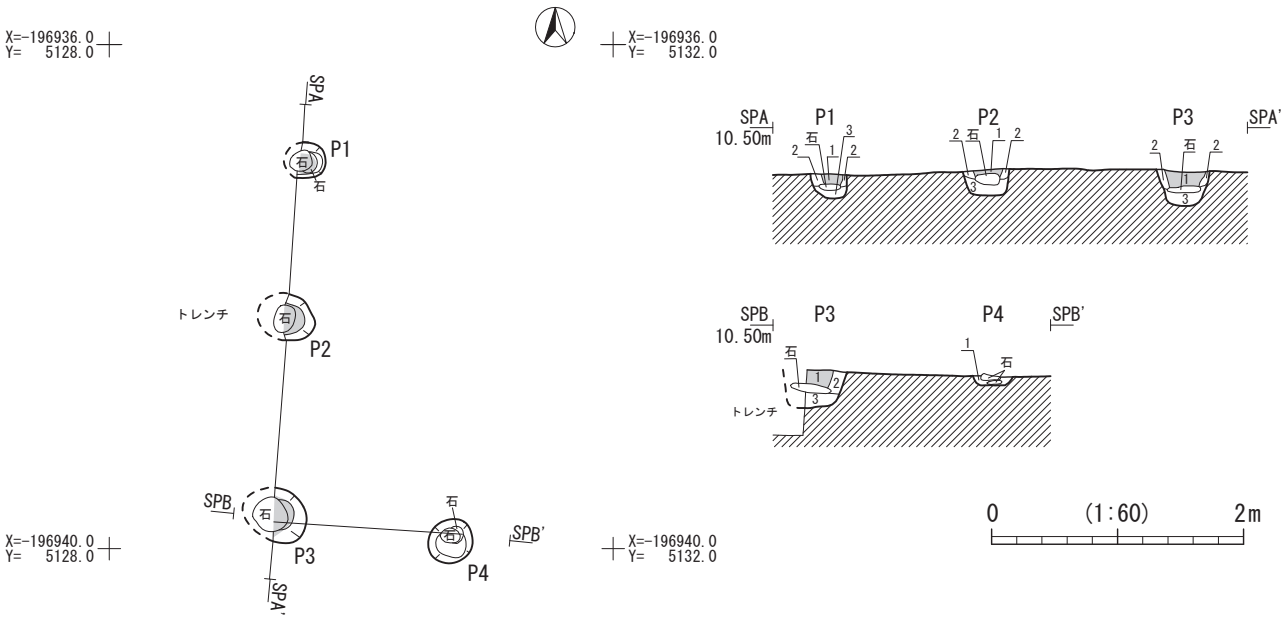
SA１　柱穴列（第30・31図）

調査区のほぼ中央、16・17・23グリッドに位置する。柱穴は4基確認され、このうちP3がSA3P3の一部を壊している。柱穴列は、南北2間×東西1間のL字形に展開する。規模は南北285㎝、東西140㎝を測り、南北列を基準とした主軸方位は、N-5°-Eである。

柱穴間の距離は、南北列ではP1-P2間が120㎝、P2-P3間が165㎝を測り、東西列ではP3･P4間が150㎝を測る。柱穴の平面形は円形を基本形とし、各柱穴からは礎石が検出されている。柱穴の規模は径30 ～ 45㎝、検出面からの深さは10 ～ 22㎝である。

堆積土は概ねオリーブ褐色シルトを主体とし、層中には灰白色シルト塊が含まれる。出土遺物としては、P3の堆積土中より角釘が2点出土している。

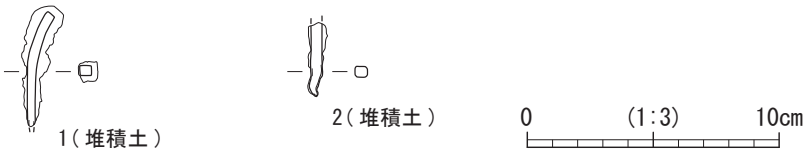




SA１柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
P1	23	（円形）	－× 30	13	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礎石 1。	
P2	23	（円形）	－× 37	22	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礎石 1。	
P3	23	（円形）	－× 43	22	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	SA3P3→SA1P3
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礎石 1。	
P4	16・17	円形	38 × 35	10	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。礎石 2。	

第３０図　Ⅱ区ＳＡ１柱穴列

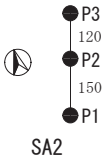


図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	特徴・備考	写真図版
1	N-03	Ⅱ区	SA1P3	3 層	金属製品	釘	(4.7)	(0.4)	(0.4)	6.47	角釘？	27
2	N-04	Ⅱ区	SA1P3	3 層	金属製品	釘	(2.9)	0.4	0.4	1.74	頭部欠損	27

第３１図　Ⅱ区ＳＡ１柱穴列出土遺物

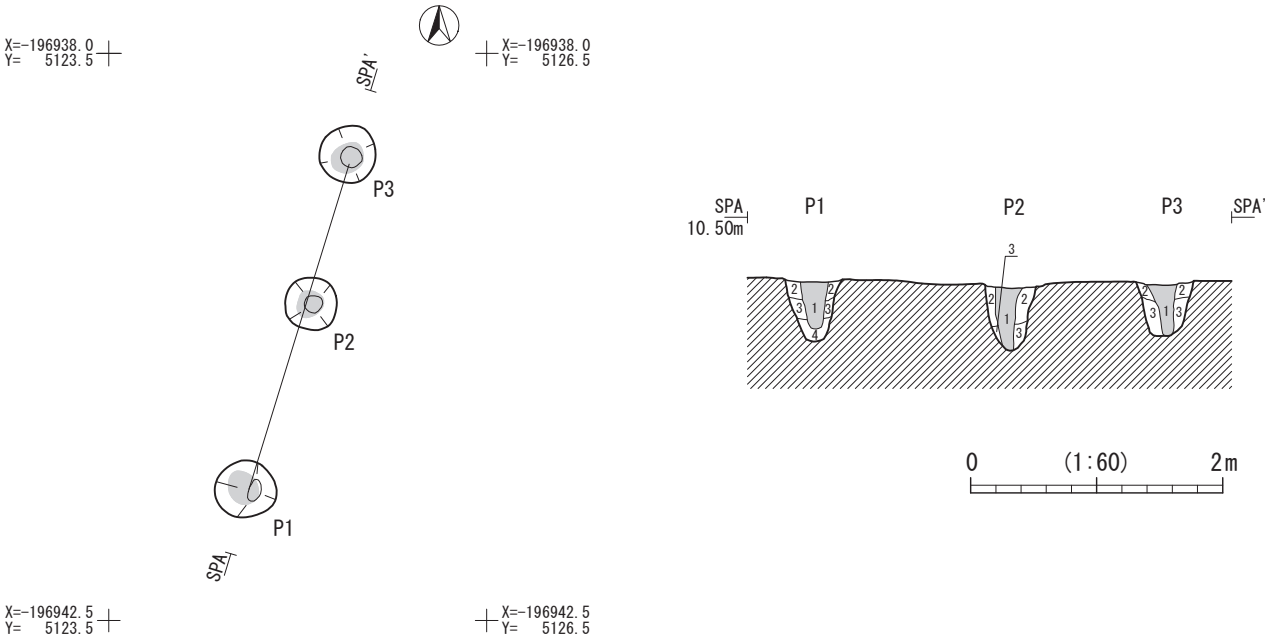
SA2　柱穴列(第32図)

調査区のほぼ中央、23・24グリッドに位置する。北東－南西方向に直線的に並ぶ3基の柱穴を柱穴列と判断し、SA2とした。遺構間の重複関係では、SA2のP3がSA3のP1をわずかに壊している。柱穴列の総長は270cmを測り、主軸方位はN-16°-Eである。



柱穴間の距離は、P1-P2間が150cm、P2-P3間が120cmを測る。柱穴の平面形は概ね円形を基本形とし、各柱穴からは柱痕跡が確認されている。柱穴の規模は径40 ～ 50cmを測り、検出面からの深さは50 ～ 54cmである。

堆積土はオリーブ褐色シルトを主体とし、層中には灰白色シルト塊ないしは褐灰色シルト塊が含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。



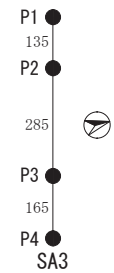
SA2柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
P1	24	円形	50 × 46	54	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色粗砂粒を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く、粗砂粒を少量含む。	
					4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量、粗砂粒を少量含む。	
P2	23・24	円形	42 × 42	52	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色粗砂粒を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く、粗砂粒を少量含む。	
P3	23	円形	48 × 46	49	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を微量、10YR6/1 褐灰色粗砂粒を含む。	SA3P1→SA2P3
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く、粗砂粒を少量含む。	

第３２図　Ⅱ区ＳＡ２柱穴列

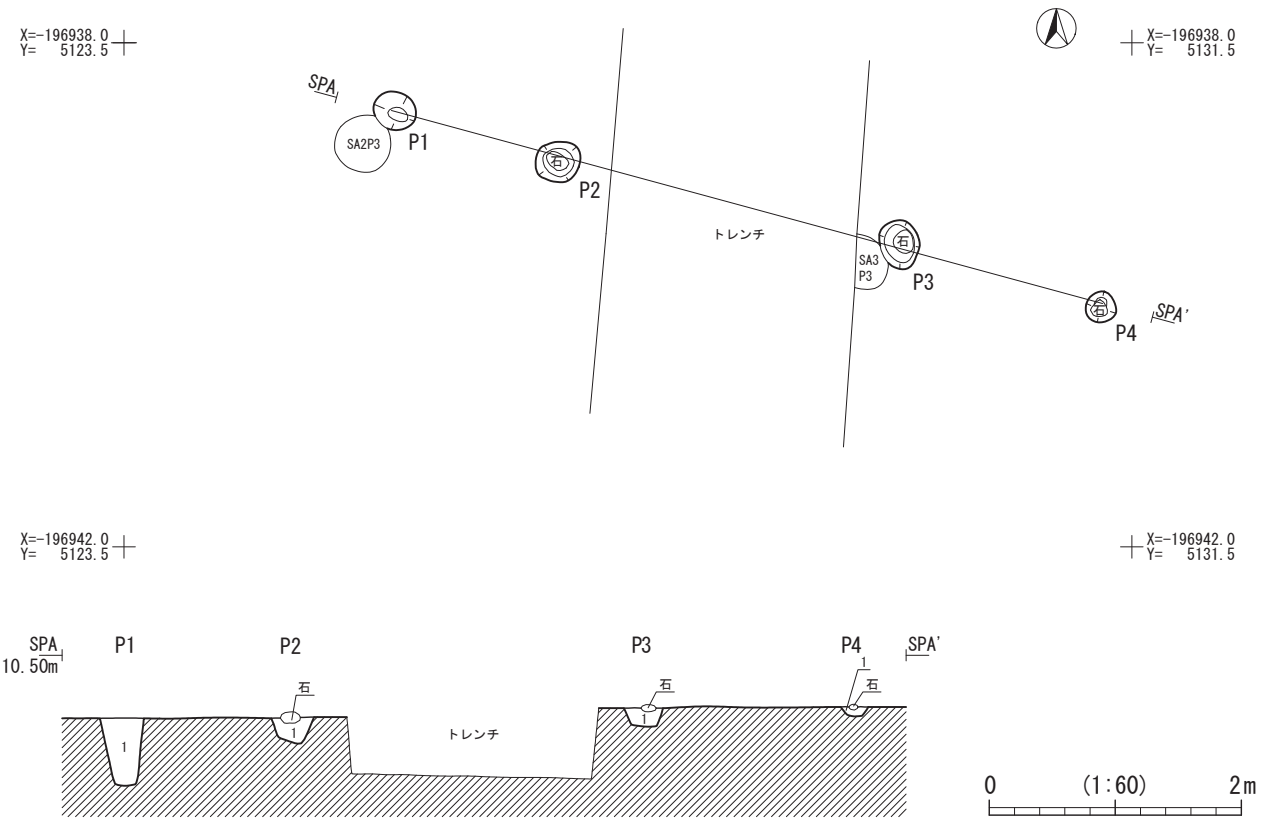
SA3　柱穴列(第33図)

調査区のほぼ中央、16・17・23グリッドに位置する。北西－南東方向に並ぶ4基の柱穴を柱穴列と判断し、SA3とした。SA3のP1がSA2のP3、SA3のP3がSA1のP3と重複関係にあり、SA1・2柱穴列よりも古い。柱穴列の総長は580cmを測り、主軸方位はN-75°-Wである。



各柱穴間の距離は、P1-P2間が135cm、P2-P3間が285cm、P3-P4間が165cmである。柱穴の平面形は、円形ないしは楕円形を基本形とする。柱穴の規模は、径35 ～ 48cm、検出面からの深さは12 ～ 42cmを測る。深度の浅いP2 ～ P4からは礎石が確認されている。

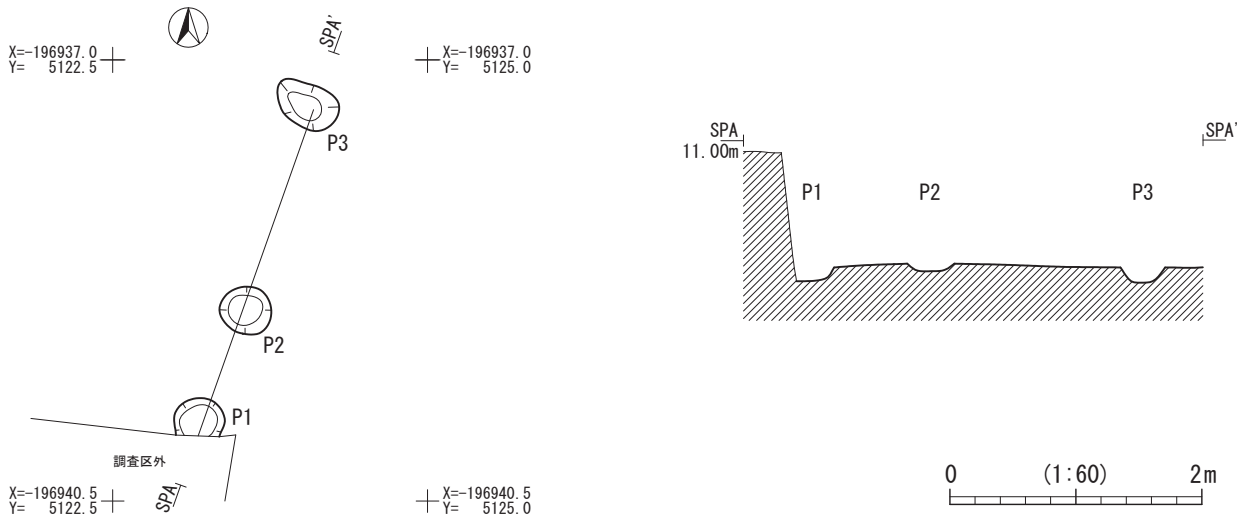
堆積土は概ねオリーブ褐色砂質シルトを主体とし、層中には灰白色シルト塊が含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。



SA３柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	23	円形	35 × 31	42	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く、粗砂を少量含む。	SA3P1→SA2P3
P2	23	楕円形	38 × 32	21	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。礎石 1。	SB1P25→SA3P2
P3	23	楕円形	48 × 32	14	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。礎石 1。	SA3P3→SA1P3
P4	16・17	円形	42 × 32	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礎石 1。	

第３３図　Ⅱ区ＳＡ３柱穴列



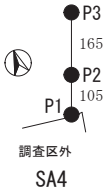
SA４柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	23	（円形）	41 × －	12	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P2	23	円形	40 × 38	9	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
P3	23	楕円形	53 × 35	14	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	

第３４図　Ⅱ区ＳＡ４柱穴列

SA４　柱穴列（第34図）

調査区中央のほぼ中央、23グリッドに位置する。直線上に並ぶ3基の柱穴を柱穴列と判断し、SA４とした。南端のP1が調査区の境界にかかるため、南側に展開する可能性もある。柱穴列の総長は165㎝を測り、主軸方位はN-20°-Eである。柱穴間の距離は、P1-P2間が100㎝、P2-P3間が165㎝を測る。柱穴の平面形は、円形ないしは楕円形を基本形とする。柱穴の規模は径40～53㎝を測り、検出面からの深さは9～14㎝である。



堆積土は褐色砂質シルトを主体とし、層中には灰白色シルト塊が含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。

(3)溝跡（第35・36図）

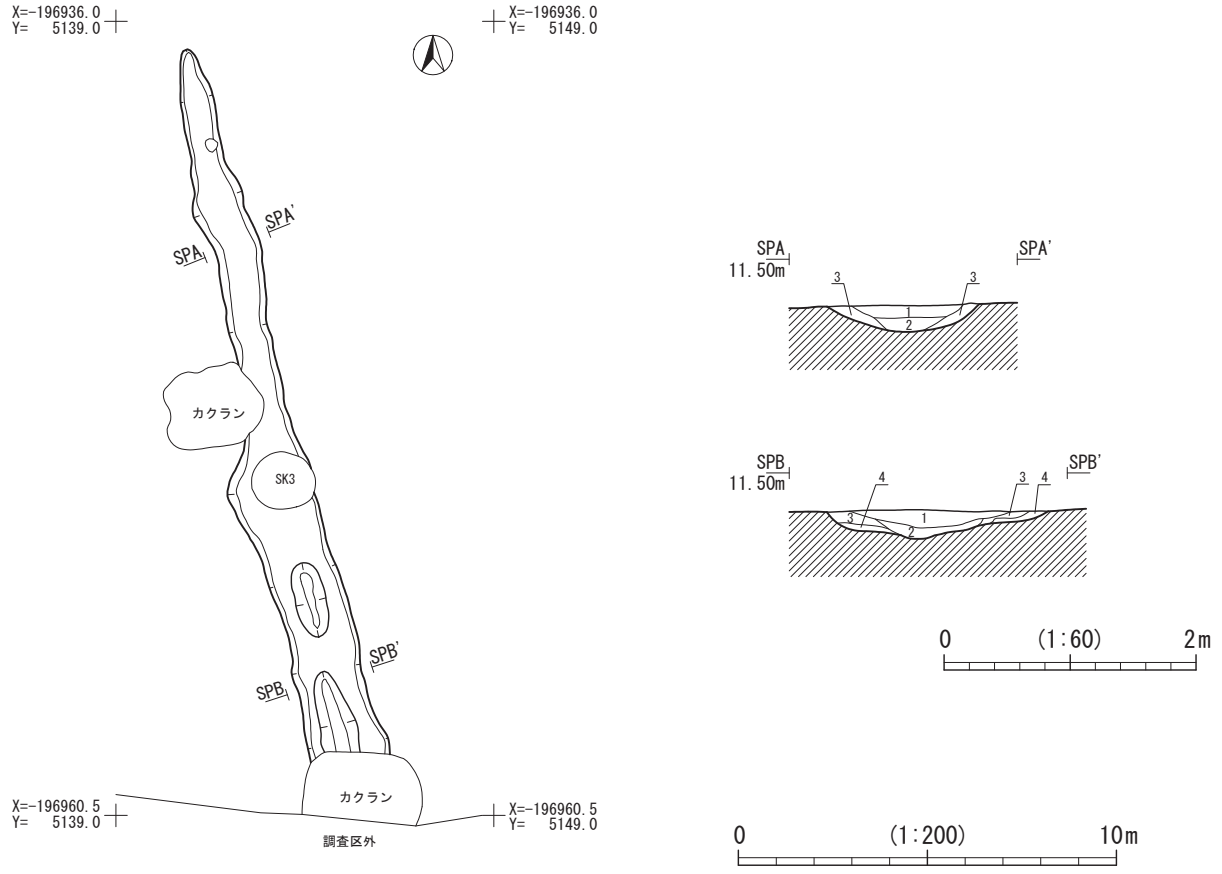
Ⅱ区では2条の溝跡を確認した。いずれの溝跡も調査区外へ伸びており、部分的な検出であるために全容は掴めていない。以下、各溝ごとに詳述する。

SD１　溝跡（第35図）

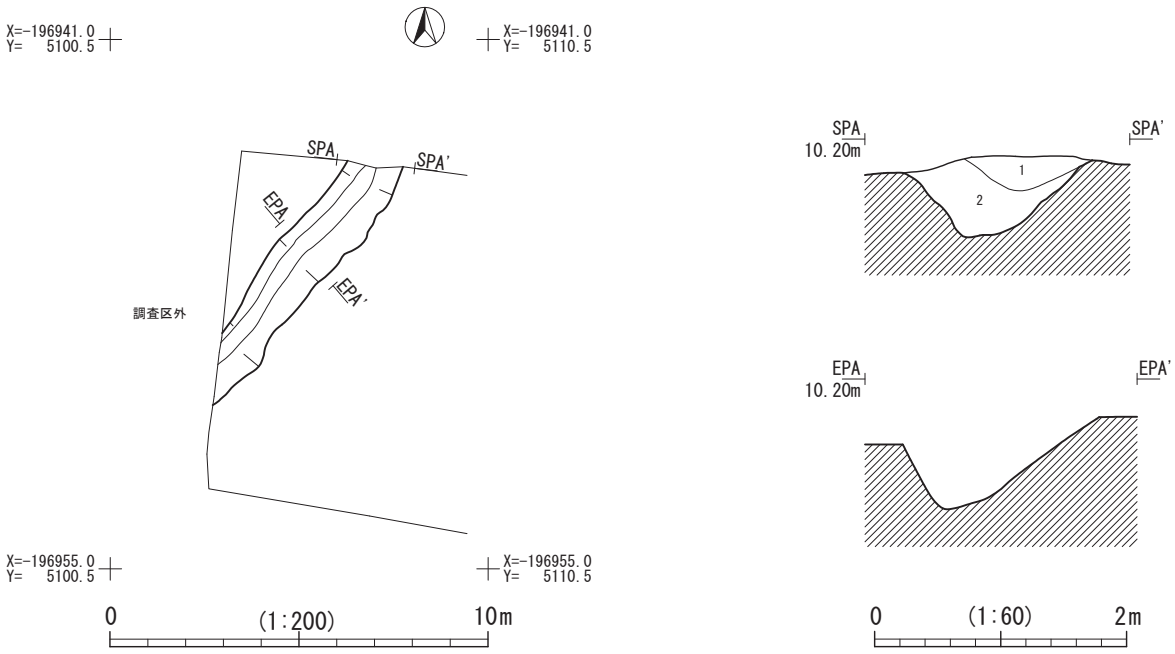
調査区中央よりやや東側に位置し、9～13グリッドにかけて検出された。遺構は河川堆積土1層上面で確認された。SK3と重複関係にあり、SD1溝跡の方が古い。また溝の南側は調査区外に伸びているため、遺構の全容は掴めていない。溝跡は北西－南東方向に直線的に走向し、主軸方位はN-13°-Wである。

検出された範囲内で溝跡の規模を示すと、長さは1920㎝、上端幅は最小で88㎝、最大で212㎝、下端幅は最小で60㎝、最大で134㎝を測り、検出面からの深さは15～24㎝である。溝跡は、北から南にかけて緩やかに傾斜しており、両端部の比高差は15㎝である。断面形は皿状を基本形とし、底面は比較的平坦である。

堆積土は大きく4層に区分される。概ね黄褐色シルトを主体とするが、底面のみやや灰色みが増す。堆積土中からは陶器の擂鉢の小破片が1点出土しているが、掲載はしていない。



第３５図　Ⅱ区ＳＤ１溝跡



第36図　Ⅱ区SD2溝跡

SD1・2溝跡　観察表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				検出長	上端幅	下端幅	深さ						
SD1	Ⅱ区	9～13	N-13°-W	1920	88～212	60～184	24	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	SD1→SK3
								2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
								3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
								4	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	締まりが弱く、粘性を有する。	
SD2	Ⅱ区	33～35	N-38°-E	640	112～162	32～46	73	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。	
								2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粗砂	締まりが弱く、粘性がほとんどない。	

SD2　溝跡（第36図）

調査区の西壁際に位置し、33～35グリッドにかけて検出された。遺構は河川堆積土1層上面で確認された。遺構の両端が調査区外に伸びているため、全容については把握できていない。溝跡は検出された範囲内では北東－南西方向に直線的に伸びており、主軸方位はN-38°-Eである。

検出された範囲内で溝跡の規模を示すと、長さは640cm、上端幅は112～162cm、下端幅は32～46cmを測り、検出面からの深さは73cmである。断面形は逆台形を基本形とするが、東側の壁は大きく開きながら立ち上がる。溝内には粒子の粗い砂が堆積する。堆積土中から遺物は出土していない。

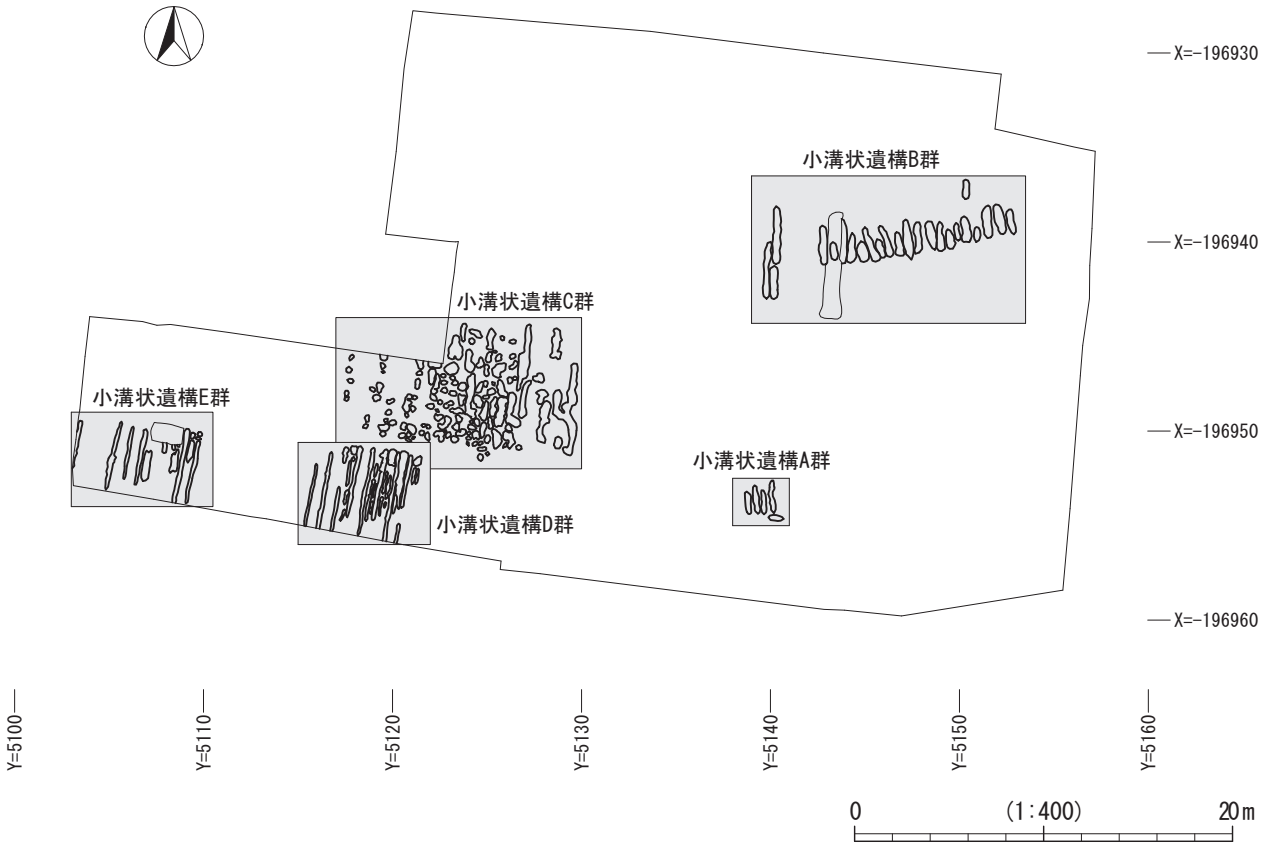
(4)小溝状遺構群（第37～42図）

Ⅱ区において確認された小溝状遺構は、合計86条を数える。遺構は河川堆積土1層上面で検出されたが、調査区壁面の断面観察からⅡa層まで立ち上がることが確認された。そのため、小溝状遺構群は掘立柱建物跡や柱穴列・溝跡などより新しい遺構と考えられる。各溝の方向性や纏まりからA～E群の5群に大別された。堆積土には若干の色調差はみられるが、概ね褐色砂質シルトを主体とする。層中には灰白色シルト塊及び黄褐色シルト塊が多く含まれる。堆積土中からは土師器や陶磁器などが出土したが、いずれも破片資料であり、図示し得る遺物はなかった。以下、各群ごとに詳述する。

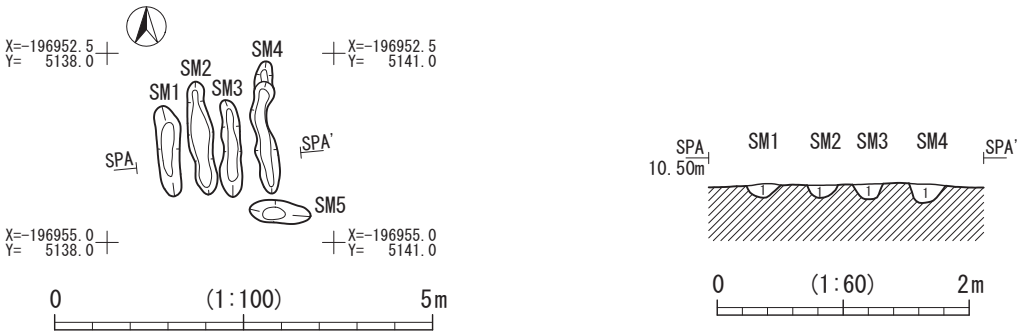
小溝状遺構A群（第38図）

調査区中央やや南寄りに位置し、12・19グリッドより検出された。小溝状遺構A群は、SM1～SM5の5条より構成される。主軸方位は概ねN-3～8°-Wである。規模は検出長で80～174cm、上端幅は22～32cmを測り、検出面からの深さは10～13cmである。

堆積土は黄褐色砂質シルトを主体とする。各溝の堆積土中から遺物は出土していない。



第３７図　Ⅱ区小溝状遺構Ａ～Ｅ群配置図



小溝状遺構Ａ群　観察表

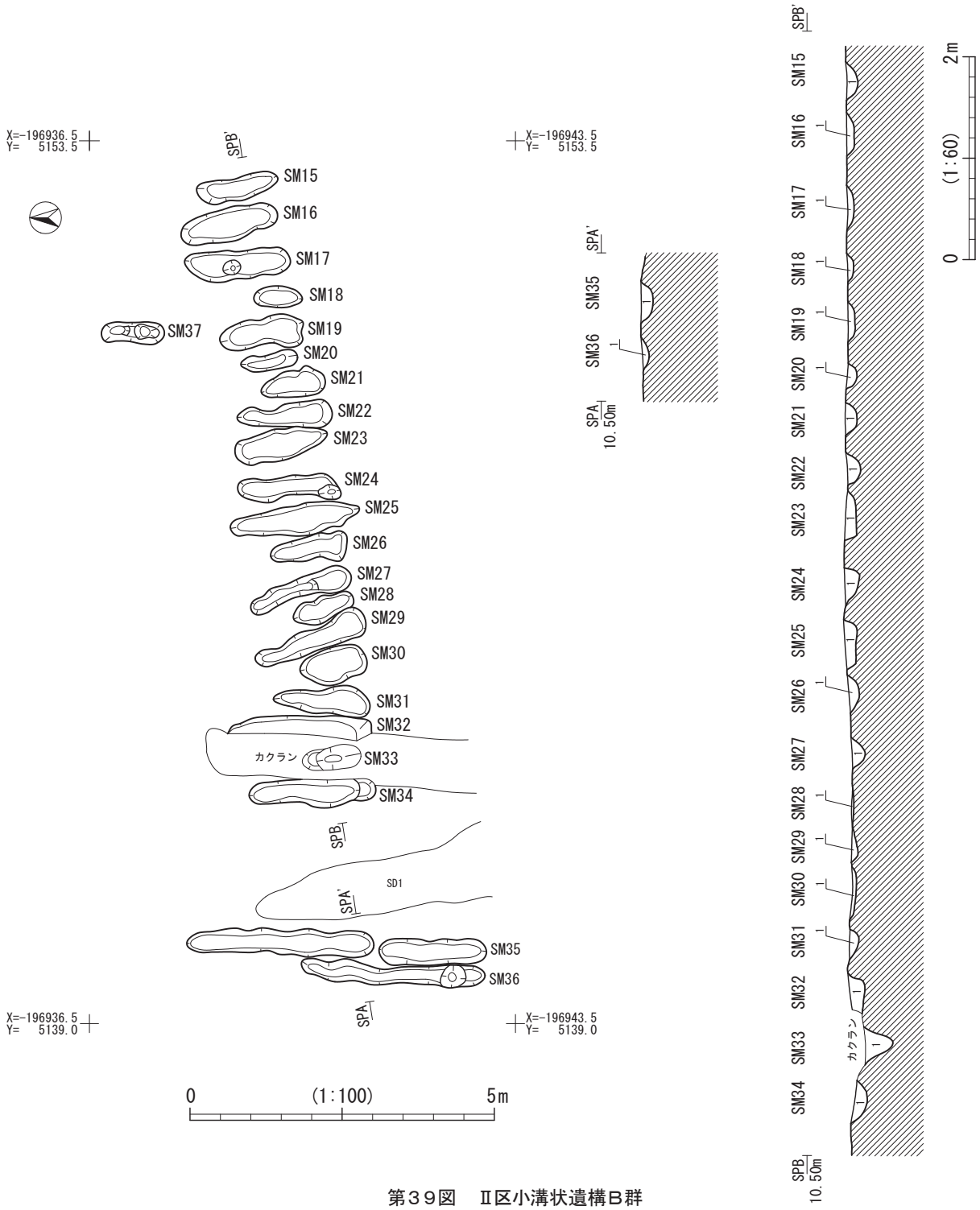
遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM1	19	N-8° -W	120 × 28	13	1	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
SM2	19	N-7° -W	150 × 32	10	1	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
SM3	19	N-4° -W	128 × 22	13	1	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
SM4	12	N-3° -W	174 × 22	13	1	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
SM5	12・19	N-85° -W	80 × 32	11	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	

第３８図　Ⅱ区小溝状遺構Ａ群

小溝状遺構Ｂ群（第39図）

調査区の北東寄りに位置し、2・3・9・10・17グリッドより検出された。小溝状遺構Ｂ群は、SM15 ～ SM37の23条より構成される。主軸方位はN-6°-E ～ N-22°-Wである。規模は検出長で80 ～ 305cm、上端幅は24 ～ 61cmを測り、検出面からの深さは7 ～ 31cmである。

堆積土は褐色砂質シルトを主体とし、層中には灰白色シルト塊及び黄褐色シルト塊が微量含まれる。出土遺物としては、SM33より陶器の小破片1点と土師器の小破片1点、SM36より土師器の小破片1点が出土している。



第３９図　Ⅱ区小溝状遺構Ｂ群

小溝状遺構Ｂ群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM15	2	N-12° -W	134 × 38	12	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM16	2	N-14° -W	162 × 56	7	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM17	2	N-9° -W	172 × 45	13	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM18	2	N-1° -W	80 × 36	13	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM19	2・3	N-7° -W	142 × 40	11	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM20	2・9	N-9° -W	94 × 24	13	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM21	9・10	N-11° -W	106 × 43	13	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM22	9・10	N-3° -W	156 × 25	17	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM23	9・10	N-13° -W	156 × 54	13	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM24	9・10	N-3° -W	162 × 30	8	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM25	9・10	N-9° -W	214 × 52	10	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM26	9・10	N-9° -W	130 × 47	15	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM27	9・10	N-21° -W	173 × 26	9	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM28	9・10	N-21° -W	105 × 38	10	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM29	9・10	N-22° -W	193 × 24	7	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM30	9・10	N-15° -W	106 × 61	10	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	

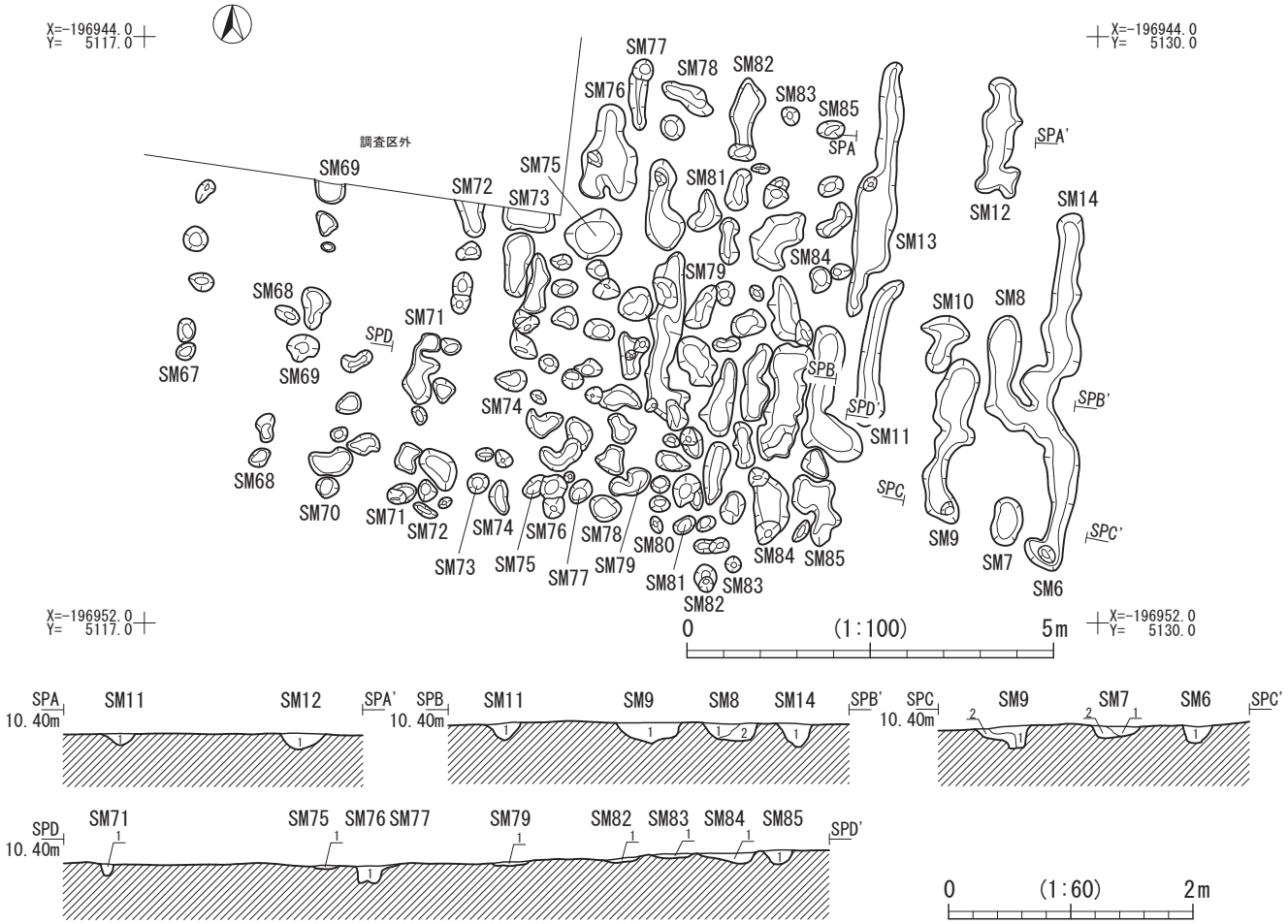
小溝状遺構B群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM31	9・10	N-6° -E	158 × 37	12	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM32	9・10	N-2° -E	236 × −	17	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM33	9・10	N-7° -W	96 × 39	31	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM34	9・10	N-3° -W	208 × 35	18	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM35	9・10・17	N-2° -E	495 × 35	11	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM36	10・17	N-4° -E	305 × 26	16	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM37	2	N-1° -W	103 × 32	25	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	

小溝状遺構Ｃ群（第40図）

調査区中央よりやや西側に位置し、24 ～ 26・30・31グリッドより検出された。小溝状遺構C群は、SM6 ～ SM14・SM67 ～ SM86の29条より構成されるが、西側については上面の削平が著しく、列状に並ぶピット群を小溝状遺構の残存として捉えることとした。主軸方位はN-2 ～ 13°-Eである。規模は検出長で66 ～ 706cm、上端幅は14 ～ 67cmを測り、検出面からの深さは6 ～ 22cmである。

堆積土は褐色～暗オリーブ褐色砂質シルトを主体とする。遺物はいずれも小破片ではあるが、SM6より土師器坏が1点、SM9より土師器甕が1点、SM10より磁器製の山水土瓶が1点出土している。



第４０図　Ⅱ区小溝状遺構Ｃ群

小溝状遺構Ｃ群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM6	25・26	N-9° -E	188 × 24	15	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM7	26	N-5° -E	66 × 42	11	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
SM8	25	N-5° -E	142 × 46	13	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
SM9	25・26	N-9° -E	220×20～52	17	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
SM10	25	N-13° -E	80 × 27	12	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM11	25	N-9° -E	200 × 26	13	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM12	24・25	N-4° -E	153 × 29	11	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM13	24・25	N-7° -E	352×19～56	6	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM14	25	N-9° -E	317 × 28	13	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	

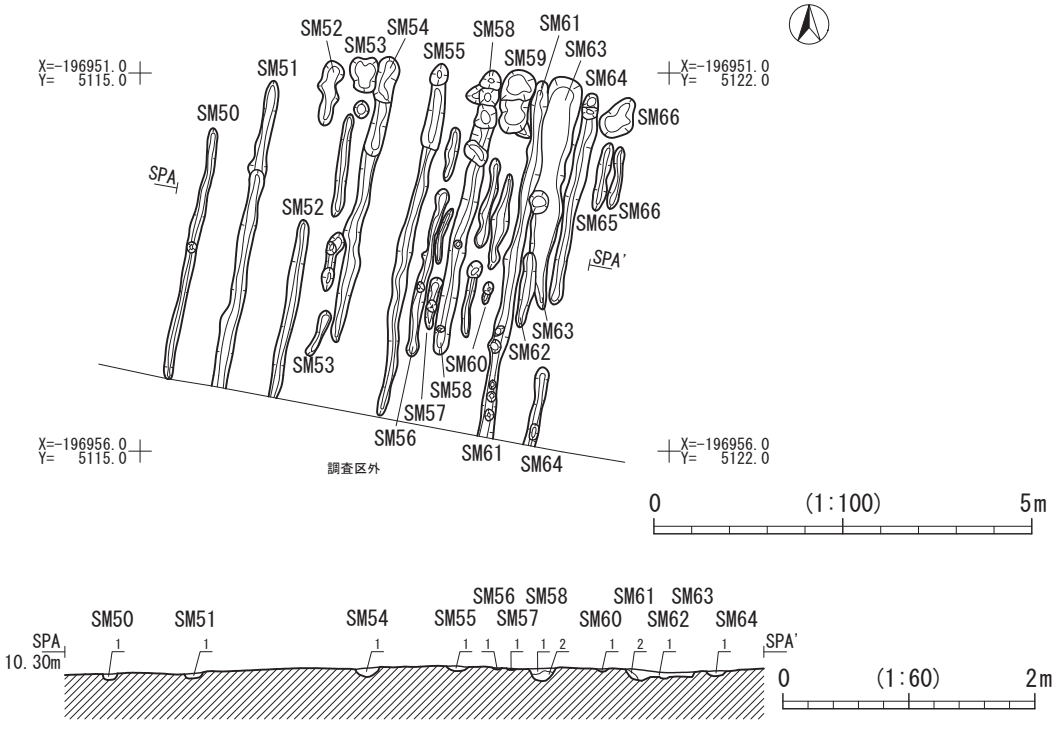
小溝状遺構C群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM67	30	N-8° -E	248 × 23	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM68	30	N-12° -E	220 × 18	14	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM69	30	N-10° -E	248 × 20	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM70	25・30・31	N-14° -E	206 × 24	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM71	25・26	N-12° -E	238 × 14	19	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM72	25・26	N-9° -E	435 × 27	9	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM73	25・26	N-11° -E	393 × 24	9	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM74	25・26	N-9° -E	416 × 27	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM75	25・26	N-8° -E	336 × 28	16	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM76	24 ～ 26	N-9° -E	570 × 30	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM77	24 ～ 26	N-9° -E	613 × 24	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM78	24 ～ 26	N-10° -E	608 × 28	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM79	25・26	N-10° -E	340 × 25	10	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM80	25・26	N-7° -E	198 × 18	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM81	25・26	N-4° -E	474 × 30	15	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM82	24 ～ 26	N-5° -E	706 × 26	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM83	24 ～ 26	N-7° -E	642 × 22	20	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM84	25・26	N-6° -E	458 × 42	22	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM85	25・26	N-2° -E	580 × 34	10	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM86	30	N-10° -E	218 × 67	19	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量、2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	

小溝状遺構D群（第41図）

調査区の南西側に位置し、26・27・31・32グリッドより検出された。小溝状遺構D群は、SM50 ～ SM66の17条より構成される。主軸方位はN-8 ～ 13°-Eである。規模は検出長で146 ～ 476cm、上端幅は10 ～ 22cmを測り、検出面からの深さは3 ～ 11cmである。

堆積土は暗オリーブ褐色砂質シルトを主体とし、層中には炭化物が微量含まれる。各溝の堆積土中から遺物は出土していない。



第41図　Ⅱ区小溝状遺構D群

小溝状遺構D群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM50	31・32	N-10° -E	337 × 12	5	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
SM51	31・32	N-10° -E	412 × 17	5	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM52	31・32	N-10° -E	452 × 17	6	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM53	31	N-10° -E	400 × 13	9	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM54	31	N-11° -E	384 × 18	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM55	31	N-10° -E	474 × 14	4	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM56	31	N-11° -E	308 × 12	4	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
SM57	31	N-11° -E	164 × 10	4	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	

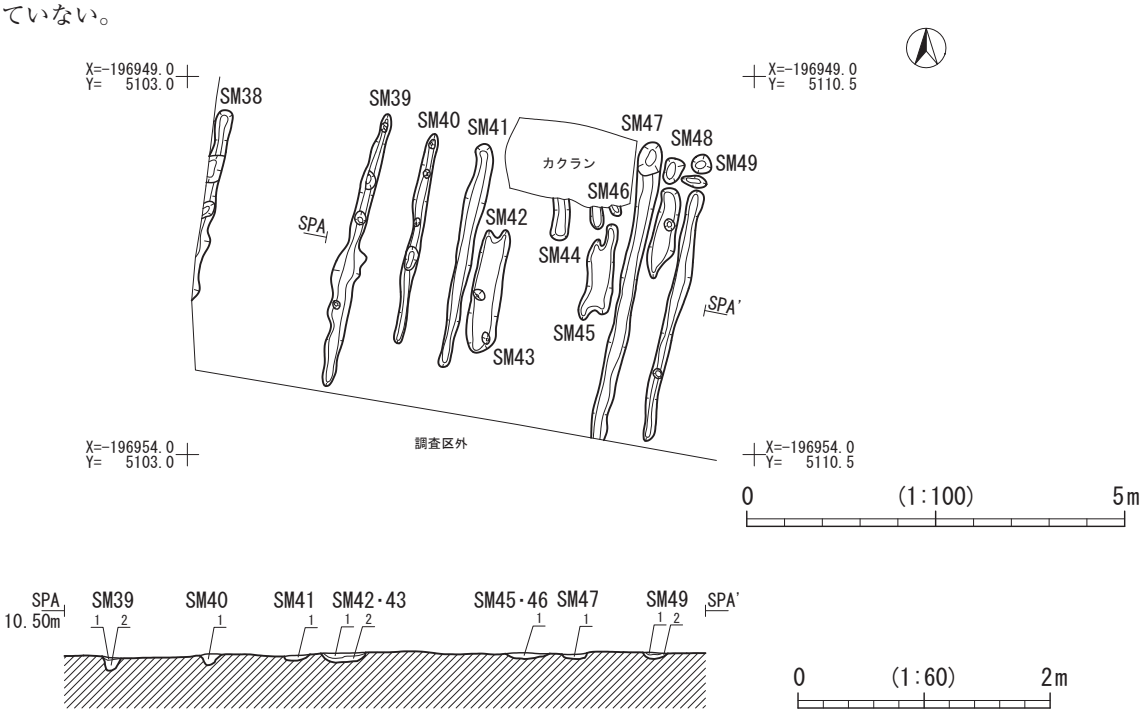
小溝状遺構D群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM58	31	N-10° -E	382 × 22	11	1	10YR5/6	黄褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM59	26・31	N-10° -E	358 × 10	3	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM60	31	N-10° -E	312 × 12	3	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM61	26・31・32	N-11° -E	476 × 16	9	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR5/6	黄褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
SM62	26・31	N-10° -E	335 × 18	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM63	26	N-8° -E	306 × 14	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM64	26・27	N-11° -E	372 × 16	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM65	26	N-13° -E	146 × 14	6	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM66	26	N-10° -E	150 × 10	3	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	

小溝状遺構Ｅ群（第42図）

調査区の南西端に位置し、34・35グリッドより検出された。小溝状遺構Ｅ群は、SM38 ～ SM49の12条より構成される。主軸方位はN-4 ～ 14°-Eである。規模は検出長で54 ～ 398㎝、上端幅は11 ～ 26㎝を測り、検出面からの深さは4 ～ 13㎝である。

堆積土は褐色～暗オリーブ褐色砂質シルトを主体とし、層中には炭化物が微量含まれる。各溝の堆積土中から遺物は出土していない。



小溝状遺構Ｅ群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM38	34・35	N-12° -E	256 × 17	4	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM39	34・35	N-14° -E	370 × 12	7	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR5/6	黄褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量、2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM40	34・35	N-11° -E	282 × 11	7	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM41	35	N-12° -E	300 × 13	4	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM42	35	N-8° -E	163 × 12	4	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM43	35	N-10° -E	162 × 16	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM44	35	N-4° -E	54 × 22	5	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM45	35	N-7° -E	149 × 16	6	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	
SM46	35	N-6° -E	144 × 16	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM47	34・35	N-11° -E	398 × 20	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM48	35	N-10° -E	162 × 26	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SM49	35	N-11° -E	386 × 17	5	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
					2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を微量含む。	

第４２図　Ⅱ区小溝状遺構Ｅ群

(5)土坑(第43～45図)

河川堆積土1層上面より9基の土坑が検出された。平面形は円形・隅丸方形・不整形など様々であり、土坑の用途や機能・性格についてはそれぞれ異なるものと考えられる。なお、遺構確認段階では、SK6の歪み部分を別遺構と捉え、SK7の遺構名を付したが、調査の進捗に従いSK6と同一遺構と判断されたために欠番としている。

以下、各遺構ごとに詳述する。

SK1　土坑(第43図)

調査区南壁際のほぼ中央に位置し、20グリッドより検出された。平面形は円形を呈する。規模は長軸140cm、短軸130cmを測り、検出面からの深さは16cmである。断面形は皿状を呈し、底面は比較的平坦である。堆積土は黄褐色シルトを主体とし、底面には炭化物が面的に拡がっていた。堆積土中から遺物は出土していない。

SK2　土坑(第43図)

調査区南壁際のほぼ中央に位置し、20グリッドより検出された。平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸106cm、短軸86cmを測り、検出面からの深さは28cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土は概ね黄褐色シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SK3　土坑(第43・45図)

調査区中央よりやや東寄りに位置し、11・12グリッドで検出された。SD1溝跡と重複関係にあり、SK3の方が新しい。平面形は円形を呈する。規模は長軸170cm、短軸152cmを測り、検出面からの深さは66cmである。断面形は擂り鉢状を呈するが、壁の中腹に稜をもつ。堆積土は灰黄色粘土質シルトを主体とするが、層下位では色調がやや暗化する。堆積土中より替折釘が1点出土している(第45図)。

SK4　土坑(第43図)

調査区の南東に位置し、13グリッドより検出された。平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸62cm、短軸55cmを測り、検出面からの深さは9cmである。断面形は皿状を呈し、底面は比較的平坦である。堆積土はにぶい黄色砂質シルトを主体とし、層中には炭化物が少量含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。

SK5　土坑(第43図)

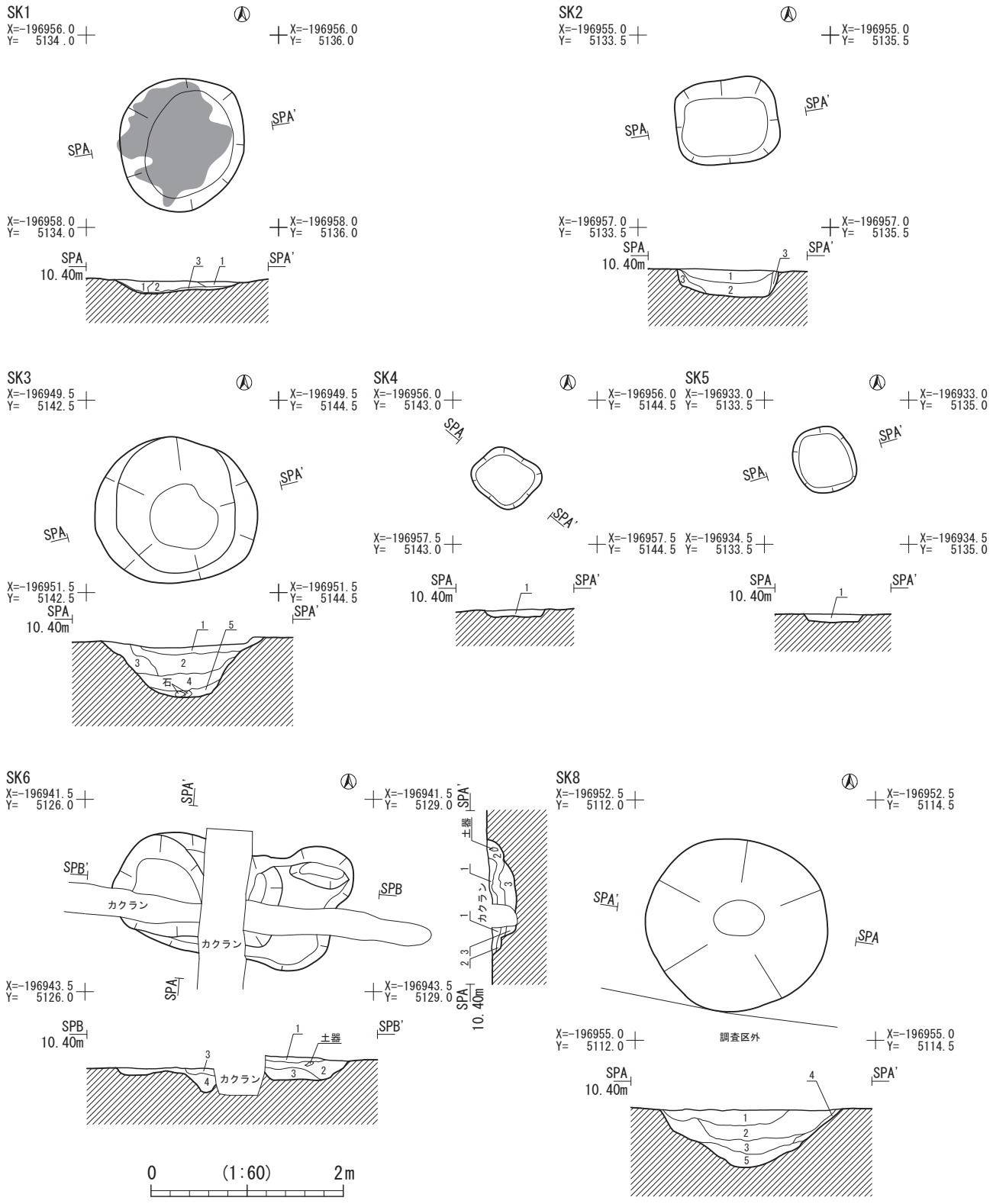
調査区の北側に位置し、15グリッドより検出された。平面形は隅丸方形を呈するが、やや胴が張る。規模は長軸69cm、短軸63cmを測り、検出面からの深さは9cmである。断面形は皿状を呈し、底面は比較的平坦である。堆積土は黄褐色砂質シルトを主体とし、層中には炭化物が少量含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。

SK6　土坑(第43図)

調査区中央よりやや西側に位置し、24グリッドより検出された。遺構の一部が撹乱により壊されているが、形状・規模等は把握することができた。平面形は楕円形を基本形とするが、南東隅が張り出しやや不整となる。規模は長軸234cm、短軸108cmを測り、検出面からの深さは25～36cmである。長軸方向での主軸方位はN-78°-Wである。底面には凹凸がみられるが、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色～黒褐色シルトを主体とし、層中には炭化物や焼土が含まれる。堆積土中からは陶器甕の胴部破片が18点出土したが、掲載はしていない。

SK8　土坑(第43・45図)

調査区の南西側に位置し、31グリッドより検出された。平面形は円形を呈する。規模は長軸・短軸ともに190cmを測り、検出面からの深さは95cmである。断面形は擂り鉢状を呈する。堆積土は5層に区分され、1～3層は褐色シルトを主体とし、4・5層は灰黄褐色シルトを主体とする。堆積土中からは砥石が1点出土している(第45図)。砥石の形状は扁平な角柱形を呈する。幅の狭い両側面及び下端部に研磨面があり、左側面には刃縁研磨の痕跡と考えられる断面V字形の深い擦痕が縦位にみられる。幅広の正面・裏面には、鑿状の工具による加工痕が明瞭に残る。石材は流紋岩質凝灰岩である。



第４３図　Ⅱ区土坑(1)

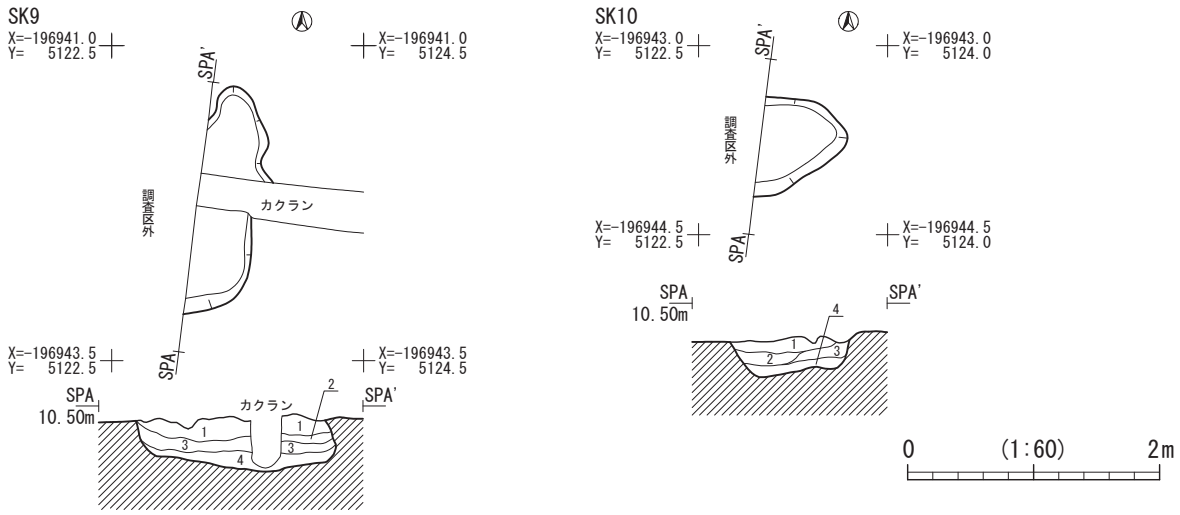
SK９　土坑(第44・45図)

調査区のほぼ中央に位置し、24グリッドより検出された。遺構の一部が撹乱されているほか、西側が調査区にかかるため遺構の詳細については不明である。平面形は検出部分に歪みが多くみられることから、不整形と考えられる。残存部分での長軸は184cmを測り、検出面からの深さは40cmである。堆積土はオリーブ褐色シルトを主体とし、層中には炭化物や焼土が含まれる。堆積土中からは、鞴の羽口の破片２点と鉱滓が1点出土しており、このうち鞴

の羽口1点を掲載した(第45図)。羽口の形状は、残存部分より裁頭円錐形を呈すると考えられ、孔径は2.6cmである。外面には融解物が付着している。

SK10　土坑(第44図)

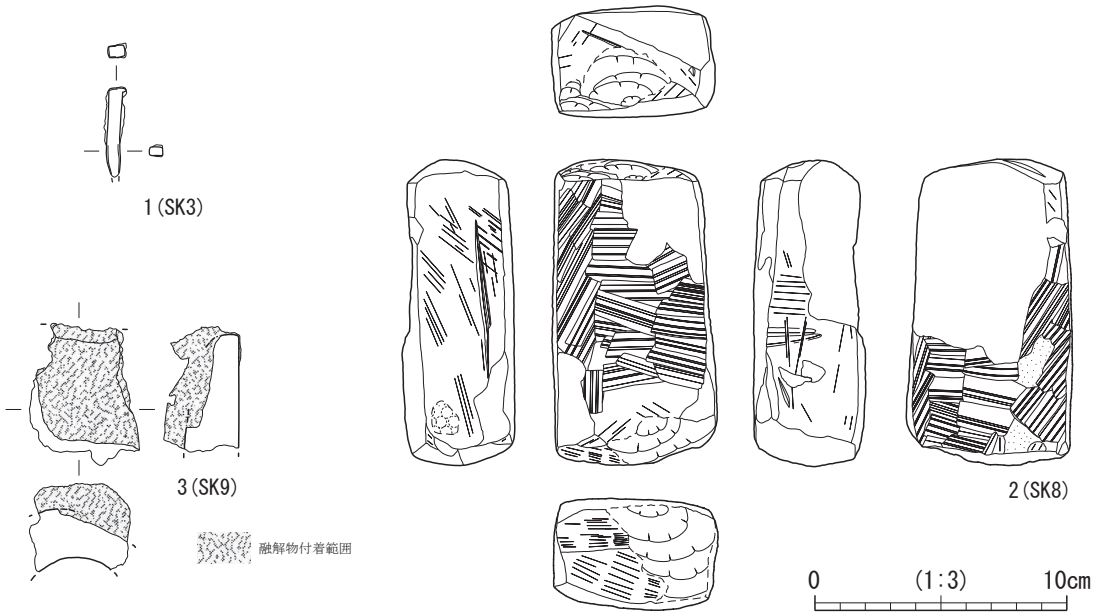
調査区のほぼ中央に位置し、24グリッドより検出された。遺構の西側が調査区にかかるため、詳細については不明である。規模は短軸で80cmを測り、検出面からの深さは18cmである。断面形は逆台形状を呈する。堆積土はオリーブ褐色シルトを主体とし、層中には炭化物が含まれる。堆積土中から遺物は出土していない。



第４４図　Ⅱ区土坑(2)

SK1～10土坑　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色		土性	備考	重複(旧→新)
SK1	Ⅱ区	20	円形	140 × 130	16	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。	
						2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1～2㎜の炭化物を少量含む。	
						3	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物を主体的に含む。	
SK2	Ⅱ区	20	隅丸方形	106 × 86	28	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。	
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。	
						3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。	
SK3	Ⅱ区	11・12	円形	170 × 152	66	1	10YR4/4	褐色	シルト	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を含む。	SD1→SK3
						2	2.5Y6/1	黄灰色	粘土質シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
						3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
						4	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	3層よりも色調が暗い。	
						5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	締まりが弱く、粘性を有する。	
SK4	Ⅱ区	13	隅丸方形	62 × 55	9	1	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	
SK5	Ⅱ区	15	隅丸方形	69 × 63	9	1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	
SK6	Ⅱ区	24	不整楕円形	234 × 108	25～36	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を微量含む。	
						2	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、焼土を少量含む。	
						3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
						4	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
SK7	Ⅱ区	－	－	－	－	－	－	－	－	SK6 と同一のため欠番。	
SK8	Ⅱ区	31	円形	190 × 190	95	1	10YR4/4	褐色	シルト	φ1～2cmの 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。	
						2	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ5～10㎜の炭化物を微量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。	
						3	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、10YR7/4 にぶい黄橙色粘土質シルト塊をやや多く含む。	
						4	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色粘土質シルト塊をやや多く含む。	
						5	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
SK9	Ⅱ区	24	不整形	184 × －	40	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の焼土を少量、炭化物をやや多く含む。	
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の焼土を少量、砂粒を微量含む。	
						4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を微量含む。	
SK10	Ⅱ区	24	(楕円形)	－× 80	18	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
						3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を少量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
						4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を微量含む。	



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
1	N-05	Ⅱ区	SK3	堆積土	金属製品	釘	3.5	0.5	0.4	2.55	替折釘	27

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
2	Kd-a-02	Ⅱ区	SK8	堆積土	石製品	砥石	(12.1)	6.4	4.4	354.0	流紋岩質凝灰岩	略完形　磨3（左右下）　正裏調整痕	27

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
3	P-01	Ⅱ区	SK9	堆積土	土製品	鞴羽口	(5.4)	(4.0)	2.2	(69.2)	小片　上端部融解物付着　孔径26㎜以上	27

第45図　Ⅱ区土坑出土遺物

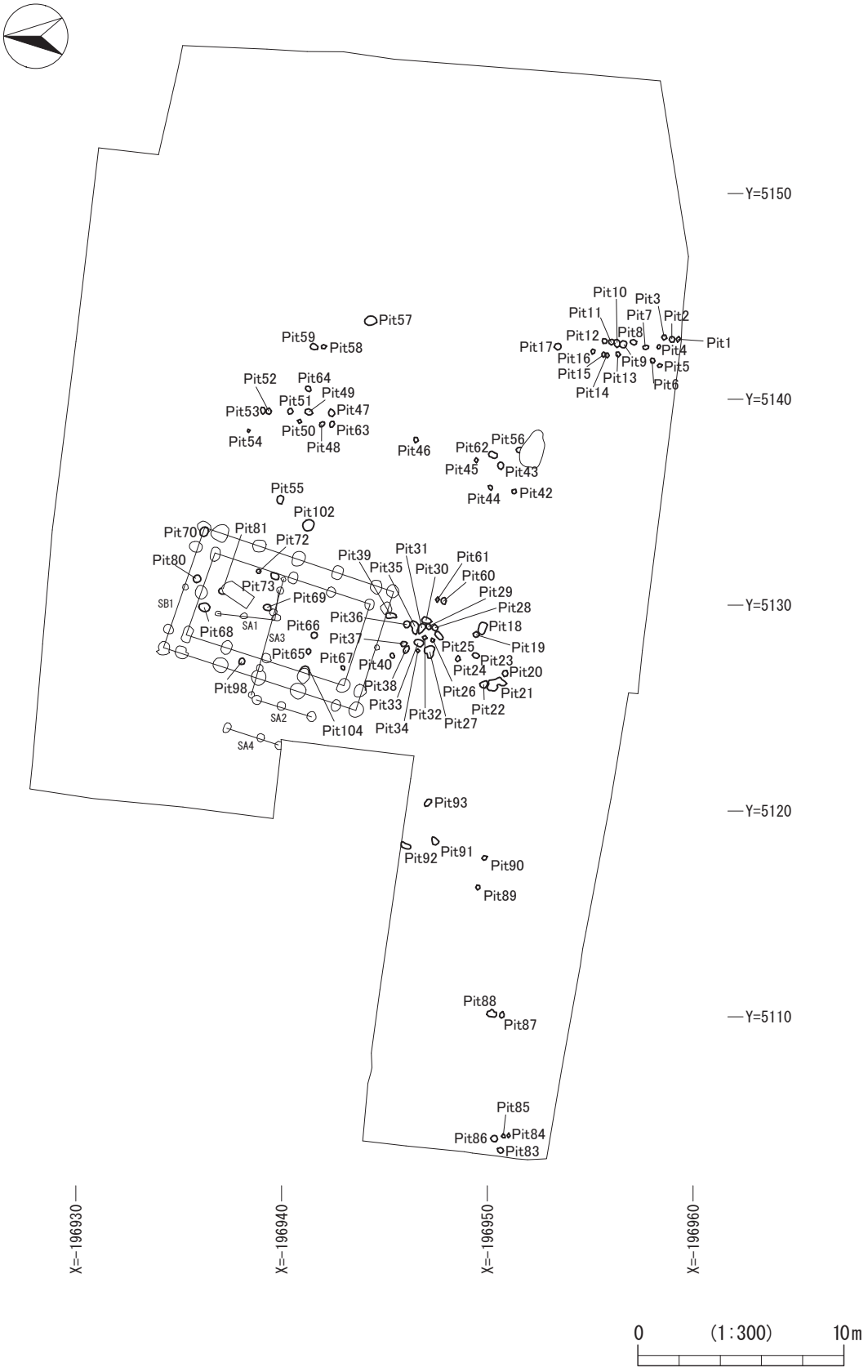
(6)ピット(第46・47図)

河川堆積土1層上面より合計104基のピットを確認した。このうちの17基(Pit41・71・74～79・82・94～97・99～101・103)については、ピットの配列や礎石・柱痕跡の有無などを考慮し、掘立柱建物跡や柱穴列として抽出したため、単独のピットとして扱った総数は87基である。ピットからの遺物の出土はみられず、時期等の詳細については不明であるが、分布状況から幾つかの纏まりが確認できる。なお、各ピットの属性については観察表に記載した。

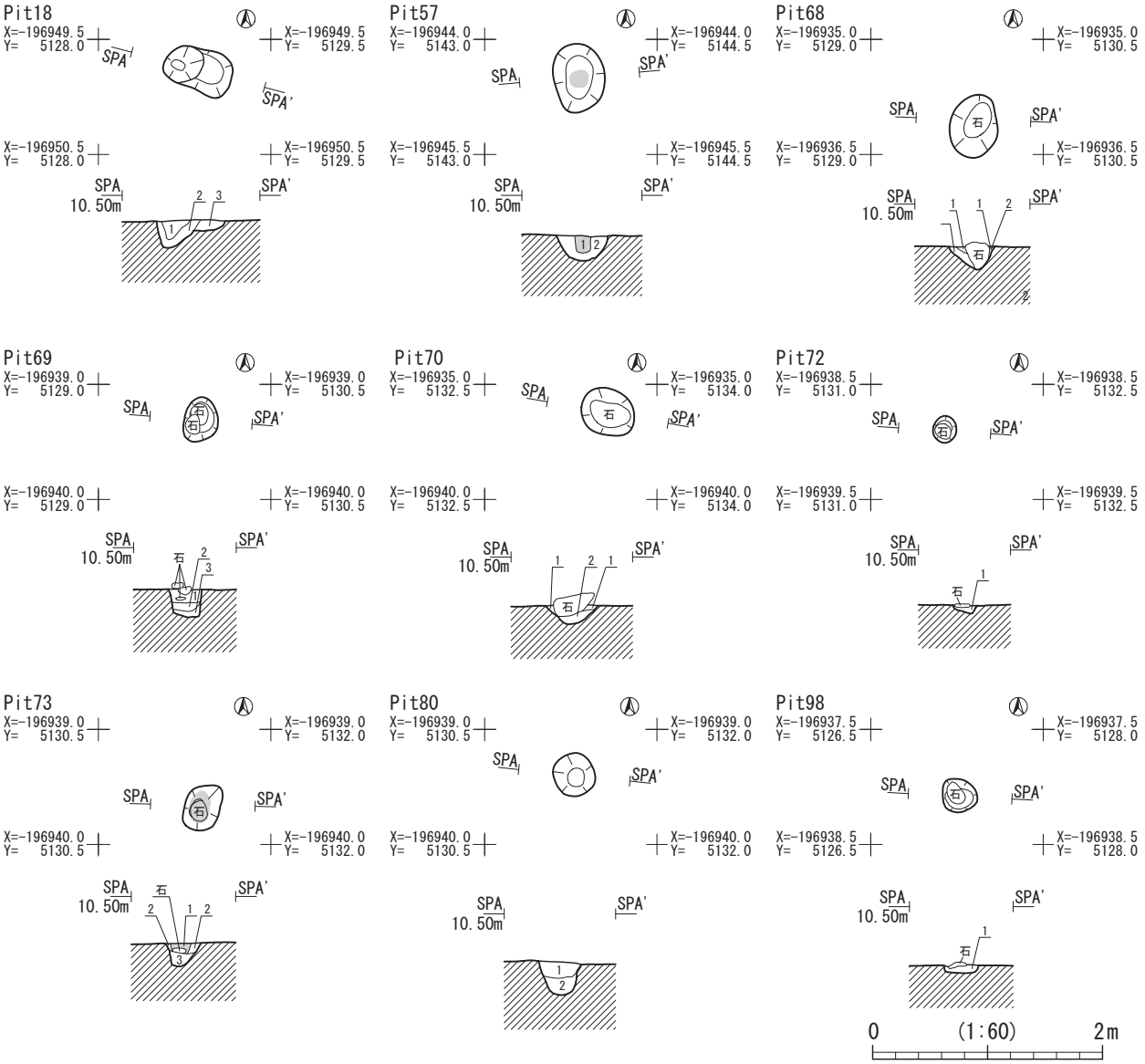
検出されたピットの位置関係をみると、小溝状遺構各群の周辺と掘立柱建物跡や柱穴列が検出された16・17・21～24グリッドに比較的纏った分布状況を示している。

小溝状遺構各群の周辺より検出されたピットは、76基(Pit1～40・42～54・57～67・83～93)が該当する。これらのピットの平面形は、円形ないしは楕円形を基本形とするが、全体的に歪みが多くみられる。規模は径25～40cm、深さは10～20cmのものが大半を占める。また小溝状遺構との重複関係は認められず、南北方向に列状に検出されていることが特徴としてあげられる。ピットの形状や特徴、検出状況などを踏まえると、これらのピットの多くは小溝状遺構の底面の窪み部分を含んでいる可能性が高いと判断される。

一方、16・17・21～24グリッドより確認されたピット11基(Pit55・68～70・72・73・80・81・98・102・104)の平面形は、円形ないしは楕円形を基本形とする。規模は径30～60cm、確認面からの深さは20～45cmを測る。堆積土はオリーブ褐色シルトを主体とし、このうち6基(Pit68・69・70・72・73・98)で層中より礎石が確認されている。これら6基のピットについては、何等かの建物もしくは柱穴列などの構造物を構成するピットの可能性が考慮されるが、上面が削平されている状況もあり、検出するには至らなかった。また、SB1の柱穴とほぼ同じ位置で重複しているPit70・104に関しては、既述したようにSB1に建物の建て替えの痕跡が認められることから、SB1の柱穴に含まれる可能性が考えられる。



第４６図　Ⅱ区ピット配置図



第47図　Ⅱ区ピット

ピット　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit1	Ⅱ区	13	円形	27 × 22	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit2	Ⅱ区	13	円形	30 × 28	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit3	Ⅱ区	13	円形	27 × 26	8	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit4	Ⅱ区	13	円形	23 × 17	13	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit5	Ⅱ区	13	円形	24 × 20	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit6	Ⅱ区	13	円形	27 × 22	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit7	Ⅱ区	13	円形	30 × 21	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit8	Ⅱ区	13	円形	33 × 25	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit9	Ⅱ区	13	円形	36 × 33	16	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit10	Ⅱ区	13	円形	41 × 28	15	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit11	Ⅱ区	13	円形	29 × 28	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit12	Ⅱ区	13	円形	28 × 26	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit13	Ⅱ区	13	円形	27 × 22	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit14	Ⅱ区	13	円形	25 × 21	13	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit15	Ⅱ区	13	円形	25 × 17	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit16	Ⅱ区	13	円形	26 × 20	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit17	Ⅱ区	12	円形	35 × 32	16	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit18	Ⅱ区	25	楕円形	59 × 35	26	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
						2	10YR4/6	褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
						3	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。	
Pit19	Ⅱ区	25	円形	31 × 29	18	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit20	Ⅱ区	26	円形	33 × 28	14	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SM85 に振替のため欠番。	

ピット　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit22	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SM85 に振替のため欠番。	
Pit23	Ⅱ区	25	楕円形	35 × 26	8	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit24	Ⅱ区	25	円形	31 × 24	15	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit25	Ⅱ区	25	楕円形	50 × 26	7	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit26	Ⅱ区	25	円形	22 × 20	11	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit27	Ⅱ区	25	不整形	60 × 54	16	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit28	Ⅱ区	25	円形	33 × 29	10	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit29	Ⅱ区	25	円形	31 × 24	9	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit30	Ⅱ区	25	楕円形	49 × 28	5	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit31	Ⅱ区	25	楕円形	55 × 33	5	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit32	Ⅱ区	25	円形	25 × 24	12	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit33	Ⅱ区	25	楕円形	47 × 32	9	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit34	Ⅱ区	25	円形	19 × 19	16	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit35	Ⅱ区	25	瓢箪形	68 × 32	17	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit36	Ⅱ区	25	円形	34 × 30	9	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit37	Ⅱ区	25	円形	34 × 25	8	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit38	Ⅱ区	25	楕円形	42 × 24	12	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit39	Ⅱ区	25	不整楕円形	54 × 25	20	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SB1P20 → Pit39
Pit40	Ⅱ区	25	円形	43 × 30	12	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit41	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P31 に振替のため欠番。	
Pit42	Ⅱ区	19	円形	25 × 24	24	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit43	Ⅱ区	19	円形	36 × 30	20	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit44	Ⅱ区	19	円形	26 × 19	13	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit45	Ⅱ区	18	円形	24 × 20	10	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit46	Ⅱ区	18	円形	28 × 23	16	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit47	Ⅱ区	17	楕円形	38 × 30	17	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit48	Ⅱ区	17	楕円形	31 × 21	16	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit49	Ⅱ区	17	楕円形	40 × 30	16	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit50	Ⅱ区	17	円形	22 × 21	17	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit51	Ⅱ区	17	円形	30 × 26	26	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit52	Ⅱ区	16	楕円形	32 × 27	15	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit53	Ⅱ区	16	円形	35 × 23	16	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit54	Ⅱ区	16	円形	17 × 14	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit55	Ⅱ区	16・17	円形	43 × 34	22	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。	
Pit56	Ⅱ区	19	（円形）	− × 27	12	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit57	Ⅱ区	10	楕円形	60 × 47	23	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	φ1 ～ 3㎝の円礫を含む。柱痕跡。	
						2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊と 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit58	Ⅱ区	10	楕円形	27 × 21	17	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊と 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit59	Ⅱ区	10	楕円形	39 × 28	22	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊と 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit60	Ⅱ区	18	円形	34 × 25	7	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit61	Ⅱ区	18	円形	28 × 20	12	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit62	Ⅱ区	19	瓢箪形	45 × 28	9	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit63	Ⅱ区	17	楕円形	32 × 23	16	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit64	Ⅱ区	10	円形	31 × 23	11	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。	
Pit65	Ⅱ区	24	円形	30 × 23	8	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 3㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
Pit66	Ⅱ区	24	円形	32 × 30	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 3㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
Pit67	Ⅱ区	24	楕円形	− × 18	8	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit68	Ⅱ区	16・23	楕円形	56 × 42	21	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。	
						2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
Pit69	Ⅱ区	16・23	円形	42 × −	28	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
						2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性を有する。	
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
Pit70	Ⅱ区	16	円形	48 × 41	28	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y6/1 黄灰色シルト塊を微量含む。礫石 1。	SB1P13 → Pit70
Pit71	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA3P4 に振替のため欠番。	
Pit72	Ⅱ区	16	円形	24 × 22	11	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
Pit73	Ⅱ区	16	楕円形	42 × 32	22	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。礫石 1。	
						2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性を有する。	
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
Pit74	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P19 に振替のため欠番。	
Pit75	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P20 に振替のため欠番。	
Pit76	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P14 に振替のため欠番。	
Pit77	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P15 に振替のため欠番。	
Pit78	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P2 に振替のため欠番。	
Pit79	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB1P12 に振替のため欠番。	
Pit80	Ⅱ区	16	円形	38 × 38	24	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
						2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit81	Ⅱ区	16	（楕円形）	− × 30	16	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 15㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。	
Pit82	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA3P3 に振替のため欠番。	
Pit83	Ⅱ区	35	円形	31 × 27	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit84	Ⅱ区	35	円形	23 × 16	9	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit85	Ⅱ区	35	円形	22 × 17	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit86	Ⅱ区	35	円形	34 × 32	26	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit87	Ⅱ区	30	楕円形	32 × 23	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit88	Ⅱ区	30・31・35	不整形	48 × 36	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit89	Ⅱ区	30	円形	25 × 22	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit90	Ⅱ区	30・31	円形	29 × 22	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit91	Ⅱ区	30	円形	42 × 32	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit92	Ⅱ区	30	楕円形	49 × 23	15	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	

ピット　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit93	Ⅱ区	25	楕円形	43 × 23	16	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、10YR4/6 褐色シルト塊を微量含む。	
Pit94	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA4P1 に振替のため欠番。	
Pit95	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA4P2 に振替のため欠番。	
Pit96	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA4P3 に振替のため欠番。	
Pit97	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SB1P6 に振替のため欠番。	
Pit98	Ⅱ区	23	円形	31 × 30	17	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit99	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA3P2 に振替のため欠番。	
Pit100	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SB1P21 に振替のため欠番。	
Pit101	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SB1P22 に振替のため欠番。	
Pit102	Ⅱ区	17	円形	57 × 52	15	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含む。	
Pit103	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA3P1 に振替のため欠番。	
Pit104	Ⅱ区	24	－	－× 49	45	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	Pit104 → SB1P7

(7) 性格不明遺構（第48 ～ 51図）

Ⅱ区では、調査区のほぼ中央より5ヶ所の不整形の掘り込みを確認した。検出面はSX1が河川堆積土1層上面、SX2 ～ SX5が河川堆積土4層上面である。河川堆積土1層上面で確認されたSX1については、位置的にはSB1掘立柱建物跡と重複関係にあるが直接的な切り合いが認められないため、遺構の新旧関係については不明である。

一方、河川堆積土4層上面で確認されたSX2 ～ SX5については、堆積土中に炭化物が多く含まれるという類似性が認められることから、同様の性格をもつ遺構と判断される。

以下、SX1とSX2 ～ SX5の2つに分けて詳細を述べる。

SX1　性格不明遺構（第48・49図）

調査区のほぼ中央、24グリッドに位置する。平面形は不整楕円形である。規模は長軸323㎝、短軸89㎝、検出面からの深さは12 ～ 26㎝を測る。断面形は皿状を基本形とするが、底面には凹凸が確認される。長軸方向を基準にした主軸方位はN-4°-Eである。

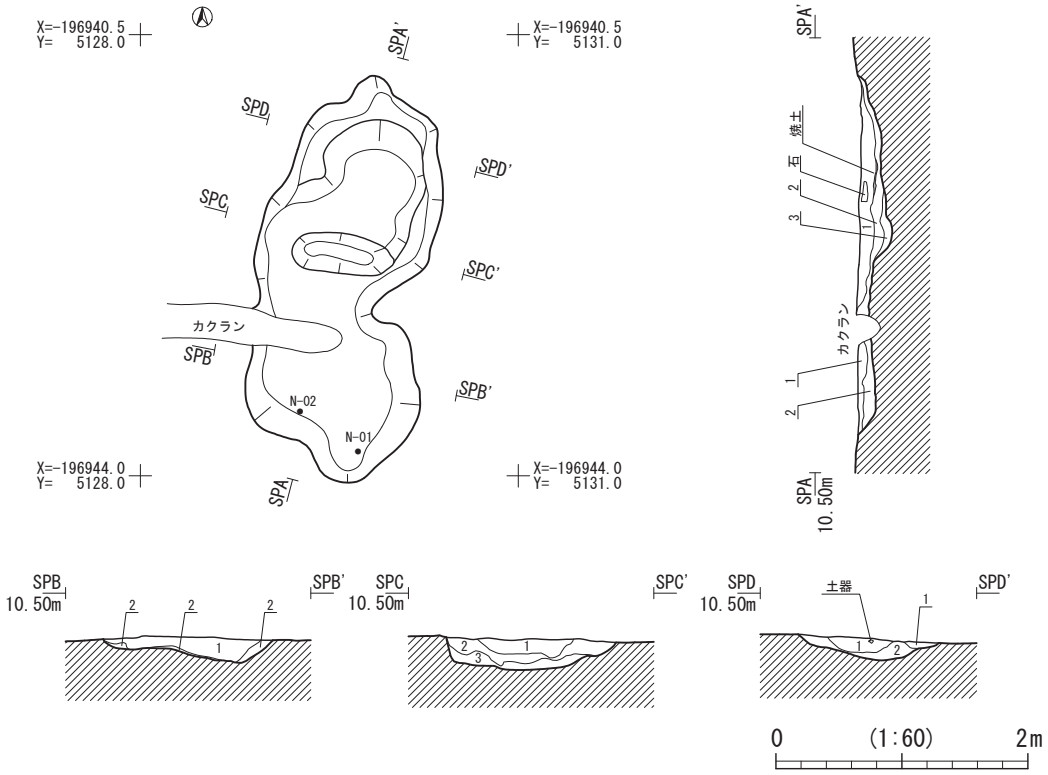
堆積土は褐色シルトないしは暗褐色シルトを主体とし、層中には灰白色シルト塊のほか炭化物が少量含まれる。また、遺構の北側では、焼土が2 ～ 3㎝程の厚さで確認されている。

出土遺物としては、堆積土中から陶器の小破片と銭貨が2点出土している。このうち銭貨2点を掲載した（第49図）。1・2はともに北宋銭で、1は天聖元寶（1023年初鋳）、2は残存部分より嘉裕元寶または通寶（1056年初鋳）と考えられる。

SX2 ～ SX5　性格不明遺構（第50・51図）

調査区中央よりやや南西に位置し、25・26グリッドで検出された。平面形はいずれも不整形である。規模はSX2が長軸390㎝、SX3が長軸86㎝×短軸64㎝、SX4が長軸87㎝×短軸66㎝、SX5が長軸61㎝×短軸46㎝を測る。検出面からの深さは10 ～ 36㎝である。断面形は皿状を基本形とするが、底面には凹凸が顕著に認められた。

堆積土はオリーブ褐色シルトを主体とし、層中には炭化物が多く含まれる。特に規模の大きいSX2では、堆積土中層に粒径5 ～ 10㎜程の炭化物が面的に拡がっており、層厚で2 ～ 5㎝を測る。堆積土中から遺物は出土していない。



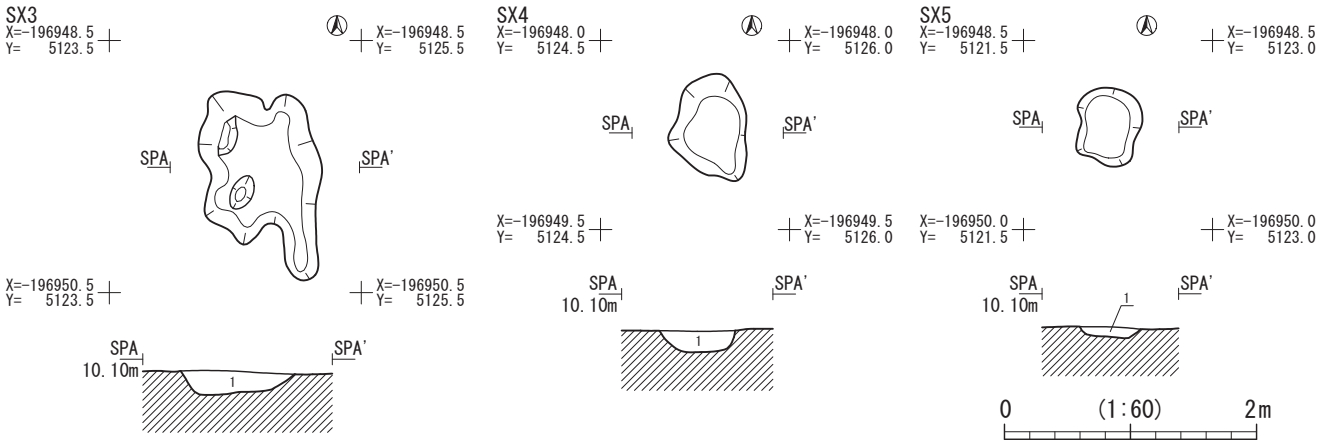
SX1性格不明遺構　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SX1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、φ5～10㎜の2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。北側にのみ焼土がみられる。	
	2	10YR4/6	褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を微量、φ5～10㎜の2.5Y7/1灰白色シルト塊を微量含む。	
	3	10YR4/4	褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を微量、φ5～10㎜の2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。	

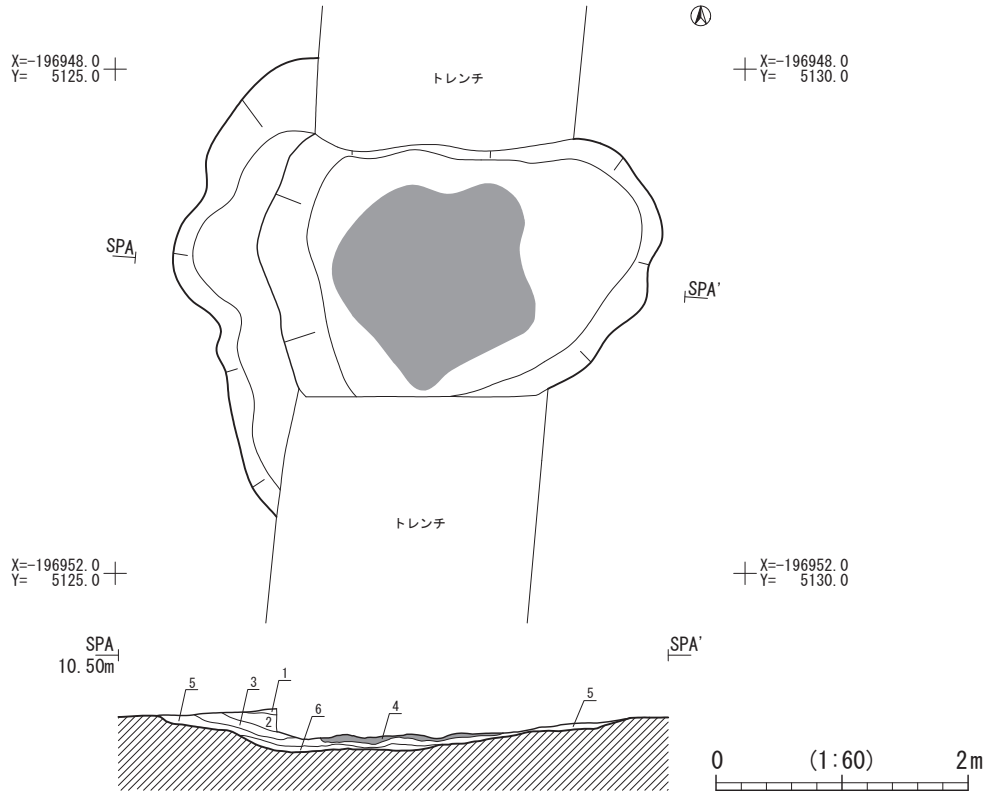
第４８図　Ⅱ区ＳＸ１性格不明遺構

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
1	N-01	Ⅱ区	SX1	上層	金属製品	銭貨	2.4	2.4	0.12	2.41	天聖元寶（北宋銭、1023年初鋳）	27
2	N-02	Ⅱ区	SX1	堆積土	金属製品	銭貨	－	－	0.11	0.85	嘉裕元寶または通宝（北宋銭、1056年初鋳）	27

第４９図　Ⅱ区ＳＸ１性格不明遺構出土遺物



第５０図　Ⅱ区ＳＸ３～５性格不明遺構



SX2～5性格不明遺構　堆積土註記表

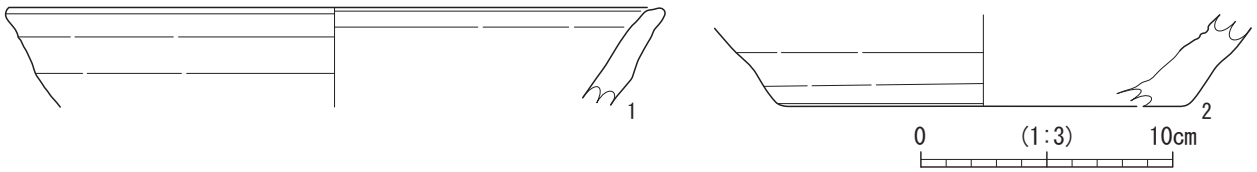
部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SX2	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物をやや多く含む。	
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を微量、φ5㎜の2.5Y7/1灰白色シルト塊を微量含む。	
	4	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	φ5～10㎜の炭化物を主体的に含む。	
	5	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を微量、φ5～10㎜の2.5Y7/1灰白色シルト塊を微量含む。	
	6	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5～10㎜の2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。	
SX3	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	
SX4	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	
SX5	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	

第51図　Ⅱ区SX2性格不明遺構

(8)遺構外出土遺物(第52図)

Ⅱ区の調査では、基本層Ⅱ層中より平箱約1/4程度の遺物が出土している。出土遺物には、土師器・須恵器・陶磁器などがみられる。このうち実測可能な2点を図示した。

1・2はともにロクロ調整された無釉焼締陶器である。1は捏ね鉢の口縁部破片で、口唇部は平滑である。内面はやや摩耗している。2は甕の底部破片で、底面はヘラナデ調整されている。



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	I-01	Ⅱ区	－	Ⅱ層	陶器	捏ね鉢	口縁部破片	(26.0)	－	(3.8)	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	無釉焼締陶器	27
2	I-02	Ⅱ区	－	Ⅱ層	陶器	甕	底部破片	－	(16.0)	(3.1)	胴部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	胴部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	無釉焼締陶器	27

第52図　Ⅱ区遺構外出土遺物

第7章　Ⅳ区の検出遺構と出土遺物

第1節　Ⅳ区の本調査（第53 ～ 169図）

Ⅳ区の本調査は、排土置場の都合により平成20年度と21年度に分割して実施した。調査面積は、平成20年度分が956㎡、平成21年度が1,610㎡で、合計2,566㎡である。

調査面は、基本層Ⅱc層上面、Ⅳa層上面、Ⅴb層上面またはⅥ層上面の3面であり、Ⅵ層の調査では弥生時代の遺物が出土した。検出遺構の内訳を調査面別に示すと、Ⅱc層上面には近代の天地返しに伴う掘削痕が5群83条、杭列が4条、中世～近世にかけての小溝状遺構がA ～ F群の6群107条、土坑が3基、ピットが184基。Ⅳa層上面では、古墳時代後期から終末期の竪穴住居跡が15軒、竪穴遺構が1基、掘立柱建物跡が6棟、材木列が1条、柱穴列が6条、土坑が6基、性格不明遺構が9基、ピットが106基、整地層が1ヶ所。Ⅴb層上面またはⅥ層上面では、古墳前期から中期に比定される小溝状遺構がA・B群の2群68条、溝跡が1条、ピットが57基、窪地状地形が2ヶ所が検出された。またⅥ層中からは、弥生時代後期の遺物集中箇所1ヶ所と炭化物集中箇所が7ヶ所、ピット状の小穴が36基が確認された。

出土遺物には、弥生土器、埴輪、土師器、須恵器、瓦、陶磁器、煉瓦、硝子、銭貨、土製品、鉄製品、石製品、礫石器、剥片石器、自然遺物（骨片、炭化種子、炭化材）などがあるが、大部分はⅣa層上面から出土した土師器で占められている。遺物の出土量は平箱で42箱である。内訳は弥生土器が2箱、土師器が22箱、須恵器が5箱、埴輪、瓦、煉瓦、陶磁器類が1箱、礫、石器類が9箱、鉄製品、土製品が1箱、炭化物を主体とした自然遺物が2箱である。

時代別にみると、Ⅳa層上面の調査では33箱を数え、多くは竪穴住居跡から出土した土師器や須恵器などである。Ⅴb層上面またはⅥ層上面の調査では5箱と少ないが、窪地状地形からは壺や甕、高坏、坩、器台などの製品の中で、小形品が目立っている。弥生時代の遺物が出土したⅥ層では2箱とさらに少ないが、遺物集中箇所から略完形に復元された大形壺の破片が約15m四方の範囲から確認された。

このようにⅣ区の調査範囲においては、郡山官衙以前の古墳時代中・前期及び弥生時代後期にも生活領域として利用されていた状況が看取された。

以下では、各調査面毎に検出された個々の遺構について述べることにする。

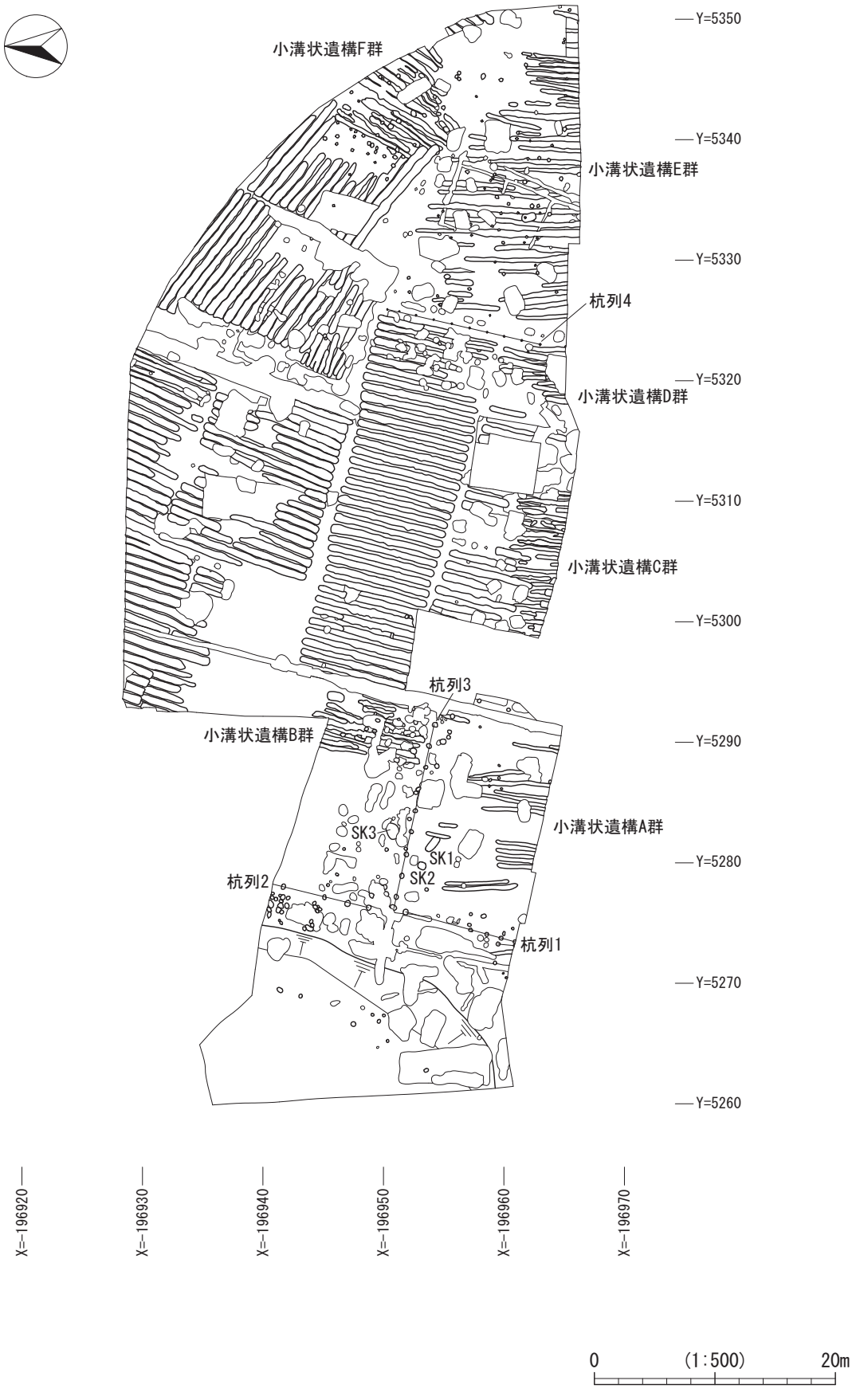
第2節　中世以降の遺構と遺物（第53 ～ 67図）

本節では、基本層Ⅱc層上面で検出された中世～近代にかけての遺構について記載する。該当する検出遺構は、天地返しに伴う掘削痕がA ～ E群の5群83条、小溝状遺構がA ～ F群の6群107条、杭列が4条、土坑が3基、ピットが184基である。遺物は天地返しに伴う掘削痕の中からビニールや空き缶、土師器片などが出土し、杭列からは硝子片や丸釘などが確認されている。これらの遺構については、中近世よりも新しい近代以降の時期と推定される。

天地返しは、Ⅳ区北半部を主体とする河川の埋没後の平坦面に広く整然とした区画性を帯びて形成されており、現行道路を挟んだⅤ区西壁の土層断面でも同様の方向性を示す一群が検出される。また、確認調査で表土直下に検出された1・11・15・29・32トレンチの天地返しでも、Ⅳ・Ⅴ区検出例と共通性のある砂質堆積土が観察されている。

小溝状遺構群は、天地返しによる掘削痕よりも明らかに古く、規模や方向性もやや異なる。一部が河川堆積土の上に形成される点は、Ⅱ区検出の小溝状遺構群と共通する。土坑とピットの一部も中近世に含まれる可能性がある。これらのうち、近代の時期と考えられる天地返しに伴う掘削痕については、全体図にのみ掲載し、個別図と各個の計測値なども省略した。

以下では、小溝状遺構6群と杭列4条、土坑3基、ピット184基について遺構別に述べることとする。



第５３図　Ⅳ区遺構配置図（Ⅱｃ層上面）

(1)小溝状遺構群(第54 ～ 60図)

Ⅱc層上面では、概ね南北方向を示す小溝状遺構が107条(SM1 ～ 82・149 ～ 155・162 ～ 179)検出された。小溝状遺構群の分布は大きく東西に2分割でき、西寄りに3群(A ～ C群)、東寄りに3群(D ～ F群)の計6群が認められる。Ⅳ区には近代以降の天地返しが規則的にみられ、調査区北側の河川堆積土上を含めて広く形成されている(第53図)。Ⅱc層上面検出の小溝状遺構群は、これらの天地返しよりも古いことが確認されている。

検出された小溝状遺構群の方向は、南寄りのA・C群とD・E群が共通し、南北方向に並行しており、一つの区画に統合されることも考えられる。北寄りの河川堆積土上に形成されたB・F群では、やや方向が異なって東偏する。

以下では各小溝状遺構群の詳細を述べる。

小溝状遺構A群(第55図)

調査区南西に位置し、13・14・19 ～ 21・27・28グリッドにかけて検出された。小溝状遺構A群は、概ね南北方向に伸びるSM1 ～ 14・36・37の16条によって構成される。重複関係では、SM8がSK1よりも新しく、SM13がPit42・44よりも古い。主軸方位はN-2 ～ 11° -E及びN-3 ～ 7° -Wである。

規模は検出長で153 ～ 690cm、上端幅は25 ～ 53cm、下端幅は5 ～ 38cmを測り、検出面からの深さは4 ～ 15cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には小さな起伏を有する。

堆積土はオリーブ褐色～暗オリーブ褐色の砂質シルトを主体とし、層中には黄褐色シルト塊が微量含まれる。SM36・37では黒褐色シルトを基質とする。各小溝状遺構の堆積土から遺物は出土していない。

小溝状遺構B群(第56図)

調査区南西に位置し、24 ～ 27グリッドにかけて検出された。小溝状遺構B群は、北東－南西方向に伸びるSM15 ～ 25の10条によって構成される。重複関係では、Pit48・67よりも古く、SM21はSM22よりも新しい。SM16・17、SM17・18、SM19・20は接しているが、新旧関係については不明である。主軸方位はN-10 ～ 27° -Eである。

規模は検出長で246 ～ 880cm、上端幅は25 ～ 53cm、下端幅は8 ～ 31cmを測り、検出面からの深さは8 ～ 24cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には小さな起伏を有する。

堆積土はオリーブ褐色の砂質シルトを主体として、層中には黄褐色砂が少量含まれる。各小溝状遺構の堆積土から遺物は出土していない。

小溝状遺構C群(第57図)

調査区中央南寄りに位置し、34・35・42グリッドにかけて検出された。小溝状遺構C群は、概ね南北方向に伸びるSM26 ～ 35・78 ～ 82・149 ～ 155の22条によって構成される。重複関係では、SM26 ～ 35・80 ～ 82が天地返しよりも古く、SM154はSM155よりも新しい。SM78・79、SM150・151・152、SM155・156、SM152・153は接しているが、新旧関係については不明である。主軸方位はN-0 ～ 20° -Eである。

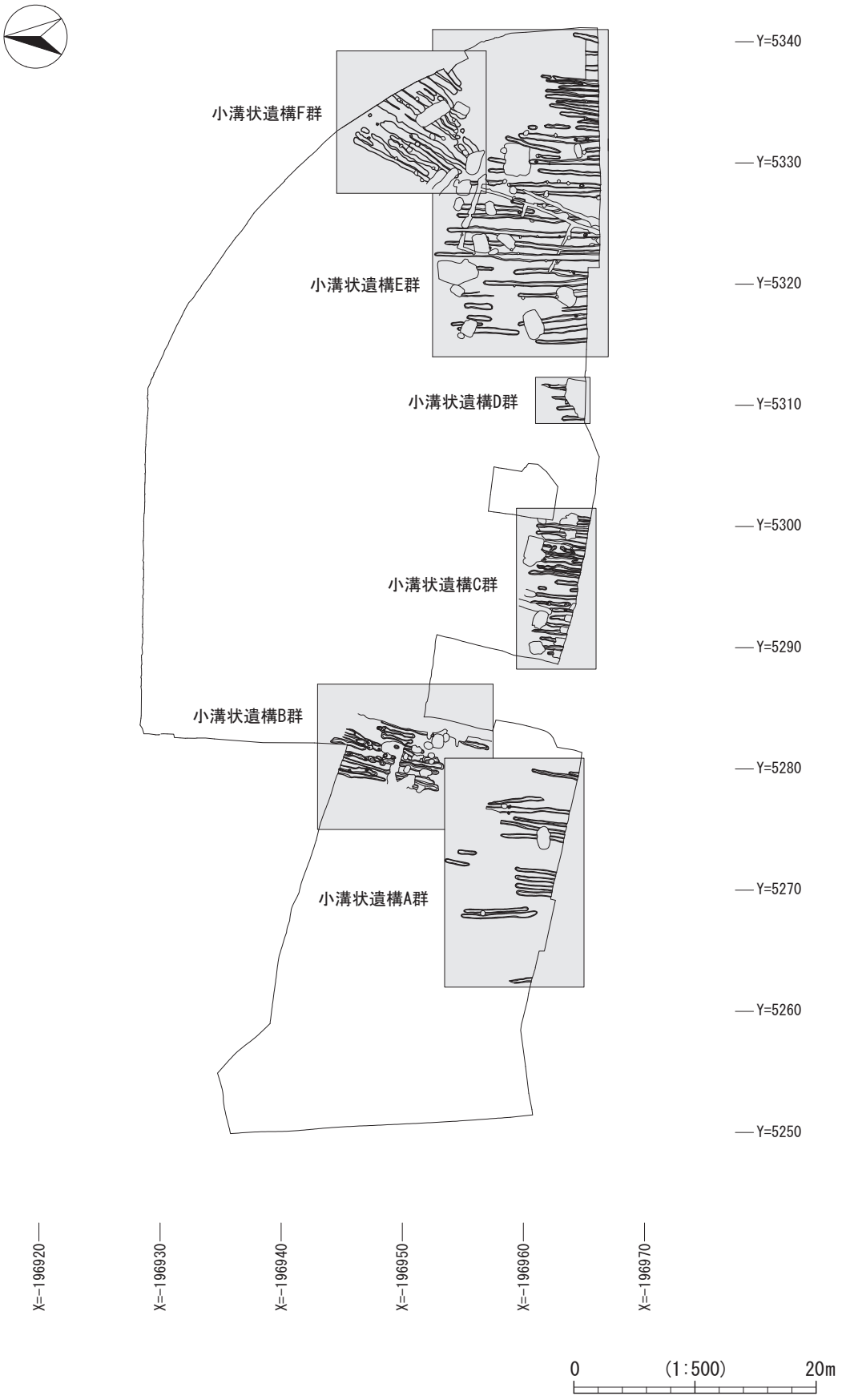
規模は検出長で48 ～ 417cm、上端幅は23 ～ 50cm、下端幅は5 ～ 37cmを測り、検出面からの深さは5 ～ 20cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には小さな起伏を有する。

堆積土は黒褐色シルトを主体とし、層中には黄褐色シルト塊が微量含まれる。各小溝状遺構の堆積土から遺物は出土していない。

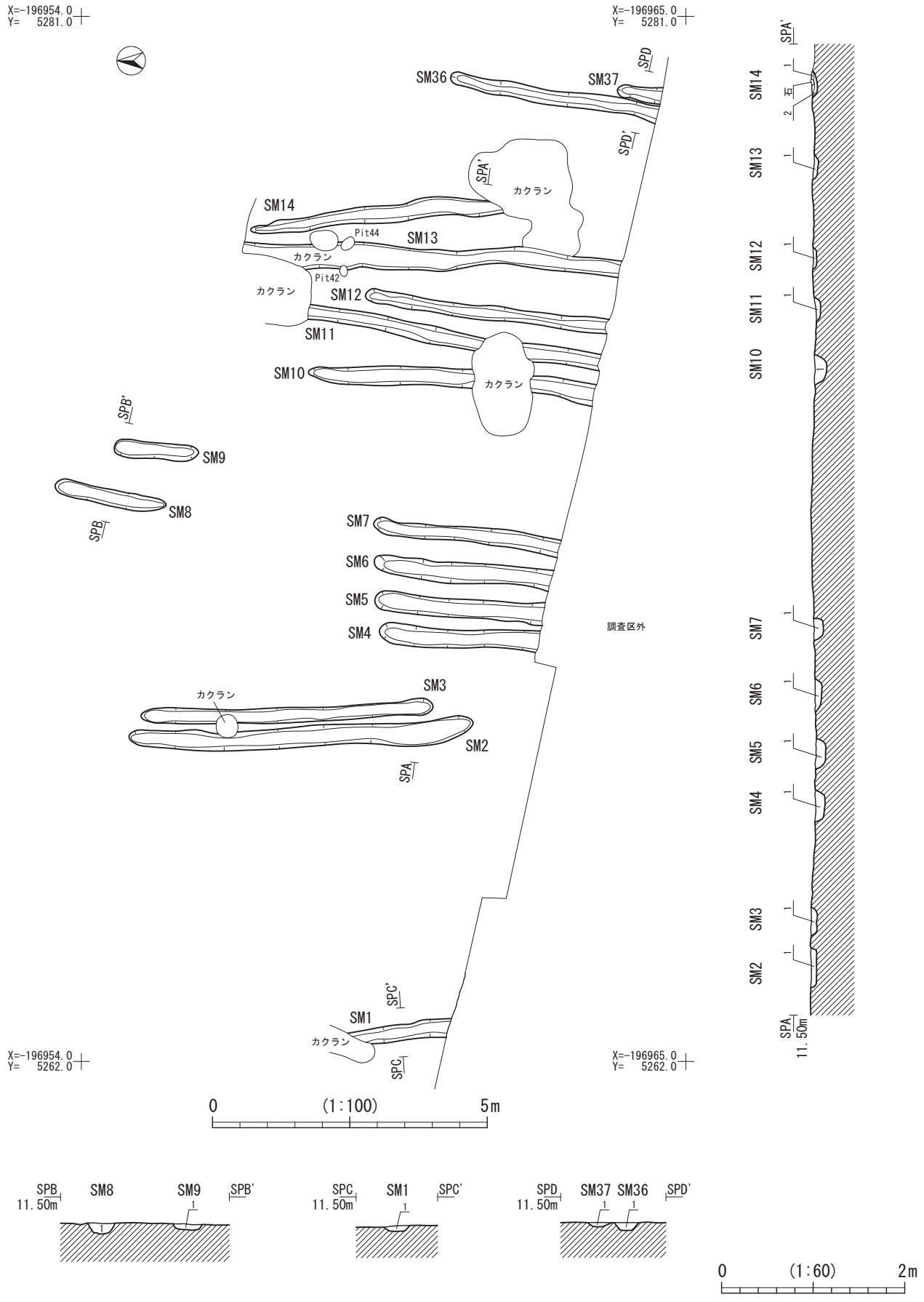
小溝状遺構D群(第58図)

調査区中央より東寄りに位置し、54・55グリッドにかけて検出された。小溝状遺構D群は、南北方向に伸びるSM69 ～ 74の6条によって構成される。重複関係では、SM69 ～ 72が天地返しよりも古い。主軸方位はN-0 ～ 10° -Wである。

規模は検出長で48 ～ 220cm、上端幅14 ～ 47cm、下端幅7 ～ 21cmを測り、検出面からの深さは5 ～ 9cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には小さな起伏を有する。



第５４図　Ⅳ区小溝状遺構Ａ～Ｆ群配置図



第５５図　Ⅳ区小溝状遺構Ａ群

小溝状遺構Ａ群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM1	13・14	N-7° -W	190 × 32	7	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM2	19 ～ 21	N-3° -W	627 × 47	10	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM3	20・21	N-3° -W	534 × 30	9	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM4	20・21	N-3° -E	290 × 39	10	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM5	20・21	N-5° -E	306 × 41	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM6	20・21	N-7° -E	324 × 39	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM7	20・21	N-7° -E	340 × 33	10	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM8	19・20	N-11° -E	205 × 30	15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SK1 → SM8
SM9	19・20	N-4° -E	153 × 34	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM10	20・21	N-4° -E	520 × 40	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM11	21・27・28	N-10° -E	535 × 33	12	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM12	27・28	N-7° -E	442 × 30	7	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM13	27・28	N-2° -E	690 × 49	10	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SM13 → Pit42・44
SM14	27・28	N-6° -W	457 × 35	5	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。	
SM36	28	N-11° -E	381 × 29	7	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM37	28	N-10° -E	80 × 28	4	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	

堆積土は暗褐色シルトを主体とし、層中にはにぶい黄色シルト塊が少量含まれる。各小溝状遺構の堆積土から遺物は出土していない。

小溝状遺構Ｅ群（第60図）

調査区東側に位置し、60 ～ 63・67 ～ 70・74・75グリッドにかけて検出された。小溝状遺構Ｅ群は、南北方向に伸びるSM38 ～ 68・75 ～ 77の34条によって構成される。重複関係では、SM42・43・45・46・48・50・51・53・55・56・58・60・62・63・66がPitよりも古く、SM50はSM51より新しい。SM38・39、SM40 ～ 42、SM44 ～ 46は接しているが、新旧関係については不明である。主軸方位はN-0 ～ 12° -E及びN-1° -Wである。

規模は検出長で113 ～ 1357cm、上端幅は24 ～ 66cm、下端幅は6 ～ 45cmを測り、検出面からの深さは5 ～ 22cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には小さな起伏を有する。

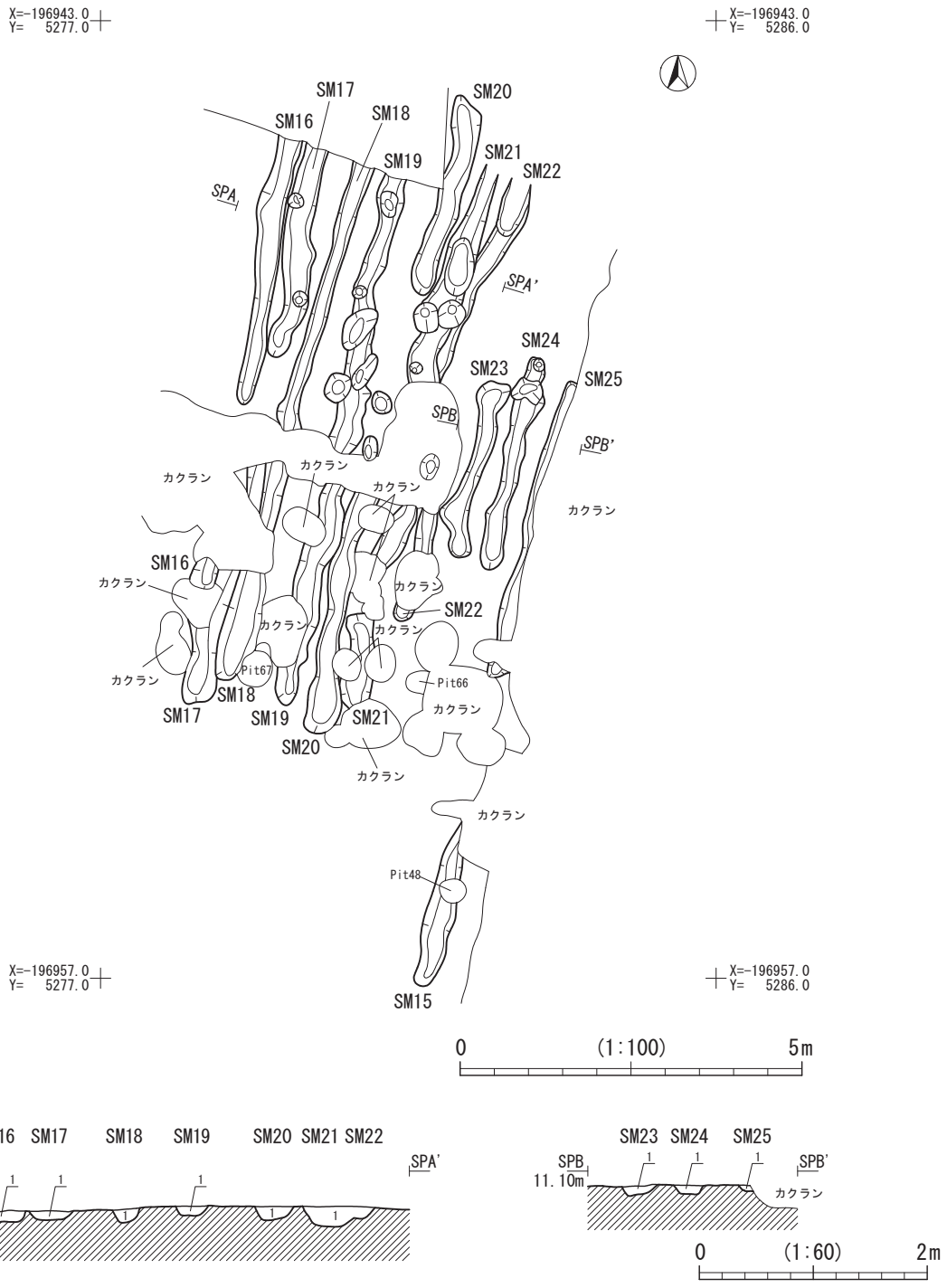
堆積土は暗褐色シルトを主体とし、層中にはにぶい黄色シルト塊が微量含まれる。各小溝状遺構の堆積土から遺物は出土していない。

小溝状遺構Ｆ群（第59図）

調査区北東壁際に位置し、66・67・71・72グリッドにかけて検出された。小溝状遺構Ｆ群は、北西－南東方向に伸びるSM162 ～ 179の18条によって構成される。重複関係では、SM162・164・168が天地返しよりも古い。SM162・163・165、SM164・166 ～ 169、SM170・171、SM172 ～ 175、SM176・177、SM178・179は接しているが、新旧関係については不明である。主軸方位はN-38 ～ 61° -Wである。

規模は検出長で140 ～ 856cm、上端幅は30 ～ 67cm、下端幅は7 ～ 49cmを測り、検出面からの深さは7 ～ 15cmである。断面形は逆台形を呈し、底面には小さな起伏を有する。

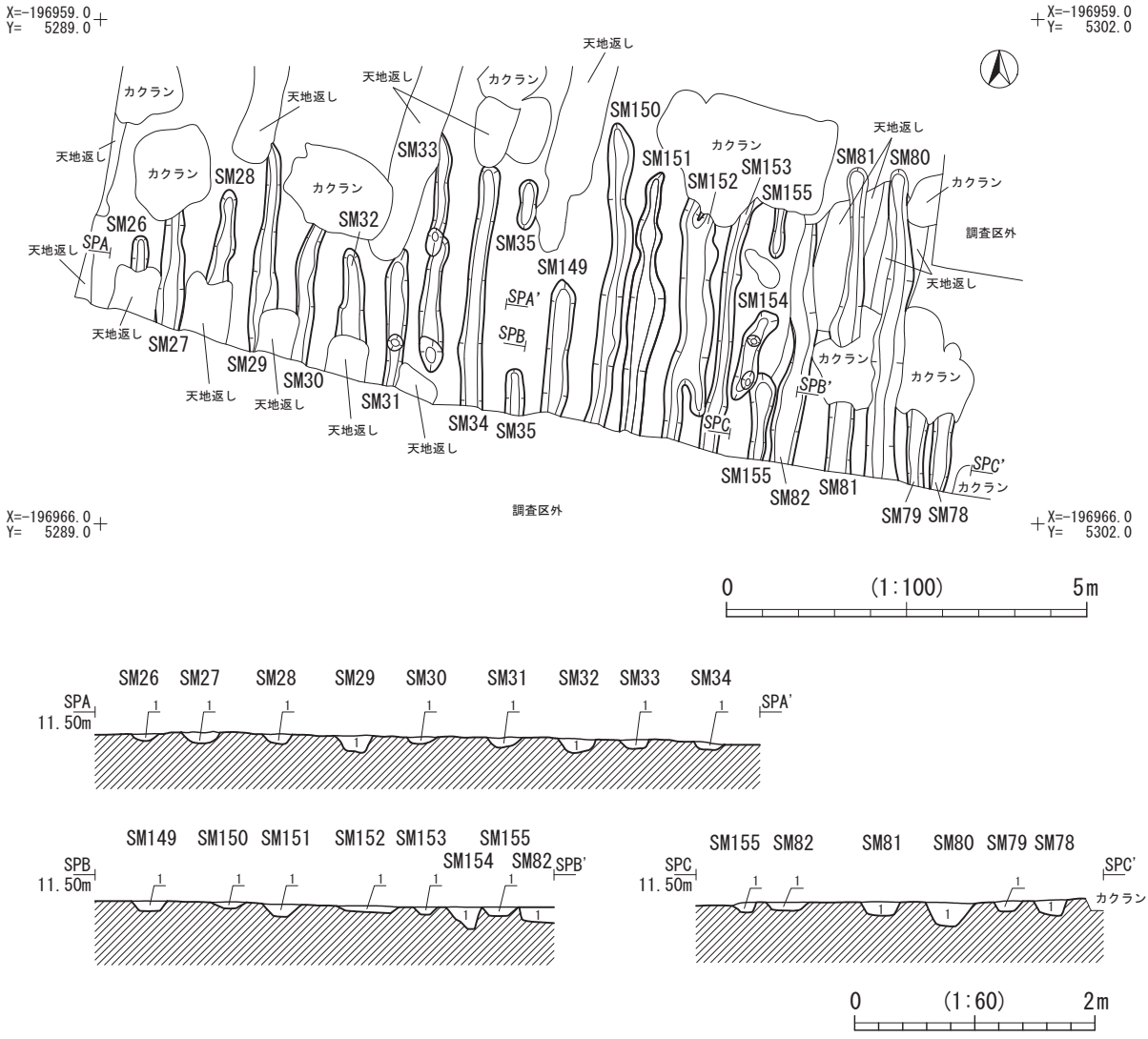
堆積土は灰黄褐色シルトを主体とするが、暗褐色の砂質シルトも一部に認められる。層中にはにぶい黄色シルト塊が微量含まれる。各小溝状遺構の堆積土から遺物は出土していない。



小溝状遺構B群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM15	26・27	N-15° -E	246 × 45	8	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	SM15→Pit48
SM16	24・25	N-10° -E	670 × 40	14	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	
SM17	24 ～ 26	N-12° -E	880 × 50	19	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	
SM18	25・26	N-15° -E	780 × 53	22	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	SM18→Pit67
SM19	25・26	N-11° -E	788 × 45	16	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	
SM20	25・26	N-13° -E	821 × 50	24	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	
SM21	25・26	N-17° -E	770 × 47	13	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	SM21→SM22
SM22	25・26	N-27° -E	618 × 33	11	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	SM21→SM22
SM23	25・26	N-13° -E	261 × 45	17	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	
SM24	25・26	N-13° -E	318 × 43	11	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	
SM25	25・26	N-16° -E	450 × (25)	9	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	黄褐色砂を斑紋状に少量含む。	

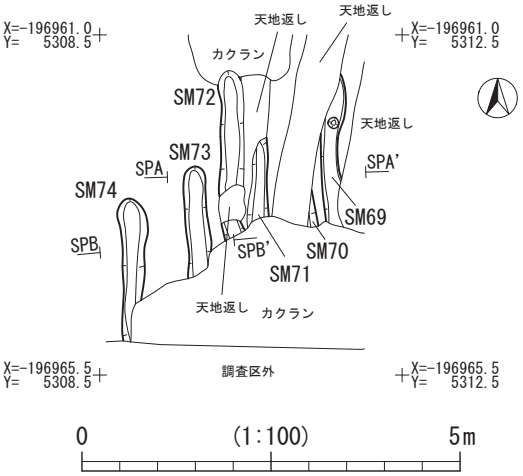
第５６図　Ⅳ区小溝状遺構B群

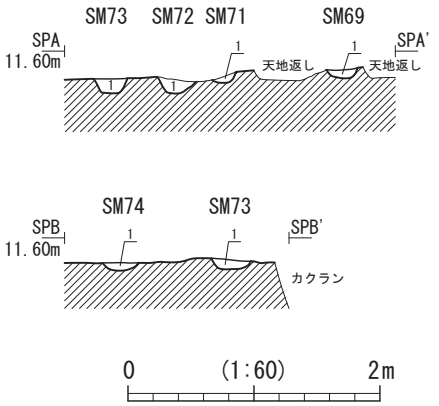


小溝状遺構C群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM26	34	N-2° -E	48 × 23	9	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM27	34	N-4° -E	115 × 37	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM28	34	N-9° -E	132 × 30	6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM29	34	N-5° -E	290 × 40	15	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM30	34	N-7° -E	185 × 28	9	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM31	34	0°	121 × 42	8	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM32	34	N-3° -E	190 × 32	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM33	34	N-4° -E	330 × 33	8	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM34	34	N-5° -E	332 × 34	6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM35	35・42	N-4° -E	325 × 26	4	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ 1cmの 2.5Y6/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM78	42	N-6° -E	120 × 25	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ 1cmの 2.5Y6/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM79	42	N-4° -E	115 × 30	6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ 1cmの 2.5Y6/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM80	42	N-4° -E	430 × 38	18	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ 1cmの 2.5Y6/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM81	42	N-4° -E	426 × 38	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ 1cmの 2.5Y6/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM82	42	N-7° -E	333 × 40	6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ 1cmの 2.5Y6/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM149	42	N-6° -E	184 × 35	9	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM150	42	N-5° -E	417 × 35	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM151	42	N-7° -E	360 × 48	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM152	42	N-6° -E	334 × 50	9	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM153	42	N-7° -E	358 × 29	7	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM154	42	N-20° -E	130 × 31	16	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SM154→SM155
SM155	42	N-6° -E	344 × 36	7	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SM154→SM155

第５７図　Ⅳ区小溝状遺構Ｃ群





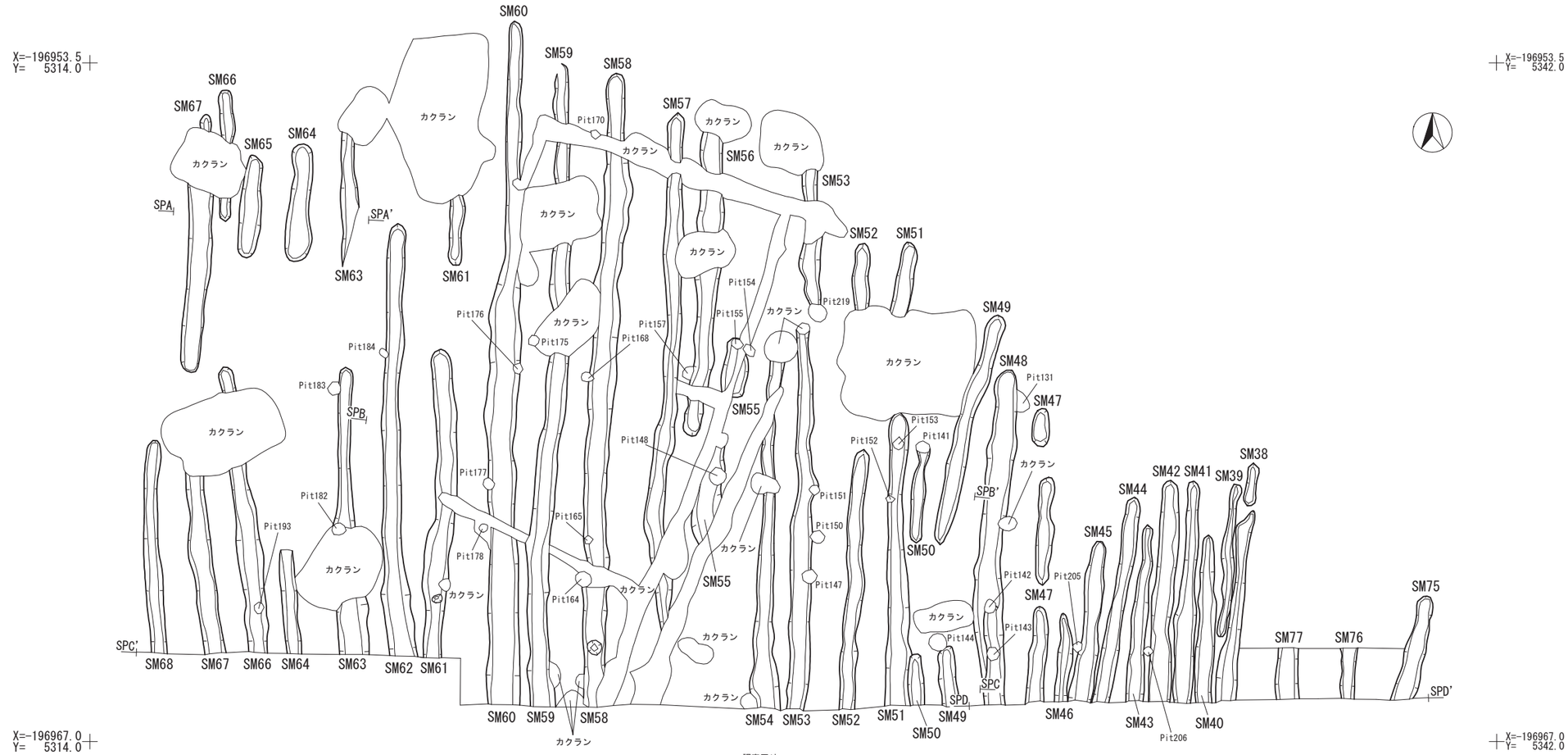
小溝状遺構Ｄ群　観察表

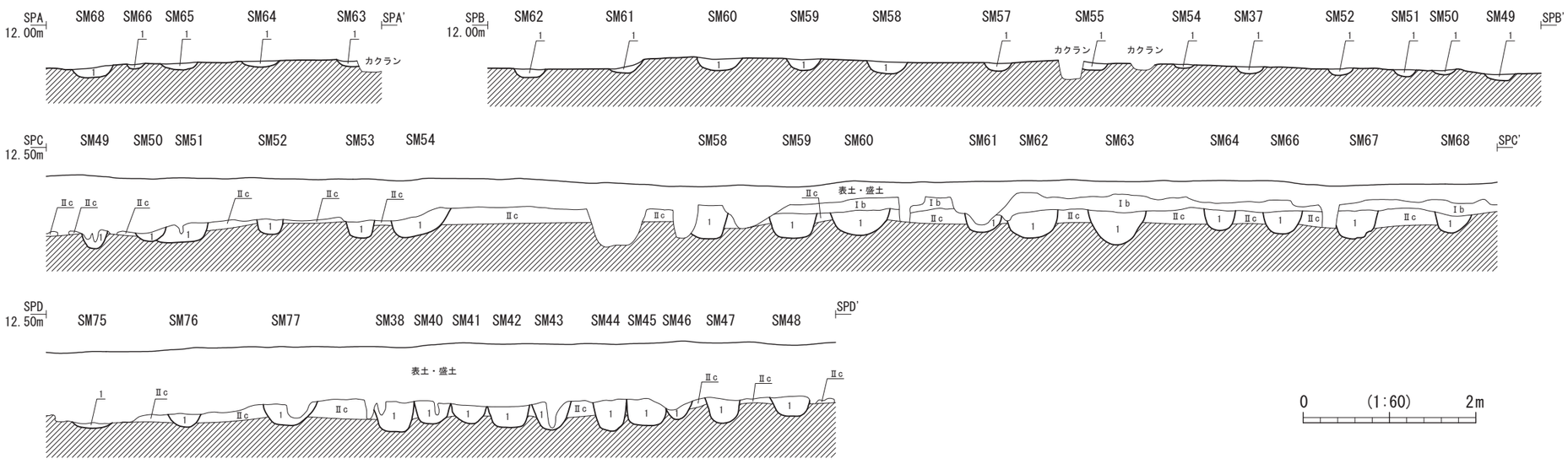
遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM69	54	N-3° -W	201 × 24	7	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM70	54	N-10° -W	48 × 14	8	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM71	54	N-1° -W	105 × 28	9	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM72	54	N-2° -W	220 × 32	5	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM73	54	N-3° -W	143 × 41	8	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM74	54・55	0°	190 × 47	7	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	

第５８図　Ⅳ区小溝状遺構Ｄ群

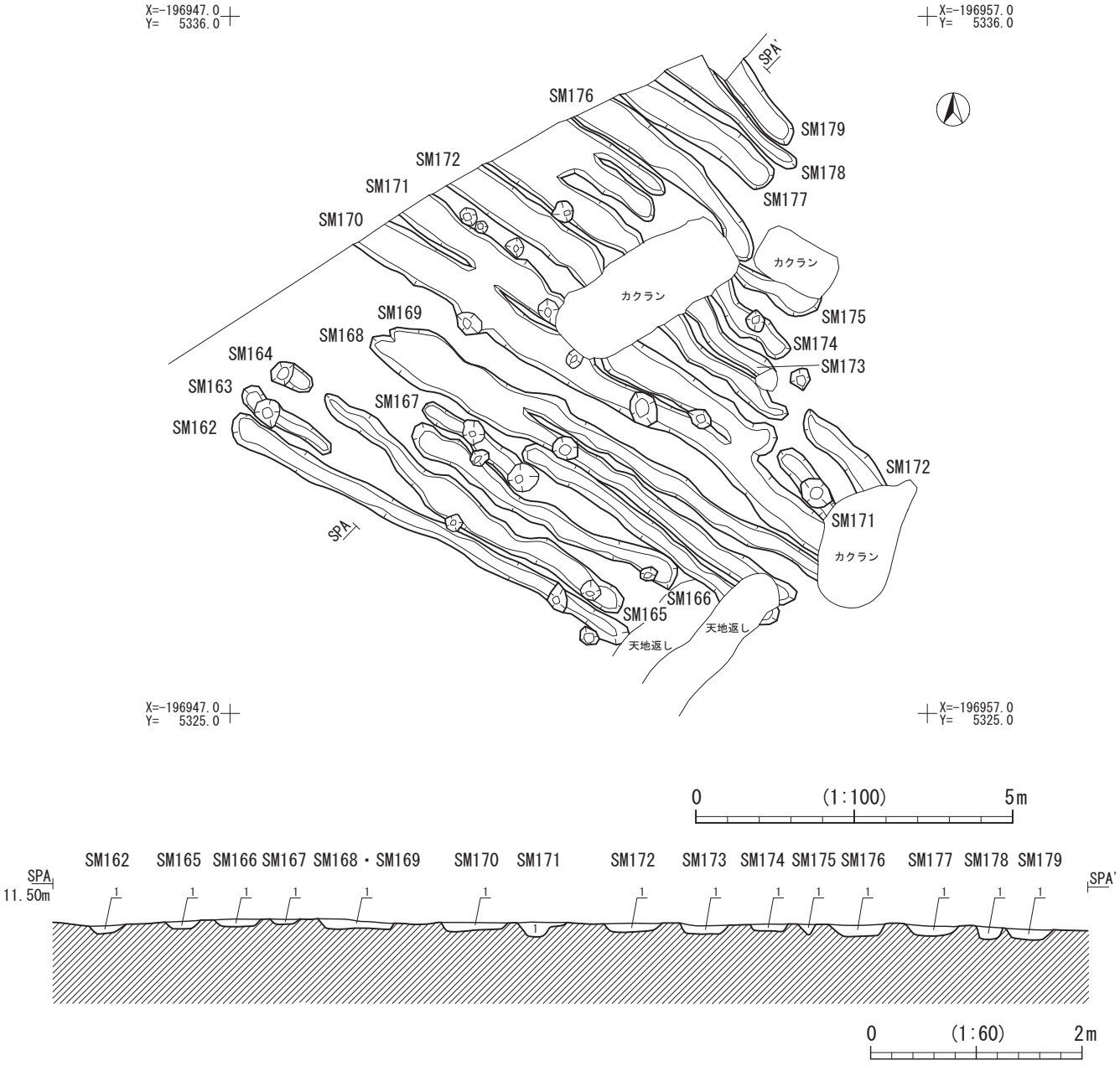
小溝状遺構Ｅ群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM38	74・75	N-7° -E	475 × 41	18	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM39	74・75	N-6° -E	307 × 24	5	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM40	74・75	N-1° -E	332 × 37	12	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM41	74・75	N-3° -E	440 × 45	8	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM42	74・75	N-3° -E	440 × 46	9	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	SM42→Pit206
SM43	69・74	N-5° -E	350 × 35	11	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	SM43→Pit206
SM44	69・70	N-10° -E	413 × 34	5	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM45	69・70	N-7° -E	319 × 46	9	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM45→Pit205
SM46	69・70	N-1° -E	176 × 30	12	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM46→Pit205
SM47	69・70	N-3° -E	584 × 36	16	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM48	68 ～ 70	N-5° -E	669 × 60	14	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM48 → Pit142・143
SM49	68 ～ 70	N-15° -E	785 × 38	7	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM50	68 ～ 70	0°	505 × 33	9	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM51→SM50 → Pit141
SM51	68 ～ 70	N-2° -E	918 × 51	13	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM51→SM50 →Pit152・153
SM52	68 ～ 70	N-1° -E	924 × 32	8	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM53	68 ～ 70	0°	1076 × 42	19	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM53→Pit147・150・151
SM54	68 ～ 70	N-2° -E	691 × 58	18	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM55	68・69	N-3° -E	411 × 49	14	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM55→Pit148・154・155
SM56	67 ～ 69	N-2° -E	602 × 53	16	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM56→Pit157
SM57	67 ～ 69	N-2° -E	1030 × 40	16	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM58	60 ～ 63	N-3° -E	1259 × 55	20	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM58→ Pit164・165・168
SM59	60 ～ 63	N-1° -E	1278 × 49	18	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM60	60 ～ 63	N-1° -E	1357 × 66	19	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM60 → Pit176 ・177
SM61	61・62	N-3° -E	917 × 50	15	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM62	61・62	N-1° -E	857 × 58	18	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM62→Pit184
SM63	61・62	N-1° -E	1035 × 64	22	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM63 → Pit182・183
SM64	61・62	N-4° -E	1010 × 53	10	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM65	61・62	N-4° -E	204 × 53	7	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM66	60・61	N-1° -E	1118 × 52	20	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SM66→Pit193
SM67	61・62	N-4° -E	1070 × 49	12	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM68	62	N-1° -W	422 × 35	11	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
SM75	74・75	N-12° -E	209 × 45	6	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM76	75	N-3° -E	113 × 33	5	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM77	75	0°	114 × 46	16	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	





第５９図　Ⅳ区小溝状遺構Ｅ群



小溝状遺構Ｆ群　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM162	66・67	N-61° -W	708 × 36	9	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM163	66・67	N-60° -W	170 × 44	8	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM164	66・67	N-55° -W	657 × 62	9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM165	66・67	N-60° -W	475 × 43	10	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM166	66・67	N-55° -W	215 × 43	7	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM167	66・67	N-57° -W	480 × 34	9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM168	66・67	N-59° -W	780 × 36	12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM169	66・67	N-61° -W	772 × 40	12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM170	66・67	N-56° -W	(856) × 67	10	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM171	66・67・71	N-56° -W	(812) × 64	15	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM172	66・67・71	N-53° -W	(812) × 58	10	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM173	67・71・72	N-50° -W	(562) × 56	11	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM174	67・71・72	N-47° -W	(518) × 42	9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM175	67・72	N-53° -W	(500) × 30	12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM176	67・72	N-46° -W	(340) × 42	13	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM177	67・72	N-55° -W	(254) × 55	13	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM178	72	N-45° -W	(242) × 44	14	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
SM179	72	N-38° -W	(140) × 46	12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm程の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	

第６０図　Ⅳ区小溝状遺構Ｆ群

(2)杭列(第61 ～ 64図)

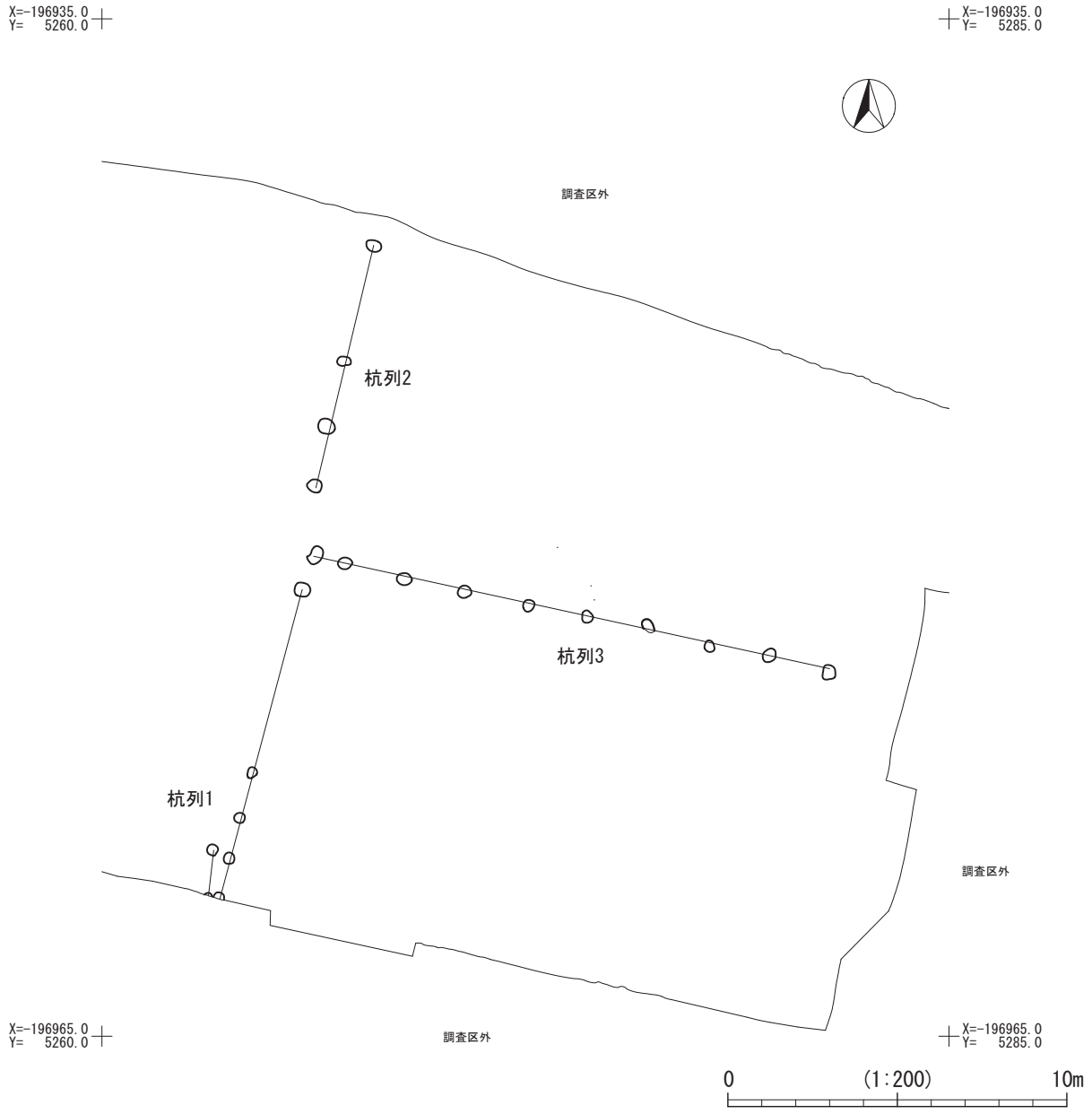
杭列は、基本層Ⅱc層上面で4条が検出された。調査区西側に3条(杭列1 ～ 3)、東側に1条(杭列4)である。ここでは区画性を示す杭列1 ～ 3の個別図を掲載した。東側の杭列4は、南北方向に展開する天地返しの東側を隔する杭列状の施設と考えられる。

ピット内からはガラス片やコンクリート片などが出土したほか、一部の杭列では腐食した杭先の木質部がピット内に残存していた。時期については、上述したように近代以降と考えられる。

以下では個々について詳細を述べる。

杭列1(第62図)

杭列1は、Ⅳ区西側の12・13グリッドに位置し、南側は調査区外に伸びることが考えられる。本杭列は等間隔に並んだP1 ～ P4と、この延長線上のP5を加えた5本の杭で構成された遺構である。なお、本列の西側で確認されたP6・P7は別の杭列を構成すると考えられる。



第61図　Ⅳ区杭列配置図

杭列の長さは、心々間で南北935cmを測る。それぞれの柱間寸法は、P1 ～ P4では125cm等間であるが、北端のP5とP4間の距離は560cmである。主軸方位はN-16°-Eである。

杭の掘り方の平面形は、円形ないしは楕円形を呈する。規模は長軸32 ～ 46cm、短軸28 ～ 42cm、深さ11 ～ 36cmを測る。また、すべてに杭痕跡が確認され、その中で残存していた杭材は径15cm前後である。

杭列2（第63図）

杭列2は、Ⅳ区西側の17・18グリッドに位置する。北側が調査区外に伸びることも考えられる。現状では南北に並ぶ4本の杭（P1 ～ P4）で構成された遺構である。

杭列の長さは、心々間で735cmを測る。それぞれの柱間寸法は、P1-P2間が180cm、P2-P3間が205cm、P3-P4間が350cmである。主軸方位はN-16°-Eである。

杭の掘り方の平面形は、楕円形を呈する。規模は長軸32 ～ 52cm、短軸22 ～ 44cmを測り、深さは31 ～ 36cmである。また、すべてに杭痕跡が確認され、同様に杭材は径14 ～ 16cmの太さである。

杭列3（第64図）

杭列3は、Ⅳ区西側の19・26グリッドに位置し、東西に並ぶ10本の杭から構成された遺構である。杭列の長さは、心々間で1550cmを測る。それぞれの柱間寸法は、P1-P2間が90cm、P2-P3間が180cm、P3-P4間が185cm、P4-P5間が195cm、P5-P6間が170cm、P6-P7間が180cm、P7-P8間が180cm、P8-P9間が190cm、P9-P10間が180cmである。西端にあるP1は、杭列1とほぼ直交している。主軸方位はN-78°-Wである。

杭の掘り方の平面形は、概ね楕円形を呈する。規模は長軸35 ～ 56cm、短軸28 ～ 36cm、深さ23 ～ 57cmを測る。また、P1 ～ P7・P9・P10で杭痕跡が確認され、杭材は径12 ～ 18cmの太さである。

(3) 土坑（第65図）

土坑はⅣ区最上面であるⅡc層上面で3基（SK1 ～ 3）が検出され、いずれも調査区の西側で確認された。規模と形状には差異が認められる。土坑内の出土遺物は少なく、SK1において土師器甕の小破片が出土した程度である。

以下、各遺構ごとに詳細を述べる。

SK1　土坑（第65図）

Ⅳ区南西側の19グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。規模は長軸148cm、短軸64cm、深さ24cmを測る。底面はやや起伏があり、壁は開きぎみに立ち上がる。堆積土は砂質シルトで2層に分かれる。

SK2　土坑（第65図）

Ⅳ区南西側の19グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。規模は長軸67cm、短軸60cm、深さ15cmを測る。底面はやや起伏を有し、壁は開きぎみに立ち上がる。堆積土は砂質シルトで2層に分かれる。

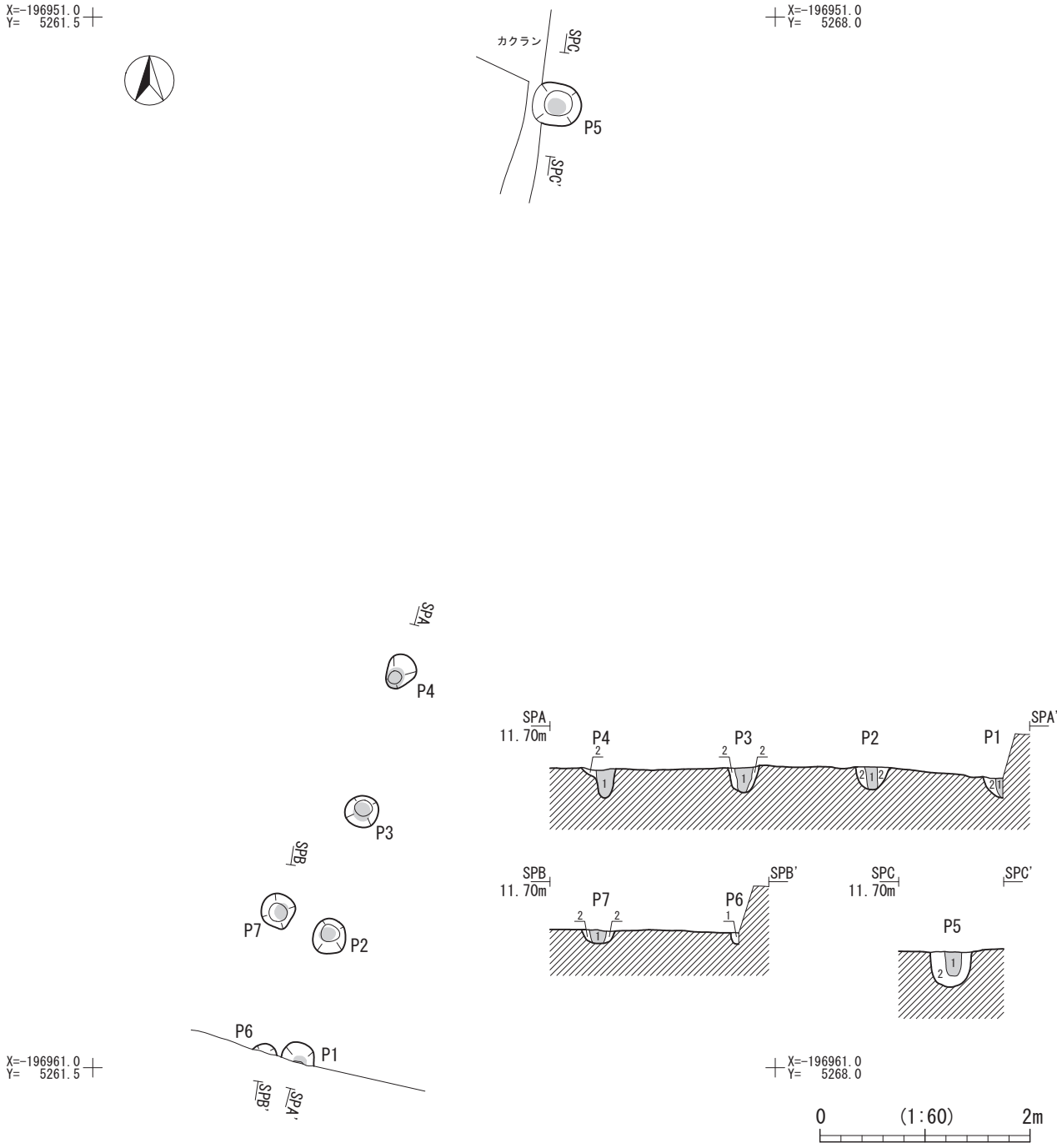
SK3　土坑（第65図）

Ⅳ区南西側の19グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長軸現存長120cm、短軸94cm、深さ19cmを測る。底面はやや起伏を有し、壁は開きぎみに立ち上がる。堆積土は砂質シルトで2層に分かれる。

(4) ピット（第66・67図）

Ⅱc層上面で184基（Pit1 ～ 54・63 ～ 67・91 ～ 129・140 ～ 207・236・279・280・286・287・293・297・298）のピットが検出された。調査区の東西に分かれて認められる。また、Ⅴ区の西端部にもピットが確認されている。ピットは規模・形状ともそれぞれ異なっているが、規模は概ね20 ～ 40cm台のものが多い。他遺構との重複関係では、小溝状遺構群よりも新しい。ピットからの出土遺物は少なく、わずかに土師器の細破片が出土した程度である。

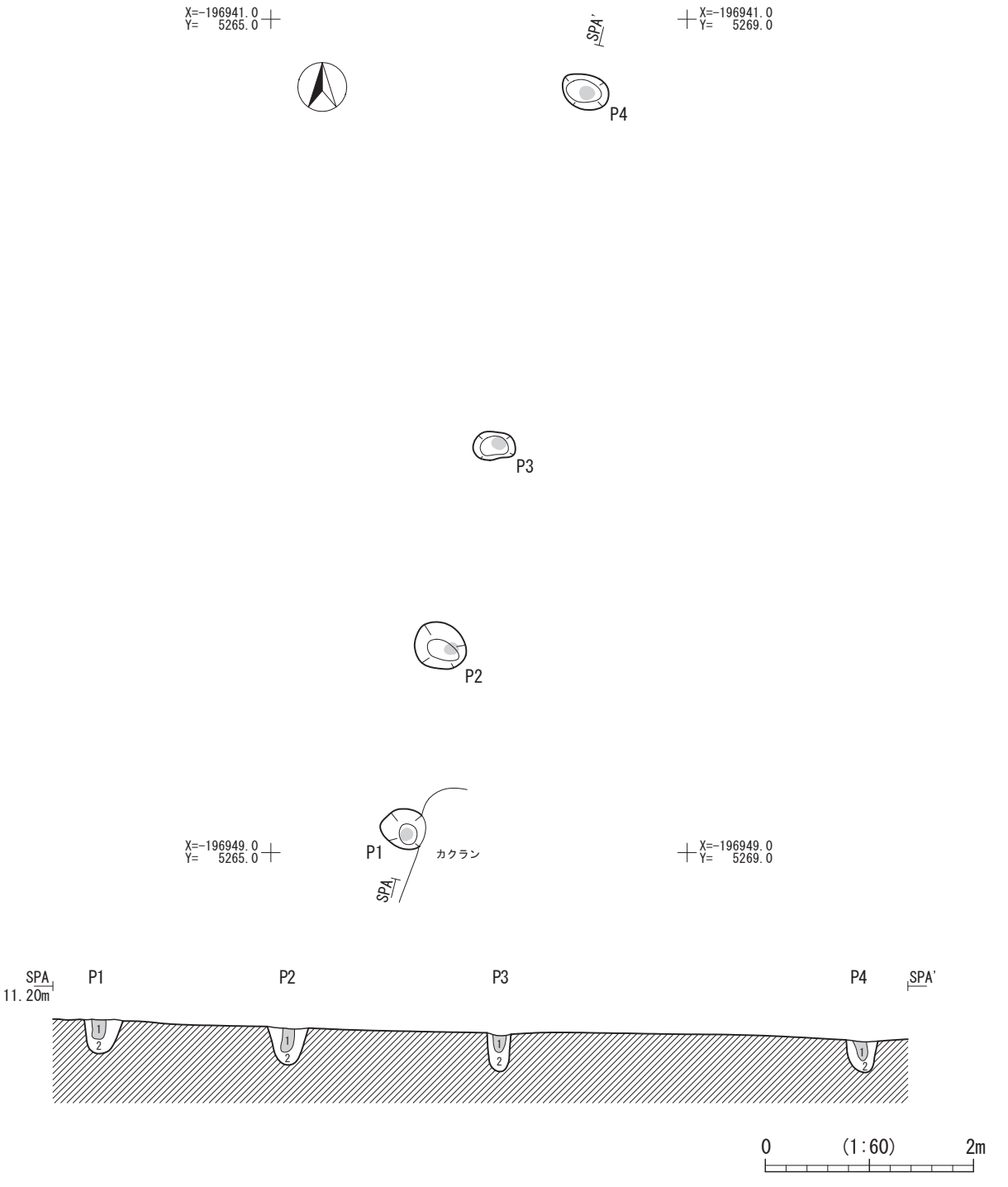
個々の詳細は観察表に記載した。



杭列1　堆積土註記表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	13	（円形）	32 × −	23	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P2	13	円形	34 × 32	29	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P3	13	円形	28 × 28	30	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P4	13	楕円形	34 × 28	35	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P5	12	楕円形	46 × 42	36	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P6	13	（円形）	−	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P7	13	円形	30 × 30	25	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	

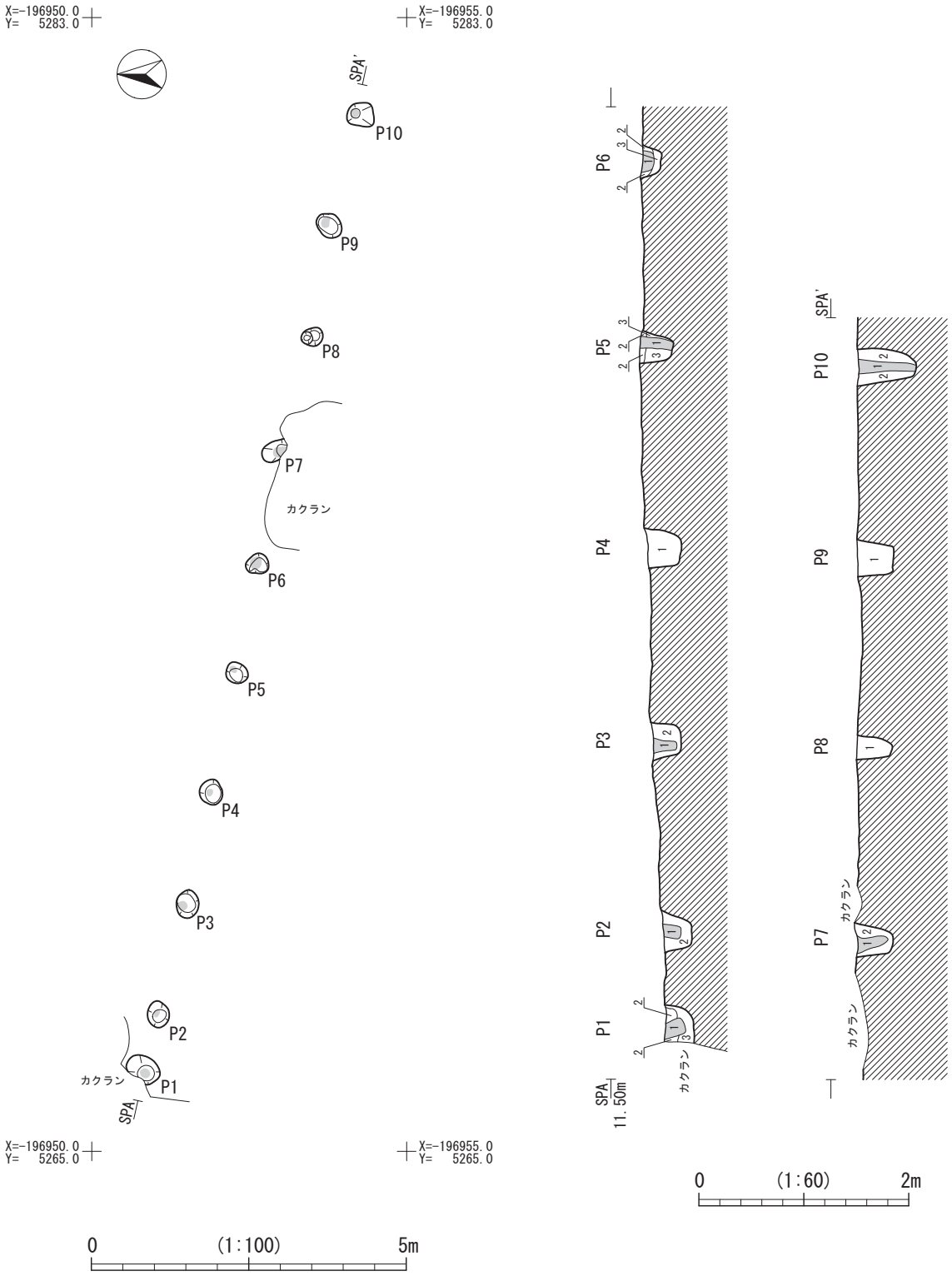
第６２図　Ⅳ区杭列１



杭列2　堆積土註記表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	18	楕円形	44 × 36	36	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P2	18	楕円形	52 × 44	36	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P3	18	楕円形	40 × 29	35	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P4	17	楕円形	32 × 22	31	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	

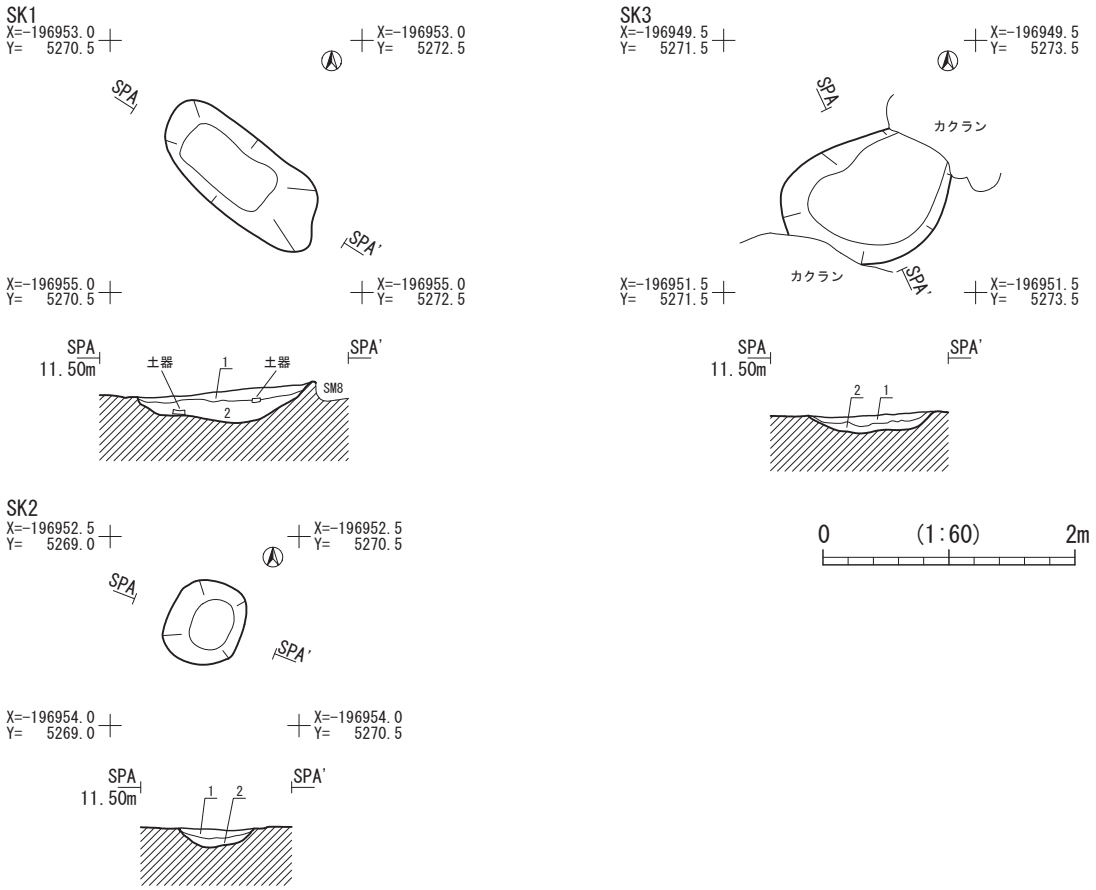
第６３図　Ⅳ区杭列２


X=-196950.0
Y= 5283.0
X=-196955.0
Y= 5283.0
SPA'
P10
P9
P8
P7
カクラン
P6
P5
P4
P3
P2
カクラン
P1
SPA
X=-196950.0
Y= 5265.0
X=-196955.0
Y= 5265.0
0 (1:100) 5m
P6
P5
P4
P3
P2
P1
SPA
11.50m
カクラン
SPA'
P10
P9
P8
カクラン
P7
カクラン
0 (1:60) 2m

第６４図　Ⅳ区杭列３

杭列3　堆積土註記表

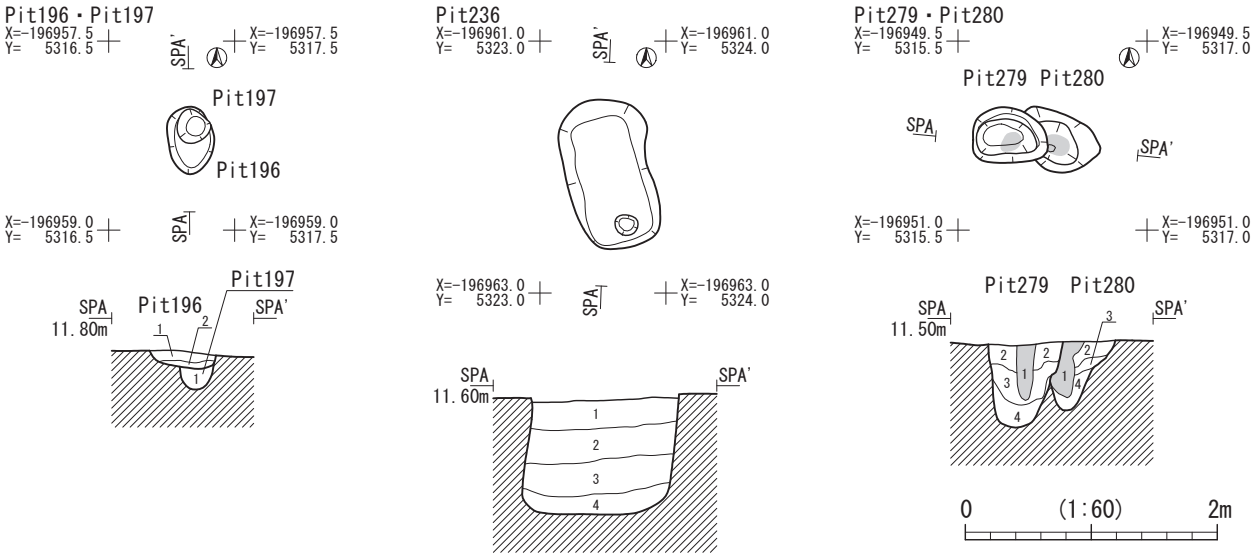
遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	19	楕円形	56 × −	34	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P2	19	楕円形	40 × 35	35	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土塊を微量含む。	
					2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
P3	19	楕円形	45 × 36	38	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
					2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
P4	19	楕円形	40 × 36	43	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P5	19	楕円形	36 × 32	23	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。炭化物を少量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P6	19	楕円形	37 × 30	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土塊を微量含む。締まりと粘性が弱い。	
					2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
P7	26	（楕円形）	− × 28	40	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
					2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
P8	26	楕円形	35 × 28	35	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P9	26	楕円形	43 × 35	37	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	
P10	26	楕円形	42 × 36	57	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	杭材残存。2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。ややグライ化している。	



SK1 ～ 3土坑　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
SK1	Ⅳ区	19	隅丸長方形	148 × 64	24	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
						2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量、φ5mmの炭化物を微量含む。	
SK2	Ⅳ区	19	円形	67 × 60	15	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
						2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量、φ5mmの炭化物を微量含む。	
SK3	Ⅳ区	19	楕円形	− × 94	19	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
						2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	

第６５図　Ⅳ区土坑（Ⅱｃ層上面）



ピット（Ⅱc層上面） 観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit1	Ⅳ区	17	楕円形	48 × 29	22	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit2	Ⅳ区	17	不整楕円形	46 × 32	22	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit3	Ⅳ区	17	楕円形	65 × 44	25	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit4	Ⅳ区	17	円形	31 × 30	10	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit5	Ⅳ区	17	楕円形	－ × 22	12	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit6	Ⅳ区	17	円形	30 × 30	16	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit7	Ⅳ区	10・17	円形	28 × 21	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit8	Ⅳ区	17	円形	19 × 17	13	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit9	Ⅳ区	17	（円形）	－ × 32	17	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit10	Ⅳ区	17	円形	45 × 37	23	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit11	Ⅳ区	17	円形	50 × 41	24	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit12	Ⅳ区	17	円形	46 × 35	23	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit13	Ⅳ区	17	円形	34 × 23	13	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit14	Ⅳ区	17	円形	43 × 37	21	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit15	Ⅳ区	17	（円形）	－ × 21	9	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit16	Ⅳ区	17	円形	33 × 28	22	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit17	Ⅳ区	10	円形	33 × 27	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit18	Ⅳ区	10	楕円形	71 × 36	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit19	Ⅳ区	10	円形	32 × 27	22	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit20	Ⅳ区	17	円形	34 × 26	25	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit21	Ⅳ区	17	円形	31 × 22	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit22	Ⅳ区	17	円形	39 × 31	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit23	Ⅳ区	17	円形	32 × 27	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit24	Ⅳ区	17	円形	30 × 24	21	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit25	Ⅳ区	17	（円形）	21 × －	20	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit26	Ⅳ区	10	楕円形	51 × 35	19	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit27	Ⅳ区	10	円形	33 × 27	24	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit28	Ⅳ区	11	円形	40 × 39	43	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit29	Ⅳ区	11	円形	25 × 23	22	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit30	Ⅳ区	11・12	円形	23 × 22	17	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit31	Ⅳ区	11	円形	33 × 26	14	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit32	Ⅳ区	12	円形	26 × 21	16	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit33	Ⅳ区	5	円形	38 × 28	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit34	Ⅳ区	13	円形	30 × 27	29	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量含む。	
Pit35	Ⅳ区	18	円形	24 × 24	15	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit36	Ⅳ区	18	円形	27 × 21	22	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。	
Pit37	Ⅳ区	13	円形	32 × 25	14	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit38	Ⅳ区	20	円形	26 × 24	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit39	Ⅳ区	20	円形	43 × 32	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit40	Ⅳ区	13・14	円形	33 × 20	6	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit41	Ⅳ区	14	円形	22 × 20	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit42	Ⅳ区	27	楕円形	20 × 14	13	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit43	Ⅳ区	27	円形	19 × 17	9	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	

第６６図　Ⅳ区ピット（Ⅱc層上面）

第６７図　Ⅳ区ピット配置図（Ⅱｃ層上面）

ピット（Ⅱc層上面） 観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit44	Ⅳ区	27	楕円形	28 × 19	22	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit45	Ⅳ区	27	円形	23 × 21	25	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit46	Ⅳ区	27	円形	33 × 31	16	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit47	Ⅳ区	27	円形	35 × 29	9	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit48	Ⅳ区	27	円形	40 × 37	10	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit49	Ⅳ区	27	円形	18 × 18	14	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit50	Ⅳ区	27	円形	19 × 14	20	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit51	Ⅳ区	28	（円形）	28 × －	14	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit52	Ⅳ区	19	円形	31 × 26	18	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit53	Ⅳ区	26	円形	35 × 28	17	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit54	Ⅳ区	26	円形	39 × 34	26	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。	
Pit63	Ⅳ区	33	（楕円形）	－ × 25	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit64	Ⅳ区	33	（楕円形）	－ × 27	30	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit65	Ⅳ区	26	（円形）	－ × 25	30	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit66	Ⅳ区	26	（楕円形）	－ × 34	39	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂粒を微量含む。	
Pit67	Ⅳ区	26	（円形）	－ × 55	18	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3㎝程の 2.5Y5/6 黄褐色シルトを少量含む。	
Pit91	Ⅳ区	67	楕円形	58 × 42	24	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit92	Ⅳ区	67	円形	26 × 23	33	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit93	Ⅳ区	67	円形	34 × 28	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit94	Ⅳ区	67	楕円形	43 × 31	25	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit95	Ⅳ区	67	円形	35 × 32	17	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit96	－	－	－	－	－	－	－	－	－	杭列に変更のため欠番。	
Pit97	Ⅳ区	66	円形	21 × 21	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit98	Ⅳ区	66	楕円形	30 × 21	20	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit99	Ⅳ区	66	楕円形	33 × 19	21	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit100	Ⅳ区	66	楕円形	39 × 29	34	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit101	Ⅳ区	66	楕円形	35 × 28	29	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit102	－	－	－	－	－	－	－	－	－	杭列に変更のため欠番。	
Pit103	Ⅳ区	66	円形	28 × 26	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit104	Ⅳ区	66	楕円形	27 × 19	17	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit105	Ⅳ区	66	円形	27 × 21	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit106	Ⅳ区	66	円形	22 × 21	6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit107	Ⅳ区	66	円形	27 × 25	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit108	Ⅳ区	66	円形	31 × 29	13	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit109	－	－	－	－	－	－	－	－	－	杭列に変更のため欠番。	
Pit110	－	－	－	－	－	－	－	－	－	杭列に変更のため欠番。	
Pit111	－	－	－	－	－	－	－	－	－	杭列に変更のため欠番。	
Pit112	Ⅳ区	66	楕円形	48 × 32	42	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit113	Ⅳ区	66	円形	29 × 23	21	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit114	Ⅳ区	66	円形	24 × 19	10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit115	Ⅳ区	66	円形	27 × 23	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit116	Ⅳ区	66	円形	22 × 21	8	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit117	Ⅳ区	67	円形	30 × 30	13	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit118	Ⅳ区	66・67 71・72	円形	20 × 20	7	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit119	Ⅳ区	71	円形	29 × 26	15	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit120	Ⅳ区	74・75	円形	21 × 19	32	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit121	Ⅳ区	74・75	円形	24 × 19	8	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit122	Ⅳ区	74	円形	34 × 28	12	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit123	Ⅳ区	68・73	円形	33 × 31	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit124	Ⅳ区	68・73	楕円形	66 × 53	32	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit125	Ⅳ区	68	円形	18 × 16	14	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit126	Ⅳ区	73	円形	31 × 29	16	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit127	Ⅳ区	68・73	円形	30 × 27	17	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit128	Ⅳ区	73	楕円形	34 × 23	16	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit129	Ⅳ区	67・68	円形	33 × 32	13	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit140	Ⅳ区	68	円形	21 × 20	17	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を少量、2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit141	Ⅳ区	69	円形	29 × 24	15	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit142	Ⅳ区	69	円形	28 × 22	14	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit143	Ⅳ区	70	円形	28 × 27	16	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit144	Ⅳ区	69・70	円形	37 × 35	17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit145	Ⅳ区	69	円形	28 × 21	25	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit146	Ⅳ区	69	円形	34 × 34	9	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit147	Ⅳ区	69	円形	30 × 28	17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit148	Ⅳ区	69	円形	34 × 34	30	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit149	Ⅳ区	69	円形	35 × 30	10	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit150	Ⅳ区	69	円形	30 × 27	13	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit151	Ⅳ区	69	円形	24 × 22	16	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit152	Ⅳ区	69	円形	18 × 15	12	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit153	Ⅳ区	69	円形	26 × 23	9	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit154	Ⅳ区	68	楕円形	28 × 20	22	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit155	Ⅳ区	68	円形	25 × 21	19	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	

ピット（Ⅱc層上面） 観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit156	Ⅳ区	68	円形	23 × 18	15	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit157	Ⅳ区	68	（円形）	－ × 26	15	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit158	Ⅳ区	68	円形	35 × 26	15	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit159	Ⅳ区	68	円形	22 × 17	18	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit160	Ⅳ区	68	円形	34 × 28	21	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit161	Ⅳ区	62	円形	26 × 25	11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit162	Ⅳ区	62	円形	37 × 34	16	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit163	Ⅳ区	62	円形	29 × 23	22	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit164	Ⅳ区	62	円形	34 × 32	27	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit165	Ⅳ区	62	円形	18 × 17	30	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit166	Ⅳ区	62	円形	20 × 17	20	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit167	Ⅳ区	62	円形	22 × 21	33	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit168	Ⅳ区	61	楕円形	26 × 19	33	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit169	Ⅳ区	61	（円形）	－ × 31	13	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit170	Ⅳ区	60・61	円形	22 × 17	16	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit171	Ⅳ区	60	円形	21 × 19	11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit172	Ⅳ区	61	（円形）	－ × 19	11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit173	Ⅳ区	61	円形	21 × 17	25	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit174	Ⅳ区	61	円形	20 × 18	23	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit175	Ⅳ区	61	円形	24 × 21	27	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit176	Ⅳ区	61	円形	23 × 20	14	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit177	Ⅳ区	61	円形	27 × 23	22	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit178	Ⅳ区	62	円形	20 × 18	17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit179	Ⅳ区	62	円形	17 × 17	14	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit180	Ⅳ区	61・62	円形	28 × 22	36	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit181	Ⅳ区	62	円形	19 × 17	16	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit182	Ⅳ区	62	円形	29 × 25	17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit183	Ⅳ区	61・62	円形	24 × 20	12	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit184	Ⅳ区	61	円形	21 × 18	24	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit185	Ⅳ区	60	円形	28 × 23	25	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit186	Ⅳ区	67	楕円形	31 × 23	17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit187	Ⅳ区	66	円形	22 × 22	11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit188	Ⅳ区	59	円形	23 × 23	15	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit189	Ⅳ区	58	（楕円形）	－ × 25	8	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit190	Ⅳ区	59	円形	31 × 26	13	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit191	Ⅳ区	50・51	円形	34 × 30	32	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit192	Ⅳ区	51	円形	27 × 20	31	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit193	Ⅳ区	62	円形	24 × 20	25	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit194	Ⅳ区	61	円形	16 × 14	12	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit195	Ⅳ区	61	楕円形	30 × 23	14	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit196	Ⅳ区	61	楕円形	54 × 37	13	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
						2	10YR5/8	黄褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit197	Ⅳ区	61	円形	27 × 27	26	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3㎜の 10YR4/3 にぶい黄褐色シルトを含む。	
Pit198	Ⅳ区	60	円形	22 × 21	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit199	Ⅳ区	60	円形	23 × 21	19	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit200	Ⅳ区	60	円形	23 × 21	22	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit201	Ⅳ区	52	円形	21 × 19	14	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit202	Ⅳ区	52	円形	32 × 28	26	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit203	Ⅳ区	53	（円形）	－ × 34	12	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit204	Ⅳ区	54	円形	18 × 15	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit205	Ⅳ区	70	円形	22 × 19	25	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit206	Ⅳ区	70・75	円形	23 × 20	40	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit207	Ⅳ区	75	円形	26 × 24	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
Pit236	Ⅳ区	62	隅丸長方形	121 × 65	100	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	炭化物、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊・2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。	
						2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。	
						3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
						4	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルトを少量含む。	
Pit279	Ⅳ区	60	楕円形	60 × －	75	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まり弱く、粘性をやや有する。柱痕跡。	
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/3 黄褐色シルトを少量、φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量含む。	
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y5/3 黄褐色シルト塊を含む。	
						4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 3㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を多く含む。	
Pit280	Ⅳ区	60	楕円形	65 × －	70	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を多く含む。柱痕跡。	
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性をやや有する。	
						3	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を多く含む。	
						4	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	締まりと粘性をやや有する。	
Pit286	Ⅳ区	54	円形	17 × 14	23	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit287	Ⅳ区	54	円形	20 × 15	25	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit293	Ⅳ区	60	円形	25 × 25	19	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit297	Ⅳ区	54	（円形）	19 × 16	19	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
Pit298	Ⅳ区	54	円形	18 × 17	22	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	

第６８図　Ⅳ区遺構配置図（Ⅳａ層上面）

第３節　古墳時代後期～終末期の遺構と遺物（第68 ～ 144図）

基本層Ⅳａ層上面で検出された古墳時代後期～終末期の遺構は、竪穴住居跡15軒、竪穴遺構１基、掘立柱建物跡6棟、柱穴列6条、材木列１条、土坑6基、性格不明遺構9基、ピット106基、整地層１ヶ所である。整地層は、郡山官衙期の遺構の構築に伴う可能性が考えられる。

出土遺物には、土師器、須恵器、瓦、土製品、鉄製品、石製品、礫石器、剥片石器、自然遺物（骨片、炭化種子、炭化材）などがあり、大部分が土師器で占められている。調査時の出土遺物の総量は、平箱に約36箱である。遺構別の出土量では、竪穴住居跡からの出土が最も多く、SI1・SI6・SI8・SI13のカマド周辺においては土師器甕を主体とする一括資料が出土している。

(1)竪穴住居跡（第69 ～ 109図）

Ⅳ区では、竪穴住居跡15軒、竪穴遺構１基が検出された。

SI1　竪穴住居跡（第69 ～ 71図）

[位置・残存] Ⅳ区南側中央付近の27・28グリッドに位置する。上部に近代の耕作痕（天地返し）と小溝状遺構群による削平を受けて西辺と床面の一部が撹乱される。

[重複] 新旧関係は、SM36・SM37よりも古く、SI2・SI3よりも新しい。

[規模・形態] 規模は南北（長軸）392㎝、東西（短軸）378㎝を測り、平面形は方形を呈する。

[主軸方位] カマドを基準に主軸方位を求めると、N-38°-Eである。

[堆積土] 堆積土は17層に分層される。１～３層は住居堆積土、４～12層はカマド崩落土及び構築土、13層は周溝堆積土、14～17層は貼り床土及び掘り方土である。このうち15～17層については、重複するSI2・SI3の掘り方土の可能性を残す。SK1（貯蔵穴）とP1～P7については別な層名で掲載している。

[壁面] 壁面は外傾するが、直線的に立ち上がる。壁高は各辺とも15㎝前後である。

[床面] ほぼ平坦で、全面に２～３㎝の貼り床が形成される。カマド前から竪穴中央付近にかけては良好な硬化面が確認された。カマド前の焚き口部周辺及びP4・P5を含むスクリーントーンで示した範囲の床面上には炭化物粒子の分布が認められた。炭化物粒子は全体が数㎜の厚さで集積しており、一部は硬化していた。床面積は約12.2㎡である。

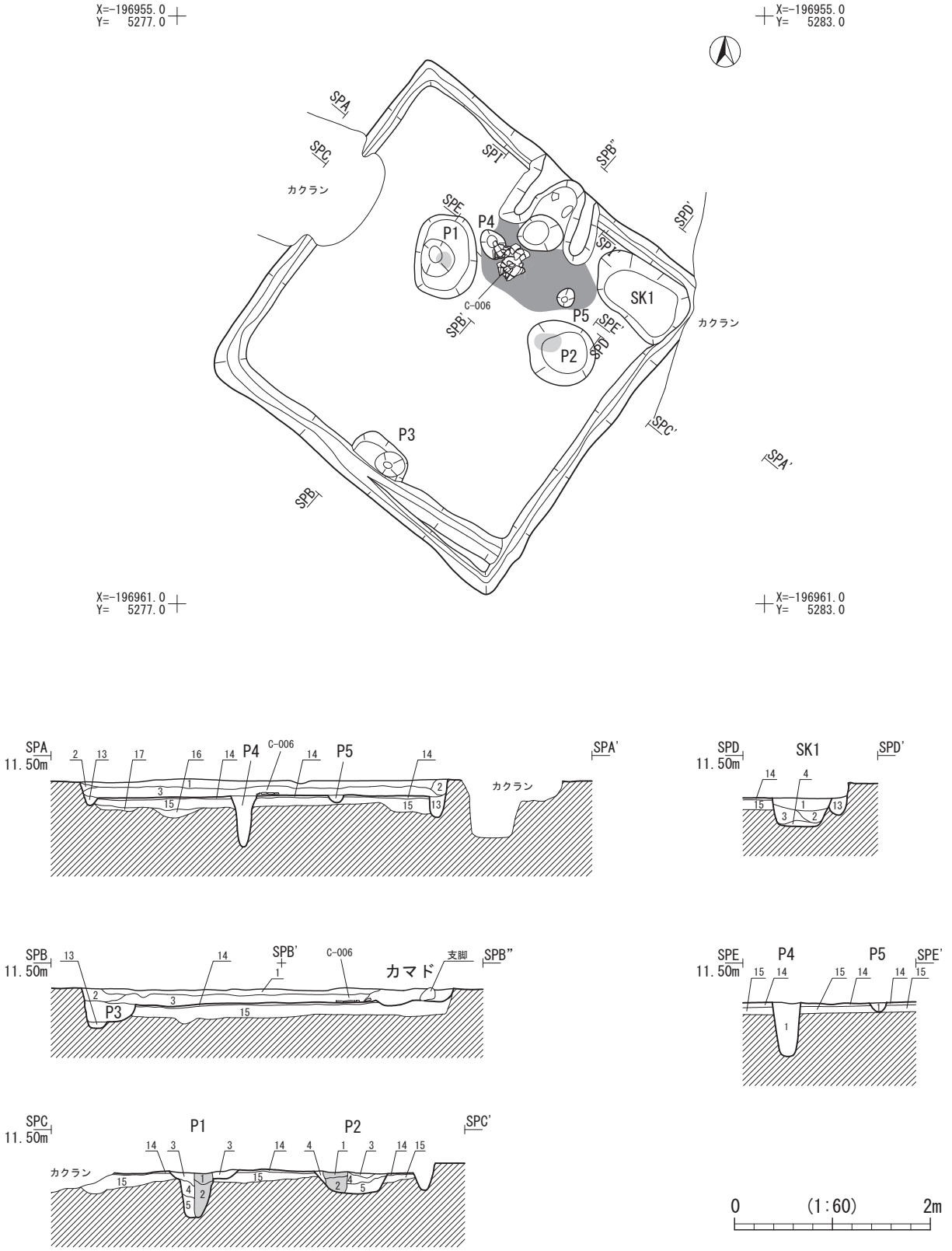
[柱穴] 柱穴は９基検出された。規模と配置よりP1・P2が主柱穴、P3が出入口施設に伴う柱穴と考えられる。P1・P2の平面形は、楕円形と円形を呈する。規模は長軸74～86㎝、短軸64～65㎝、深さはP1が46㎝、P2が23㎝を測る。P3の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸62㎝、短軸30㎝、深さ49㎝を測る。また、P1・P2では楕円形の柱痕跡が確認された。柱痕跡の規模は、掘り方よりかなり小さく、P1が径15㎝、P2が径24㎝である。P4・P5は主柱穴の北側に位置し、両者とも楕円形を呈する。規模はP4が長軸32㎝、深さ53㎝、P5が長軸20㎝、深さ10㎝を測る。これらは補助柱的な機能が考えられる。配置上ではカマド付近に位置することから棚状施設の可能性もある。P6～P9はカマドの掘り方面で確認されたものである。

[貯蔵穴] カマド右脇の北東隅寄りに１基検出された。SK1の平面形は、不整長方形を呈する。規模は長軸105㎝、短軸60㎝、深さ32㎝を測る。

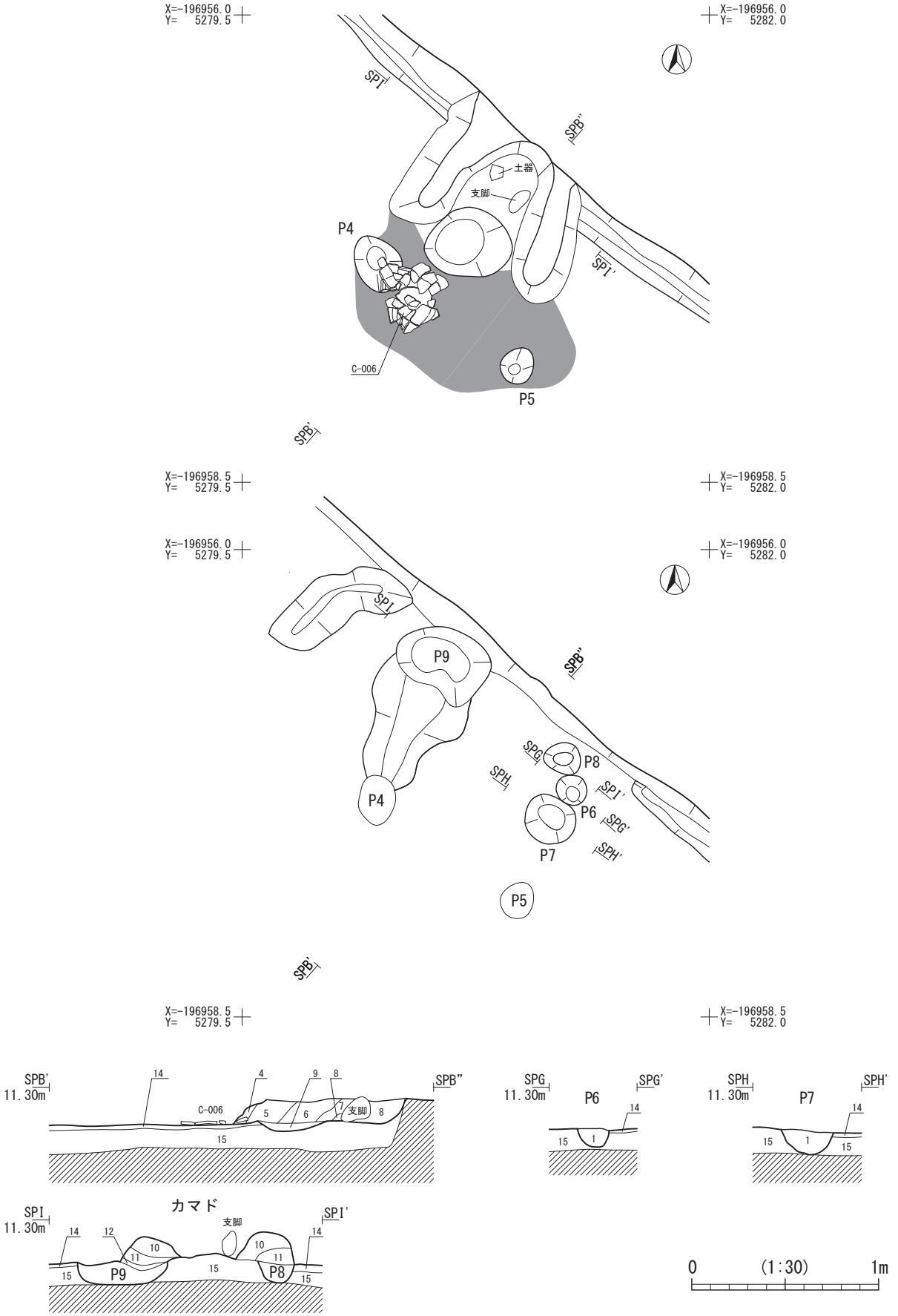
[周溝] カマド部を除く各壁下には周溝がめぐる。規模は幅12～18㎝、深さ７～14㎝を測り、断面形は幅の狭い逆台形である。カマド両脇の北辺よりも南辺の方が幅が広い。南東隅から南辺の一部では二重となる。

[掘り方] 竪穴全面に深さ10㎝前後の掘り方を有する。掘り方は各壁際の方が中央部よりも深い。

[カマド] 北壁の中央部付近に構築され、天井部は崩落するが両袖部と火床面は残存していた。規模は、焚口から煙道まで86㎝、両袖部最大幅104㎝、袖部長71～79㎝を測る。両袖部下には不整形な掘り込みを有し、Ⅳ層黄褐色シルトと黄白色粘土の混合土を積み上げて袖部を形成している。焚口部は幅約50㎝を測り、火床面上には厚さ4㎝程の焼土や炭化物を含む堆積土が確認された。燃焼部は天井部が崩落しているため詳細は不明であるが、幅約



第６９図　Ⅳ区ＳＩ１竪穴住居跡（1）



第７０図　Ⅳ区ＳＩ１竪穴住居跡（２）

SI1　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりを有し、粘性をやや有する。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物をやや多く含む。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、焼土を少量含む。
カマド	4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ1 ～ 2㎜の焼土を微量含む。
	5	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物を少量、φ3 ～ 5㎜の焼土を少量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
	6	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、φ3 ～ 5㎜の焼土をやや多く含む。
	7	10YR6/8	明黄褐色	シルト	酸化著しい。
	8	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 3㎜の炭化物を少量、φ3 ～ 5㎜の焼土をやや多く含む。
	9	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ1 ～ 2㎜の焼土をやや多く含む。
カマド袖	10	10YR4/6	褐色	シルト	10YR7/1 灰白色シルト塊を微量含む。
	11	10YR4/4	褐色	シルト	10YR4/1 褐灰色シルト塊を少量含む。
	12	10YR4/6	褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
周溝	13	10YR4/4	褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
貼り床	14	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	10YR6/2 灰黄褐色シルト及び、10YR4/1 褐灰色シルト塊をやや多く含む。
掘り方	15	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR4/1 褐灰色砂質シルト塊を少量含む。
	16	10YR4/4	褐色	砂質シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	17	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	部分的にグライ化しており、砂質が強い。

SI1　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	4	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	5	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P2	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ5㎜程の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。
	2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ5㎜程の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	4	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	5	10YR4/4	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P3	1	10YR4/4	褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
P4	1	10YR4/4	褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
P5	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P6	1	10YR4/6	褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。
P7	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量、10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P8	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物を微量含む。
P9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物を微量含む。
SK1（貯蔵穴）	1	10YR4/4	褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	2	10YR4/4	褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	3	10YR4/6	褐色	砂質シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	4	10YR4/6	褐色	砂質シルト	炭化物が帯状に入り、10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。

SI1　施設観察表

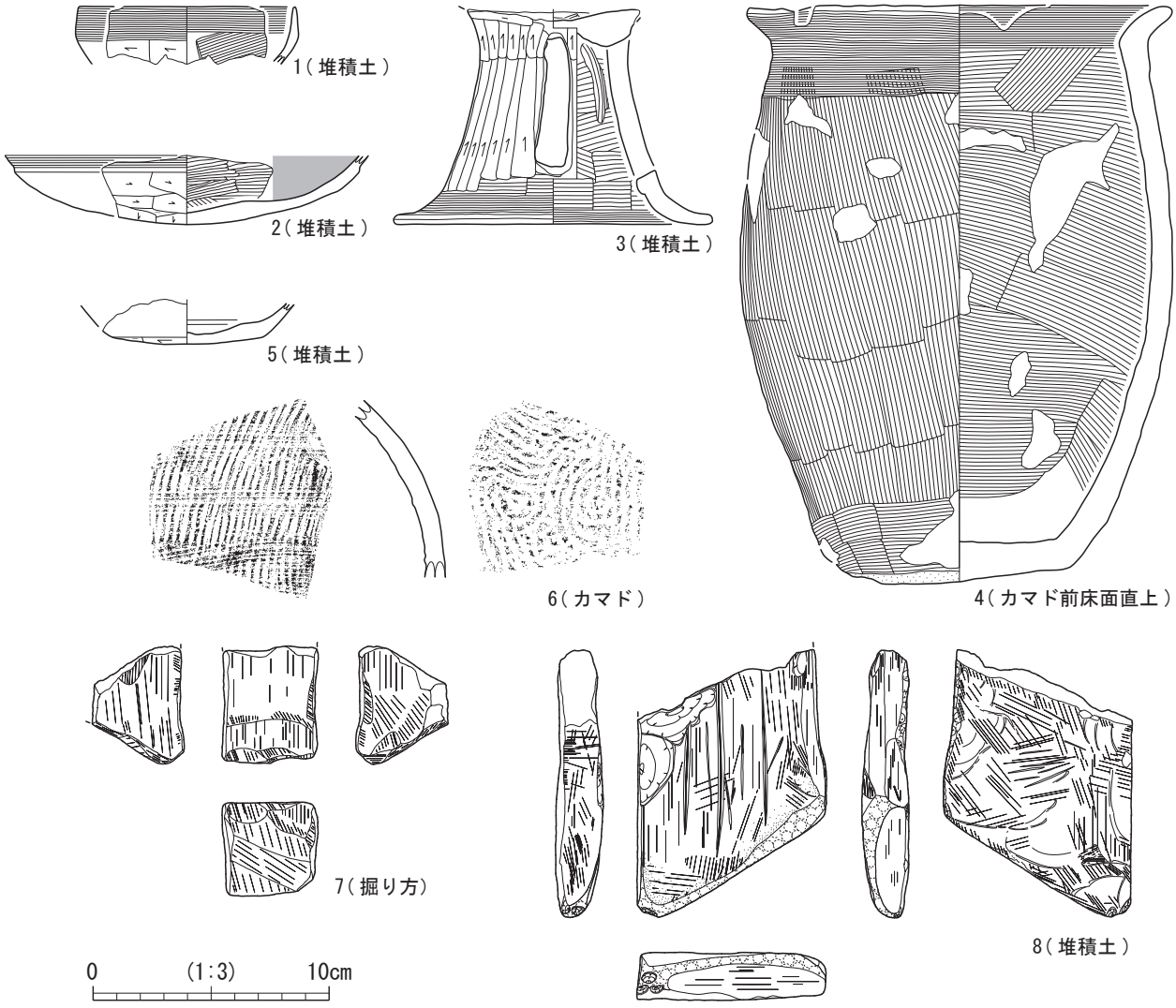
遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	楕円形	86 × 64	46	主柱穴、柱痕跡あり
P2	円形	74 × 65	23	主柱穴、柱痕跡あり
P3	（楕円形）	62 × 30	49	出入口施設
P4	楕円形	32 × 24	53	カマド棚（袖前部）
P5	楕円形	20 × 18	10	カマド棚（袖前部）

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P6	円形	18 × 16	17	カマド棚（袖基部）、掘り方検出
P7	円形	28 × 25	23	カマド棚（袖基部）、掘り方検出
P8	楕円形	20 × 16	12	掘り方検出
P9	不整楕円形	52 × 32	8	掘り方検出
SK1	不整長方形	105 × 60	32	貯蔵穴

40㎝を測り、奥壁寄りには支脚とみられる焼けた痕跡を残す礫が出土している。なお、煙道部の形状については不明である。

[出土遺物] 平箱1/2箱強の遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器坏類3点(1 ～ 3)・甕1点(4)、須恵器坏1点(5)・甕1点(6)、砥石2点(7・8)を掲載した(第71図)。出土位置は1 ～ 3・5・8が堆積土中で、4はカマド前の床面上から破砕状態で出土したが、ほぼ完形品に復元された。7は掘り方からの出土である。

1 ～ 4は土師器である。1・2が坏、3が高坏、4が甕である。1・2は丸底を呈する。1は復元口径9.1㎝と小振りなもので、口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、稜は形骸化している。外面調整は横位のヘラケズリ、内面は横位のヘラナデである。2は外面に明瞭な稜が認められ､内面にはヘラミガキと黒色処理が施される。3は低脚高坏の脚部で､脚部中位に長方形の透かし3孔が穿たれる。外面調整は脚部上位から中位が縦位のヘラケズリ、下位が横位のヘラナデ､端部がヨコナデである。透かし孔は外面からのヘラ状工具による切り取りである。内面は横位のヘラナデで､上位には複数のヘラ状工具の圧痕が残る。脚端部はヨコナデである。坏部の内面にはヘラミガキと黒色処理が施される。4は口縁部が短く屈曲して胴部中位に最大径を有する器形で、底径は比較的大きい。外面調整は、胴部上位から下位までが底部方向からの縦位のヘラナデ、下位は横位のヘラナデである。底部は磨滅により判然としない。



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-003	Ⅳ区	SI1	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(9.1)	−	(2.4)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ	関東系	28
2	C-004	Ⅳ区	SI1	堆積土	土師器	坏	底部破片	−	−	(2.9)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヘラナデ・底部ヘラミガキ →黒色処理		28
3	C-005	Ⅳ区	SI1	堆積土	土師器	高坏	脚部 1/2 弱	−	(13.2)	(9.1)	脚台部：縦位ヘラケズリ、端部ヘラナデ →ヨコナデ、透かし孔（楕円）	坏部：ヘラミガキ、脚部：横位ヘラナデ、 端部ヨコナデ		28
4	C-006	Ⅳ区	SI1 カマド前	床直	土師器	甕	完形	17.8	9.5	24.3	口縁部～頸部ヨコナデ、 胴部縦位ヘラナデ・下端横位ヘラナデ、 底部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		28
5	E-005	Ⅳ区	SI1	堆積土	須恵器	坏	底部 1/4	−	(6.4)	(1.9)	体部ロクロナデ、底部ヘラ切り→ナデ	ロクロナデ		28
6	E-006	Ⅳ区	SI1 カマド	床直	須恵器	甕	胴部破片	−	−	−	平行タタキ→ロクロナデ	同心円タタキ		28

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
7	Kd-a-03	Ⅳ区	SI1 東	掘り方	石製品	砥石	(4.9)	4.0	3.9	95.4	砂岩	破片　上部欠損　磨 4（正下左右）　各面擦痕	28
8	Kd-a-04	Ⅳ区	SI1	堆積土	石製品	砥石	(8.7)	8.0	2.0	240.0	頁岩	破片　上部欠損　磨 5（正裏下左右）　下部敲 正裏擦痕　正砥溝 5 条	28

第71図　Ⅳ区SI1竪穴住居跡出土遺物

内面は横位のヘラナデである。口縁部のヨコナデは内外面ともヘラナデ後に施されている。5・6は須恵器である。5が坏､6が甕である。5は底径6.4cmを測るヘラ切り手法による坏の破片である。6は須恵器甕の肩口付近の破片で、外面が細かい平行叩きののちにロクロナデ、内面には同心円状の叩き具痕跡が重ねられる。7は砥石である。上面と裏面を欠損するが、使用面が抉れるほど使い込まれている。使用面は欠損面を除く4面にみられ、いずれも顕著に使用され湾曲したやや滑らかな面となっている。とくに正面と下面には緩い段状の凹面が認められ、各面の角に

も研磨による凹面がある。各面には縦位・斜位の擦痕が認められる。石材は粒子が粗い砂岩である。8は扁平な砥石である。上部を欠損する。使用面は正裏面と左右側面の滑らかな4面で、正面と左側面が顕著に使用されている。とくに左側面は平滑で光沢がある。正面には、刃縁の研磨によるものと考えられる断面V字形をなす太い溝状の痕跡が縦位に数条みられる。正面下端から下面には磨き消されていない自然面が残存し、弱い敲打痕が認められる。各面には縦位を主体として異方向の斜位・横位の擦痕が認められる。裏面には磨き消されていない剥離面が残存する。石材は頁岩である。

SI2　竪穴住居跡(第72・73図)

[位置・残存] Ⅳ区南側中央付近の27・28グリッドに位置する。SI1の掘り方によって北西部の壁面と床面の大半と、埋設管によって北辺と東辺の一部が失われ、部分的な残存状況である。

[重複] 新旧関係は、SM36・37とSI1よりも古く、SI3よりも新しい。

[規模・形態] 南北(長軸)455cm、東西(短軸)430cmを測り、平面形は方形を呈する。

[主軸方位] 長軸方向より主軸方位を求めると、N-30°-Eである。

[堆積土] 6層に分層される。1～3層は住居堆積土、4層は周溝堆積土、5・6層は貼り床土及び掘り方土である。SK1(床下土坑)とP1～P4については別な層名で掲載している。

[壁面] やや外傾して直線的に立ち上がり、壁高は5～10cmを測る。

[床面] ほぼ平坦で、残存部には2～3cmの貼り床が形成される。住居中央付近のP3・4の周囲では、部分的に硬化面が残存する。推定床面積は約14㎡である。

[柱穴] 6基検出された。規模と配置関係からP1～P4が主柱穴、P5・P6が補助穴と考えられる。P1～P4の平面形は概ね楕円形を呈し、規模は長軸42～62cm、短軸37～59cm、深さ48～63cmを測る。P5・P6の平面形は円形を呈し、規模はP5が径29cm、深さ39cm、P6は径26cm、深さ26cmを測る。P1～P5では平面及び土層断面で柱痕跡が確認された。柱痕跡はP1～P3で径15～24cm、P4では径55cmと大きい値を示す。P5では径11cmと他に比べて細い。

[床下土坑] 住居中央付近に1基検出された。SK1は概ね円形を呈し、規模は径135cm、深さ45cmを測る。内面には段差が認められ、何回かの掘り直しが行われた可能性がある。

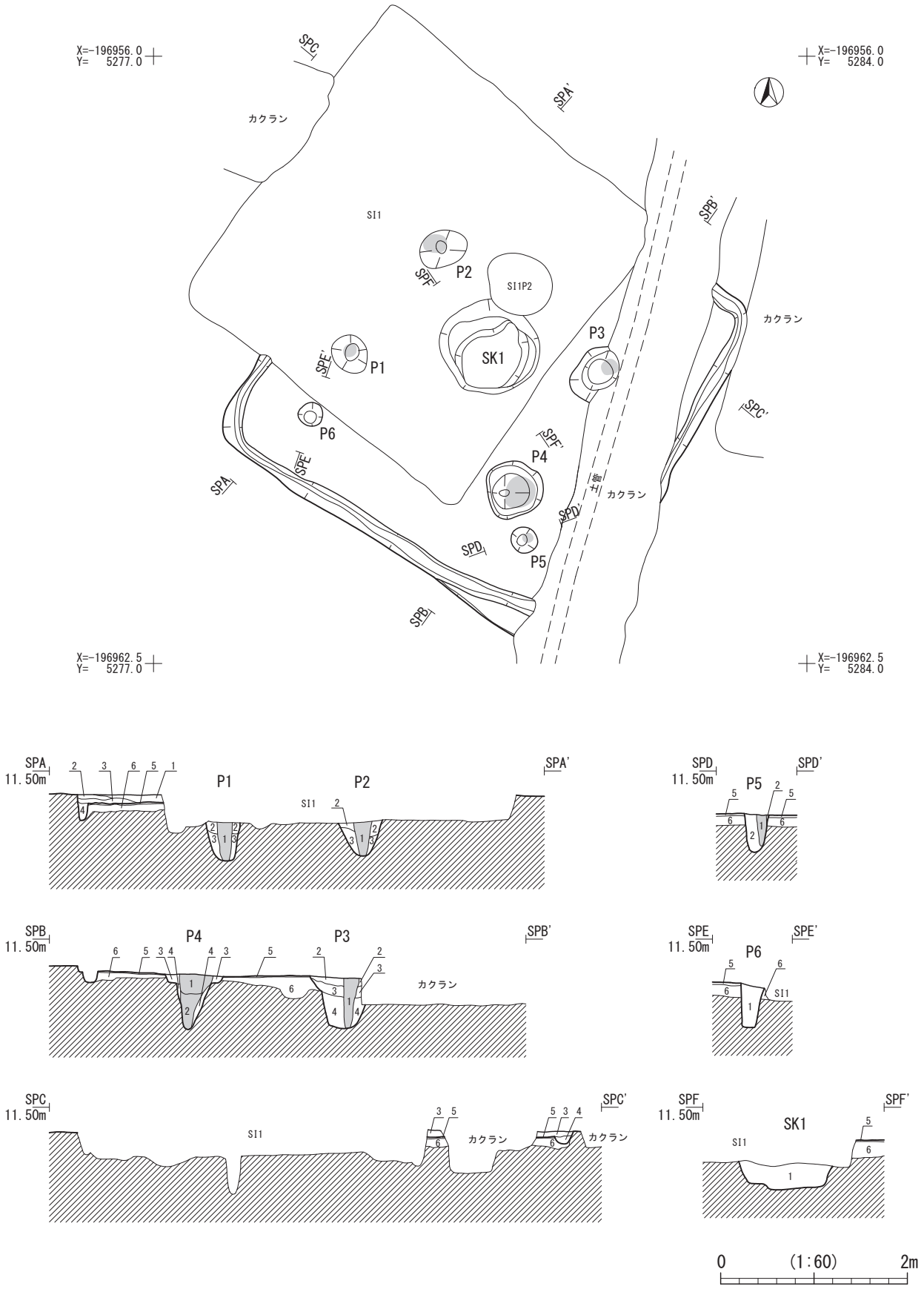
[周溝] 残存部では竪穴の壁下に周溝がめぐる。規模は幅8～14cm、深さ8～18cmを測り、断面形はU字状を呈する。南西隅寄りと東辺では幅が狭い。南辺の東隅寄りでは壁下からやや離れた状態にめぐる。

[掘り方] 残存部分には、深さ5～10cmの掘り方が認められた。掘り方は壁際と中央部とでは大差ない。

[カマド] 竪穴の残存部分では確認されていない。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは、平箱1/2箱弱の遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器坏類3点(1～3)、土師器甕1点(4)、須恵器坏類2点(5・6)、礫石器2点(7・8)、計8点を掲載した(第73図)。出土位置は3～6・8が堆積土、1はSK1、2は周溝、7は掘り方からである。1～3・6は小破片、4は口縁部から胴部上半、5は破片から図上復元した資料である。

1～4は土師器で、1・2が坏、3が高坏、4が甕である。1は大振りの坏の破片で、復元口径24.0cm。口縁部は大きく開いて立ち上がり、底部との境に弱い稜が形成される。底部外面の調整は風化により判然としない。底部内面は横位のヘラナデで、口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。2の坏は口縁部が短めに立ち上がり、器高のやや深い丸底の器形である。復元口径14.4cm。外面調整は横位のヘラケズリ、内面は横斜位のヘラナデ、口縁部の内外面はヨコナデである。3は低脚の高坏としたが、大きさ・形状より判断するとミニチュア土器の一種と考えられる。外面調整は縦位のヘラケズリ、脚端部はヨコナデ、脚端部内面は斜位のヨコナデ。坏部内面はヘラミガキが施される。4は胴部に最大径を有する甕で、口縁部は短く屈曲する。胴部の外面調整は縦位のハケメ、内面は横位のヘラナデである。



第７２図　Ⅳ区ＳＩ２竪穴住居跡

SI2　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ5 ～ 20㎜の 10YR7/1 灰白色シルト塊を少量、φ2 ～ 3㎜の炭化物と焼土を少量含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
周溝	4	10YR4/6	褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
貼り床	5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	10YR6/6 明黄褐色シルト塊を少量、10YR7/1 灰白色シルト塊を微量含む。
掘り方	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR4/1 褐灰色砂質シルト塊を少量含む。

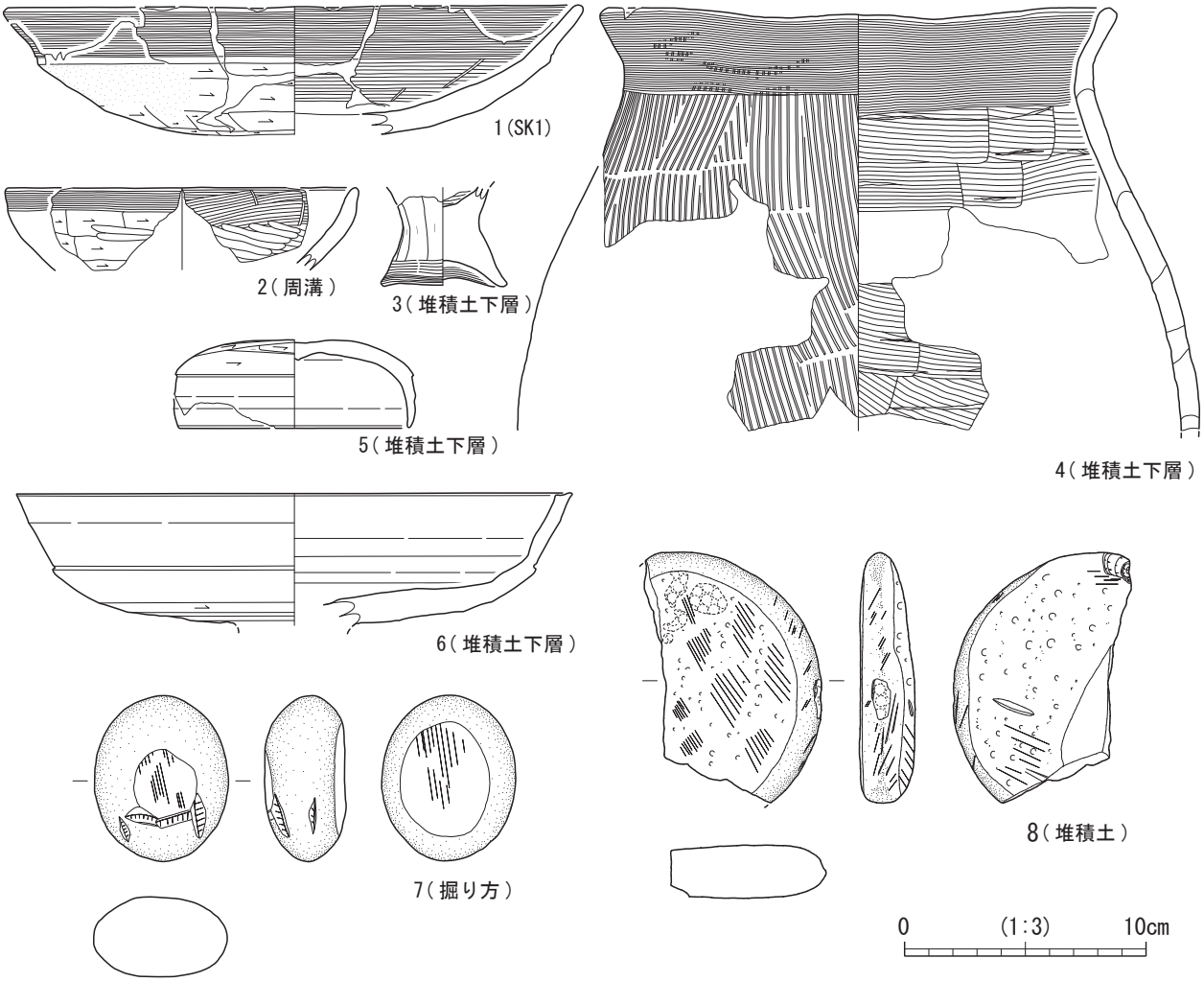
SI2　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	10YR4/4	褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を斑紋状に少量含む。柱痕跡。
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト塊を少量含む。貼り床の流入土。
	3	10YR5/6	黄褐色	シルト	10YR4/2 灰黄褐色シルト塊を微量含む。
P2	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	3	10YR4/6	褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。
P3	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 10㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を斑紋状に少量、φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	砂質味が強い。粘性が弱い。
P4	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 10㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を斑紋状に少量、φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
	2	10YR3/4	暗褐色	シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1㎝前後の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量、φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。
	4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P5	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 10YR6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。
SK1（床下土坑）	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量含む。

SI2　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	楕円形	42 × 37	49	主柱穴、柱痕跡あり
P2	楕円形	52 × 38	48	主柱穴、柱痕跡あり
P3	（楕円形）	62 × −	63	主柱穴、柱痕跡あり
P4	円形	60 × 59	53	主柱穴、柱痕跡あり

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P5	円形	29 × 27	39	補助柱穴、柱痕跡あり
P6	円形	26 × 26	26	補助柱穴
SK1	円形	135 × 100	45	床下土坑



第７３図　Ⅳ区ＳＩ２竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-007	Ⅳ	SI2 SK1	堆積土	土師器	坏	口縁～底部1/3	(24.0)	—	(5.3)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ	関東系	28
2	C-008	Ⅳ	SI2 周溝	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(14.4)	—	(3.4)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ・一部横位ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ→横位ヘラナデ、底部ヘラミガキ		28
3	C-009	Ⅳ	SI2	下層	土師器	高坏	脚台部のみ	—	5.2	(4.1)	坏部：ナデ、脚部：縦位ヘラケズリ、端部ヨコナデ	坏部：ナデ、脚部：ヘラナデ、端部ヨコナデ		28
4	C-010	Ⅳ	SI2	下層	土師器	甕	口縁～胴部中位1/2弱	(21.4)	—	(17.5)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		28
5	E-007	Ⅳ	SI2	下層	須恵器	蓋	口縁～天井1/2	(9.6)	—	3.6	口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ	ロクロナデ		28
6	E-008	Ⅳ	SI2	下層	須恵器	高盤	坏部のみ	(23.0)	—	(4.2)	口縁部ロクロナデ、体部回転ヘラケズリ	口縁部～体部ロクロナデ		28

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
7	Kc-a-01	Ⅳ区	SI2	掘り方	礫石器	磨石	6.8	5.5	3.2	100.0	流紋岩	完形　磨2（正裏）	29
8	Kc-a-02	Ⅳ区	SI2	堆積土	礫石器	磨石	(10.3)	(6.5)	2.4	137.2	流紋岩	左・下部欠損　磨2（正裏）、敲2（正右）	29

口縁部は内外面ともヨコナデである。5・6は須恵器である。5が蓋、6が高盤である。5は口径9.6cm、器高3.6cmの小形品で、天井部はヘラ切りののち、手持ちヘラケズリされる。6は脚部が欠損した大振りの高盤で、復元口径は23.0cmを有する。口縁端部はほぼ平滑にされ、体部下半に明瞭な稜が認められる。7は楕円形を呈する磨石で、両面は使用により平坦化したやや滑らかな磨面となり、斜位の擦痕が観察される。正面下半には断面Ｖ字形の削り痕がみられる。石材は流紋岩である。8は円形を呈する磨石の欠損品で、扁平な自然礫を用いている。両面を使用面とするが弱い磨面で、わずかに異方向の斜位の擦痕が認められる。また、裏面の一部には溝状の削り痕が観察される。正面の上端に磨面以前の敲打痕がわずかに残り、右側縁の一端にも敲打痕がある。石材は流紋岩である。

SI3　竪穴住居跡（第74 ～ 76図）

[位置・残存] Ⅳ区南側中央付近の27・28グリッドに位置する。北辺はSI1・SI2の掘り方によって壁面と床面の一部が失われている。南辺と東辺の一部は埋設管によって撹乱されており、南東隅は調査区外へ伸びる。

[重複] 新旧関係は、SM36・SM37、SI1・SI2よりも古い。

[規模・形態] 南北（長軸）460cm、東西（短軸）446cmを測り、平面形は方形を呈する。

[主軸方位] 長軸方向より主軸方位を求めると、N-3°-Wである。

[堆積土] 9層に分層される。1 ～ 6層は住居堆積土、7層は周溝堆積土、8・9層は貼り床土及び掘り方土である。なお、SK1（貯蔵穴）、SK2（床下土坑）、P1 ～ P5については別層名で掲載している。

[壁面] やや外傾するが、ほぼ直線的に立ち上がる。壁高は18 ～ 26cmを測る。

[床面] ほぼ平坦であるが、残存部には2 ～ 3cmの厚さで貼り床が形成される。竪穴の中央付近から南辺にかけて硬化面が広く残存する。推定床面積は約16㎡である。

[柱穴] 5基検出された。規模と配置関係よりP1 ～ P4が主柱穴、P5が出入口施設に伴う柱穴と考えられる。主柱穴は円形ないしは楕円形を呈する。規模は長軸25 ～ 48cm、短軸30 ～ 40cm、深さ16 ～ 37cmを測る。P5は南壁のほぼ中央部に掘られた楕円形状のもので周溝とも接し、内部に楕円形の小ピットが認められる。規模は長軸48cm、短軸30cm、深さ31cmを測り、内部の小ピットは長径24cm、深さ25cmである。また、P1・P2では柱痕跡が確認された。

[貯蔵穴] 北東隅寄りに1基検出された。SK1は楕円形を呈し、規模は長軸82cm、短軸74cm、深さ17cmを測る。

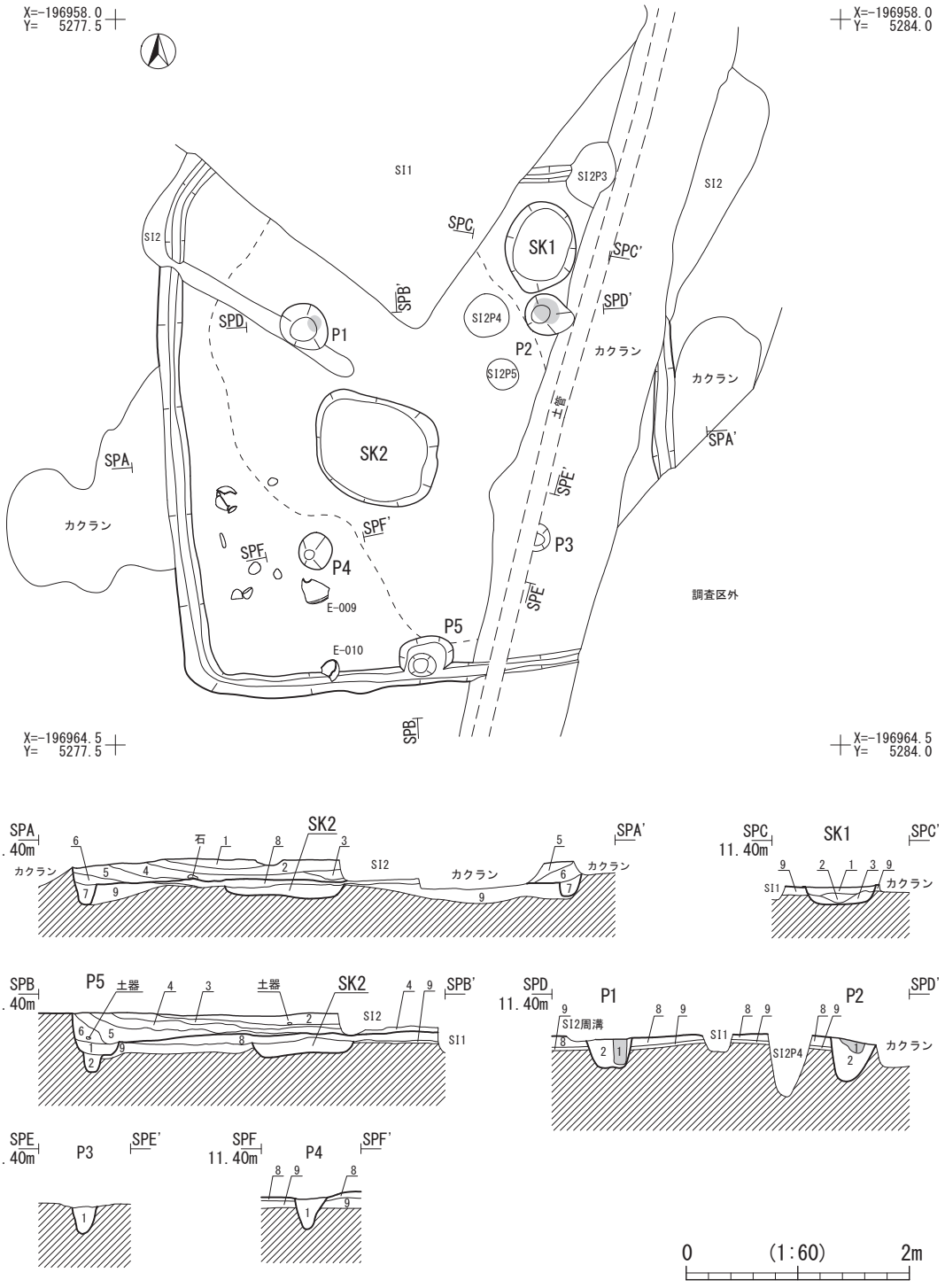
[床下土坑] 竪穴の中央付近に1基検出された。SK2は概ね隅丸長方形と考えられ、規模は長軸114cm、短軸93cm、深さ11cmを測る。内部にはシルト質土が観察され、上面には硬化面が形成されていた。

[周溝] 検出部分の壁下に沿って確認された。規模は幅17 ～ 19cm、深さ12 ～ 16cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

[掘り方] 竪穴全面に深さ5 ～ 18cmの掘り方を有する。掘り方は各壁際の方が中央部よりも深い。

[カマド] 残存部分では検出できなかったが、残存する壁の状況から北壁側にカマドが付設されていたと推定される。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは、平箱1箱弱の土器・石器類が出土した。そのうち図示可能な土師器坏1点（1）、土



SI3 堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	締まりが強く、粘性を有する。
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。
	3	10YR3/4	暗褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。
	4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。
	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。
周溝	7	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
貼り床	8	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ3～5cmの2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト塊を主体的に含む。
掘り方	9	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ1～2cmの2.5Y4/3オリーブ褐色シルト塊を少量含む。

第74図　Ⅳ区ＳＩ3竪穴住居跡

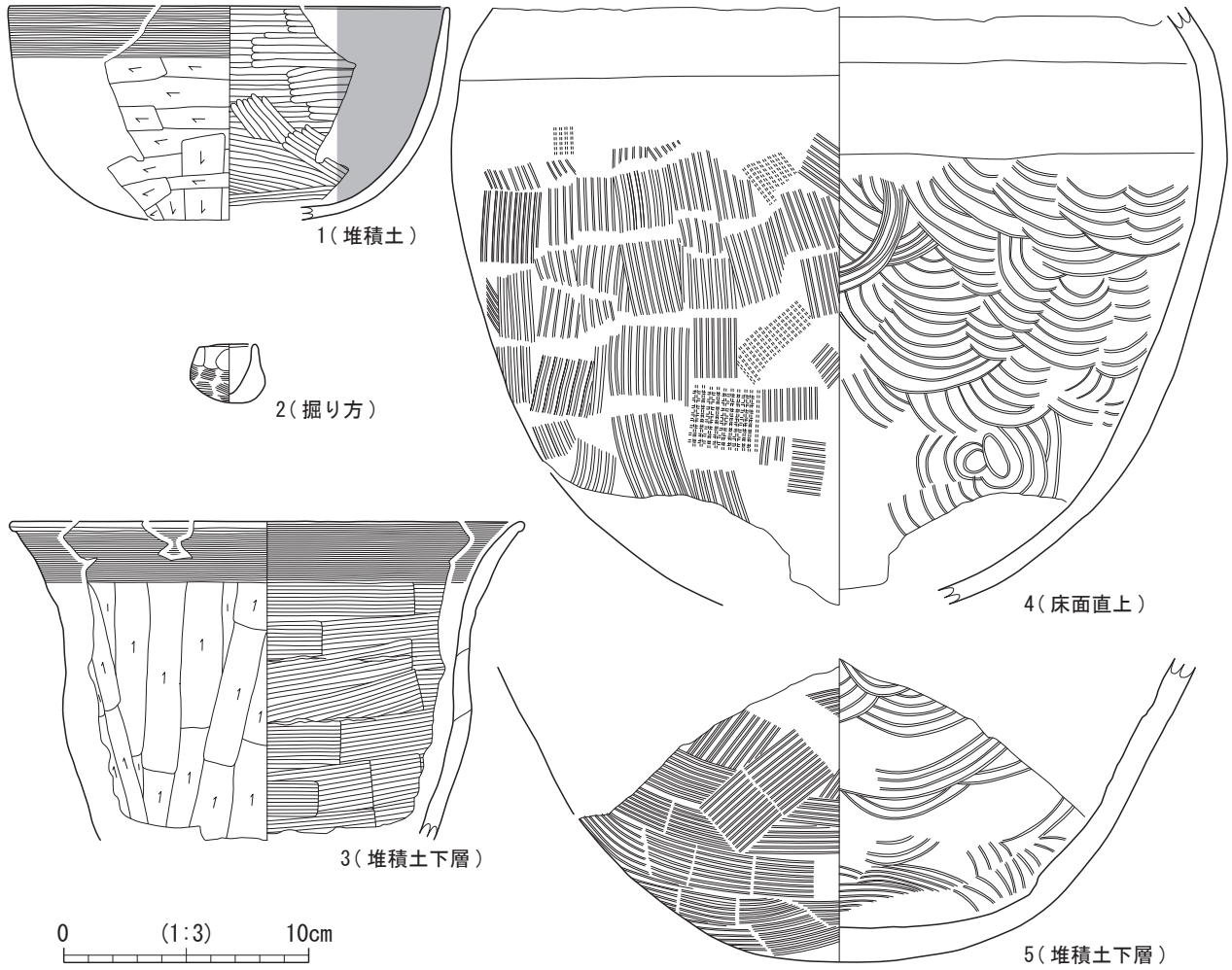
SI3　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物をやや多く含む。柱痕跡。
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の 2.5Y5/3 黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P2	1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の 2.5Y5/3 黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P3	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の 2.5Y5/3 黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P4	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の 2.5Y5/3 黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P5	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	締まりが強く、粘性を有する。
	2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが弱く、粘性をやや有する。
SK1（貯蔵穴）	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト塊を微量含む。
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
SK2（床下土坑）	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト塊を少量含む。

SI3　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	楕円形	48 × 40	18	主柱穴、柱痕跡あり
P2	楕円形	44 × 37	37	主柱穴、柱痕跡あり
P3	（円形）	25 × －	16	主柱穴
P4	円形	34 × 30	30	主柱穴

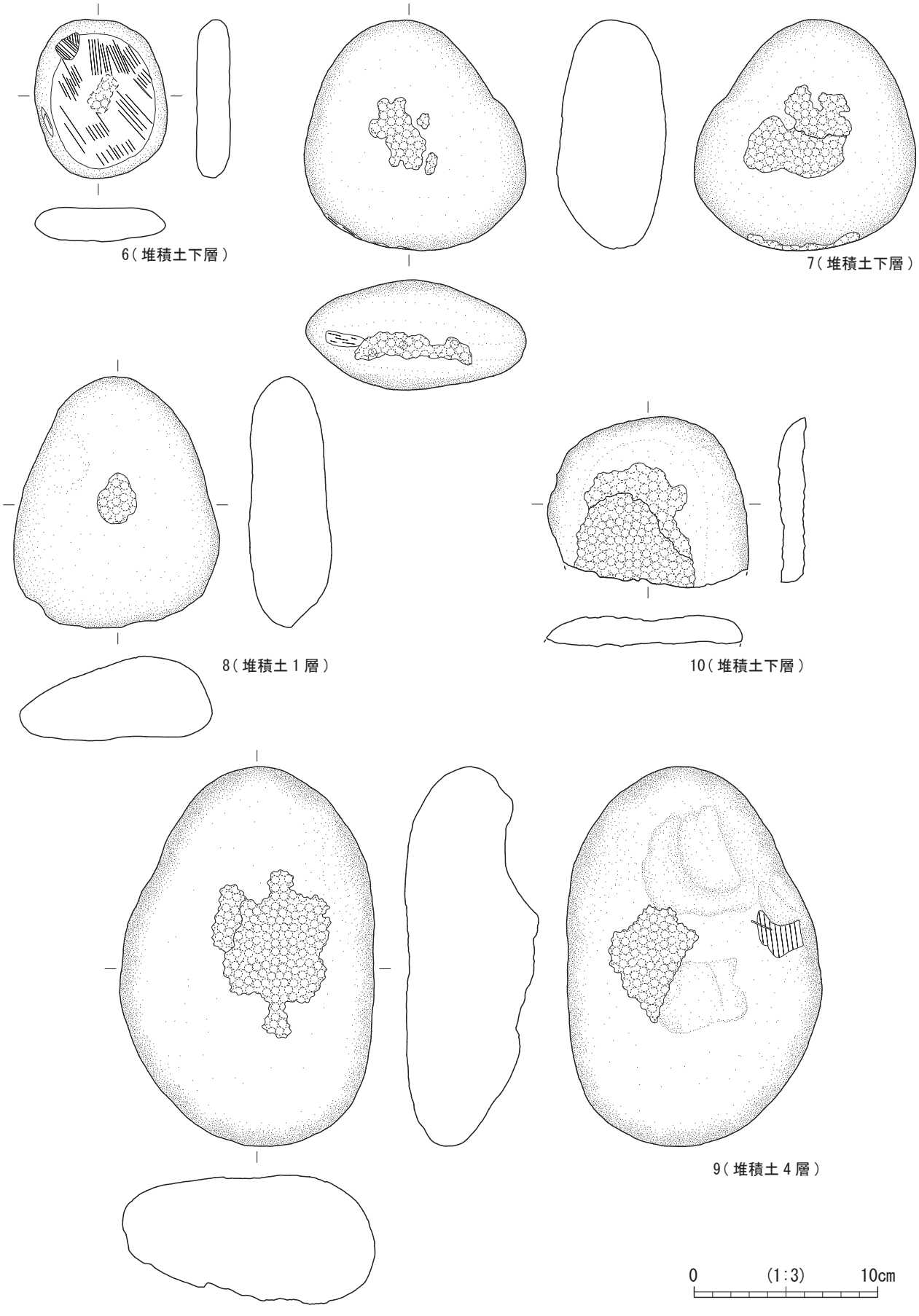
遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P5	楕円形	48 × 30	31	出入口施設
SK1	楕円形	82 × 74	17	貯蔵穴
SK2	隅丸長方形	114 × 93	11	床下土坑



第75図　Ⅳ区SI3竪穴住居跡出土遺物（1）

師器甕1点(3)、土師器ミニチュア土器1点(2)、須恵器甕2点(4･5)、礫石器5点(6 ～ 10)の合計10点を掲載した(第75・76図)。出土位置は4が床直、1・3・5が堆積土、2は掘り方からの出土である。

1 ～ 3は土師器である。1は坏、2はミニチュア土器、3は甕である。1は大形の製品で、鉢のようにもとれる。偏平な身の深い器形で、体部は概ね直線的に立ち上がる。復元口径18.0㎝、器高8.7㎝を測る。体部外面は横位のヘラケズリ調整である。内面は横位・斜位のヘラミガキと黒色処理である。2は口径2.5㎝、器高2.4㎝のミニチュ



第７６図　Ⅳ区ＳＩ３竪穴住居跡出土遺物（２）

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-011	Ⅳ区	SI3	1層	土師器	坏	口縁～底部1/4	(18.0)	－	(8.7)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部横位ﾍﾗｹｽﾞﾘ、底部縦位ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ→黒色処理		29
2	C-012	Ⅳ区	SI3	掘り方	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	完形	2.5	－	2.4	口縁部～底部ﾕﾋﾞﾅﾃﾞ	口縁部～底部ﾕﾋﾞﾅﾃﾞ	手捏ね	29
3	C-013	Ⅳ区	SI3	下層	土師器	甕	口縁～胴部上半1/6	(21.0)	－	(13.0)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部縦位ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
4	E-009	Ⅳ区	SI3	床直	須恵器	甕	肩部～胴部2/3	－	－	(24.5)	胴部平行ﾀﾀｷ→ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	胴部同心円ﾀﾀｷ→一部ﾍﾗﾅﾃﾞ		29
5	E-010	Ⅳ区	SI3	下層	須恵器	甕	胴部下半～底部	－	(5.5)	(12.4)	胴部～底部平行ﾀﾀｷ→一部ﾅﾃﾞ	胴部同心円ﾀﾀｷ→一部ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部同心円ﾀﾀｷ→一部ﾅﾃﾞ		29

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
6	Kc-a-03	Ⅳ区	SI3	下層	礫石器	磨石	8.7	7.1	1.8	112.3	流紋岩	完形　敲1（正）、磨1（正）	30
7	Kc-c-01	Ⅳ区	SI3東	下層	礫石器	敲石	12.5	12.0	5.7	1050.0	安山岩	完形　敲3（正裏下）	30
8	Kc-c-02	Ⅳ区	SI3	1層	礫石器	敲石	13.7	10.1	4.8	990.0	安山岩	完形　敲1（正）	30
9	Kc-g-01	Ⅳ区	SI3	4層	礫石器	台石	20.7	13.8	7.0	1490.0	流紋岩	完形　敲2（正裏）	30
10	Kc-g-02	Ⅳ区	SI3西	下層	礫石器	台石	(9.3)	(10.9)	(1.6)	116.6	流紋岩	下部欠損、裏面剥離　敲1（正）	30

ア土器である。調整は内外面とも指頭による手捏ねである。3は口縁部に最大径を有し、胴部上半から除々に窄まる器形である。外面調整は胴部が縦位のヘラケズリ、内面は横位のヘラナデである。口縁部の内外面はヨコナデである。4・5は須恵器の甕である。4は胴部上半から下半にかけての大破片。5は胴部下半から底部にかけての破片。4・5の外面は平行叩きで、内面には同心円状の叩き具で青海波文が加えられる。4の胴上半には内外面とも横位のロクロナデが施される。6は扁平な楕円礫を用いた磨石で、使用面は正面の一面である。磨面はやや滑らかで、擦痕は斜位を主体としてやや粗いものも認められる。中央の狭い範囲には、磨面よりも古い敲打痕がみられる。左側には磨面よりも新しい平坦な削り痕がみられる。石材は流紋岩である。7・8は隅丸三角形を呈する敲石である。7は両面中央と下端に敲打痕がみられ、下端の敲打痕はその左端で面取り状の幅狭い磨面を切っている。石材は安山岩である。8は正面中央の狭い範囲に敲打痕が認められる。石材は安山岩である。9・10は台石である。9は不整楕円形を呈する台石で、裏面の原礫面は凹凸が著しいが、正裏面を使用している。両面とも中央に広く敲打痕がみられ、部分的に浅く窪む箇所がある。裏面右側には1ヶ所の削り痕が認められる。石材は比較的軟質の多孔質な流紋岩である。10は扁平な自然礫を用いた台石の破片である。広く敲打痕がみられる。石材は粒子が粗い流紋岩である。

SI4　竪穴遺構（第77～79図）

本節冒頭でも触れたが、本遺構は明瞭な床面が確認されなかったことから、整理段階において竪穴遺構に名称を変更した。調査時にSI4竪穴住居跡として遺物の取り上げや図面作成及び写真記録を行った経緯から、略号はそのまま用いている。

[位置・残存] Ⅳ区南西側の13・14・20・21グリッドに位置する。残存状態は比較的良好である。

[重複] 新旧関係は、中世以降の小溝状遺構群と窪地状地形の上面で確認されたSA1柱穴列よりも古い。

[規模・形態] 長軸（東西）378cm、短軸（南北）308cmを測り、平面形は概ね楕円形と考えられる。

[主軸方位] 長軸方向より主軸方位を求めると、N-67°-Wである。

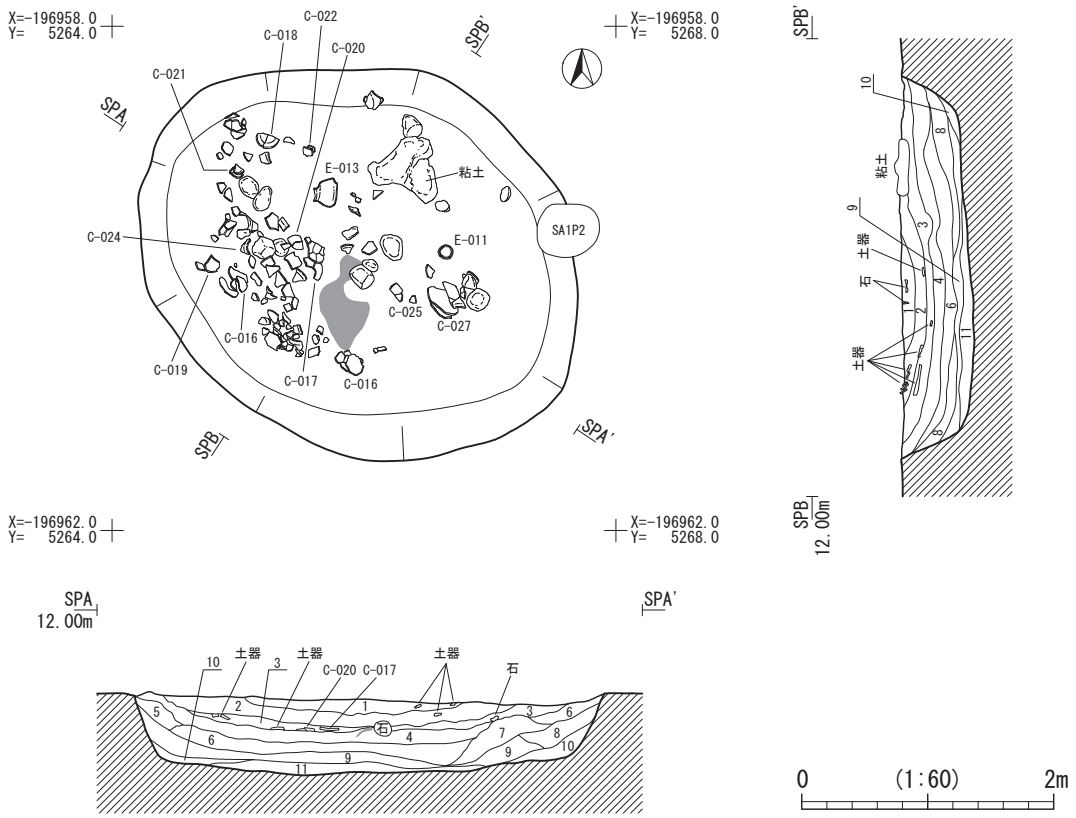
[堆積土] 11層に分層される。1～3層は上層、4～7層は中層、8～11層は下層である。堆積土4層上面に炭化物が部分的に観察された。

[壁面] 外傾ぎみに立ち上がる。壁高は、東側と南側で50cm、西側と北側で45cmを測る。

[底面] やや起伏があるが、壁際よりも中央付近の方が多少深い。部分的に硬化面が観察されるが、底面は素掘り面をそのまま遺構面としている。なお、底面の面積は約5㎡である。

[柱穴] 検出されていない。

[掘り方] 壁際の方が中央部分よりも浅い。



SI4　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物をやや多く含む。
	2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 8㎜の炭化物を少量、焼土を微量含む。
	3	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	φ3㎜の炭化物と焼土をやや多く含む。
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	φ5 ～ 15㎜の炭化物を少量、φ5 ～ 10㎜の 2.5Y6/2 黄灰色砂質シルト塊をやや多く含む。
	5	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	黄色シルト塊を多量に含む。
	6	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	黄色シルト塊を多量に含む。
	7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の炭化物を少量含む。
	8	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	黄色土塊をやや多く含む。
	9	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まり弱く、粘性をやや有する。
	10	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	粗砂が微量混じる。
	11	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。

SI4　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
炭化物範囲	不整形	76 × 40	3 ～ 5	

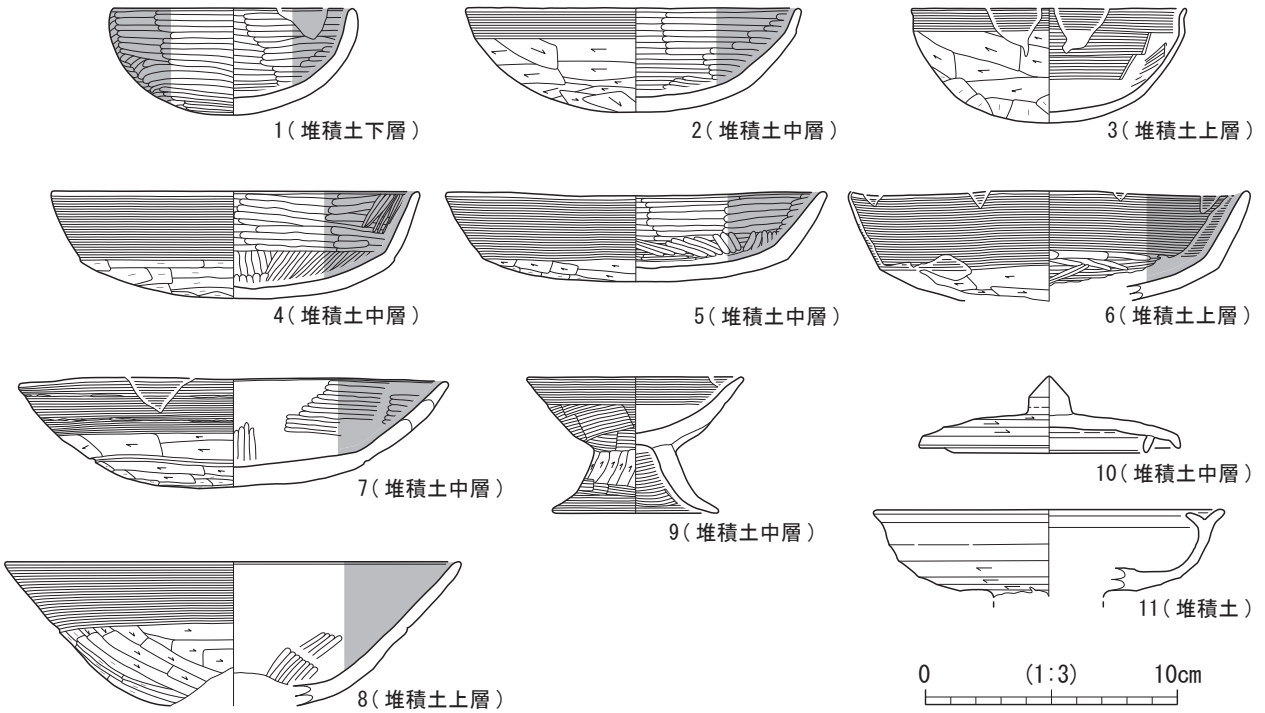
第７７図　Ⅳ区ＳＩ４竪穴遺構

[カマド・炉跡] 検出されていない。

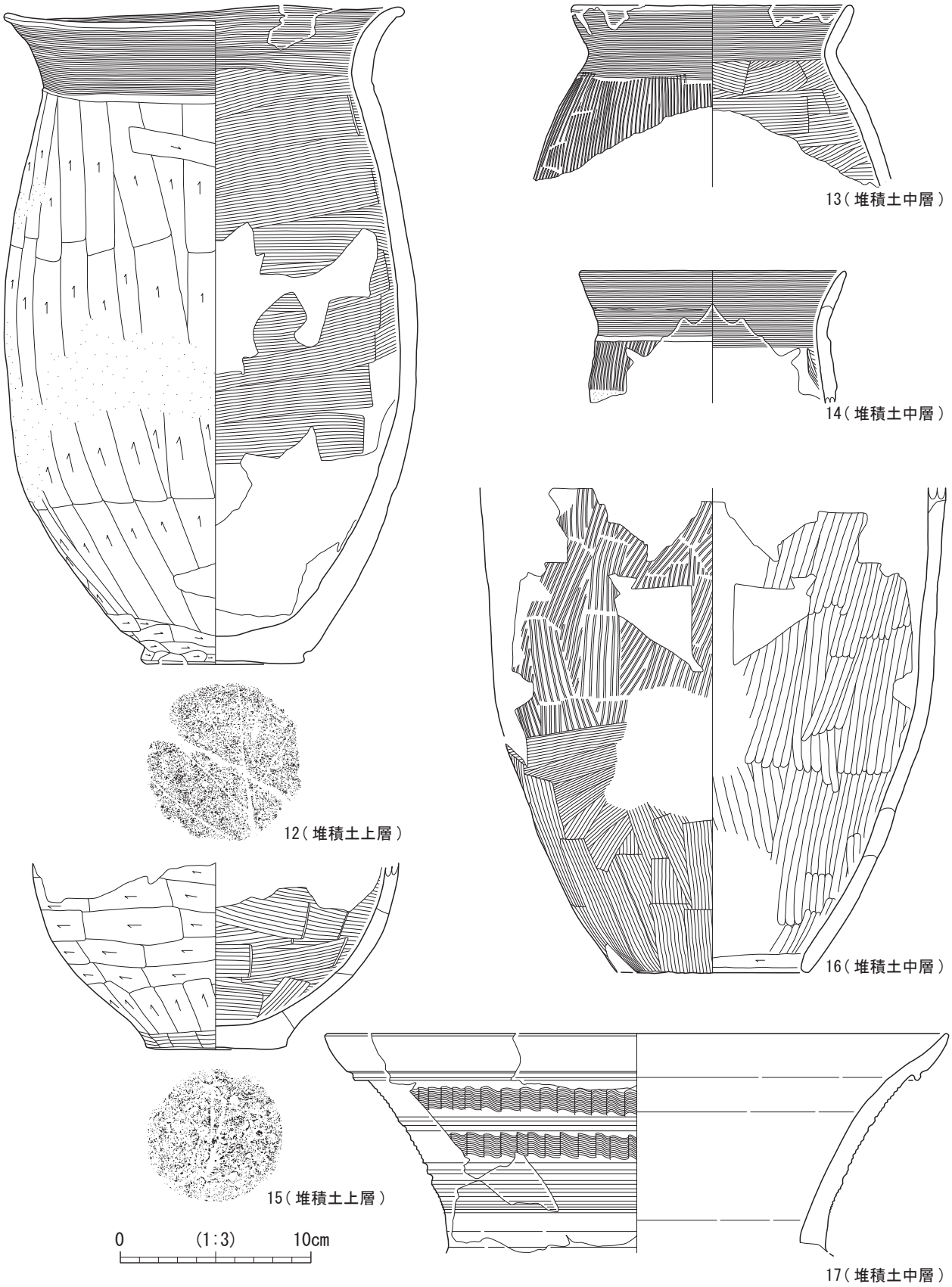
[出土遺物] 本遺構からは、平箱3箱弱の遺物が出土した。出土位置は堆積土の上層から中層(1 ～ 4層上面)に多く含まれ、土器類の他に被熱痕のある凝灰岩質の粘土塊なども出土している。そのうち図示可能な土師器坏8点(1 ～ 8)、同高坏1点(9)、同甕4点(12 ～ 15)、同甑1点(16)、須恵器蓋1点(10)、同高坏1点(11)、同甕1点(17)の計17点を掲載した(第78・79図)。

1 ～ 8は土師器坏類である。1は半球形の坏で、内外全面にヘラミガキと黒色処理が施される。口径9.5㎝、器高4.2㎝。2は半球状の坏で、口縁部がやや外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部が横位のヘラケズリである。内面はヘラミガキと黒色処理が施される。口径13.2㎝、器高4.1㎝。3は半球形の坏で、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。胎土に全体に緻密で薄い器壁を特徴とする。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部は横位のヘラケズリである。内面は口縁部がヨコナデ、体部以下は横位のヘラナデである。口径10.9㎝、器高4.5㎝。4 ～ 6は偏平な浅い丸底

の坏で、口縁部は外形ぎみに立ち上がる。屈曲部の稜線が全体に弱い。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部は横位のヘラケズリである。4･5の内面はヘラミガキと黒色処理が施される。4は口径14.6㎝、器高4.2㎝。5は口径15.0㎝、器高3.5㎝。6は口縁部がヨコナデであるが、底部はヘラミガキで、内面は黒色処理が施される。口径15.8㎝、器高4.3㎝。7は底の浅い大振りの坏で、口縁部は大きく開いて立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部は横位のヘラケズリ、内面はヘラミガキと黒色処理が施される。口径17.0㎝、器高4.4㎝。8は底の深い大振りの坏で、口縁部は外方へ大きく開く。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部は斜位・横位のヘラケズリで、内面は縦位のヘラミガキと考えられ、全体に黒色処理が施される。口径18.0㎝、現存高5.7㎝。9は略完形の脚の低い小型高坏である。坏部・脚部とも小さく、坏部は外方へ立ち上がり、脚部は太く下方へ開く。外面調整は坏部が口縁部ヨコナデ、底部は横位のヘラナデ、脚部は縦位のヘラケズリで、端部がヨコナデである。内面は口縁部と脚端部がヨコナデ、見込み部は磨滅のため不明、脚部は横位のヘラナデである。口径8.6㎝、底径6.4㎝、器高5.4㎝。10・11は須恵器で、10は蓋、11は有蓋高坏である。10は内面の返りをもつ小振りの坏に伴う蓋で、扁平な天井部には擬宝珠状の摘みが付き、内面端部の返りはやや突出する。外面調整は天井部回転ヘラケズリである。口径10.4㎝、器高3.0㎝。11の有蓋高坏は脚部が欠損した資料である。坏部は扁平で、口縁部で小さく外反し、内面の受けの返りは低い。外面調整は坏部下半が回転ヘラケズリである。口径13.9㎝、現存高3.5㎝。12 ～ 15は土師器甕である。12が長胴甕。13・15が胴張甕と考えられる。14は小型甕か。12はやや下膨れの器形で、口縁部の外反は弱い。外面調整は口縁部がヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリで、下端部のみが横位に変わる。底部には木葉痕が残る。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。13は胴部上半の破片で、口縁部は「く」字状に外傾する。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。口径14.6㎝。14は胴部上半の破片で、口縁部の開きは弱い。外面調整は口縁部がヨコナデ、胴部は縦位のハケメ、内面は口縁部がヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。口径13.8㎝。15は胴部下半の破片で、外面調整はヘラケズリであるが下端のみヘラナデに変わり、底部には木葉痕が残る。内面は横位のヘラナデである。底径7.4㎝。16は胴部上半以下の破片。中程までは広いが下半から窄まる単孔式の甑である。外面調整は中位までが縦位のハケメ、下位以下が横位から縦位のヘラナ



第７８図　Ⅳ区ＳＩ４竪穴遺構出土遺物（１）



第７９図　Ⅳ区ＳＩ４竪穴遺構出土遺物（２）

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-014	Ⅳ区	SI4	下層	土師器	坏	口縁～底部 1/2 弱	9.5	－	4.2	口縁部～底部ヨコヘラミガキ →黒色処理	口縁部～底部ヨコヘラミガキ→黒色処理		30
2	C-015	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	坏	略完形	13.2	－	4.1	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコヘラミガキ、底部ヘラミガキ →黒色処理		30
3	C-016	Ⅳ区	SI4	上層	土師器	坏	口縁～底部 1/3	(10.9)	－	4.5	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ	関東系	30
4	C-017	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	坏	口縁～底部 1/2 強	14.6	－	4.2	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部放射状ヘラミガキ →黒色処理		30
5	C-018	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	坏	口縁～底部 1/2 強	(15.0)	－	3.5	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ →黒色処理		30
6	C-019	Ⅳ区	SI4	上層	土師器	坏	口縁～底部 1/4 弱	(15.8)	－	(4.3)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ →黒色処理		30
7	C-020	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	坏	口縁～底部 略完形	17.0	－	4.4	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、一部ヘラミガキ →黒色処理	内面磨滅	30
8	C-021	Ⅳ区	SI4	上層	土師器	坏	口縁～底部 1/3	(18.0)	－	(5.7)	口縁部ヨコナデ、 体部斜位・横位ヘラケズリ	体部ヘラミガキ→黒色処理		30
9	C-022	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	小型高坏	坏部～脚部 1/3	(8.6)	6.4	5.4	坏部：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ 脚台部：縦位ヘラケズリ、端部ヨコナデ	坏部：口縁部ヨコナデ 脚台部：横位ヘラナデ、端部ヨコナデ		30
10	E-011	Ⅳ区	SI4	中層	須恵器	蓋	略完形	10.4	－	3.0	天井部：回転ヘラケズリ→摘み貼付（径 1.6cm）→周縁ナデ 口縁部：ロクロナデ	天井部：ロクロナデ 返り径 7.6cm		30
11	E-012	Ⅳ区	SI4	堆積土	須恵器	高坏	坏部のみ	13.9	－	(3.5)	受部：口縁部ロクロナデ、 体部回転ヘラケズリ	口縁部～体部ロクロナデ、 返り径 10.8cm		30
12	C-023	Ⅳ区	SI4	上層	土師器	甕	略完形	21.2	8.6	34.2	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ・ 端部横位ヘラケズリ、底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		31
13	C-024	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	甕	口縁～胴部上半 1/3	(14.6)	－	(9.5)	口縁部～頸部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ	口縁部～頸部ヨコナデ、 胴部横位ヘラナデ		31
14	C-025	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	甕	口縁部破片	(13.8)	－	(6.9)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ	口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ		31
15	C-026	Ⅳ区	SI4	上層	土師器	甕	胴部～底部	－	7.4	(9.8)	胴部横位ヘラケズリ・下半縦位ヘラケズリ、 端部横位ヘラナデ、底部木葉痕	胴部横位ヘラナデ		31
16	C-027	Ⅳ区	SI4	中層	土師器	甑	胴部～底部	－	10.0	(25.8)	胴部上半縦位ハケメ、 胴部下半横位～縦位ヘラナデ	胴部ヘラミガキ、下端部横位ヘラケズリ		31
17	E-013	Ⅳ区	SI4	中層	須恵器	甕	口縁部破片	(32.8)	－	(11.5)	口縁部ロクロナデ→櫛描波状文２段	口縁部ロクロナデ		31

デとなる。内面は縦位のヘラミガキで、孔端部のみ横位にヘラケズリされる。底径10.0cm、現存高25.8cm。17は須恵器甕の口縁部片で、大型品と考えられる。頸部外面の上位には2条の平行線文を挟んで12条1単位の櫛描波状文が2段施文される。

SI5　竪穴住居跡（第80 ～ 82図）

[位置・残存] Ⅳ区南東端部の73・74グリッドに位置する。南西辺の一部をSI6により壊され、東側半分は大部分が調査区外へ伸びるため、全容については不明である。

[重複] 新旧関係は、SI6よりも古く、Ⅵ層上面で確認された小溝状遺構群よりも新しい。

[規模・形態] 北西-南東現存長（南西壁）730cm以上、北東-南西現存長（北西壁）480cm以上を測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] 南西辺より主軸方位を求めると、N-45°-Wである。

[堆積土] 9層に分層される。1 ～ 3層は住居堆積土、4層は周溝堆積土、5 ～ 9層は貼り床土及び掘り方土である。SK1（貯蔵穴）、SK2・SK3（床下土坑）、P1 ～ P5については別な層名で掲載している。

[壁面] ほぼ直線的に立ち上がる。壁高は北西辺の北寄りで5cmを測るが、それ以外は周溝のみの検出である。

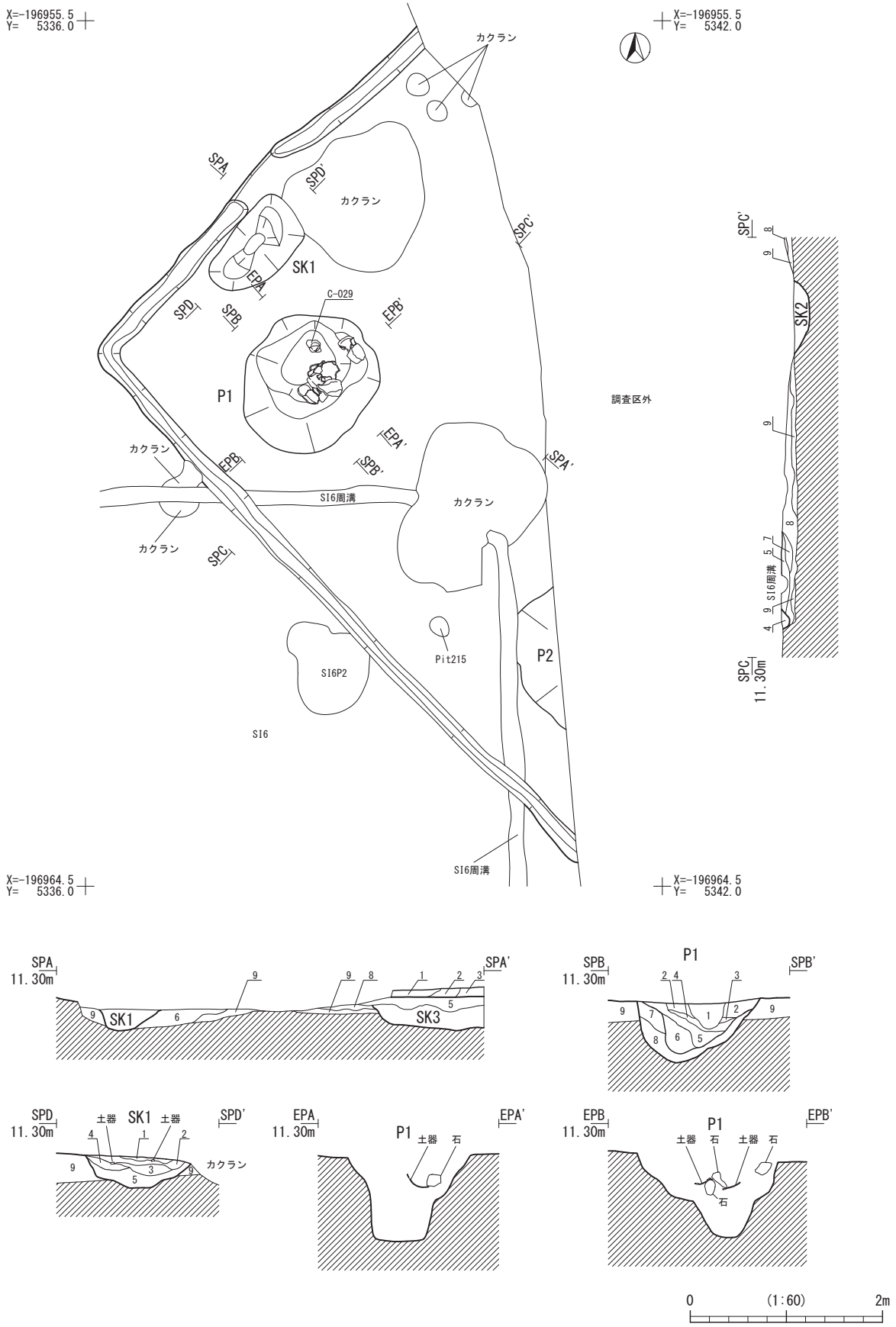
[床面] 緩やかな起伏が認められる。残存部分でわずかに貼り床が確認された。

[柱穴] 5基検出された。規模と配置からP1・P2が主柱穴と考えられる。P1の平面形は不整楕円形で、規模は長軸152cm、短軸136cm、深さ97cmを測り、P2もP1と同規模の柱穴と考えられる。P3・P4・P5は掘り方で検出された。P1では柱抜き穴痕跡が土層断面で観察され、抜き穴部分から土師器甕の大破片が出土した。

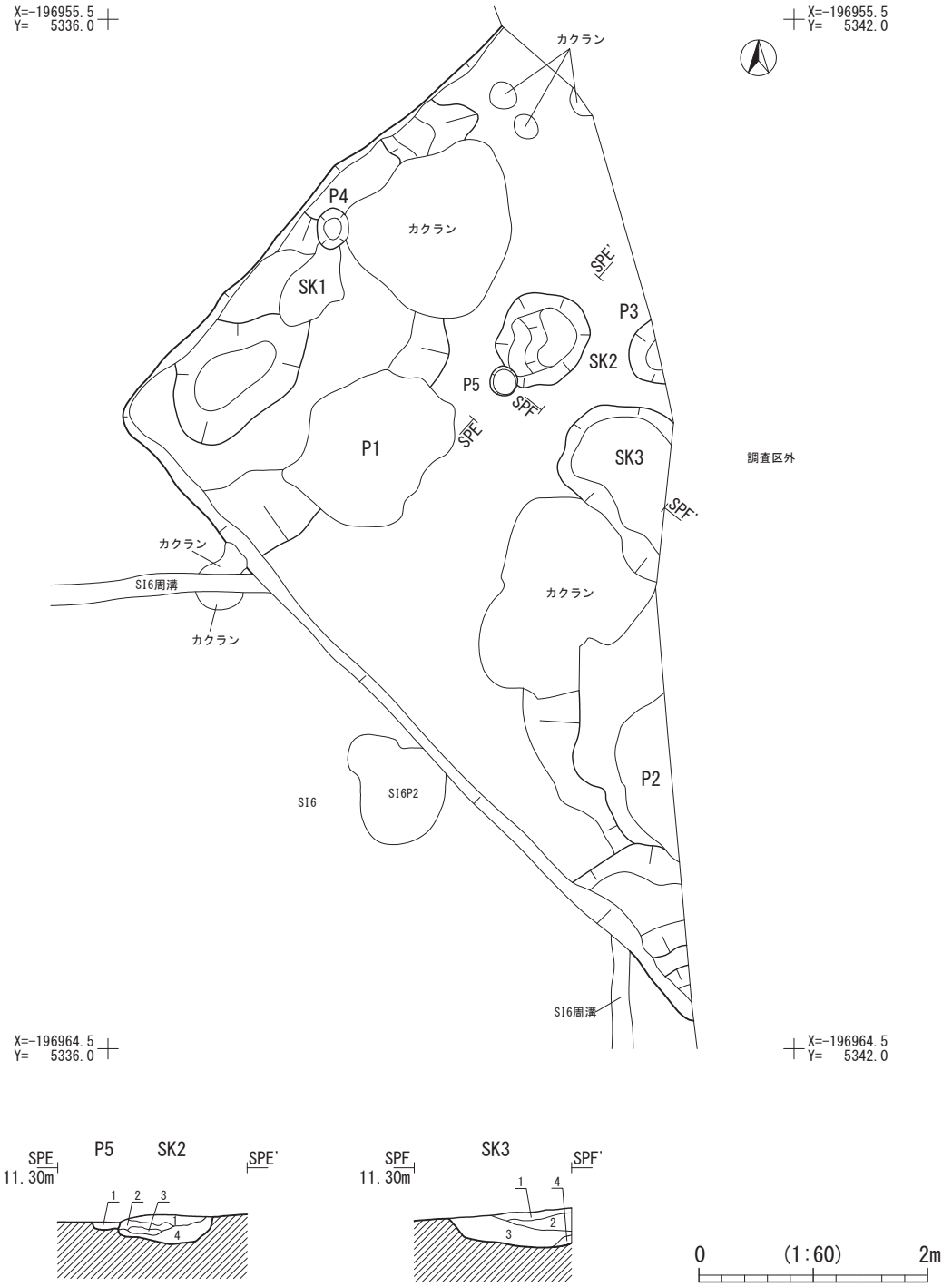
[貯蔵穴] 北西隅寄りに1基検出された。SK1は不整長方形を呈し、規模は長軸108cm、短軸62cm、深さ45cmを測る。

[床下土坑] 竪穴の中央寄りに2基検出された。SK2は不整楕円形を呈し、規模は長軸82cm、短軸78cm、深さ24cmを測る。SK3は不整楕円形と推定され、規模は長軸110cm以上、短軸102cm、深さ32cmを測る。いずれも内部には粘土質シルトが含まれる。

[周溝] 検出部の壁下に沿って確認され、北西辺では一部分が途切れる。規模は幅15 ～ 24cm、深さ8 ～ 12cmを測り、



第８０図　Ⅳ区ＳＩ５竪穴住居跡（1）



SI5　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊を少量、φ1 ～ 2mmの炭化物を微量含む。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 5mmの炭化物を少量含む。壁際はややグライ化している。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
周溝	4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
貼り床	5	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊をやや多く含む。
掘り方	6	2.5Y7/1	灰白色	シルト	φ1cmの 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト塊を微量含む。
	7	2.5Y7/4	浅黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
	8	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
	9	2.5Y7/6	明黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。

第８１図　Ⅳ区ＳＩ５竪穴住居跡（２）

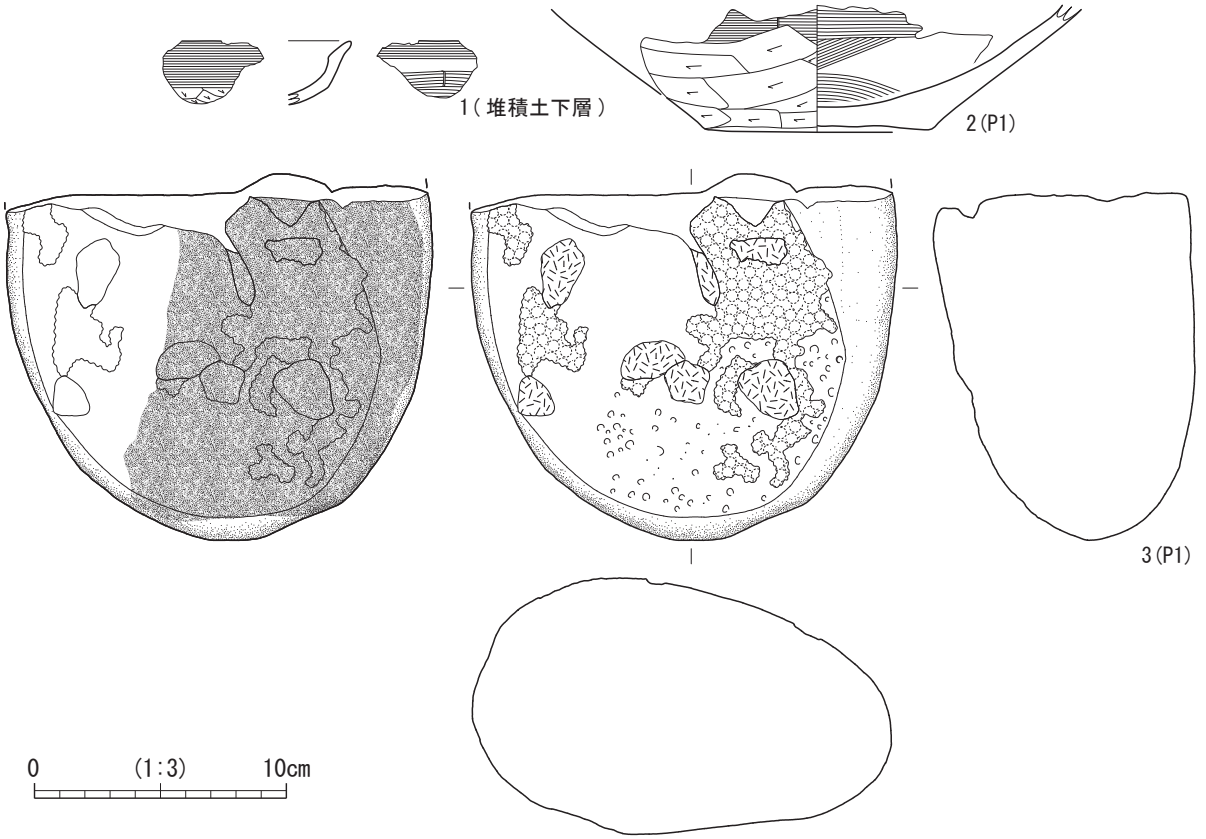
SI5　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。柱抜き穴痕跡。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。柱抜き穴痕跡。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱抜き穴痕跡。
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱抜き穴痕跡。
	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、φ2 ～ 5mmの炭化物を微量含む。柱抜き穴痕跡。
	6	2.5y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。柱抜き穴痕跡。
	7	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	8	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P2	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	粘性をやや有する。
P3	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	粘性をやや有する。
P4	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	粘性をやや有する。φ2mmの炭化物を微量含む。
P5	1	10YR6/2	灰黄褐色	シルト	締まりが弱い。
SK1（貯蔵穴）	1	10YR4/4	褐色	シルト	φ0.5 ～ 1cmの炭化物少量、φ0.5 ～ 1cmの焼土をやや多くむ。
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 3cmの炭化物を多量、φ0.5 ～ 1cmの焼土を少量含む。
	3	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ0.5 ～ 1cmの焼土及び炭化物を微量含む。
	4	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ0.5 ～ 1cmの焼土及び炭化物を微量含む。
	5	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/2 灰白色シルト塊を少量含む。
SK2（床下土坑）	1	10YR6/1	褐灰色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y8/4 淡黄色シルト塊をやや多く含む。
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y7/2	灰黄色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR8/2 灰白色シルト塊を少量含む。
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊をやや多く含む。
SK3（床下土坑）	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を微量含む。
	2	2.5Y7/1	灰白色	シルト	φ1cmの 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト塊を微量含む。
	3	2.5Y7/1	灰白色	シルト	粘性はやや強い。
	4	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を微量含む。

SI5　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	不整楕円形	152 × 136	97	主柱穴
P2	（不整楕円形）	−	−	主柱穴
P3	−	−	15	掘り方検出
P4	楕円形	36 × 28	34	掘り方検出
P5	円形	26 × 24	19	掘り方検出

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
SK1	不整長方形	108 × 62	45	貯蔵穴
SK2	不整楕円形	82 × 78	24	床下土坑
SK3	（不整楕円形）	− × 102	32	床下土坑



第８２図　Ⅳ区ＳＩ５竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-028	Ⅳ区	SI5	下層	土師器	坏	口縁小片	−	−	(2.5)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ	北武蔵系赤彩	32
2	C-029	Ⅳ区	SI5P1	堆積土	土師器	甕	底部破片	−	9.2	(5.0)	胴部下半横位ヘラナデ・下端ヘラケズリ 底部一定方向のヘラケズリ	胴部ヘラナデ		32

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
3	Kc-g-03	Ⅳ区	SI5P1	堆積土	礫石器	台石	14.2	16.9	10.1	1900.0	流紋岩	上部欠損　磨1（正）、敲1（正）	32

断面形は逆台形を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には、深さ10 ～ 20cmほどの掘り方が確認された。全体的な傾向としては、中央部よりも壁側がやや深い。

[カマド] 調査範囲では検出されていない。

[出土遺物] 竪穴住居跡の堆積土中からは、少量の土師器を主体とする遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器2点(1・2)と礫石器1点(3)を掲載した(第82図)。

1・2は土師器で、1が坏、2は甕である。1は偏平感のある丸底の破片で、口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、端部でわずかに外反している。一方、口縁部内面には稜を有し、外方上へ伸びる。また、内外面には赤彩が施され、器壁は全体に薄い。器形の特徴からは北武蔵系の影響が看取される。現存高2.5cm。2は胴張甕の底部片と推定され、安定感がある器形である。外面調整は横位のヘラナデとヘラケズリで、内面は横位のヘラナデである。底径は9.2cm。3は楕円形を呈する台石の欠損品である。厚みのある大形自然礫を用いている。正面右側に広く敲打状のくぼみが見られるが被熱のため使用痕として判然としない。正面には被熱によるはじけがみられ、右側は被熱により黒化する。上半の欠損も被熱に起因する可能性がある。石材は流紋岩である。

SI6　竪穴住居跡(第83 ～ 87図)

[位置・残存] Ⅳ区南東端の69・70・74・75グリッドに位置する。上部に近代の耕作痕と中世以降の小溝状遺構群による削平を受けて北東隅の一部が撹乱される。南壁側は調査区外へ伸びる。

[重複] 新旧関係は、中世以降の小溝状遺構群とⅣa層上面で確認されたPit208・215・243よりも古く、SI5・SI16よりも新しい。

[規模・形態] 東西(長軸)756cm、南北現存長(短軸)584cmを測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] カマドを基準に主軸方位を求めると、N-89°-Wである。

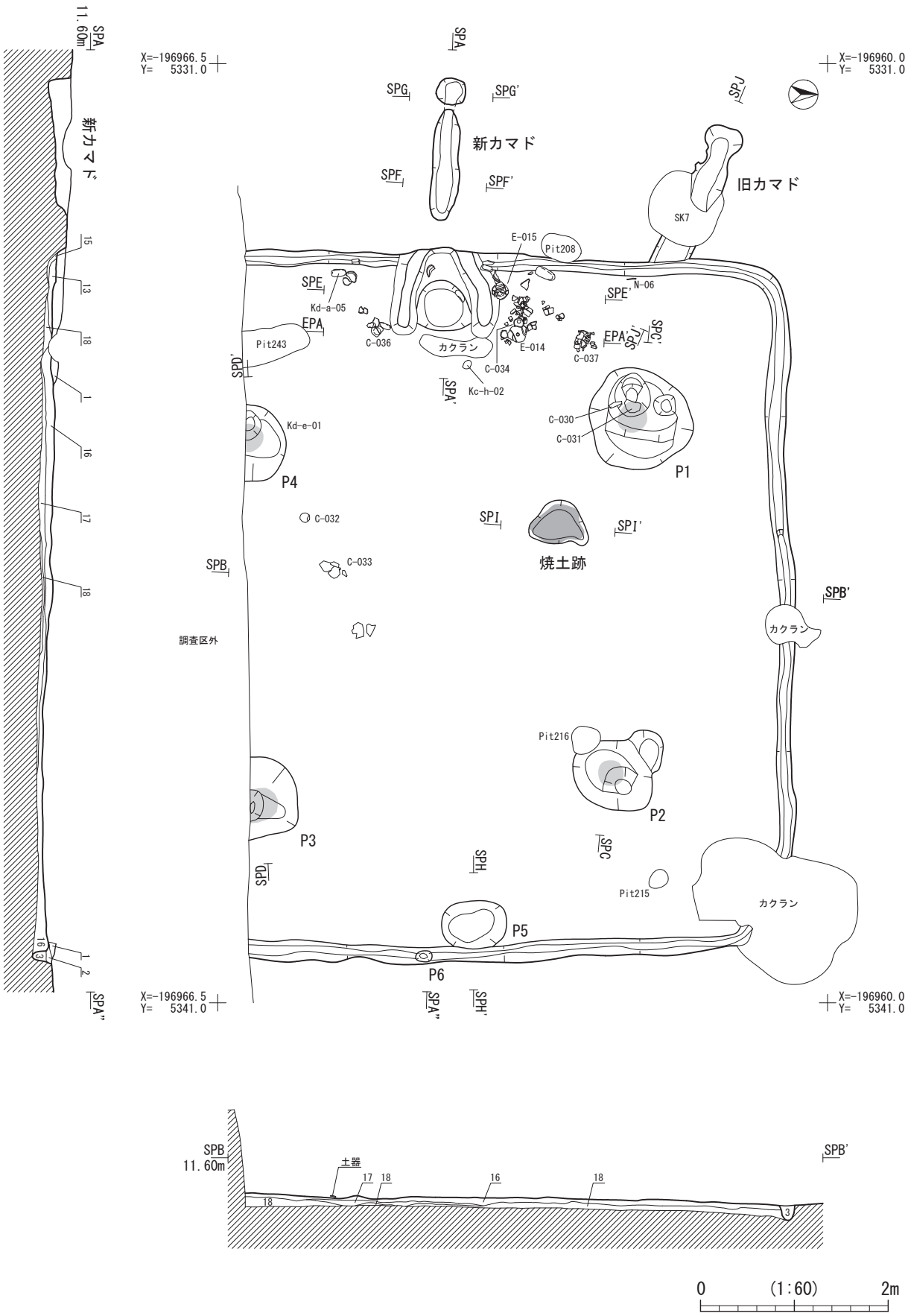
[堆積土] 18層に分層される。1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4 ～ 15層はカマド崩落土及び構築土、16 ～ 18層は貼り床土及び掘り方土である。焼土跡、旧カマド、P1 ～ P6については別な層名で掲載している。

[壁面] ほぼ直線的に立ち上がる。壁高は西辺で10 ～ 14cm、東辺で5 ～ 10cmを測るが、削平された部分もある。

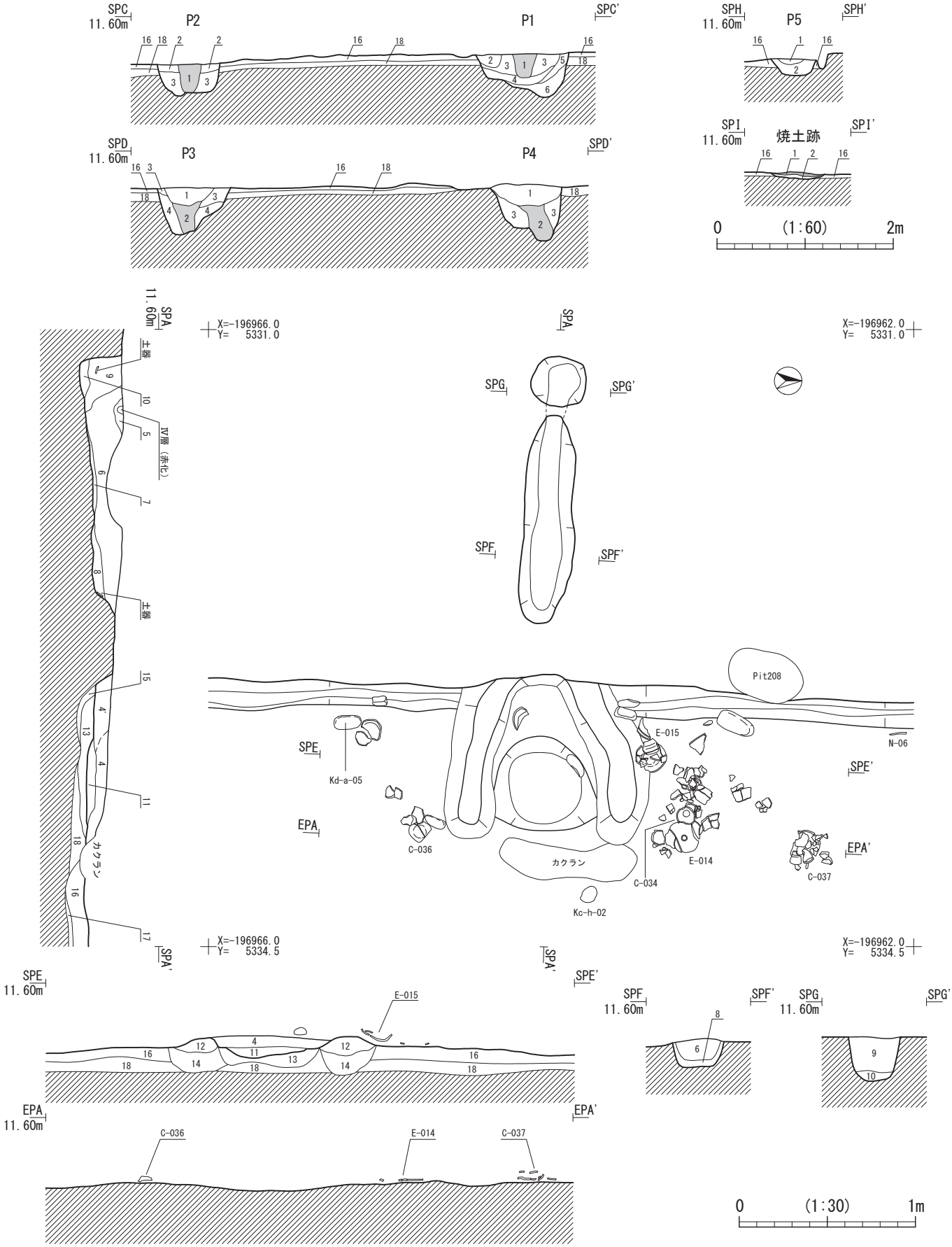
[床面] 全面貼り床構造で、カマド前から竪穴の中央付近にかけては明瞭な硬化面が認められた。また、起伏がわずかに認められる。推定床面積は約48㎡である。

[柱穴] 9基検出された。規模と配置からP1 ～ P4が主柱穴、P5は出入口施設に伴う柱穴と考えられる。P6は周溝内に位置する。P1・P2は円形ないしは楕円形を呈する。規模はP1が長軸113cm、短軸106cm、深さ48cm。P2は長軸94cm、短軸74cm、深さ35cmを測る。P3・P4も概ね同規模・同形態と推定され、深さはP3が53cm、P4が63cm。P6は長軸18cm、深さ10cm。P1 ～ P4では円形を呈する柱痕跡が確認され、その規模は径20 ～ 25cmを測る。また、P1・P2では、掘り方底面の北側に柱痕跡とは別の窪みが検出されており、主柱の建て替えが行われたことも考えられる。一方、P3・P4については、土層断面で柱痕跡を掘り込む土層(1層)が上層で認められることから、住居の廃絶の際に柱材の上部が切り取られた可能性が考えられる。

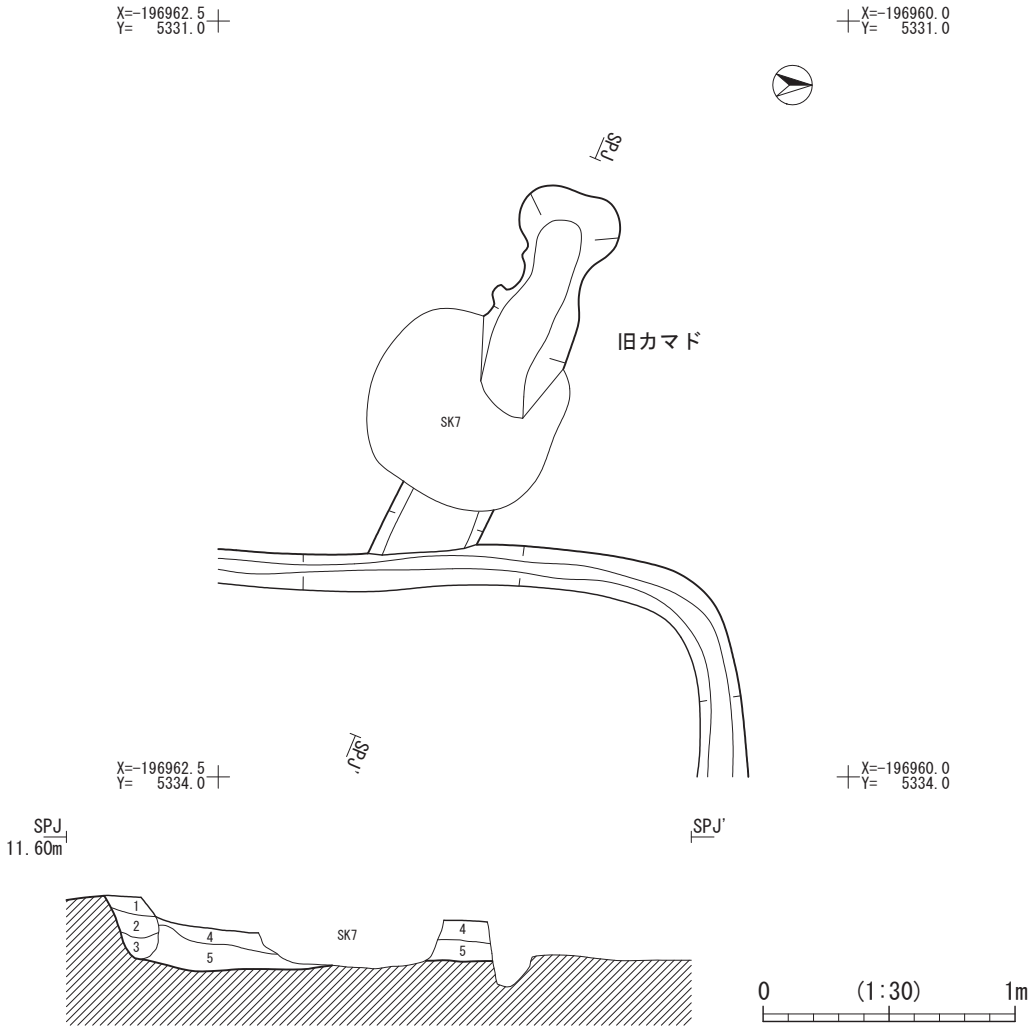
[焼土跡] 中央よりやや北側の床面上で、焼土の堆積が確認された。焼土は長軸64cm、短軸45cm、深さ11cmを測る不整形の窪み内にあり、底面には被熱痕跡が若干認められた。



第８３図　Ⅳ区ＳＩ６竪穴住居跡（1）



第８４図　Ⅳ区ＳＩ６竪穴住居跡（2）



SI6　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
周溝	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
新カマド	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの焼土塊をやや多く含む。
	4'	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	4 層に比べ、焼土の含有量がやや増している。
	5	2.5YR4/6	赤褐色	シルト	締まりと粘性を欠く。被熱し焼土化している。煙道。
	6	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物及びφ2 ～ 3cmの焼土を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。煙道。
	7	5YR4/6	赤褐色	シルト	焼土をやや多く含む。煙道。
	8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物少量、φ3 ～ 5mm焼土やや多く含む。煙道。
	9	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	締まりと粘性をともにやや欠き、焼土を少量含む。煙道。
	10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。煙道。
	11	2.5YR4/8	赤褐色	シルト	焼土塊主体。
新カマド袖	12	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	焼土を微量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
新カマド掘り方	13	10YR4/4	褐色	シルト	焼土を少量、灰を微量、φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	14	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	焼土を微量、φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	15	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
貼り床	16	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ0.5 ～ 1cmの炭化物を少量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
掘り方	17	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/1 黄灰色シルト塊を少量含む。
	18	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
旧カマド	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	焼土、炭化物を微量含む。
	2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	焼土を微量含む。
	3	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/2 灰黄色シルト塊を微量含む。
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	5	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。

第８５図　Ⅳ区ＳＩ６竪穴住居跡（3）

SI6　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 5㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性有する。
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	4	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	締まりと粘性をやや欠く。
	5	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
	6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性を欠く。柱痕跡。
	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂質シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色粘土質シルト塊を微量含む。
P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性を欠く。柱抜き穴痕跡。
	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色砂質シルト塊を少量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	4	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色粘土質シルト塊を微量含む。
P4	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含み、グライ化している。柱抜き穴痕跡。
	2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。柱痕跡。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P5	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
P6	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1㎝の 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
P7	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1㎝の 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
P8	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1㎝の 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
P9	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1㎝の 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
焼土跡	1	5YR3/6	暗赤褐色	シルト	焼土を多量、φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量含む。
	2	10YR4/6	褐色	シルト	焼土を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。

SI6　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	円形	113 × 106	48	主柱穴、柱痕跡あり
P2	楕円形	94 × 74	35	主柱穴、柱痕跡あり
P3	（楕円形）	87 × －	66	主柱穴、柱痕跡あり
P4	（楕円形）	81 × －	63	主柱穴、柱痕跡あり
P5	楕円形	68 × 51	20	出入口施設

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P6	楕円形	18 × 12	10	壁柱穴
P7	楕円形	38 × 28	12	掘り方検出
P8	円形	30 × 27	5	掘り方検出
P9	円形	33 × 30	5	掘り方検出
焼土跡	不整形	64 × 45	11	

[周溝] カマド部を除いて各壁下には周溝がめぐる。規模は幅12 ～ 18㎝、深さ10 ～ 17㎝を測り、断面形はU字状を呈する。カマド両脇の西辺では北辺よりも下端幅がやや狭い傾向にある。

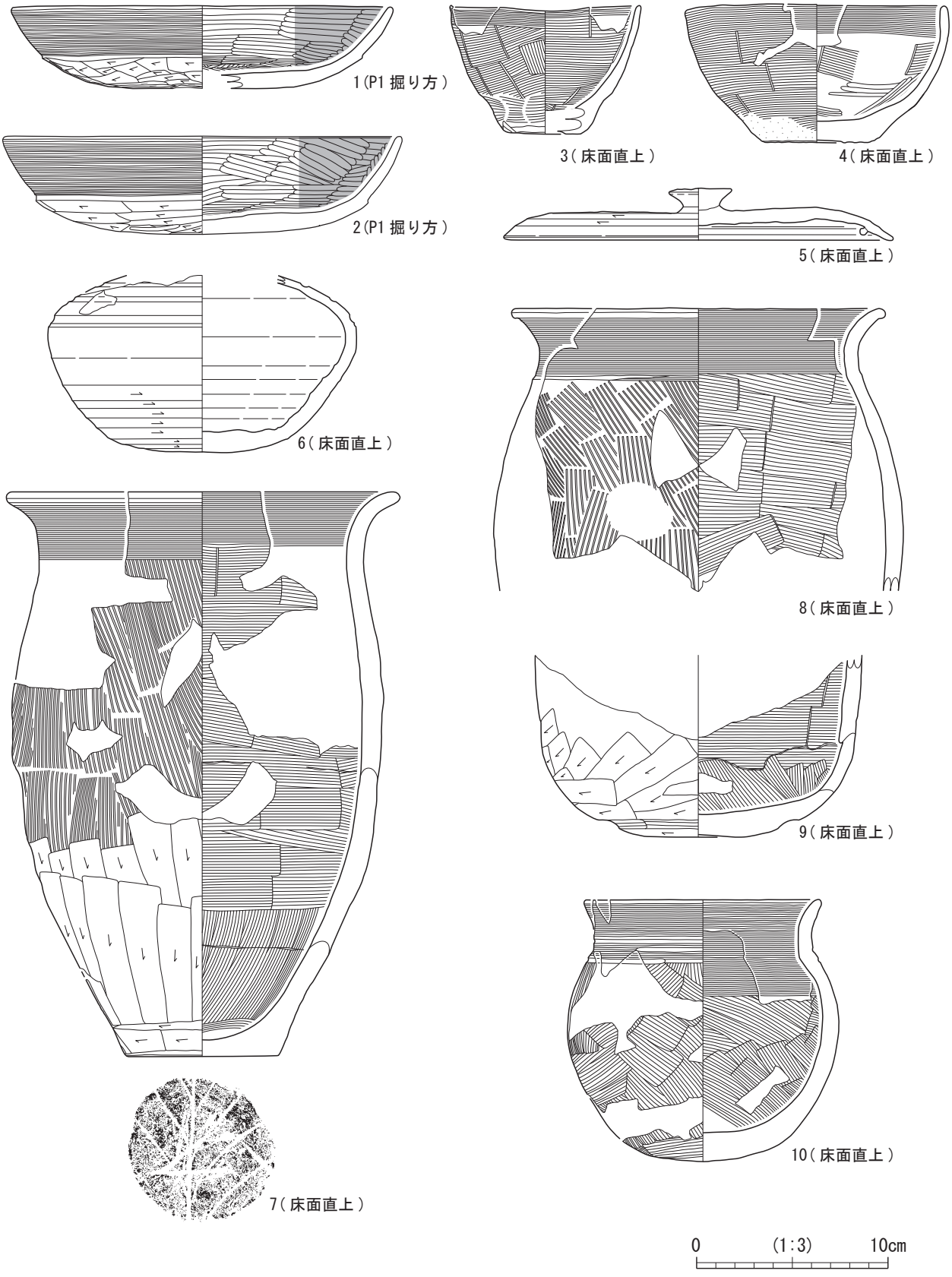
[掘り方] 貼り床の直下には深さ10 ～ 15㎝ほどの掘り方が確認され、ほぼ均等に掘られていた。

[カマド] 西壁の中央付近に構築され、天井部は崩落するが両袖部と火床面及び煙道部は残存していた。残存規模は、焚口から煙道まで270㎝、両袖最大幅は115㎝、袖部長は左袖が86㎝、右袖が90㎝を測る。両袖部下には楕円形の掘り込みがあり、暗灰黄色シルトを基礎にオリーブ褐色シルト混合土を積み上げて袖部を形成していた。焚口部は幅60㎝を測り、火床面には厚さ約3㎝の焼土塊層が確認された。焚口から奥壁までは約90㎝を測り、底面は浅く窪み、奥壁部でなだらかに立ち上がる。煙道部の規模は、長さ180㎝、最大幅30㎝、深さ13 ～ 19㎝を測り、先端部の煙出し部には天井部が残存していた。煙出し穴は長径約30㎝を測り、上部の内壁面は被熱によって赤化していた。

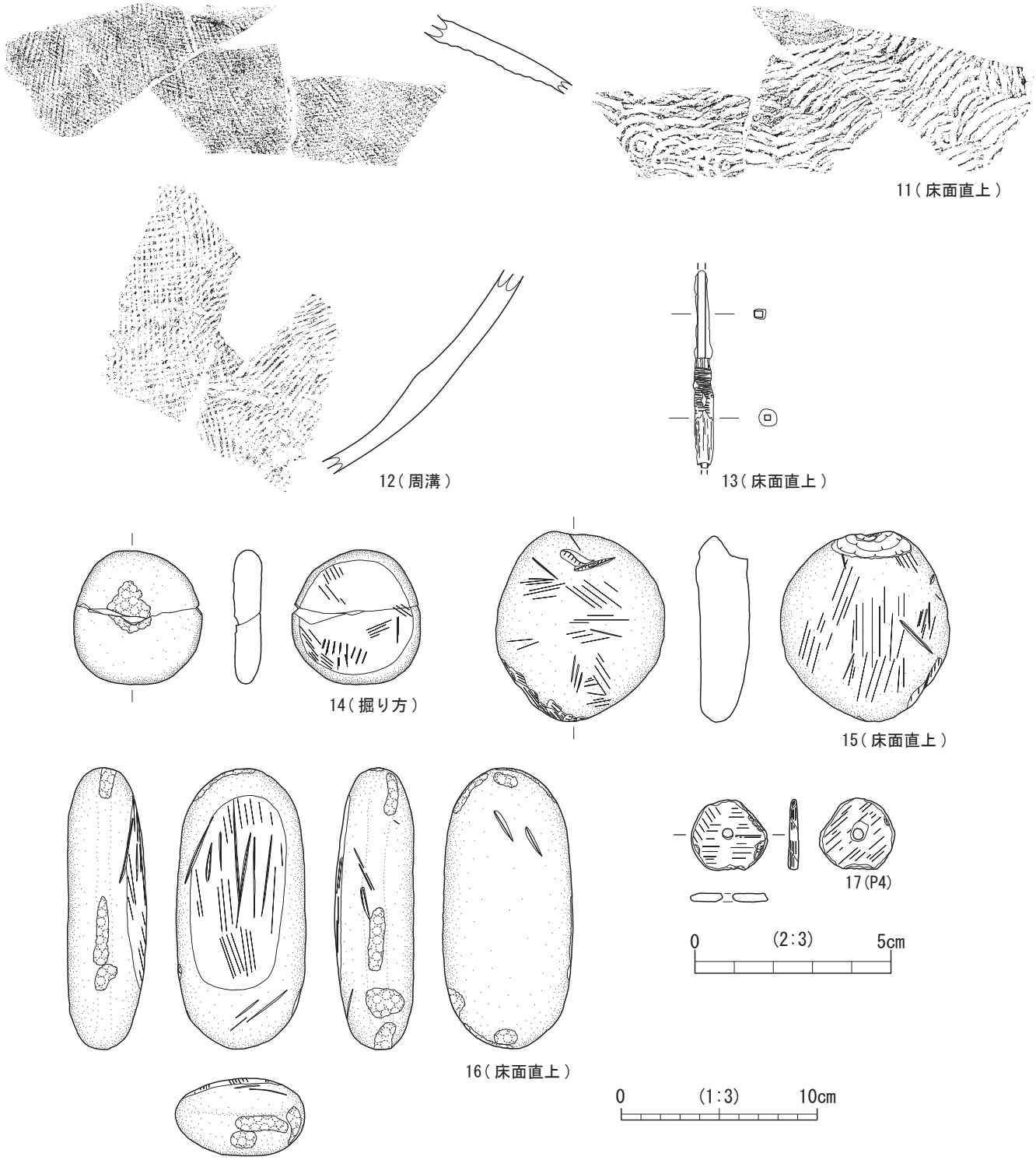
[旧カマド] 西壁の北西側で検出された小溝をSI6旧カマドの煙道部として調査したが、軸方向が壁面に対して大きく傾いていることや、SI6の竪穴内にカマド本体の痕跡が認められなかったことから旧カマドの可能性は低く、別遺構である可能性も考えられる。重複関係ではSK7によって壊されている。残存部分は、現存長160㎝、最大幅38㎝、深さ38㎝を測り、西端部はやや括れている。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは、平箱に2箱弱の遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器坏・鉢類4点(1 ～ 4)、土師器甕類4点(7 ～ 10)、須恵器蓋1点(5)、須恵器瓶・甕類3点(6・11・12)、鉄鏃の茎とみられる破片1点(13)、礫石器2点(14・15)、石製品2点(16・17)の計17点を掲載した(第86・87図)。これらの出土位置は、カマド両脇の床面直上より須恵器蓋・瓶、土師器甕などが6点(5 ～ 10)、中央付近の床面直上より土師器鉢が2点(3・4)、北西壁寄りの床面直上より鉄鏃の茎が1点(13)、P1の掘り方内より土師器坏が2点(1・2)、P4の掘り方内より石製模造品が1点(14)、その他に須恵器甕(11・12)などが堆積土中より出土している。

1・2は土師器坏で、2は略完形の製品である。1・2ともに浅く扁平な器形を特徴とし、下半に稜を有する。口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリである。内面には緻密なヘラミガキと黒色処理が施される。1は口径19.8㎝、器高4.3㎝、2は口径20.6㎝、器高5.1㎝。3・4は復元完形の鉢である。3・4



第８６図　Ⅳ区ＳＩ６竪穴住居跡出土遺物（１）



第８７図　Ⅳ区ＳＩ６竪穴住居跡出土遺物（２）

とも底部は平底で、体部はやや外傾ぎみに立ち上がり、4は口唇部で内湾ぎみとなる。外面調整は3・4ともに口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリである。内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。3は口径9.8㎝、底径4.4㎝、器高6.7㎝、4は口径13.5㎝、底径5.8㎝、器高7.2㎝。5は内面に返りを有する大振りの須恵器蓋である。扁平な天井部にボタン状の摘みを有し、内面の返りは小さい。外面調整は天井部回転ヘラケズリである。口径20.3㎝、器高2.7㎝、摘み径3.3㎝。6は須恵器瓶の胴部破片と考えられる。肩部に丸みを残す器形で、胴部下半には明瞭な回転ヘラケズリが施される。底径5.4㎝、残存高9.0㎝。7～10は土師器甕で、7～9は長胴甕、10は小型

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-030	Ⅳ区	SI6P1	堆積土	土師器	坏	口縁～底部 1/2弱	(19.8)	－	(4.3)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコヘラミガキ・底部ヘラミガキ →黒色処理		32
2	C-031	Ⅳ区	SI6P1	堆積土	土師器	坏	略完形	20.6	－	5.1	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコヘラミガキ・底部ヘラミガキ →黒色処理		32
3	C-032	Ⅳ区	SI6	床直	土師器	鉢	約 2/3	9.8	4.4	6.7	口縁部ヨコナデ、 体部上半ヘラナデ→ナデ・ 下半ユビナデ・指頭圧痕	口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ、 底部ヘラナデ		32
4	C-033	Ⅳ区	SI6	床直	土師器	鉢	口縁～底部 約 3/4	13.5	5.8	7.2	口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ、 底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→ 一部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ		32
5	E-014	Ⅳ区	SI6	床直	須恵器	蓋	略完形	20.3	－	2.7	天井部：回転ヘラケズリ→摘み貼付 （径 13.3cm）→周縁ナデ 口縁部：ロクロナデ	天井部：ロクロナデ 返り径 17.3cm	外面自然釉	32
6	E-015	Ⅳ区	SI6	床直	須恵器	瓶	肩部～底部 2/3	－	5.4	(9.0)	胴部上半ロクロナデ・下半回転ヘラケズリ	ロクロナデ		32
7	C-034	Ⅳ区	SI6	床直	土師器	甕	口縁～底部 2/3	20.6	8.2	29.4	口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ・ 下半縦位ヘラケズリ・端部横位ヘラケズリ 底部木葉痕	口縁部ヨコナデ、 胴部横位ヘラナデ・端部横位ヘラナデ		32
8	C-035	Ⅳ区	SI6	床直	土師器	甕	口縁～胴部 中位 1/4	(19.6)	－	(14.7)	口縁部ヨコナデ、胴部縦斜位ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		33
9	C-036	Ⅳ区	SI6	床直	土師器	甕	胴部～底部 1/4 弱	－	8.4	(9.5)	胴部ヘラケズリ、 底部木葉痕→ヘラケズリ	胴部下半横位ヘラナデ・ 下端縦位ヘラナデ		33
10	C-037	Ⅳ区	SI6	床直	土師器	甕	口縁～底部 3/4	12.4	(7.0)	13.6	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、 頸部直下に二条の平行沈線	口縁部～頸部ヨコナデ、 胴部斜位ヘラナデ		33
11	E-016	Ⅳ区	SI6	床直	須恵器	甕	肩部破片	－	－	－	平行タタキ→ロクロナデ	青海波文		33
12	E-017	Ⅳ区	SI6	周溝堆積土	須恵器	甕	胴部下半破片	－	－	－	平行タタキ→ロクロナデ	ナデ		33

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
13	N-06	Ⅳ区	SI6	床直	金属製品	鉄鏃	(10.0)	0.9	0.9	12.75	上・下端欠損 木質部残存　束縛痕	33

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
14	Kc-h-01	Ⅳ区	SI6	掘り方	礫石器	その他	6.8	6.6	1.4	55.6	流紋岩	完形　敲 1（正）、磨 1（裏）	33
15	Kc-h-02	Ⅳ区	SI6	床直	礫石器	その他	9.6	8.6	2.5	203.5	流紋岩	完形　線条痕 2（正裏）、削 1（正）	33
16	Kd-a-05	Ⅳ区	SI6	床直	石製品	砥石	14.3	6.6	4.0	612.9	デイサイト	完形　磨 1（正）、敲 4（上下左右）	33
17	Kd-e-01	Ⅳ区	SI6P4	掘り方	石製品	鏡形模造品	(1.8)	1.95	0.2	1.28	緑色片岩	略完形　縁辺一部剥離　中央部に円孔 1 つ 孔径 2.0 ～ 2.5㎜　正裏面擦痕	33

甕である。7は口縁部に最大径を有する。胴部は長胴化が顕著に認められ、下位に向かって次第に窄まる。胴部最大径は胴中位にある。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部上半が縦斜位のハケメ、下半がヘラケズリで、底部には木葉痕が残る。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。口径20.6cm、底径8.2cm、器高29.4cm。8は胴部に最大径を有し、口縁部の外反はやや強い。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部上半は縦斜位のハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデである。口径19.6cm。9は円筒形の胴部を特徴とする器形で、丸底ぎみの小さな底部が取り付く。外面調整は胴部下半が斜位のヘラケズリである。底部は摩滅のため不明。内面は横位のヘラナデである。底径8.4cm。10は頸部が直立ぎみに立ち上がり、口端部でわずかに外反する。胴部は球形状を呈し、底部は丸底ぎみとなっている。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部上半が斜位のヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部は斜位ヘラナデである。口径12.4cm、底径7.0cm、器高13.6cm。11・12は須恵器甕の破片で、11は肩部、12は胴部下半の資料。11の外面調整は細かい平行叩きで、横位のロクロナデが加えられる。内面は同心円状と青海波文状の叩き具痕跡が重ねられる。12の外面調整は細かい平行叩きのみで、内面はナデで仕上げられる。13は角柱状の鉄製品で、茎部には木質が付着しており、樹皮巻きが施されていることから「鏃」の可能性が高い。両端が欠損、断面は方形。現存長10cm。14・15はともにその他の礫石器で、円形を呈する扁平な自然礫を用いている。石材は粒子がやや密で軟質な流紋岩である。14は正面中央に弱い敲打痕、裏面に弱い磨面がみられる。磨面には異方向の斜位の擦痕を主体として、やや粗いものも認められる。15は両面に異方向の斜位の擦痕を中心として、粗い擦痕や刃縁の研磨によるものと考えられる断面Ｖ字形の太い溝状の痕跡が認められる。下端には面取り状の削り痕がみられる。敲打痕は観察されないが、裏面上端の剥離面は敲打に伴う可能性がある。15はカマド前面の床面直上から出土した。16は長楕円形を呈する砥石で、カマド左側の床面直上から出土した。研磨面が顕著に形成されて

いるのは正面のみで、縦位・斜位の擦痕と刃縁の研磨によるものと考えられる断面Ｖ字形の太い溝状の痕跡が数条認められる。また、上下端と両側縁の下位に極めて弱い敲打痕が確認される。石材はデイサイトである。17は鏡形の石製模造品である。平面形は縁辺に角がついた円形を呈し、孔は中央に１個あり、裏面からの穿孔と考えられる。正裏面には粗い擦痕が観察される。また側面は面取り状に狭く研磨されており、粗い擦痕が観察される。

SI7　竪穴住居跡（第88・89図）

[位置・残存] Ⅳ区南東寄りの62・63・69・70グリッドに位置する。上部に近代の耕作痕と中世以降の小溝状遺構群により削平を受ける。壁面や床面の一部を古代遺構の撹乱され、南側は調査区外へ伸びる。

[重複] 新旧関係は、SA５柱穴列、Pit223・228・231・245よりも古く、SX６性格不明遺構よりも新しい。

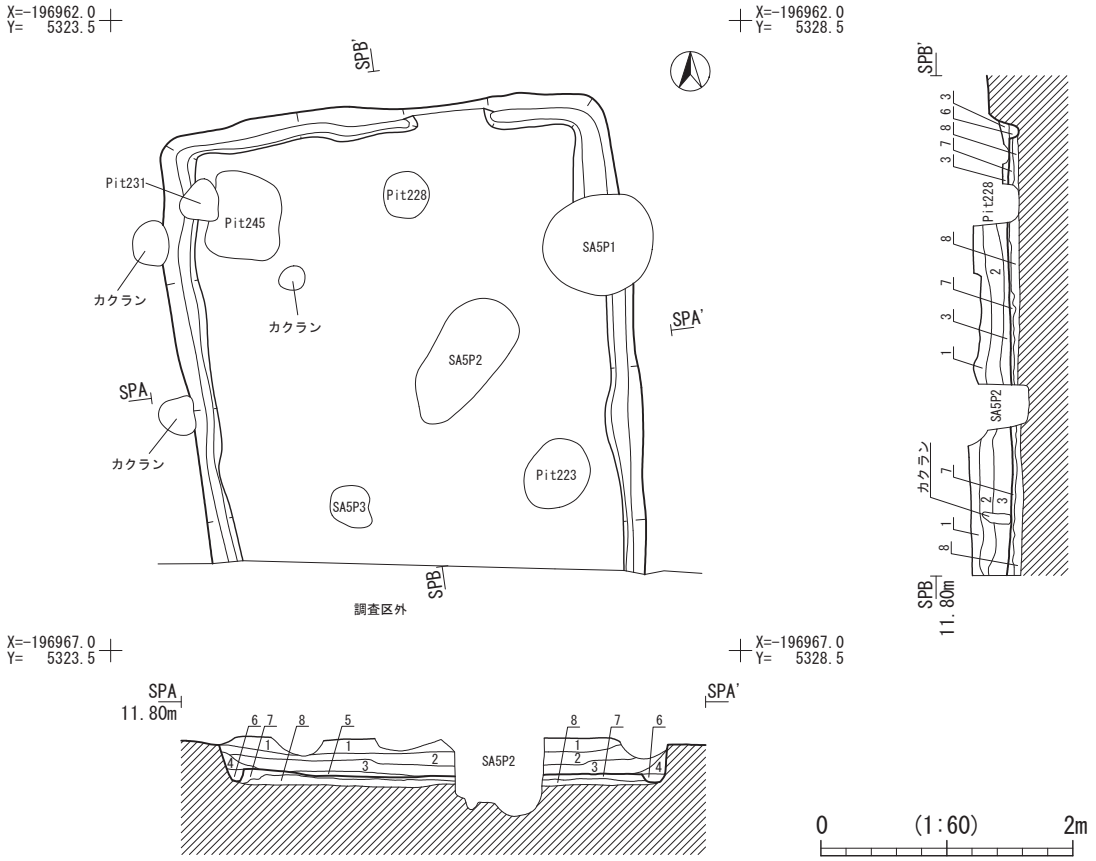
[規模・形態] 南北（長軸）380cm以上、東西（短軸）355cmを測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] 東壁を基準に主軸方位を求めると、N-5°-Wである。

[堆積土] ８層に分層される。１～５層は住居堆積土、６層は周溝堆積土、７・８層は貼り床土及び掘り方土である。

[壁面] ほぼ直線的に立ち上がる。残存状態の良好なところで最大34cmを測る。

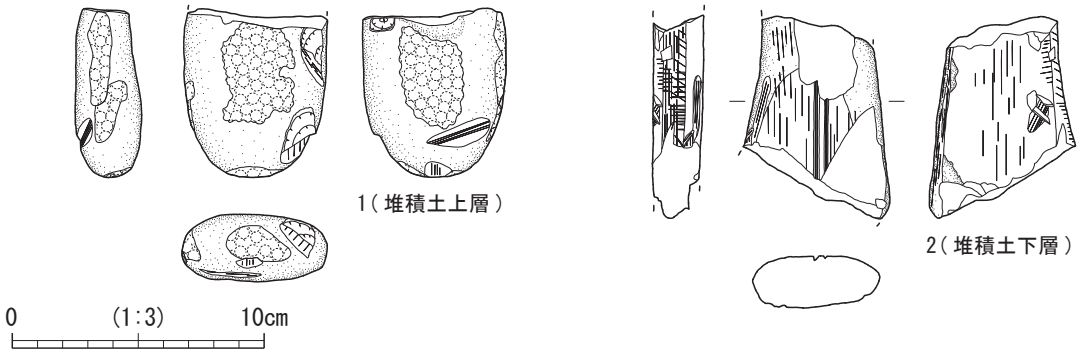
[床面] 残存部分は全面貼り床構造でほぼ平坦であるが、顕著な硬化面は確認されていない。



SI7　堆積土註記表

部　位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1～2㎜の炭化物を微量、φ1～2cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の焼土及び炭化物を微量、φ3～5cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/2黒褐色シルト塊を少量、2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。層の左側は一部グライ化している。
	4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1～3㎜の炭化物を少量、2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。
	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1～2cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量含む。
周溝	6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量含む。
貼り床	7	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1～2cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量、φ3～5cmの10YR4/1褐灰色シルト塊をやや多く含む。
掘り方	8	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ3～5cmの2.5Y7/4浅黄色シルト塊をやや多く含む。

第８８図　Ⅳ区ＳＩ７竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
1	Kc-c-03	Ⅳ区	SI7	上層	礫石器	敲石	(6.4)	5.7	2.6	74.3	流紋岩	上部欠損　敲５（正裏左右下）	33
2	Kd-a-06	Ⅳ区	SI7	下層	石製品	砥石	(6.9)	(5.6)	2.0	77.3	流紋岩質凝灰岩	破片　上下欠損　磨２（正裏） 正砥溝２条　左擦痕	33

第８９図　Ⅳ区ＳＩ７竪穴住居跡出土遺物

[柱穴] 調査範囲内では検出されていない。

[貯蔵穴] 調査範囲内では検出されていない。

[周溝] 検出された範囲内では、北壁の一部を除いて各壁下をめぐる。規模は幅10 ～ 20cm、深さ6 ～ 10cmを測り、断面形は幅の狭い逆台形を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には深さ6 ～ 10cmの掘り方が確認され、壁寄りと比較すると中央付近が浅い傾向にある。

[カマド] 調査範囲内では検出されていないが、未調査区の南壁側に存在する可能性もある。

[出土遺物] 堆積土からは内面に返りをもつ須恵器坏の蓋と石器類が2点出土したのみである。図示し得たのは礫石器(1)と石製品(2)の2点である(第89図)。

1は扁平な自然礫を用いた敲石で、上端が欠損している。敲打痕は正裏面中央と両側縁、下端にみられ、正裏面の敲打痕範囲は比較的広い。また、正面右側縁には剥離面を伴う平坦な削り痕、裏面下位には刃縁の研磨によるものと考えられる断面Ｖ字形をなす溝状の痕跡が認められる。なお、下端には敲打痕よりも新しい平坦な削り痕が観察される。石材は流紋岩である。2は上下端が欠損している砥石である。使用面は正裏面と左側面の3面で、とくに正面の使用が顕著である。各面には縦位を主体とする細かい擦痕が観察され、正面には刃縁の研磨によるものと考えられる断面Ｖ字形をなす溝状の痕跡が擦痕に平行して認められる。側縁には斜位・横位の擦痕も認められる。正面左側には平坦な削り痕、裏面右側には断面Ｖ字形の痕跡を伴う平坦な削り痕が認められ、いずれも研磨面よりも新しい。なお、両側縁には磨き消されていない自然面が残存する。石材は流紋岩質凝灰岩である。

SI8A　竪穴住居跡(第90 ～ 93図)

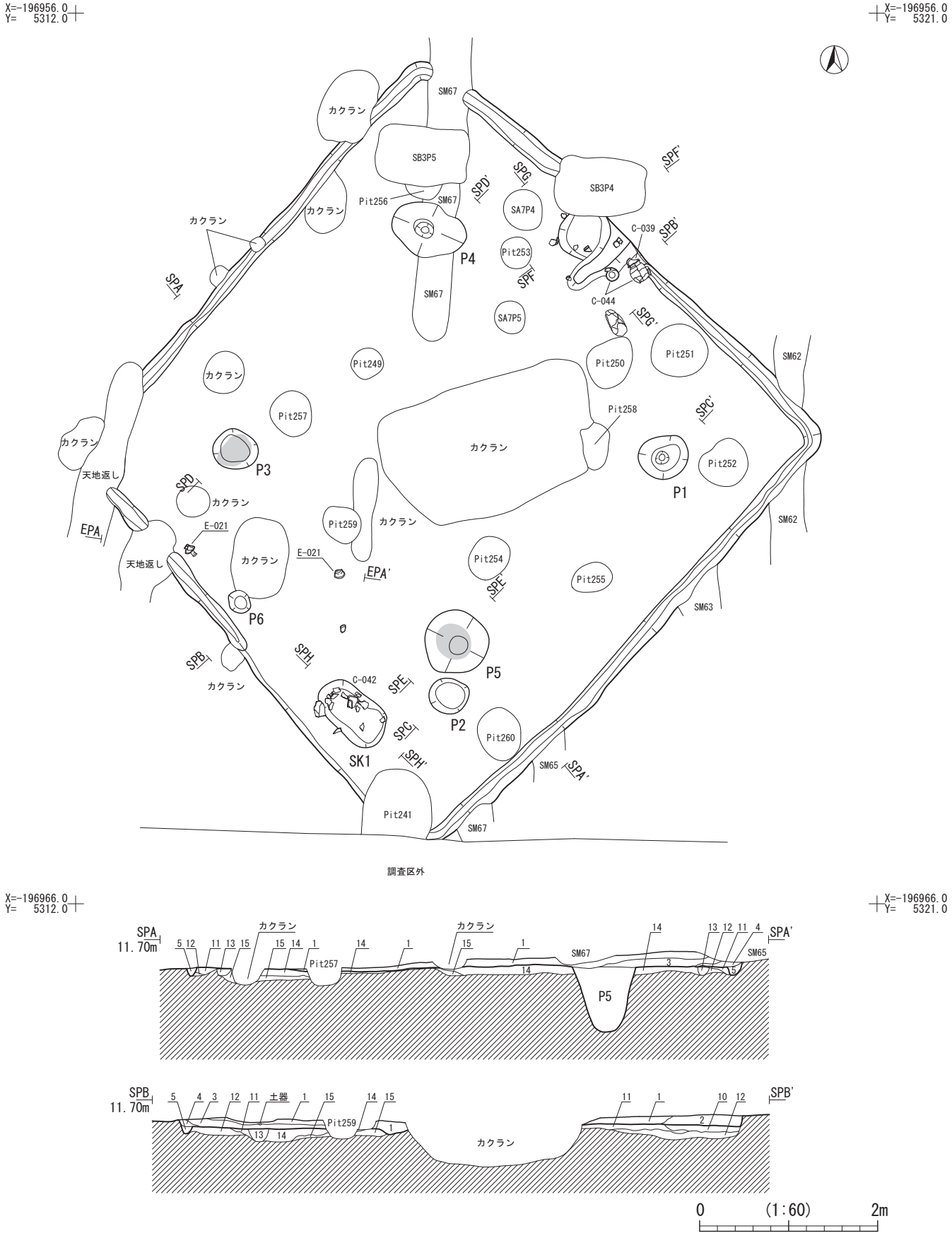
[位置・残存] Ⅳ区中央部南東寄りの53・54・61 ～ 63グリッドに位置する。近代の耕作痕と中世以降の小溝状遺構やピット、撹乱によって失われた部分もある。なお、本遺構は拡張されたものと考えられ、拡張後をSI8A、拡張前をSI8Bとして報告する。

[重複] 新旧関係は、SM62 ～ 67、Pit241・249 ～ 260、SB3掘立柱建物跡、SA7柱穴列よりも古く、SI11・SI15、SX7性格不明遺構よりも新しい。

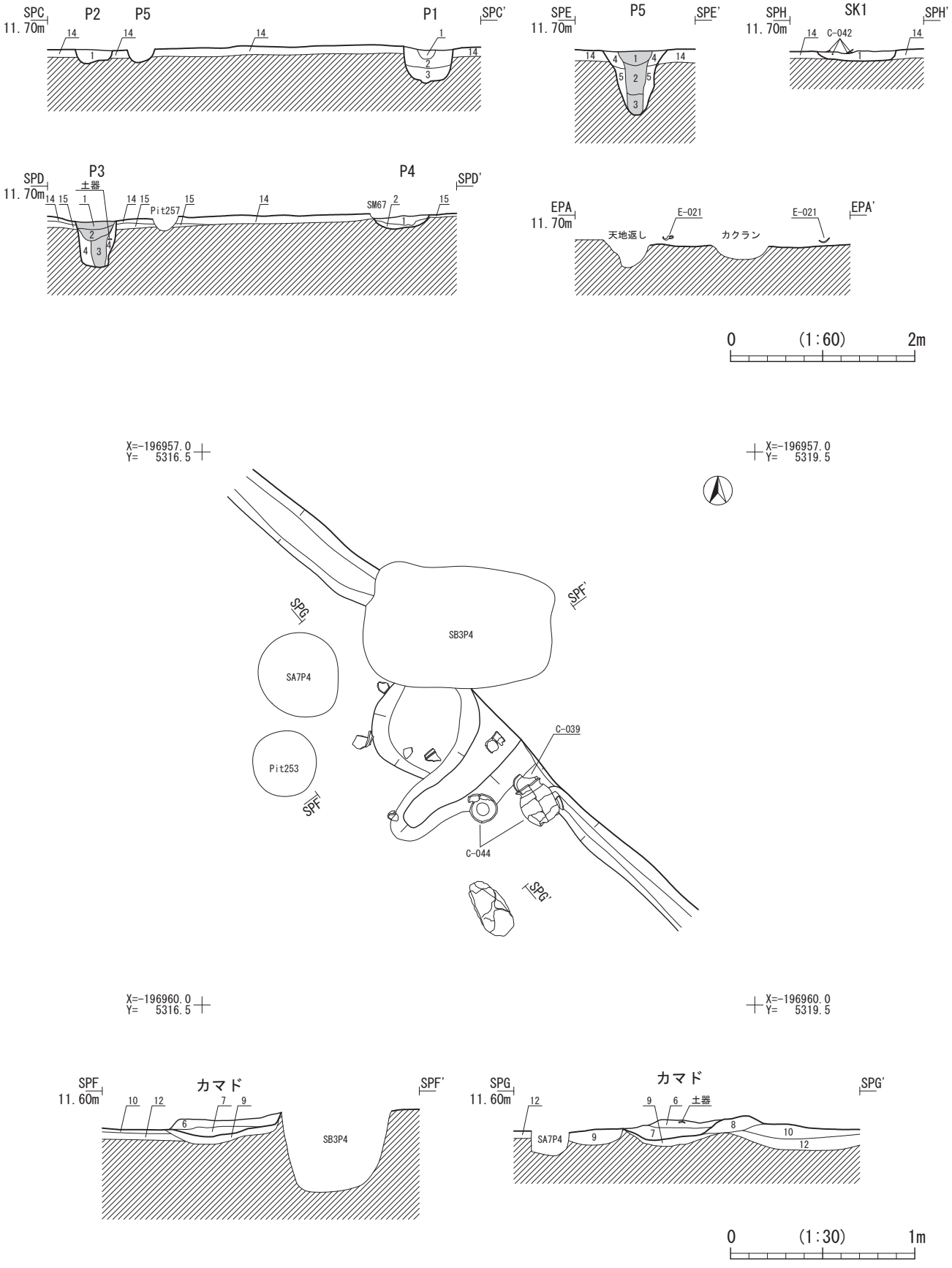
[規模・形態] 南北(長軸)646cm、東西(短軸)626cmを測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] カマドを基準に主軸方位を求めると、N-42°-Eである。

[堆積土] 12層に分層される。1 ～ 4層は住居堆積土、5層は周溝堆積土、6 ～ 9層はカマド崩落土及び構築土、10 ～ 12層は貼り床土及び掘り方土である。SK1(貯蔵穴)とP1 ～ P6、P8 ～ P16については別な層名で掲載している。



第９０図　Ⅳ区ＳＩ８Ａ竪穴住居跡（1）



第９１図　Ⅳ区ＳＩ８Ａ竪穴住居跡（２）

SI8　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	2	7.5YR4/6	褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、焼土をやや多く含む。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
SI8A 周溝	5	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を極微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。
カマド	6	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を極微量、φ1 ～ 2cmの焼土塊を少量、2.5Y6/3 にぶい黄色粘土質シルト塊を微量含む。
	7	5YR5/8	明赤褐色	シルト	焼土を多く含む。
カマド袖	8	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	締まりを有する。焼土を微量含む。
カマド掘り方	9	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/2 灰黄色シルト塊を少量、焼土を少量含む。
貼り床	10	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	焼土及び炭化物を微量、φ1cmの 10YR8/1 灰白色シルト塊をやや多く含む。
	11	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR8/1 灰白色シルト塊及びφ1 ～ 2cmの 2.5Y8/4 淡黄色シルト塊をやや多く含む。
SI8A 掘り方	12	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1cmの 10YR4/1 褐灰色シルト塊を少量含む。
SI8B 周溝	13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ5㎜の 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
SI8B 掘り方	14	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR8/1 灰白色シルト塊をやや多く、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/4 淡黄色シルト塊を少量含む。
	15	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1cmの 10YR4/1 褐灰色シルト塊を少量含む。

SI8　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ1cmの 2.5Y7/1 灰白色粘土質シルト塊を微量含む。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
P3	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ1cmの 2.5Y7/1 灰白色粘土質シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。
	4	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量を含む。
P4	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	焼土をやや多く含む。
	2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。
P5	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、φ1cmの 2.5Y7/1 灰白色粘土質シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。
	4	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。やや砂質が強い。
	5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。
P6	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。
P7	–	–	–	–	欠番。
P8	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P9	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P10	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P11	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P12	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P13	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P14	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
P15	1	7.5YR4/3	褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの焼土を少量、φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
P16	1	2.5Y4/1	褐灰色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊をやや多く含む。
SK1（貯蔵穴）	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1cmの焼土塊及び炭化物を少量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。

SI8　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	楕円形	56 × 48	35	主柱穴、柱痕跡あり
P2	円形	43 × 39	17	補助柱穴
P3	円形	52 × 45	51	主柱穴、柱痕跡あり
P4	長円形	86 × 61	15	主柱穴
P5	円形	73 × 71	71	主柱穴、柱痕跡あり
P6	円形	28 × 24	13	出入口施設
P7	–	–	–	欠番
P8	円形	35 × 34	38	掘り方検出
P9	円形	38 × 36	25	掘り方検出

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P10	不整楕円形	34 × 25	20	掘り方検出
P11	不整楕円形	22 × 16	24	掘り方検出
P12	楕円形	21 × 18	12	掘り方検出
P13	楕円形	20 × 17	12	掘り方検出
P14	円形	26 × 23	14	掘り方検出
P15	円形	52 × 46	12	掘り方検出
P16	円形	22 × 21	10	掘り方検出
SK1	隅丸長方形	88 × 50	10	貯蔵穴

[壁面] ほぼ垂直に立ち上がる。残存状態の良好な箇所で8 ～ 11cmを測る。

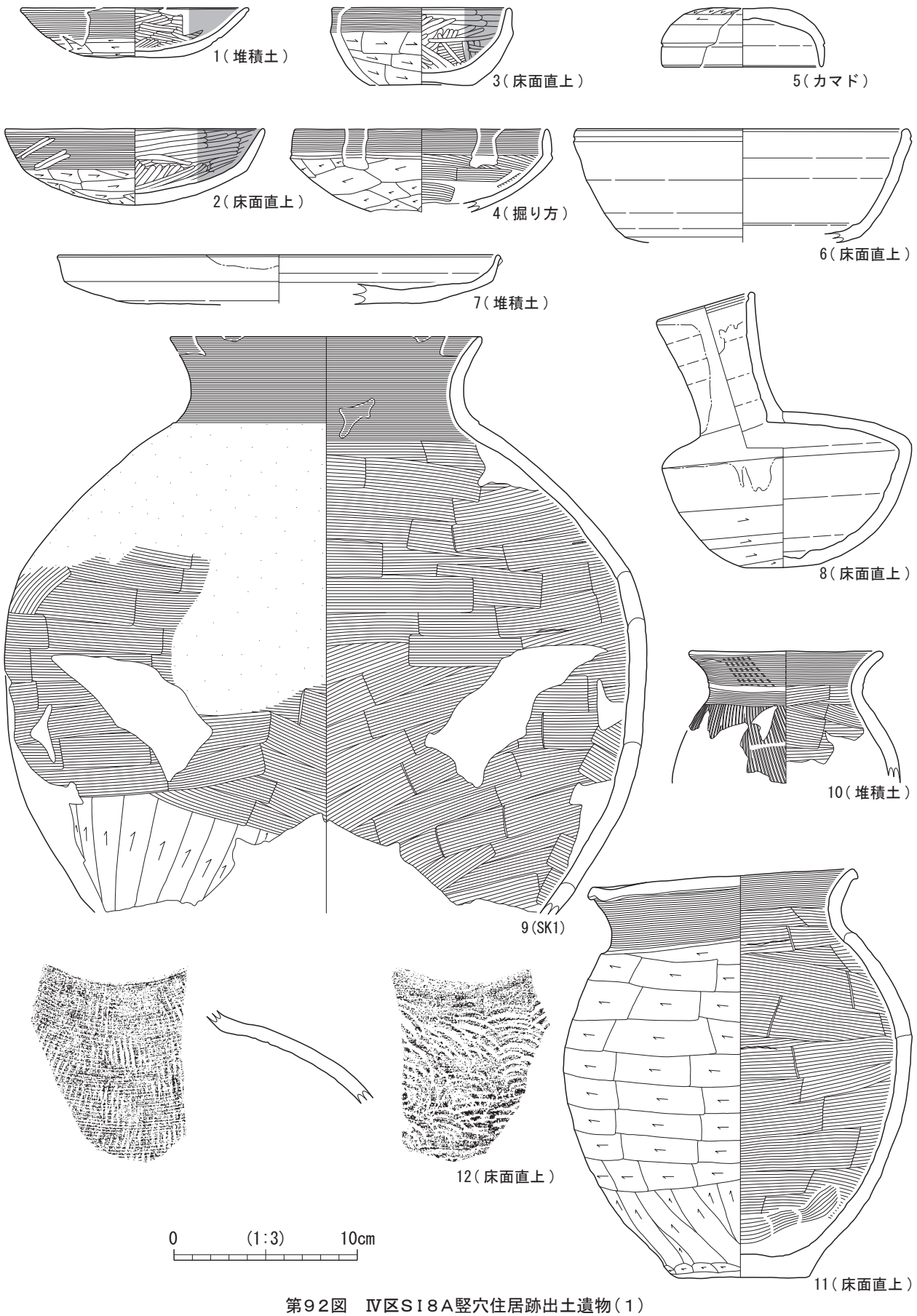
[床面] 全面貼り床構造で、やや起伏がある。カマド前から竪穴中央付近の残存部では良好な硬化面が確認される。床面積は約32㎡である。

[柱穴] 15基検出された。規模と配置からP1・P3 ～ P5が主柱穴、P6が出入口施設と考えられる。P2は主柱穴P5の補助的な位置である。P1・P3 ～ P5の平面形は円形ないしは楕円形を呈し、規模は長軸52 ～ 86cm、短軸45 ～ 71cm、深さ15 ～ 71cmを測る。P2の規模は長軸43cm、深さ17cm、P6の規模は長軸28cm、深さ13cmを測る。また、P3・P5では円形の柱痕跡が確認され、検出面での規模は径42 ～ 45cmを示す。

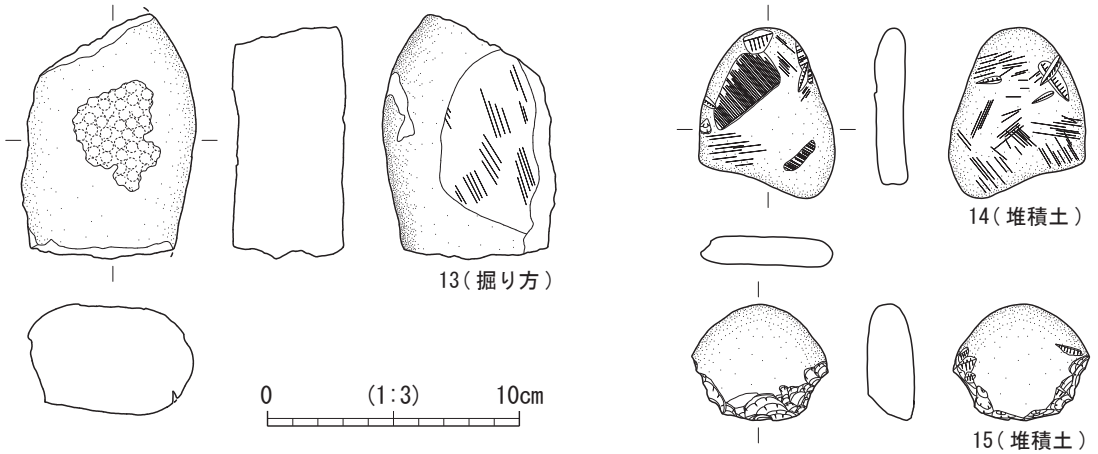
[貯蔵穴] カマドと対峙する南西壁の南東側で確認された土坑(SK1)を貯蔵穴とした。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸88cm、短軸50cm、深さ10cmを測る。

[周溝] カマド部と南西壁の南東側を除いた各壁下に沿って周溝はめぐる。規模は幅12～21cm、深さ8～12cmを測り、断面形は逆台形状もしくはU字状を呈する。
[掘り方] 貼り床の直下には6～15cmの掘り方があり、竪穴の中央に比べて四辺が深い掘り方となっている。
[カマド] 東北壁の中央部付近に構築されている。天井部が崩落して左袖部と煙道部が失われていた。残存規模は、焚口から煙道までは57cm、両袖部幅は100cm内外と推定され、右袖部長は86cmを測る。右袖部よりその構造を示すと、袖部下には浅い掘り込みを有し、灰黄色及び黄灰色シルト土を積み上げて形成している。焚口部の幅は50cm前後と考えられ、火床面には厚さ3～4cmの焼土が確認され、奥壁部寄りで立ち上がる。カマド右袖脇の床面から土師器の坏及び甕の略完形品が出土している。
[出土遺物] 竪穴住居跡からは、平箱1箱分の遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器坏4点(1～4)、須恵器蓋1点(5)、須恵器坏1点(6)、須恵器高盤1点(7)、須恵器平瓶1点(8)、須恵器甕1点(12)、土師器甕3点(9～11)、礫石器3点(13～15)の計15点を掲載した(第92･93図)。なお､加工痕が観察されなかったため掲載はしなかったが､石製模造品と同一石質の緑色片岩の破片が1点出土している。掲載した遺物の出土位置は、5の蓋がカマド内、2の坏と11の甕がカマド右袖部脇の床直直上、3･6の坏と8の平瓶、12の甕も床直直上、4の坏が掘り方内、1の坏･7の高盤、10の甕は堆積土中である。カマド右脇から出土した甕(11)の口縁部には坏(2)が正位の状態で重なっていた。2･11は略完形、3･5･8が復元完形である。

1～4は土師器坏である。1･3は平底で、2･4は丸底である。1の体部は大きく外傾しながら立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部は横位のヘラケズリ。内面は横位のヘラミガキで、黒色処理される。口径12.4cm、底径5.4cm、器高2.7cm。3は身のやや深い器形で、口縁部で直立ぎみとなる。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部は横位のヘラケズリ。内面は横位･斜位のヘラミガキで、黒色処理される。口径9.6cm、底径5.6cm、器高4.2cm。2の口縁部は外傾ぎみに立ち上がり､底部との境界の稜は形骸化している｡外面調整は口縁部ヨコナデ､底部ヘラケズリ。内面は横位･斜位のヘラミガキで､黒色処理される。口径14.0cm､器高4.1cm。4は口縁部がやや内傾する器形である。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。口径13.8cm、現存高4.5cm。5は小振りの須恵器の蓋である。天井部は扁平な形態で、口縁部との境界には凹線を有し、ほぼ垂直に折れる。天井部は回転ヘラケズリである。口径8.6cm、器高3.2cm。6は平底の大振りな須恵器坏で、体部は内湾ぎみに立ち上がり、口唇部には1条の凹線がめぐり、端部で小さく直立する。底部の調整は不明。口径18.0cm、底径12.8cm、器高6.2cm。7は高盤の坏部破片である。坏部は浅い皿状の器形で、口縁部で屈曲して立ち上がり、端部は薄くつくられる。底部は回転ヘラケズリで、坏部外面には自然釉の付着が認められる。口径24.0cm、残存高2.4cm。8は小型の平瓶である。体部は湾曲ぎみに立ち上がり、肩部に丸い屈曲部を有し、片側に口縁部が取り付く。口縁部は上方へ向けて緩やかに立ち上がり口唇部に至る。口唇部の内側には浅い凹線がめぐる。口縁部の内外面と肩部には自然釉の付着が認められる。また､胴部下半には回転ヘラケズリが明瞭に施されている。底径4.2cm､器高15.0cm。9～11は土師器甕である。いずれも胴張甕とみられ、9が大型、11が中型、10が小型の器種である。口縁部はいずれも大きく外反し、胴部中央に最大径を有する。9の外面調整は口縁部はヨコナデ、胴部は横位のヘラナデと縦位のヘラケズリ。内面は口縁部がヨコナデ、胴部が横位のヘラナデである。口径17.0cm、残存高31.4cm。10の外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のハケメ。口径10.5cm。11の外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は横位・縦位のヘラケズリ、底部は磨滅して不明。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。口径14.2cm、底径7.6cm、器高22.3cm。12は須恵器甕の頸部直下の胴部破片である。外面は細かい平行叩きで、横位のロクロナデが加えられる。内面には同心円文と青海波文が重ねられる。13は敲石である。正面中央に敲打痕、裏面の磨面に斜位の擦痕がみられる。全体が被熱により赤化し、ひび割れもみられる。裏面の磨面は欠損よりも古く、敲打痕が正面中央に位置することから磨石破片を敲石に転用した可能性が考えられる。石材はデイサイトである。14･15はその他



第９２図　Ⅳ区ＳＩ８Ａ竪穴住居跡出土遺物（１）



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-038	Ⅳ区	SI8	堆積土	土師器	坏	口縁～底部1/3	(12.4)	(5.4)	(2.7)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部～底部ヘラミガキ→黒色処理		33
2	C-039	Ⅳ区	SI8 カマド脇	床直	土師器	坏	略完形	14.0	－	4.1	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ・底部放射状ヘラミガキ→黒色処理		33
3	C-040	Ⅳ区	SI8	床直	土師器	坏	口縁～底部1/3	(9.6)	(5.6)	4.2	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ・体部ヘラミガキ・底部ヘラミガキ→黒色処理		33
4	C-041	Ⅳ区	SI8	掘り方	土師器	坏	口縁～底部1/3	(13.8)	－	(4.5)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ		33
5	E-018	Ⅳ区	SI8	カマド	須恵器	蓋	口縁～天井3/4強	(8.6)	6.4	3.2	天井部回転ヘラケズリ、口縁部ロクロナデ	口縁～天井部ロクロナデ		34
6	E-019	Ⅳ区	SI8	床直	須恵器	坏	口縁～底部1/5	(18.0)	(12.8)	(6.2)	口縁～胴部下端ロクロナデ	口縁部～胴部下端ロクロナデ		34
7	E-020	Ⅳ区	SI8	堆積土	須恵器	高盤	口縁～底部1/5	(24.0)	(17.7)	(2.4)	口縁部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	口縁部～底部ロクロナデ	外面口縁部自然釉付着	34
8	E-021	Ⅳ区	SI8	床直	須恵器	平瓶	口縁～底部2/3	5.1	4.2	15.0	口縁部～頸部ロクロナデ、胴部上半ロクロナデ・下半回転ヘラケズリ、底部ヘラ切り	口縁部～底部ロクロナデ	外面肩部自然釉付着、内面底部自然釉溜り 湖西産	34
9	C-042	Ⅳ区	SI8	SK1	土師器	甕	口縁～胴部1/2弱	(17.0)	－	(31.4)	口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ・下半縦位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		34
10	C-043	Ⅳ区	SI8	堆積土	土師器	小型甕	口縁～胴部上半1/2弱	(10.5)	－	(7.2)	口縁部～頸部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		34
11	C-044	Ⅳ区	SI8	床直	土師器	坏	略完形	14.2	7.6	22.3	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ、胴部下端縦位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、頸部横位ヘラナデ、胴部下半横位ヘラナデ、胴部下端ナデ		34
12	E-022	Ⅳ区	SI8	床直	須恵器	甕	胴部上半破片	－	－	－	平行タタキ→ロクロナデ	青海波文、同心円タタキ		34

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
13	Kc-c-04	Ⅳ区	SI8	掘り方	礫石器	敲石	(9.5)	(6.6)	(4.5)	402.6	デイサイト	破片　敲1（正）、磨1（裏）	34
14	Kc-h-03	Ⅳ区	SI8	堆積土	礫石器	その他	6.3	5.4	1.1	40.2	流紋岩	完形　削1（正裏）	34
15	Kc-h-04	Ⅳ区	SI8	堆積土	礫石器	その他	4.55	5.4	1.9	33.4	流紋岩	完形　削1（下端）	34

第93図　Ⅳ区SI8A竪穴住居跡出土遺物（2）

の礫石器である。14は不整の隅丸三角形を呈し、正裏面に削り痕と異方向の斜位の擦痕がわずかにみられる。削り痕には正面に小剥離を伴う平坦なもの、裏面に断面Ｖ字形をなす溝状のものがみられ、いずれも擦痕よりも新しい。石材は流紋岩である。15逆台形状を呈する。下端に小剥離によって断面が鈍角の縁辺が作出される。正面左辺は両面加工、下辺と右辺は片面加工である。左辺と右辺の断面はほぼ垂直となる。裏面の左右側縁には断面Ｖ字形をなす削り痕が認められる。石材は流紋岩である。

SI8B　竪穴住居跡（第94図）

[位置・残存] Ⅳ区中央部南東寄りの53・54・61～63グリッドに位置する。SI8Aの直下に一回り小さい規模で検出され、掘り方と周溝のみの残存である。

[重複] 新旧関係は、SM62～67、Pit249～260、SB3掘立柱建物跡、SA7柱穴列よりも古く、SI11・SI15よりも新しい。

[規模・形態] 規模は東西（長軸）556cm、南北（短軸）496cmを測り、平面形は方形を呈する。

[主軸方位] 東壁を基準とした主軸方位は、N-42°-Eである。

[堆積土] 3層に分層される。13層は周溝堆積土、14・15層は掘り方土である（第90・91図）。堆積土層名については、SI8A竪穴住居跡の堆積土と連続名で掲載した。

[壁面] 残存部分はない。

[床面] SI8Aの掘り方により床面は失われている。推定床面積は約23㎡である。

[柱穴] 検出されていない。

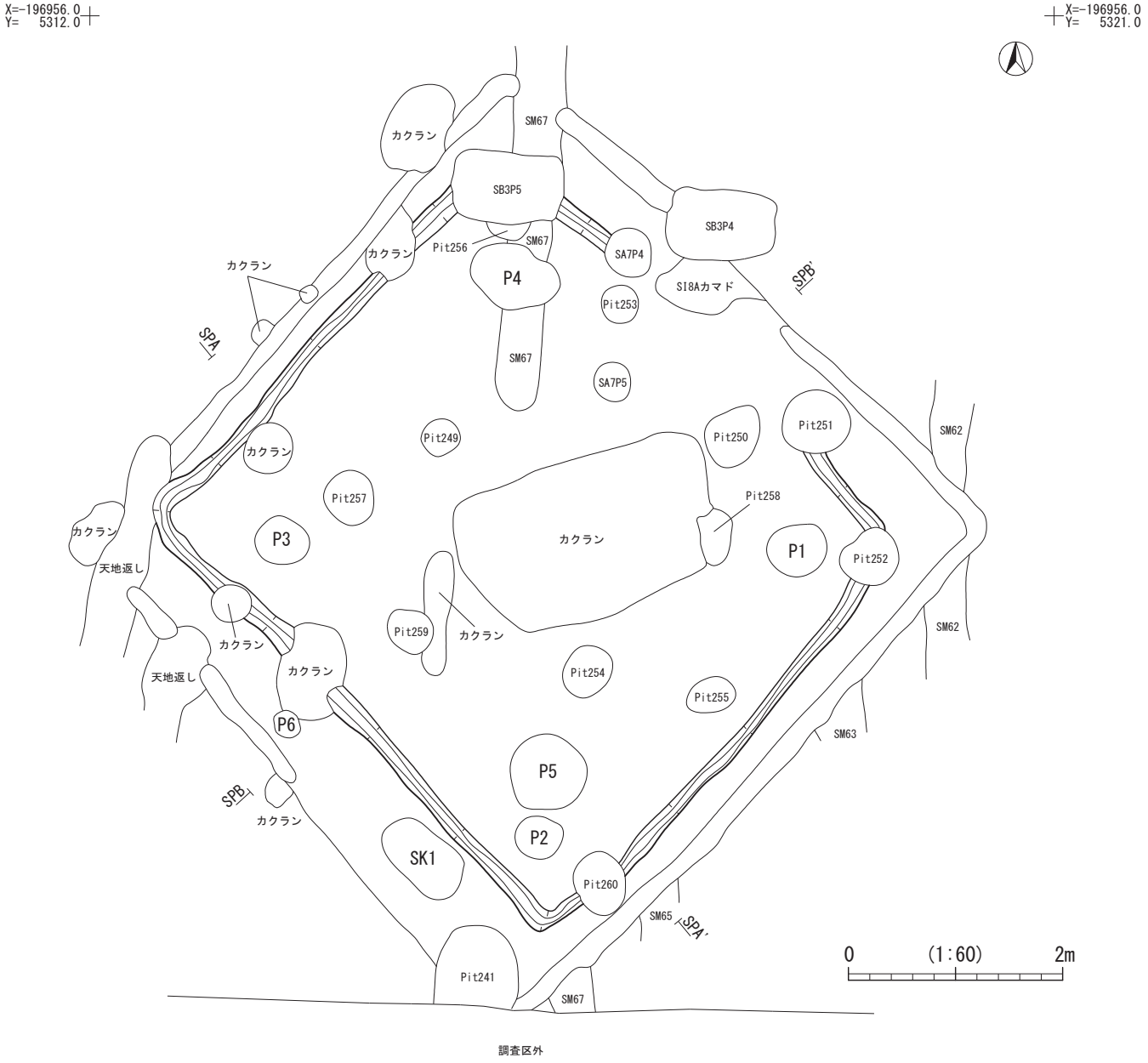
[貯蔵穴] 残存範囲に貯蔵穴は検出されていない。

[周溝] 北東辺の中央付近を除き周溝はめぐる。規模は幅15～22cm、深さ8～12cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

[掘り方] 竪穴の四辺が内側よりもやや深い。

[カマド] 検出されていないが、北東壁中央部の周溝が途切れる場所がカマドの位置と考えられる。

[出土遺物] 土師器の小破片のみで、図示できる遺物は出土していない。



第９４図　Ⅳ区ＳＩ８Ｂ竪穴住居跡

SI9　竪穴住居跡（第95図）

[位置・残存] Ⅳ区南東寄り中央付近の60グリッドに位置する。北半分は河川により大きく浸食され、南半分は他の遺構や撹乱によって壁や床面が失われている。

[重複] 新旧関係はPit224、SB3掘立柱建物跡、SA7柱穴列よりも古い。西側でSI10と重複するが、撹乱されているため新旧は不明である。

[規模・形態] 東西466cm、南北残存長268cmを測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] 南北方向より主軸方位を求めると、N-9°-Eである。

[堆積土] 8層に分層される。1～5層は住居堆積土、6層は周溝堆積土、7・8層は貼り床土及び掘り方土である。P1・P2については別な層名で掲載している。

[壁面] 残存状態の良い南壁面はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は35～38cmを測る。

[床面] 残存部は全面貼り床構造で、やや起伏がある。残存部では、竪穴の中央部に明瞭な硬化面が確認された。床面積は8㎡以上が推定される。

[柱穴] 2基検出された。規模と配置関係からP1・P2は主柱穴と考えられる。平面形はやや歪むが概ね円形を呈する。規模はP1が長軸43cm、短軸39cm、深さ63cm、P2が長軸34cm、短軸31cm、深さ38cmを測る。P1・P2とも柱痕跡が確認された。

[貯蔵穴] 残存範囲で貯蔵穴は検出されていない。

[周溝] 残存部の壁下に沿って周溝がめぐる。規模は幅11～14cm、深さ9～14cmを測り、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には深さ7～15cmの掘り方が確認される。

[カマド] 残存部では検出されていない。河川の浸食によって失われた北壁側に構築されていた可能性がある。

[出土遺物] 堆積土下層から少量の土師器片が出土したが、図示し得たものはない。

SI10　竪穴住居跡（第96・97図）

[位置・残存] Ⅳ区南東寄り中央付近の52・53・60・61グリッドに位置する。北半分は河川により大きく浸食され、南半分は他の遺構や近代の耕作痕及び撹乱により壁や床面の多くが失われている。

[重複] 新旧関係は、SM66・67、SB3掘立柱建物跡よりも古い。東側でSI9と重複するが、撹乱されているため新旧は不明である。

[規模・形態] 北西-南東446cm、北東-南西現存長406cmを測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] 南西壁より主軸方位を求めると、N-37°-Wである。

[堆積土] 3層に分層される。1層は周溝堆積土、2・3層は貼り床土及び掘り方土である。P1・P2・SK1については別な層名で掲載している。

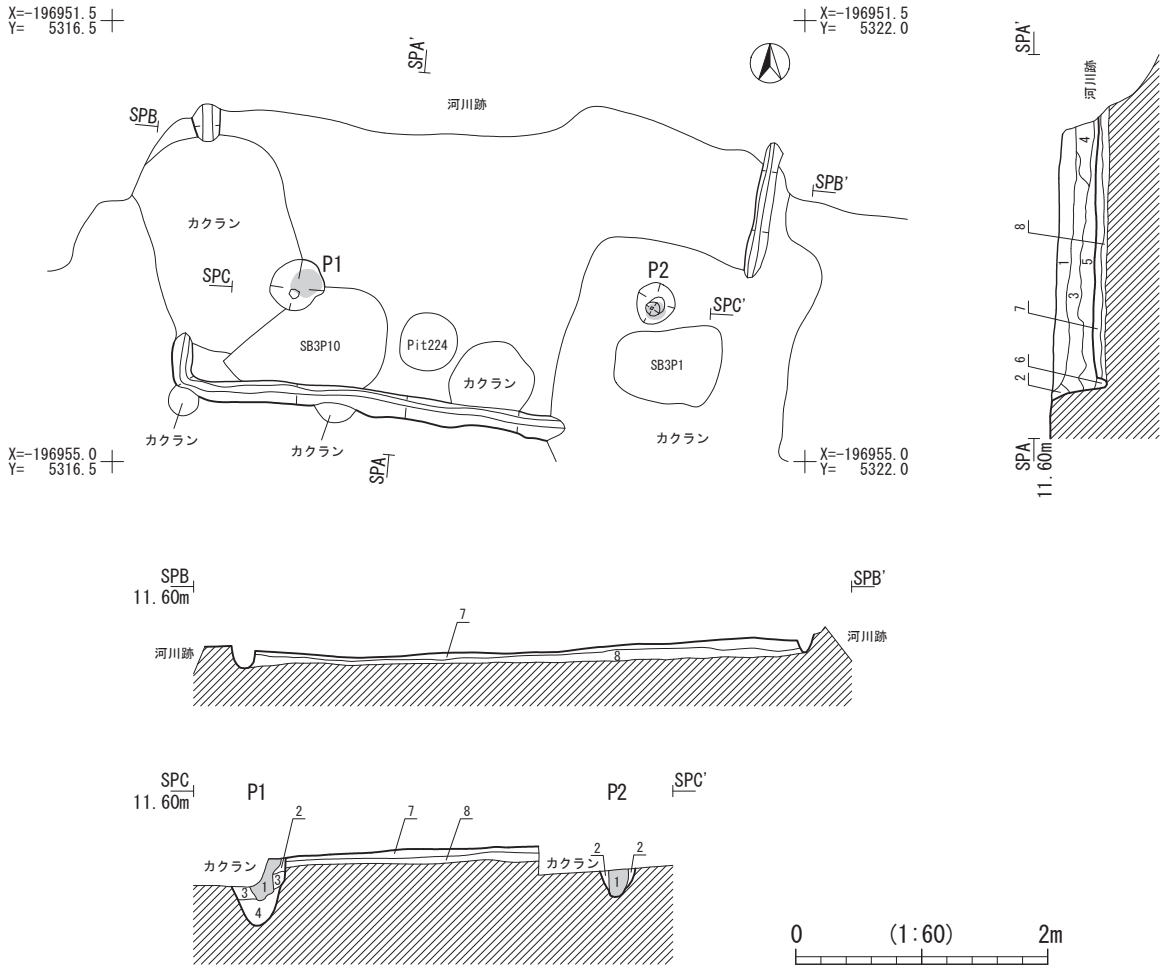
[壁面] 削平されているために残存部分はほとんどない。

[床面] 残存部は全面貼り床構造で、やや起伏がある。また、残存部では硬化面が認められる。

[柱穴] 2基検出された。規模と配置関係からP1・P2は主柱穴と考えられる。本来は4本柱の構造と推定される。平面形はP1が隅丸方形で、P2が円形を呈する。規模はP1が長軸68cm、短軸62cm、深さ33cm、P2が長軸50cm、短軸48cm、深さ30cmを測る。また、両者とも柱痕跡が確認され、柱痕跡の規模はP1が径31cm、P2が径26cmを測る。

[土坑] 南東壁の中央付近に浅い土坑（SK1）が1基検出された。平面形は歪んだ長円形と推定され、規模は長軸52cm、短軸33cm、深さ8cmを測る。土坑内部からは多量の焼土と土師器甕の小破片が出土した。竪穴住居跡の全容が不明なため断定できないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

[周溝] 残存する各壁下に沿って周溝は巡っていたと考えられる。規模は幅8～14cm、深さ8～11cmを測り、断面形は逆台形状もしくはU字状を呈する。



SI9 堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を極微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
	2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含む。
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ2 ～ 5㎝の 2.5Y6/2 灰黄色シルト塊を少量、2.5Y7/1 灰白色粘土質シルト塊を微量含む。
周溝	6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1㎝の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
貼り床	7	10YR7/1	灰白色	シルト	φ1 ～ 4㎝の 10YR4/1 褐灰色シルト塊を少量含む。
掘り方	8	2.5Y7/2	灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 10YR4/1 褐灰色シルト塊をやや多く含む。

SI9 施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	締まり弱い。柱痕跡。
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2㎝の炭化物を少量含む。
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1㎝の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
P2	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	締まり弱い。柱痕跡。
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。

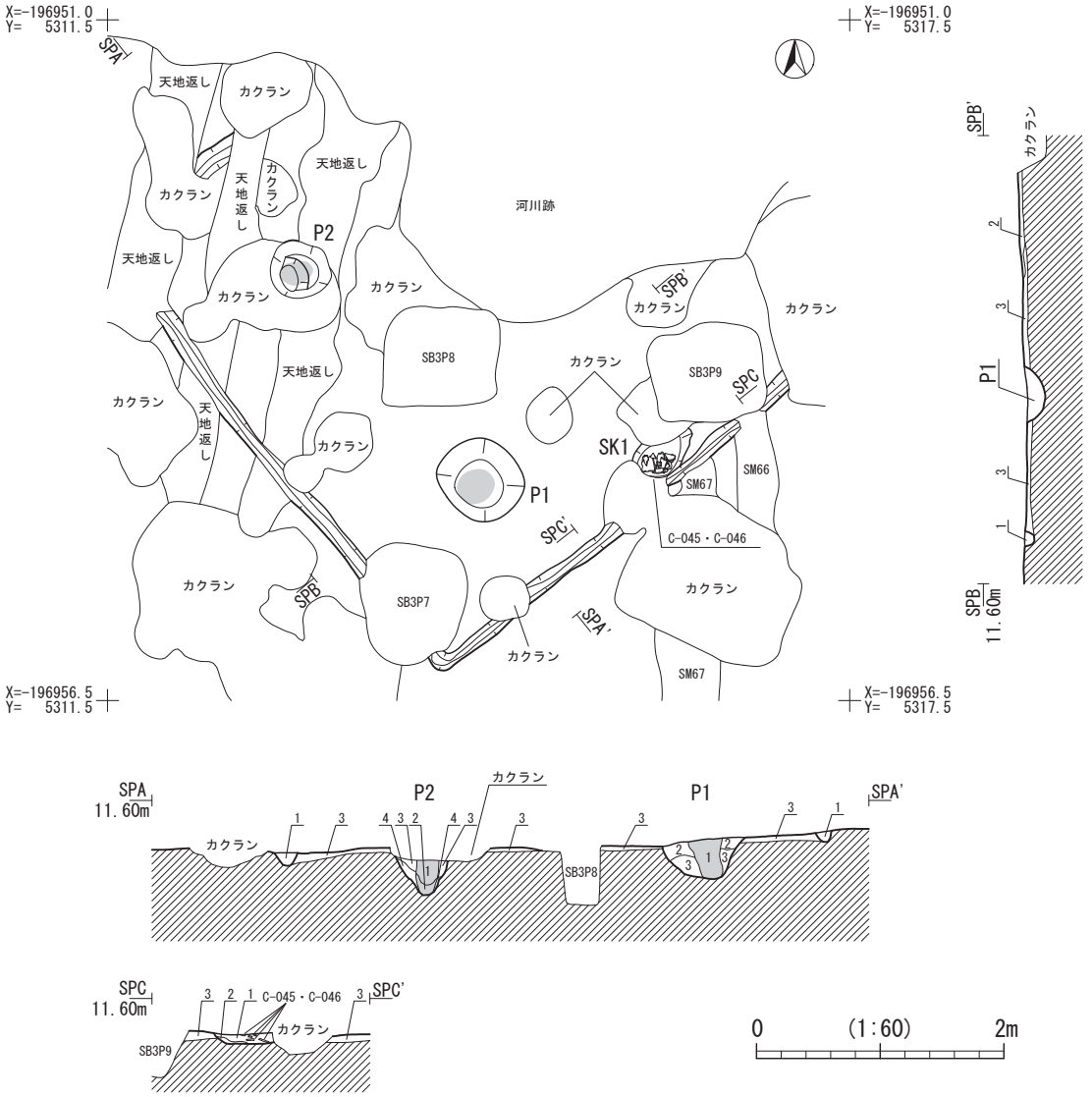
SI9 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	不整楕円形	43 × 39	63	主柱穴、柱痕跡あり
P2	円形	34 × 31	38	主柱穴、柱痕跡あり

第９５図　Ⅳ区ＳＩ９竪穴住居跡

[掘り方] 貼り床の直下には、深さ4 ～ 9㎝の掘り方が確認される。壁寄りと比較すると、中央部付近がやや浅い傾向が認められる。

[カマド] 調査範囲内では確認されていない。北西壁及び北東壁が河川によって失われているため、カマドの設置場所は特定できない。



SI10　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
周溝	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cmの2.5Y3/2黒褐色シルト塊をやや多く含む。
貼り床	2	2.5Y8/2	灰白色	シルト	φ1～2cmの2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
掘り方	3	2.5Y7/2	灰黄色	シルト	φ1cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量含む。

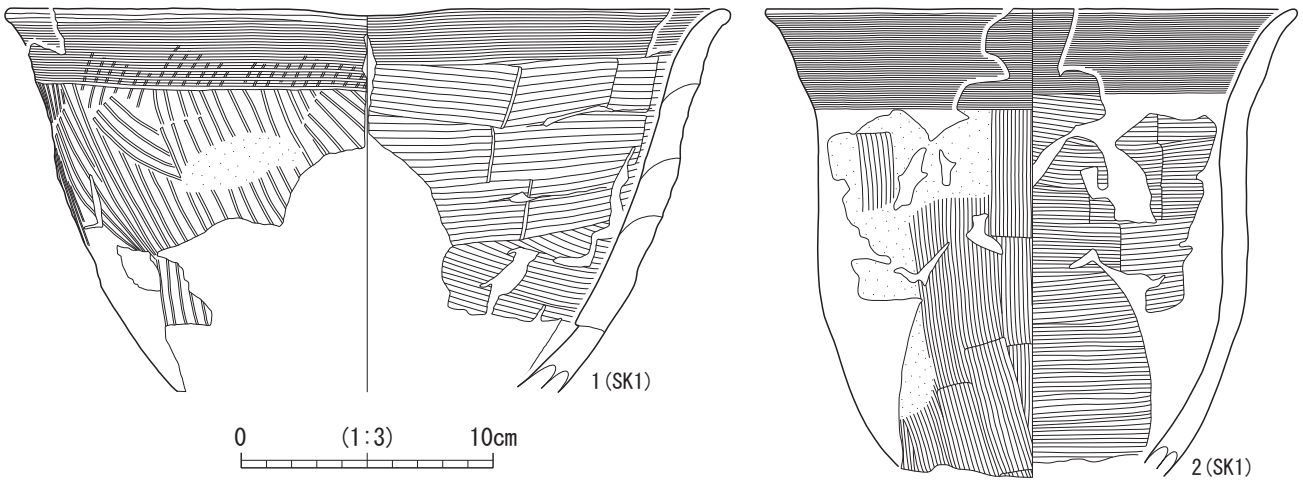
SI10　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	締まりが弱い。柱痕跡。
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ1～2cmの2.5Y8/2灰白色シルト塊をやや多く含む。
	3	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1cmの2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
P2	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	締まりが弱い。柱痕跡。
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物粒を微量含む。柱痕跡。
	3	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ1～2cmの2.5Y8/2灰白色シルト塊をやや多く含む。
	4	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1cmの2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
SK1	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ0.5～1cmの焼土及び炭化物を多量、φ1cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ1cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を微量含む。

SI10　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	隅丸方形	68 × 62	33	主柱穴、柱痕跡あり
P2	円形	50 × 48	30	主柱穴、柱痕跡あり
SK1	長円形	(52) × (33)	8	貯蔵穴か

第９６図　Ⅳ区ＳＩ１０竪穴住居跡



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-045	Ⅳ区	SI10 SK1	堆積土	土師器	甑	口縁～底部下半1/5	(28.5)	－	(15.2)	口縁部ヨコナデ、胴部斜位ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		35
2	C-046	Ⅳ区	SI10 SK1	堆積土	土師器	甕	口縁～胴部下半1/4	(21.0)	－	(18.5)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		35

第97図　Ⅳ区SI10竪穴住居跡出土遺物

[出土遺物] 竪穴住居跡からは、平箱に1/2ほどの遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器甕と甑の2点(1・2)を掲載した(第97図)。出土位置はどちらもSK1の堆積土中である。

1は胴部下半を欠く器高の浅い甑片である。口縁部に最大径を有し、胴部に向かって窄まる。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位の粗いハケメ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。復元口径28.5cm、残存高15.2cm。2は口縁部から胴部下半までが図上復元されたやや小振りな甕である。口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、緩やかに胴部へ移行し下半で窄まる。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラナデ。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。復元口径21.0cm、残存高18.5cmを測る。

SI11　竪穴住居跡(第98・99図)

[位置・残存] Ⅳ区中央部南東寄りの53・54グリッドに位置する。近代の耕作痕や撹乱・ピットなどにより竪穴の壁や床面が大きく影響を受けている。

[重複] 新旧関係は、Pit434、SI8よりも古く、SI12よりも新しい。

[規模・形態] 北東-南西(長軸)395cm、北西-南東(短軸)373cmを測り、平面形は方形を呈する。

[主軸方位] カマドを中心とする主軸方位は、N-66°-Eである。

[堆積土] 5層に分層される。1層は住居堆積土、2層は周溝堆積土、3層はカマド掘り方土、4・5層は貼り床土及び掘り方土で、SK1・SK2とP1・P3については別な層名で掲載している。

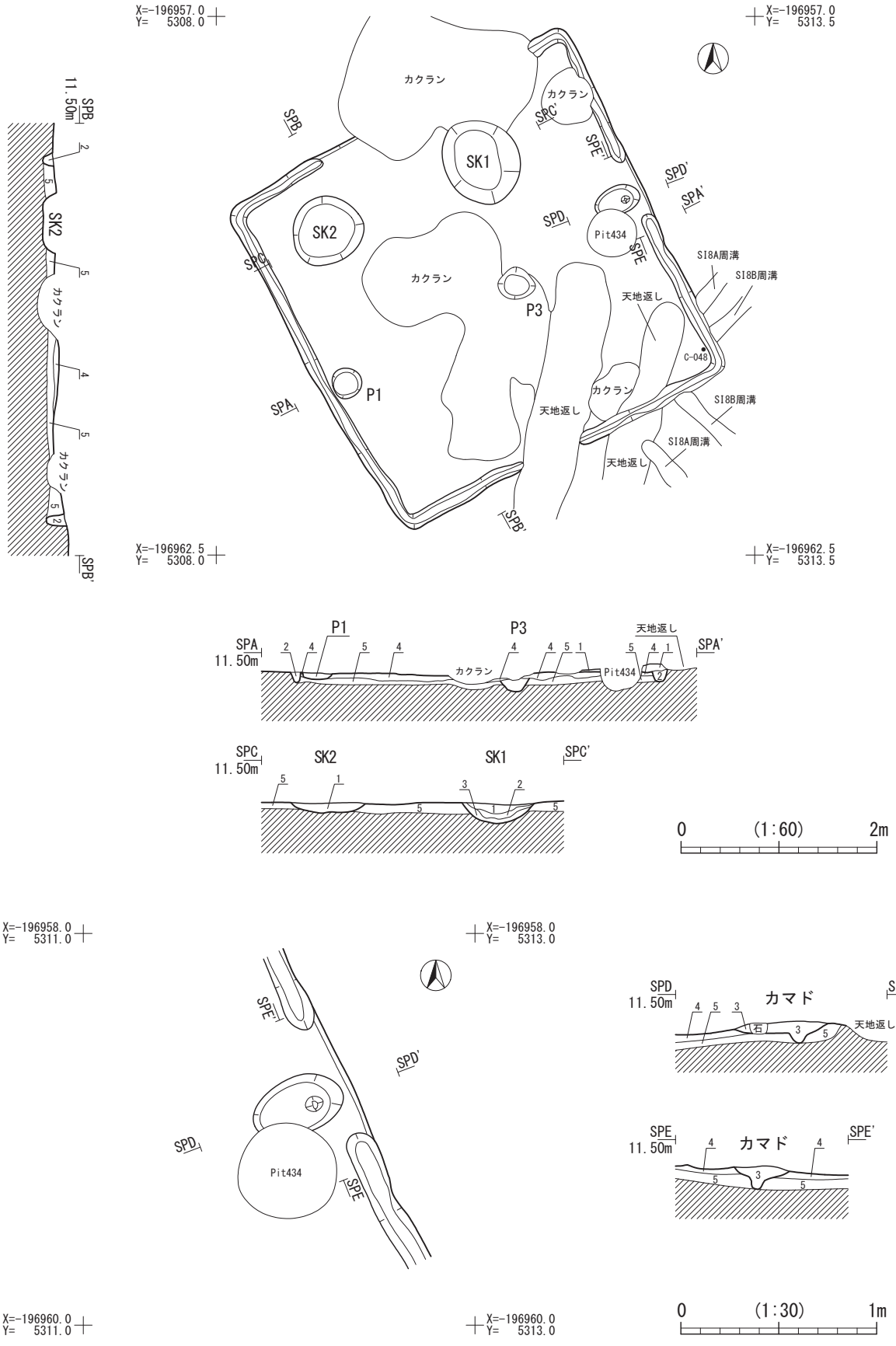
[壁面] 壁の大半は削平され、残存する部分はわずかである。

[床面] 残存部は全面貼り床構造で、やや起伏が認められる。また、カマド前及び竪穴の南西辺付近の残存部では良好な硬化面が確認された。床面積は約11㎡である。

[柱穴] 2基検出された。住居内からは主柱と考えられる柱穴は確認できなかった。P1については、その位置より考えると出入口施設に関係する小穴と考えられる。平面形は円形を呈し、規模は径30cm、深さ6cmを測る。

[床下土坑] 北西辺寄りに2基検出された。平面形はSK1が楕円形、SK2は概ね円形を呈する。規模はSK1が長軸92cm、短軸77cm、深さ24cm、SK2は長軸74cm、短軸69cm、深さ12cmを測る。SK1の上面には貼り床が形成され、粘土の混入が認められた。

[周溝] カマド部と北西辺の中央付近を除いた四辺で確認された。規模は幅10～15cm、深さ10cm内外を測り、断面



第９８図　Ⅳ区ＳＩ１１竪穴住居跡

SI11　堆積土註記表

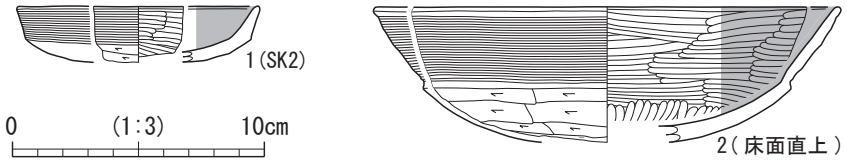
部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量、焼土を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。
周溝	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
カマド掘り方	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	焼土を少量、炭化物をやや多く含む。
貼り床	4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
掘り方	5	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y8/1 灰白色シルト塊をやや多く含む。

SI11　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1㎜の炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。
P2	–	–	–	–	欠番。
P3	1	7.5Y8/1	灰白色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。
SK1（床下土坑）	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2 灰黄色シルト塊をやや多く含む。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/2 灰黄色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2㎝の焼土を微量、2 層類似土を微量含む。
SK2（床下土坑）	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2 灰黄色シルト塊をやや多く含む。

SI11　施設観察表

遺構名	平面形	規模（㎝）	深さ（㎝）	備考
P1	円形	30 × 27	6	出入口施設
P3	楕円形	35 × 32	13	掘り方検出
SK1	楕円形	92 × 77	24	床下土坑
SK2	円形	74 × 69	12	床下土坑



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（㎝）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-047	Ⅳ区	SI11 SK2	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(9.6)	–	(2.2)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部横位ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ	口縁部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ →黒色処理		35
2	C-048	Ⅳ区	SI11	床直	土師器	坏	口縁～底部 1/4 弱	(18.4)	–	(5.3)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部横位ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ	口縁部ﾍﾗﾐｶﾞｷ・底部放射状ﾍﾗﾐｶﾞｷ →黒色処理		35

第９９図　Ⅳ区ＳＩ１１竪穴住居跡出土遺物

形は逆台形状もしくはU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下にはほぼ均一に深さ10 ～ 16㎝ほどの掘り方が確認された。

[カマド] 北東壁の中央部付近に構築される。煙道とカマド本体の大部分は後世の削平によって失われていた。残存部分は燃焼部の浅い掘り込みのみであった。燃焼部の規模は長軸48㎝、短軸29㎝、深さ6㎝ほどで、奥壁側に長軸10㎝ほどの小穴が確認された。掘られた位置より推定すると支脚の埋設穴と考えられる。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは少量の遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器坏2点(1・2)を掲載した(第99図)。出土位置は1がSK2土坑内、2は床面直上である。

1は小型の土師器坏である。浅い丸底の器形で、口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、外面の稜は弱い。外面調整は口縁部ヨコナデ､底部ヘラケズリ､内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。復元口径9.6㎝､残存高2.2㎝を測る。2の土師器坏は深みのある大振りな器形である。底部との境界には明瞭な稜を有し、口縁部は開きぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリである。内面は横位・放射状のヘラミガキで黒色処理される。復元口径18.4㎝、残存高5.3㎝を測る。

SI12　竪穴住居跡(第100図)

[位置・残存] Ⅳ区中央部南寄りの52・53グリッドに位置する。近代の耕作痕や撹乱・ピットなどにより竪穴の壁や床面が大きく壊されている。

[重複] 新旧関係はSI11よりも古い。

[規模・形態] 北東－南西506㎝、北西－南東残存長460㎝を測り、平面形は方形と推定される。

[主軸方位] 北東辺を基準に主軸方位を求めると、N－66°－Wである。

[堆積土] 4層に分層される。1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4層は貼り床土である。P1 ～ P4については別な層名で掲載している。

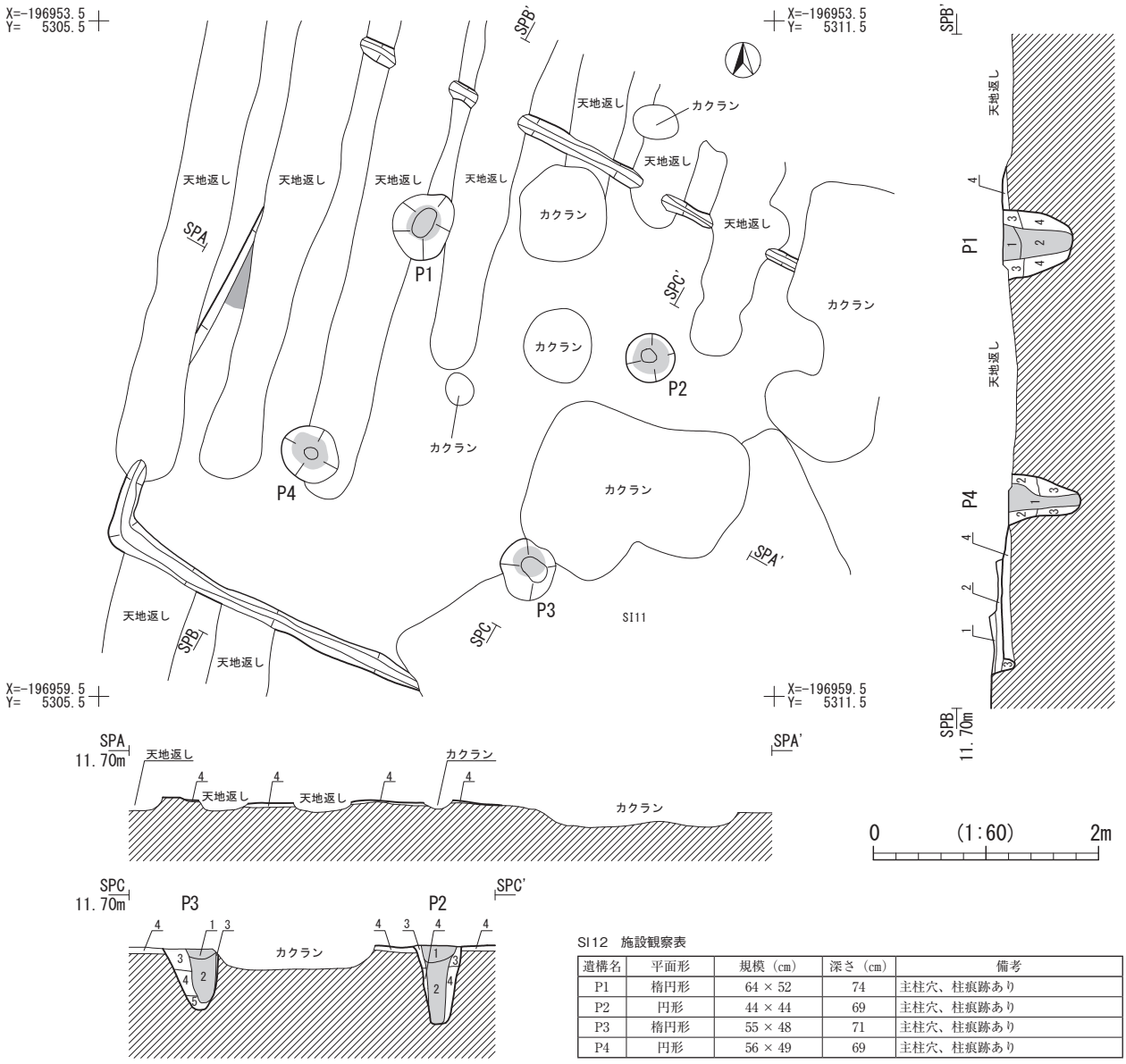
[壁面] 残存する南西壁側ではほぼ垂直に立ち上がる。南西側で最大10cm、北西壁側では5cmを測る。

[床面] 残存部は全面貼り床構造で、やや起伏が認められる。また、北西壁寄りから中央付近では良好な硬化面が確認された。床面積は20㎡弱と推定される。

[柱穴] 4基検出された。規模と配置関係よりP1 ～ P4が主柱穴と考えられる。平面形は円形ないしは楕円形を呈し、規模は長軸44 ～ 64cm、短軸44 ～ 52cm、深さ69 ～ 74cmを測る。また、各柱穴からは円形ないしは楕円形の柱痕跡が確認された。柱痕跡の規模は径28 ～ 34cmを示す。柱穴の掘り方と比較すると半分程度の大きさである。

[周溝] 北西壁側の中央部付近を除くと、竪穴の残存部分では壁下に沿って周溝は巡っている。規模は幅11 ～ 26cm、深さ11cmを測り、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 残存する貼り床の直下には、全面に深さ5 ～ 9cmの掘り方が確認された。掘り方は各壁際の方が中央部付近よりもやや深めとなる傾向にあった。



SI12 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	楕円形	64 × 52	74	主柱穴、柱痕跡あり
P2	円形	44 × 44	69	主柱穴、柱痕跡あり
P3	楕円形	55 × 48	71	主柱穴、柱痕跡あり
P4	円形	56 × 49	69	主柱穴、柱痕跡あり

第100図　Ⅳ区SI12竪穴住居跡

SI12　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
周溝	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量を含む。
貼り床	4	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含む。

SI12　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。掘り方。
	4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を極微量含む。掘り方。
P2	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。掘り方。
	4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を極微量含む。掘り方。
P3	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。掘り方。
	4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を極微量含む。掘り方。
	5	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。掘り方。
P4	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。掘り方。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を極微量含む。掘り方。

[カマド] 残存部分でカマドは確認できなかったが、北西壁の中央付近の床面上に被熱の痕跡が認められ、赤く変色していた(スクリーントーン表示)。

[出土遺物] 土師器の小破片が出土したが、掲載できる遺物はなかった。

SI13　竪穴住居跡(第101 ～ 103図)

[位置・残存] Ⅳ区中央部南寄りの41 ～ 43・54・55グリッドに位置する。近代の耕作痕や撹乱により半分近くが壊されていた。また、竪穴の北西側は調査区外へ伸びている。

[重複] 新旧関係では、SA3材木列よりも新しい。

[規模・形態] 北東－南西(長軸)495cm、北西－南東(短軸)440cmを測り、平面形はやや歪むが方形と推定される。

[主軸方位] カマドを中心とする主軸方位は、N－32°－Eである。

[堆積土] 12層に分層される。1 ～ 3層は住居堆積土、4層は周溝堆積土、5 ～ 11層はカマド崩落土及び構築土、12層は貼り床土である。P1 ～ P22については別な層名で掲載している。

[壁面] 残存部分では5 ～ 8cmを測り、やや開きぎみに立ち上がる。

[床面] 残存部は全面貼り床構造でほぼ平坦である。また、カマド前から竪穴中央付近にかけては良好な硬化面が確認された。推定床面積は約16㎡である。

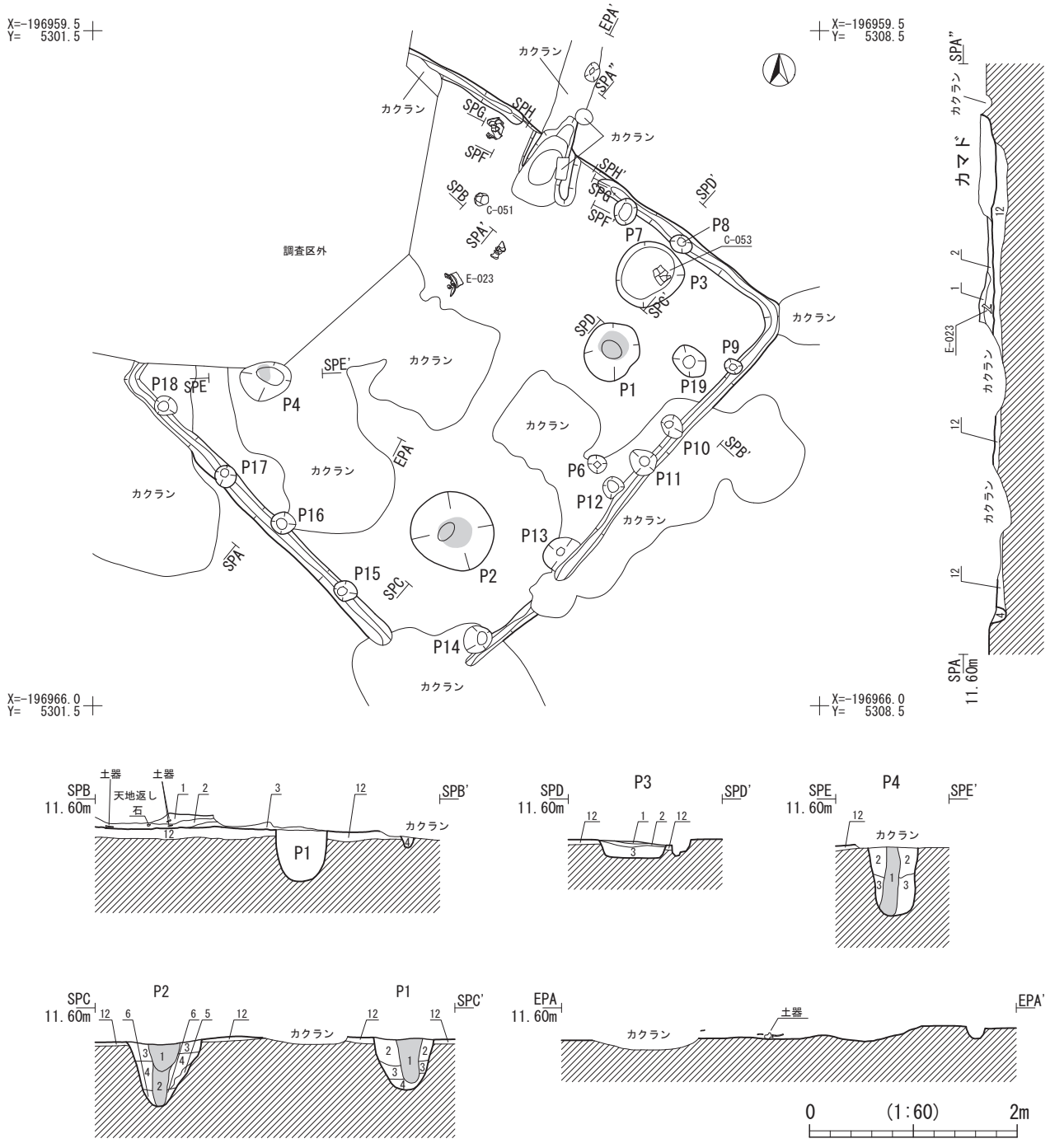
[柱穴] 22基検出された。規模と配置関係よりP1・P2・P4が主柱穴、P7 ～ P18が壁柱穴、P5・P20 ～ P22がカマドに関連する小穴、P6・P19は補助穴と考えられる。主柱穴の平面形は楕円形で、規模は長軸50 ～ 82cm、短軸38 ～ 73cm、深さ64 ～ 85cmを測る。壁柱穴は周溝内に配され、平面形は円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸18 ～ 39cm、短軸14 ～ 26cm、深さ5 ～ 33cmを測る。補助穴の平面形はP6が円形、P19が楕円形を呈する。規模はP6が長軸20cm、深さ11cm、P19は長軸35cm、深さ23cmを測る。また、主柱穴には柱痕跡が確認された。その大きさは径17 ～ 28cmである。

[貯蔵穴] カマド東側で確認されたP3が貯蔵穴と推定される。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸65cm、短軸59cm、深さ15cmを測る。

[周溝] カマド部を除いて各壁下に沿ってめぐる。規模は幅9 ～ 18cm、深さ8 ～ 10cmを測り、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には、深さ5 ～ 10cm程の掘り方が確認された。掘り方は各壁際の方が中央付近よりやや深い。

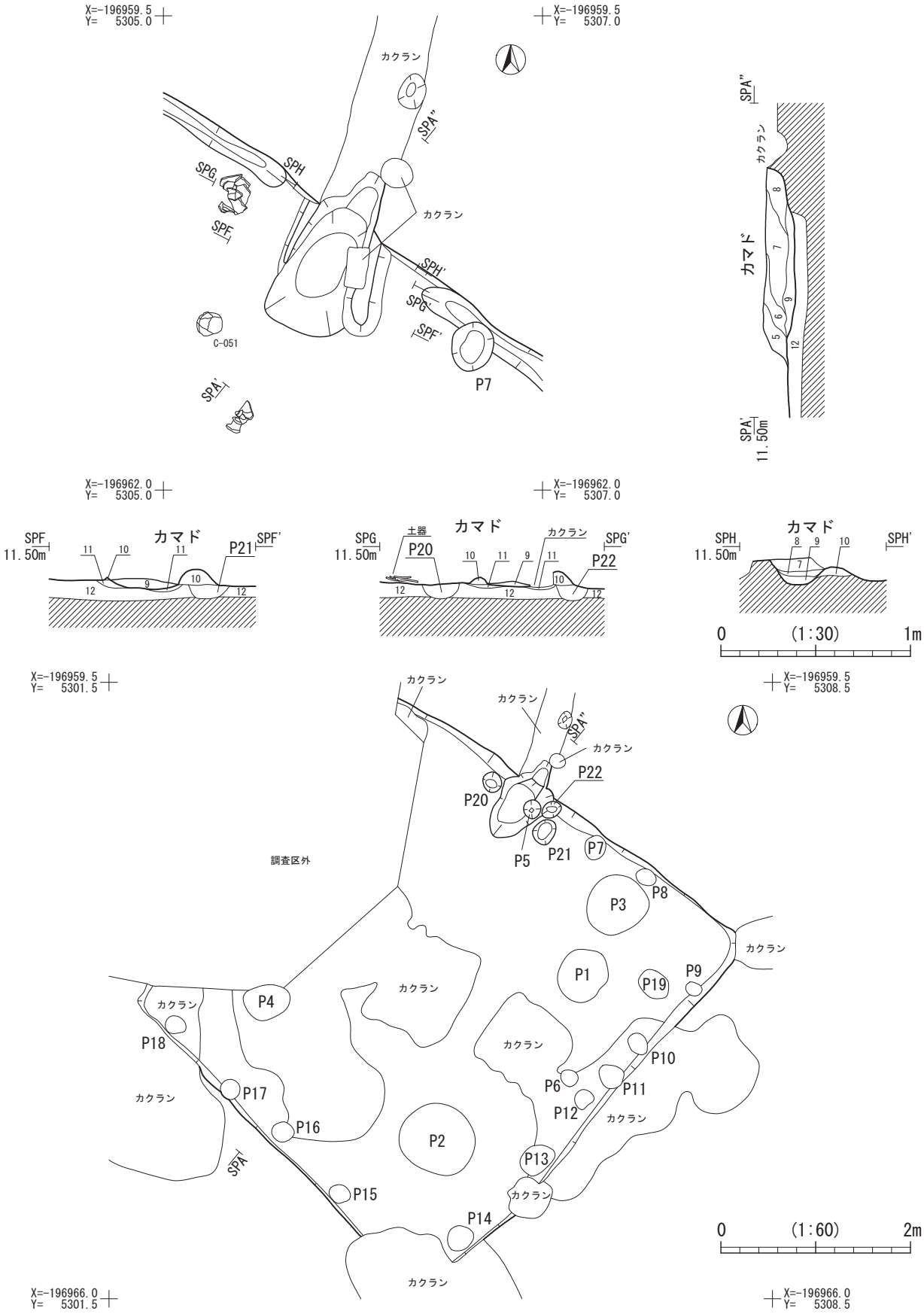
[カマド] 北東壁の中央付近に構築される。天井部は崩落していたが両袖部と煙道部は一部が残存していた。規模は焚口から煙道まで150cm、両袖部最大幅56cm、右袖部長は62cmを測る。右袖部よりその構造を示すと、袖部下には浅い掘り込み、その上にシルト混合土を積み上げて袖部が形成されている。焚口部は幅40cm程度と推定される。



SI13 堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量含む。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、φ5～10㎜の炭化物を微量、φ1～2㎜の焼土を微量含む。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量含む。
周溝	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y3/2黒褐色シルト塊を少量を含む。
カマド	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を微量含む。
	6	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	骨粉を微量、φ2～3㎜の炭化物を少量、φ5～10㎜の焼土をやや多く含む。
	7	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5～10㎜の2.5Y3/2黒褐色シルト塊を少量、焼土をやや多く含む。
	8	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2～3㎜の焼土を微量含む。
	9	5YR4/6	赤褐色	シルト	焼土を多量、φ1cm前後の2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量、φ1～3㎜の炭化物を微量含む。火床面。
カマド袖	10	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ1～2㎜の炭化物塊を微量、焼土少量、2.5Y3/2黒褐色シルト塊を微量含む。
カマド掘り方	11	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、φ1cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。
貼り床	12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2～3㎜の2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y7/1灰白色粘土塊を少量含む。

第101図　Ⅳ区SI13竪穴住居跡（1）



第１０２図　Ⅳ区ＳＩ１３竪穴住居跡（２）

SI13　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。掘り方。
	3	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。掘り方。
P2	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、φ3 ～ 5㎝ 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を極微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。掘り方。
	4	2.5Y5/6	黄褐色	砂質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。掘り方。
	5	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト塊をやや多く含む。掘り方。
	6	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト塊を少量含む。掘り方。
P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。
	2	2.5Y7/1	灰白色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を極微量含む。
	3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を多量、φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
P4	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量、2.5Y6/1 黄灰シルト塊を微量含む。柱痕跡。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝ 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
P5	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
P6	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
P7	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P8	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P9	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P10	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P11	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P12	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P13	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P14	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P15	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P16	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P17	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P18	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。壁柱穴。
P19	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
P20	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P21	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P22	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。

SI13　施設観察表

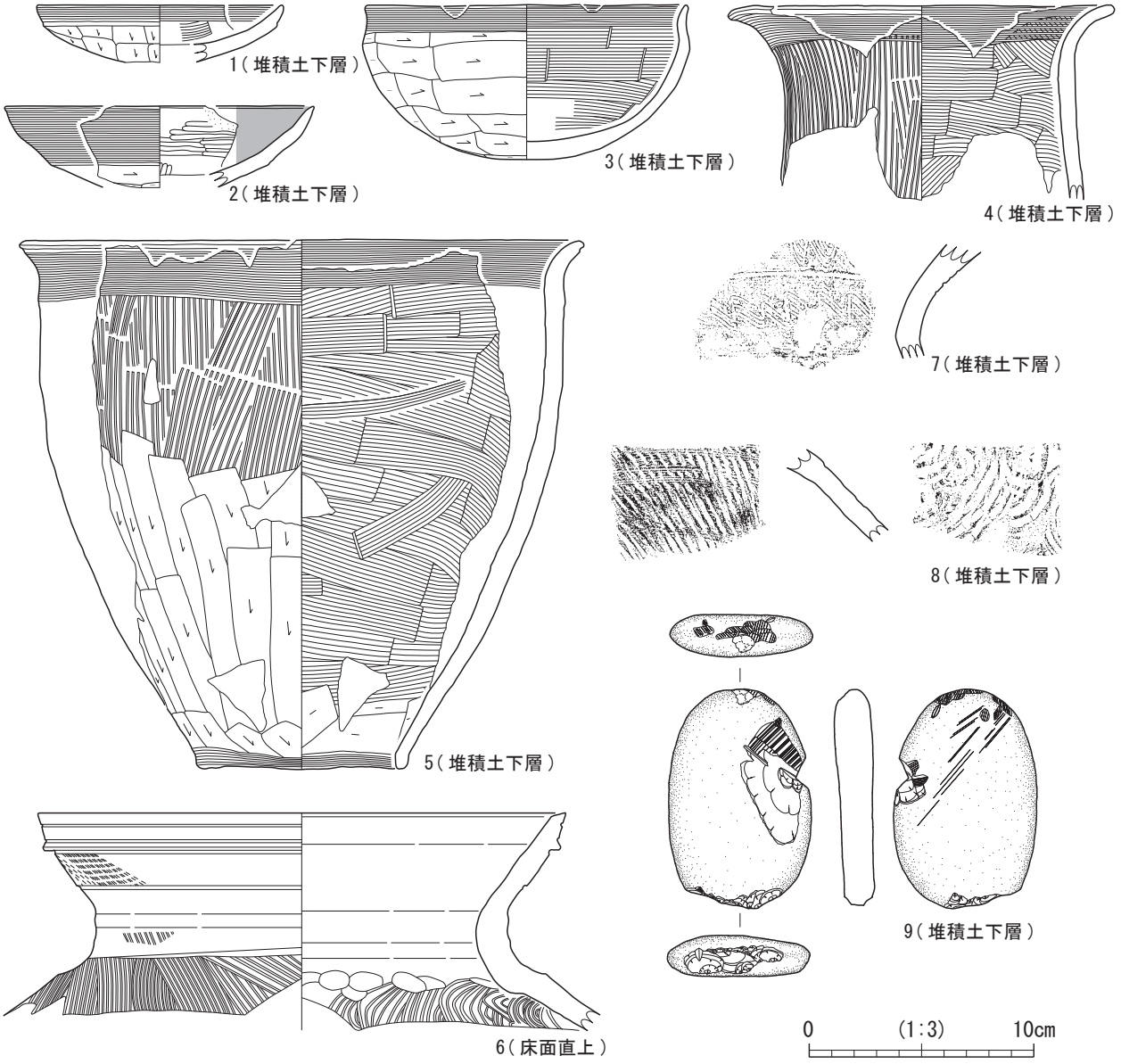
遺構名	平面形	規模（㎝）	深さ（㎝）	備考
P1	楕円形	58 × 48	64	主柱穴、柱痕跡あり
P2	楕円形	82 × 73	85	主柱穴、柱痕跡あり
P3	隅丸方形	65 × 59	15	貯蔵穴
P4	楕円形	50 ×（38）	73	主柱穴、柱痕跡あり
P5	円形	18 × 17	5	カマド掘り方検出
P6	円形	20 × 17	11	補助柱穴
P7	楕円形	27 × 22	7	壁柱穴
P8	楕円形	23 × 18	12	壁柱穴
P9	楕円形	18 × 14	5	壁柱穴
P10	楕円形	26 × 19	13	壁柱穴
P11	楕円形	30 × 25	33	壁柱穴

遺構名	平面形	規模（㎝）	深さ（㎝）	備考
P12	円形	21 × 17	11	壁柱穴
P13	楕円形	39 × 24	24	壁柱穴
P14	円形	29 × 26	22	壁柱穴
P15	円形	23 × 20	14	壁柱穴
P16	円形	24 × 22	11	壁柱穴
P17	円形	22 × 21	26	壁柱穴
P18	円形	23 × 19	18	壁柱穴
P19	楕円形	35 × 26	23	補助柱穴
P20	円形	22 × 20	9	カマド掘り方検出
P21	楕円形	28 × 23	5	カマド掘り方検出
P22	楕円形	22 × 17	8	カマド掘り方検出

火床面は楕円形を呈し、長軸約50㎝の規模で、厚さ2 ～ 3㎝の焼土が堆積していた。煙道部は、なだらかに立ち上がる。両袖部の直下には小穴(P5・P20)が検出されている。煙道部は幅15㎝、長さ20㎝を測るが、この延長上の小穴までを含めると煙道部の長さは80㎝ほどとなる。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは、平箱で1箱分弱の遺物が出土した。このうち図示し得た遺物は、土師器坏3点(1 ～ 3)、土師器甕1点(4)、土師器甑1点(5)、須恵器甕3点(6 ～ 8)、礫石器1点(9)の計9点を掲載した(第103図)。なお、加工痕が観察されなかったために掲載はしていないが、石製模造品と同一石質である緑色片岩の破片が1点出土している。掲載した遺物の出土位置は、床面直上から出土した6の須恵器甕以外は堆積土下層からの出土である。1・3の坏は関東系の土師器と推定される。

1 ～ 3土師器坏である。1は身の浅い器形で、短い口縁部は外傾ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデである。復元口径11.0㎝、残存高2.5㎝。2はやや大振りの器形で、底の浅い底部から口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、口縁端部でやや起きる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。復元口径13.6㎝、残存高3.6㎝。3は半球状の器形で、口縁部は直立ぎみに立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。器壁は全体に薄く、砂粒や小礫の混入が少なく緻密である。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部は横位のヘラナデである。復元口径14.2㎝、器高6.9㎝。4はやや小型の土師器甕である。膨らみのない胴部を特徴とし、口縁部は大きく外反



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-049	Ⅳ区	SI13	下層	土師器	坏	口縁小片	(11.0)	–	(2.5)	口縁部ヨコナデ、底部縦位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ	関東系	35
2	C-050	Ⅳ区	SI13	下層	土師器	坏	口縁小片	(13.6)	–	(3.6)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ →黒色処理		35
3	C-051	Ⅳ区	SI13	下層	土師器	坏	口縁～底部1/2強	(14.2)	–	(6.9)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、 体部～底部横位ヘラナデ	関東系	35
4	C-052	Ⅳ区	SI13	下層	土師器	甕	口縁～胴部上半1/3	17.2	–	(8.6)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		35
5	C-053	Ⅳ区	SI13	下層	土師器	甑	口縁～底部1/4	(24.6)	(9.4)	(23.5)	口縁部ヨコナデ、胴部上半縦位ハケメ・下半縦位ヘラケズリ・下端ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ・下半横位ヘラケズリ・下端ヨコナデ		35
6	E-023	Ⅳ区	SI13	床直	須恵器	甕	口縁～胴部上半1/4	(23.6)	–	(10.4)	口縁部～頸部ロクロナデ、 胴部平行タタキ	口縁部～頸部ロクロナデ、 頸部指頭押圧、胴部青海波文		35
7	E-024	Ⅳ区	SI13	下層	須恵器	甕	頸部破片	–	–	–	ロクロナデ→櫛描波状文	ロクロナデ		36
8	E-025	Ⅳ区	SI13	下層	須恵器	甕	胴部上半破片	–	–	–	平行タタキ→ロクロナデ	青海波文・同心円タタキ		36

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
9	Kc-h-05	Ⅳ区	SI13	下層	礫石器	その他	9.65	6.4	1.6	86.7	流紋岩	完形　削3（正裏上）、敲1（上）	36

第103図　Ⅳ区SI13竪穴住居跡出土遺物

する。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。口径17.2cm。5は単孔式の土師器甑である。口縁部に最大径を有し、胴部は下半に向かって窄まる。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は上位がハケメ、中位以下が縦位のヘラケズリ、下端部がヨコナデである。内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデ、胴下半は横位のヘラケズリ、下端部ヨコナデである。復元口径24.6cm、底径9.4cm、器高23.5cmを測る。6 ～ 8は須恵器甕である。6は口縁部から胴部上半の破片で、口縁端部には2条の凹線がめぐり、下端部には突帯が形成される。胴部の外面調整は平行叩きで、頸部はロクロナデにより消されている。内面は青海波文が重ねられ、頸部付近には指頭痕が残る。復元口径23.6cm、残存高10.4cm。7は頸部破片で、横位の凹線を挟んで3条一単位の櫛描波状文がめぐる。8は肩部破片。外面調整は平行叩きで、内面には同心円文と青海波文が施される。9はその他の礫石器である。長楕円形を呈する扁平な自然礫を用いている。下端には両面からの小剥離痕がみられる。正面右側縁とその裏面には剥離痕を伴う平坦な削り痕、上端には狭い面取り状の平坦な削り痕の集中と敲打痕、裏面には斜位の擦痕と平坦な削り痕がみられる。石材は流紋岩である。

SI14　竪穴住居跡（第104・105図）

[位置・残存] Ⅳ区中央部南寄りの41・42グリッドに位置する。近代以降の耕作痕や撹乱などにより壊され、竪穴の残存部分はきわめて少ない。

[重複] 新旧関係は、Ⅵ層上面で確認されたSM80 ～ 82よりも新しい。

[規模・形態] 南北480cm、東西現存長420cmを測り、平面形は方形と推定される。柱穴配置から東西長を考えると約500cmと推定される。

[主軸方位] 東壁を基準に主軸方位を求めると、N-3°-Wである。

[堆積土] 7層に分層される。1 ～ 3層は住居堆積土、4層は周溝堆積土、5 ～ 7層は貼り床土及び掘り方土である。P1 ～ P6については別な層名で掲載している。

[壁面] 残存部分では3 ～ 10cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

[床面] ほとんど残存していないが、残存部分は貼り床構造で、ほぼ平坦である。上記の東西長をもとに床面積を求めると20㎡程度と考えられる。

[柱穴] 6基検出された。規模と配置関係からP1 ～ P4が主柱穴と考えられ、P5・6については床下で確認された。主柱穴の平面形は、円形ないしは楕円形を呈する。規模は長軸42 ～ 65cm、短軸40 ～ 48cm、深さ46 ～ 65cmを測る。P5・P6の平面形は概ね円形を呈し、規模はP5が径30cm、深さ19cm、P6が径26cm、深さ17cmを測る。P1・P4では柱痕跡が確認された。

[周溝] 竪穴の残存部では壁に沿ってめぐる。規模は幅10 ～ 15cm、深さ8 ～ 11cmを測り、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には深さ10 ～ 18cmの掘り方が確認された。掘り方は起伏に富み、中央部付近がやや深い。

[カマド] 残存部分では確認されていない。

[出土遺物] 土師器の小破片が出土したのみである。

SI15　竪穴住居跡（第106・107図）

[位置・残存] Ⅳ区中央部南寄りの54・55・62・63グリッドに位置する。近代以降の撹乱と古代の遺構により竪穴の大半が壊されている。

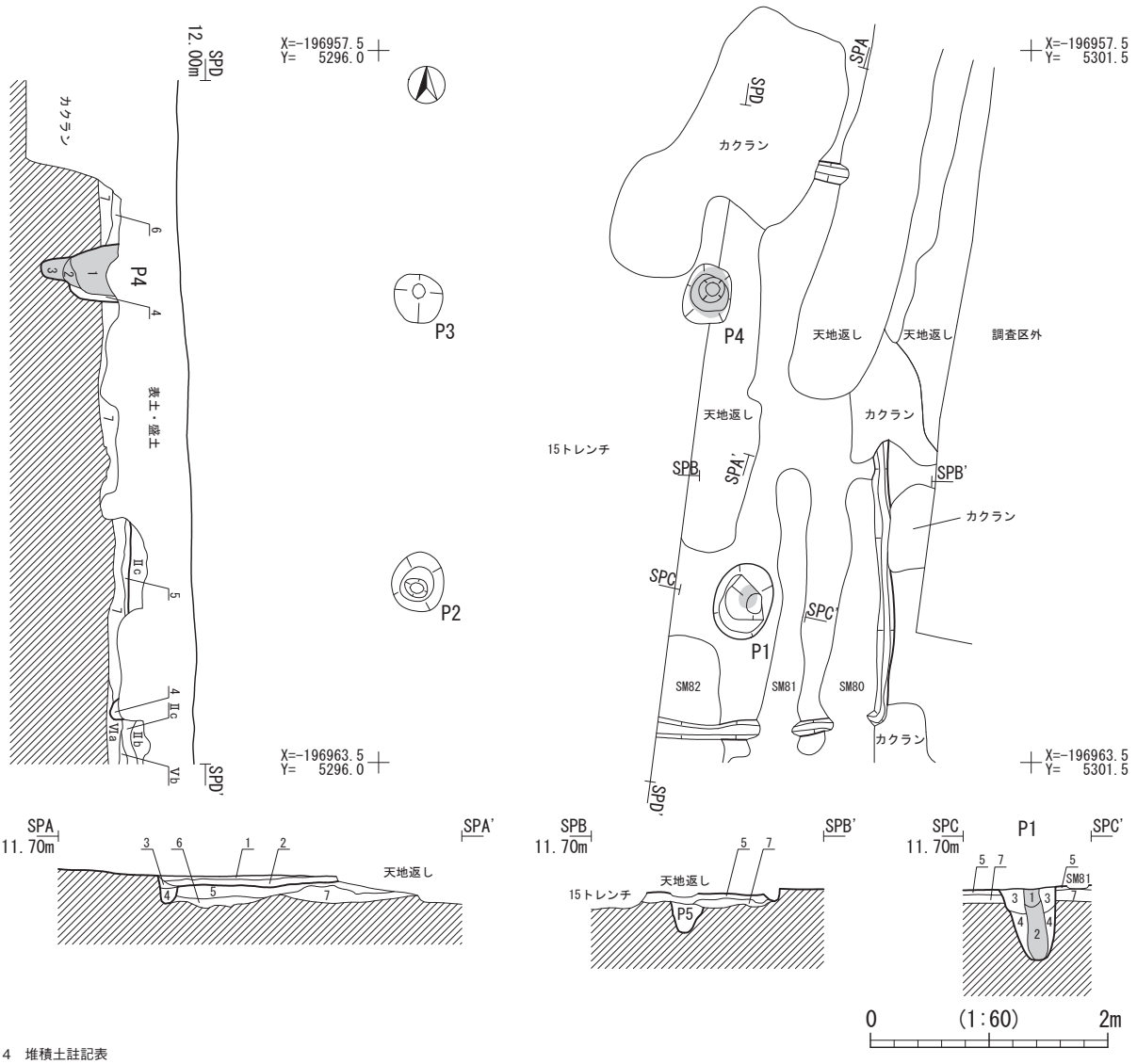
[重複] 新旧関係はSI8A・SI8B、SK10、Pit241・435・436よりも古い。

[規模・形態] 東西現存長215cm、南北現存長180cmを測る。平面形は方形と推定される。

[主軸方位] 西壁より主軸方位を求めると、N-3°-Wである。

[堆積土] 5層に分層される。1層は住居堆積土、2層は焼土範囲、3 ～ 5層は貼り床土及び掘り方土である。

[壁面] 残存部分では最大8cmを測り、やや開きぎみに立ち上がる。



SI14　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性をやや有する。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cm弱の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、φ1 ～ 2cm 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色とシルト塊を少量含む。
周溝	4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
貼り床	5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊をやや多く含む。
掘り方	6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
	7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。

SI14　施設堆積土註記表

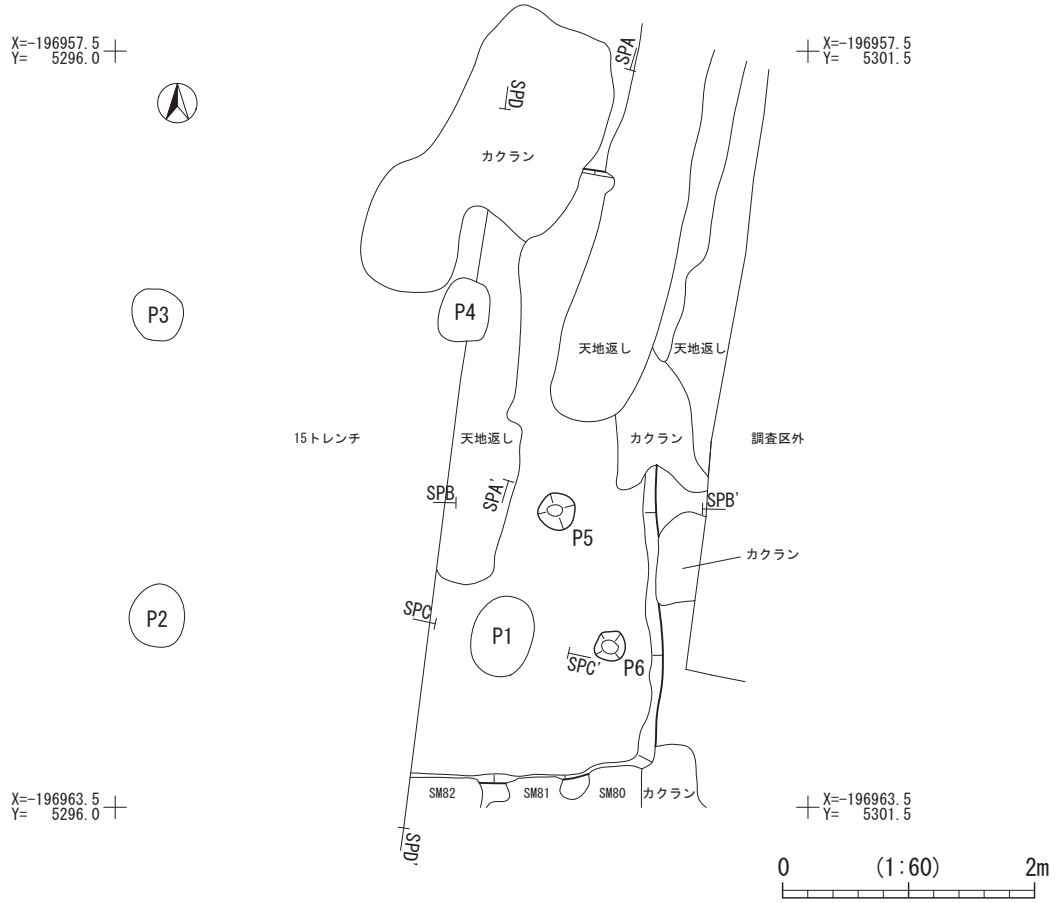
部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を少量含み、2層との層界に炭化物が帯状に入る。柱痕跡。
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	φ1～3mmの炭化物を微量含む。柱痕跡。
	3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	塊状の黄褐色シルト主体。2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
	4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1～2cmの2.5Y6/6明黄褐色シルト塊を斑紋状に少量含む。
P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1～2cmの2.5Y6/6明黄褐色シルト塊を斑紋状に少量含む。
P4	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1黒褐色土を少量含む。柱痕跡。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1黒褐色土を微量含む。柱痕跡。
	3	10YR4/4	褐色	シルト	締まりと粘性を有する。柱痕跡。
	4	10YR4/4	褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
P5	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ 1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。
P6	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ 1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。

SI14　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	楕円形	65 × 48	65	主柱穴、柱痕跡あり
P2	円形	52 × 44	54	主柱穴
P3	円形	42 × 41	46	主柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P4	隅丸方形	52 × 40	48	主柱穴、柱痕跡あり
P5	円形	30 × 30	19	掘り方検出
P6	円形	26 × 24	17	掘り方検出

第１０４図　Ⅳ区ＳＩ１４竪穴住居跡（1）



第105図　Ⅳ区SI14竪穴住居跡（2）

[床面] 床面はほとんど残存していないが、残存部は貼り床構造である。また、顕著な硬化面は確認できなかった。

[柱穴] 残存範囲内では確認されていない。

[貯蔵穴] 残存範囲内では確認されていない。

[床下土坑] 残存範囲内では確認されていない。

[周溝] 壁が残存する西壁下で確認された。規模は幅8～15cm、深さ8cm内外で、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には深さ10～18cmの掘り方が確認された。掘り方は起伏に富む。

[カマド] 竪穴の残存部分では確認されていないが、SI8の掘り方面で確認された焼土を含む浅い掘り込みがSI15カマドの火床面の可能性もある。不整形の掘り込みは、長軸41cm、深さ3cmを測り、薄く焼土が堆積していた。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは土師器の小破片がわずかに出土した。そのうち図示し得た資料は、土師器坏の1点(1)のみである(第107図)。

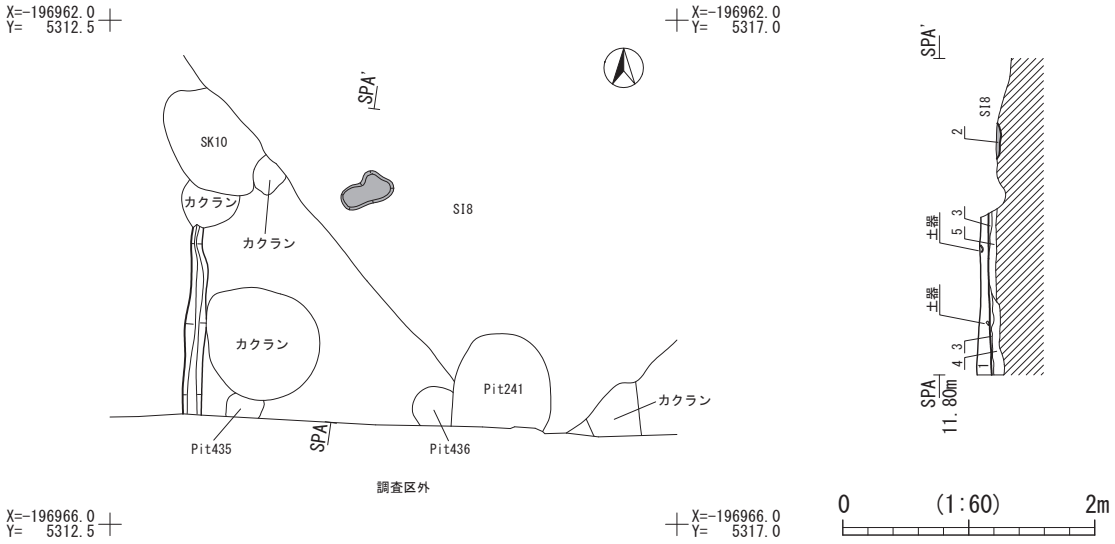
1の坏は堆積土中から出土した口縁部破片で、底部との境界に稜を有し、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部は横位のヘラナデである。復元口径12.6cm、現存高2.0cm。関東系土師器と考えられる。

SI16　竪穴住居跡(第108・109図)

[位置・残存] Ⅳ区東部南寄りの69・70・74・75グリッドに位置する。近代の耕作痕と他の遺構により東側半分の壁と床面が失われ、竪穴の南西隅部分は調査区外へ伸びている。

[重複] 新旧関係では、SI6、SK7、SX10性格不明遺構、Pit243・244・261・269・300・301・327よりも古い。

[規模・形態] 南西-北東(長軸)554cm、北西-南東(短軸)538cmを測り、平面形は方形を呈する。



SI15 堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1cmの2.5Y6/6明黄褐色シルト塊を少量、炭化物を少量含む。
焼土範囲	2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1～2cmの2.5YR5/3にぶい赤褐色焼土塊を多く、炭化物を微量含む。カマド火床面の残存か。
貼り床	3	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	φ1～2cmの2.5Y7/1灰白色粘土質シルト塊を多量、φ3～5cmの2.5Y4/1黄灰色シルト塊を少量含む。
掘り方	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1～2cmの2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト塊をやや多く含む。
	5	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ3～5cmの2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト塊を少量含む。

SI15 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
焼土範囲	不整形	43 × 19	5	カマド火床面か

第106図 Ⅳ区SI15竪穴住居跡

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-054	Ⅳ区	SI15	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(12.6)	－	(2.0)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラナデ	関東系	36

第107図 Ⅳ区SI15竪穴住居跡出土遺物

[主軸方位] 長軸方向より主軸方位を求めると、N-29°-Wである。

[堆積土] 8層に分層される。1～3層は住居堆積土、4層は周溝堆積土、5～8層は貼り床土及び掘り方土である。SK1(貯蔵穴)とP1～P6については別な層名で掲載している。

[壁面] 西側の残存部分では開きぎみに立ち上がる。もっとも良好な南西壁面で25～30cm、北西壁面では15～20cmを測る。北東側及び南東側では削平されていた。

[床面] 床面が残存する北西隅は貼り床構造であるが、他の部分はSI6との重複により壊されている。床面は平坦で、残存部分では良好な硬化面が確認された。床面積は約24㎡と推定される。

[柱穴] 6基検出された。規模と配置からP1・P2・P5・P6が主柱穴と考えられる。主柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸36～69cm、短軸32～52cm、深さ10～38cmを測る。P2･P5･P6の深さについては、床面が失われているため浅い数値となっている。P3の平面形は不整楕円形で、規模は長軸76cm、短軸54cm、深さ23cm。P4の平面形は円形で、規模は長軸64cm、短軸52cm、深さ19cmである。

[貯蔵穴] 南東壁に接して確認された土坑(SK1)を貯蔵穴と考えた。平面形は隅丸方形で、長軸114cm、短軸110cm、深さ35cmを測る。SI6の掘り方により上部が削平されているが、南東側には段があったものと考えられる。

[周溝] 調査範囲内では、SK1を除くと各壁下に沿って周溝は全周している。規模は幅8～15cm、深さ5～8cmで、

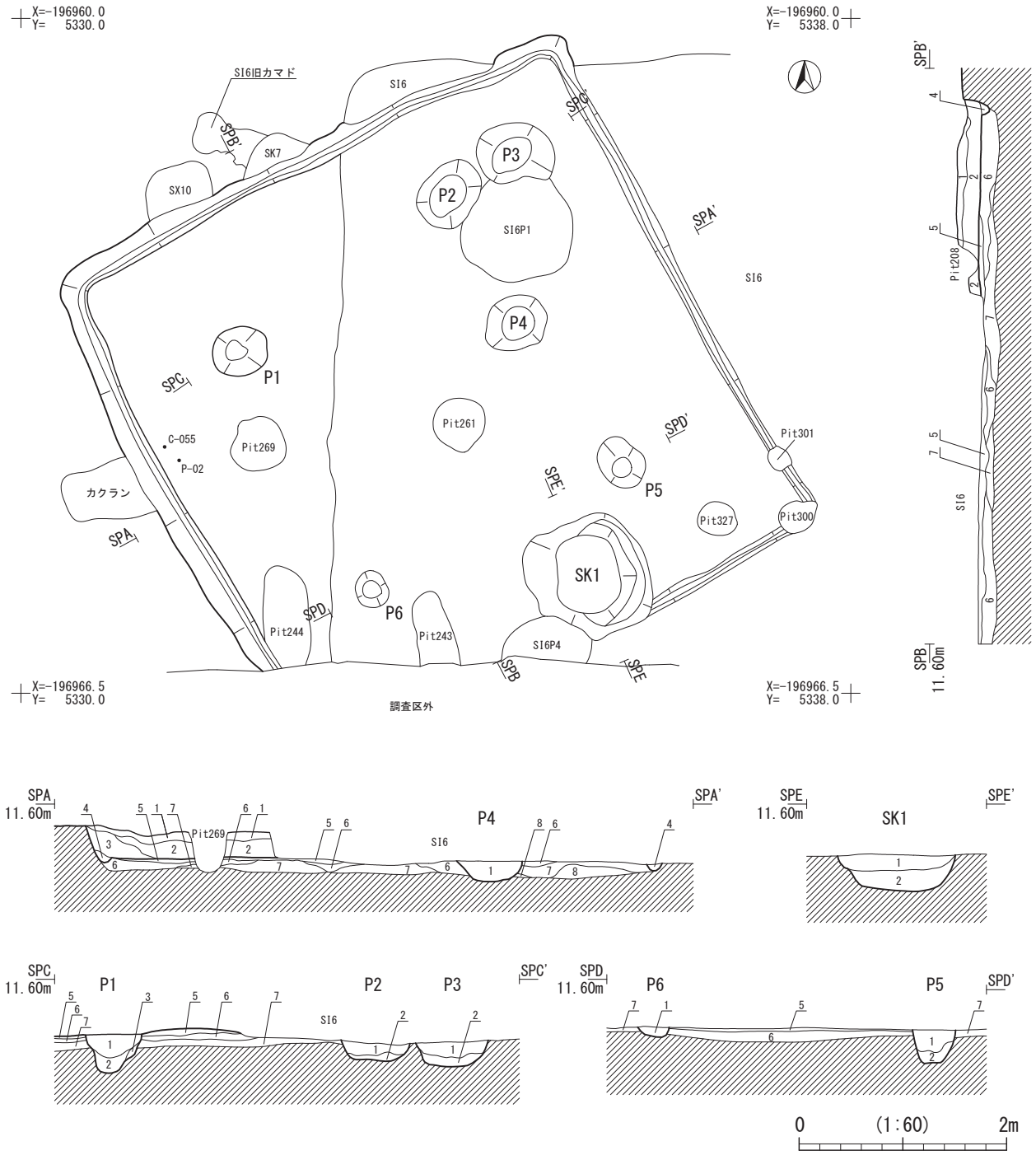
断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には深さ8～16cmの掘り方が確認された。掘り方は概ね平坦であるが、やや中央寄りの方が深い傾向にある。

[カマド] 調査範囲内でカマドは確認されなかった。出土遺物より判断すると、本遺構はカマドが出現する以前の竪穴住居跡と考えられる。

[出土遺物] 竪穴住居跡からは、少量の遺物が出土した。そのうち図示し得た資料は土師器壺(1)と土製の丸玉(2)、石製品(3)の計3点である(第109図)。出土位置は、2が床面直上、1・3はともに堆積土下層からである。

1は土師器広口壺の口縁部から胴部上半の破片で、口縁部は「く」字状に外反し、胴部は球形状を呈する。口唇



第108図　Ⅳ区ＳＩ16竪穴住居跡

端は面取りされ、口縁部の中程には弱い隆帯が形成される。器面調整は内外面とも口縁部がヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。復元口径17.6cm、残存高8.8cm。2は完形の土製丸玉である。ほぼ球形の製品で直径1.65cm、中央部に直径2.0 ～ 2.5mmの穿孔が認められ、重量は3.74gである。3は鏡形の石製模造品で、下端が欠損している。孔は2穴あり、裏面からの穿孔と考えられる。正裏面とも粗い擦痕の研磨が施され、裏面には剥離面が残存する。側面は複数の面取り状をなす狭い研磨面からなる。石材は緑色片岩である。

SI16　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊をやや多く含む。
	2	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。
周溝	4	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。
貼り床	5	10YR7/1	灰白色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊をやや多く含む。
掘り方	6	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
	7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。
	8	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	φ5mmの炭化物を微量含む。

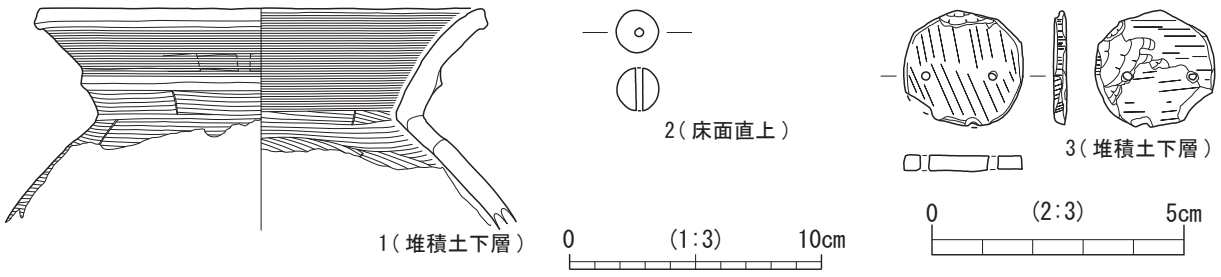
SI16　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y8/4 淡黄色シルト塊を少量含む。
	2	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/2 灰黄色粘土質シルト塊を少量含む。
	3	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	炭化物を微量含む。
P2	1	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1cmの 2.5Y8/2 灰白色シルト塊を少量、φ0.5 ～ 1cmの炭化物を少量含む。
P3	1	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1cmの 2.5Y8/2 灰白色シルト塊を少量含む。
P4	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y8/4 淡黄色シルト塊を少量、φ1cmの炭化物を微量含む。
P5	1	10Y6/2	灰黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 10YR7/1 灰白色シルト塊を少量、φ1 ～ 2cmの炭化物を少量含む。
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
P6	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。
SK1（貯蔵穴）	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を微量、φ1 ～ 2cmの炭化物を少量含む。
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの炭化物を微量含む。

SI16　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	円形	54 × 48	38	主柱穴
P2	楕円形	69 × 52	22	主柱穴
P3	不整楕円形	76 × 54	23	補助柱穴
P4	円形	64 × 52	19	補助柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P5	楕円形	52 × 40	38	主柱穴
P6	円形	36 × 32	10	主柱穴
SK1	隅丸方形	114 × 110	35	貯蔵穴



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-055	Ⅳ区	SI16	下層	土師器	坏	口縁～胴部上半 1/2	(17.6)	−	(8.8)	口縁部ヨコナデ、頭部～胴部横位ヘラナデ 頸部隆帯貼付	口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラナデ		36

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
2	P-02	Ⅳ区	SI16	床直	土製品	丸玉	径 1.65	径 1.65	1.7	3.74	完形　中央部に直径 2 ～ 2.5mmの円孔貫通（焼成前）	36

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
3	Kd-e-02	Ⅳ区	SI16	下層	石製品	鏡形模造品	2.3	2.4	0.3	4	緑色片岩	略完形　縁辺一部剥離　円孔 2 つ　孔径 2.0 ～ 2.5mm 表裏面擦痕	36

第109図　Ⅳ区SI16竪穴住居跡出土遺物

(2)掘立柱建物跡(第110 ～ 119図)

Ⅳ区では古代の掘立柱建物跡6棟(SB1 ～ SB6)が確認された。掘立柱建物跡の分布は大きく東西に分かれる。東側で検出された掘立柱建物跡(SB2・SB3)は、北側を河川により浸食されている。一部の掘立柱建物跡(SB4)は位置関係から次項で述べる柱穴列(SA2)との関連性が推定される。また、SB1は窪地状地形1の上面に構築されていたことが判明し、窪地状地形1の調査の過程でSB1の周辺には整地が行われていることが明らかになった。SB1の調査時に確認されたSA1との関連性をみるために精査した結果、SA1は整地層の下面に構築されており、両者には検出面の違いがあることが明らかとなった。この一連の過程を第110図をもとに整理すると、窪地状地形1の埋没過程にSA1が構築され、その後SB1の構築に合わせて整地が行われたことがわかる。

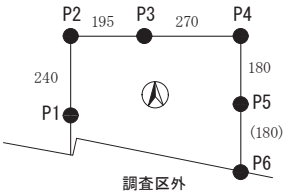
また、主要遺構との関係について補足すると、SB3とSI8 ～ SI10及びSX2・SX7性格不明遺構との重複関係がみられ、いずれの遺構よりもSB3が新しいことが明らかとなった。

今回の掘立柱建物跡と柱穴列の調査では、柱痕跡が確認された場合が多く、柱位置が概ね特定されたといえる。確認された6棟のうちで、建物の全容が把握されたのは3棟(SB3・SB5・SB6)である。他の3棟は調査区外や河川により失われていた。最大規模の建物はSB3で、桁行3間(660cm)、梁行2間(360cm)の東西棟の側柱建物である。また、最小規模の建物は1間(180cm)四方のSB6である。同様の建物はSB6を含めて3棟あるが、これらは竪穴住居跡の主柱穴のみの残存であった可能性もある。調査された6棟は、各柱穴が独立した壺掘り形態の側柱建物で、SB3のみ東側に廂が付されている。

建物配置には大きく3種類が認められる。東西棟のSB3、南北棟のSB1・SB2・SB6、主軸が東偏するSB4・SB5の2棟である。各建物の柱穴内からは総じて多くはないが遺物が出土している。以下では個々の建物について述べる。

SB1　掘立柱建物跡(第111 ～ 113図)

Ⅳ区南側中央付近の20・21グリッドに位置し、建物の南側が調査区外へ伸びている。遺構間の新旧関係では、SA1柱穴列及び窪地状地形1の上面を整地して構築されていることから、両者よりも新しいことが明らかになった。



SB1

建物の平面形式は、東西2間、南北2間もしくはそれ以上の側柱建物跡と推定される。規模は、東西総長465cm(P2-P3-P4)、南北現存長360cm(P4-P5-P6)である。仮に南北棟とすると、主軸方位はN-1°-Eである。

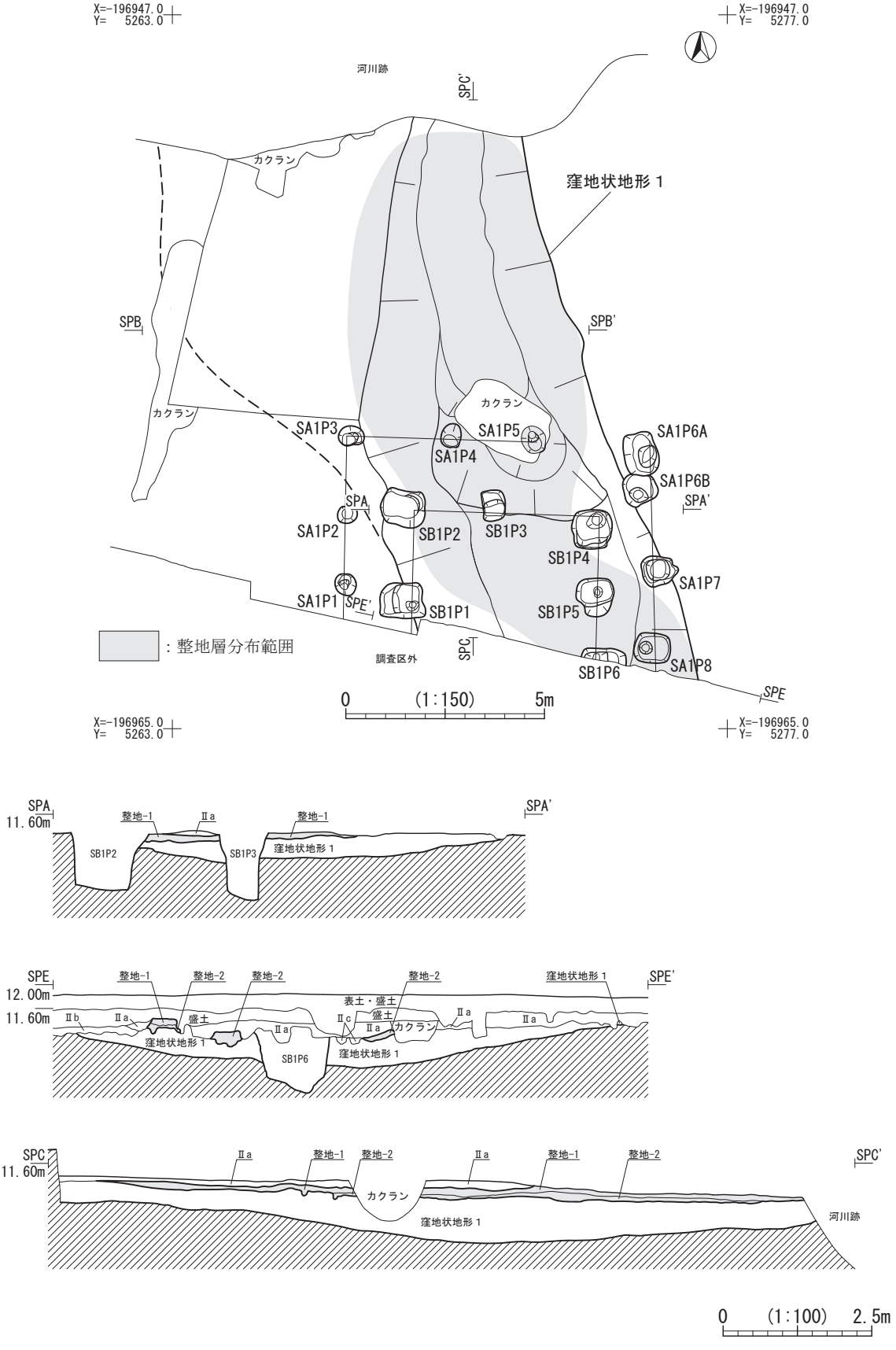
柱間寸法は、北側柱列では西側から1間目(P2-P3)が195cm、2間目(P3-P4)が270cmである。東側柱列では北側から1間目(P4-P5)が180cm、2間目(P5-P6)が180cmと推定される。同様に西側柱列では1間目(P2-P1)が240cmで、両者の対応関係はあまり良好とはいえない。

柱掘り方の平面形は、隅丸方形もしくは隅丸長方形を基本形とする。規模は長軸78 ～ 114cm、短軸55 ～ 98cm、深さ84 ～ 90cmを測り、深さはほぼ均一に掘られている。明瞭な柱痕跡は3基(P1・P3・P5)で確認され、径25 ～ 30cmの柱痕跡が観察された。

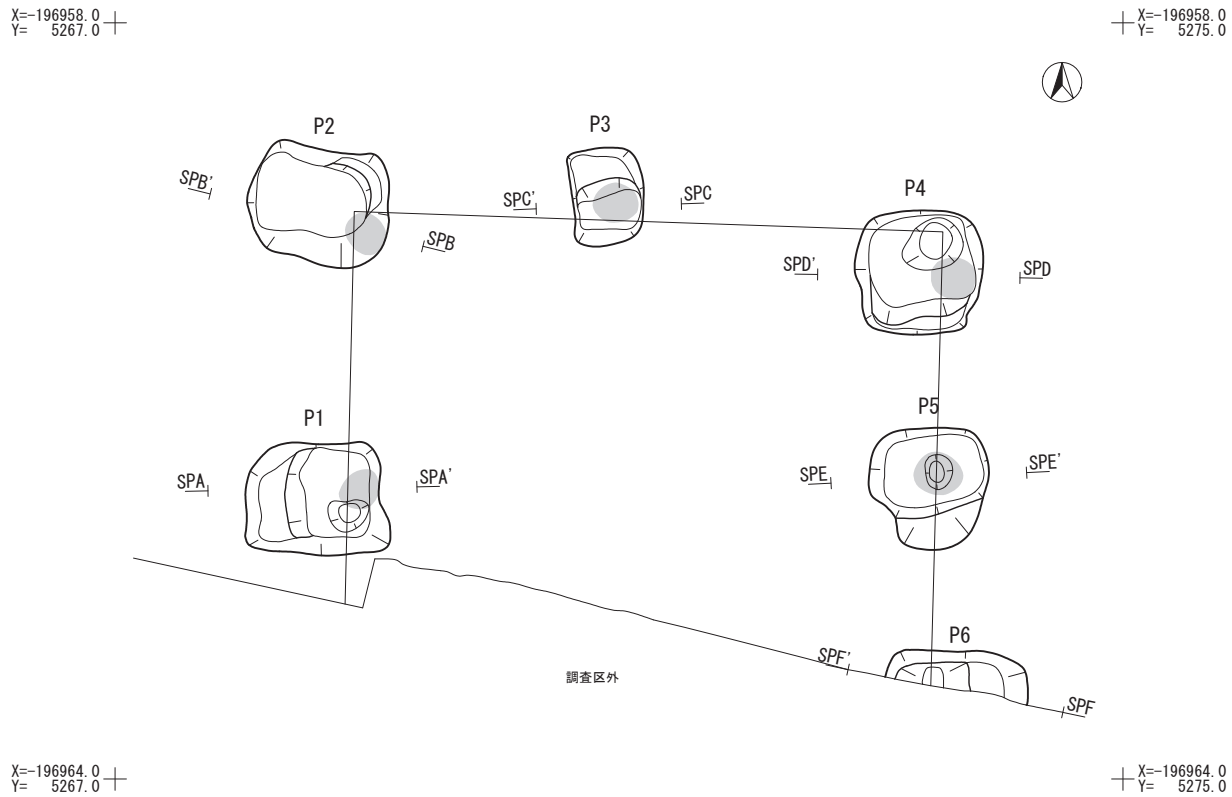
SB1と主軸方向がほぼ共通するSA1柱穴列は、その配置関係から両者の関連性が推定されたが、前述したように検出面が異なっていた。

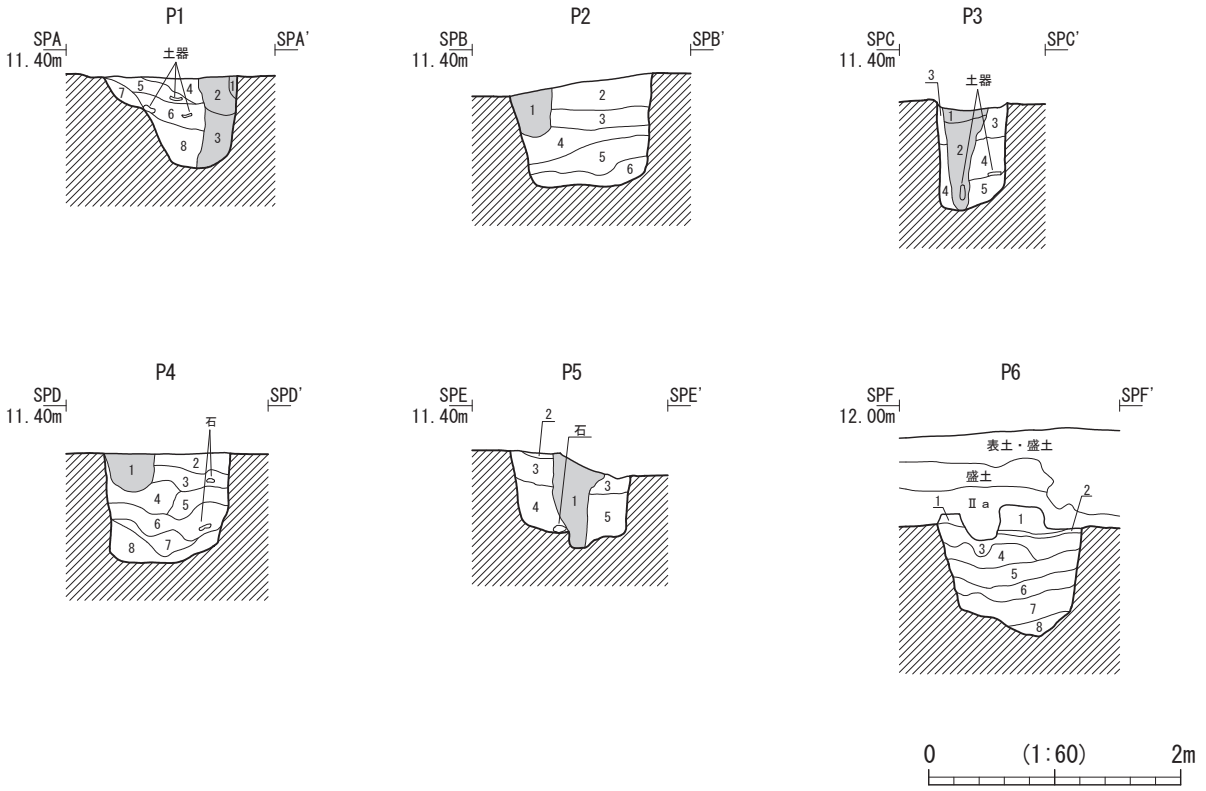
[出土遺物] 本遺構からは、平箱で約1/3箱分の遺物が出土した。そのうち図示し得た遺物は12点で、内訳は土師器坏3点(1 ～ 3)、土師器鉢2点(4・5)、土師器甕2点(6・7)、平瓦1点(8)、鞴の羽口1点(9)、礫石器3点(10 ～ 12)を掲載した(第112・113図)。出土位置はすべて堆積土中からである。P1から2と3、P2から11、P3から4・5・6・7、P4から1・8・12、P5から9・10がそれぞれ出土した。

1 ～ 3は土師器坏である。1・2は身の浅い器形で、稜は形骸化し、口縁端部でわずかに外反する。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。1は残存高3.7cm、2は復元口径



第１１０図　Ⅳ区ＳＢ１・ＳＡ１・窪地状地形1位置図





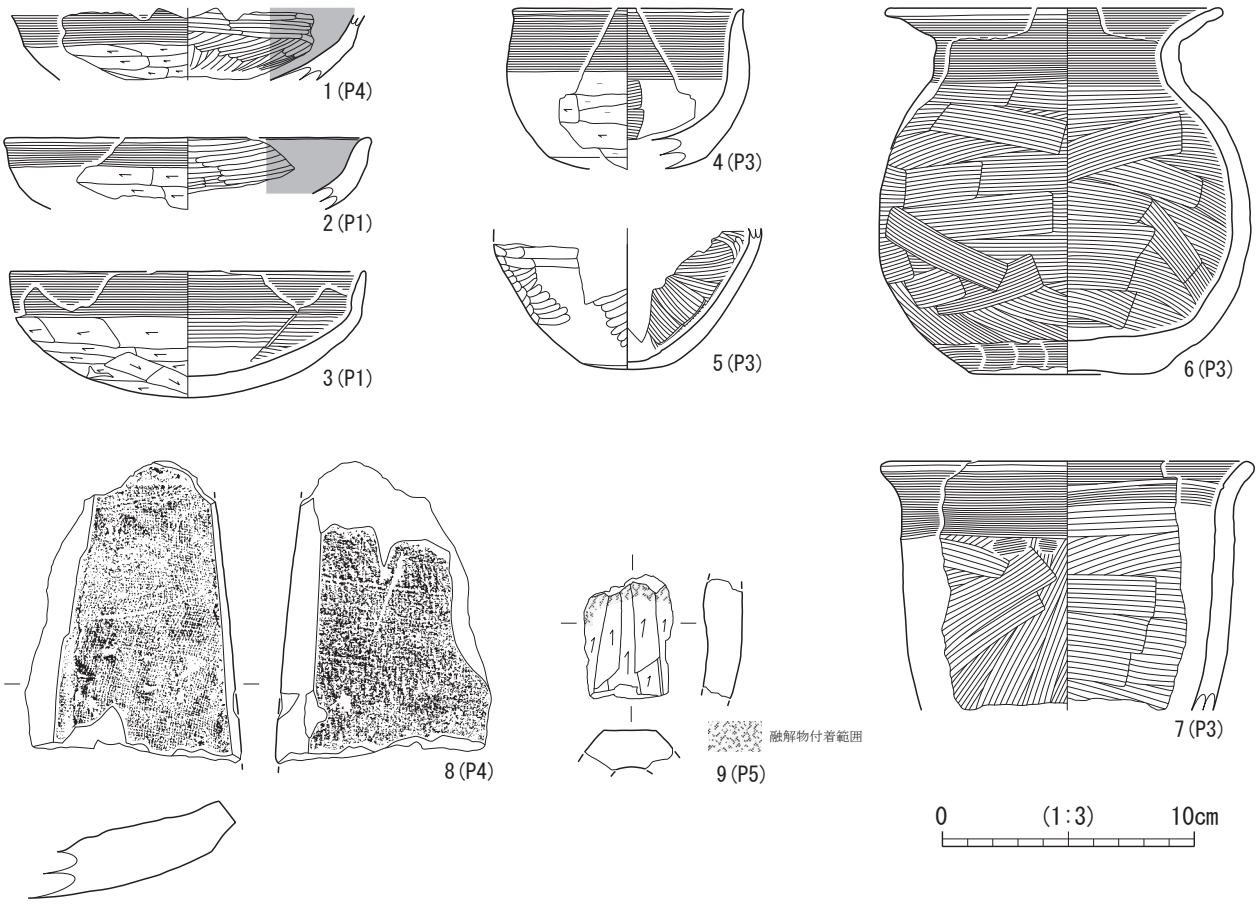
第111図　Ⅳ区ＳＢ1掘立柱建物跡

SB1掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	21	隅丸長方形	114 × 88	84	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					3	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					4	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					5	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					6	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ3cmの 2.5Y7/8 黄色シルト塊をやや多く含む。	
					7	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物をやや多く含む。	
P2	20	隅丸方形	114 × 87	86	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					4	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	φ3㎜の炭化物を少量、φ2cm前後の 2.5Y7/1 灰白色粘土塊を少量含む。	
					5	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	5YR4/6 赤褐色の酸化鉄を微量含む。	
					6	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	5YR4/6 赤褐色の酸化鉄を少量含む。	
P3	20	隅丸長方形	78 × 55	84	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					3	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を少量含む。	
					4	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
					5	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を少量含む。	
P4	20・21	隅丸方形	102 × 98	90	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を多く含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を少量含む。	
					4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ5 ～ 10㎜の 2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を少量含む。	
					5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 8㎜の炭化物を微量、2.5Y6/2 灰黄褐色粘土塊を少量含む。	
					6	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
					7	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 8㎜の炭化物を微量、2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト塊を少量含む。	
					8	2.5Y6/2	灰黄色	粘土	2.5Y6/2 灰黄色粘土塊主体で構成され、φ5 ～ 8㎜の炭化物を微量含む。	
P5	21	隅丸長方形	95 × 94	86	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2cm程の黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を少量含む。	
					4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、φ5 ～ 10㎜の 2.5Y6/2 灰黄色粘土塊を少量含む。	
					5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 8㎜の炭化物を微量、2.5Y6/2 灰黄褐色粘土塊を少量含む。	
P6	21	隅丸長方形	114 × −	85	1	2.5Y5/6	黄褐色	粘土	締まりが弱く、粘性を有する。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
					4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					5	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
					6	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
					7	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					8	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	

14.4cm、残存高2.8cm。3は身の深い器形で、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデである。復元口径14.0cm、器高5.0cm。4・5は土師器鉢である。4は小型の製品で、体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁端部でわずかに外反する。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部は横位のヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。復元口径9.0cm、底径6.2cm、器高6.2cm。5は底部のやや小さな器形で、外面調整は体部が横位のヘラミガキ、内面は口縁部ヨコナデ、体部はヘラナデである。底径3.6cm、残存高5.6cm。6・7は小型の土師器甕である。6は球形状の器形で、頸部は直立し「コ」字状に外傾する。器面調整は内外面ともに口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。復元口径14.0cm、底径7.7cm、器高14.5cm。7の甕は口縁部に最大径を有し、膨らみのない器形を特徴とする。内外面とも口縁部はヨコナデ、胴部はヘラナデである。復元口径14.8cm、残存高9.8cm。8は粘土板桶巻作りの平瓦片で、凹面には糸切り痕・枠板圧痕・布目痕が、凸面には縄叩きの痕跡が残る。9は鞴の羽口の破片で、上端部に融解物が付着している。10は不整形を呈する敲石で、正面中央に敲打痕が比較的広くみられる。石材は安山岩である。11はその他の礫石器である。扁平な自然礫を用いている。正面に弱い磨面がみられ、斜位の擦痕が観察される。下半から下端には、磨面よりも新しい断面Ｖ字形の削り痕と平坦な削り痕が認められる。下端には小剥離痕がみられるが、縁辺にわずかな潰れが観察されることから敲打に伴う可能性がある。石材は流紋岩である。12は楕円形を呈する砥石である。使用面は正裏面の2面にみられ、正面の研磨面の方が滑らかである。いずれの研磨面にも斜位の擦痕が主体となり、擦痕には粗いものや断面Ｖ字形の溝状の痕跡もある。正面の右側にみられる断面Ｖ字形の短い溝状の痕跡は、下位方向からの削り痕末端部が磨き消されずに残存したものである。削り痕は、正面右側縁の角張った稜線部分にも剥離面と研磨面より新しい細

長い面取り状のものがみられるほか、側縁部の自然面にも平坦な削り痕がみられる。正面下端と左側縁には敲打痕がある。石材は流紋岩である。

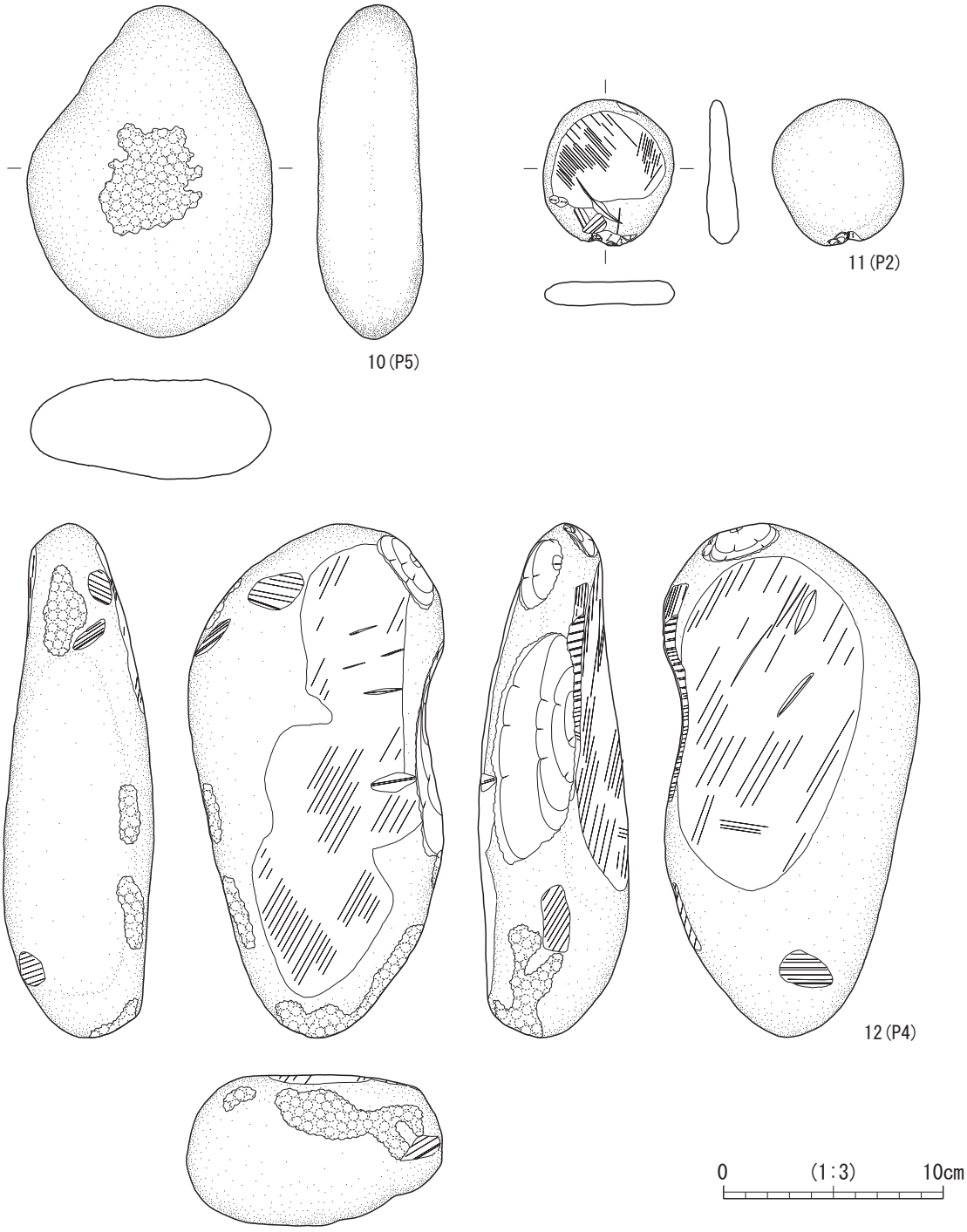


図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-056	Ⅳ区	SB1P4	堆積土	土師器	高坏	坏部小片	−	−	(3.7)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	受部：口縁部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ→黒色処理		36
2	C-057	Ⅳ区	SB1P1	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(14.4)	−	(2.8)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部横位ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	口縁部ﾖｺﾍﾗﾐｶﾞｷ→黒色処理		36
3	C-058	Ⅳ区	SB1P1	堆積土	土師器	坏	口縁～底部1/2	(14.0)	−	5.0	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗﾅﾃﾞ	関東系	36
4	C-059	Ⅳ区	SB1P3	下層	土師器	鉢	口縁部～底部1/4	(9.0)	(6.2)	(6.2)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部横位ﾍﾗﾅｽﾞﾘ、底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、体部ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部ﾅﾃﾞ		36
5	C-060	Ⅳ区	SB1P3	堆積土	土師器	鉢	体部～底部2/3	−	3.6	(5.6)	体部ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	体部ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ		36
6	C-061	Ⅳ区	SB1P3	堆積土	土師器	小型甕	口縁～底部1/2強	(14.0)	7.7	14.5	口縁部～頸部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾍﾗﾅﾃﾞ・端部ｴﾋﾞﾅﾃﾞ、底部木葉痕→ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	口縁部～頸部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		36
7	C-062	Ⅳ区	SB1P3	掘り方5層	土師器	甕	口縁～胴部下半破片	(14.8)	−	(9.8)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部斜位ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		36

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			凸面調整	凹面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
8	G-01	Ⅳ区	SB1P4	堆積土	瓦	平瓦	(11.0)	(8.3)	2.1	側縁方向のﾍﾗ調整・縄ﾀﾀｷ、端縁方向のﾅﾃﾞ	糸切り　枠板圧痕　布目 側縁方向のﾍﾗ調整		36

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
9	P-03	Ⅳ区	SB1P5	堆積土	土製品	鞴羽口	(4.7)	(3.5)	(1.5)	(24.1)	小片　上端部融解物付着	36

第112図　Ⅳ区SB1掘立柱建物跡出土遺物（1）

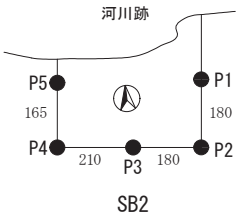


図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
10	Kc-c-05	Ⅳ区	SB1P5	堆積土	礫石器	敲石	15.1	11.1	4.5	1180	安山岩	完形　敲1（正）	36
11	Kc-h-06	Ⅳ区	SB1P2	掘り方	礫石器	その他	6.5	5.9	1.3	40.0	流紋岩	完形　磨1（正）、削1（下）	36
12	Kd-a-07	Ⅳ区	SB1P4	掘り方	石製品	砥石	23.3	11.2	6.8	1400	流紋岩	完形　磨2（正裏）、敲3（下左右）	36

第113図　Ⅳ区SB1掘立柱建物跡出土遺物（2）

SB2　掘立柱建物跡（第114図）

Ⅳ区南側東端付近の67・68グリッドに位置し、遺構の北半分は河川によって浸食されている。残存状態は比較的良好である。他の遺構間との新旧関係は認められない。

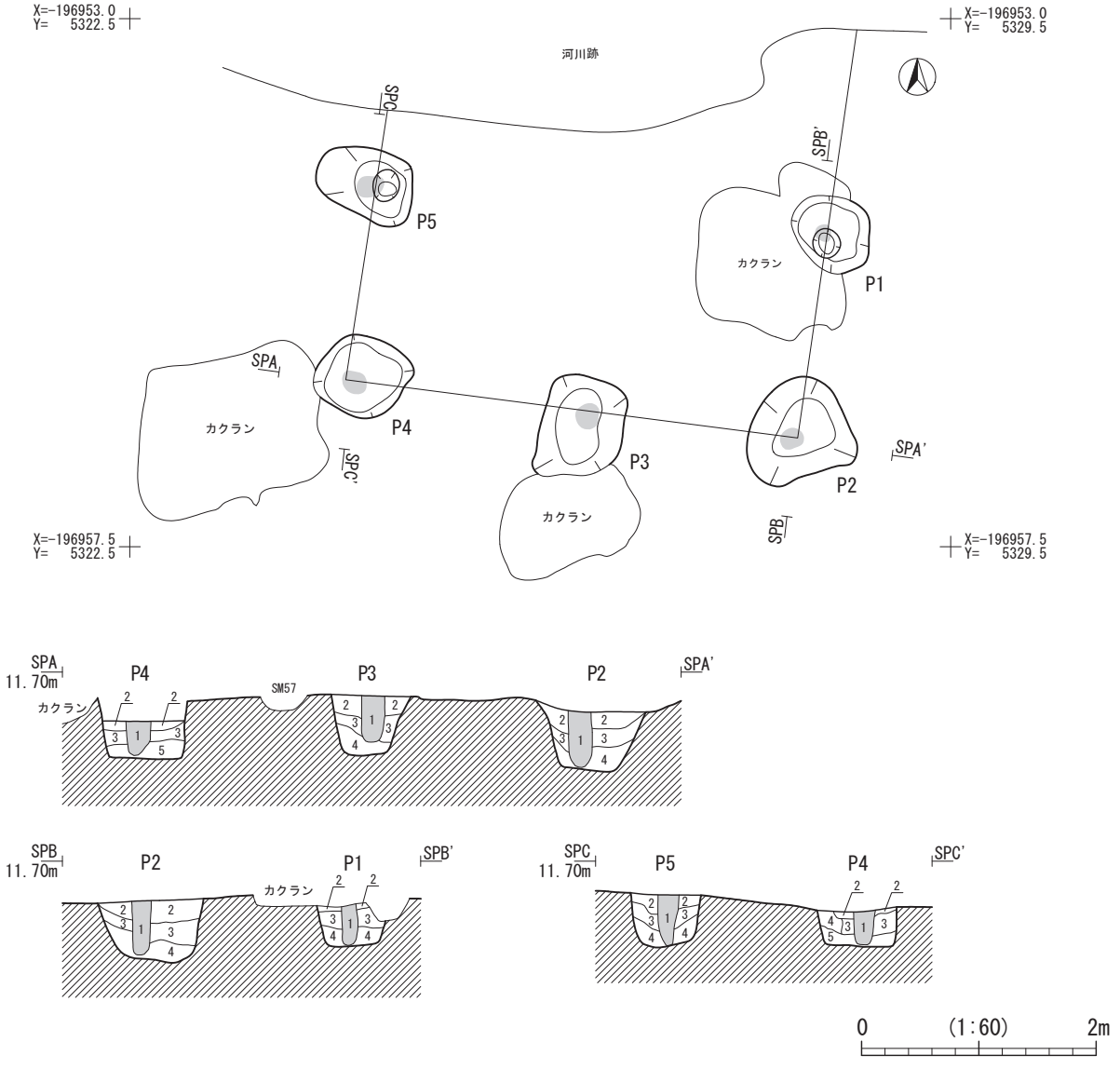


建物の平面形式は、東西2間、南北1間もしくは2間以上の側柱建物跡と推定される。規模は、東西総長390cm（P2-P3-P4）、南北現存長165cm（P1-P2、P4-P5）。仮に南北棟とすると、主軸方位はN-5°-Eである。

柱間寸法は、南側柱列では東側から1間目（P2-P3）が180cm、2間目（P3-P4）が210cmである。東側柱列では南側から1間目（P2-P1）が180cm、西側柱列では1間目（P4-P5）が165cmである。

柱掘り方の平面形は、やや歪むが方形を基本形とし、規模は長軸72 ～ 97cm、短軸57 ～ 92cm、深さ44 ～ 66cmを測る。すべての柱穴で、径15 ～ 21cmの柱痕跡が確認された。

[出土遺物] 本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。



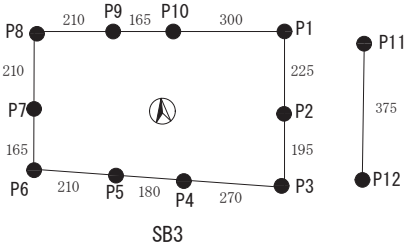
第114図　Ⅳ区SB2掘立柱建物跡

SB2掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	67・68	楕円形	72 × 63	44	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	締まりと粘性を有する。	
					3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
					4	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	
P2	68	楕円形	97 × 92	64	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR6/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	Pit225→SB2P2
					3	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	
					4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 10YR5/1 褐灰色シルト塊をやや多く含む。	
P3	68	隅丸長方形	84 × 71	54	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
					3	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/1 黄灰色シルト塊をやや多く含む。	
					4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 10YR5/1 褐灰色シルト塊をやや多く含む。	
P4	61	隅丸方形	72 × 68	48	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
					3	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/1 黄灰色シルト塊をやや多く含む。	
					4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 10YR5/1 褐灰色シルト塊をやや多く含む。	
					5	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
P5	60	隅丸長方形	85 × 57	66	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
					3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
					4	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/1 黄灰色シルト塊をやや多く含む。	

SB3　掘立柱建物跡（第115・116図）

Ⅳ区南側東半部の52・53 ～ 60・61グリッドに位置する。今回の調査では全容が判明した唯一の掘立柱建物である。新旧関係では、SI8 ～ SI10及びSX7性格不明遺構よりも新しい。



SB3

建物の平面形式は、桁行（東西）3間、梁行（南北）2間の側柱建物で、また妻柱列の東面には廂と推定される柱穴が2基確認されている。建物の規模は、桁行総長では両側柱列とも675cmを測るが、梁行総長ではそれぞれ異なり、西妻柱列で375cm、東妻柱列で420cmを測りやや歪んでいる。また、東面側で確認された2基を廂部と推定すると、それを加えた桁行総長は約900cmを測る。床面積は、身舎で約26.9㎡、廂部を加えると約35.7㎡となる。主軸方位はN-86°-Wである。

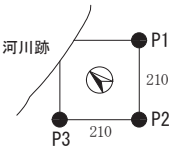
柱間寸法について、柱痕跡や柱のあたり、掘り方面の窪みなどを手がかりに示すと、桁行北側柱列では西側から1間目（P8-P9）が210cm、2間目（P9-P10）が165cm、3間目（P10-P1）が300cmである。同様に南側柱列では1間目（P6-P5）が210cm、2間目（P5-P4）が180cm、3間目（P4-P3）が270cmとなり、両者の対応関係は微妙にずれている。梁行西妻柱列では北側から1間目（P8-P7）が210cm、2間目（P7-P6）が165cmを測り、同様に東妻柱列では1間目（P1-P2）が225cm、2間目（P2-P3）が195cmと推定され、両者の対応関係も微妙にずれる。廂部は、身舎の東側に取り付き、柱間寸法は220 ～ 225cm、妻側のP11-P12間は375cmを測る。

柱掘り方は、身舎が廂部に比べて確実に一回り大きい。身舎の柱掘り方の平面形は、多少歪むが隅丸長方形を呈する。規模は長軸84 ～ 118cm、短軸56 ～ 84cm、深さは確認面から20 ～ 84cmを測り、両妻中央の2基（P2・P7）がやや浅い。廂部のP11・P12の平面形は概ね円形を呈し、規模はP11が長軸54cm、深さ39cm、P12が長軸58cm、深さ34cmを測る。各柱穴内からは柱痕跡や柱のあたり、また底面からは柱の位置を示すと考えられる窪みが確認されている。

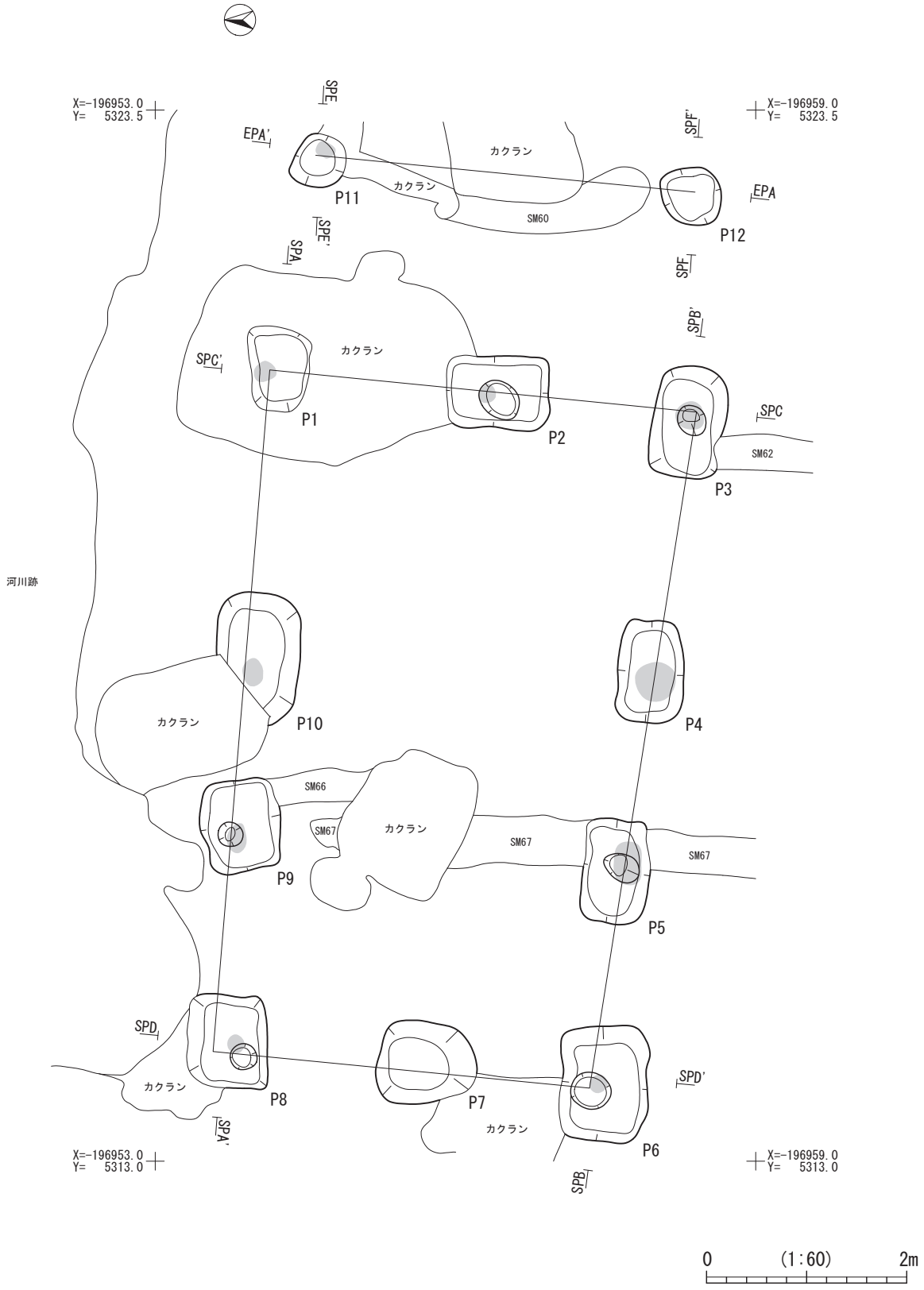
[出土遺物]本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。

SB4　掘立柱建物跡（第117図）

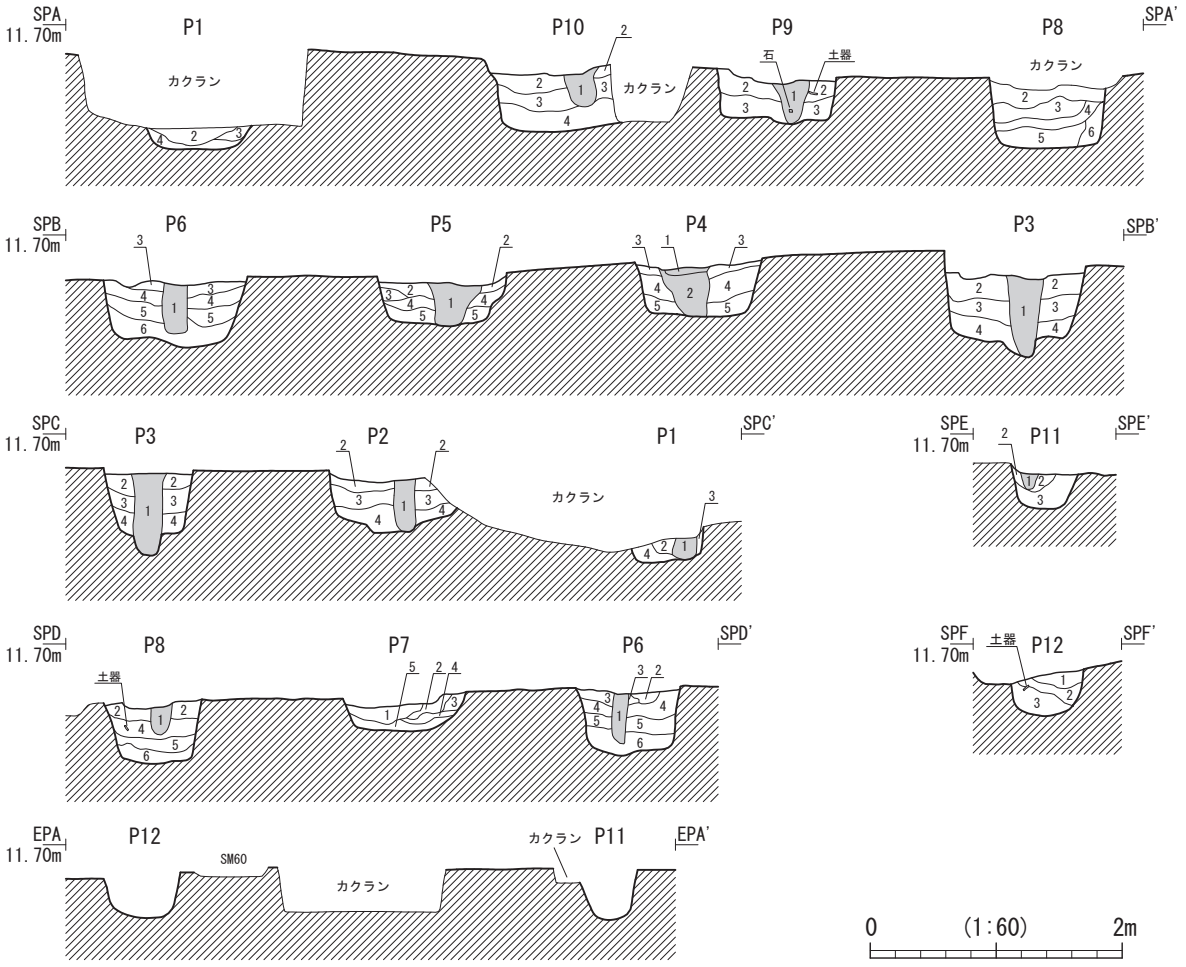
Ⅳ区南側東端付近の67・68グリッドに位置し、遺構の北側は河川の浸食と撹乱により壊されている。本遺構は、確認された柱穴3基をもとに掘立柱建物跡と考えたものである。3基より建物部分を推定すると、南隅の一角であったと考えられる。また、他遺構との重複は認められないが、本遺構の南西側にはSA2柱穴列が位置している。



SB4



第１１５図　Ⅳ区ＳＢ３掘立柱建物跡（1）



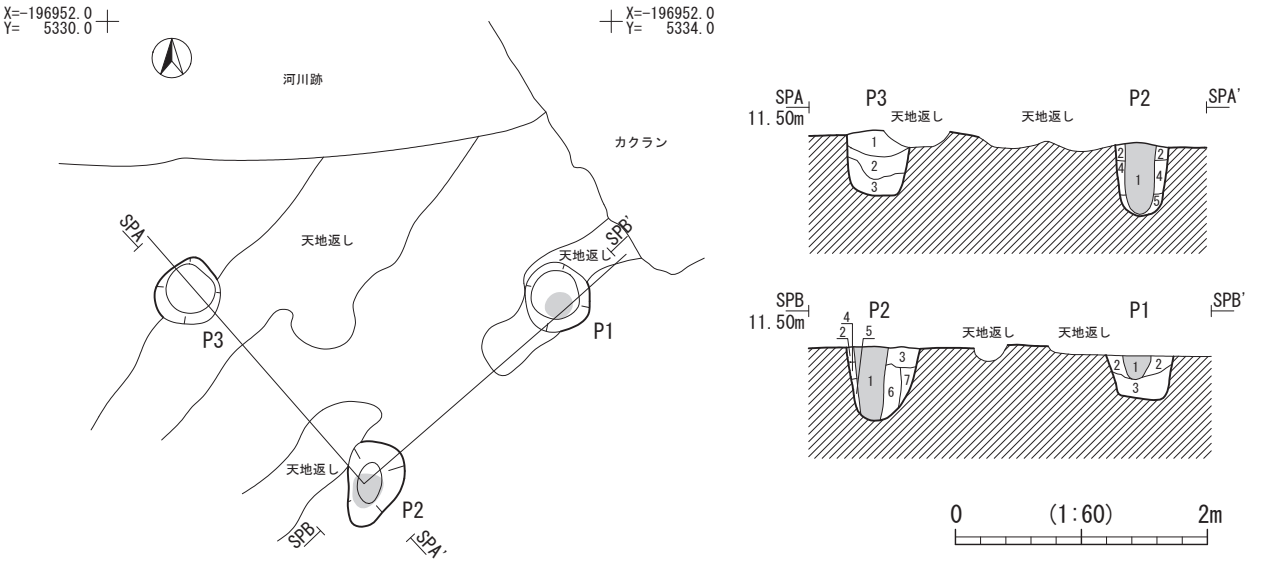
SB3掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	60	隅丸長方形	84 × 56	20	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					3	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
					4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P2	61	隅丸長方形	104 × 70	52	1	10YR4/4	褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
P3	61	隅丸長方形	112 × 72	74	1	10YR4/4	褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					4	10YR5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P4	61	隅丸長方形	103 × 66	46	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	SX7 → SI8 → SB3P4
					2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが強く、粘性をやや有する。柱痕跡。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					5	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
P5	61	隅丸長方形	104 × 68	64	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	締まりが強く、粘性をやや有する。柱痕跡。	SM67 → Pit256 → SB3P5
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	φ1㎝の炭化物を微量、2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					4	10YR5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					5	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
P6	53	隅丸長方形	118 × 82	59	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。柱痕跡。	
					2	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	φ3㎝の 2.5Y7/1 灰白色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の塊を多量に含む。	
					4	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	φ1㎝の炭化物を微量、φ2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					5	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					6	10YR5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	

第116図　Ⅳ区SB3掘立柱建物跡（2）

SB3掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P7	53	隅丸長方形	100 × 84	32	1	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	SI10→SB3P7
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					3	10YR5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
					5	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5mmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P8	52	隅丸長方形	93 × 80	61	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	φ1cmの炭化物を微量、2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					5	10YR5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					6	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
P9	60	隅丸長方形	93 × 82	41	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	SM66・67 → SB3P9
					2	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	φ1cmの炭化物を微量、2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P10	60	隅丸長方形	− × 84	84	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	SI9→SB3P10
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
					4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
P11	60	円形	54 × 52	39	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	Pit218 → SB3P11
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりが弱いが、粘性をやや有する。	
P12	61	円形	58 × 58	34	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	柱痕跡とは異なる塊状の堆積土。	
					2	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	φ3cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト塊を多量に含む。	



SB4掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	67	円形	56 × 52	39	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物、2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
					3	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5mmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P2	68	不整楕円形	68 × 45	58	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物、2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの黄褐色シルト塊を少量含む。	
					4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
					5	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5mmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					6	10YR4/4	褐色	シルト	φ2 ～ 3mmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
					7	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 8mmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P3	67	円形	54 × 52	50	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					2	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの黄褐色シルト塊を少量含む。	
					3	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ5 ～ 8mmの黄褐色シルト塊をやや多く含む。	

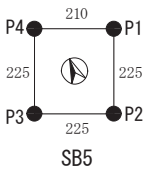
第117図　Ⅳ区ＳＢ４掘立柱建物跡

建物は、北西－南東方向に1間、南西－北東方向に1間分を確認したが、その先は河川跡もしくは撹乱の範囲に及ぶため建物跡の平面形式は不明である。現状での規模は、北西－南東(P2-P3)、南西－北東方向(P2-P1)とも210cmを測る。南西側に接するSA2柱穴列とは50cmの距離を置く。南西方向より主軸方位を求めると、N-41°-Wである。

柱掘り方の平面形は、やや歪むが円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸54～68cm、短軸45～52cmを測り、深さ39～58cmである。P1とP2で柱痕跡が観察された。

[出土遺物]本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。

SB5　掘立柱建物跡(第118図)



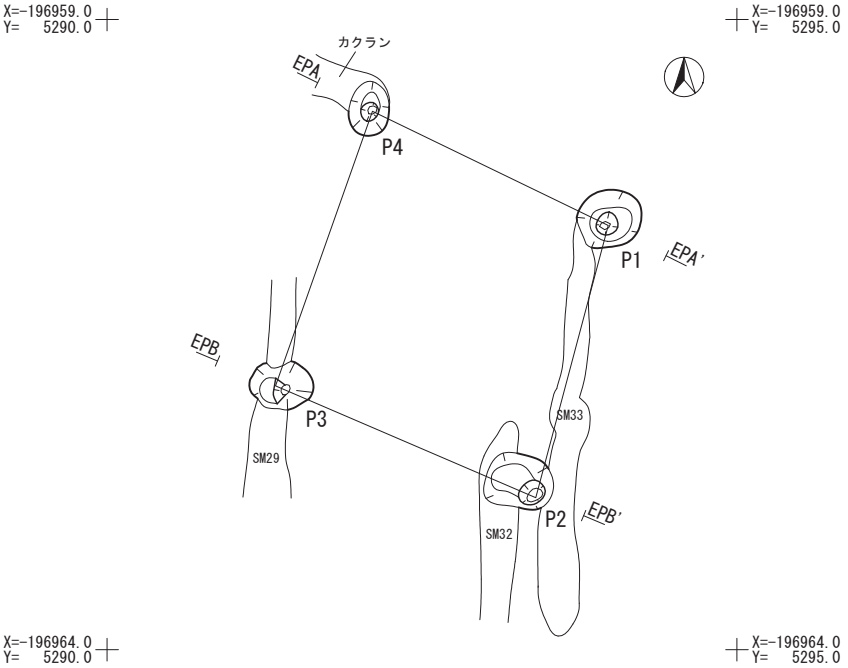
SB5

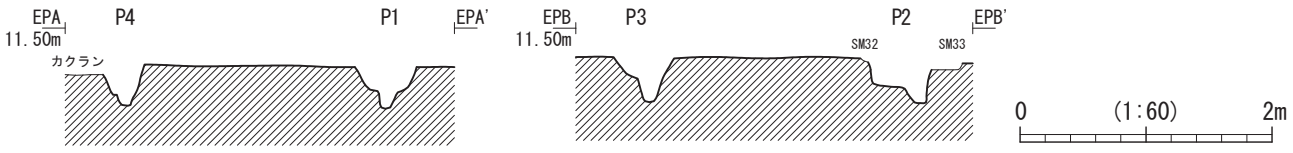
発掘当初は個別のピットとして調査を行ったが、本建物跡は整理作業の過程で抽出した遺構である。建物跡は、Ⅳ区中央部南寄りの34・35グリッドに位置し、上面は近代の耕作痕とSM29・32・33などによって削平されている。

抽出した建物跡は、桁行(南北)1間、梁行(東西)1間の側柱建物である。建物の規模は、桁行総長225cm、梁行総長210cm～225cmを測り、床面積は約4.8㎡である。桁行方向で主軸方位を求めると、N-23°-Eである。

柱掘り方の平面形は、円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸35～54cm、短軸27～46cm、深さは23～35cmである。

[出土遺物]本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。





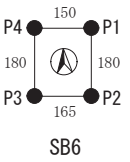
SB5掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
P1	35	円形	51 × 46	35	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。	SB5P1→SM33
P2	35	隅丸方形	54 × 42	33	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。	SB5P2 →SM32・33
P3	35	楕円形	35 × 27	23	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の2.5Y5/6黄褐色シルト塊を微量含む。	SB5P3→SM29
P4	34	楕円形	43 × 32	32	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。	

第118図　Ⅳ区SB5掘立柱建物跡

SB6　掘立柱建物跡(第119図)

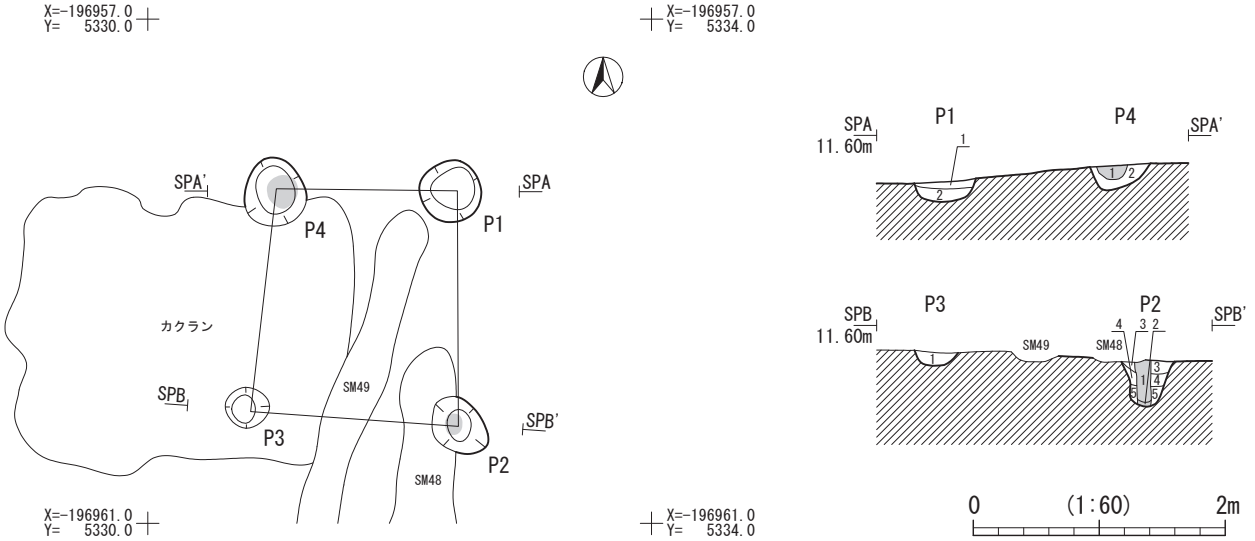
本建物も調査当初は別個のピットとして扱ったが、整理作業の過程で抽出した遺構である。建物跡は、Ⅳ区南側東端寄りの68・69グリッドに位置し、上部は近代の耕作痕とSM48・49によって削平されている。



抽出した建物跡は、桁行(南北)1間、梁行(南北)1間の側柱建物である。建物の規模は桁行総長180cm、梁行総長150 ～ 165cmを測り、床面積は約3.2㎡である。桁行方向で主軸方位を求めると、N-3°-Eである。

柱掘り方の平面形は、概ね円形を呈する。規模は長軸35 ～ 55cm、短軸32 ～ 50cmを測り、深さは11 ～ 36cmである。

[出土遺物] 本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。



SB6掘立柱建物跡　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色		土性	備考	重複(旧→新)
P1	68	円形	50 × 50	19	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、2.5Y5/4 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					2	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の黄褐色シルト塊を少量含む。	
P2	68・69	楕円形	52 × 39	36	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を少量、2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	SB6P2→SM48
					2	2.5Y6/3	にぶい黄色	粘土	柱痕部分硬化及び粘土化している。	
					3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量を含む。	
					4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
					5	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P3	68・69	円形	35 × 32	11	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。	
P4	68	円形	55 × 49	21	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を少量、2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、2.5Y5/4 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	

第119図　Ⅳ区SB6掘立柱建物跡

(3)柱穴列(第120 ～ 126図)

Ⅳ区では柱穴列が7条(SA1 ～ SA7)確認された。このうちSA1・SA2・SA4 ～ SA7の6条については、柱穴列として以下に述べるが、SA3については溝状の掘り方内から柱痕跡が連なって確認されたことにより材木列として別に報告する。

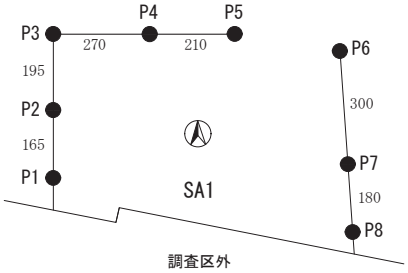
柱穴列の分布は調査区の東西に二分され、6条とも主要遺構と重複または接近している。他遺構との関係では、SA1はSB1・窪地状地形1と、SA2はSB2・SB4と、SA4はSB2、SA5はSI7と、SA6はSB3・SX2性格不明遺構と、SA7はSI8･SB3と先後関係を有する。これらの新旧関係について示すと、SA1は窪地状地形1よりも新しく、SB1よりも古い。また、SA4はSB2よりも古く、SI7はSA5よりも古い。SX2性格不明遺構はSA6･SB3よりも古く、SI8はSA7よりも古い。SA7とSB3、SB2とSA2・SB4の先後関係は不明である。このように、新旧関係の結果を踏まえると、6条の柱穴列は竪穴住居跡や掘立柱建物跡と同じ時間幅の中で形成されたものと考えられる。

柱穴列のうち、全容が把握されたと考えられる遺構は3条(SA2・SA6・SA7)で、他の3条(SA1・SA4・SA5)は調査区外へ伸びている。柱穴列の方向及び配置をみると、正方位を示すもの(SA1・SA6・SA7)と、大きく振れるもの(SA2・SA5・SA6)とに分かれる。その配置では直線的なもの(SA2・SA4・SA5・SA6)と、「コ」字状(SA1)や「L」字状(SA7)のものがある。

各柱穴列からの出土遺物は、図示し得たSA1以外はほとんど出土していない。

以下、個々の遺構について述べる。

SA1　柱穴列(第120・121図)



Ⅳ区南側西端寄りの20・21グリッドに位置し、柱穴列とした南側は調査区外へ伸びている。他遺構との重複関係では、窪地状地形1よりも新しく、SB1よりも古い。

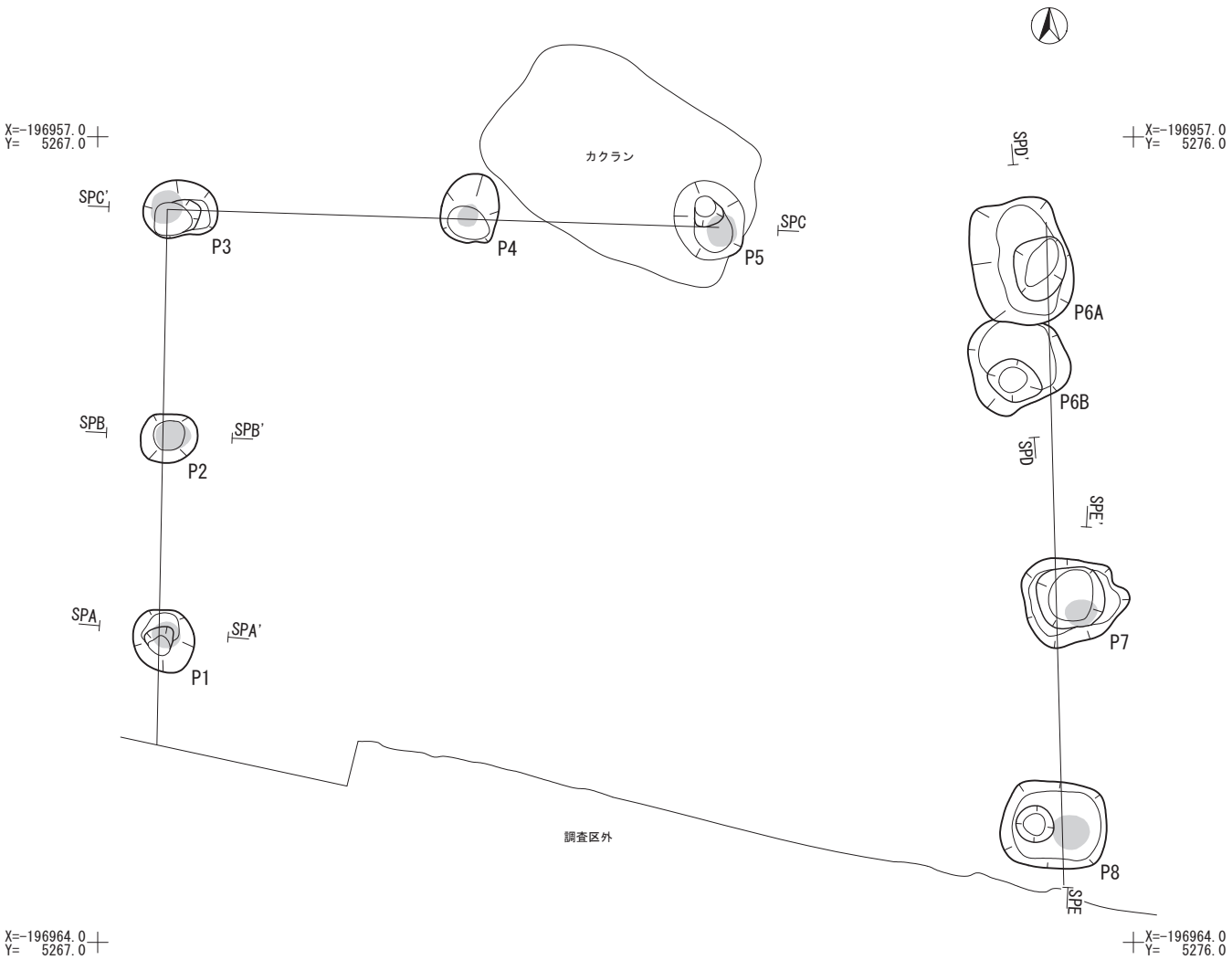
本遺構は、東西・南北2間の「L」字状配置と南北2間の直線配置の組み合わせをもとに一つの遺構としたものである。全体としては「コ」字状配置を呈する。全体として、柱間や柱筋は若干ずれているものの、掘立柱建物跡となる可能性もある。「L」字状配置の規模は、柱痕跡及び柱穴の心々間距離を目安に求めると、東西現存長360cm、南北480cmを測る。一方、直線配置の南北列は480cmを測り、さらに南側へ続くと思われる。西側列(P1～P3)より主軸方位を求めると、N-1°-Eである。

「L」字状配置の柱間寸法は、西側列のP1-P2間が165cm、P2-P3間が195cm、北側列のP3-P4間が270cm、P4-P5間が210cmを測る。直線配置の南北列では、P6A-P7間が300cm、P7-P8間が180cmを測る。

柱掘り方の平面形は、「L」字状配置のものは概ね円形もしくは楕円形を呈する。直線配置の南北列のものは概ね隅丸方形を基本形としている。規模は、「L」字状配置のものは長軸49～71cm、短軸42～60cm、深さ51～76cm

SA1柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土色		土性	備考	重複(旧→新)
P1	21	円形	58 × 53	76	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	φ3㎜の炭化物を少量、φ2cmの2.5Y7/1灰白色粘土塊を少量含む。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	5YR4/6赤褐色酸化鉄を微量含む。	
P2	20	円形	49 × 42	51	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	SI4→SA1P2
					2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ3cmの2.5Y7/8黄色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ5～10㎜の炭化物をやや多く含む。	
					4	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	5YR4/6赤褐色酸化鉄を微量含む。	
P3	20	楕円形	65 × 50	73	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ3cmの2.5Y7/8黄色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ5～10㎜の炭化物をやや多く含む。	
					4	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/3にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
P4	20	楕円形	61 × 49	68	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	φ2～3cmの2.5Y5/6黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2灰黄色粘土塊を少量含む。	
P5	20	隅丸長方形	71 × 60	59	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	φ5～10㎜の炭化物をやや多く含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2灰黄色粘土塊を少量含む。	
					4	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	5YR4/6赤褐色酸化鉄を微量含む。	
P6A	20・27	隅丸方形	110 × 86	90	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2灰黄色粘土塊を少量含む。	
					2	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1cm前後の2.5Y5/6黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2灰黄色粘土塊を少量含む。	
					4	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	φ3㎜の炭化物を少量、φ2cmの2.5Y7/1灰白色粘土塊を少量含む。	
					5	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量含む。	
					6	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	5YR4/6赤褐色酸化鉄を微量含む。	
P6B	20・27	隅丸方形	85 × 80	56	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の粘土塊を多く含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/2灰黄色粘土塊を少量含む。	
					3	2.5Y6/2	灰黄色	粘土	2.5Y6/2灰黄色粘土塊主体で構成され、φ5～8㎜の炭化物を微量含む。	
					4	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	5YR4/6赤褐色酸化鉄を微量含む。	
P7	20・27	隅丸長方形	91 × 78	53	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の粘土塊を多く含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ5～8㎜の炭化物を微量、2.5Y6/2灰黄褐色粘土塊を少量含む。	
					4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y6/2灰黄褐色粘土塊を微量含む。	
P8	21・28	隅丸長方形	92 × 75	40	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を微量、2.5Y6/2灰黄褐色粘土塊を少量含む。柱痕跡。	
					4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の粘土塊を多く含む。	
					5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ5～8㎜の炭化物を微量、2.5Y6/2灰黄褐色粘土塊を少量含む。	
					6	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y6/2灰黄褐色粘土塊を微量含む。	



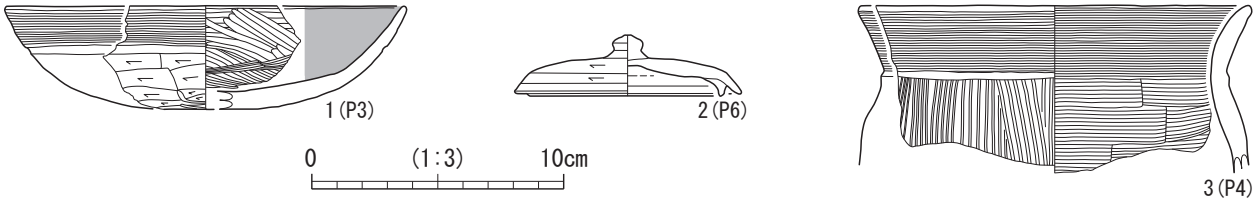
第１２０図　Ⅳ区ＳＡ１柱穴列

を測る。一方、直線配置の南北列のものは長軸85 ～ 110cm、短軸75 ～ 86cm、深さ40 ～ 90cmを測り、後者が相対的に大きい。各柱穴内からは柱痕跡や柱のあたりを示す窪みが掘り方底面で確認されている。

本遺構(「コ」字状配置)の内側にSB1掘立柱建物跡が収まっているが、前項で述べたように、両者は検出面が異なるため関連性はない。

[出土遺物] 本遺構からは、少量の土師器・須恵器の破片が出土した。そのうち図示可能な土師器2点(1・3)と、須恵器1点(2)の計3点を掲載した(第121図)。出土位置は、1の土師器坏がP3内、2の須恵器蓋がP6内、3の土師器甕がP4内の出土である。

1の土師器坏は、平底ぎみの底部から緩やかに立ち上がり口縁部へ至る。口縁部との境には凹線状の稜が認められる。外面調整は、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は横位・斜位のヘラミガキと黒色処理が施され、一部にヘラナデの痕跡が残る。復元口径15.8cm、器高4.1cm。2の須恵器蓋は小型の器形で、内面に返りを有する。天井部は扁平で、擬宝珠状の摘みが付く。内面の返りは短く、下端が口縁部よりわずかに出る。天井部外面は回転ヘラケズリ調整される。復元口径9.0cm、器高2.4cm。3の土師器甕は小型の器形で、口縁部の外反は弱い。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面が縦位のハケメ、内面は横位のヘラナデである。復元口径15.4cm。

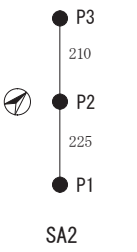


図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-063	Ⅳ区	SA1P3	堆積土	土師器	坏	口縁～底部1/5 強	(15.8)	－	(4.1)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部～底部ヘラミガキ →黒色処理		37
2	E-026	Ⅳ区	SA1P6	掘り方	須恵器	蓋	口縁～天井1/4	(9.0)	－	2.4	口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ →摘み貼付（径 1.2cm）→周縁ナデ	口縁部～天井部ロクロナデ 返り径 7.6cm		37
3	C-064	Ⅳ区	SA1P4	掘り方	土師器	甕	口縁～胴部上半 1/4	(15.4)	－	(6.6)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		37

第121図　Ⅳ区SA1柱穴列出土遺物

SA2　柱穴列(第122図)

Ⅳ区南側東端寄りの67・68グリッドに位置し、柱穴列の北端は河川により浸食された可能性が高い。新旧関係ではSM3 ～ 10よりも古い。本遺構は柱穴3基の並びをもとに設定した。正方位に対して北西方向に振れ、主軸方位はN-45°-Wである。また、SB4掘立柱建物跡とはほぼ同じ主軸方位である。



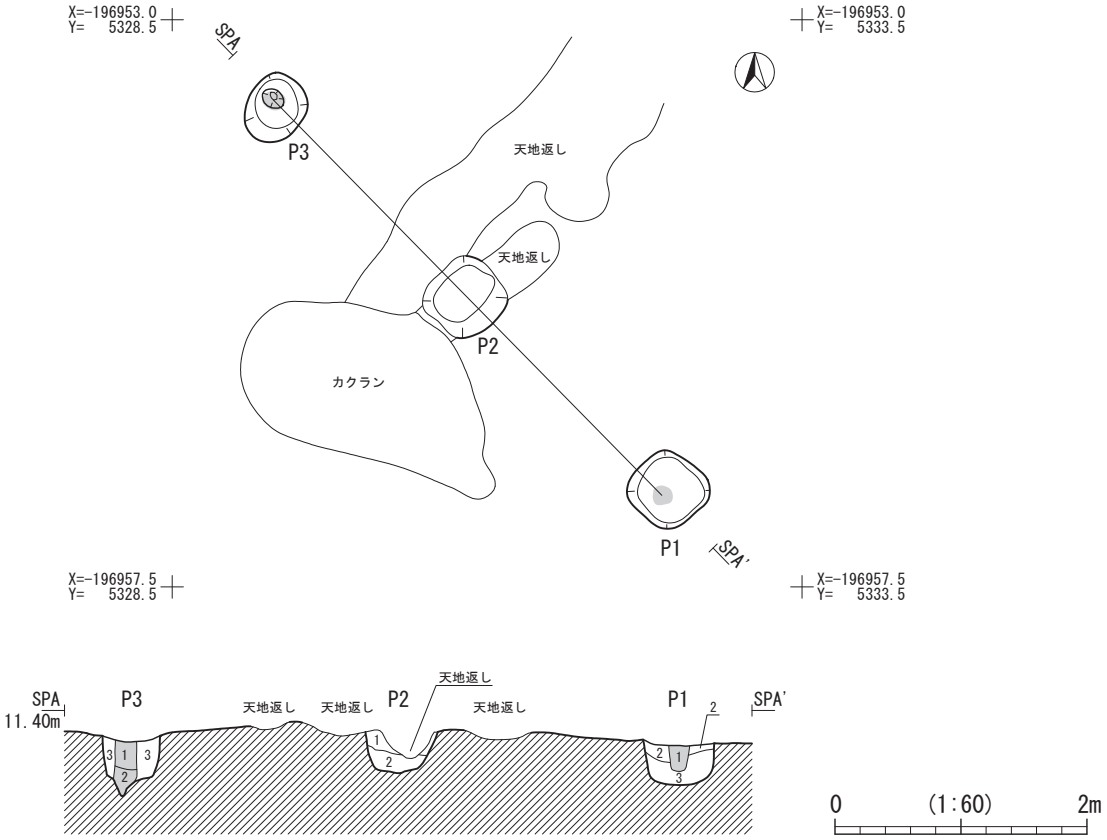
柱痕跡及び柱穴の心々間距離を目安に長さを求めると435cmを測る。柱間寸法はP1-P2間が225cm、P2-P3間が210cmを測る。

柱掘り方の平面形は、隅丸方形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸55 ～ 57cm、短軸45 ～ 57cm、深さ31 ～ 62cmを測り、ほぼ同じ大きさである。P1・P3内では柱痕跡が確認されている。

[出土遺物] 本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したのみで、掲載できる遺物はなかった。

SA2柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	68	隅丸方形	57 × 57	62	1	10YR4/4	褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR4/4	褐色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、層下端に 5Y6/1 灰色粘土を含む。	
					3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 10mmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
P2	67・68	隅丸方形	57 × 56	31	1	10YR4/4	褐色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、層下端に 5Y6/1 灰色粘土を含む。	
					2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 10mmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
P3	67	楕円形	55 × 45	48	1	10YR4/4	褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	10YR4/4	褐色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、層下端に 5Y6/1 灰色粘土を含む。柱痕跡。	
					3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	φ5 ～ 10mmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	



第122図　Ⅳ区ＳＡ２柱穴列

SA4　柱穴列(第123図)

Ⅳ区南側東端寄りの68 ～ 70グリッドに位置し、北側は河川により浸食された可能性が高く、南側は調査区外へ伸びると考えられる。本遺構は柱穴10基の並びをもとに設定したが、柱の通りは悪い。西側約24ｍの位置にはSA3材木列があり、ほぼ真北方向を向いて南北に伸びる点では共通しており、本遺構も区画施設になる可能性がある。新旧関係では、SM52及びSB2掘立柱建物跡よりも古い。SX6性格不明遺構との新旧関係は不明である。

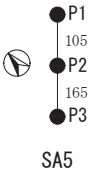
柱穴列の長さは、両端部(P1 ～ P10)の心々間を目安に求めると980cmを測る。主軸方位はN-1°-Eである。柱間寸法は、両端部(P1-P2、P9-P10)は広いが他は比較的密に穿たれている。北端から示すとP1-P2間が180cm、P2-P3間が75cm、P3-P4間が90cm、P4-P5間が75cm P5-P6間が85cm、P6-P7間が75cm、P7-P8間が85cm、P8-P9間が65cm、P9-P10間が250cmである。

柱掘り方の平面形は、円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸31 ～ 92cm、短軸30 ～ 63cmを測り、深さは13 ～ 67cmである。柱痕跡は、10基のうち7基で確認された。

[出土遺物] 本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。

SA5　柱穴列(第124図)

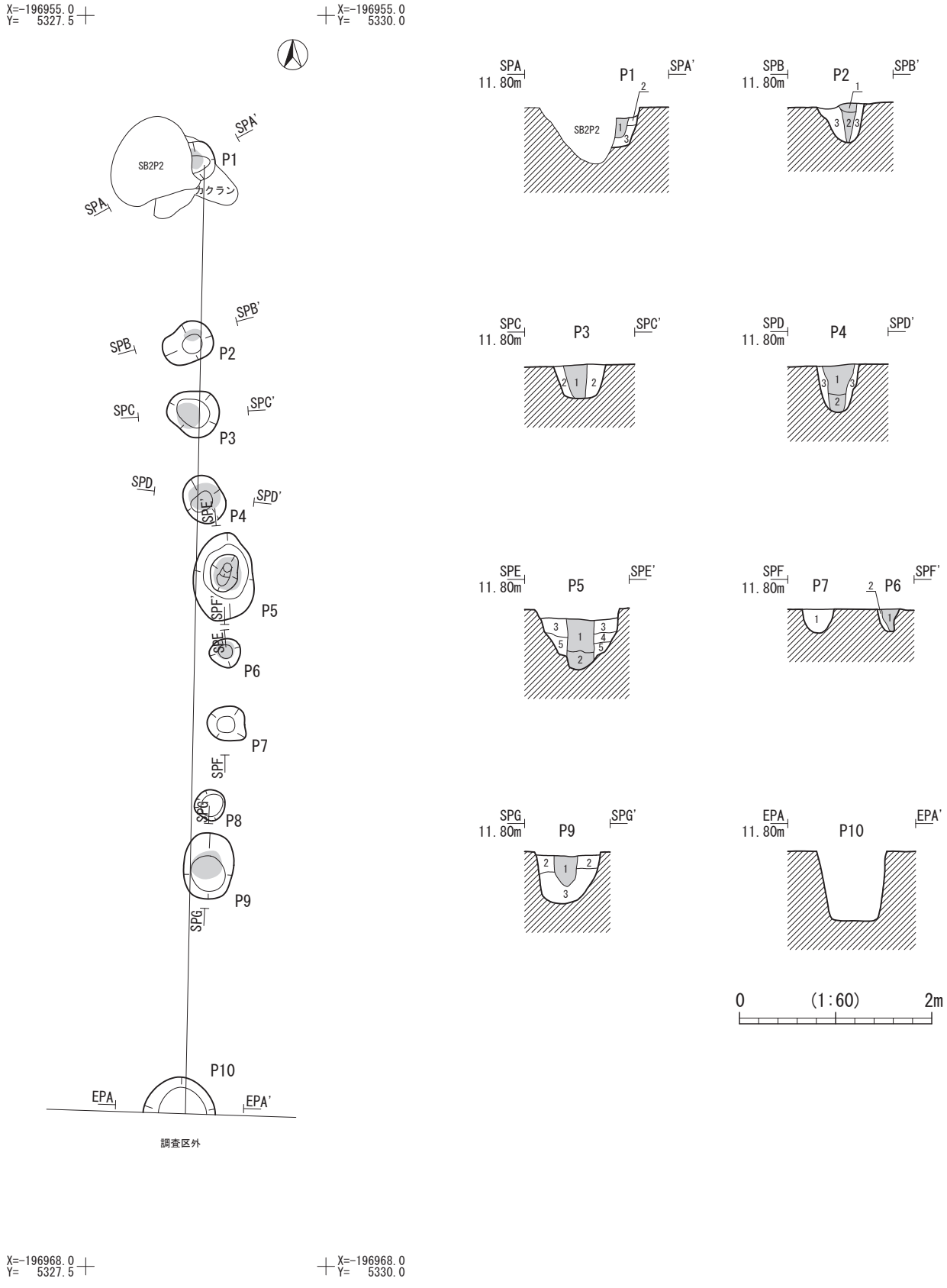
Ⅳ区南側東端寄りの69・70グリッドに位置する。南側は調査区外へ伸びる可能性がある。本遺構は柱穴3基の並びをもとに設定したが、規模はそれぞれ異なっている。遺構間の新旧関係では、SI7よりも新しい。正方位に対して北東方向に振れ、主軸方位はN-42°-Eである。



柱痕跡及び柱穴の心々間距離を目安に長さを求めると、現存長は270cmを測る。柱間寸法は、P1-P2間が105cm、P2-P3間が165cmを測る。

柱掘り方の平面形は、円形もしくは隅丸方形を呈する。規模は長軸39 ～ 112cm、短軸33 ～ 78cmを測り、深さは22 ～ 61cmである。柱痕跡はP1で確認されている。

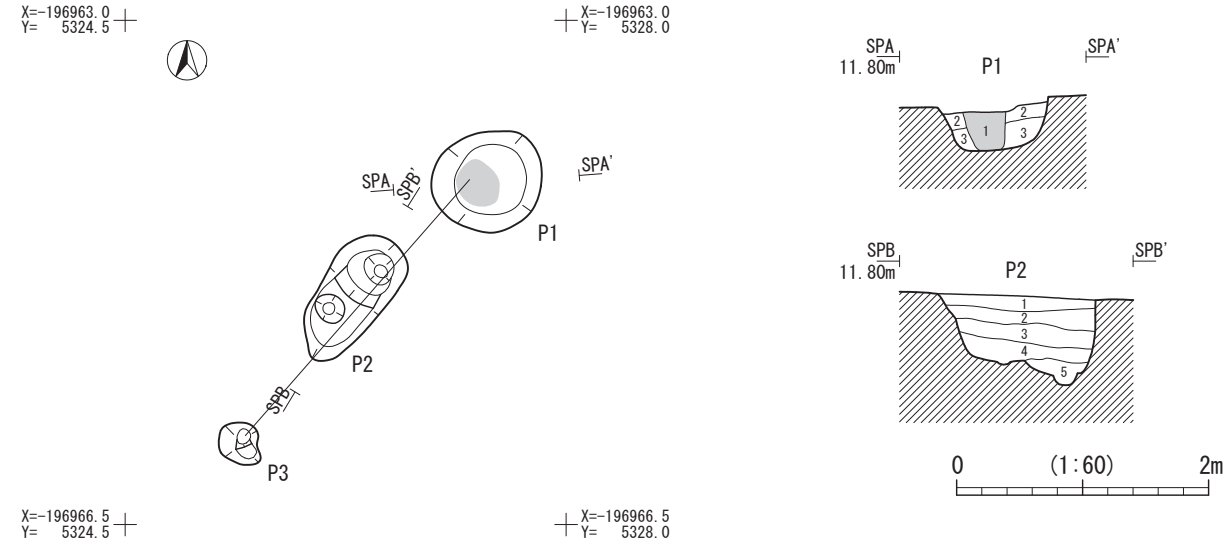
[出土遺物] 本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。



第１２３図　Ⅳ区ＳＡ４柱穴列

SA４柱穴列　観察表

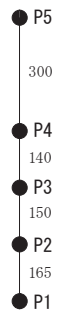
遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
P1	68	（円形）	－× 41	42	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。	SA4P1 → SB2P2
					2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
P2	68	楕円形	54 × 41	49	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	2.5Y6/2 灰黄色シルトを少量含む。	
P3	68	円形	54 × 49	39	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	1 層類似土を斑紋状にやや多く含む。	
P4	68・69	円形	51 × 40	52	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y3/1 黒褐色シルト塊を少量含む。	
P5	69	楕円形	92 × 63	67	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
					4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
					5	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 8cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
P6	69	円形	32 × 30	19	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/1 黒褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。	
P7	69	円形	43 × 38	25	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/1 黒褐色シルト塊を微量含む。	
P8	69	円形	31 × 31	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SI8→SA4P8
P9	69	隅丸長方形	69 × 52	52	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
					3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
P10	69	（円形）	（75） ×－	72	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	



SA５柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
P1	69	円形	89 × 78	39	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SI7→SA5P1
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
P2	69・70	隅丸方形	112 × 55	61	1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。	
					2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。	
					3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SI7→SA5P2
					4	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ5 ～ 8㎜の炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
					5	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘着シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。	
P3	70	円形	39 × 33	22	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。	

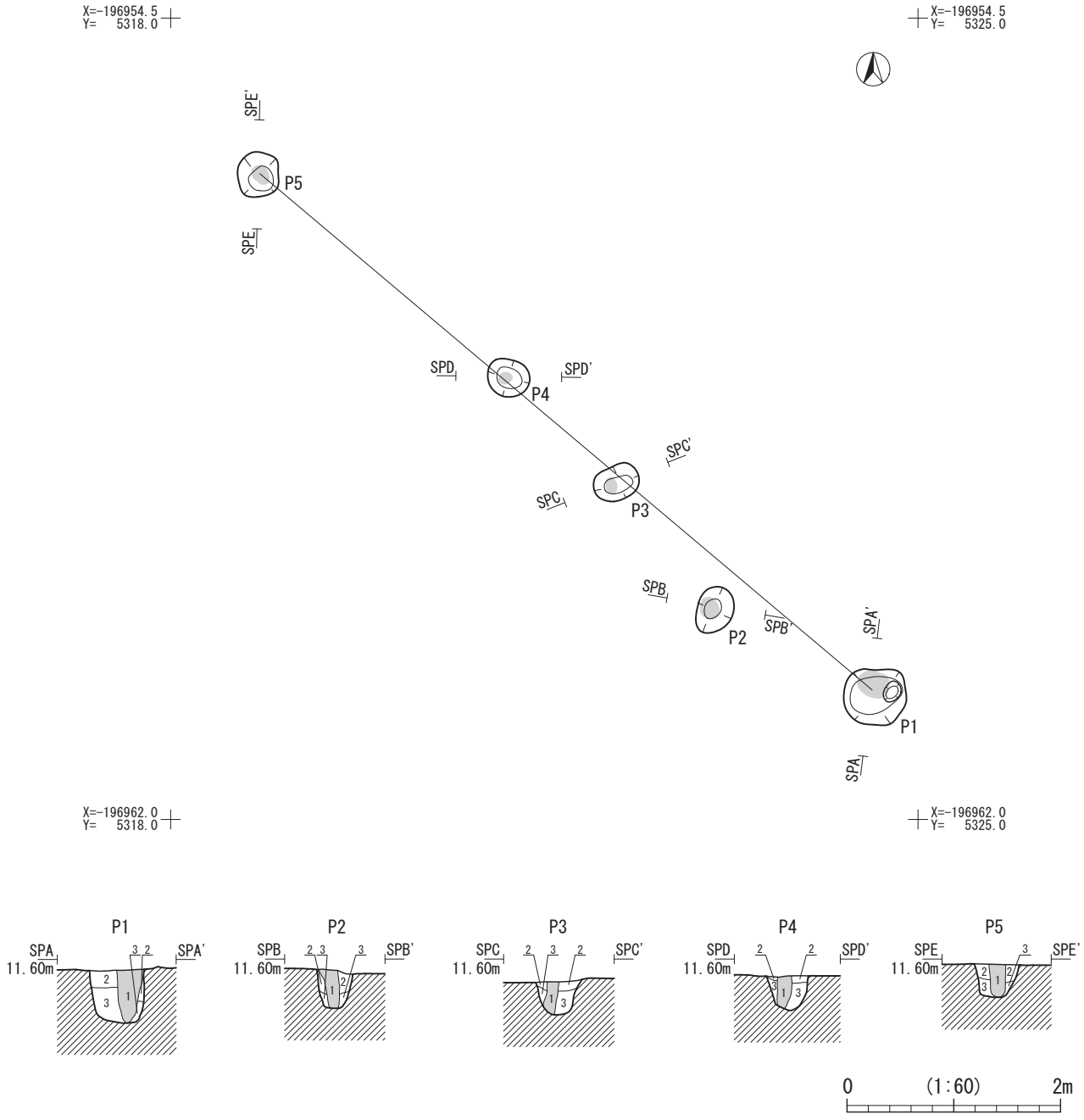
第１２４図　Ⅳ区ＳＡ５柱穴列



SA６　柱穴列（第125図）

Ⅳ区南側東端寄りの61・62グリッドに位置する。本遺構は柱穴５基の並びをもとに設定したが、柱の通りはよくない。新旧関係では、SM59・60よりも古く、SX2性格不明遺構よりも新しい。正方位に対して北西方向に振れ、主軸方位はN-51°-Eである。

柱穴列の長さは、柱痕跡及び柱穴の心々間距離を目安にすると755cmを測る。柱間寸法は、P1-P2間が165cm、P2-P3間が150cm、P3-P4間が140cm、P4-P5間が300cmを測る。



SA6柱穴列　観察表

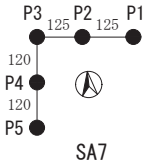
遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
P1	61	円形	44 × 42	32	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。	
P2	61	円形	39 × 35	36	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性をやや欠く。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。	
P3	61	楕円形	44 × 32	34	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	SX2→Pit214
					3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ1㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
P4	61・62	円形	46 × 34	45	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	締まりと粘性をやや欠く。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊をやや多く含む。	
					3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。	
P5	62	円形	59 × 52	65	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物、φ1㎝前後の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルトを微量含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	

第125図　Ⅳ区ＳＡ6柱穴列

柱掘り方の平面形は、概ね円形ないしは楕円形を呈する。規模は長軸39～59cm、短軸32～52cmを測り、深さは32～65cmである。柱痕跡はすべての柱穴で確認された。

[出土遺物] 本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。

SA7　柱穴列(第126図)



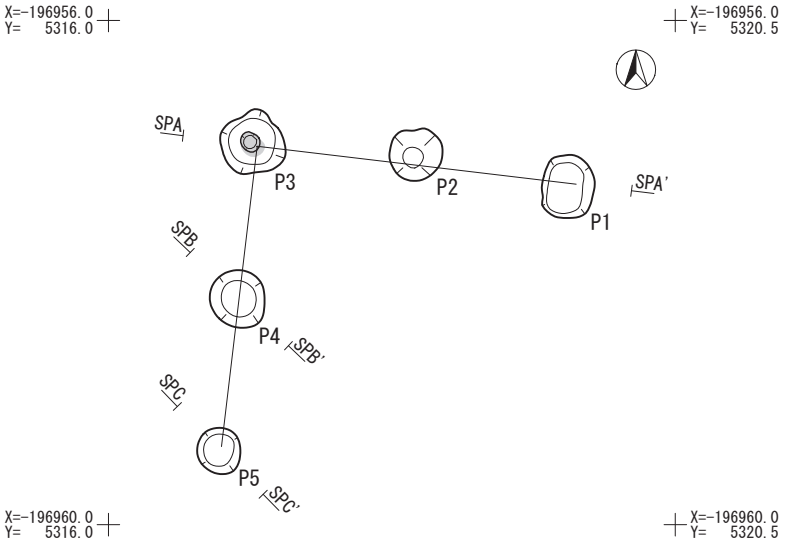
Ⅳ区南側東寄りの61グリッドに位置し、本遺構は東西・南北2間の「L」字状配置の並びをもとに設定した。新旧関係では、SM64・65よりも古く、SI8よりも新しい。残存状態は比較的良好である。

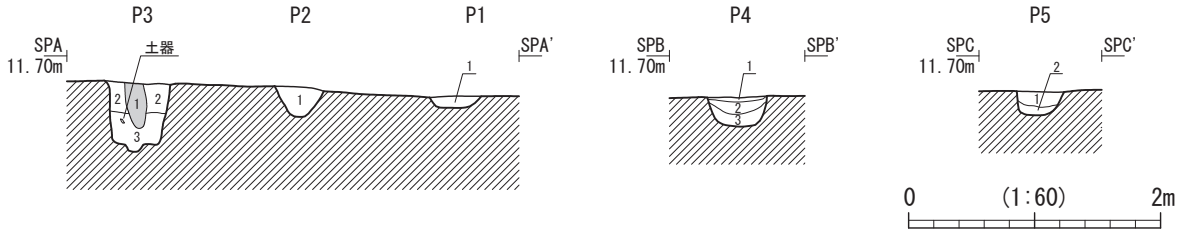
「L」字状配置の規模は、柱痕跡及び柱穴の心々間距離を目安に求めると、西側列が360cm、北側列が250cmを測る。西側での主軸方位はN-7°-Eである。

柱間寸法は、北側列(P1-P2-P3)では125cm等間、西側列(P3-P4-P5)では120cm等間である。

柱掘り方の平面形は、円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸38～54cm、短軸35～44cmを測り、深さは9～55cmを測る。P3では、柱痕跡が確認されている。

[出土遺物] 本遺構からは、土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。





SA7柱穴列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
P1	61	楕円形	51×41	9	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2～3cmの2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
P2	61	円形	43×42	26	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2～3cmの2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
P3	61	円形	54×53	55	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	締まり弱い。柱痕跡。	
					2	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ3～5cmの2.5Y7/4浅黄色シルト塊をやや多く含む。	
					3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1～2cmの2.5Y7/4浅黄色シルト塊を少量含む。	
P4	61	円形	48×44	25	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3～5mmの炭化物を微量含む。	
					2	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	炭化物主体。φ5～10mmの焼土塊を少量含む。	
					3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ3～5mmの炭化物を微量、φ1cm程の焼土を微量含む。	
P5	61	円形	38×35	19	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	炭化物主体。φ5～10mmの焼土塊を少量含む。	
					2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ3～5mmの炭化物を微量、φ1cm程の焼土を微量含む。	

第126図　Ⅳ区SA7柱穴列

(4)材木列(第127・128図)

Ⅳ区の調査では古代の材木列が1条(SA3)確認された。検出位置はⅣ区のほぼ中央付近で、南北方向に配され、南端部は調査区外へ伸び、北端部は河川によって浸食されている。主要遺構との重複関係では、SI13よりも古く、Ⅵ層上面で検出された窪地状地形2よりも新しい。確認時の状況は、幅50cm前後の直線的な溝状の遺構であったが、土層観察用のベルトを設けて掘り下げた結果、溝内より柱痕跡が48基確認されたことから材木列として捉えた。

SA3　材木列(第127・128図)

Ⅳ区南側中央付近の39 ～ 43・51 ～ 55グリッドに位置する。南端部は調査区外へ伸びており、北端部は河川により浸食されている。河川に浸食された北端付近では、掘り方の幅が広くなっており、西側に屈曲するようにもみられる。主軸方位はN-1°-Eである。

規模は南北現存長16.50m、掘り方規模は、上端幅で35 ～ 56cm、下端幅で10 ～ 30cmを測り、深さは40 ～ 62cmである。掘り方底面の標高値は、北端部で10.90m、中央付近で10.80m、南端部で10.70mを測り、南側よりも北側の方が20cmほど低い。断面形は概ね逆台形を呈する。内部には計48基の柱痕跡が確認された。柱痕跡の間隔には密な部分と疎な部分がある。柱痕跡の平面形は、円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸15 ～ 25cm程度のものが多い。検出面からの深さは3 ～ 48cmを測る。

[出土遺物]本遺構からは土師器の小破片がわずかに出土したが、掲載できる遺物はなかった。

(5)土坑(第129・130図)

Ⅳa層上面より土坑が6基(SK4 ～ SK7・SK9・SK10)検出された。土坑の分布は、Ⅳ区の西側に3基(SK4 ～ SK6)と、東側に3基(SK7・SK9・SK10)である。規模と平面形は、それぞれ異なっている。なお、SK8は欠番、SK1 ～ SK3は中世以降の遺構として扱っている。

他遺構との重複関係は3例あり、新旧関係では、窪地状地形1よりもSK4が新しく、SI15よりもSK10が新しい。また、SK10はSI8よりも古く、SK7はSI6･SI16よりも新しい。土坑間の新旧関係では、SK6よりもSK5が新しい。以下、各土坑より説明を加える。

SK4　土坑(第129・130図)

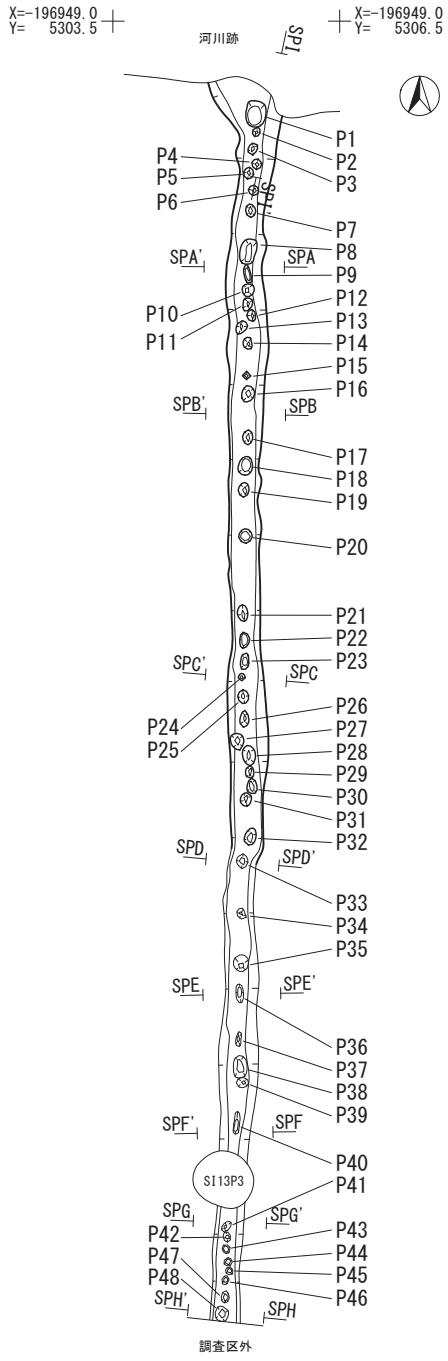
Ⅳ区西側の19グリッドに位置し、遺構の上面は削平を受けている。平面形は概ね楕円形を呈し、検出された規模は長軸115cm、短軸95cm、検出面からの深さは33cmを測る。底面は皿状を呈し、壁は外傾ぎみに立ち上がっている。堆積土は2層に分層され、灰黄褐色シルトを主体とする。

[出土遺物]土坑内からは、土師器及び瓦の破片が少量出土した。図示し得た遺物は、土師器坏(2)と甕(1)、それに平瓦(3)である(第130図)。1は口縁部に最大径をもつ甕で、口縁部は短く外傾し、胴部下半に向かって窄まる。器面調整は内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデである。復元口径23.2cm、残存高13.3cm。2は底の浅い坏で、口縁部は外傾ぎみに立ち上がり、底部との境界に稜を有する。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。復元口径12.8cm、残存高3.2cm。3は平瓦の破片で、凹面には糸切り痕、枠板圧痕、布目痕が残り、凸面には斜格子状の叩きが全面に加えられる。側縁及び狭端面には分割裁線が残る。

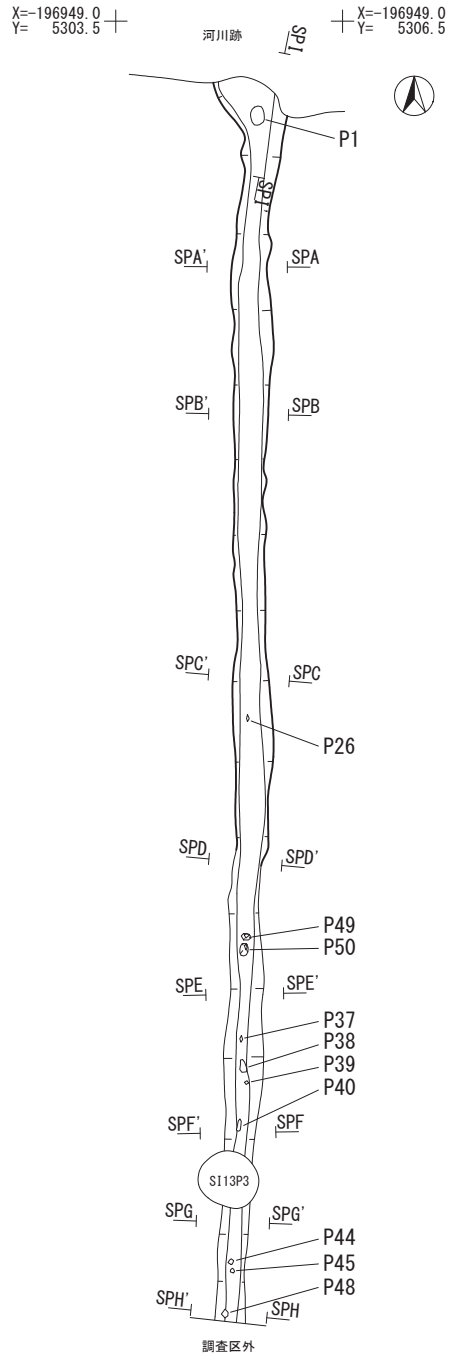
SK5　土坑(第129・130図)

Ⅳ区西側の13グリッドに位置し、遺構の上面は削平を受けている。新旧関係ではSK6よりも新しい。平面形は概ね楕円形を呈し、検出された規模は、長軸123cm、短軸84cmを測り、検出面からの深さは29cmである。底面は皿状を呈し、壁は外傾ぎみに立ち上がる。堆積土は2層に分層され、オリーブ褐色シルトを主体とする。

[出土遺物]土坑の堆積土中からは須恵器甕の底部(4)が出土した(第130図)。残存部の胴部下端及び底部外面には格子叩きが加えられている。底径7.7cm。

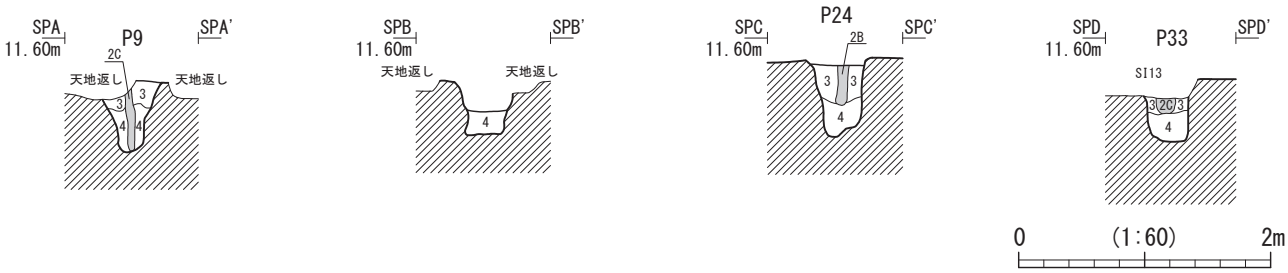


柱痕跡

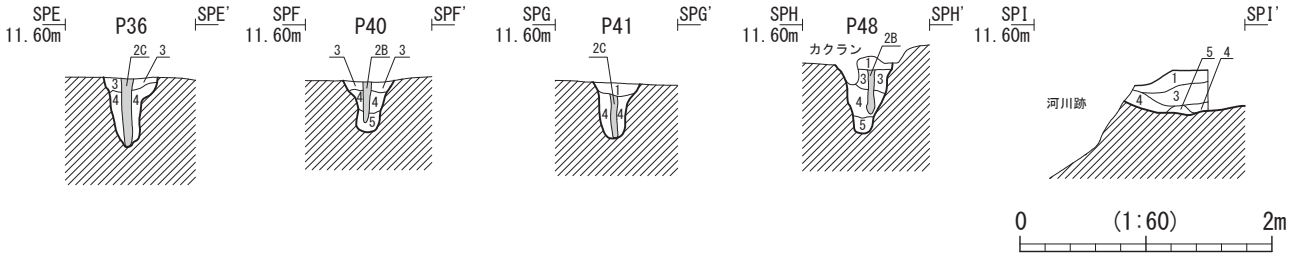


掘り方

0 (1:100) 5m



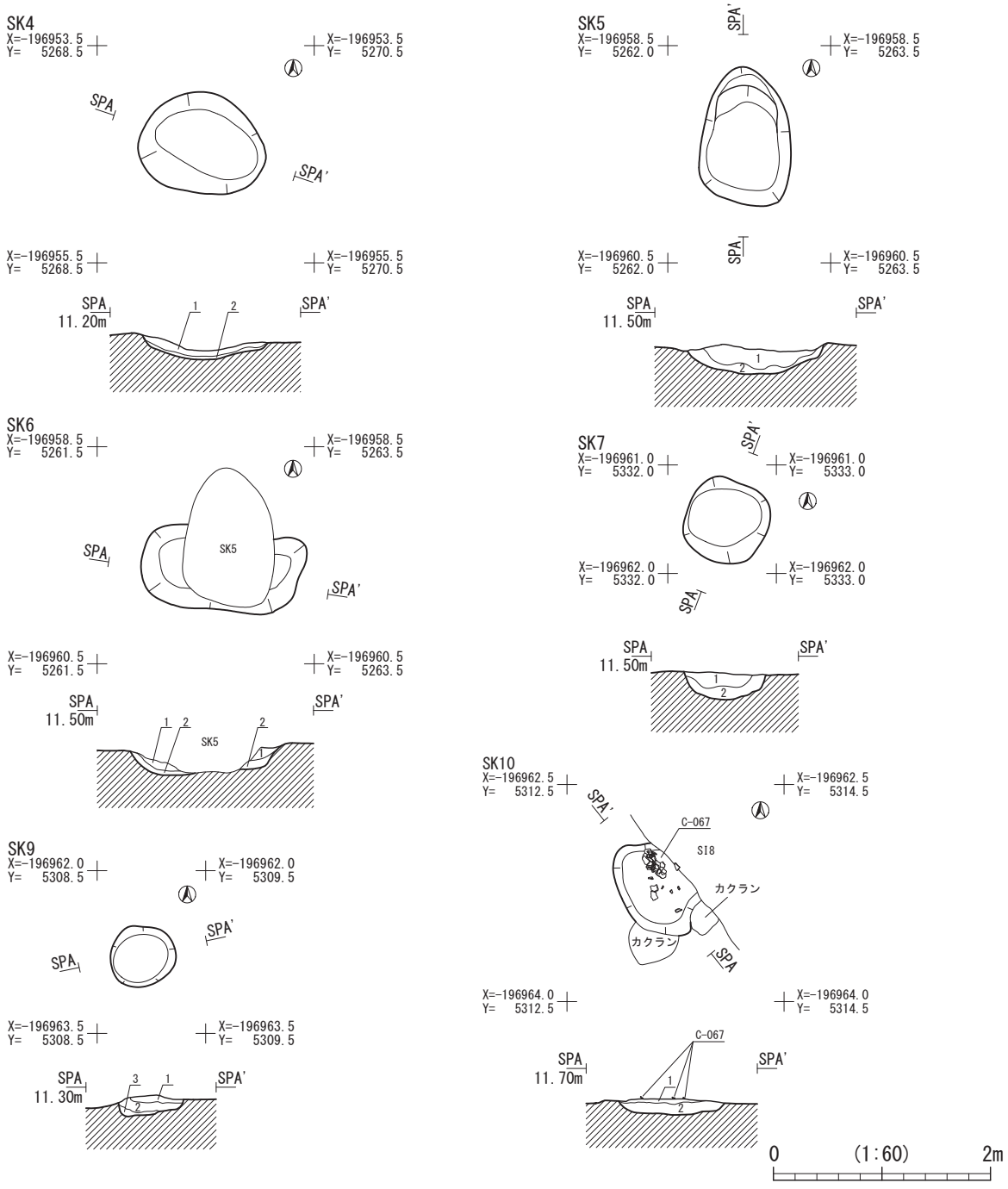
第127図　Ⅳ区ＳＡ３材木列（1）



SA３材木列　観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
			長軸×短軸	深さ						
SA3	39 ～ 43 51 ～ 55	溝状	1649 × 56	62	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡を覆う堆積土。	SA3→Pit262 →SI13
					2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
					2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
					2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
					3	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	10YR3/1 黒褐色粘土質シルト塊を少量、φ1cmの 2.5Y8/4 淡黄色シルト塊をやや多く含む。掘り方埋土。	
					4	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト塊を少量含む。掘り方埋土。	
					5	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト塊をやや多く含む。掘り方埋土。	
P1	52	隅丸長方形	35 × 26	28	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P2	52	楕円形	13 × 10	10	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P3	52	楕円形	21 × 11	6	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P4	52	略円形	14 × 13	8	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P5	52	楕円形	16 × 13	7	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P6	52	円形	14 × 14	5	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P7	52	楕円形	18 × 13	7	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P8	52	隅丸長方形	33 × 21	23	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P9	52	楕円形	24 × 9	48	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P10	52	円形	17 × 16	15	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P11	52	楕円形	18 × 13	18	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P12	52	楕円形	16 × 12	15	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P13	52	楕円形	19 × 14	12	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P14	52	楕円形	16 × 12	8	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P15	52	円形	11 × 11	6	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P16	52	楕円形	22 × 16	10	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P17	52	楕円形	20 × 14	4	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P18	52	楕円形	25 × 19	3	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P19	53	楕円形	20 × 14	4	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P20	53	円形	19 × 18	5	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P21	53	楕円形	22 × 14	11	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P22	53	楕円形	21 × 13	13	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P23	53	不整楕円形	22 × 11	14	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P24	53	円形	10 × 9	24	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P25	53	楕円形	18 × 15	35	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P26	53	楕円形	22 × 12	11	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P27	53	楕円形	23 × 17	16	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P28	53	楕円形	27 × 17	28	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P29	53	楕円形	17 × 11	7	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P30	53	楕円形	20 × 13	3	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P31	53	楕円形	18 × 15	3	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P32	53	楕円形	23 × 15	4	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P33	54	楕円形	19 × 15	9	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P34	54	不整楕円形	15 × 10	16	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P35	54	円形	21 × 20	25	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P36	54	楕円形	25 × 10	36	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P37	54	楕円形	20 × 8	21	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P38	54	隅丸長方形	29 × 18	23	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P39	54	円形	16 × 13	20	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P40	54	楕円形	30 × 8	28	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P41	42・54	楕円形	16 × 9	30	2C	10YR3/1	黒褐色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。柱痕跡。	
P42	43・55	楕円形	14 × 9	11	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P43	43・55	円形	12 × 10	12	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P44	43・55	円形	11 × 10	12	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P45	43・55	円形	10 × 10	9	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	
P46	43・55	楕円形	12 × 9	10	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P47	43・55	楕円形	16 × 10	10	2A	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を微量含む。柱痕跡。	
P48	43・55	円形	20 × 17	34	2B	10YR4/1	褐灰色	シルト	2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。柱痕跡。	

第１２８図　Ⅳ区ＳＡ３材木列（２）



SK４～10土坑　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
SK4	Ⅳ区	19	楕円形	115 × 95	33	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	締まりが強く、粘性を有する。	
						2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	φ3～5㎜の炭化物をやや多く含む。	
SK5	Ⅳ区	13	楕円形	123 × 84	29	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y5/6 黄褐色シルト塊と 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊の混土層。	SK6 → SK5
						2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	φ2～3㎜の炭化物を少量含む。	
SK6	Ⅳ区	13・14	隅丸長方形	144 × 76	26	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1～3㎜の炭化物を微量含む。	SK6 → SK5
						2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
SK7	Ⅳ区	69	円形	74 × 74	43	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ3～5㎜の炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SI16 →
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1～3㎝の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SI6 → SK7
SK8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	欠番	
SK9	Ⅳ区	54	円形	61 × 57	15	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ0.5～1㎝の炭化物を少量含む。	
						2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ0.5～2㎝の焼土を少量、φ1～8㎝の炭化物をやや多く含む。	
						3	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	焼土及び炭化物を微量含む。	
SK10	Ⅳ区	54	不整楕円形	100 × －	13	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	2.5Y6/2 灰黄色シルト塊を少量含む。上面から土器片が多く出土。	SI15 →
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1～2㎝の 2.5Y3/ 1 黒褐色粘土質シルト塊を微量含む。	SK10 → SI8

第129図　Ⅳ区土坑（Ⅳa層上面）

SK６　土坑（第129図）

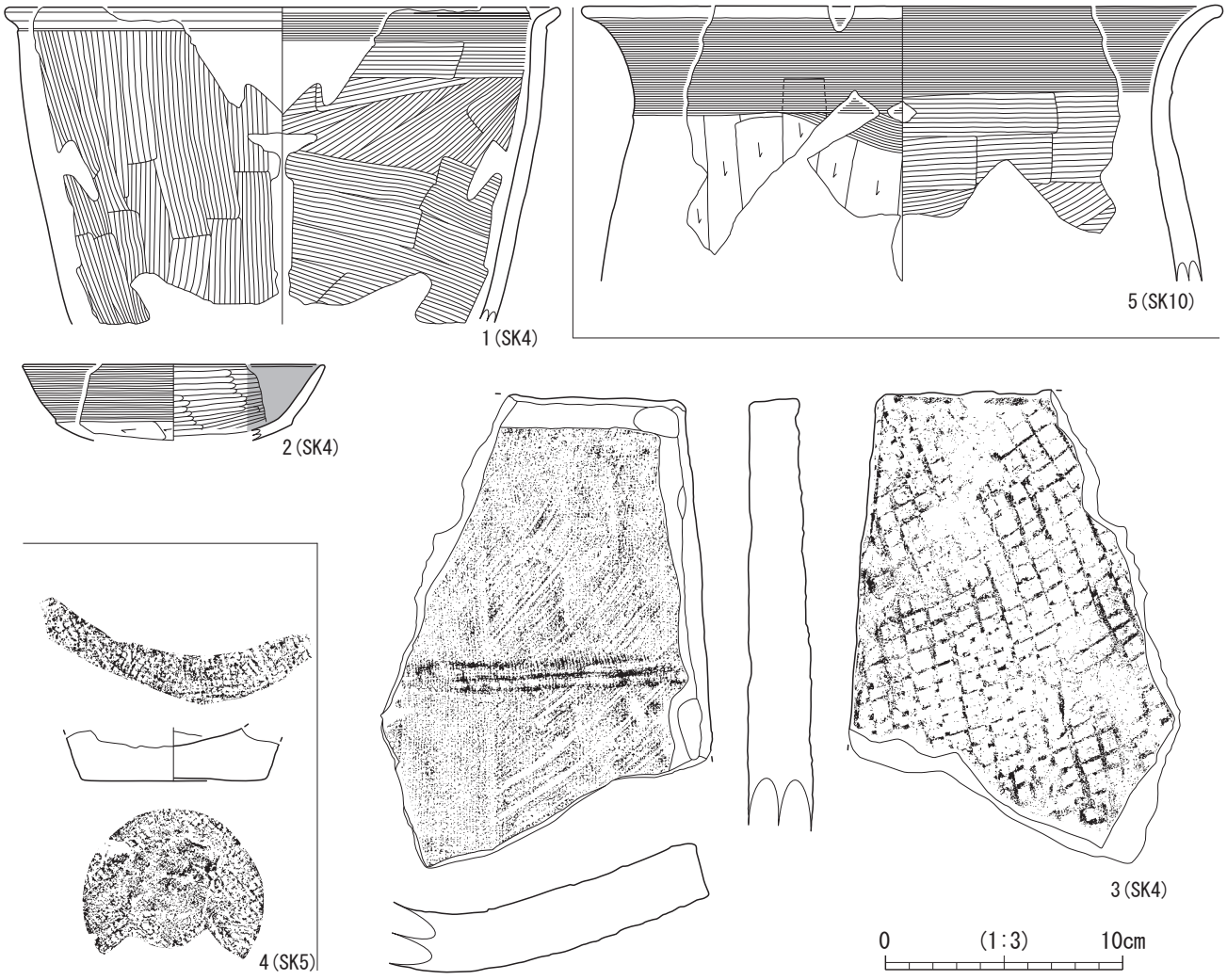
Ⅳ区西側の13・14グリッドに位置する。遺構の中央はSK５との重複により失われている。平面形は隅丸長方形と推定される。検出された規模は、長軸144cm、短軸76cmを測り、検出面からの深さは26cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾ぎみに立ち上がる。堆積土は２層に分層され、上層はにぶい黄褐色シルト、下層は褐色砂質シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SK７　土坑（第129図）

Ⅳ区東側の69グリッドに位置し、遺構の上面は削平を受けている。新旧関係では、SI６・SI16よりも新しい。平面形は円形を呈する。検出された規模は、径74cmを測り、検出面からの深さは43cmである。底面は皿状を呈し、壁は外傾ぎみに立ち上がる。堆積土は２層に分層され、上層は暗オリーブ褐色シルト、下層はオリーブ褐色シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SK９　土坑（第129図）

Ⅳ区東側の54グリッドに位置し、遺構の上面は削平を受けている。遺構間の重複関係は認められない。平面形は円形を呈する。検出された規模は長軸61cm、短軸57cmを測り、検出面からの深さは15cmである。底面は概ね平坦であるが起伏も多少認められる。壁は外傾ぎみに立ち上がる。堆積土は３層に分層され、上層は灰黄褐色シルト、中層は褐灰色シルト、下層は黄褐色粘土質シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。



第１３０図　Ⅳ区土坑出土遺物

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-065	Ⅳ区	SK4	堆積土	土師器	甕	口縁～胴部下半 1/6	(23.2)	−	(13.3)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部横位・斜位ヘラナデ		37
2	C-066	Ⅳ区	SK4	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(12.8)	−	(3.2)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ→黒色処理		37
4	E-027	Ⅳ区	SK5	堆積土	須恵器	甕	底部	−	7.7	(2.2)	胴部下端格子タタキ、底部格子タタキ→一部ナデ	底部ヘラナデ		37
5	C-067	Ⅳ区	SK10	堆積土	土師器	甕	口縁～胴部上半 1/3	(26.8)	−	(17.8)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		37

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			凸面調整	凹面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
3	G-02	Ⅳ区	SK4	堆積土	瓦	平瓦	(18.3)	(13.5)	2.7	斜格子タタキ　分割裁線	糸切り　枠板圧痕　布目 側縁方向ヘラ調整、端縁方向窪み		37

SK10　土坑（第129・130図）

Ⅳ区東側の54グリッドに位置し、遺構の東側はSI8に壊されている。新旧関係では、SI15より新しく、SI8よりも古い。平面形は不整楕円形と推定され、検出された規模は長軸方向で約100cmを測り、検出面からの深さは13cmである。底面は概ね平坦であるが起伏も多少認められる。壁はなだらかに立ち上がる。堆積土は2層に分層され、上層は褐灰色シルト、下層はオリーブ褐色粘土質シルトを主体とする。

[出土遺物] 土坑内からは土師器甕(5)の破片が少量出土した（第130図）。図示し得た資料は、長胴甕の口縁部破片とみられ、口縁部の開きは弱い。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のヘラケズリ、内面口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。復元口径は26.8cm。

(6)性格不明遺構（第131 ～ 135図）

Ⅳa層上面では、Ⅳ区東側で性格不明遺構が9基(SX2 ～ SX8・SX10・SX20)確認されている。これらの遺構の多くは、前述した土坑と規模や形状は概ね近似していたが、以下の点において異なっていたため、土坑とは別の性格不明遺構として扱った。相違点を示すと、明瞭な掘り込みをもたないもの(SX2・SX6・SX10)、底面に起伏が目立つもの(SX3・SX4・SX8)、遺構間の重複により全体が不明瞭なもの(SX5・SX20)等に分けることができる。唯一、大型のSX7については規模が大きい点から竪穴住居跡と同じ記載方法とった。重複例を示すと以下のようになる。SX2とSA6・SB3、SX6とSI7、SX7とSI8・SB3、SX10とSI16である。新旧関係のわかるものは、SX2はSA6よりも古く、SX6はSI7よりも古く、SX7はSI8･SB3よりも古く、SX10はSI16よりも新しい。なお、SX9は欠番、SX1は窪地状地形1、SX18は窪地状地形2、SX13 ～ SX19は炭化物集中に振り分けた。

性格不明遺構から出土した遺物は少ないが、SX3では土師器坏、SX4では土師器甕と須恵器蓋、SX7では礫石器が出土している。以下では遺物が出土したSX3･SX4･SX7について述べる。記載順序はSX7、SX3、SX4とした。他は観察表に記載した。

SX7　性格不明遺構（竪穴状遺構）（第131・132図）

[位置・残存] Ⅳ区南側の61グリッドに位置する。遺構間の重複により失われた部分が多い。

[重複] 新旧関係は、SM62・SI8・SB3・Pit253よりも古い。

[規模・形態] 東西現存長310cm、南北現存長210cmを測り、平面形は概ね楕円形と推定される。

[主軸方位] 長軸方向で主軸方位を求めると、N-85°-Wである。

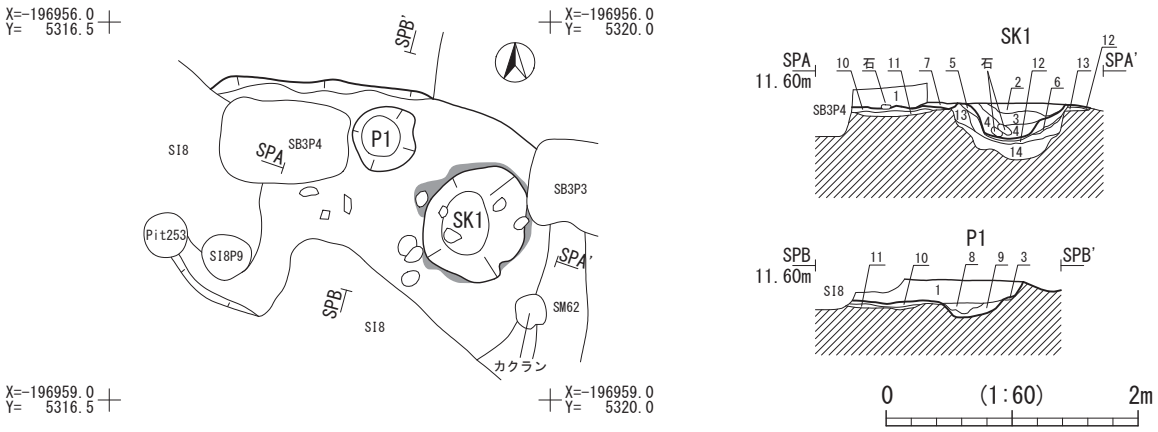
[堆積土] 14層に分層される。1層は床面堆積土、2 ～ 7層はSK1堆積土、8・9層はP1堆積土、10 ～ 12層は掘り方土、13・14層はSK1の掘り方土である。

[壁面] 確認された北壁側では外傾ぎみに立ち上がる。壁高は、北壁側で最大13cm、南壁側では3 ～ 4cmである。

[底面] 残存部分は貼り床構造で、多少起伏がある。壁際よりも中央付近の方がやや窪んでいる。残存部分は良好な硬化面となっている。

[柱穴] 北側の中央部より1基が検出された。平面形は円形を呈し、規模は長軸50cm、短軸45cm、深さ12cmである。

[土坑] 東寄りに1基(SK1)が検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸95cm、短軸80cm、深さ32cmである。



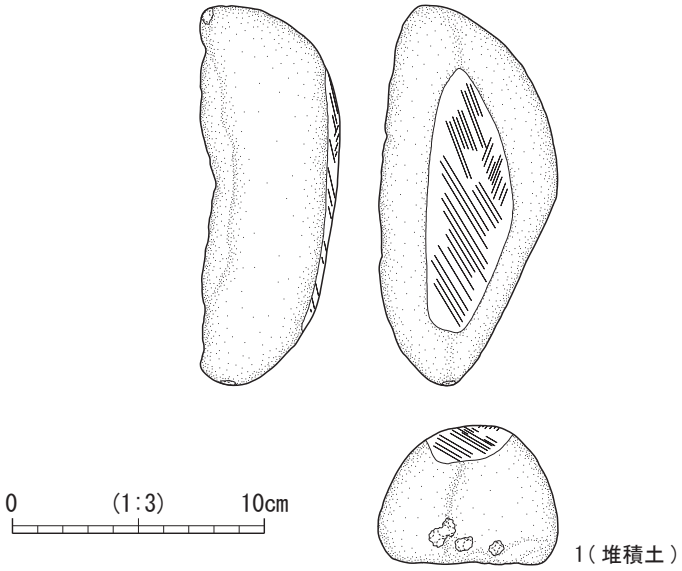
SX7性格不明遺構(竪穴状遺構) 堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SX7	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	SX7 → SX8 → SB3
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物を微量に含む。	
	3	10YR4/1	褐灰色	シルト	炭化物を微量、φ3 ～ 5㎝の 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。	
	4	2.5Y6/3	にぶい黄褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物をやや多く含む。	
	5	10Y2/1	黒色	シルト	φ0.5 ～ 2㎝の炭化物を多量、焼土を少量含む。使用面。	
	6	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物を少量含む。	
	7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物を少量含む。	
	8	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	φ5㎜炭化物を少量、φ3 ～ 5㎝の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。P1 堆積土。	
	9	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ5㎜の炭化物を少量、φ1 ～ 2㎝の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。P1 堆積土。	
	10	2.5Y7/1	灰白色	粘土質シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y8/2 灰白色粘土質シルト塊をやや多く含む。貼り床。	
	11	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、φ5 ～ 10㎜の 2.5Y4 ／ 2 暗灰黄色粘土質シルト塊を少量含む。掘り方。	
	12	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト塊を少量含む。SK1 掘り方。	
	13	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。SK1 掘り方。	
	14	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルトを微量含む。SK1 掘り方。	

SX7 性格不明遺構(竪穴状遺構) 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	円形	50 × 45	12	
SK1	楕円形	95 × 80	32	

第１３１図　Ⅳ区ＳＸ７性格不明遺構(竪穴状遺構)



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
1	Kc-a-04	Ⅳ区	SX7	堆積土	礫石器	磨石	15.1	7.0	5.5	730.0	安山岩	完形　磨１（正）、敲１（下）	38

第１３２図　Ⅳ区ＳＸ７性格不明遺構(竪穴状遺構)出土遺物

土坑の内壁と底面には数cmの黒色炭化物層が残存しており、この直下には赤橙色化した焼土が認められた。

[周溝] 確認されていない。

[掘り方] 貼り床の直下には深さ5～8cmの掘り方が確認された。掘り方面には小さな凹凸が認められた。

[出土遺物] 底面及びSK1内から、10点の川原石と礫石器が1点出土した。これらの表面は被熱により赤化していた。そのうち、図示可能な礫石器1点(1)を掲載した(第132図)。

1は磨石である。断面D形の棒状を呈する自然礫を用いている。使用面は正面の1面である。正面中央の稜線部に面取り状をなす滑らかな磨面がみられ、斜位の擦痕が観察される。下端にはわずかな敲打痕が認められる。石材は粒子が粗い安山岩である。

SX3　性格不明遺構(第133・135図)

Ⅳ区南東側の62グリッドに位置する。新旧関係では、SM60よりも古い。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸108cm、短軸86cmを測り、深さは86cmである。堆積土は4層に分層され、概ね灰黄褐色シルトを主体としている。

[出土遺物] 土師器坏及び甕の破片が少量出土した。そのうち図示可能な土師器坏1点(1)を掲載した(第135図)。

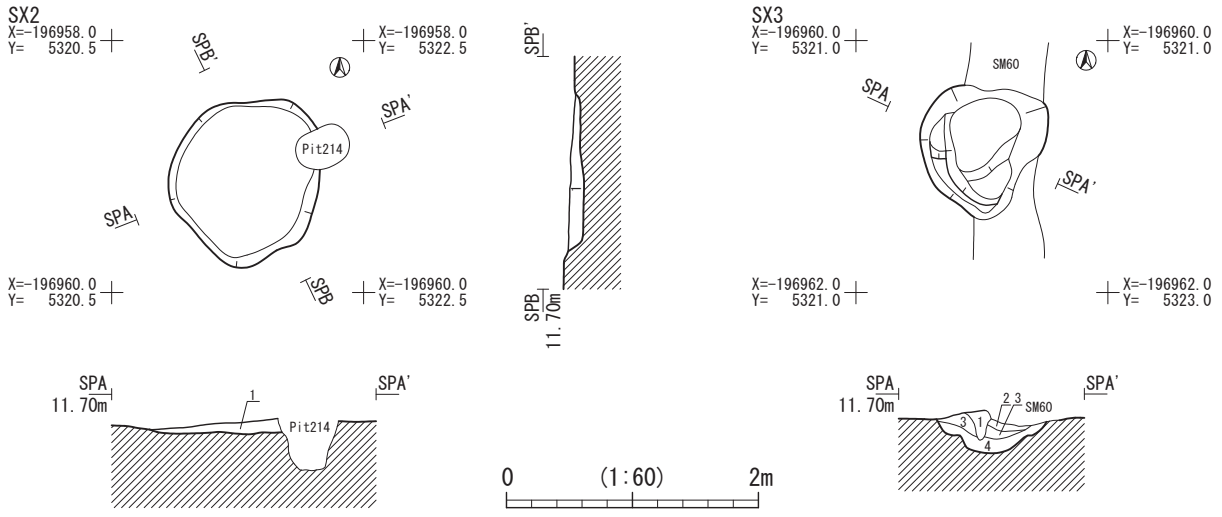
1は丸底の器形で、口縁部は短くやや内傾する。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデである。復元口径11.1cm、器高3.3cm。

SX4　性格不明遺構(第133・135図)

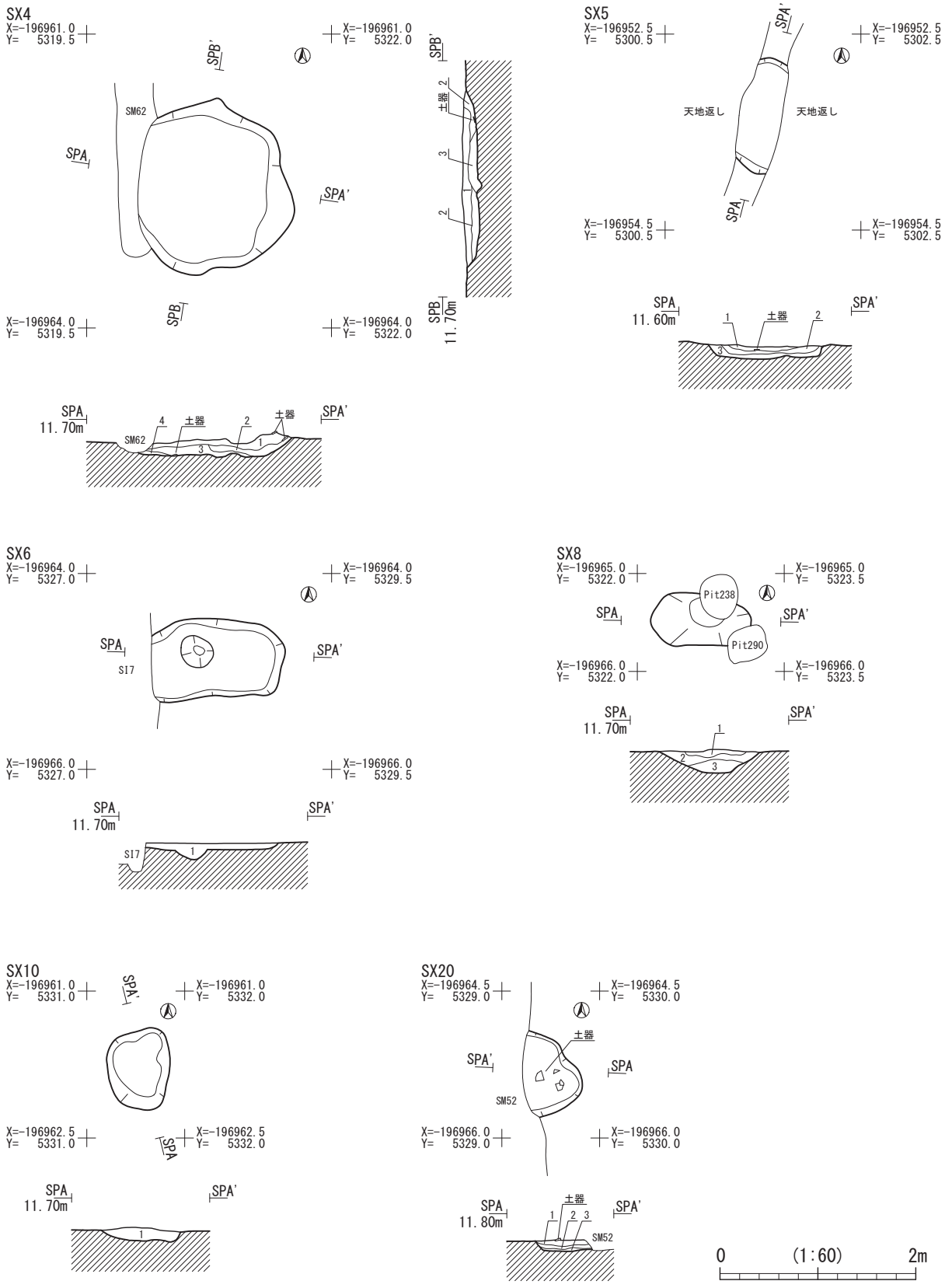
Ⅳ区南東側の62グリッドに位置し、新旧関係ではSM62よりも古い。平面形は概ね隅丸方形で、規模は長軸164cm、短軸約160cmを測り、深さは12cmである。堆積土は4層に分層され、各層に概ね炭化物が含まれている。

[出土遺物] 本遺構からは、平箱で約1/2箱分の遺物が出土した。そのうち、図示可能な須恵器2点(2・3)、土師器2点(4・5)、軽石製品1点(6)の計5点を掲載した(第135図)。いずれも堆積土中より出土の資料である。

2・3は内面に返りを有する須恵器蓋である。2の蓋は丸みある天井部に擬宝珠状の摘みが付く。内面の返りは短く退化し、下端は口縁部よりわずかに出る。天井部は回転ヘラケズリ調整される。復元口径9.4cm、器高2.9cm。3の蓋は天井部が扁平な器形で、摘みは欠けている。口径10.1cm、残存高1.4cm。4・5は土師器の小型甕である。4の甕は器高の低い器形で、口縁部は直立し、胴部は球形状を呈する。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部が横位のハケメ、胴部は横位のヘラナデである。口径13.8cm、底径6.6cm、器高13.9cm。5の甕はやや長胴形と考えられる。口縁部は直立ぎみに立ち上がり、口唇端で小さく外反する。外面調整は口縁部ヨコナデ、胴部は縦位のハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、胴部は横位のヘラナデである。口径13.6cm、残



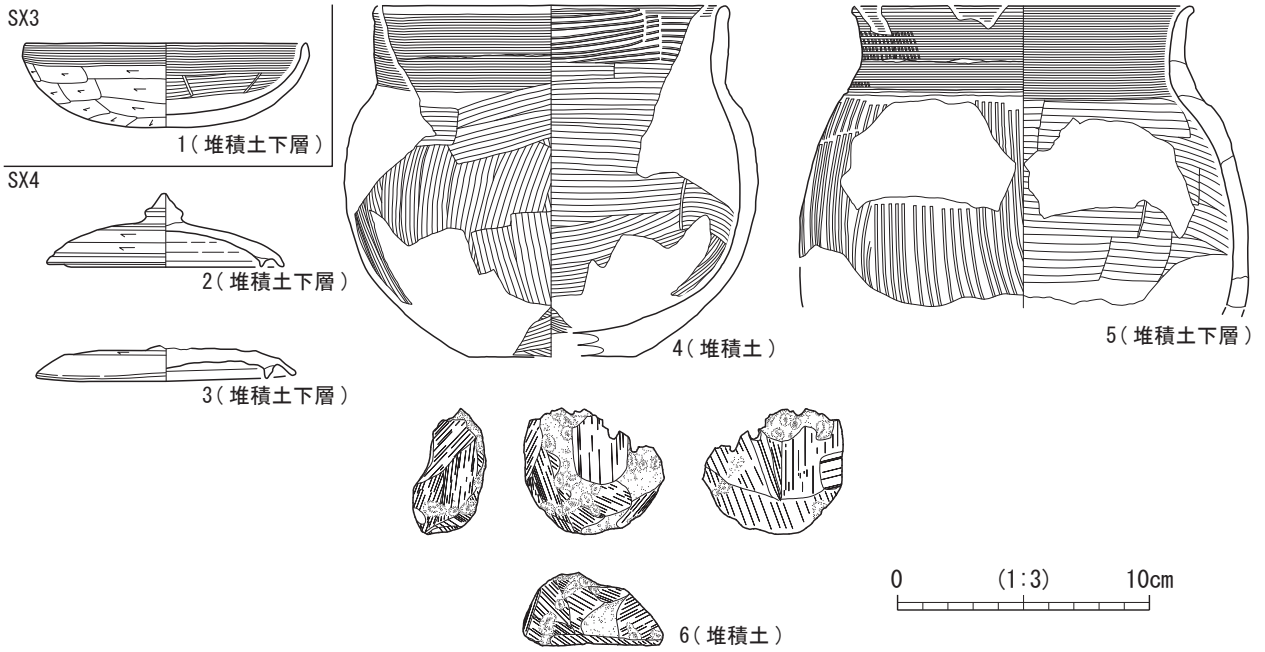
第133図　Ⅳ区SX2・3性格不明遺構



第134図　Ⅳ区ＳＸ４～６・８・１０・２０性格不明遺構

SX2～6・8・10・20性格不明遺構　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SX2	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1～2cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量、焼土を微量含む。	SX2→Pit214
SX3	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	φ1～2cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。	SX3→SM60
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ5～10mmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。	
	3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2～3cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。	
	4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2～3cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
SX4	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ3～5mmの炭化物を少量、φ2～3cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。	SX4→SM62
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ1～3mmの炭化物を微量、φ3～5cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊をやや多く含む。	
	3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1～3mmの炭化物を微量、φ2～3cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を少量含む。	
	4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を微量含む。	
SX5	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1～3mmの炭化物を微量、φ1～2cmの2.5Y7/1灰白色シルト塊を微量含む。	
	2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ3～5mmの炭化物を微量、焼土を微量、1層類似土を微量含む。	
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2mmの炭化物を微量、φ1～2cmの2.5Y6/8明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SX6	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ3～5cmの2.5Y7/6明黄褐色シルト塊を少量含む。	SX6→SI7
SX8	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの2.5Y7/3浅黄色シルト塊を少量含む。	SX8→Pit238・290
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1cmの2.5Y7/3浅黄色シルト塊を少量含む。	
	3	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1～2cmの10YR4/1褐灰色シルト塊を微量含む。	
SX10	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ3～5cmの2.5Y7/6明黄褐色シルト塊を少量含む。	SI16→SX10
SX20	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1～3cmの焼土をやや多く含む。	SX20→SM52
	2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ3～5cmの2.5Y7/3浅黄色シルト塊を少量含む。	
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの10YR4/2灰黄褐色シルト塊を少量含む。	



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-068	Ⅳ区	SX3	下層	土師器	坏	口縁～底部1/3	(11.1)	－	(3.3)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、底部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ	関東系	38
2	E-028	Ⅳ区	SX4	下層	須恵器	蓋	口縁～天井2/3	9.4	－	2.9	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、天井部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ→摘み貼付（径1.5cm）→周縁ﾅﾃﾞ	天井部～口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ返り径7.5cm		38
3	E-029	Ⅳ区	SX4	下層	須恵器	蓋	略完形	10.1	－	(1.4)	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、天井部回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ→摘み貼付→周縁ﾅﾃﾞ	天井部～口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ返り径8.0cm	摘み欠損	38
4	C-069	Ⅳ区	SX4	堆積土	土師器	甕	口縁～底部1/3	(13.8)	(6.6)	13.9	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半横位ﾍﾗﾅﾃﾞ・下半縦位ﾍﾗﾅﾃﾞ・下端横位ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ→横位ﾊｹﾒ、胴部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		38
5	C-070	Ⅳ区	SX4	下層	土師器	甕	口縁～胴部1/2	(13.6)	－	(11.9)	口縁部縦位ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部縦位ﾊｹﾒ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		38

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
6	Kd-h-01	Ⅳ区	SX4	堆積土	石製品	砥石状軽石製品	(4.8)	5.5	2.9	18.2	流紋岩	破片　上部欠損　磨4（正裏下左）　裏砥溝1条	38

第135図　Ⅳ区SX3・4性格不明遺構出土遺物

第１３６図　Ⅳ区ピット配置図（Ⅳａ層上面）

存高11.9㎝。石製品は軽石製品1点が出土している。6は断面D形を呈する砥石状の軽石製品である。各面に面取り状の使用面がみられ、裏面には断面V字形の太い溝状の削り痕がある。各使用面とも表面が平坦で、裏面の使用面は広い。

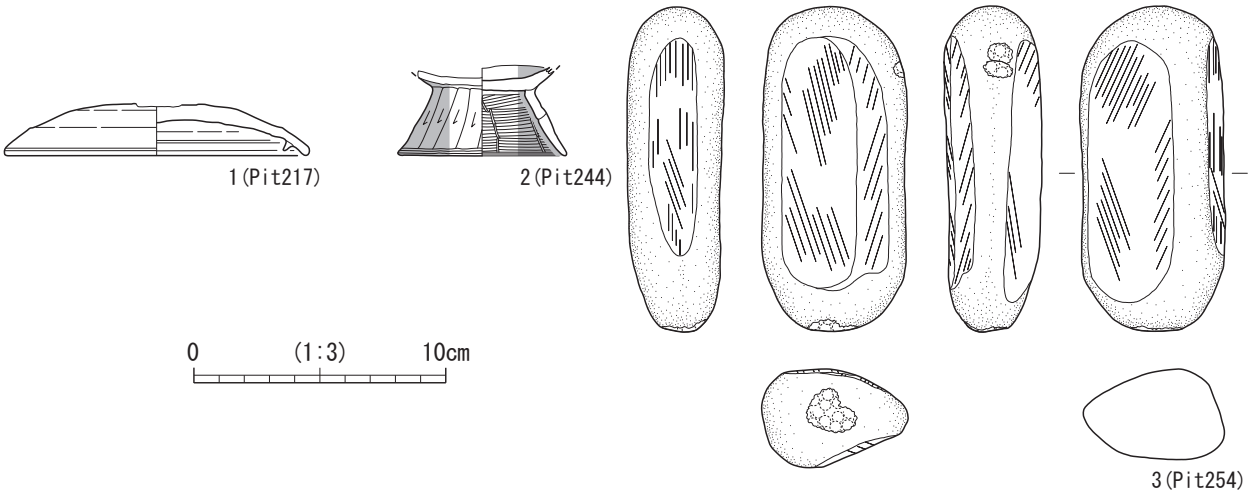
(7)ピット(第136～140図)

Ⅳa層上面では、ピット106基(Pit55～62・68～90・130～139・208～235・237～278・281～285・288～292・294～296・299～332・334～337・432～437)が検出された。このうち、33基(Pit70・211・223・224・228・230・231・232・237・238・240・241～245・249～256・258・261・264・265・269・291・302・307・437)については堆積土の分層が可能であったため個別図を掲載した。ピットの分布は南東寄りに多く認められた。ピットの多くは規模と形状が異なり、他遺構との重複関係も多く認められ、かなりの時間幅が想定される。

掲載以外のピットについては、平面形や規模・堆積土などの観察表を作成した。整理作業を通して他遺構に名称を変更したピットは、調査時のピット番号を欠番扱いとして、備考欄に変更後の新名称を記載した。

[出土遺物] ピットからは少量の遺物が出土した。そのうち図示可能な資料は、須恵器1点(1)、土師器1点(2)、礫石器1点(3)の計3点である(第137図)。出土位置は、1の須恵器蓋がPit217、2の土師器高坏の脚部がPit244、3の磨石がPit254からの出土である。

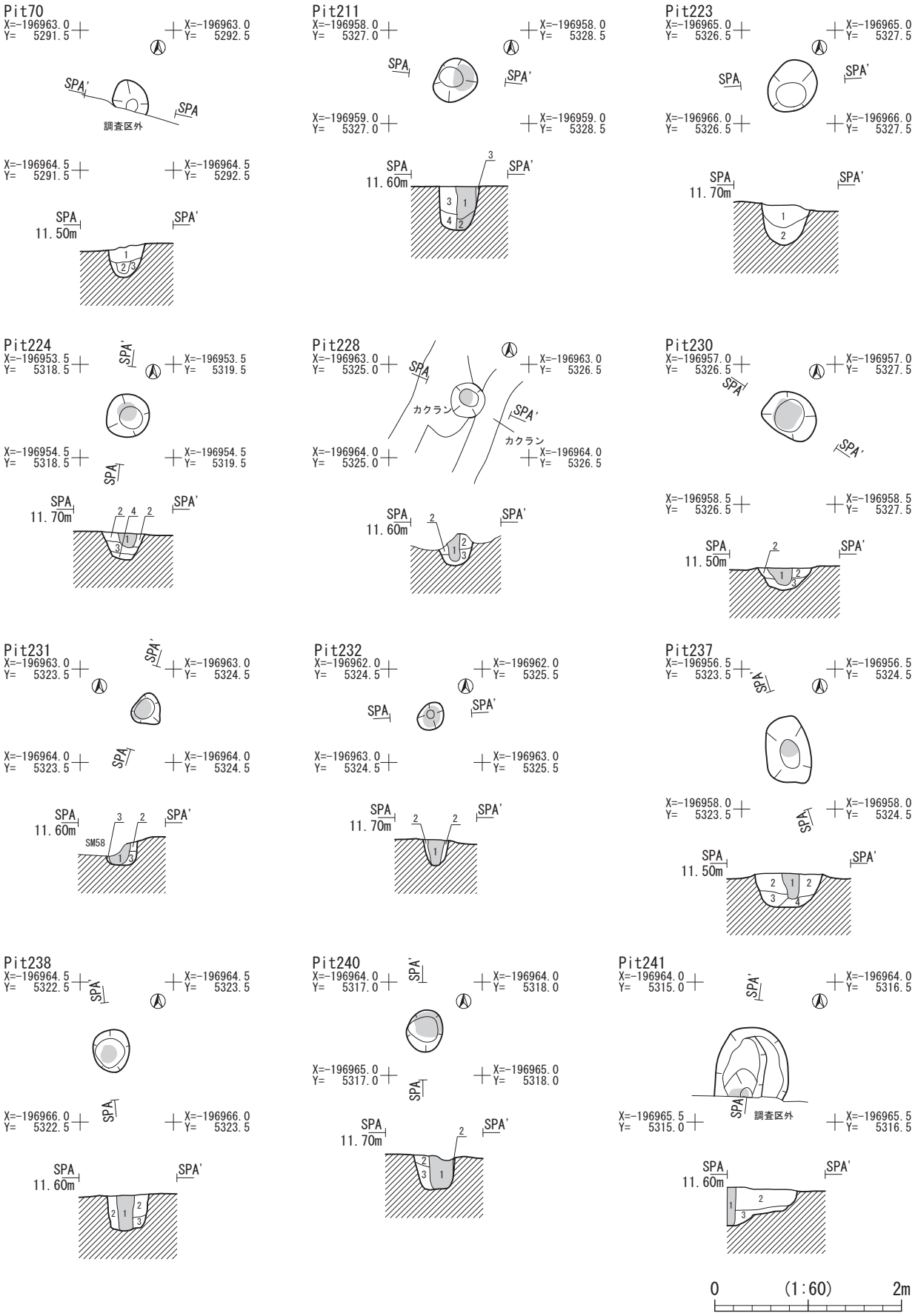
1は内面に返りを有する須恵器の蓋である。低い天井部を特徴とし、内面の返りは短く退化している。天井部は回転ヘラケズリ調整される。復元口径12.0㎝、残存高2.0㎝。2は土師器高坏の脚部で、小型の器種と考えられる。外面調整は坏部と脚部ともヘラケズリで黒色処理される。内面坏部はヘラミガキで同様に黒色処理される。脚部は横位のヘラナデ、脚端部は内外面ともヨコナデ調整である。底径6.8㎝、残存高3.5㎝。3は長楕円形の磨石で、厚



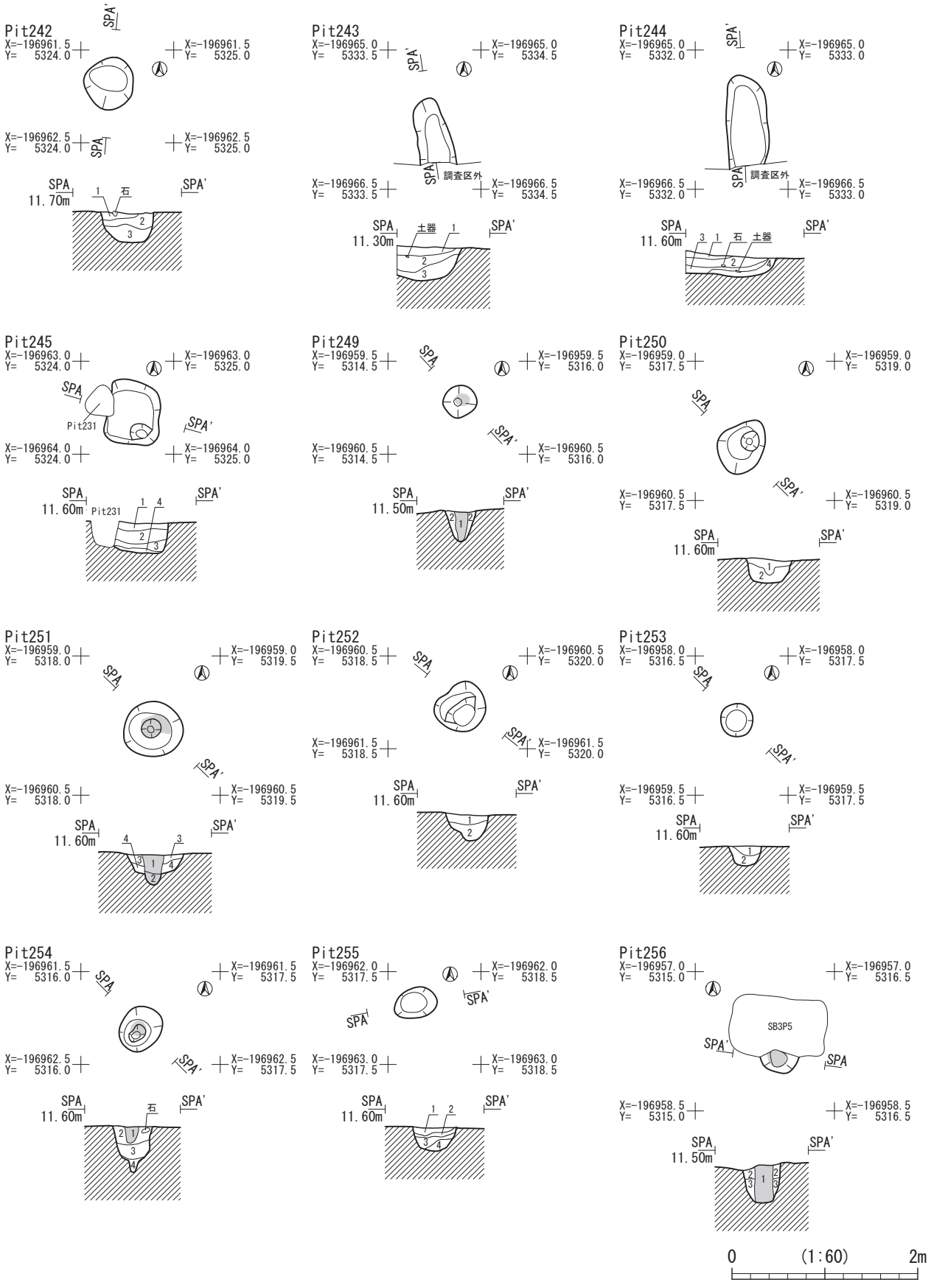
図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-030	Ⅳ区	Pit217	堆積土	須恵器	蓋	口縁～天井 1/4	12.0	–	(2.0)	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、天井部回転ﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ 摘み部明瞭な貼付痕跡	口縁部～天井部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 返り径 10.0cm		38
2	C-071	Ⅳ区	Pit244	堆積土	土師器	小型高坏	脚台部のみ	–	6.8	(3.5)	脚台部縦位ﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ・端部ﾖｺﾅﾃﾞ →黒色処理	脚台部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ・端部ﾖｺﾅﾃﾞ →黒色処理		38

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石材	特徴・備考	写真図版
3	Kc-a-05	Ⅳ区	Pit254	堆積土	礫石器	磨石	12.8	5.8	3.6	640.0	安山岩	完形 磨3(正裏左)、敲2(下右)	38

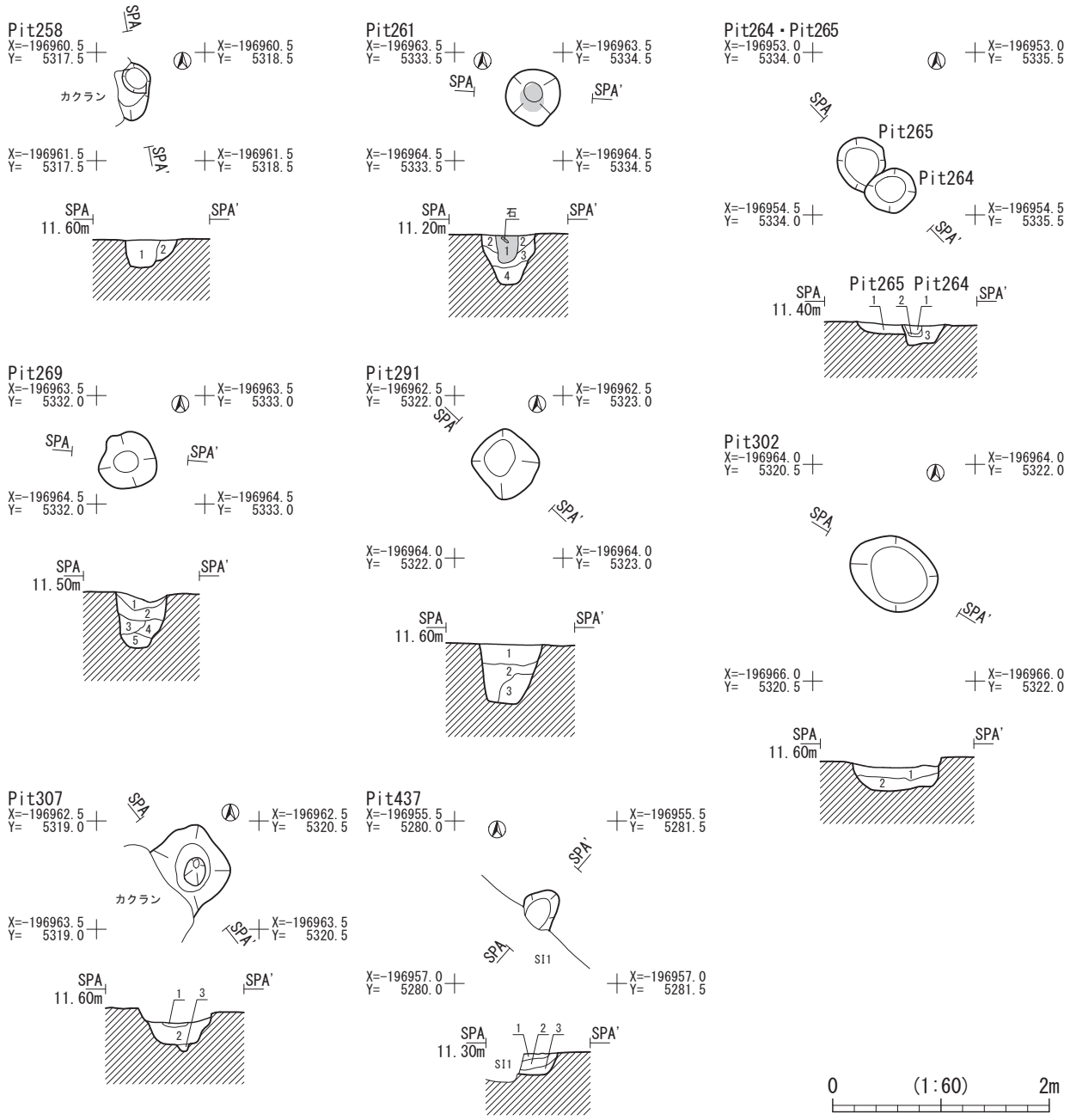
第137図 Ⅳ区ピット出土遺物



第１３８図　Ⅳ区ピット（Ⅳa層上面1）



第139図　Ⅳ区ピット（Ⅳa層上面2）



ピット（Ⅳa層上面） 観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土色		土性	備考
Pit55	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB5P3 に変更のため欠番。
Pit56	Ⅳ区	35	円形	47 × 47	48	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。
Pit57	Ⅳ区	35	円形	25 × 21	12	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit58	Ⅳ区	35	不整楕円形	51 × 38	36	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。
Pit59	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB5P1 に変更のため欠番。
Pit60	Ⅳ区	34	円形	32 × 26	13	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit61	Ⅳ区	34	円形	28 × 25	20	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit62	Ⅳ区	34	楕円形	43 × 32	32	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。
Pit68	Ⅳ区	35	円形	42 × 36	8	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit69	Ⅳ区	35	円形	33 × 30	5	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit70	Ⅳ区	35	（楕円形）	− × 39	40	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を少量含む。
						2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
						3	10YR4/4	褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
Pit71	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB5P2 に変更のため欠番。
Pit72	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SI14P3 に変更のため欠番。
Pit73	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SI14P2 に変更のため欠番。

第１４０図　Ⅳ区ピット（Ⅳa層上面３）

ピット（Ⅳa層上面）　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考
				長軸×短軸	深さ					
Pit74	Ⅳ区	34	円形	69 × 61	20	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit75	Ⅳ区	34	楕円形	27 × 19	12	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3cm程の 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit76	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SI14P4 に変更
Pit77	Ⅳ区	28	円形	32 × 27	26	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit78	Ⅳ区	27	円形	31 × 28	13	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit79	Ⅳ区	42・43	楕円形	− × 23	12	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit80	Ⅳ区	26・27	円形	49 × 43	23	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit81	Ⅳ区	19	円形	29 × 28	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit82	Ⅳ区	19	円形	28 × 24	16	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit83	Ⅳ区	19	円形	29 × 27	15	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit84	Ⅳ区	18	円形	23 × 22	15	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit85	Ⅳ区	19	（円形）	− × 38	39	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit86	Ⅳ区	19	（円形）	− × 47	23	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit87	Ⅳ区	18	円形	46 × 36	24	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit88	Ⅳ区	13	円形	15 × 13	18	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit89	Ⅳ区	28	（楕円形）	−	−	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit90	Ⅳ区	14	円形	19 × 15	8	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	10YR3/1 黒褐色土を微量含む。
Pit130	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB6P1 に変更のため欠番。
Pit131	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB6P2 に変更のため欠番。
Pit132	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB6P3 に変更のため欠番。
Pit133	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB6P4 に変更のため欠番。
Pit134	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA2P1 に変更のため欠番。
Pit135	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA2P2 に変更のため欠番。
Pit136	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA2P3 に変更のため欠番。
Pit137	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB4P2 に変更のため欠番。
Pit138	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB4P3 に変更のため欠番。
Pit139	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SB4P1 に変更のため欠番。
Pit208	Ⅳ区	69	楕円形	43 × 28	23	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit209	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P3 に変更のため欠番。
Pit210	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P4 に変更のため欠番。
Pit211	Ⅳ区	68	円形	49 × 42	51	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。柱痕跡。
						3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
						4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ1cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit212	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA6P4 に変更のため欠番。
Pit213	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA6P2 に変更のため欠番。
Pit214	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA6P3 に変更のため欠番。
Pit215	Ⅳ区	74	楕円形	23 × 18	14	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit216	Ⅳ区	74	（円形）	34 × 29	28	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit217	Ⅳ区	61	楕円形	47 × 34	43	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit218	Ⅳ区	60	楕円形	46 × 36	39	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit219	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P2 に変更のため欠番。
Pit220	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P5 に変更のため欠番。
Pit221	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P9 に変更のため欠番。
Pit222	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA5P1 に変更のため欠番。
Pit223	Ⅳ区	70	円形	60 × 48	46	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit224	Ⅳ区	60	円形	46 × 45	33	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/1 黒褐色シルト塊を微量含む。
						4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit225	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P1 に変更のため欠番。
Pit226	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P7 に変更のため欠番。
Pit227	−	−	−	−	−	−	−	−	−	SA4P6 に変更のため欠番。
Pit228	Ⅳ区	69	円形	38 × 37	33	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y5/4	黄褐色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。
						3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量､2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
Pit229	Ⅳ区	69	円形	30 × 24	25	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
Pit230	Ⅳ区	68	楕円形	57 × 47	26	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
Pit231	Ⅳ区	62	円形	34 × 32	33	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/1 黒褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit232	Ⅳ区	62・69	円形	32 × 26	30	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2mmの炭化物を微量、2.5Y7/1 灰白色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit233	Ⅳ区	62	円形	40 × 32	41	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
Pit234	Ⅳ区	62	円形	34 × 31	36	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
Pit235	Ⅳ区	62	方形	59 × 52	65	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit237	Ⅳ区	61	隅丸長方形	71 × 47	44	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量､2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。

ピット（Ⅳa層上面） 観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考
				長軸×短軸	深さ					
Pit238	Ⅳ区	63	円形	46 × 38	51	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
Pit239	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA6P1 に変更のため欠番。
Pit240	Ⅳ区	62	円形	45 × 38	40	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
						3	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
Pit241	Ⅳ区	62・63	（楕円形）	－ × 77	50	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を極微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit242	Ⅳ区	62	円形	57 × 55	36	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	炭化物を帯状にやや多く含む。
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。
						3	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit243	Ⅳ区	70	楕円形	－ × 38	37	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
						2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を少量、2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。
						3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit244	Ⅳ区	70	楕円形	－ × 44	26	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。
						2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を少量、2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
						3	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。
						4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit245	Ⅳ区	62	隅丸方形	68 × 57	48	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。
						4	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を微量含む。
Pit246	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA5P2 に変更のため欠番。
Pit247	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA7P4 に変更のため欠番。
Pit248	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA7P5 に変更のため欠番。
Pit249	Ⅳ区	61・62	円形	35 × 33	38	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y6/8 明黄褐色粘土質シルト塊を微量含む。
Pit250	Ⅳ区	61・62	円形	62 × 50	40	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量含む。
						2	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、2.5Y7/1 灰白粘土質シルト塊を少量含む。
Pit251	Ⅳ区	61・62	円形	63 × 61	38	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	炭化物を微量、焼土塊を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土質シルト塊を微量含む。柱痕跡。
						3	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
						4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。
Pit252	Ⅳ区	62	円形	54 × 47	31	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。
						2	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量、2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。
Pit253	Ⅳ区	61	円形	36 × 36	22	1	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	炭化物主体。φ5 ～ 10㎜の焼土塊を少量含む。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を微量、φ1cm程の焼土を微量含む。
Pit254	Ⅳ区	62	円形	50 × 42	51	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y6/8 明黄褐色粘土質シルト塊を微量含む。
						3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊、2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
						4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y3/2 黒褐色シルト塊を少量含む。
Pit255	Ⅳ区	62	楕円形	47 × 32	27	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cm前後の 2.5Y4/1 黄灰色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量、焼土を少量含む。
						3	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
						4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ1 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。
Pit256	Ⅳ区	61	（円形）	－ × 41	44	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。
						3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit257	Ⅳ区	54	円形	50 × 47	23	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit258	Ⅳ区	62	（楕円形）	53 × －	31	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。
Pit259	Ⅳ区	54・62	円形	45 × 41	11	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit260	Ⅳ区	62	円形	60 × 48	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit261	Ⅳ区	69	円形	52 × 50	59	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を少量含む。柱痕跡。
						2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
						3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ1cmの炭化物を微量含む。
						4	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
Pit262	Ⅳ区	54	円形	54 × 51	6	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit263	Ⅳ区	68	円形	28 × 26	8	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit264	Ⅳ区	67	円形	47 × 41	17	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	φ0.5 ～ 1cmの 2.5Y8/1 灰白色シルト塊を微量含む。
						2	2.5Y8/1	灰白色	シルト	締まりと粘性を有する。
						3	2.5Y7/3	浅黄色	シルト	φ2 ～ 4cmの 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト塊をやや多く含む。
						4	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト塊をやや多く含む。
Pit265	Ⅳ区	67	円形	－ × 46	11	1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト塊をやや多く含む。
Pit266	Ⅳ区	68	円形	35 × 30	52	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit267	Ⅳ区	69	円形	37 × 32	6	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit268	Ⅳ区	61	楕円形	65 × 47	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit269	Ⅳ区	69	円形	54 × 50	56	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を少量含む。
						2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト塊を少量含む。
						3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
						4	2.5Y6/1	黄灰色	シルト	φ1cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
						5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。
Pit270	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA7P2 に変更のため欠番。

ピット（Ⅳa層上面） 観察表

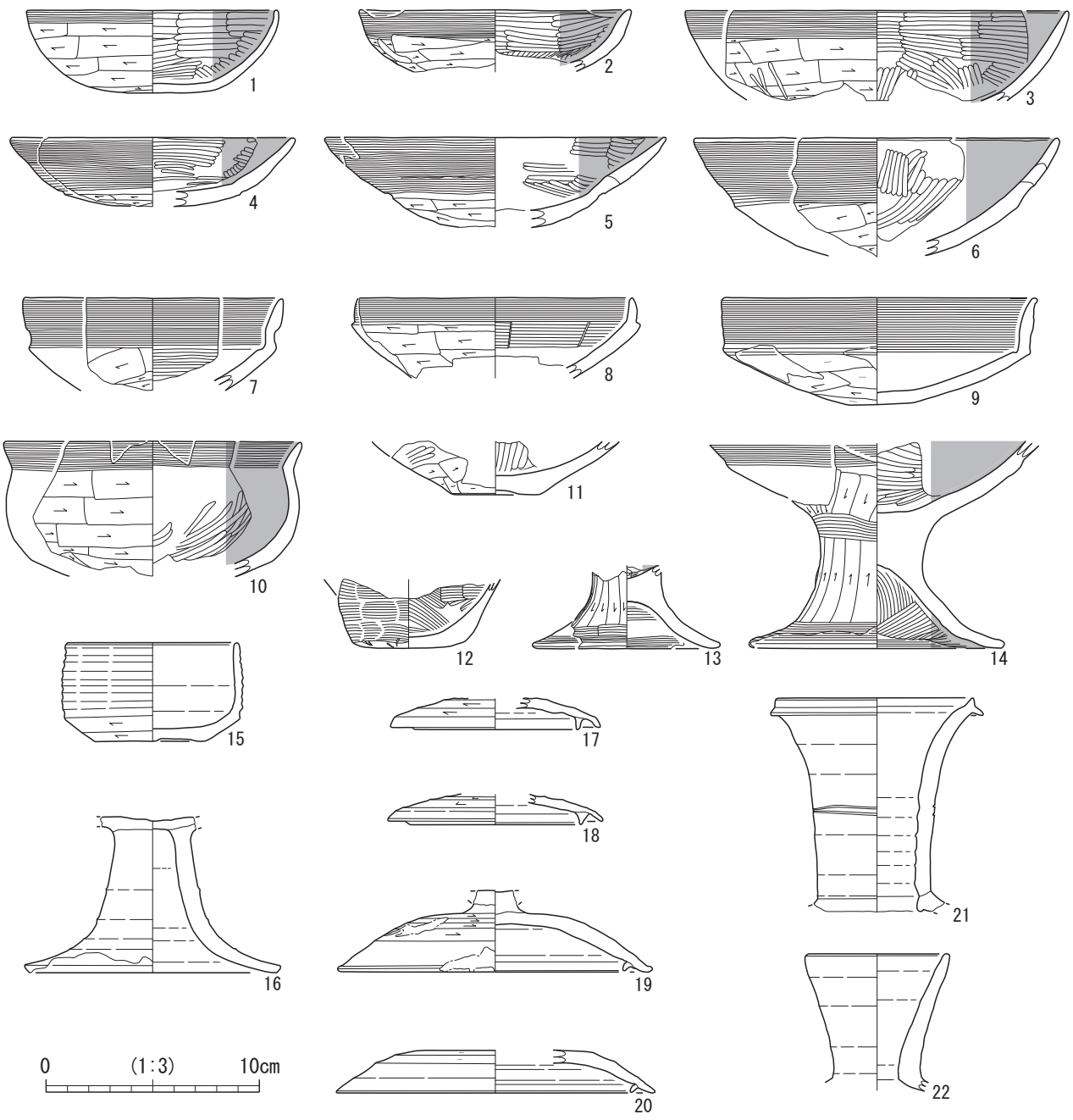
遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考
				長軸×短軸	深さ					
Pit271	Ⅳ区	61	円形	43 × 40	12	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit272	Ⅳ区	62	円形	30 × 29	28	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit273	Ⅳ区	72	円形	22 × 21	9	1	2.5Y7/1	灰白色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit274	Ⅳ区	61	円形	23 × 21	16	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	炭化物を微量含む。
Pit275	Ⅳ区	63	（楕円形）	－ × 42	22	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit276	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA7P1 に変更のため欠番。
Pit277	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA7P3 に変更のため欠番。
Pit278	Ⅳ区	42	円形	27 × 25	31	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit281	Ⅳ区	62	円形	20 × 19	12	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	締まりと粘性をやや有する。
Pit282	Ⅳ区	62	円形	23 × 23	14	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	締まりと粘性をやや有する。
Pit283	Ⅳ区	60	楕円形	30 × 25	21	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	締まりと粘性をやや有する。
Pit284	Ⅳ区	60	円形	15 × 14	19	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit285	Ⅳ区	54	円形	17 × 14	16	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	締まりと粘性をやや有する。
Pit288	Ⅳ区	60	円形	25 × 24	28	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit289	Ⅳ区	60	円形	37 × 32	36	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ0.5 ～ 1cmの炭化物を少量含む。
Pit290	Ⅳ区	63	隅丸方形	40 × 34	29	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit291	Ⅳ区	62	隅丸方形	58 × 52	59	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊をやや多く含む。
						2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。
						3	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。
Pit292	－	－	－	－	－	－	－	－	－	欠番。
Pit294	－	－	－	－	－	－	－	－	－	欠番。
Pit295	Ⅳ区	43	円形	32 × 32	13	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit296	Ⅳ区	70	－	（44 × －）	70	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit299	Ⅳ区	43	円形	29 × 25	21	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit300	Ⅳ区	74	円形	40 × 30	23	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit301	Ⅳ区	74	円形	23 × 20	10	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit302	Ⅳ区	62・63	楕円形	81 × 65	31	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。
						2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	φ0.5 ～ 1cmの炭化物を微量含む。
Pit303	Ⅳ区	63	円形	18 × 17	22	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit304	Ⅳ区	69	円形	30 × 27	29	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit305	Ⅳ区	68	円形	22 × 21	16	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit306	Ⅳ区	62	円形	25 × 21	19	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit307	Ⅳ区	62	隅丸方形	70 × －	76	1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	炭化物を少量含む。
						2	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	φ0.5 ～ 1cmの 10YR8/2 灰白色粘土質シルト塊をやや多く含む。
						3	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	φ0.5 ～ 1cmの 2.5YR8/3 淡黄色シルト塊を少量含む。
Pit308	Ⅳ区	69	円形	19 × 18	5	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit309	Ⅳ区	69	円形	23 × 23	19	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit310	Ⅳ区	73	円形	33 × 27	19	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit311	Ⅳ区	70	楕円形	30 × 24	20	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit312	Ⅳ区	70	（円形）	－ × 16	12	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit313	Ⅳ区	63	（方形）	48 × －	11	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit314	Ⅳ区	63	（円形）	－ × 41	12	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit315	Ⅳ区	63	（方形）	－ × 35	18	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit316	Ⅳ区	63	（円形）	－ × 30	15	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit317	Ⅳ区	63	（円形）	－ × 17	12	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit318	Ⅳ区	55	（楕円形）	－ × 23	31	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit319	Ⅳ区	54	円形	26 × 22	16	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit320	Ⅳ区	62・69	楕円形	47 × 30	22	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit321	Ⅳ区	69	不整楕円形	24 × 20	9	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit322	Ⅳ区	69	円形	17 × 14	8	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit323	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SA5P3 に変更のため欠番。
Pit324	Ⅳ区	63	円形	30 × 26	16	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit325	Ⅳ区	63	楕円形	27 × 21	24	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit326	Ⅳ区	69	円形	20 × 20	10	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit327	Ⅳ区	74	楕円形	37 × 33	17	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit328	Ⅳ区	70	円形	32 × 29	15	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit329	Ⅳ区	70	円形	39 × 30	41	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit330	Ⅳ区	42	円形	34 × 34	26	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit331	Ⅳ区	42・43	円形	19 × 16	29	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit332	Ⅳ区	43	円形	28 × 28	30	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。
Pit334	Ⅳ区	60	楕円形	41 × 37	17	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量、φ5mmの炭化物を少量含む。
Pit335	Ⅳ区	60	不整楕円形	44 × 32	15	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量、φ5mmの炭化物を少量含む。
Pit336	Ⅳ区	60	楕円形	37 × 28	17	1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	φ0.5 ～ 1cmの炭化物を少量含む。
Pit337	Ⅳ区	60	楕円形	28 × 19	22	1	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	φ0.5 ～ 1cmの炭化物を少量含む。
Pit432	Ⅳ区	－	－	－	－	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト塊を少量含む。
Pit433	Ⅳ区	－	－	－	－	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト塊を少量含む。
Pit434	Ⅳ区	53	円形	52 × 50	18	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit435	Ⅳ区	54・55	（楕円形）	30 ×（22）	23	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit436	Ⅳ区	54・55 62・63	（円形）	50 ×（31）	39	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ2 ～ 3mmの炭化物を微量、2.5Y6/8 明黄褐色シルト塊を微量含む。
Pit437	Ⅳ区	27	（楕円形）	（36） × 32	20	1	10YR3/4	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を微量、10YR5/1 褐灰色シルト塊を微量含む。
						2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ3 ～ 5mmの炭化物を少量、焼土塊をやや多く含む。
						3	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2mmの焼土を微量、10YR6/8 明黄褐色シルト塊を少量含む。

みのある自然礫を用いている。使用面は正裏面、左側面の3面となる。とくに左側縁は面取り状の滑らかな磨面をなし、他の磨面はやや滑らかである。いずれの面にも斜位を主体とする擦痕が認められる。下端と右側縁上端には弱い敲打痕がみられる。石材は粒子がやや粗い安山岩である。

(8)遺構外出土遺物(第141 ～ 144図)

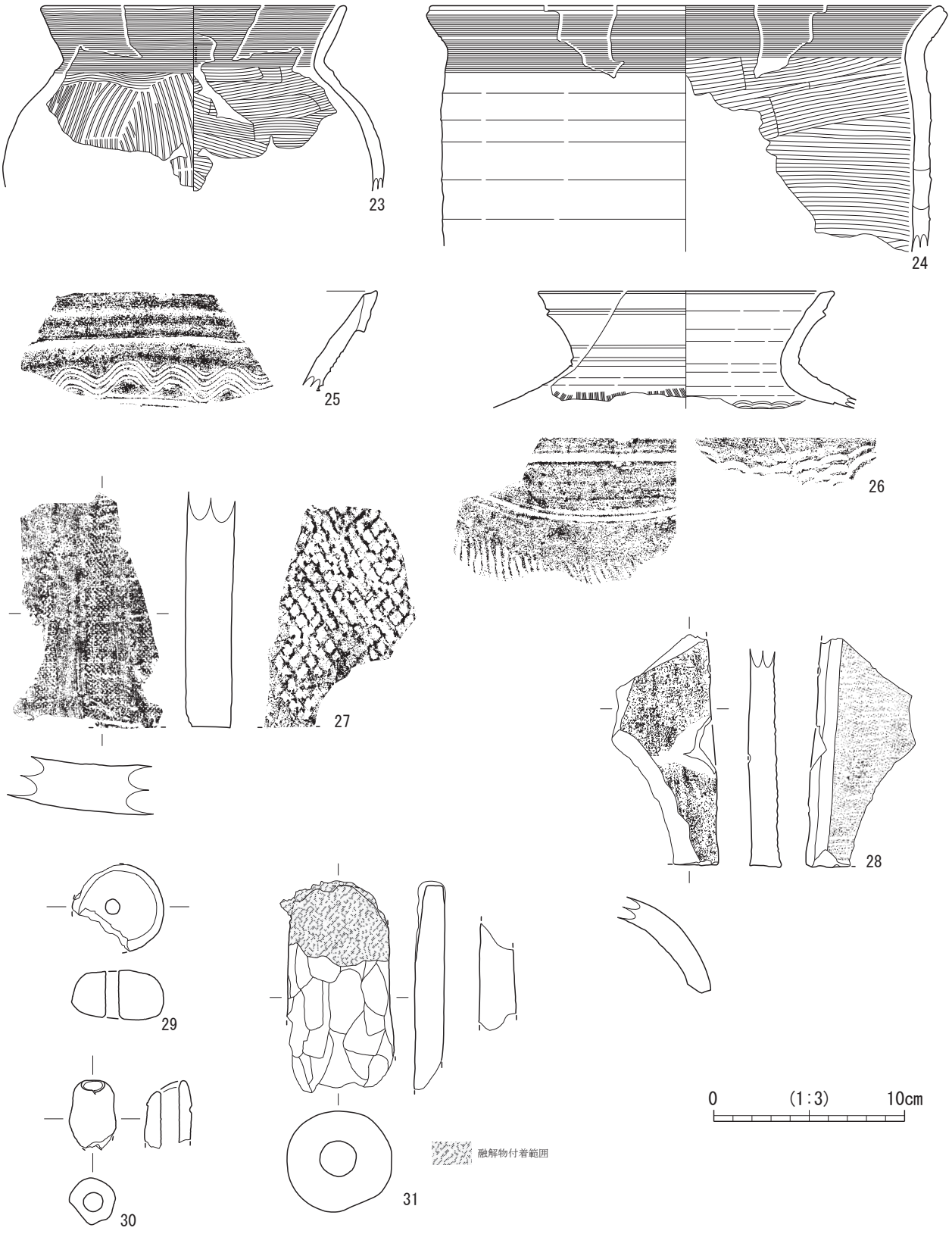
本項では前項までの時期と考えられる遺構外出土の遺物について記載する。図示し得た資料は、土器・石器類を中心に46点を示す。内訳は、土師器坏11点(1 ～ 9・11・12)・鉢1点(10)・高坏2点(13・14)・甕2点(23・24)、須恵器坏1点(15)・蓋4点(17 ～ 20)・高坏1点(16)・長頸瓶1点(21)・平瓶1点(22)・甕2点(25・26)、瓦2点(27・28)、土製紡錘車1点(29)、土錘1点(30)、鞴の羽口1点(31)、打製石器1点(32)、礫石器4点(33 ～ 36)、砥石5点(37 ～ 41)、石製模造品4点(42 ～ 45)、硯石1点(46)の計46点である。

1 ～ 9・11・12は土師器坏である。1は平底の坏で、体部は内湾ぎみに立ち上がり口縁端部でわずかに起きる。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部は横位ヘラヘズリ、内面は横位のヘラミガキと黒色処理される。復元口径11.8㎝、底径5.4㎝、器高3.9㎝。2 ～ 9は丸底の器形である。2・3の坏には底部と口縁部との境に稜がなく、外傾ぎみに立ち上がる。3は大振りな器形である。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。2は復元口径12.7㎝、器高2.9㎝、3は復元口径17.8㎝、器高4.2㎝。4は底の浅い器形で、口縁部は開きぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。復元口径13.3㎝、器高3.2㎝。5は大振りの器形で、口縁部は大きく開き端部でわずかに起きる。底部と口縁部との境には凹線状の稜が形成される。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。復元口径15.9㎝、器高4.2㎝。6は器高の深い大振りの器形で、口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。復元口径17.0㎝、器高5.5㎝。7 ～ 9は関東系の土師器坏である。7は器高の深い小振りの器形で、口縁部の下半には屈曲部が形成され、上半は直立ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部は横位のヘラナデ。復元口径11.8㎝、器高4.3㎝。8は明瞭な稜をもつ器形で、口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部は横位のヘラナデである。復元口径13.0㎝、器高3.8㎝。9は底部と口縁部との境に明瞭な稜をもち、外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部はナデである。ほぼ完形品で、口径14.6㎝、器高4.9㎝を測る。10は小振りの土師器鉢で、やや深身の有する器形である。体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部で短く屈曲する。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部は横位のヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部は斜位のヘラミガキである。復元口径13.8㎝、残存高6.3㎝。11は土師器の坏としたが詳細は不明である。底部は平底で、開きぎみに立ち上がる。外面はヘラケズリ、内面はヘラミガキである。底径4.0㎝。12は手捏ねの土師器坏で、底径5.3㎝、残存高3.2㎝。13･14は土師器高坏で、13は脚部片、14は坏部を一部残す。13は低脚の小型の製品で、外面調整は上半が縦位のヘラケズリ、下端がヨコナデ、内面は横位のヘラナデ、下端部はヨコナデである。脚台径8.8㎝、残存高3.9㎝。14はやや大振りの器形で、外面調整は脚部が縦位のヘラケズリ、下端部がヨコナデ、中位に横位のナデが加えられ、口縁部はヨコナデである。坏部内面は横位のヘラミガキで黒色処理される。脚部内面はヘラナデ､端部はヨコナデである。脚台径12.0㎝、残存高9.1㎝。15は底部ヘラ切り手法の須恵器坏で、体部下半で腰部を有し、口縁部は内傾ぎみに立ち上がる。体部下半は回転ヘラゲズリで口径8.0㎝、底径5.2㎝、器高4.5㎝。16は須恵器高坏の脚部片で、脚端部は「ハ」字状に広がる。脚台径7.4㎝。17 ～ 20は内面に返りを有する須恵器蓋である。17･18は小型の製品、19・20は大型の製品である。17 ～ 20の天井部は回転ヘラケズリ調整される。17は復元口径9.8㎝。18は復元口径10.0㎝。19は口径14.8㎝、器高3.8㎝。20は復元口径14.9㎝。21は須恵器長頸瓶の口頸部片で、口径9.5㎝、残存高10.0㎝。22は平瓶の口頸部と考えられる。口径6.8㎝、残存高6.4㎝。21の外面には自然釉が付着し、胎土と焼成の特徴などか



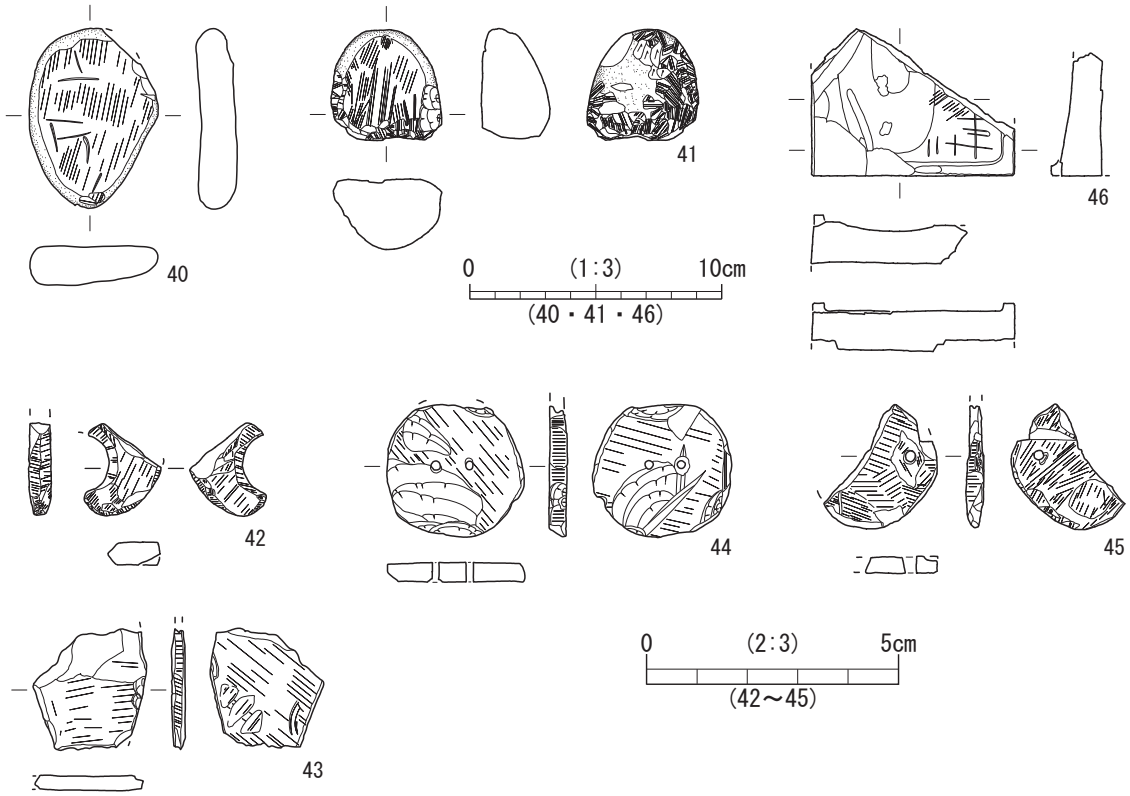
第141図　Ⅳ区遺構外出土遺物（1）

ら尾張産と推定される。23・24は土師器甕で、23は口縁部が「く」字状に外傾し、胴部は球形状を呈する。調整は口縁部の内外面がヨコナデ、胴部外面が縦位のハケメ、内面は横位のヘラナデである。復元口径は15.8cm、残存高9.7cm。24はロクロ調整の土師器長胴甕である。口縁部は内外面ともロクロ調整、胴部内面は横位のヘラナデ調整である。復元口径26.4cm、残存高12.9cmである。25・26は須恵器甕である。25は口縁部片で、外面には横位の櫛描波状文が施される。26は口縁部から胴部の破片で、胴部外面には平行叩きが、内面には青海波文が施される。27は平瓦片、28は丸瓦片である。27は粘土板桶巻作りの製品で、凹面には糸切り痕、枠板圧痕、布目痕が残り、凸面には斜格子叩きが加えられる。28の凹面には布目痕、凸面にはヘラナデ調整が施される。29は土製紡錘車の一部欠損品で、上端径3.8cm、下端径4.8cm、厚さ2.6cmで、中央に径7.5mmほどの円孔が貫通する。30は管状土錘の破片で、残存長3.6cm、孔径10mm。31は鞴の羽口片である。32は上半を欠損した削器である。両側縁から下端に両面加工があり、正面に主要剥離面、裏面に素材取り出し以前の剥離面が広く残り、180度の打面転位が行わ



第142図　Ⅳ区遺構外出土遺物（2）

第１４３図　Ⅳ区遺構外出土遺物（３）



第144図　Ⅳ区遺構外出土遺物（4）

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-072	Ⅳ区	20・21Gr.	－	土師器	坏	口縁～底部 1/4 強	(11.8)	(5.4)	3.9	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ・底部ヘラミガキ →黒色処理		39
2	C-073	Ⅳ区	68Gr.	堆積土	土師器	坏	口縁～底部 1/2 弱	(12.7)	－	(2.9)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部放射状ヘラミガキ→黒色処理	SM53	39
3	C-074	Ⅳ区	20・21Gr.	－	土師器	坏	口縁～底部 1/4	(17.8)	－	(4.2)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ→一部タテヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ・底部ヘラミガキ →黒色処理		39
4	C-075	Ⅳ区	26～28Gr.	撹乱	土師器	坏	口縁～底部 1/4	(13.3)	－	(3.2)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ →黒色処理		39
5	C-076	Ⅳ区	18Gr.	－	土師器	坏	口縁～底部 1/4	(15.9)	－	(4.2)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、底部ヘラミガキ →黒色処理		39
6	C-077	Ⅳ区	20Gr.	堆積土	土師器	坏	口縁～底部 1/5	(17.0)	－	(5.5)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ・底部ナデ →黒色処理	SM3	39
7	C-078	Ⅳ区	74Gr.	Ⅳ層	土師器	坏	口縁小片	(11.8)	－	(4.3)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラナデ	関東系	39
8	C-079	Ⅳ区	61Gr.	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(13.0)	－	(3.8)	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラナデ	関東系 SM62	39
9	C-080	Ⅳ区	20Gr.	－	土師器	坏	略完形	14.6	－	4.9	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ナデ	関東系	39
10	C-081	Ⅳ区	18・19Gr.	－	土師器	鉢	口縁～体部 1/4	(13.8)	－	(6.3)	口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ→一部ヘラミガキ		39
11	C-082	Ⅳ区	18Gr.	－	土師器	坏	体部下半～底部	－	4.0	(2.5)	体部ヨコヘラミガキ・下端横位ヘラケズリ	体部放射状ヘラミガキ		39
12	C-083	Ⅳ区	61Gr.	堆積土	土師器	坏	底部 3/5	－	5.3	(3.2)	胴部横位ヘラナデ、底部ヘラケズリ	胴部ヘラナデ	手捏ねか SM60	39
13	C-084	Ⅳ区	19Gr.	－	土師器	高坏	脚部 1/4	－	(8.8)	(3.9)	脚台部：縦位ヘラケズリ・下半横位ヘラナデ・端部ヨコナデ	脚台部：横位ヘラナデ・端部ヨコナデ		39
14	C-085	Ⅳ区	54Gr.	撹乱	土師器	高坏	坏部～脚台部 1/3	－	(12.0)	(9.1)	受部：口縁部ヨコナデ、体部縦位ヘラケズリ、接合部：横位ヘラナデ 脚台部：縦位ヘラケズリ・端部ヨコナデ	受部：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ 脚台部：ヘラナデ・端部ヨコナデ		39
15	E-031	Ⅳ区	19Gr.	－	須恵器	坏	口縁～底部 2/3	8.0	5.2	4.5	口縁部～体部ロクロナデ、下端回転ヘラケズリ、底部ヘラ切り→ナデ	口縁部～底部ロクロナデ		39
16	E-032	Ⅳ区	20Gr.	－	須恵器	高坏	脚台部 1/2 強	－	－	(7.4)	脚台部：ロクロナデ	脚台部：ロクロナデ		39
17	E-033	Ⅳ区	54Gr.	Ⅳ層	須恵器	蓋	口縁～天井 1/4 弱	(9.8)	－	(2.0)	口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ	口縁部～天井部ロクロナデ 返り径 7.4cm		39
18	E-034	Ⅳ区	62Gr.	Ⅳ層	須恵器	蓋	口縁～天井 1/3	(10.0)	－	(1.4)	口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ	口縁部～天井部ロクロナデ 返り径 8.0cm		39
19	E-035	Ⅳ区	74Gr.	Ⅳ層	須恵器	蓋	口縁～天井 1/2	(14.8)	－	(3.8)	口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ→摘み貼付（3.0cm）→周縁ナデ	口縁部～天井部ロクロナデ 返り径 12.0cm		39
20	E-036	Ⅳ区	26～28Gr.	撹乱	須恵器	蓋	口縁～天井破片	(14.9)	－	(2.0)	口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ	口縁部～天井部ロクロナデ		39

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
21	E-037	Ⅳ区	28Gr.	−	須恵器	長頸瓶	口縁～頸部	9.5	−	(10.0)	口縁部～頸部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁部～頸部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	内外面自然釉付着　尾張産	40
22	E-038	Ⅳ区	61Gr.	堆積土	須恵器	平瓶	口縁～頸部残存	(6.8)	−	(6.4)	口縁部～頸部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁部～頸部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	SM60	40
23	C-086	Ⅳ区	52Gr.	Ⅳ層	土師器	甕	口縁～胴部上半 1/4 弱	(15.8)	−	(9.7)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、頸部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部縦位ﾊｹﾒ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		40
24	D-001	Ⅳ区	74Gr.	Ⅳ層	ロクロ土師器	甕	口縁～胴部中位 1/4 弱	(26.4)	−	(12.9)	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、胴部上半横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		40
25	E-039	Ⅳ区	60・61Gr.	堆積土	須恵器	甕	口縁部破片	−	−	−	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→櫛描波状文	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	SM67	40
26	E-040	Ⅳ区	54Gr.	天地返し	須恵器	甕	口縁～胴部上半破片	(15.6)	−	(6.1)	口縁部～胴部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、胴部平行ﾀﾀｷ	口縁部ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、胴部青海波文	内面自然釉付着	40

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
							口径	底径	器高				
27	G-03	Ⅳ区	21Gr.	−	瓦	平瓦	(12.0)	(7.5)	2.4	斜格子ﾀﾀｷ　端縁方向のﾍﾗ調整	糸切り 枠板圧痕 布目 側縁方向のﾍﾗ調整		40
28	F-01	Ⅳ区	26～28Gr.	撹乱	瓦	丸瓦	(9.6)	(6.5)	1.4	側縁方向のﾍﾗﾅﾃﾞ 側面部ﾍﾗ調整	糸切り　布目痕 側縁方向のﾍﾗ調整		40

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
29	P-04	Ⅳ区	54Gr.	Ⅳ層	土製品	紡輪	上端径(3.8)	最大径(4.8)	2.6	(46.7)	約 1/3 欠損　側面ﾍﾗﾐｶﾞｷ　上下面ﾅﾃﾞ　器面磨滅 中央円形棒軸孔貫通　孔径 7.0～7.5㎜	40
30	P-05	Ⅳ区	75Gr.	Ⅳ層	土製品	筒形土錘	(3.55)	直径(2.4)	0.6～0.9	15.4	上端部小片　中央部紐孔貫通　孔径 9.5～10㎜	40
31	P-06	Ⅳ区	26～28Gr.	Ⅳ層	土製品	輪羽口	(11.0)	直径(5.4)	(1.9)	(266.7)	端部欠損　上端部融解物付着顕著 円柱形　中央部送風孔貫通 孔径 19㎜	40

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
32	Ka-e1-01	Ⅳ区	51Gr.	天地返し	打製石器	削器	(2.8)	2.4	0.8	5.4	珪質頁岩	上部欠損　両面複数縁に微細剥離痕あり 各縁辺にｶﾞｼﾞﾘ　両面に鉄線条痕	40
33	Kc-a-06	Ⅳ区	19～21Gr.	−	礫石器	磨石	8.8	6.6	2.5	116.8	流紋岩	完形　磨 2（正裏）	40
34	Kc-a-07	Ⅳ区	19～21Gr.	−	礫石器	磨石	12.05	7.8	5.0	637.3	安山岩	完形　磨 1（正）、敲 4（正裏左右）	40
35	Kc-c-06	Ⅳ区	19～21Gr.	Ⅱ層	礫石器	敲石	11.5	10.8	2.8	552.5	ﾃﾞｲｻｲﾄ	完形　敲 6（正裏上下左右）	40
36	Kc-c-07	Ⅳ区	18Gr.	−	礫石器	敲石	14.1	6.1	5.5	714.3	ﾃﾞｲｻｲﾄ	完形　敲 2（上下）　右側面被熱	40
37	Kd-a-08	Ⅳ区	21Gr. 東	−	石製品	砥石	(3.5)	3.7	3.0	34.9	流紋岩	破片　上部欠損　磨 6（正裏上下左右）　各面擦痕	41
38	Kd-a-09	Ⅳ区	20Gr. 東	−	石製品	砥石	(7.3)	(4.8)	4.5	188.3	砂岩	破片　上下欠損　磨 4（正裏左右）　各面擦痕	41
39	Kd-a-10	Ⅳ区	62Gr.	Ⅳ層	石製品	砥石	(5.0)	(8.1)	1.7	98.4	粘板岩	破片　上部欠損　磨 3（正裏右）　正裏擦痕	41
40	Kd-a-11	Ⅳ区	19～21Gr.	−	石製品	砥石	7.1	(5.1)	1.55	54.5	流紋岩	破片　右欠損　磨 1（正）	40
41	Kd-a-12	Ⅳ区	19～21・26～28Gr.	−	礫石器	磨石	4.4	4.4	2.7	34.1	流紋岩	完形　磨 1（正）　削 1（裏）　正面擦痕、砥溝 1 条	40
42	Kd-e-03	Ⅳ区	20Gr. 東	−	石製品	勾玉形模造品	(1.8)	1.0	0.4	1	緑色片岩	縁辺一部剥離　正裏面擦痕	41
43	Kd-e-04	Ⅳ区	20Gr. 東	−	石製品	剣形模造品	(2.3)	(2.2)	0.25	2	緑色片岩	破片　正裏面擦痕	41
44	Kd-e-05	Ⅳ区	19Gr. 東	−	石製品	鏡形模造品	(2.55)	2.7	0.35	4	緑色片岩	略完形　縁辺一部剥離　円孔 2 つ 孔径 2.0～2.5㎜　正裏面擦痕	41
45	Kd-e-06	Ⅳ区	21Gr. 東	−	石製品	鏡形模造品	(2.45)	(1.4)	0.3	1	緑色片岩	破片　円孔 1 つ残存 孔径 2.0～2.5㎜　正裏面擦痕	41
46	Kd-i-01	Ⅳ区	表採	表土	石製品	硯	(7.8)	8.1	(1.6)	106.2	頁岩	陸部下端破片　左半部磨滅窪み	41

れた横長の剥片を素材とする。石材は珪質頁岩である。33･34は磨石で、33は楕円形の扁平な自然礫を用いている。両面を使用面とし、広く平坦な滑らかな磨面で斜位の擦痕がみられる。両面の平坦面は節理に沿った原礫面と考えられる。裏面には平坦な削り痕がみられ、各使用痕よりも古い剥離面が観察される。石材は粒子がやや密な軟質の流紋岩である。34は楕円形の自然礫を用いている。磨面は正面のみにみられ、磨面は滑らかで斜位の擦痕が観察される。敲打痕は裏面と両側縁にもみられる。右側縁の敲打痕には剥離痕が伴う。石材は粒子が粗い安山岩である。35・36は敲石である。35は隅丸方形の扁平な自然礫を用いている。正面と両側縁から上下端にかけて敲打痕がみられる。石材は粒子が粗いデイサイトである。36は棒状の自然礫を用いている。上下端に剥離痕を伴う敲打痕がみられる。下端の敲打面は面状を呈する。右側は被熱により黒化している。石材は粒子が粗いデイサイトである。37・38は角柱状を呈する砥石である。37は使用面が6面あり、上面と左側面以外の各面中央部には幅広な凹面がみられる。各面には研磨単位の稜線が観察され、その内部に縦位・横位・斜位のやや粗い擦痕が認められる。石材は粒子が粗い流紋岩である。38は三角形状をなした5面体の器体で、正面と左側面は平滑で、右側面には剥離面の一部が残存している。この剥離面は粗割り成形の痕跡とみられる。上面と下面は欠損面を再生した研磨面で、磨き消

されなかった割れ面が残存する。上面は平坦、下面は緩く窪んだ研磨面となっている。石材は粒子が粗い砂岩である。39は扁平な砥石で、上半を欠損する。使用面は両面と両側面の4面である。左側面と裏面は平坦で、横位の擦痕が残る。左側面には大きな剥離面が、裏面には剥離面の他に節理・自然面が残る。石材は粒子が緻密な粘板岩である。40・41は小型の砥石で、軟質な流紋岩を石材とする。40の右上端は欠損している。正面全体を研磨面としている。石質はやや密な粒子となる。41は厚みがあり、断面D形を呈する。正面の平坦面が研磨面となる。表面は滑らかで、斜位の擦痕を主体として中央には縦位の浅い溝状をなす部分がある。42 ～ 45は石製模造品である。42は勾玉形を呈するが、上半が欠損している。両面とも粗い擦痕が観察され、全体的に粗い作出となっている。石材は緑色片岩である。43は剣形の体部破片で、屈折した右側縁のみ残存する。両面とも平坦で、鎬は認められない。両面とも研磨以前の剥離面が残存するが丁寧に研磨され、細かい横位・斜位の擦痕も認められる。石材は緑色片岩である。44・45は鏡形で、44は上端を欠損する。縁辺に角があるが概ね円形で、孔は2個ある。両面とも研磨されているが、研磨以前の剥離面も残る。石材は緑色片岩である。45は約1/2の欠損品で、44と同様に縁辺に角があるが概ね円形である。両面とも丁寧に研磨されているが粗い擦痕も残る。石材は緑色片岩である。46は硯の陸部片で、裏面は全面欠損している。石材は頁岩である。近世を含めそれ以降のものと考えられる。

第4節　古墳時代前期～中期の遺構と遺物（第145 ～ 158図）

Ⅳ区基本層Ⅵ層上面とⅤb層上面で検出された遺構と遺物について記載する。検出された遺構は、Ⅵ層上面で小溝状遺構が68条（SM83 ～ 144・156 ～ 161）、Ⅴb層上面で溝跡が1条（SD5）である。小溝状遺構群は2ヶ所（A・B）で確認されている。また、遺構ではないが、窪地状地形1・2の堆積土及びその周辺より古墳時代前期から中期の遺物が主に出土している。遺物の出土量は、平箱に約6箱分である。

（1）小溝状遺構群（第145 ～ 148図）

小溝状遺構群は2ヶ所で発見され、中央の一群を小溝状遺構A群、東側の一群を小溝状遺構B群とした。A群は19条（SM83 ～ 101）で構成され、小溝間での重複は認められなかった。一方のB群は49条（SM102 ～ 144・156 ～ 161）で構成され、小溝間で重複が認められた。基本層Ⅴb層を耕作土とした畑跡と考えられる。時期は、後述するように、Ⅵ層から弥生後期の土器が出土していること、Ⅴa層堆積以前に埋没した窪地状地形2から古墳時代前期の土器が出土していることから、弥生時代後期天王山式期以降であり、古墳時代前期頃の時期としておきたい。

小溝状遺構A群（第146図）

A群は42・43・54・55グリッドに位置し、南側は調査区外へ伸びている。第146図の土層断面図に掲載したように、各小溝状遺構は基本層Ⅵ層上面で検出される。また、Ⅴb層と小溝状遺構は耕作に関わる一連のものと考えられる。A群はほぼ南北方向に掘られている。

規模は最長で359㎝、上端幅は18 ～ 41㎝、下端幅は5 ～ 30㎝を測り、検出面からの深さは5 ～ 14㎝である。遺構の断面形は概ねU字形を呈し、底面には小さな起伏が確認された。底面の標高値はSM84の北端側で11.06ｍ、同南端側で11.11ｍ、SM101の北端側で11.06ｍ、同南端側で11.10ｍを測り、北側よりも南側が4 ～ 5㎝高い。A群全体の主軸方位は、N－0 ～ 12°－Eである。堆積土中から遺物は出土していない。

小溝状遺構B群（第147・148図）

B群は67 ～ 70・72 ～ 75グリッドに位置する。北側は河川により浸食され、南側と東側は調査区外へ伸びている。小溝状遺構B群もA群と同様に基本層Ⅵ層上面で検出される。B群は、49条（SM102 ～ 144・156 ～ 161）で構成され、ほぼ南北方向に並行して掘られている。

規模は最長で1390㎝、上端幅は9 ～ 61㎝、下端幅は8 ～ 42㎝を測り、検出面からの深さは3 ～ 28㎝である。遺構の断面形は概ねU字形を呈し、底面には小さな起伏が確認された。底面の標高値は、SM110の北端側で10.80ｍ、

第１４５図　Ⅳ区遺構配置図（Ⅵ層上面）

同南端側で10.83ｍ、SM129の北端側で10.85ｍ、同南端側で10.80ｍを測り、高低差は認められない。B群全体の主軸方位は、N-2 ～ 5°-Eである。

B群では、以下の19例で小溝状遺構間の新旧関係が判明している(SM105-SM107、SM108-SM107・134、SM107-SM160、SM109-SM110・161、SM111-SM135・156、SM113-SM122・137・156、SM114-SM115、SM116-SM117・138、SM119-SM118・120・138、SM120-SM139、SM121-SM139・140・141、SM121-SM122・140、SM123-SM122・124・124・140・141、SM126-SM127・142、SM126-SM141、SM127-SM141・142・143・157、SM128-SM143・144、SM129-SM130・144、SM131-SM132、SM132-SM133)。

これらの新旧関係を整理すると、B群は概ね3小期(B1 ～ B3)に細分された。小群内での小溝状遺構は50 ～ 200cmの間隔でほぼ並行している。新旧関係による変遷は、古段階(B3小期)→中段階(B2小期)→新段階(B1小期)の3段階に分けられる(第148図)。なお、これらに含まれない2条(SM102・112)についての詳細は不明である。

新段階(小溝状遺構B1小期)

B1小期は、67 ～ 70・72 ～ 75グリッドに位置する。南側と北側の一部は調査区外へ伸びる。ほぼ南北方向に15条(SM103 ～ 105・108・109・111・113・116・119・121・123・127・129・133・136)が並ぶ。分布範囲は南北幅で13.90ｍ、東西幅で12.60ｍある。小溝状遺構間の距離は100 ～ 200cmである。各小溝状遺構の規模は、上端幅で15 ～ 55cm、下端幅で7 ～ 40cm、検出面からの深さは5 ～ 20cmである。底面の標高値はSM105の北端側で10.93ｍ、同南端側で10.75ｍ、SM121の北端側で10.80ｍ、同南端側で10.90ｍである。B1小期の主軸方位は、N-3°-Eである。堆積土中から遺物は出土していない。

中段階(小溝状遺構群B2小期)

B2小期は、67 ～ 70・72 ～ 75グリッドに位置する。B1小期による影響もあるが、南側と北側は調査区外へ伸びる。ほぼ南北方向に15条(SM107・110・117・120・122・124・126・128・130・131・135・137・138・158・159)が並ぶ。分布範囲は南北幅1370cm、東西幅960cm、小溝状遺構間の距離は90 ～ 330cmである、各小溝状遺構の規模は、上端幅で11 ～ 40cm、下端幅で5 ～ 26cm、検出面からの深さは5 ～ 14cmである。底面の標高値はSM120の北端側で10.70ｍ、同南端側で10.85ｍ、SM158の北端側で10.82ｍ、同南端側で10.88ｍである。B2小期の主軸方位はN-2 ～ 5°-Eである。堆積土中から遺物は出土していない。

古段階(小溝状遺構B3小期)

B3小期は、67 ～ 70・72 ～ 75グリッドに位置する。B1・B2小期による影響もあるが、南北両端は調査区外へ伸びる。ほぼ南北方向に19条(SM106・114・118・125・132 ～ 135・139・140 ～ 144・156・157・160・161)が並ぶ。分布範囲は南北幅で950cm、東西幅で1100cm、小溝状遺構間の距離は30 ～ 180cmである。各小溝状遺構の規模は、上端幅で12 ～ 40cm、下端幅で4 ～ 30cmで、検出面からの深さは5 ～ 12cmである。底面の標高値は、SM134の北端側で10.70ｍ、同南端側で10.83ｍ、SM141の北端側で10.87ｍ、同南端側で10.85ｍである。B3小期の主軸方位はN-6 ～ 11°-Eである。堆積土中から遺物は出土していない。

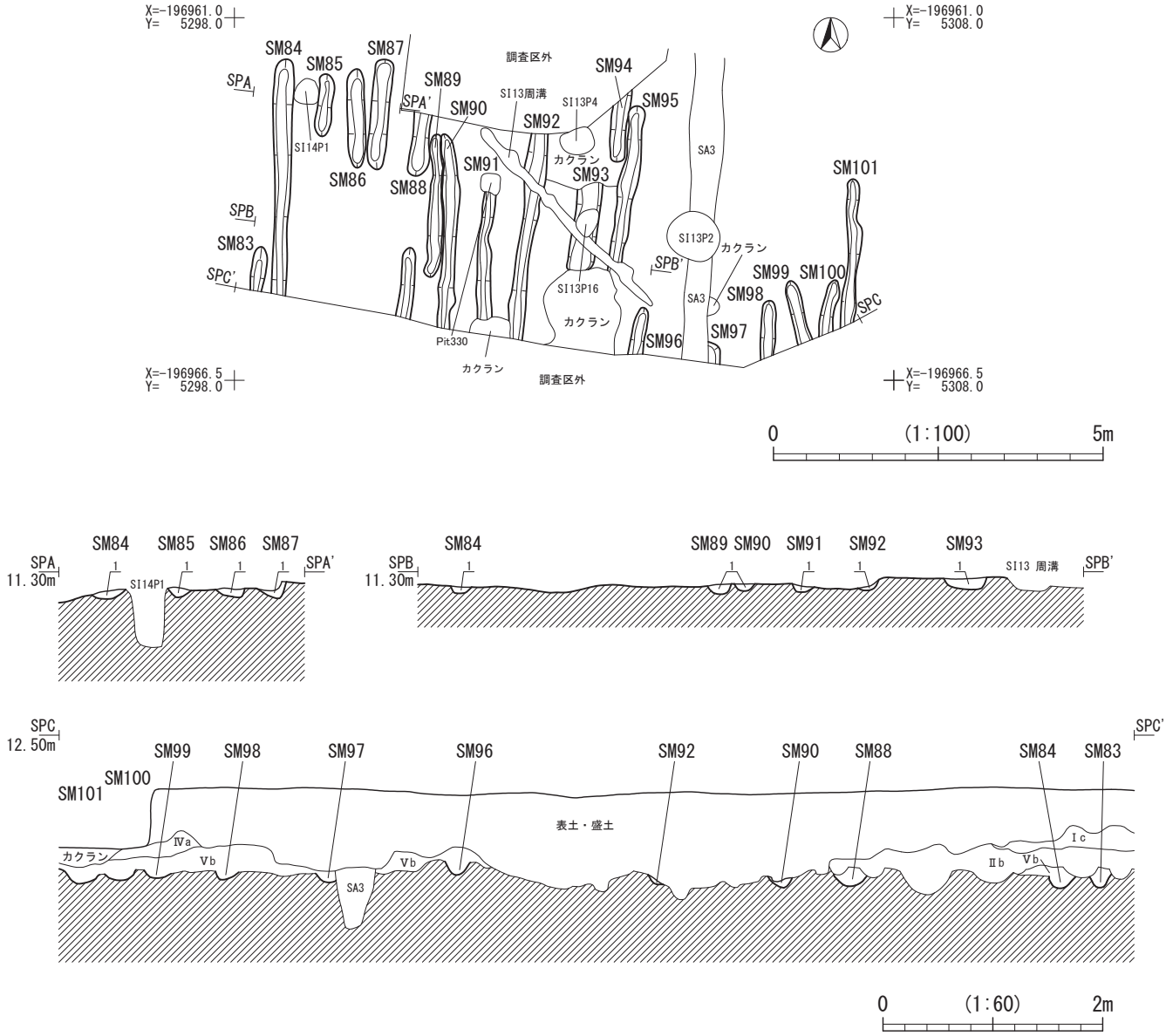
(2)溝跡(第149図)

窪地状地形2の調査中に発見された遺構で、検出面はⅤb層上面であるが調査区南壁面の土層観察ではⅣb層上面まで立ち上がることが明らかにされた。

SD5　溝跡(第149図)

SD5はⅣ区中央の51 ～ 55グリッドに位置し、重複する窪地状地形2よりも新しい。南側は調査区外へ伸びており、北側は河川により浸食される。Ⅳa層上面で検出された遺構の影響を受けており、破線で示した上端ラインは復元したものである。

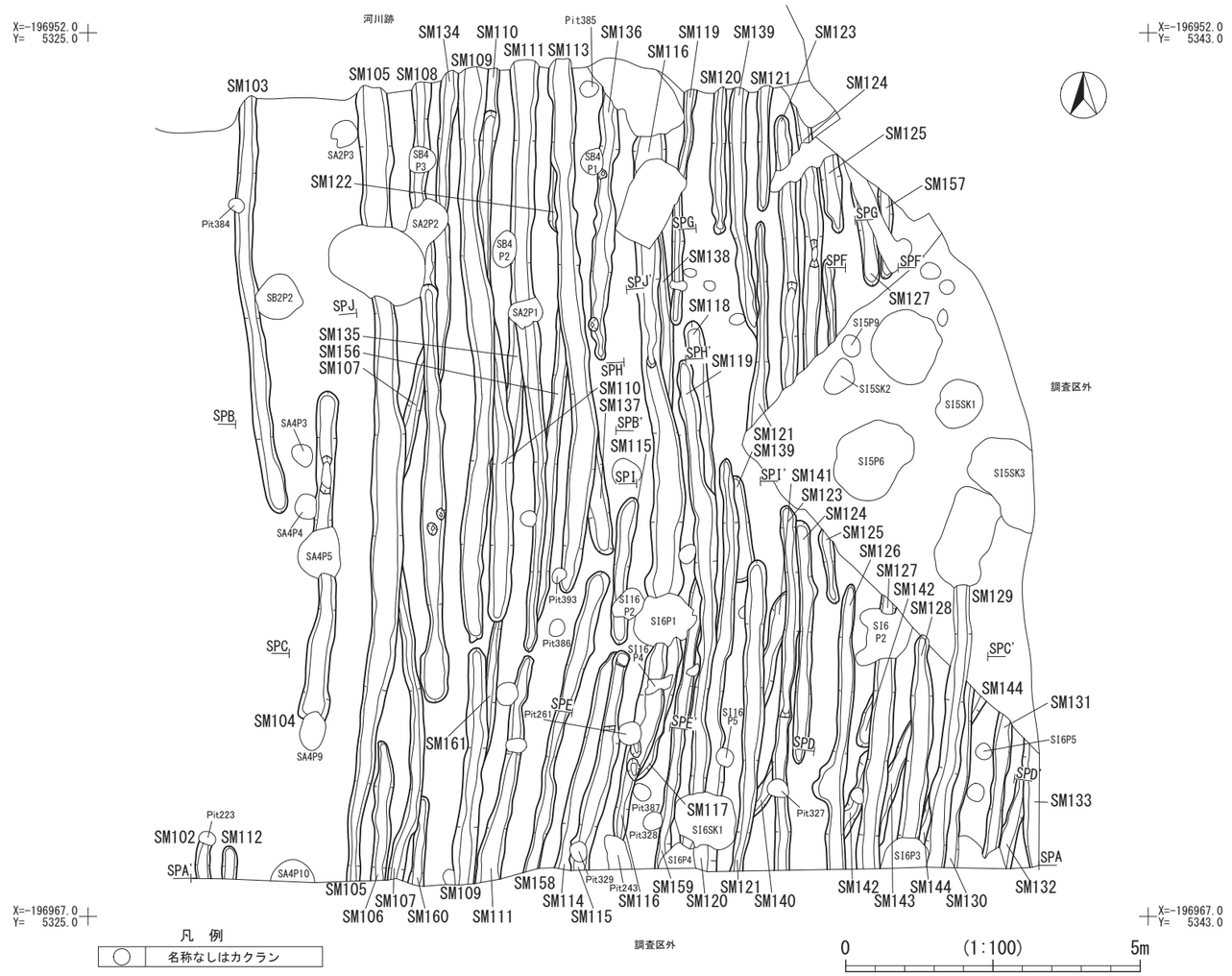
規模は検出長で約17ｍ、上端幅で150 ～ 340cm、下端幅で20 ～ 45cm、検出面からの深さは110 ～ 200cmである。



小溝状遺構Ａ群(Ⅵ層上面)　観察表

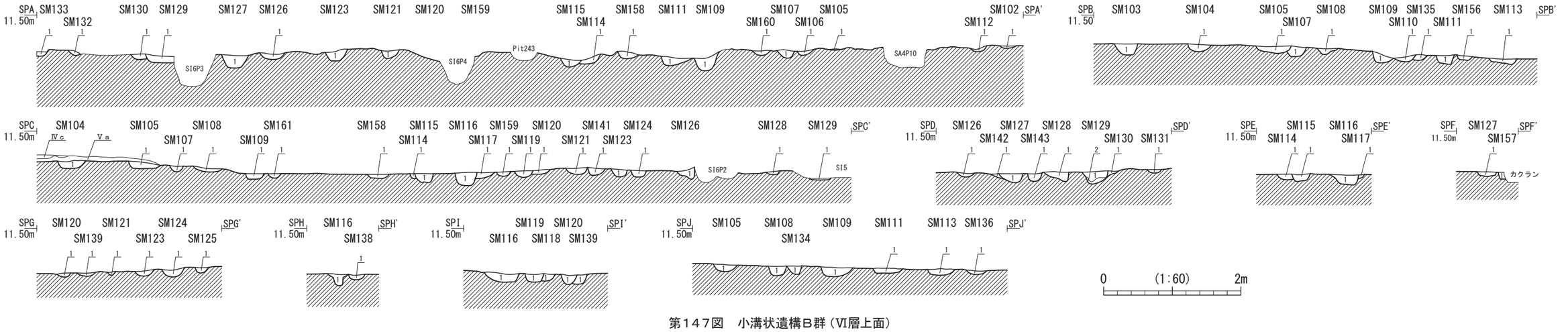
遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複 (旧→新)
SM83	42・43	N-7° -E	68 × 22	11	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM84	42・43	N-1° -E	359 × 31	8	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM84→SI14
SM85	42	N-4° -E	95 × 25	9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM85→SI14
SM86	42	0°	150 × 27	5	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM86→SI14
SM87	42	N-4° -E	168 × 27	12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM87→SI14
SM88	42・43	N-6° -E	313 × 31	9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM89	42	N-2° -E	218 × 23	6	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM90	42・43	N-1° -E	296 × 27	8	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM91	42・43	N-1° -E	195 × 22	10	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM91→Pit330
SM92	42・43	N-6° -E	316 × 34	14	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM92→SI13
SM93	42	N-7° -E	133 × 41	12	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM93→SI13
SM94	42	N-6° -E	105 × 26	6	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM94→SI13
SM95	42	N-7° -E	258 × 29	7	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM95→SI13
SM96	43	N-10° -E	72 × 22	11	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM97	55	N-1° -E	31 × 18	13	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	SM97→SA3
SM98	55	N-2° -E	87 × 22	9	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM99	54・55	N-15° -W	96 × 23	7	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM100	54・55	N-12° -E	85 × 21	10	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	
SM101	54・55	N-1° -E	222 × 23	5	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量含む。	

第１４６図　小溝状遺構Ａ群（Ⅵ層上面）



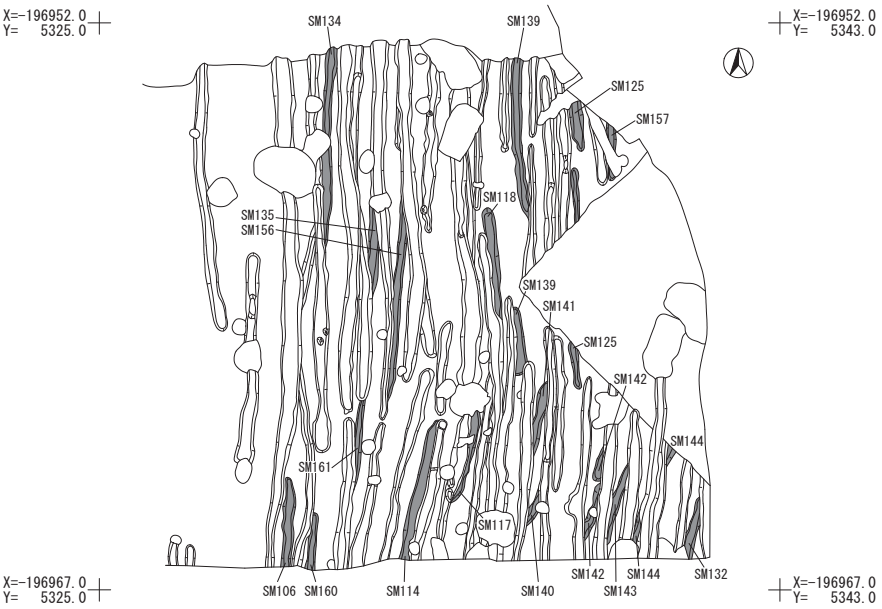
小溝状遺構B群(Ⅵ層上面) 観察表

遺構名	グリッド	方向	規模 (cm)	深さ	層位	土色	土性	備考	重複 (旧→新)
SM102	70	N-2°-E	63 × 19	3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM103	67 ～ 69	N-4°-W	709 × 36	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM104	68・69	N-3°-E	556 × 50	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM105	67 ～ 70	N-2°-E	1348 × 61	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM107 → SM105
SM106	69・70	N-2°-E	236 × 34	7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM107	68 ～ 70	N-3°-W	900 × 27	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM160→SM107→SM105・108
SM108	67 ～ 69	N-1°-W	1050 × 48	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM107・134 → SM108
SM109	67 ～ 70	N-1°-E	1386 × 51	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM110・134・161→SM109
SM110	67 ～ 69	N-3°-E	937 × 38	14	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM161→SM110→SM109
SM111	67 ～ 70	N-3°-E	1390 × 48	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM135・156→SM111
SM112	67 ～ 70	N-3°-E	53 × 22	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM113	67 ～ 69	N-1°-W	902 × 49	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM122・137・156→SM113
SM114	69・70	N-12°-E	380 × 29	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM114→SM115
SM115	68 ～ 70	N-12°-E	640 × 33	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM114→SM115
SM116	67 ～ 70	N-5°-E	1191 × 56	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM117・138→SM116
SM117	69・74	N-15°-E	250 × (25)	9	1	10YR5/2 暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト塊を少量含む。	SM117→SM116
SM118	73	N-6°-W	291 × 32	3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM138→SM119・120→SM118→SI6
SM119	67	N-1°-E	1284 × 42	13	1	10YR5/2 暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト塊を少量含む。	SM118・120・138・159→SM119
SM120	72 ～ 75	N-1°-E	1328 × 40	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM139 → SM120 → SM119
SM121	72 ～ 75	N-2°-E	1331 × 38	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM139・140・141 → SM121
SM122	74・75	N-10°-E	102 × (14)	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM122 → SM113
SM123	72 ～ 75	N-1°-E	1280 × 29	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM124・140・141 → SM123
SM124	72 ～ 74	N-1°-E	1109 × 35	12	1	10YR5/2 暗灰黄色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM124 → SM123
SM125	72 ～ 74	N-2°-W	761 × 34	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM126	74・75	N-3°-E	481 × 32	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM142 → SM126
SM127	72 ～ 75	N-1°-W	1160 × 40	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM142・143 → SM127
SM128	74・75	N-4°-E	345 × 41	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM143・144 → SM128
SM129	74・75	N-5°-E	482 × 39	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM130・144 → SM129
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
SM130	74・75	N-5°-E	316 × (23)	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM144 → SM130 → SM129
SM131	74・75	N-7°-E	246 × 30	5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM132 → SM131
SM132	74・75	N-15°-E	149 × 26	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM132 → SM131・133
SM133	74・75	N-1°-E	220 × 29	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM132 → SM133
SM134	67・68	N-2°-E	520 × 31	15	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM109 → SM134 → SM108
SM135	68	N-8°-E	208 × 27	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM135 → SM110・111
SM136	67・68	N-1°-E	464 × 37	13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	
SM137	68・69	N-9°-W	199 × 38	12	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM137 → SM113
SM138	68	N-3°-W	298 × (21)	6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM138 → SM116
SM139	72 ～ 74	N-1°-W	838 × 28	8	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ1cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を少量含む。	SM139 → SM120・121
SM140	74・75	N-33°-E	57 × 27	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cm の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	SM140 → SM121・123
SM141	74・75	N-21°-E	117 × 25	9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cm の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	SM141 → SM121・123
SM142	74・75	N-13°-E	197 × 25	10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cm の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	SM142 → SM126・127
SM143	74・75	N-21°-E	158 × 24	11	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cm の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	SM143 → SM127・128
SM144	74・75	N-22°-E	271 × 28	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ2 ～ 3cm の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	SM144 → SM128・129・130
SM156	68・69	N-5°-E	530 × 22	7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM156 → SM111・113
SM157	72・73	N-1°-W	152 × 23	8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM158	69・70	N-13°-E	520 × 39	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM159	69・70・74	N-7°-E	498 × 24	6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM159 → SM119
SM160	69・70	N-6°-E	150 × 37	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM160 → SM107
SM161	69	N-7°-E	248 × 19	6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cm の 2.5Y7/6 明黄褐色シルト塊を微量含む。	SM161 → SM110 → SM109

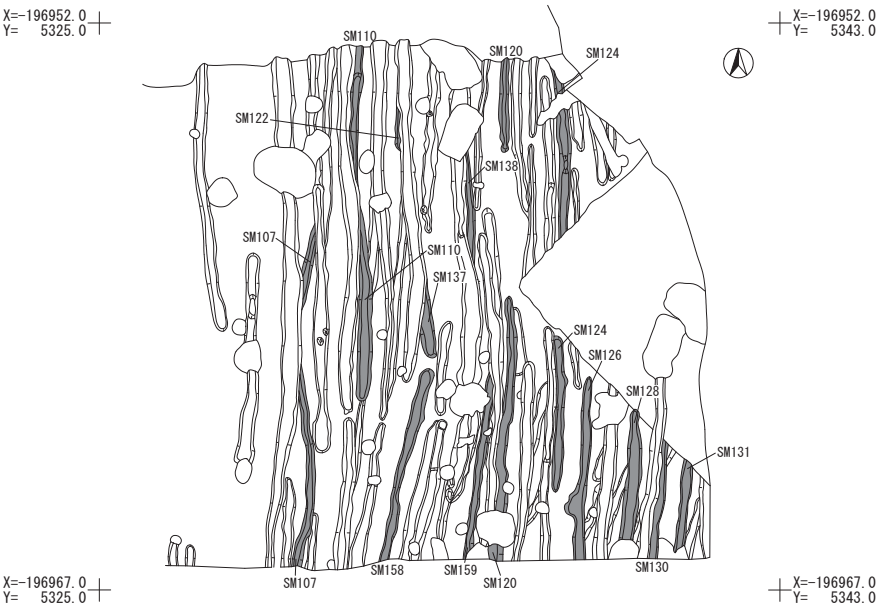


第147図 小溝状遺構B群(Ⅵ層上面)

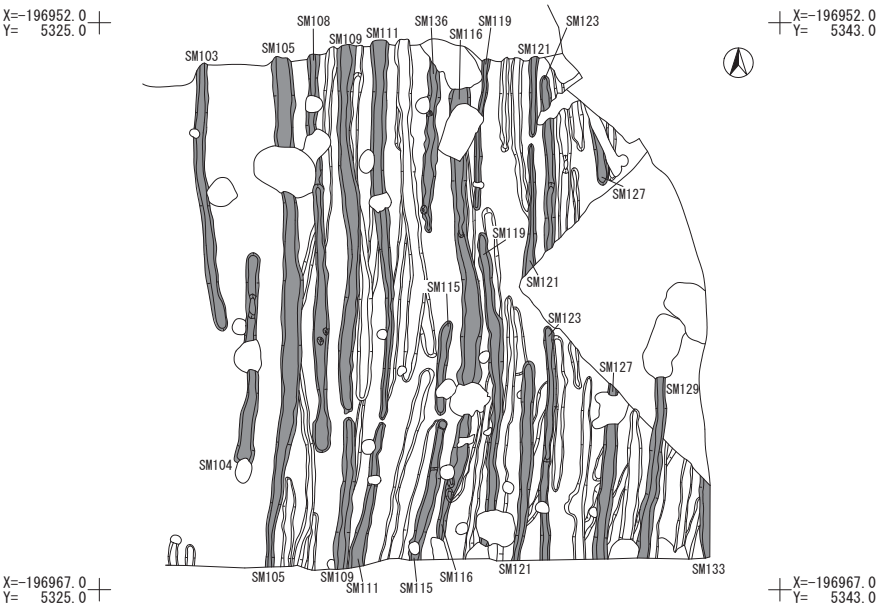
古段階
（B3小期）



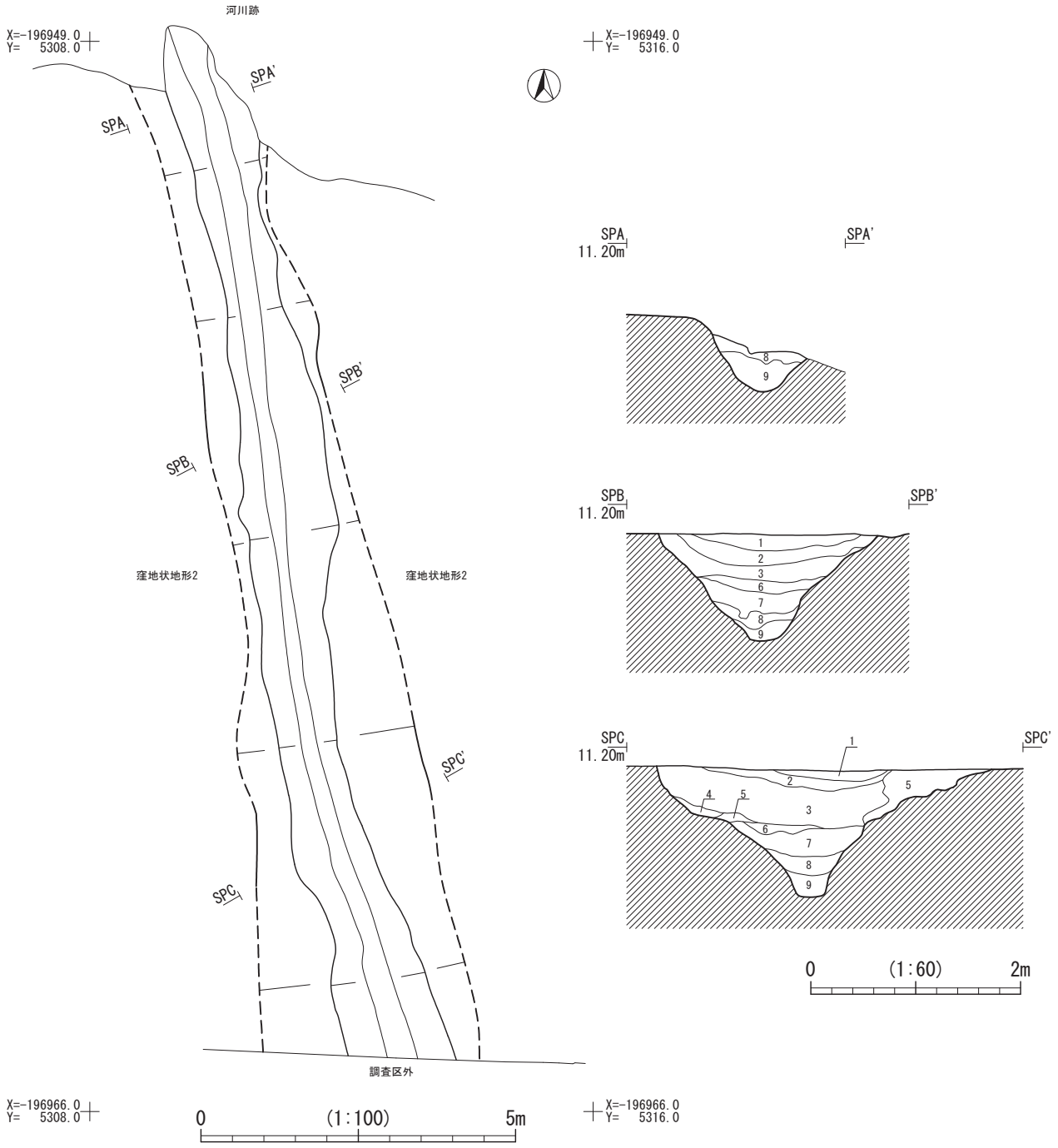
中段階
（B2小期）



新段階
（B1小期）



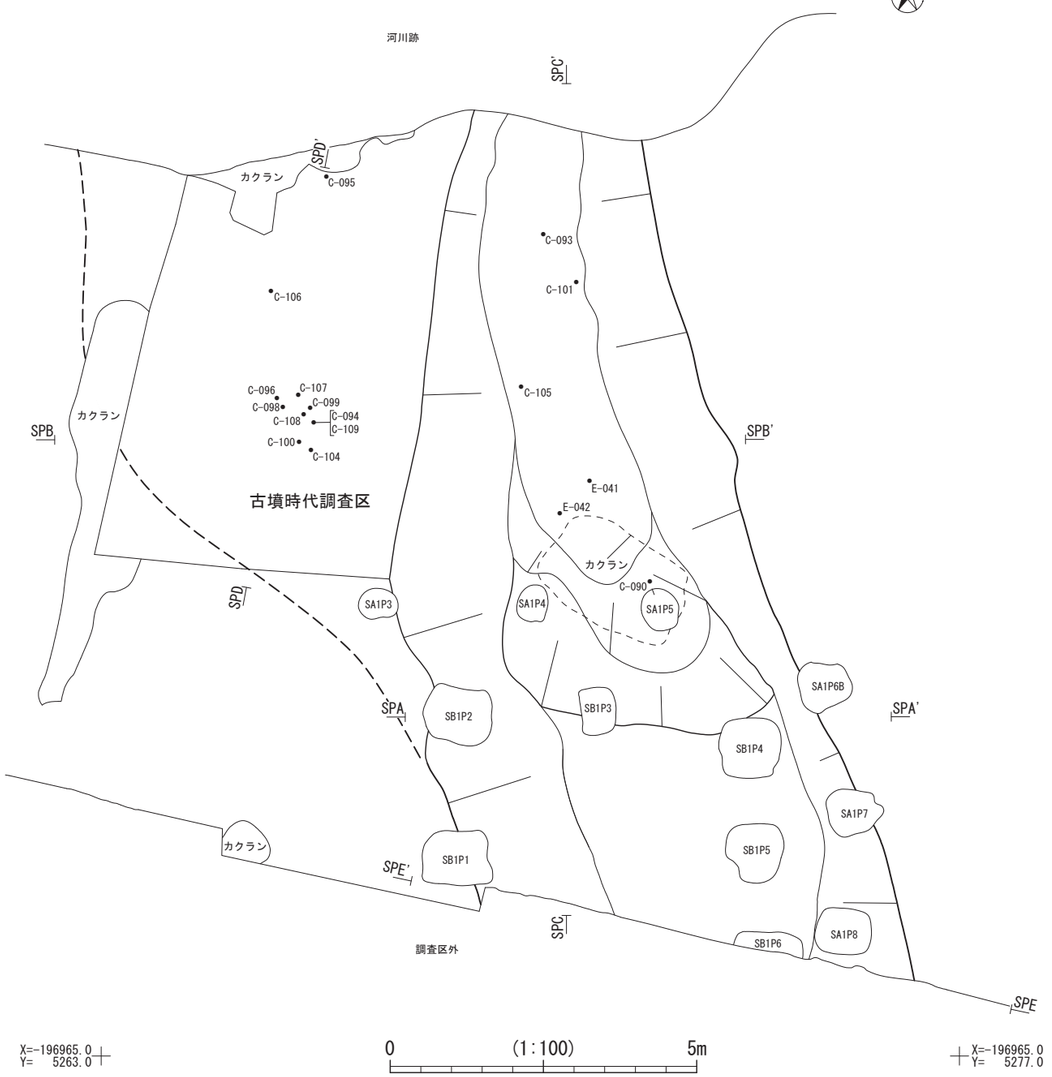
第１４８図　小溝状遺構Ｂ群変遷図

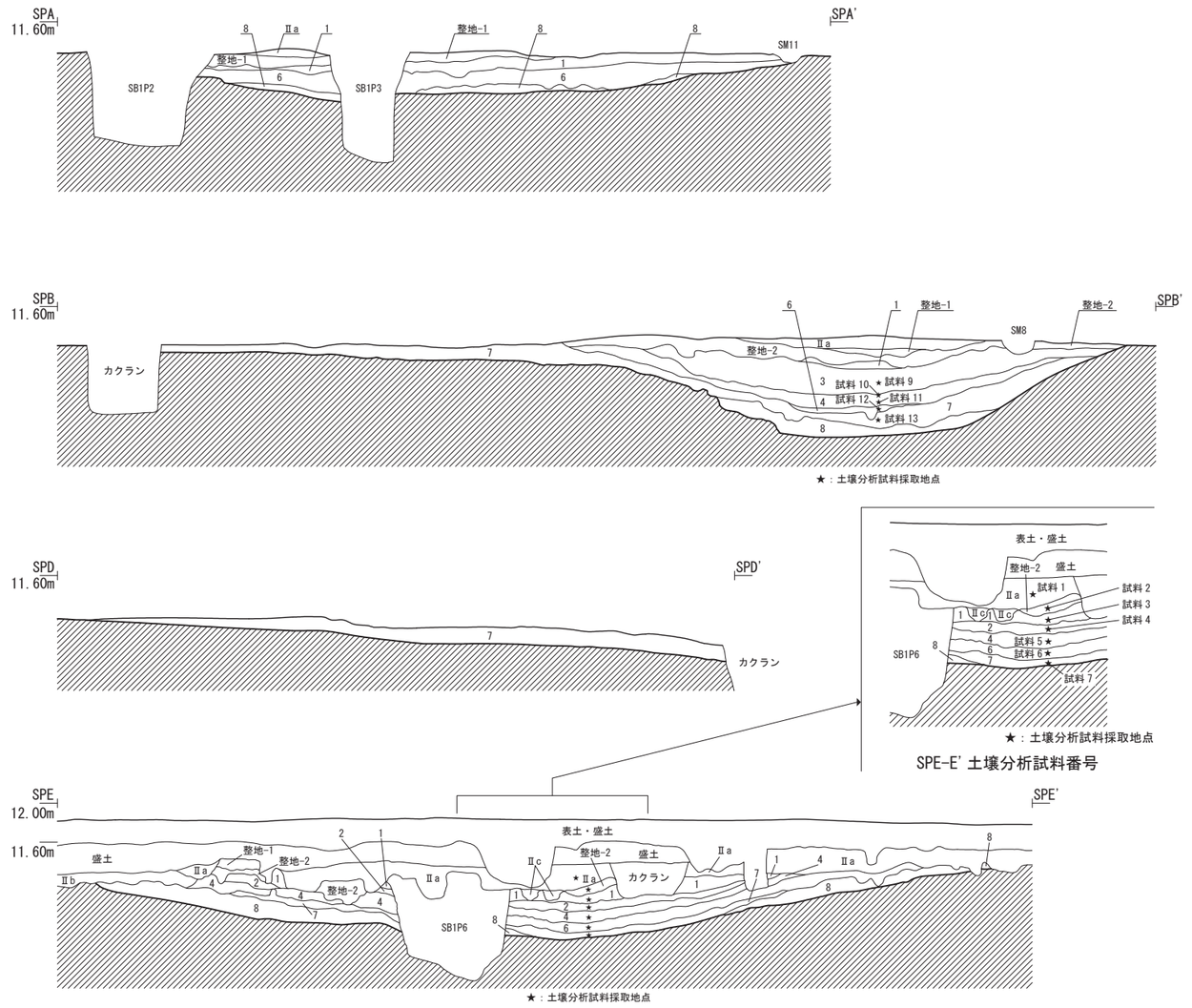


SD５溝跡　観察表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				検出長	上端幅	下端幅	深さ						
SD5	Ⅳ区	51 ～ 55	N-11° -W	1670	150 ～ 340	20 ～ 45	110 ～ 200	1	2.5Y7/3	浅黄色	砂質シルト	φ5 ～ 10㎜の 25Y6/3 にぶい黄色シルト塊を含む。	窪地状地形２ → SD5
								2	2.5Y7/2	灰黄色	シルト	φ5 ～ 10㎜の 25Y6/3 にぶい黄色シルト塊を多量に含む。	
								3	2.5Y7/2	灰黄色	粘土質シルト	φ5 ～ 10㎜の 25Y6/3 にぶい黄色粘土塊を多量に含む。	
								4	2.5Y7/3	浅黄色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の酸化鉄粒（5YR4/4 にぶい赤褐色）を含む。	
								5	2.5Y7/1	灰白色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の酸化鉄粒（5YR4/4 にぶい赤褐色）を多量に含む。	
								6	2.5Y7/4	浅黄色	砂質シルト	φ3 ～ 5㎜の酸化鉄粒（5YR4/4 にぶい赤褐色）を含む。	
								7	2.5Y7/1	灰白色	粘土	φ3 ～ 5㎜の酸化鉄粒（5YR4/4 にぶい赤褐色）を多量に含む。	
								8	2.5Y7/2	灰黄色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の酸化鉄粒（5YR4/4 にぶい赤褐色）を多量に含む。	
								9	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の酸化鉄粒（5YR4/4 にぶい赤褐色）を含む。溝底面及び側面は酸化鉄（5YR4/6 赤褐色）を形成。底面に 5YR4/6 赤褐色粗砂が薄く堆積。	

第１４９図　Ⅳ区ＳＤ５溝跡





窪地状地形１　堆積土註記表

層位	土色		土性	備考
Ⅱａ	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3㎜の 2.5Y5/6 黄褐色シルト粒を微量含む。締まりと粘性が弱い。
整地 -1	10YR4/4	褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物と白色粘土塊をやや多く含む。締まりが強く、粘性を有する。本層上面が SB1 検出面。
整地 -2	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の 2.5Y7/8 黄色シルト塊を少量含む。締まりが弱く、粘性を有する。
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。締まりが弱く、粘性を有する。本層上面が SA1 検出面。
2	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ3 ～ 5㎜の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊を少量含む。
3	10YR3/3	暗褐色	シルト	締まりと粘性を有する。
4	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。
5	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	φ1 ～ 2㎝の 2.5Y5/4 黄褐色シルト塊をやや多く含む。
6	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	締まりが弱く、粘性を有する。
7	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を微量、2.5Y5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	2.5Y7/1 灰白色シルト塊を少量含む。

第１５０図　Ⅳ区窪地状地形１

溝跡は北西－南東方向に直線的に走向し、主軸方位はN－12°－Wである。

堆積土は9層に分層される。1・2層は黄色系のシルト塊を含む層、3層は黄色粘土塊を多量に含む層、4～9層は酸化鉄を含む層で、溝跡の側壁及び底面には酸化鉄の集積が認められる。堆積土中から遺物は出土していない。

(3)窪地状地形(第150～156図)

窪地状地形は2ヶ所で確認された。調査当初は性格不明遺構(SX1・SX18)として扱ったが、人為的な掘削痕跡が認められなかったことから自然の窪地状地形として報告する。また、窪地及びその周辺からは古墳時代前期から中期の遺物が主に出土している。西側で発見された窪地(SX1)を窪地状地形1、東側で発見された窪地(SX18)を窪地状地形2とする。

窪地状地形1・2は、南から北へなだらかに傾斜している。窪地間の距離は約30mを測る。窪地状地形2の上面には基本層Ⅳ層が堆積しており、窪地の堆積土である3層からは古墳時代前期の遺物が出土した。一方、窪地状地形1の堆積土中及び隣接地西側の平坦面からは主に古墳時代前期から中期の遺物が出土した。

窪地状地形1では、堆積土の下層に腐植土の堆積が認められたことから、この地形の環境変化と性格をさぐるため土壌分析を実施した。採集地点は調査区南壁と窪地内の東西土層断面の2ヶ所で、分析結果を第9章に掲載した。

窪地状地形1(第150～154図)

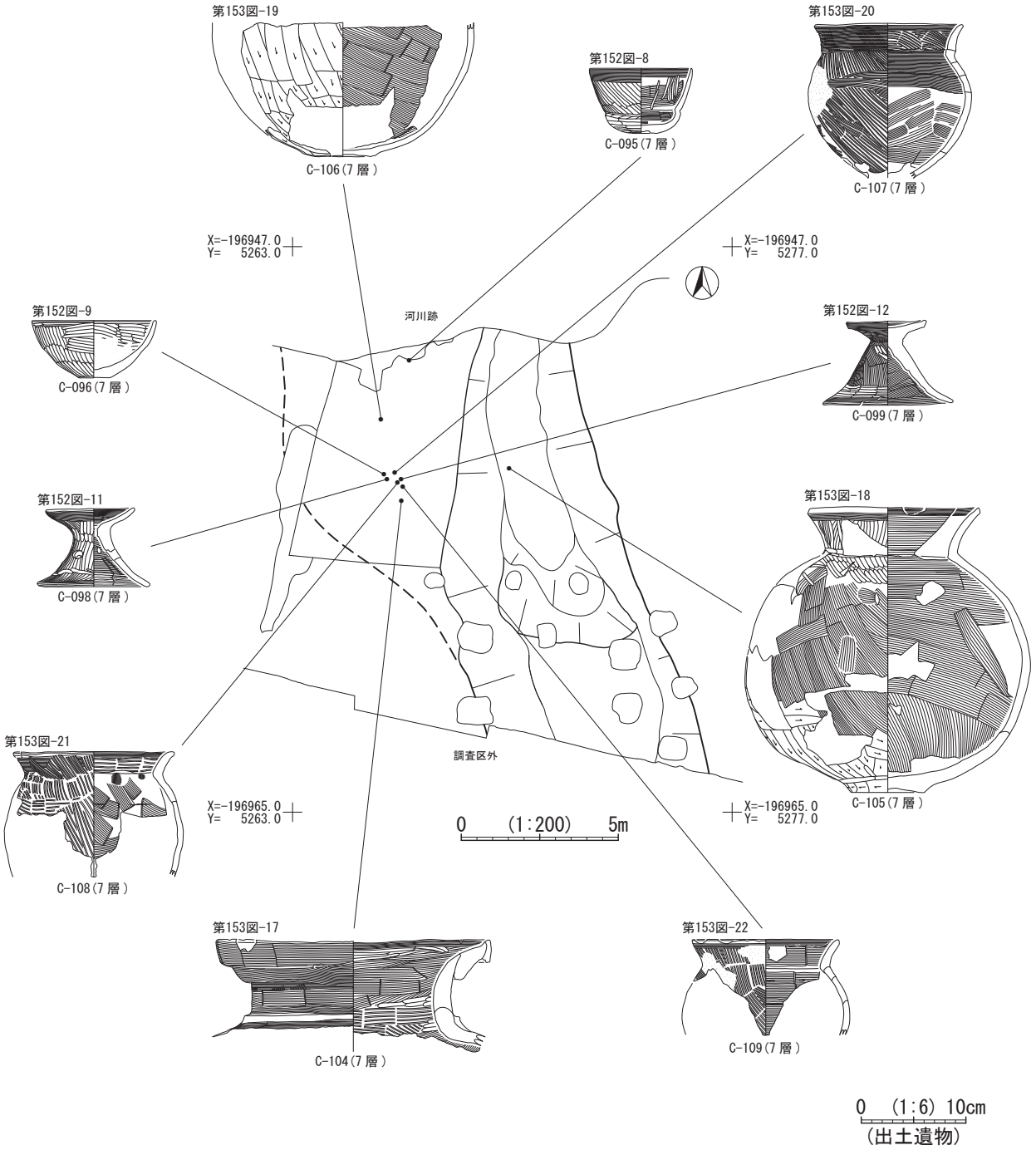
Ⅳ区西側の18～21グリッドに位置し、南側は調査区外へ伸びており、北側は河川により浸食されている。他遺構との重複関係では、SA1柱穴列・SB1掘立柱建物跡よりも古い。窪地状地形1の上面にはSB1掘立柱建物跡構築の際の整地層が確認された。窪地内からは主に古墳時代前期から中期の土師器類が出土し、石製模造品や土製紡錘車、丸玉なども含まれていた。また、窪地状地形から続く西側の平坦面上に堆積土7層が広がっており、遺物が出土している。

窪地状地形の形状は南側が広く、北側が狭まっている。検出された範囲内での規模は、南北長で約14.4m、南側上端幅で約6.4m、同下端幅で3.40～3.70m、北側上端幅で約2.8m、同下端幅で1.30m、検出面からの深さは42～105cmである。南側底面の標高値は10.60m、北側底面では10.60m、中央付近の底面では10.32mである。

窪地内に形成された堆積土は8層に分層される。1層は黒褐色シルト、2層は暗褐色シルト、3・4層は暗褐色シルト及び砂質シルト、5層は黄褐色シルト、6層は黒褐色粘土質シルト、7層は黄灰色シルト、8層は暗灰黄色シルトである。主に遺物が出土した層位は6層から7層で、最下層の8層は無遺物であった。

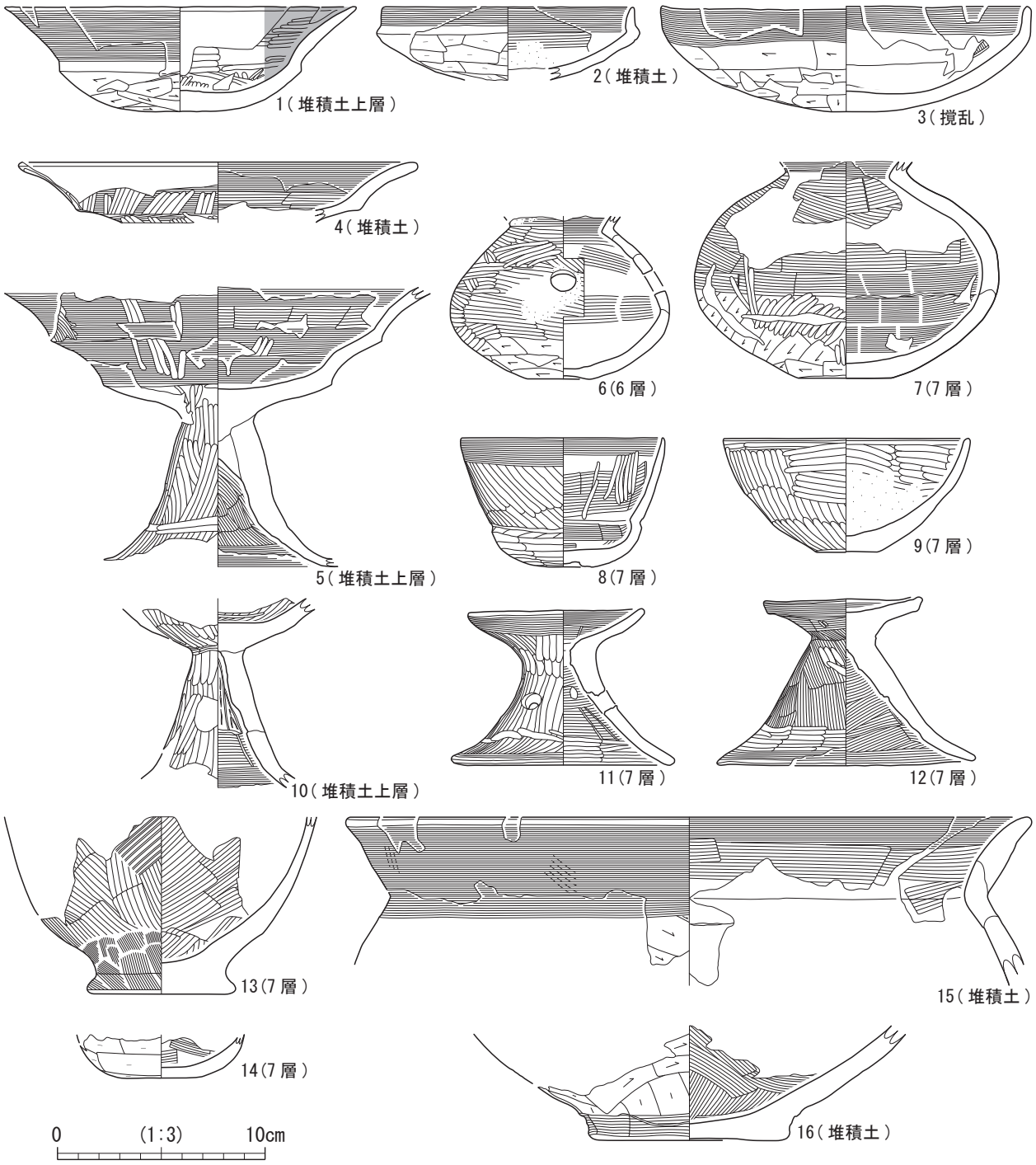
[出土遺物] 窪地状地形1の堆積土中及び西側隣接地の平坦面を中心に出土した。遺物は土師器を主体に石製模造品や土製紡錘車、丸玉、礫石器などである。層位的には堆積土の下層(6・7層)及び西側隣接地の平坦面(7層)を中心に古墳時代前期の土師器類がまとまって出土した。その中には石製模造品も含まれる。中層(3・4層)からは古墳時代中期の土師器や須恵器などが多少出土し、上層(1・2層)からは古墳時代後期～終末期の遺物が出土している。また、窪地状地形の上面に形成された整地層からは古墳時代終末期の須恵器の坏・高盤などが出土している。これらのうち土師器類23点(1～23)、須恵器類5点(24～28)、土製品2点(29・30)、鉄製品1点(31)、礫石器2点(32・33)、石製品5点(34～38)の計38点を掲載した(第152～154図)。土器の時期は、古墳時代前期が8～12・15～23、同中期が4～7・13・14・27・28、同後期が1～3、同終末期が24～26である。以下、古墳時代前期の遺物より説明する。

8～12・15～23は古墳時代前期の土師器と考えられる。8は小型丸底坩である。外面調整は口縁部上半がヨコナデ、同下半と体部・底部はヘラミガキである。内面は口縁部上半がヨコナデ、同下半と体部がヘラナデで、一部がヘラミガキされる。口径9.7cm、器高6.2cm。9は小型鉢で、器面調整は内外面ともヘラミガキされる。口径11.8cm、底径3.5cm、器高5.4cm。11・12は小型器台で、受け部は皿状を呈し、脚部は「ハ」字状に開く。11の脚部には円形の透かし穴が3孔穿たれ、受け部と脚部は貫通する。11の外面調整は口縁部ヨコナデ、脚部はヘラミガキ、脚端部がヨコナデである。内面は口縁部ヨコナデ、脚部はヘラナデ、脚端部がヘラミガキである。12の外面調整は受け部と脚



第151図　Ⅳ区窪地状地形1遺物出土位置図

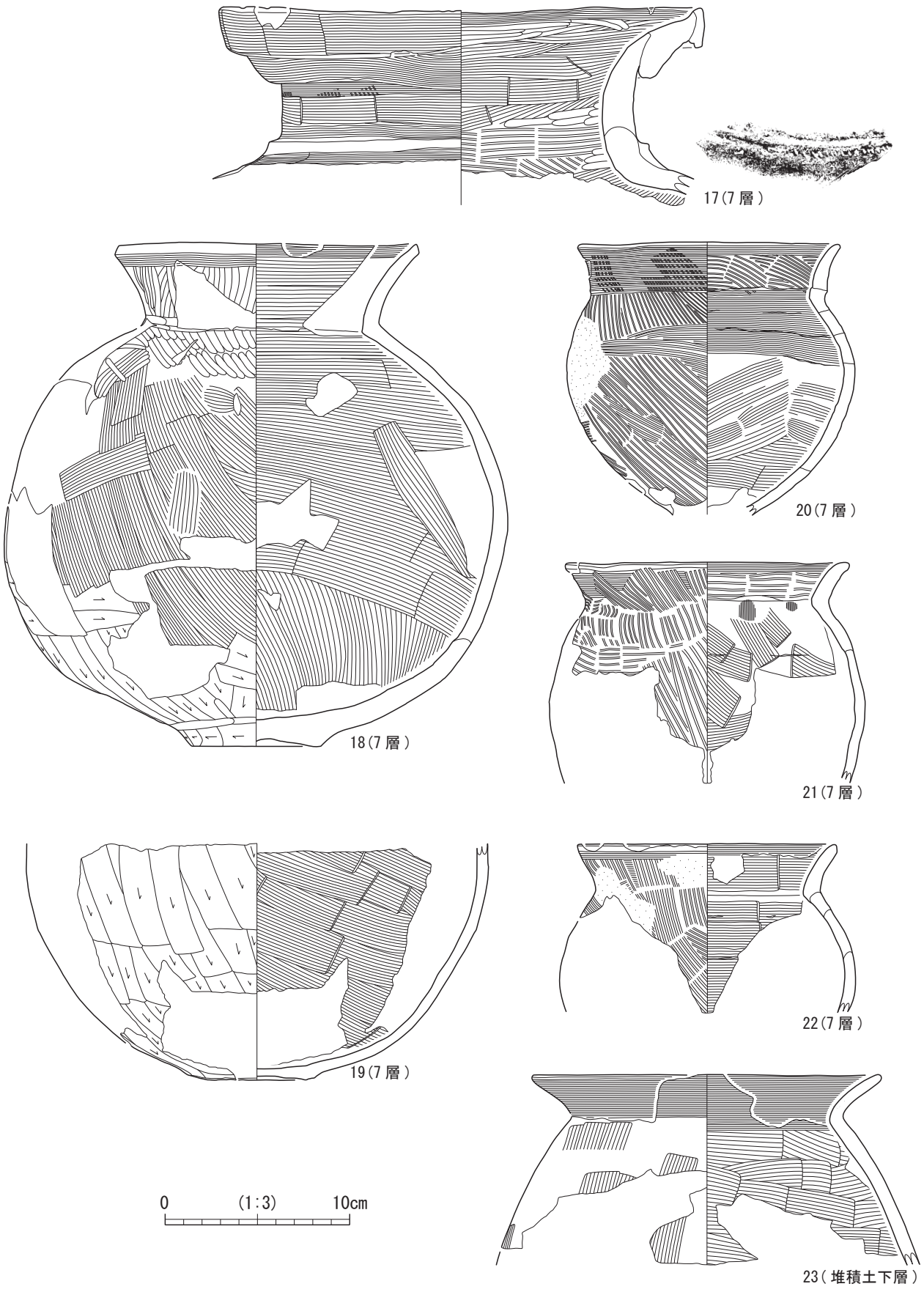
端部がヨコナデで、脚部はヘラナデとヘラミガキである。内面は受け部・脚部ともヘラナデ、脚端部はヨコナデである。11は口径9.4cm、底径10.8cm、器高7.8cm、12は口径7.6cm、底径12.5cm、器高8.1cmを測る。15・16・19～23は甕で、15は大型甕、20～22は小型甕である。15の口縁部は「く」字状に外傾し、口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ、内面はヨコナデの後にヘラナデされる。復元口径は33.0cm。20～22は小型甕で、口縁部は「く」字状に外傾し、胴部に最大径を有する。20～22とも口縁部はヨコナデ、胴部はハケメで、21・22の口縁部にはハケメが加えられる。内面は口縁部ヨコナデ、胴部はヘラナデである。20は口径14.2cm、21は口径15.2cm、22は復元口径14.0cm。23は口縁部が強く外反し、胴部に最大径を有する。器面調整は内外面とも口縁部がヨコナデ、胴部がヘラナデである。復元口径18.8cm。16・19は甕の底部片と考えたものであるが壺の可能性も残す。16の底径は9.6



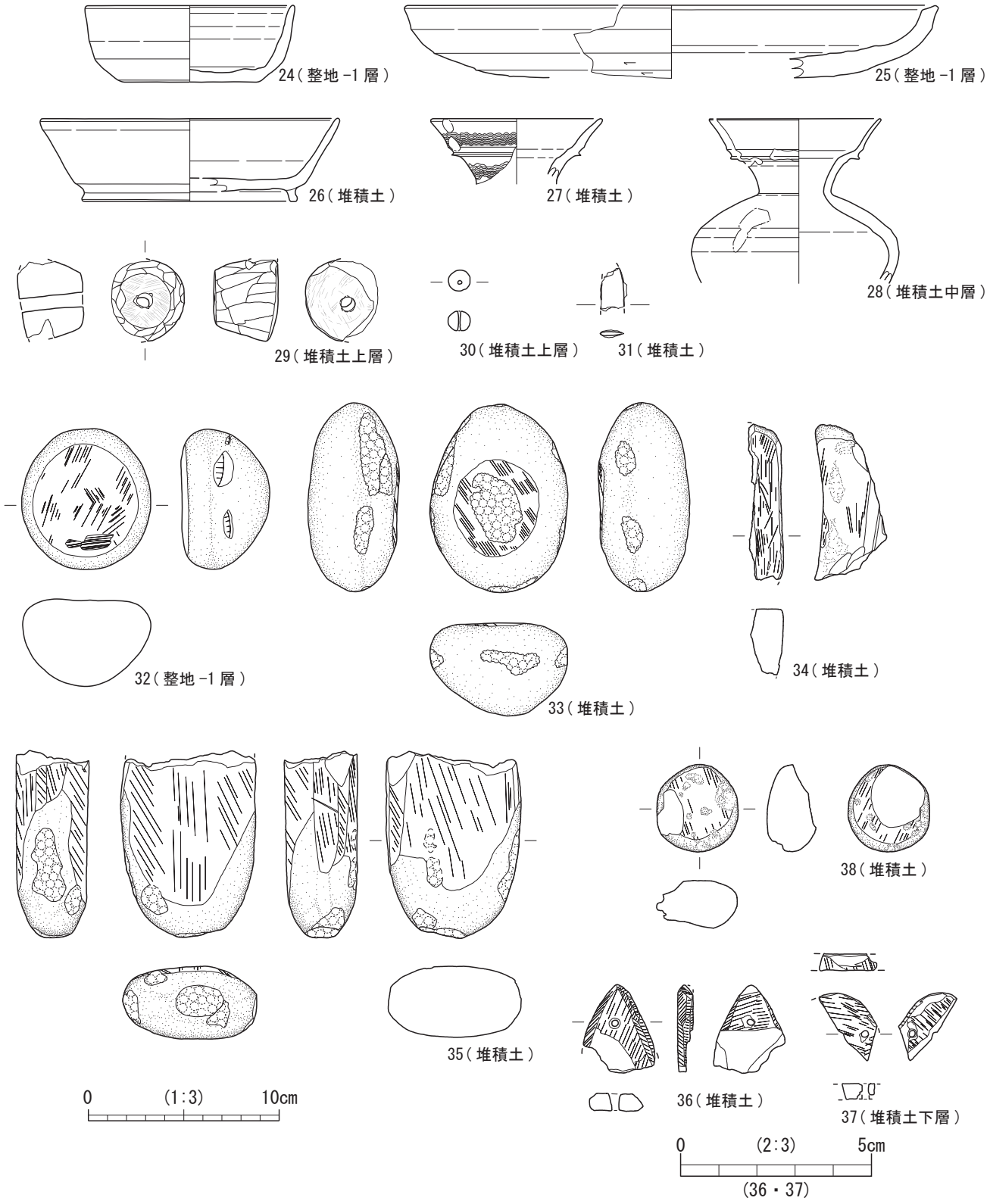
第152図　Ⅳ区窪地状地形１出土遺物（１）

cm、19の底径は6.9cm。17は複合口縁の大型壺で、口縁部のみ現存する大破片である。頸部は直立ぎみに立ち上がり、口縁部は強く外反し、複合部が形成される。頸部直下には断面三角形の低い凸帯がめぐり、一部にキザミが施される。外面調整は頸部がヨコナデ、複合部と胴部がヘラナデである。内面は口縁部ヘラナデ、胴部はハケメである。18は直口縁の広口壺で、口縁部は「く」字状に外反し、胴部は球形状をなす。底部は小さく、上げ底風である。外面調整は口縁端部がヨコナデ、頸部がヘラミガキ、胴部はヘラナデで、下半がヘラケズリである。内面は口縁端部がヨコナデであるが、それ以外はヘラナデである。口径は25.9cm。

4～7・10・13・14・27・28は古墳時代中期の遺物と考えられる。4・5・10は土師器高坏、6・7は土師器鉢、13・14は土師器甕、27・28は須恵器鉢である。4・5の高坏は口縁部が大きく外反し、坏部下半に稜が形成され、5の坏部



第153図　Ⅳ区窪地状地形１出土遺物（２）



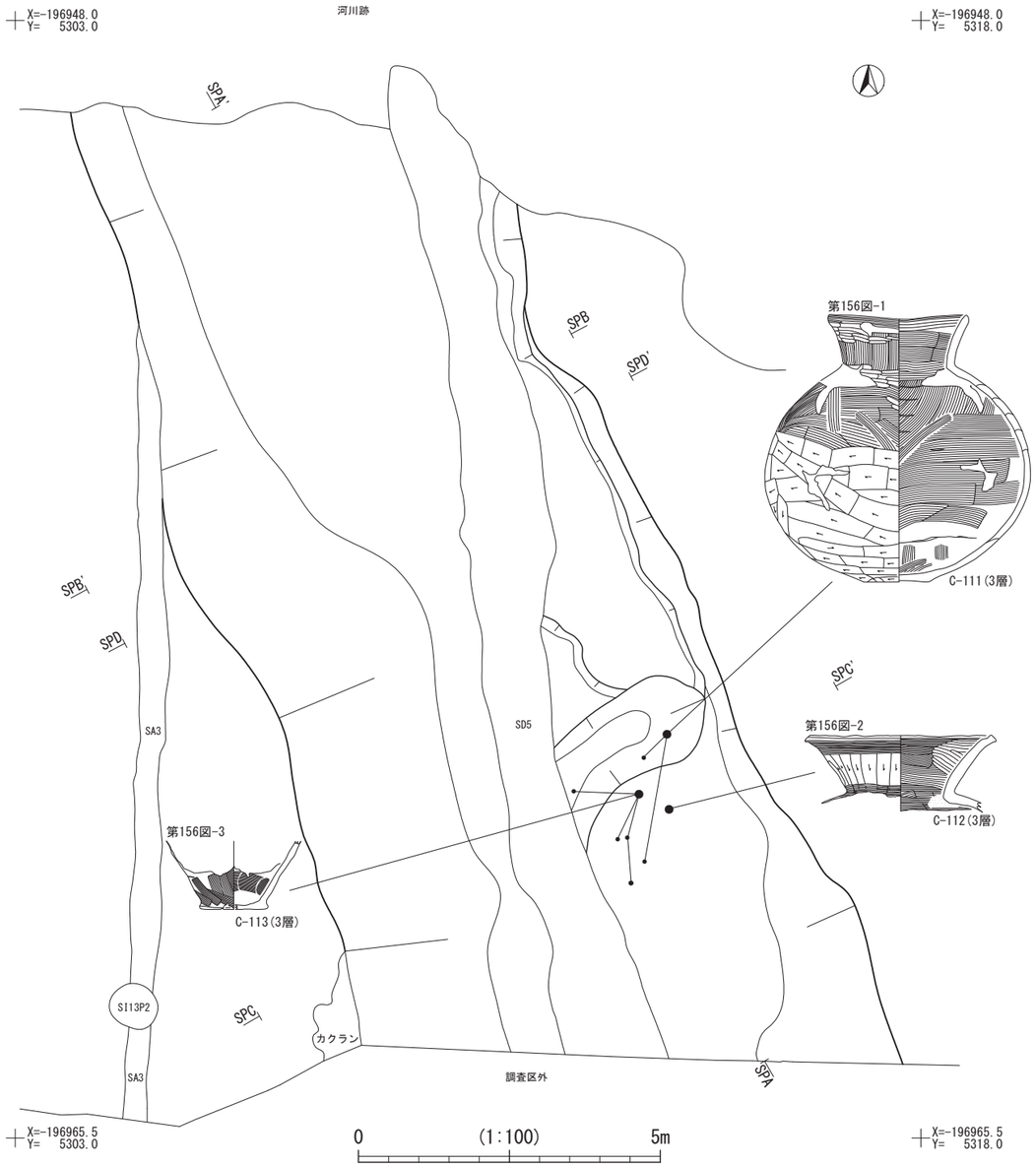
第１５４図　Ⅳ区窪地状地形１出土遺物（３）

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-088	Ⅳ区	窪地状地形1	上層	土師器	坏	口縁～底部1/2弱	(17.0)	–	5.0	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコヘラミガキ・底部ヘラミガキ→黒色処理		41
2	C-089	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	土師器	坏	口縁小片	(12.0)	–	(3.5)	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ナデ	関東系	41
3	C-090	Ⅳ区	窪地状地形1	撹乱	土師器	坏	口縁～底部1/2強	17.7	–	5.0	口縁部ヨコナデ、底部横位ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、底部ナデ		41
4	C-091	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	土師器	高坏	口縁1/2	(19.2)	–	(3.5)	口縁部～体部ヨコナデ→タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ		41
5	C-092	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	土師器	高坏	口縁～脚台部1/2	–	–	(13.4)	受部：口縁部～体部ヨコナデ→部分的にタテヘラミガキ、脚台部タテヘラミガキ	受部：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ→一部タテヘラミガキ脚台部：斜位ヘラナデ、端部ヨコナデ		41
6	C-093	Ⅳ区	窪地状地形1	6層	土師器	甕	頸部～底部残存	–	3.1	(7.8)	頸部ヨコナデ、胴部上半ヨコヘラミガキ・下半横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	頸部ヨコナデ、胴部横方向のナデ	胴部中位焼成前穿孔（径1.2）	41
7	C-094	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	甕	頸部～底部残存	–	4.4	(10.4)	頸部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ・下半ヘラケズリ→一部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	頸部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ・下半横方向のナデ		41
8	C-095	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	坩	略完形	9.7	–	6.2	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、胴部ヨコヘラケズリ、底部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、横位ヘラナデ→一部ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ		41
9	C-096	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	鉢	口縁～底部約2/3	11.8	3.5	5.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	体部ヨコヘラミガキ、底部剥離		41
10	C-097	Ⅳ区	窪地状地形1	上層	土師器	高坏	坏～脚部	–	–	(9.1)	坏部・脚部：タテヘラミガキ（接合部横位ヘラミガキ）	坏部：放射状ヘラミガキ、脚部ンボリメ・横位ヘラナデ、単部ヨコナデ		42
11	C-098	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	器台	略完形	9.4	10.8	7.5	受部：口縁部ヨコナデ、体部タテヘラミガキ、脚台部：タテヘラミガキ、端部ヨコナデ	受部：口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラナデ、脚台部：ヘラナデ、下部ヨコヘラミガキ、端部ヨコナデ	脚台部中段貫通孔3、孔径8～9㎜	42
12	C-099	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	器台	略完形	7.6	12.5	8.1	受部：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、脚台部：縦位ヘラナデ、下部ヨコヘラミガキ、端部ヨコナデ	受部：口縁部ヨコナデ、見込部ナデ、脚台部：横位ヘラナデ、端部ヨコナデ	一部赤彩か	42
13	C-100	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	甕	胴部中位～底部	–	7.2	(8.5)	胴部斜位ハケメ・下半斜位ヘラナデ、底部ヘラナデ→一部ヘラミガキ	胴部斜位ヘラナデ		42
14	C-101	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	甕	胴部下半～底部	–	4.2	(2.1)	胴部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	胴部横位ヘラナデ		42
15	C-102	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	土師器	甕	口縁～胴部上半1/3	(33.0)	–	(8.3)	口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上半斜位ヘラケズリ	口縁部～頸部ヨコナデ→横位ヘラナデ	C-103と同一個体	42
16	C-103	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	土師器	甕	胴部下半～底部	–	9.6	(5.6)	胴部下半ヘラケズリ、下端横位ヘラナデ底部ヘラケズリ	胴部ヘラナデ	C-102と同一個体	42
17	C-104	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	複合口縁壺	口縁～肩部	25.9	–	(10.7)	口縁部ヘラナデ、頸部縦位ハケメ→横位ヘラナデ、肩部一部キザミ	口縁部ヨコナデ、口縁部～肩部横位ヘラナデ→一部ヘラミガキ、頸部ハケメ		42
18	C-105	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	壺	略完形	16.0	7.0	22.2	口縁部タテヘラミガキ→ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、胴部上半斜位ヘラナデ・下半ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ・ヘラナデ、胴部上半横位ヘラナデ・下半縦位ヘラナデ		43
19	C-106	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	甕	胴部中位～底部1/3	–	6.9	(12.9)	胴部縦位ヘラケズリ、底部不定方向のヘラケズリ	胴部斜位ヘラナデ		43
20	C-107	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	小型甕	口縁～胴部下半残存	14.2	–	(14.9)	口縁部ヨコナデ、胴部斜位ハケメ	口縁部ヨコナデ→斜位ハケメ、胴部横位・斜位ヘラナデ		43
21	C-108	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	小型甕	口縁～胴部下半1/4	15.2	–	(11.9)	口縁部ヨコナデ、口縁部～胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ→横位ハケメ、頸部指頭押圧、胴部ヘラナデ		43
22	C-109	Ⅳ区	窪地状地形1	7層	土師器	小型甕	口縁～胴部下半1/2	(14.0)	–	(9.1)	口縁部ヨコナデ→口縁部～胴部縦位ハケメ	口縁部ヨコナデ→口縁部～胴部横位ヘラナデ		43
23	C-110	Ⅳ区	窪地状地形1	下層	土師器	甕	口縁～胴部上半	(18.8)	–	(10.3)	口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ		43
24	E-041	Ⅳ区	窪地状地形1	整地-1層	須恵器	坏	口縁～底部1/2	(10.8)	7.5	4.0	口縁部～体部ロクロナデ、底部ヘラ切り→ナデ	口縁部～底部ロクロナデ		44
25	E-042	Ⅳ区	窪地状地形1	整地-1層	須恵器	高盤	口縁～底部破片	(28.0)	(16.8)	(3.8)	口縁部～体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	口縁部～底部ロクロナデ		44
26	E-043	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	須恵器	高台付坏	口縁～底部1/5弱	(15.6)	(11.2)	4.3	口縁部～体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ→高台貼付→周縁ナデ	口縁部～底部ロクロナデ		44
27	E-044	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	須恵器	甕	口縁部	(9.0)	–	(3.4)	口縁部ロクロナデ→櫛描波状文2段	口縁部ロクロナデ	内外面自然釉付着	44
28	E-045	Ⅳ区	窪地状地形1	中層	須恵器	甕	口縁～胴部下半1/3弱	(9.0)	–	(8.6)	口縁部～胴部下半ロクロナデ	口縁部～胴部下半ロクロナデ	外面肩部・内面頸部塊状自然釉付着	44

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
29	P-07	Ⅳ区	窪地状地形1	上層	土製品	紡輪	上端径（2.8）	下端径（4.25）	3.4	（48.8）	1/2外面剥離　側面縦位ヘラケズリ　上下面擦痕顕著 中央円形棒軸孔貫通　孔径7.0～8.5㎜	44
30	P-08	Ⅳ区	窪地状地形1	上層	土製品	丸玉	直径1.1	–	1.0	1.07	完形　中央部に直径1㎜弱の円孔貫通（焼成前）	44

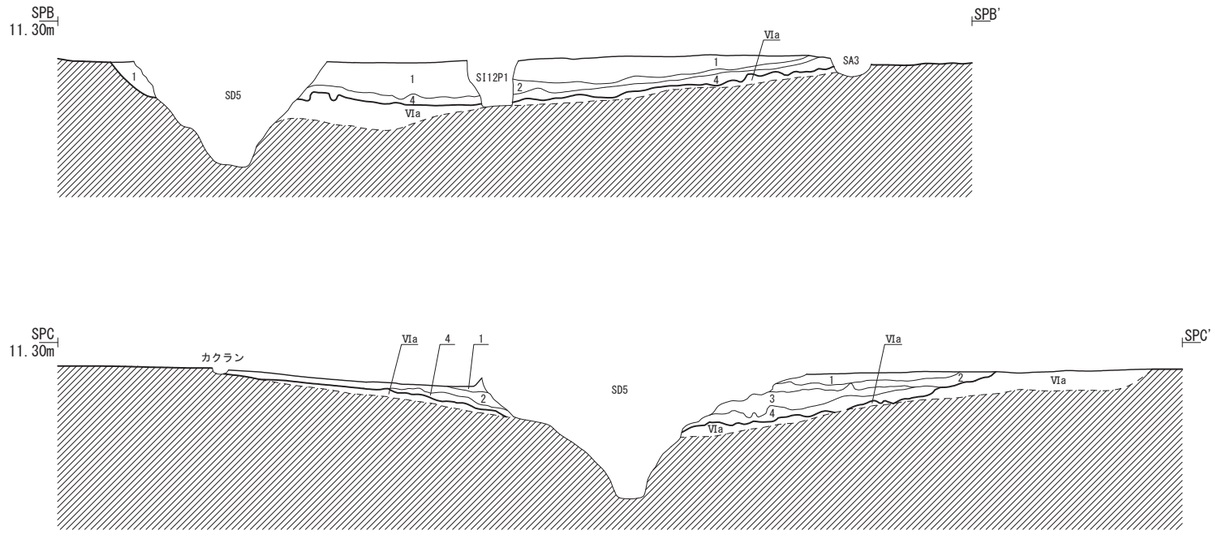
図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
31	N-07	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	金属製品	鏃	（2.5）	（1.2）	（0.2）	1.82	上下欠損　鋳化顕著	44

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
32	Kc-a-08	Ⅳ区	窪地状地形1	整地-1層	礫石器	磨石	12.3	9.2	5.6	913.1	流紋岩	完形　磨1（正）	44
33	Kc-c-08	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	礫石器	敲石	9.8	7.2	4.8	443.0	安山岩	完形　敲5（正上左右）、磨1（正）	44
34	Kd-a-13	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	石製品	砥石	（8.2）	（3.4）	（1.7）	55.6	凝灰岩	磨2（正右）	44
35	Kd-a-14	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	石製品	砥石	（9.3）	7.0	3.7	420.0	安山岩	上部欠損　磨4（正裏左右）、敲5（正裏左下）	44
36	Kd-e-07	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	石製品	剣形模造品	（2.35）	（1.85）	0.45	1.71	緑色片岩	破片　上半欠損　下半中央部に円孔1つ 孔径1.8～2.9㎜　正裏面擦痕	44
37	Kd-e-08	Ⅳ区	窪地状地形1	下層	石製品	鏡形模造品	（1.8）	（1.5）	0.4	0.95	緑色片岩	破片　大半欠損　中央部右に円孔1つ 孔径1.9～2.0㎜　正裏面擦痕	44
38	Kd-i-02	Ⅳ区	窪地状地形1	堆積土	石製品	軽石製品	4.5	4.3	2.5	15.5	流紋岩	略完形　正裏一部欠損　磨2（正裏）擦痕	44



窪地状地形２　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
窪地状地形２	1	2.5Y7/4	浅黄色	粘土質シルト	φ10 ～ 20mm の 2.5Y7/2 灰黄色粘土塊を含む。	
	2	2.5Y6/2	灰黄色	粘土質シルト	腐植土。φ2 ～ 3mm の炭化物を含む。	
	3	2.5Y6/6	明黄褐色	シルト	φ3 ～ 5mm の 2.5Y6/8 明黄褐色シルト物を多量に含む。	
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト	腐植土。φ3 ～ 5mm の炭化物を含む。	
基本層	Ⅵa	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。φ3 ～ 5mm の酸化鉄（5YR4/4 にぶい赤褐色）を少量含む。	



第１５５図　Ⅳ区窪地状地形２

は稜が2段である。脚部が残る5･10は裾部で大きく広がる。4･5の外面調整は、坏部がヨコナデの後にヘラミガキが加えられ、脚部はヘラミガキされる。内面は口縁部と脚端部がヨコナデ、坏部見込み部と脚部がヘラナデ。4の復元口径は19.2㎝、5の残存高は13.4㎝。10の高坏は脚部の資料で、坏部の大半は欠損している。外面調整はヘラミガキ、内面は坏部がヘラミガキ、脚部は上半がシボリメで下半がヘラナデである。6･7は瑞とみられる資料で、口縁部が欠損する。6の外面調整は胴部がヘラミガキで下半がヘラケズリ、底部はナデである。内面はナデである。7の外面調整は胴部上半がヘラナデ、下半がヘラケズリで部分的にヘラミガキされ、内面はヘラナデである。27･28は頸部の短く、器高の低い瑞である。27の口頸部外面には4条2単位の櫛描波状文が横位に施される。27･28の復元口径は9.0㎝。

1 ～ 3は古墳時代後期の土師器坏である。1は栗囲式の坏で、底部と口縁部との境に明瞭な稜が形成され、口縁部は強く外反し延びる。外面調整は口縁部がヨコナデ、底部がヘラケズリ、内面はヘラミガキののち黒色処理される。復元口径17.0㎝、器高5.0㎝。 2は鬼高系の坏で、底部と口縁部の境に明瞭な稜が形成され、口縁部は内傾ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部ナデである。復元口径12.0㎝。3は大振りの坏で、底部と口縁部との境に稜はなく、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。外面調整は口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、底部はナデである。口径17.7㎝。器高5.0㎝。

24 ～ 26は古墳時代終末期の須恵器類である。24はヘラ切りの坏、25は高盤、26は回転ヘラケズリの有台坏である。24は口径10.8㎝、底径7.5㎝、器高4.0㎝、25は復元口径28.0㎝、26は復元口径15.6㎝、器高4.3㎝。

29･30は土製品で、29が紡錘車の紡輪、30が丸玉である。29は上端径2.8㎝、下端径4.25㎝、厚さ3.4㎝、中央部に直径7 ～ 8.5㎜の円孔が貫通する。重量は48.8 g。30は直径1.1㎝、厚さ1.0㎝の球形で、中央部に直径1㎜の円孔が貫通する。31は鉄製品で、鉄鏃の欠損品と考えられる。先端部及び基茎部が欠損している。

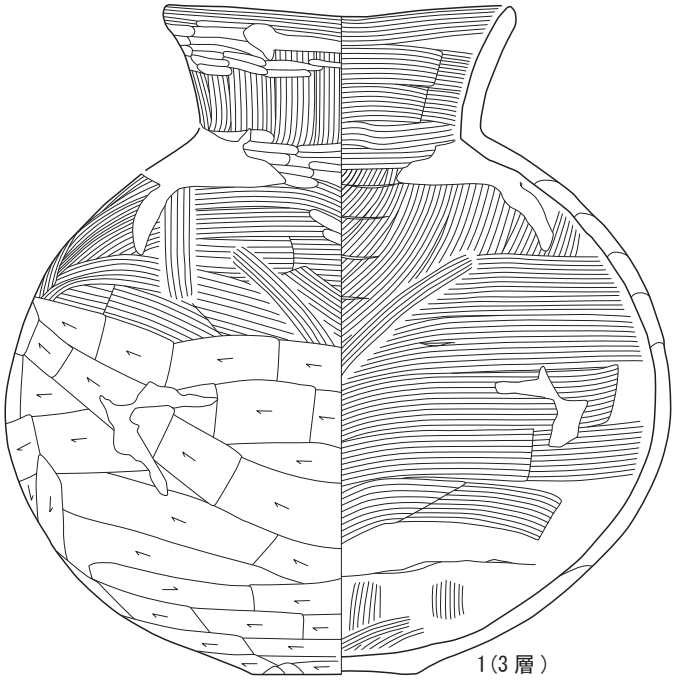
32は円形の磨石で、断面D形の自然礫を用いている。平坦面な自然面を使用面とする。石材は粒子がやや密で軟質な流紋岩である。33は楕円形の敲石で、厚みのある自然礫を用いている。正面と両側縁、下端に敲打痕がみられる。正面の敲打痕範囲は中央がわずかに窪む。石材は粗い石質の安山岩である。34・35は砥石である。34は破片で、正面と右側面に使用面がある。石材はやや粗い凝灰岩である。35は楕円形状の厚みのある自然礫を用いている。使用面は両面・両側縁で、各使用面には斜位・縦位の擦痕が認められる。また、両面の下位と下端、左側縁に敲打痕がみられ、下端の敲打面は平坦である。石材は粒子が粗い安山岩である。

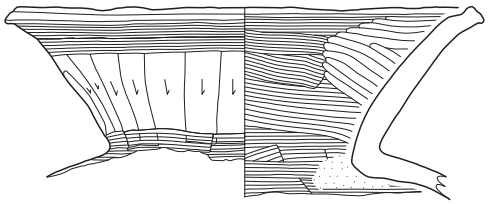
36・37は石製模造品である。36は剣形の上端部片である。両面とも平坦で、鎬は認められない。研磨は両面とも丁寧で、細かい斜位の擦痕に粗い擦痕がみられる。側面には複数の面取り状の狭い研磨面がみられる。孔は1穴で、穿穴は正面から行われている。石材は緑色片岩である。37は鏡形の破片で、縁辺に角がつく。孔は2穴と考えられ、穿穴は正裏両面より行われている。研磨は両面とも丁寧で、細かい斜位の擦痕に粗い擦痕がみられる。側縁の擦痕は粗い。石材は緑色片岩である。38は円形の磨石状軽石製品である。両面を使用面とし、自然面のままの磨面となっている。

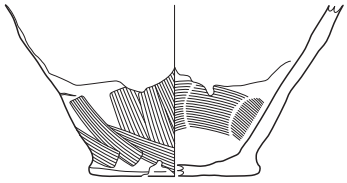
窪地状地形2(第155・156図)

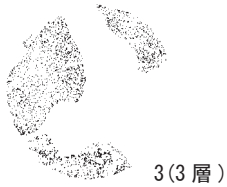
Ⅳ区東寄り39･40･51 ～ 55グリッドに位置し、重複するSD5溝跡よりも古い。南側は調査区外へ伸び、北側は河川により浸食されている。窪地状地形の形状は南側がやや広く、北側がやや狭まっている。検出された範囲内での規模は、南北長で約16.8ｍ、南側上端幅で約8.5ｍ、同下端幅で4.20 ～ 4.70ｍ、北側上端幅で約6.5ｍ、同下端幅で4.90 ～ 5.20ｍ、検出面からの深さは38 ～ 66㎝である。南側底面の標高値は10.47ｍ、北側底面では10.24ｍ、中央付近の底面では10.62ｍである。窪地内に形成された堆積土は4層に分層される。1層は浅黄色粘土質シルト、2層は灰黄色粘土質シルト、3層は明黄褐色シルト、4層は暗褐色シルトである。

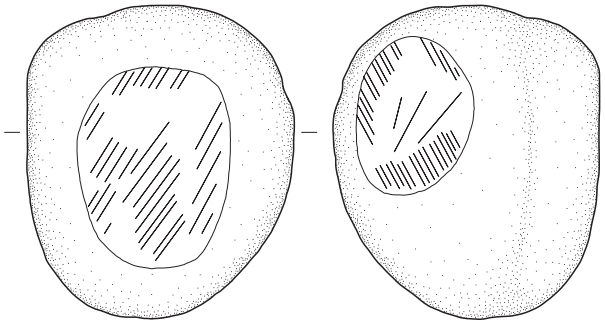
[出土遺物] 窪地状地形2の堆積土3層から主に出土した。土師器壺類2点(1･2)と土師器甕1点(3)、礫石器1点(4)

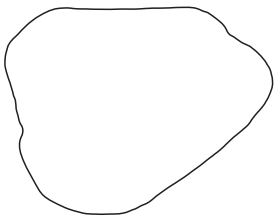


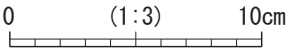












図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-111	Ⅳ区	窪地状地形２	3層	土師器	壺	口縁～底部 2/3	14.0	6.5	26.6	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、頭部縦位ﾍﾗﾅﾃﾞ→一部ﾖｺﾍﾗﾐｶﾞｷ、胴部上半横位ﾍﾗﾅﾃﾞ・下半横位ﾍﾗﾅｽﾞﾘ、底部ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	口縁部ﾖｺﾅﾃﾞ、頭部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ、胴部斜位・横位ﾍﾗﾅﾃﾞ		44
2	C-112	Ⅳ区	窪地状地形２	3層	土師器	壺	口縁～頸部	(19.0)	－	(7.6)	口縁部縦位ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→端部ﾖｺﾅﾃﾞ、頸部ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部～頸部横位ﾍﾗﾅﾃﾞ→端部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁端部・頸部赤彩残存	44
3	C-113	Ⅳ区	窪地状地形２	3層	土師器	甕	胴部下半～底部	－	(6.8)	(6.8)	胴部斜位ﾍﾗﾅﾃﾞ、底部布目圧痕→ﾅﾃﾞ	胴部ﾕﾋﾞﾅﾃﾞ		44

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
4	Kc-a-09	Ⅳ区	窪地状地形２	堆積土	礫石器	磨石	12.5	10.4	8.1	1470.0	安山岩	完形　磨２（正裏）	44

第156図　Ⅳ区窪地状地形２出土遺物

の計４点を掲載した（第156図）。

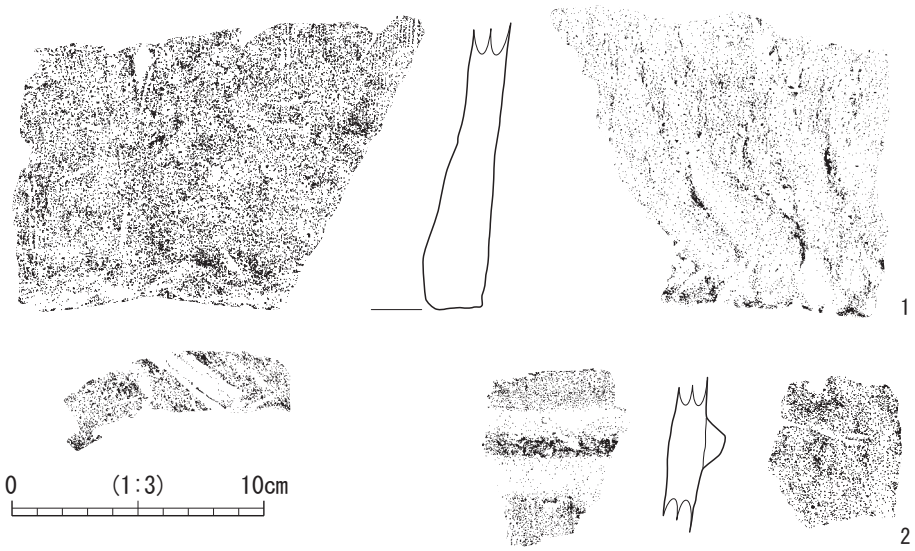
１は土師器の直口縁壺である。口縁部は「く」字状に外傾し、胴部は球形状を呈する。外面調整は口縁部ヨコナデ、頸部から胴部上半はヘラナデ、胴部中位以下がヘラケズリである。内面は口縁部ヨコナデ、頸部から胴部にかけてはヘラナデである。口径14.0cm、底径6.5cm、器高26.6cm。２は口径の大きい壺で、口縁部は大きく外反し、胴部は大きく膨らむものと考えられる。外面調整は口唇部がヨコナデ、口縁部はヘラケズリ、頸部から胴部がヘラナデである。復元口径19.0cm。３は甕の底部片、器面調整は外面がヘラナデ、内面がナデで、底部外面に布目痕が残る。４は円形の磨石で、断面三角形の自然礫を用いている。使用面は正裏面にあり、自然面を利用する。表面は滑らかで、斜位の擦痕が認められる。石材は粒子が粗い安山岩である。

(4) ピット（第158図）

調査区東寄りの52・53・60 ～ 63・67 ～ 70グリッドを中心に56基（Pit333 ～ 353・355 ～ 393）検出された。平面形は楕円形のものが多く、規模は長軸16 ～ 46cm、深さ５ ～ 33cmで、堆積土は単層である。同じ検出面の遺構と重複はほとんど認められず、東側に広がる小溝状遺構群と西側の窪地状地形２の間に位置している。個々の詳細は観察表に記載した。

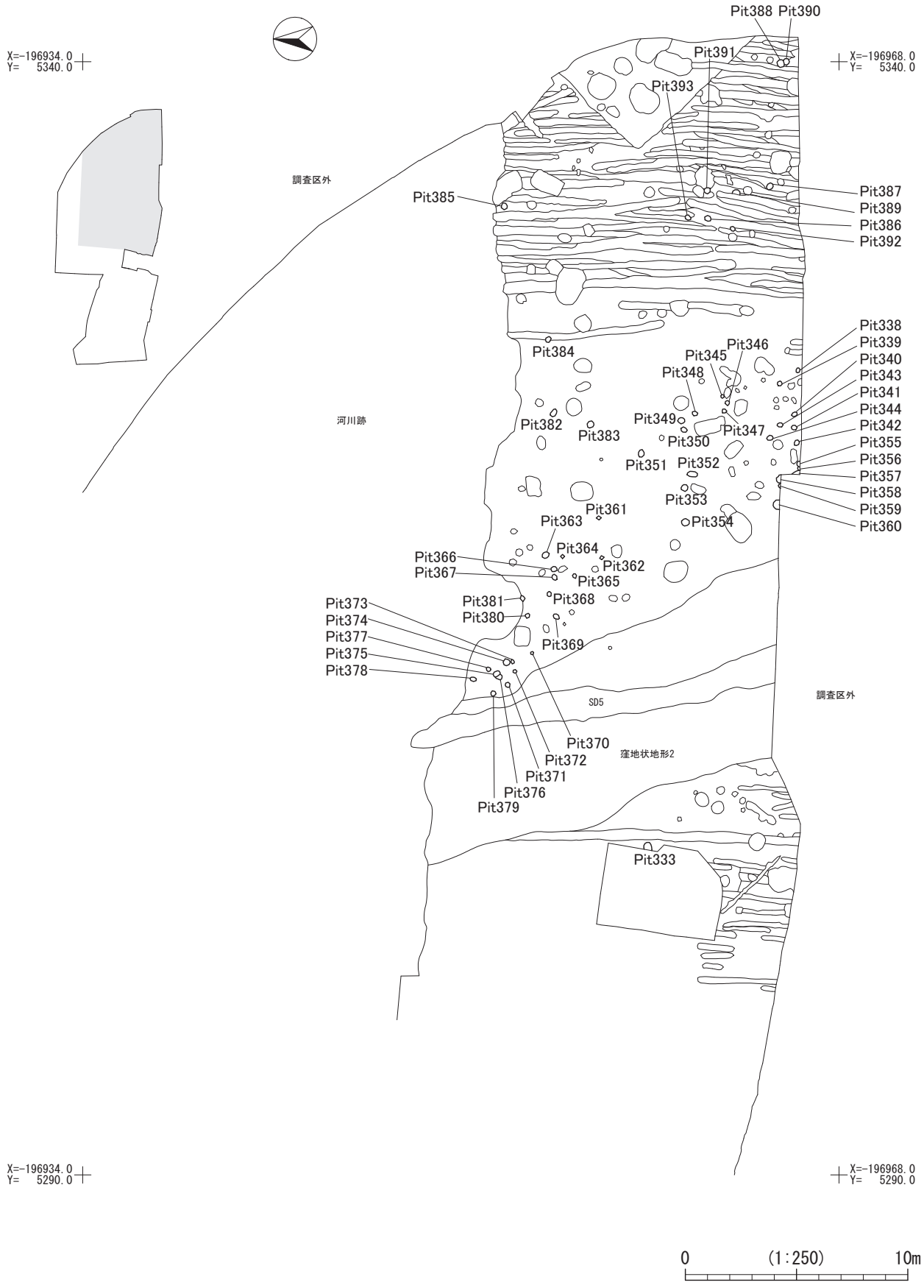
(5) 遺構外出土遺物（第157図）

本項では古墳時代前期～中期の遺構外出土遺物について記載する。図示し得た遺物は円筒埴輪の破片が２点（1・2）である。１は基底部の破片、２は凸帯部の破片である。1・2の外面はナデ調整で、1の基底面にはヘラ状工具の痕跡が、内面には指ナデの痕跡が残る。



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			凸帯（cm）			外面調整	内面調整	写真図版
								口径	底径	器高・段幅	上幅	下幅	高さ			
1	S-01	Ⅳ区	20Gr.	−	埴輪	円筒埴輪	基底部破片	−	(17.2)	(11.4)	−	−	−	縦位ﾊｹﾒ・下端一部ﾅﾃﾞ 下端部ﾍﾗ状工具による圧痕	縦位ﾅﾃﾞ	45
2	S-02	Ⅳ区	20Gr.	−	埴輪	円筒埴輪	凸帯部破片	−	−	−	0.8	2.1	0.8	縦位ﾊｹﾒ、突帯部横方向のﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	45

第157図　Ⅳ区遺構外出土遺物



第１５８図　Ⅳ区東側ピット配置図（Ⅵ層上面）

ピット(Ⅵ層上面)　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考
				長軸×短軸	深さ					
Pit333	Ⅳ区	41	（円形）	－× 35	15	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量、φ5㎜の炭化物を少量含む。
Pit338	Ⅳ区	70	楕円形	23 × 18	13	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit339	Ⅳ区	63	円形	23 × 23	20	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit340	Ⅳ区	63	楕円形	27 × 19	11	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit341	Ⅳ区	63	楕円形	27 × 22	22	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit342	Ⅳ区	63	楕円形	28 × 22	17	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit343	Ⅳ区	63	楕円形	28 × 21	15	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit344	Ⅳ区	62	円形	28 × 24	14	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit345	Ⅳ区	62・69	円形	17 × 15	8	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit346	Ⅳ区	62	円形	23 × 20	13	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit347	Ⅳ区	62	円形	21 × 20	12	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit348	Ⅳ区	62	円形	27 × 21	15	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit349	Ⅳ区	62	円形	32 × 28	17	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit350	Ⅳ区	62	楕円形	29 × 23	20	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit351	Ⅳ区	61	楕円形	35 × 27	18	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit352	Ⅳ区	62	楕円形	46 × 24	19	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit353	Ⅳ区	62	円形	32 × 32	20	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit354	－	－	－	－	－	－	－	－	－	欠番。
Pit355	Ⅳ区	63	（円形）	－× 25	21	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit356	Ⅳ区	63	（円形）	－× 16	11	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit357	Ⅳ区	63	（楕円形）	－	8	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit358	Ⅳ区	63	（円形）	－× 35	11	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit359	Ⅳ区	63	（円形）	－× 19	5	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit360	Ⅳ区	63	（円形）	－× 43	24	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit361	Ⅳ区	61	楕円形	23 × 19	20	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit362	Ⅳ区	61	円形	21 × 18	17	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit363	Ⅳ区	60	楕円形	35 × 27	33	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit364	Ⅳ区	61	円形	19 × 19	9	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit365	Ⅳ区	61	楕円形	23 × 17	13	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit366	Ⅳ区	61	円形	27 × 23	33	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit367	Ⅳ区	61	楕円形	28 × 23	32	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit368	Ⅳ区	60・61	円形	22 × 22	10	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit369	Ⅳ区	53・61	楕円形	31 × 22	12	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit370	Ⅳ区	52	円形	16 × 16	24	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit371	Ⅳ区	52	円形	24 × 23	26	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit372	Ⅳ区	52	円形	18 × 17	15	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit373	Ⅳ区	52	楕円形	21 × 15	13	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit374	Ⅳ区	52	円形	33 × 29	13	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit375	Ⅳ区	52	楕円形	33 × 23	15	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit376	Ⅳ区	52	円形	－× 23	12	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit377	Ⅳ区	52	円形	21 × 19	28	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit378	Ⅳ区	52	楕円形	30 × 19	21	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit379	Ⅳ区	52	円形	25 × 23	28	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit380	Ⅳ区	60	円形	23 × 21	28	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit381	Ⅳ区	60	楕円形	27 × 21	23	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit382	Ⅳ区	61	不整楕円形	38 × 23	22	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit383	Ⅳ区	61	円形	34 × 30	21	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit384	Ⅳ区	67・68	楕円形	28 × 22	26	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit385	Ⅳ区	67	円形	32 × 28	8	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit386	Ⅳ区	69	楕円形	29 × 26	14	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit387	Ⅳ区	69・70	楕円形	33 × 27	18	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit388	Ⅳ区	75	楕円形	36 × 31	25	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit389	Ⅳ区	69	（円形）	－× 35	8	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit390	Ⅳ区	75	円形	29 × 29	21	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit391	Ⅳ区	69	（円形）	29 × 28	16	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit392	Ⅳ区	69	楕円形	24 × 20	16	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。
Pit393	Ⅳ区	69	不整楕円形	29 × 21	18	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ5㎜の炭化物を微量、2.5Y7/4 浅黄色砂質シルト塊を少量含む。

第５節　弥生時代の調査（第159 ～ 169図）

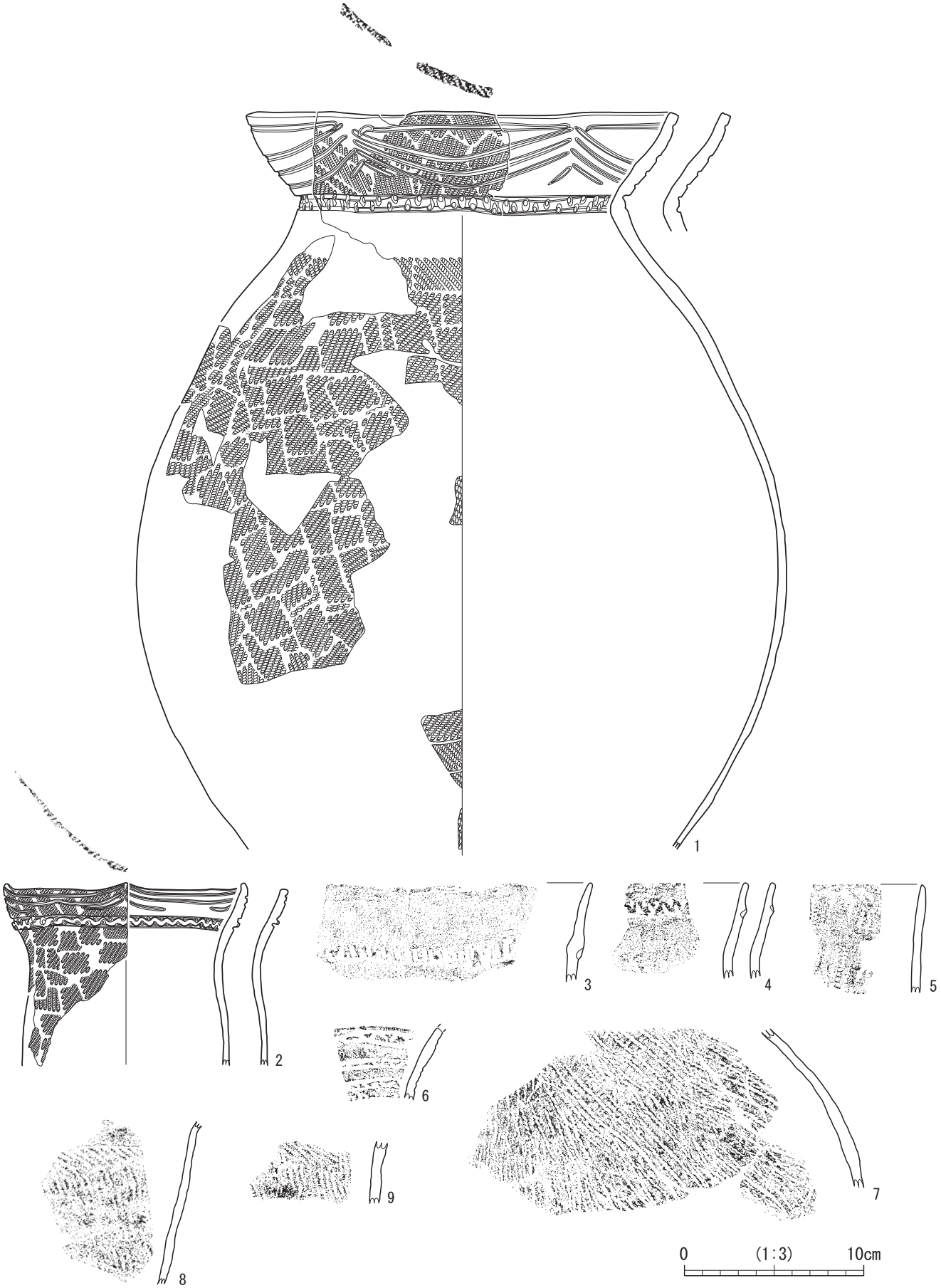
基本層Ⅵ層から弥生土器が出土した。出土範囲はおおよそ15ｍ四方で、遺物の出土量は約１箱分である。また、基本層Ⅵ層上面では、炭化物集中箇所が7ヶ所（炭化物集中1 ～ 7）、ピット状の小穴が37基（Pit394 ～ 416・418 ～ 431）確認された。これらの痕跡については、調査区東側で確認されたが、調査区西側では検出されなかった（第161図）。弥生時代の調査方法については、基本層Ⅵ層の調査において、弥生土器の出土分布域と重複する炭化物集中1 ～ 3との関連を確認するため周辺域について面的な掘り下げを実施した。その結果、炭化物集中1で弥生後期の土器片が1点出土したのみで、遺構は確認されなかった。また、遺物が出土していない炭化物集中4 ～ 7については、周辺域について部分的に掘り下げを行ったが、遺構および遺物が確認されなかったことから調査範囲の拡張は行っていない。以上これらの痕跡については、土層観察をもとに種々の検討を行った結果、人為的な可能性は低いと考え、遺構としては扱っていない。

（1）基本層Ⅵ層出土遺物（第159・160図）

Ⅳ区では弥生時代後期の遺物が出土し、9点（1 ～ 9）を図示した（第160図）。そのうち1・2において接合関係が認められたことから、接合関係図を掲載した（159図）。1・7は壺、2 ～ 4・8・9は甕である。1の壺は整理作業の結果、口縁部から胴部下位までの約1/5が接合でき、底部を除き概ね復元された。口縁部は横位のLR縄文を地文とし、3条一体の横長の連弧文が表出され、上面には1条の沈線が加えられる。口唇部連弧文の頂部下端には、「ハ」字状の短沈線が施される。全体では4単位の構成と思われる。また、口唇部にはLR縄文が押圧される。頸部には、2条の平行沈線の後に上下方向から交互刺突が加えられる。頸部下は無文帯となり、その直下に横位のLR縄文が帯状に施文され、以下は縦位施文となる。復元口径23.0cm、残存高41.5cmを測る。2は口縁部に小突起を有する破片で、小突起は4単位と考えられる。口縁部はLR縄文を地文とし、2条の横長の連弧文と頂部下端に「ハ」字状の短沈線が施される。また口唇部にはLR縄文が押圧される。頸部には2条の平行沈線が加えられ、上下方向からの交互刺突により沈線内に波状文が表出される。3 ～ 5はいずれも口縁部破片で、3は頸部に連続刺突文、4は口縁部直下に交互刺突文が加えられる。5はLR縄文を地文とし、口唇部にも縄文が押圧される。6は口縁部直下の破片で、2条の平行沈線が3段並び、沈線内には連続刺突文が加えられる。7は壺の胴部破片で、全面に斜位の撚糸文Rが施文される。8・9は甕の胴部破片で、横位のRL縄文が帯状に施文され、以下は縦位施文となる。8の頸部直下には無文帯が確認される。これらは天王山式に比定される。

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	B-01	Ⅳ区	窪地状地形２	堆積土	弥生土器	壺	口縁～胴部下半 2/3	(23.0)	－	(41.5)	口縁部横位 LR 縄文→３条連弧文、頸部２条平行沈線→交互刺突文、頸部下端縦位 LR 縄文、胴部横位 LR 縄文・下端縦位 LR 縄文	横方向のﾅﾃﾞ	天王山式	46
2	B-02	Ⅳ区	60Gr.	Ⅵ層	弥生土器	甕	口縁～胴部下半 1/3	(13.5)	－	(10.2)	口唇部 LR 縄文、口縁部～胴部横位 LR 縄文→口縁部直下２条平行沈線・口縁部中位２条平行沈線→交互刺突文	口縁部～頸部横方向のﾅﾃﾞ、胴部縦方向のﾅﾃﾞ	天王山式 小波状口縁	45
3	B-03	Ⅳ区	窪地状地形２	堆積土	弥生土器	甕	口縁部破片	－	－	－	ﾍﾗ状工具による連続刺突文	ﾅﾃﾞ 口縁部指頭調整痕跡明瞭	天王山式 小波状か	45
4	B-04	Ⅳ区	窪地状地形１	堆積土	弥生土器	甕	口縁部破片	－	－	－	隆帯貼付→交互刺突文	ﾅﾃﾞ	天王山式	45
5	B-05	Ⅳ区	窪地状地形２	堆積土	弥生土器	甕	口縁部破片	－	－	－	口唇部縄文押圧 口縁部斜位 RL 縄文	ﾅﾃﾞ	天王山式	45
6	B-06	Ⅳ区	SI4	堆積土	弥生土器	甕	口縁部破片	－	－	－	口縁部２条の平行沈線３段→沈線内連続刺突文 頸部連続刺突文	ﾅﾃﾞ	天王山式	45
7	B-07	Ⅳ区	窪地状地形２	堆積土	弥生土器	壺	胴部破片	－	－	－	撚糸文 R	ﾅﾃﾞ	天王山式	45
8	B-08	Ⅳ区	窪地状地形２	堆積土	弥生土器	甕	頸部～胴部破片	－	－	－	頸部直下無紋帯＋横位 RL 縄文帯状、胴部斜位 RL 縄文	ﾅﾃﾞ	天王山式	45
9	B-09	Ⅳ区	SI1SK1	堆積土	弥生土器	甕	胴部破片	－	－	－	頸部直下横位 RL 縄文帯状、胴部斜位 RL 縄文	ﾅﾃﾞ	天王山式	45

第１５９図　Ⅳ区東側出土弥生土器接合図

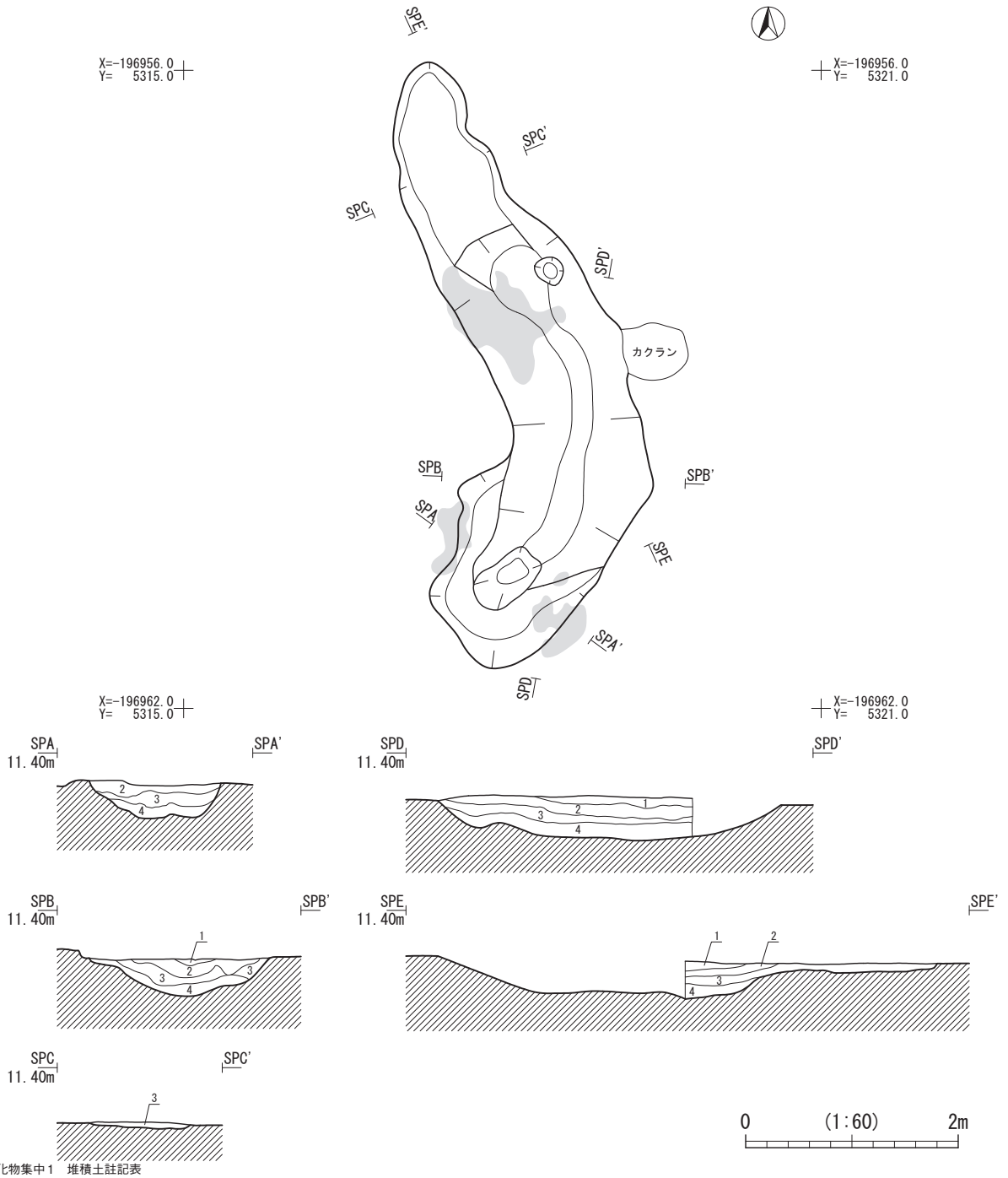


第１６０図　Ⅳ区Ⅵ層出土遺物

第１６１図　Ⅳ区炭化物集中１～７分布図(Ⅵ層)

(2)炭化物集中箇所(第161 ～ 168図)

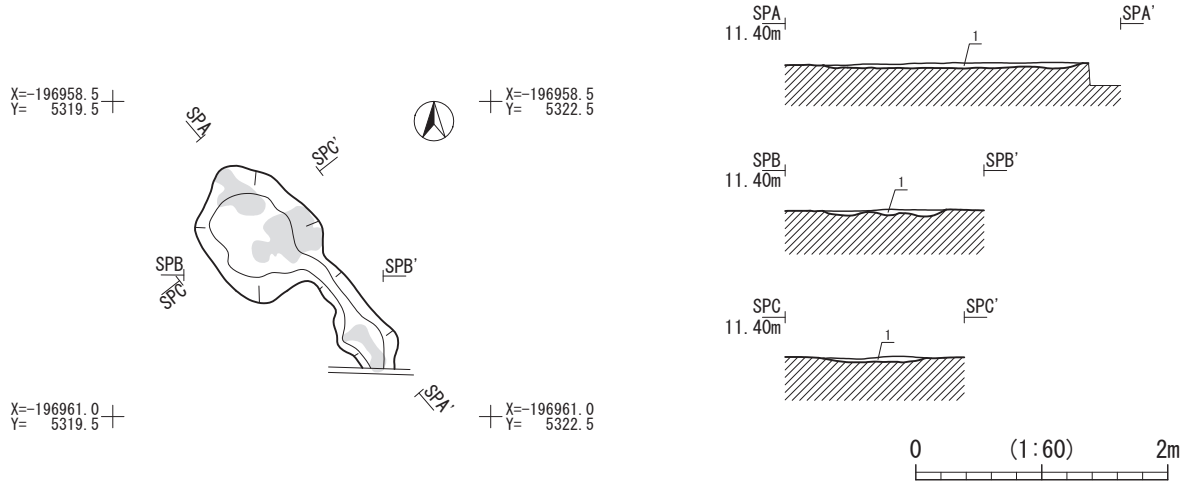
調査区の東側で炭化物集中箇所が7ヶ所で確認されている。それぞれの形状と特徴を示すと、炭化物集中1は不定形な溝状の窪み、炭化物集中2・3・5・6は不定形な浅い窪みで、この窪みの中からは炭化物が確認された。炭化物集中4・7については、窪み自体が不明瞭なため、検出面で炭化物が顕著に認められた範囲のみスクリーントーンで示している。炭化物集中4の断面図では5層(第165図)、炭化物集中7の断面図では2層(第167図)にそれぞれ相当する。



炭化物集中1　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複(旧→新)
炭化物集中1	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの2.5Y7/1灰白色粘土質シルト塊を微量含む。	
	2	2.5Y4/2	暗黄灰色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの2.5Y7/1灰白色粘土質シルト塊を少量含む。	
	3	2.5Y5/2	暗黄灰色	砂質シルト	焼土、炭化物を部分的にやや多く含む。	
	4	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの2.5Y7/1灰白色粘土質シルト塊を微量含む。	

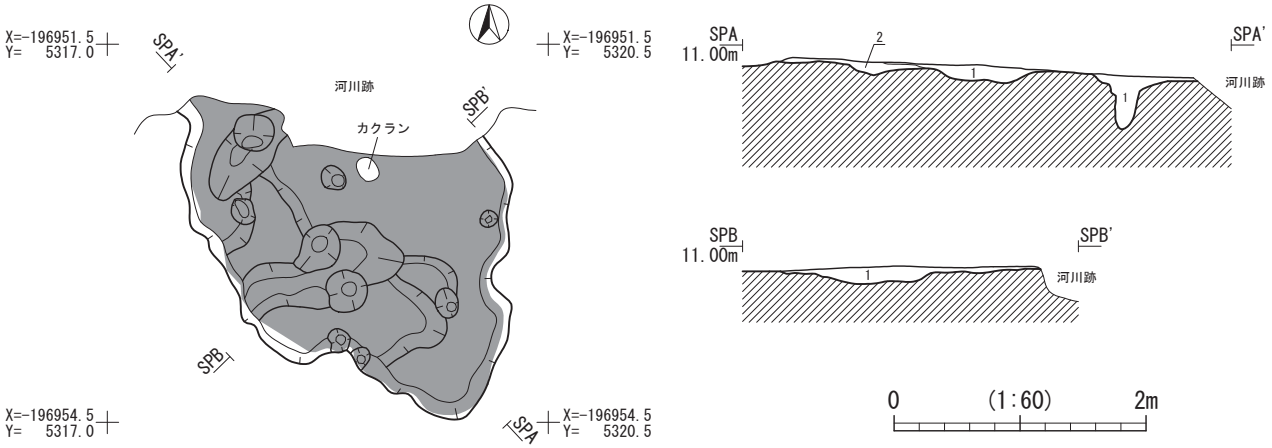
第162図　Ⅳ区炭化物集中1



炭化物集中2　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
炭化物集中2	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	焼土、炭化物を部分的にやや多く含む。	

第163図　Ⅳ区炭化物集中2



炭化物集中3　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
炭化物集中3	1	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	φ5～10㎜の炭化物をやや多く含む。	
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ5～10㎜の炭化物を多量、長さ10㎝程の炭化材を含む。	

第164図　Ⅳ区炭化物集中3

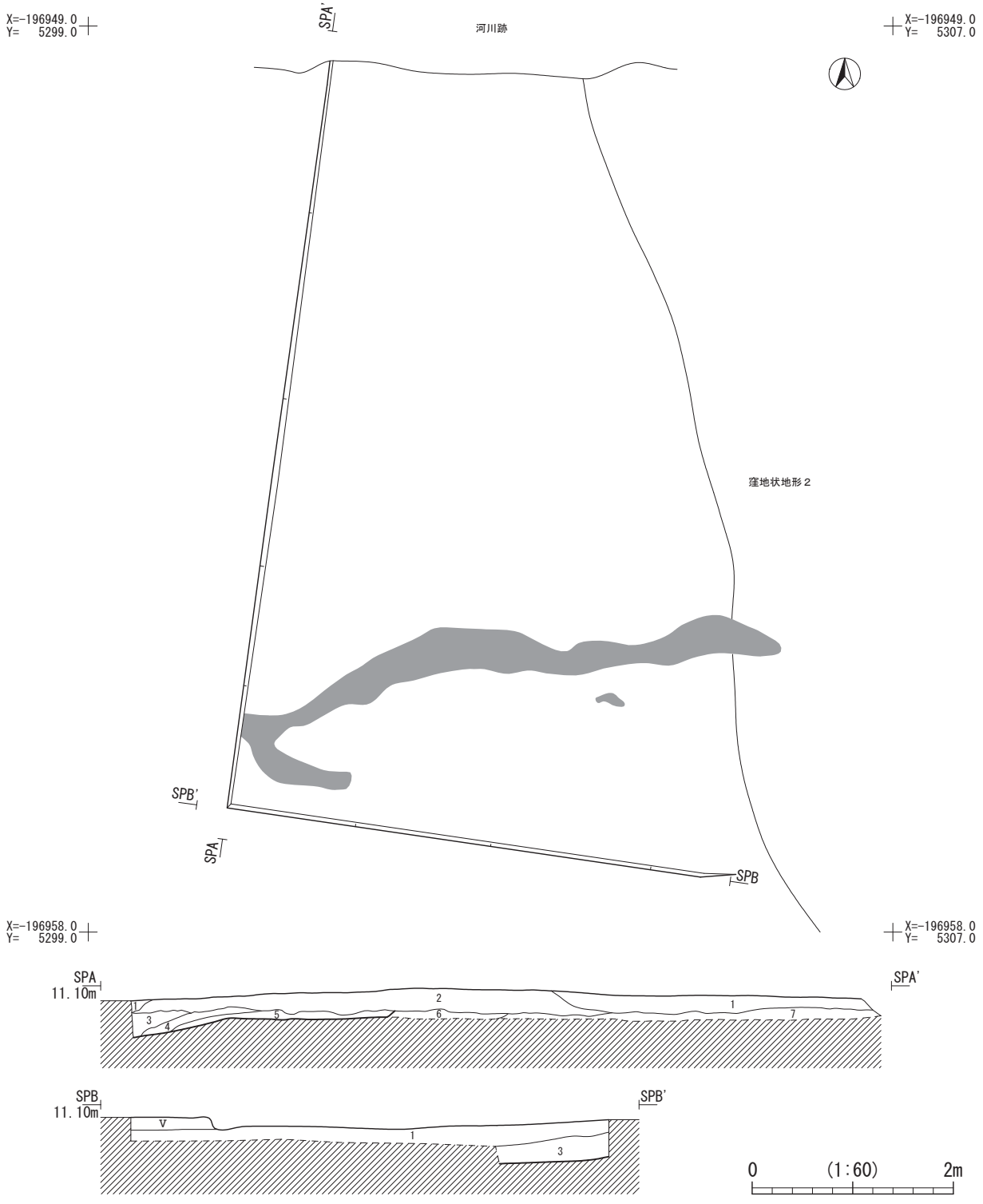
遺物は炭化物集中1から弥生後期の土器片が1点出土したのみである。以下では参考例として炭化物集中1および2についてのみ述べる。その他は図で示す。

炭化物集中1（第161図）

61・62グリッドに位置する。平面形は不定形な溝状で、下端も同様である。規模は長さ575㎝、幅76～150㎝、深さ5～50㎝である。壁面と底面には起伏が連続的に認められ、中央部でやや深くなっている。堆積土は4層に分層される。スクリーントーンで示した範囲には赤褐色に変色した部分が確認された。堆積土の2層中より弥生後期の小片が1点出土したが、図示できるものはなかった。

炭化物集中2（第163図）

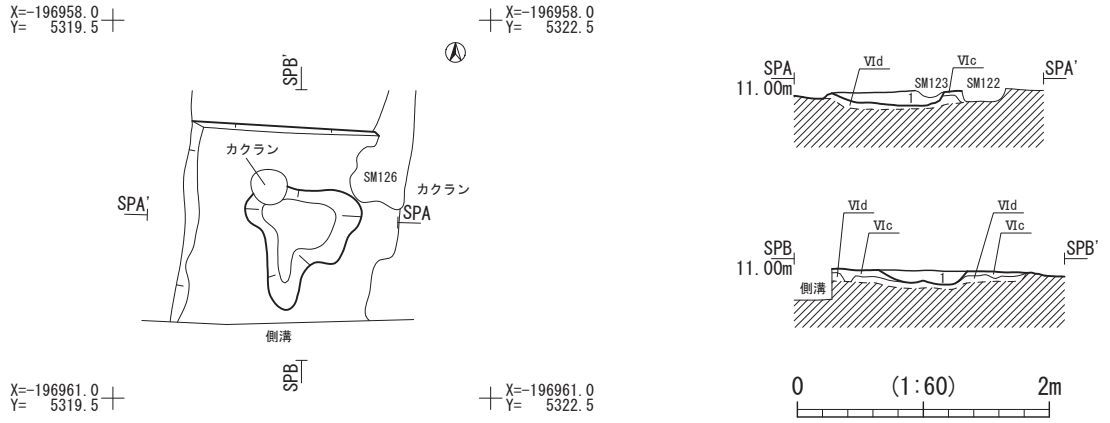
61・62グリッドに位置する。平面形は不定形な浅い窪みである。規模は長さ200㎝、幅24～85㎝、深さ5㎝である。堆積土は単層である。スクリーントーンで示した範囲には赤褐色に変色した部分が確認された。堆積土中から遺物は出土していない。



炭化物集中４　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
炭化物集中４	V	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ1 ～ 2㎜の 10YR5/6 黄褐色シルト塊を少量、φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量含む。	
	1	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト	2.5Y6/6 明黄褐色細砂を多量含む。	
	2	2.5Y7/6	明黄褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量、φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	
	3	2.5Y7/8	黄色	粘土質シルト	φ1 ～ 4㎝の 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊をやや多く含む。	
	4	2.5Y7/4	浅黄色	粘土質シルト	φ5 ～ 10㎜の炭化物をやや多く、φ2 ～ 3㎝の 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を微量含む。	
	5	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	φ3 ～ 5㎜の炭化物を多量に含む。	
	6	2.5Y7/4	浅黄色	粘土質シルト	φ2 ～ 3㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を微量含む。	
	7	2.5Y6/6	明黄褐色	砂質シルト	2.5Y6/6 明黄褐色細砂を多量含む。	

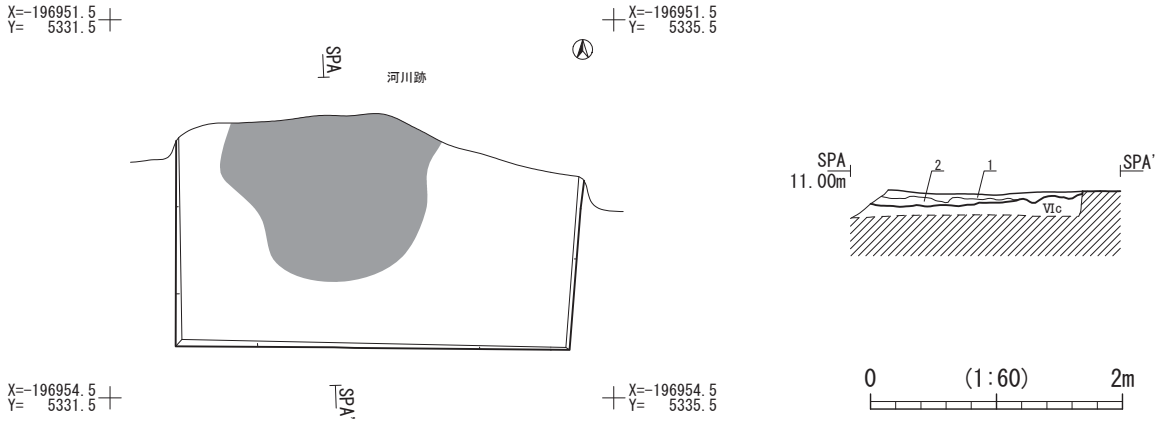
第１６５図　Ⅳ区炭化物集中４



炭化物集中5　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
炭化物集中5	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの炭化物をやや多く含む。	
	Ⅵc	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	部分的にφ5～10mmの炭化物を含む。	
	Ⅵd	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	細砂粒を均一に含む。	

第166図　Ⅳ区炭化物集中5



炭化物集中7　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
炭化物集中7	1	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	φ5～10mmの炭化物を少量含む。	
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1～2cmの炭化物をやや多く含む。	
	Ⅵc	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	部分的にφ5～10mmの炭化物を含む。	

第167図　Ⅳ区炭化物集中7

炭化物集中6　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
炭化物集中6	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ1～2㎝の炭化物をやや多く含む。	
	Ⅵa	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土質シルト	締まりと粘性を有する。	
	Ⅵb	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ3～5㎜の炭化物をやや多く含む。	
	Ⅵc	2.5Y6/6	明黄褐色	粘土質シルト	やや砂質が強い。部分的にφ5～10㎜の炭化物を含む。	
	Ⅵd	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	細砂粒を均一に含む。	

第168図　Ⅳ区炭化物集中6

第１６９図　Ⅳ区東側ピット状小穴配置図（Ⅵ層）

(3) ピット状小穴（第169図）

ピット状小穴は42・54・55・61・62グリッドを中心に東西20ｍの範囲に37基検出された。平面形は概ね楕円形で、規模は長径15 ～ 31㎝、深さ5 ～ 32㎝を測る。堆積土は単層である。個々の詳細については観察表に記載した。

ピット状小穴（Ⅵ層） 観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考
				長軸×短軸	深さ					
Pit394	Ⅳ区	62	楕円形	21 × 18	14	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit395	Ⅳ区	62	円形	16 × 15	8	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit396	Ⅳ区	62	楕円形	20 × 16	12	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit397	Ⅳ区	62	円形	21 × 19	13	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit398	Ⅳ区	62	不整楕円形	24 × 18	18	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit399	Ⅳ区	62	略円形	24 × 24	12	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit400	Ⅳ区	62	円形	18 × 16	14	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit401	Ⅳ区	62	楕円形	19 × 14	9	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit402	Ⅳ区	63	楕円形	19 × 15	5	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit403	Ⅳ区	62	楕円形	23 × 19	16	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit404	Ⅳ区	61	円形	15 × 15	7	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit405	Ⅳ区	61	楕円形	19 × 14	9	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit406	Ⅳ区	61	不整楕円形	24 × 21	16	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit407	Ⅳ区	61	円形	25 × 24	18	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit408	Ⅳ区	61	楕円形	27 × 22	15	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit409	Ⅳ区	61	円形	27 × 25	18	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit410	Ⅳ区	53	円形	20 × 18	17	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit411	Ⅳ区	61	楕円形	25 × 13	7	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit412	Ⅳ区	61	楕円形	26 × 18	25	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit413	Ⅳ区	42	楕円形	31 × 24	32	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit414	Ⅳ区	70	隅丸長方形	28 × 18	17	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit415	Ⅳ区	60	円形	19 × 18	21	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit416	Ⅳ区	60	楕円形	25 × 17	23	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit417	－	－	－	－	－	－	－	－	－	欠番。
Pit418	Ⅳ区	55	円形	23 × 23	15	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit419	Ⅳ区	54	楕円形	21 × 20	9	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit420	Ⅳ区	54	楕円形	27 × 23	11	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit421	Ⅳ区	54	円形	17 × 16	12	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit422	Ⅳ区	54	楕円形	20 × 15	10	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit423	Ⅳ区	54	楕円形	27 × 20	18	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit424	Ⅳ区	54	楕円形	25 × 21	19	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit425	Ⅳ区	54	楕円形	22 × 18	26	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit426	Ⅳ区	54	楕円形	17 × 14	9	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit427	Ⅳ区	60・67	楕円形	32 × 23	16	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit428	Ⅳ区	67	円形	18 × 18	15	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit429	Ⅳ区	52	円形	23 × 19	20	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
Pit430	Ⅳ区	52	楕円形	27 × 16	19	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト塊を少量含む。
Pit431	Ⅳ区	60・61	楕円形	24 × 19	11	1	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 5㎝の 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト塊を少量含む。

第8章　Ⅴ区の検出遺構と出土遺物

第1節　Ⅴ区の本調査

Ⅴ区では、平成21年度に約380㎡の本調査を実施した。

調査面は、表土層直下、基本層Ⅳ層上面、基本層Ⅵ層上面、弥生下層調査区の4面であり、表土層とⅣ層の除去作業にのみ重機を併用した。

Ⅴ区で発見された遺構は、表土直下から中近世以降と考えられる天地返し36条、土坑7基、溝跡4条、性格不明遺構1基、ピット72基、古墳時代後期から終末期としたとしたⅣ層上面から竪穴住居跡2軒、古墳時代前期から中期としたⅥ層上面から小溝状遺構4条、ピット5基が発見された。

出土遺物には土師器、須恵器、陶磁器、煉瓦、鉄製品、黒曜石剥片、礫石器などがあり、Ⅳ層上面の調査で出土した土師器が大部分を占めている。調査時の出土遺物の総量は、平箱に約2箱である。以下では、調査面別に検出された各遺構についての詳細を述べる。

第2節　中世以降の遺構と遺物（第170 ～ 176図）

本節では、Ⅴ区の表土直下で検出された中世以降に帰属する遺構や遺物について記述する。該当する遺構は、天地返し36条、土坑7基、溝跡4条、性格不明遺構1基、ピット72基である。

(1)溝跡

Ⅴ区からは西半部で1条、東端部で3条の計4条の溝跡が検出された。SD1はほぼ南北方向に伸び、西側天地返し群を区画する溝であると考えられる。SD2・SD3・SD4は調査区東端で3条がほぼ等間隔に平行して検出された。これらは大部分が調査区外へ伸びており、また、遺物も出土していないことから、性格などについては不明である。

SD1　溝跡（第171図）

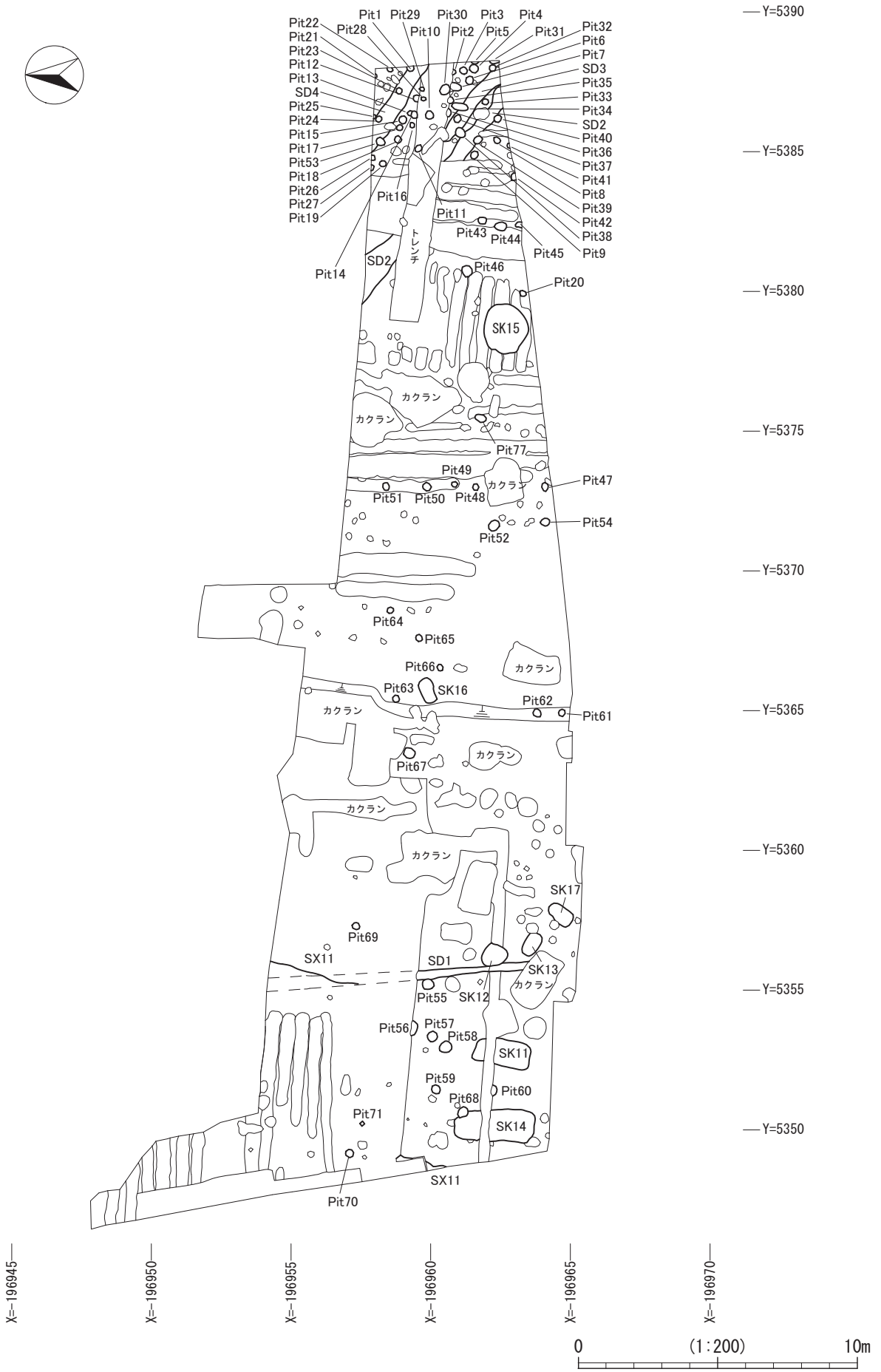
Ⅴ区西部、7･8グリッドに位置する。新旧関係は、SI17、SX11性格不明遺構、Pit55よりも新しく、SK12よりも古い。N-4°-Eの方向に直線的に伸びるが、南端は撹乱によって、北側は削平を受けてそれぞれ失われている。検出された規模は、長さ396cm、上端幅34cm、下端幅8 ～ 19cm、検出面からの深さは6cmであり、断面形はU字状を呈する。調査区北壁土層断面の観察では、表土直下にわずかながら本遺構の掘り込みが確認され、本調査区以北へも遺構が伸びていると考えられる。堆積土は単層で、黒褐色シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SD2　溝跡（第172図）

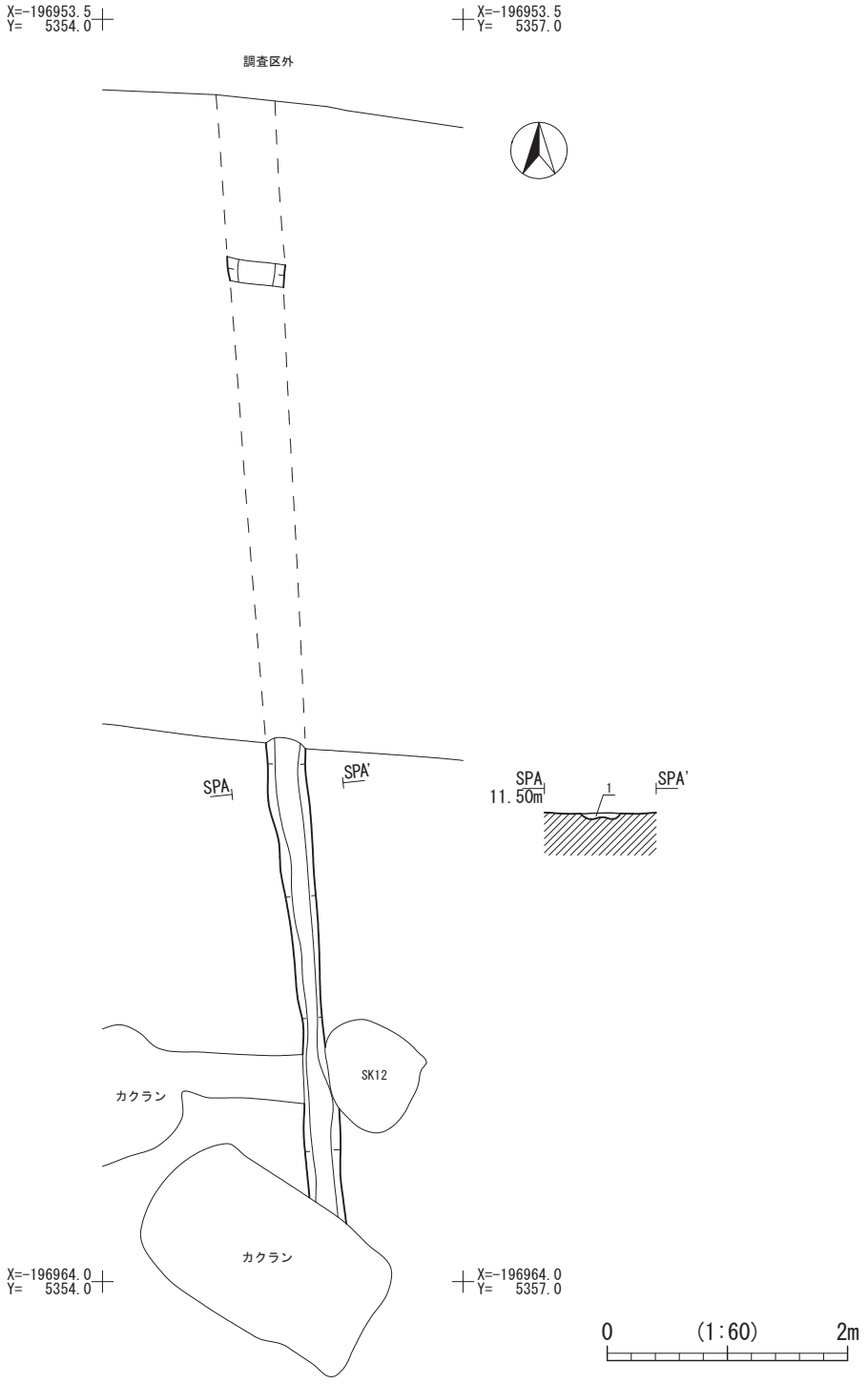
Ⅴ区東部、16･17グリッドに位置する。Pit38･39･40と重複し、本遺構が古い。N-55°-Wの方向に直線的に伸びており、本遺構の両側は調査区外にかかる。検出された規模は長さ868cm、上端幅39 ～ 105cm、下端幅24 ～ 68cm、検出面からの深さは19cmである。底面から壁にかけて緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ褐色砂質シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SD3　溝跡（第172図）

Ⅴ区東部、17グリッドに位置する。Pit32･34･37･38と重複し、本遺構が古い。N-51°-Wの方向に直線的に伸び、本遺構の北西側末端は撹乱によって失われ、南東側は調査区外にかかる。検出された規模は長さ323cm、上端幅52cm、下端幅16 ～ 38cm、検出面からの深さは18cmである。底面から壁にかけて緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ褐色砂質シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。



第170図　V区遺構配置図（表土直下）



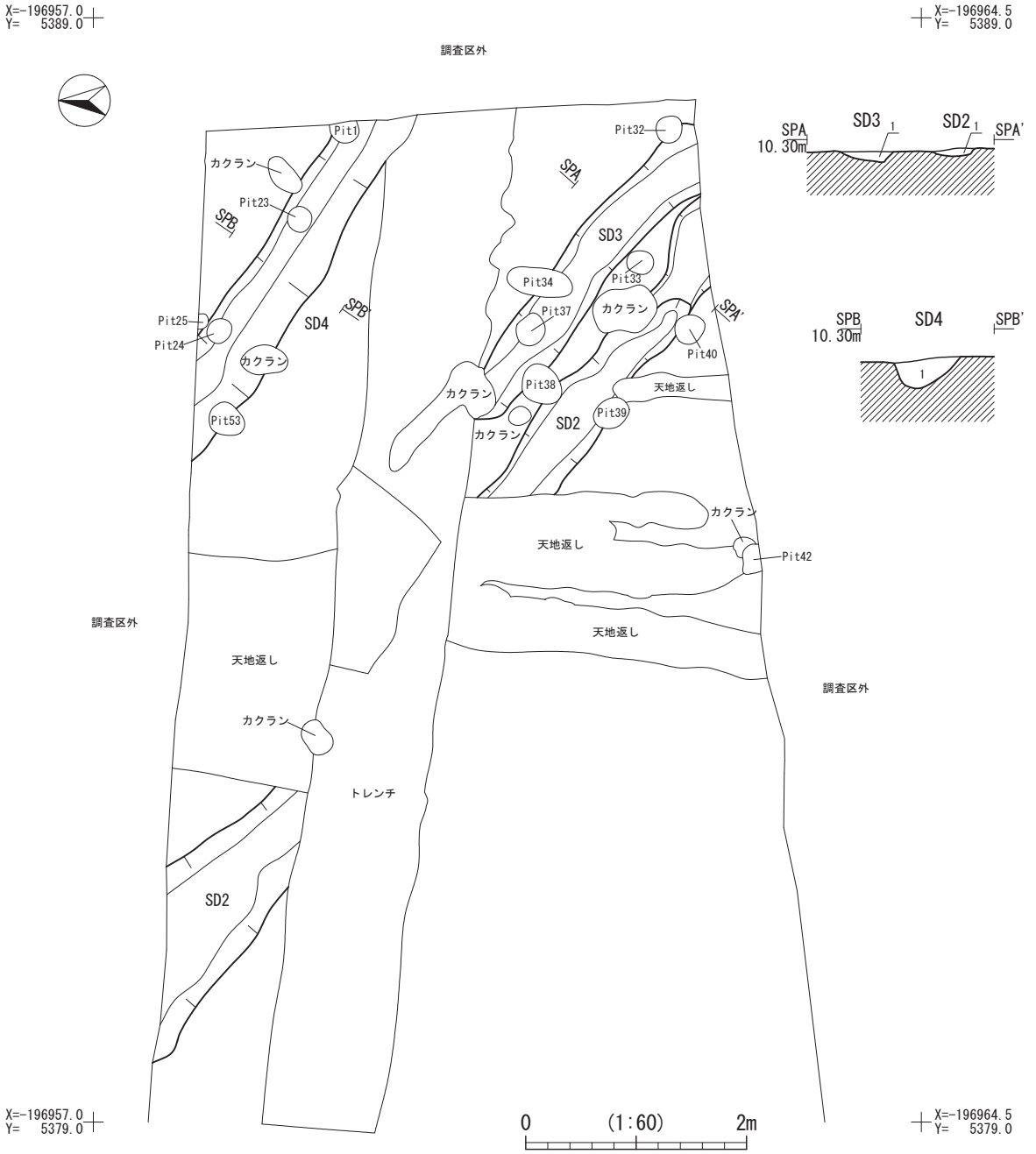
SD１溝跡　観察表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				検出長	上端幅	下端幅	深さ						
SD1	V区	7・8	N-4° -E	(933)	34	8～19	6	1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。	SX11・Pit55→SD1→SK12

第171図　V区SD1溝跡

SD４　溝跡（第172図）

Ｖ区東部、16グリッドに位置する。Pit1・23・24・25・53と重複し、本遺構が古い。N-58° -Wの方向に直線的に伸びており、本遺構の両側は調査区外にかかる。検出された規模は長さ375cm、上端幅52 ～ 71cm、下端幅21 ～ 28cm、検出面からの深さは27cmである。底面から壁にかけて内湾して立ち上がり、断面形はＵ字状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ褐色砂質シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。



SD２～４溝跡　観察表

遺構名	調査区	グリッド	方向	規模（cm）				層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				検出長	上端幅	下端幅	深さ						
SD2	Ｖ区	16・17	N-55° -W	868	39 ～ 105	24 ～ 68	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD2→Pit38・39・40
SD3	Ｖ区	17	N-51° -W	323	52	16 ～ 38	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD3→Pit32・34・37・38
SD4	Ｖ区	16	N-58° -W	375	52 ～ 71	21 ～ 28	27	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD4→Pit1・23・24・25・53

第１７２図　Ｖ区ＳＤ２～４溝跡

(2)土坑(第173・174図)

V区からは南西部で5基(SK11 ～ SK14・SK17)、中央部で1基(SK16)、東半部で1基(SK15)、計7基の土坑が検出された。規模や平面形は様々で、以下で個別に詳述する。

SK11　土坑(第173図)

V区南西部、8グリッドに位置する。本遺構の上面は削平を受けており、北側でやや形状は歪むが、平面形は概ね長方形を呈する。検出された規模は、長軸210㎝、短軸96㎝、検出面からの深さは14㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに内湾して立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は2層に分層され、にぶい黄色シルト塊を含む褐灰色シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SK12　土坑(第173図)

V区南西部、8グリッドに位置する。SI17、SD1と重複し、本遺構が新しい。平面形はやや不整な楕円形を呈する。検出された規模は、長軸95㎝、短軸83㎝、検出面からの深さは28㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。堆積土は3層に分層され、灰黄色シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SK13　土坑(第173図)

V区南西部、8グリッドに位置する。SI17と重複し、本遺構が新しい。平面形は長方形を呈する。検出された規模は、長軸88㎝、短軸54㎝、検出面からの深さは24㎝である。底面から壁にかけて内湾して立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は2層に分層され、灰白色粘土質シルト塊を含む褐灰色シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

SK14　土坑(第173図)

V区南西部、4・8グリッドに位置する。Pit68と重複し、本遺構が古い。本遺構の上面は削平を受けており、平面形は不整長方形を呈する。検出された規模は、長軸290㎝、短軸117㎝、検出面からの深さは22㎝である。底面には浅い起伏がみられ、壁はやや外傾して立ち上がる。断面形は皿状を呈する。堆積土は4層に分層され、青灰色～暗オリーブ褐色砂質シルトを主体とする。表土直下の本遺構検出面から須恵器平瓶1点が出土したが、出土状況から本遺構に伴うものではないと考えられるため、遺構外出土遺物として第3節で掲載した。(第183図)

SK15　土坑(第173・174図)

V区東半部南側、15グリッドに位置する。平面形はやや不整な円形を呈する。検出された規模は、長軸177㎝、短軸159㎝、検出面からの深さは61㎝である。底面から壁にかけて内湾して立ち上がり、断面形は椀状を呈する。堆積土は7層に分層され、褐灰色～黄褐色粘土質シルトを主体とする。本遺構からは鉄製品が2点出土している(第174図)。1・2ともに尖端部は欠損しているが、断面形からいずれも角釘であると考えられる。

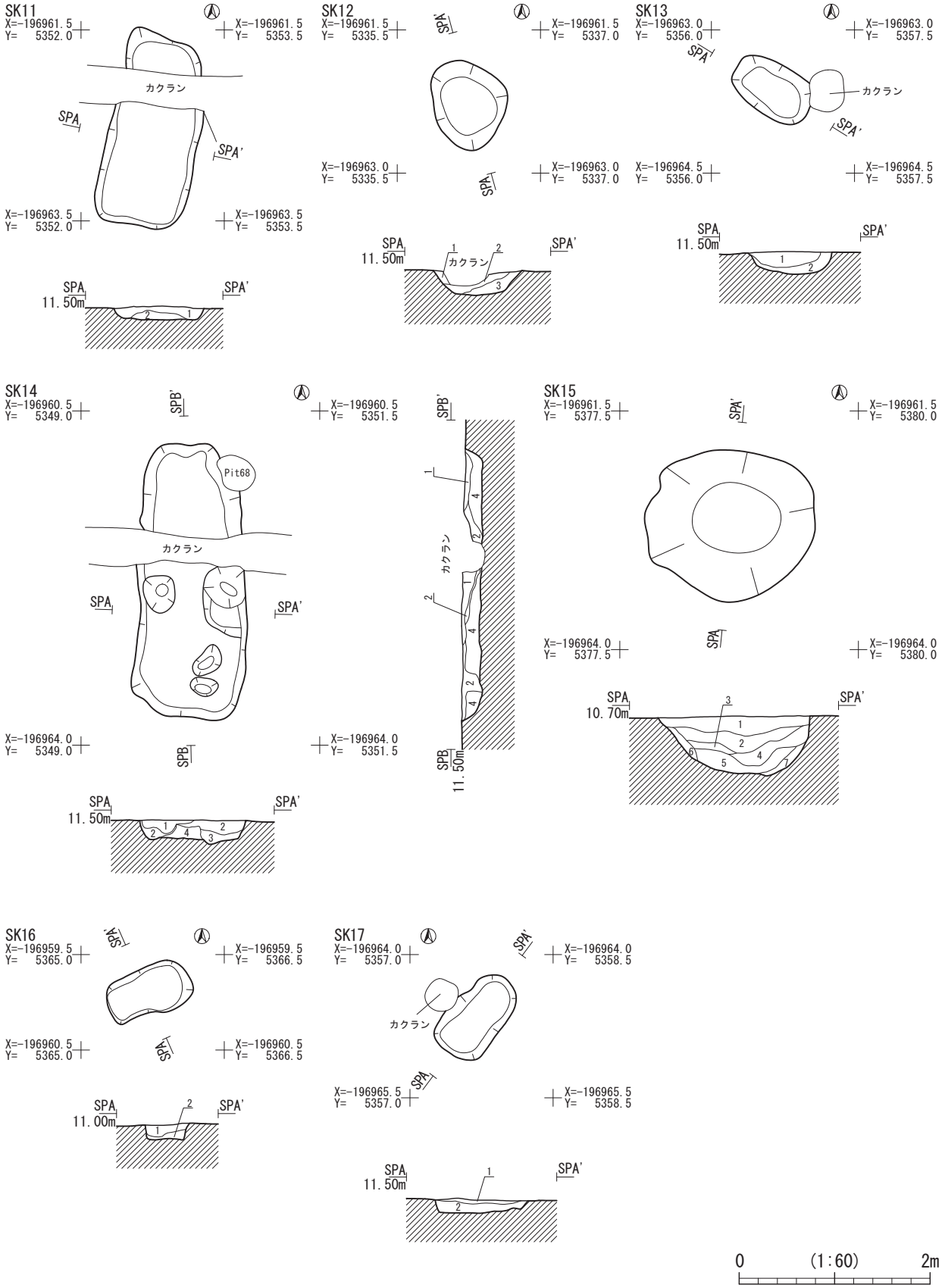
SK16　土坑(第173・174図)

V区中央部、11・12グリッドに位置する。本遺構の上面は削平を受けており、平面形はやや不整な長方形を呈する。検出された規模は、長軸91㎝、短軸52㎝、検出面からの深さは18㎝である。底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾して立ち上がり、断面形は箱形を呈する。堆積土は2層に分層され、灰黄色砂質シルトを主体とする。本遺構からは石製品が1点出土している(第174図)。環状の約1/2が残存していると推定される。正裏面に擦痕が認められ、縁辺には面取り状の加工が施されている。石材は流紋岩である。

SK17　土坑(第173図)

V区南西部、8・9グリッドに位置する。SI17と重複し、本遺構が新しい。平面形はやや不整な長方形を呈する。検出された規模は、長軸97㎝、短軸58㎝、検出面からの深さは14㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は皿状を呈する。堆積土は2層に分層され、灰白色粘土質シルト塊を含む褐灰色シルトを主体と

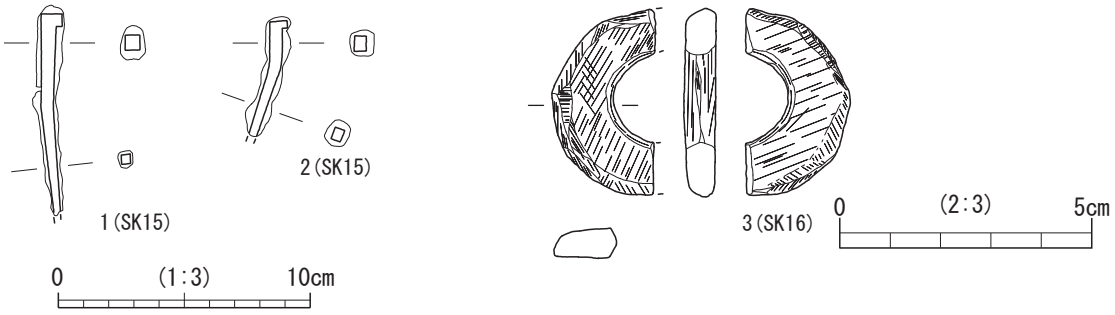
する。堆積土中から遺物は出土していない。



第173図　V区土坑

SK11 ～ 17土坑　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
SK11	V区	8	長方形	210 × 96	14	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。	
						2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊をやや多く含む。	
SK12	V区	8	不整楕円形	95 × 83	28	1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト塊を少量含む。	SI17・SD1→SK12
						2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を微量含む。	
						3	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を少量含む。	
SK13	V区	8	長方形	88 × 54	24	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	φ1cm前後の炭化物を微量含む。	SI17→SK13
						2	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR8/2 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。	
SK14	V区	4・8	不整長方形	290 × 117	22	1	10BG6/1	青灰色	砂質シルト	φ1cm前後の小礫を少量、炭化物を少量含む。	SK14→Pit68
						2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト塊を少量含む。	
						3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	φ5mmの炭化物を少量含む。	
						4	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土質シルト塊を微量含む。	
SK15	V区	15	不整円形	177 × 159	61	1	10YR3/1	黒褐色	シルト	φ1cm前後の炭化物を少量含む。	
						2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 3cmの 2.5Y8/3 淡黄色シルト塊を少量含む。	
						3	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ5mmの 2.5Y5/6 黄褐色シルト塊をやや多く含む。	
						4	2.5Y6/1	黄灰色	粘土質シルト	φ1cm程の 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊をやや多く含む。	
						5	2.5Y5/1	黄灰色	粘土質シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y7/4 浅黄色シルト塊を少量含む。	
						6	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	φ5mmの炭化物を少量含む。	
						7	2.5Y5/6	黄褐色	粘土質シルト	φ5mmの炭化物を微量含む。	
SK16	V区	11・12	不整長方形	91 × 52	18	1	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	φ5mmの炭化物を少量含む。	
						2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	φ1cm前後の炭化物を少量含む。	
SK17	V区	8・9	不整長方形	97 × 58	14	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 5cmの 10YR8/2 灰白色粘土質シルト塊をやや多く含む。	SI17→SK17
						2	10YR6/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/2 黄灰色シルト塊を少量含む。	



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ			
1	N-08	V区	SK15	堆積土	金属製品	釘	(10.3)	(4.0 ～ 5.5)	(4.0 ～ 5.5)	8.23	上下欠損　錆化顕著　角釘	45
2	N-09	V区	SK15	堆積土	金属製品	釘	(4.75)	(4.5 ～ 5.0)	(5.5 ～ 6.0)	6.45	上下欠損　錆化顕著　角釘	45

図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
3	Kd-j-01	V区	SK16	堆積土	石製品	環状不明品	(3.7)	(2.0)	0.6	3.3	流紋岩	破片　約 1/2 欠損？ 縁辺面取状擦痕　正裏面擦痕	45

第174図　V区土坑出土遺物

(3)性格不明遺構（第175図）

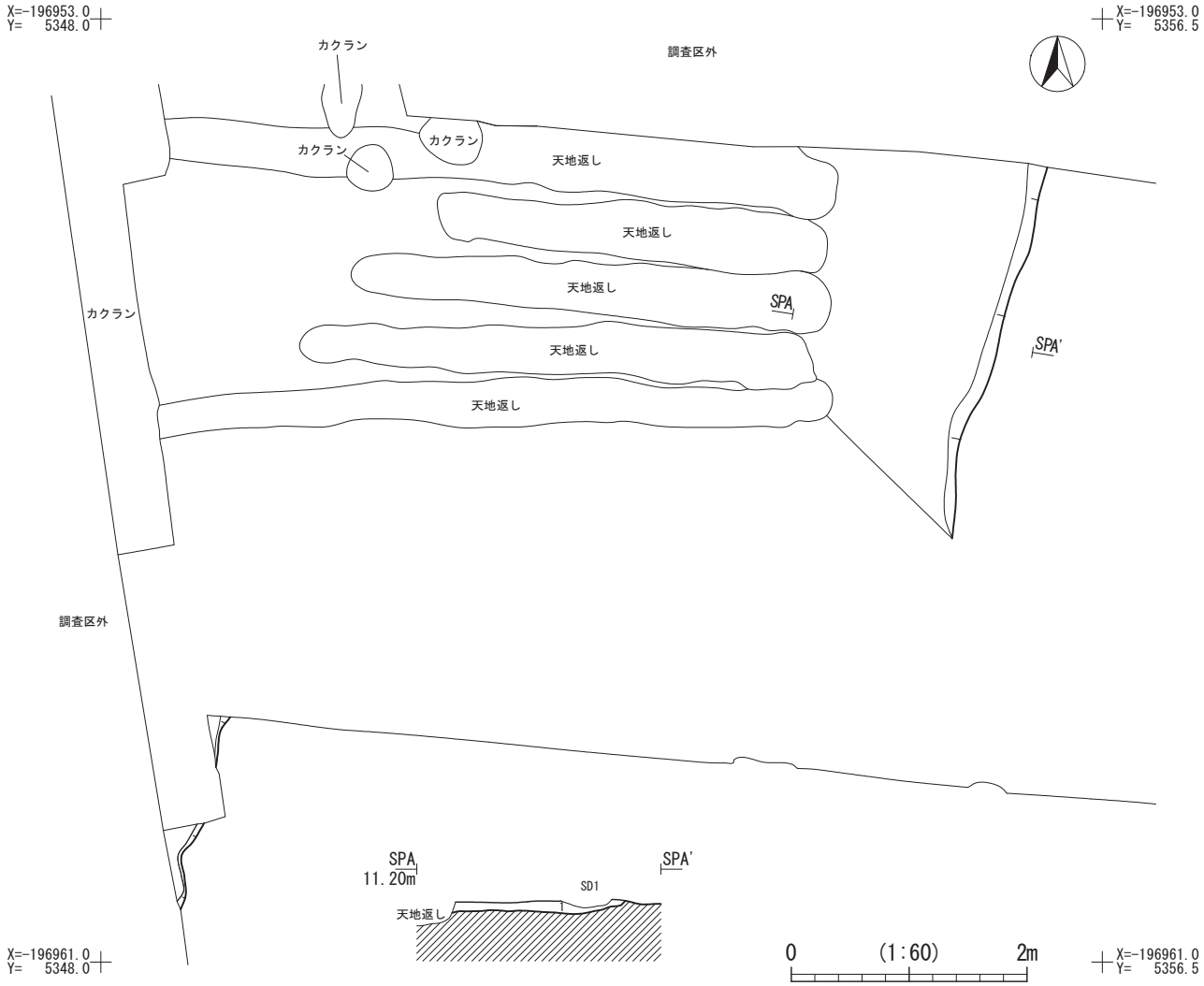
V区からは西部で1基の性格不明遺構が検出された。上面は削平を受けて失われており、大半が調査区外へ伸びているため詳細は不明であるが、段切り状の地形改変の痕跡と推定される。

SX11　性格不明遺構（第175図）

V区西部、3・4・6・7グリッドに位置する。SD1と重複し、本遺構が古い。本遺構の北側及び西側は調査区外へ伸びているため、平面形や規模などの詳細は不明である。検出面からの深さは6 ～ 9cmである。堆積土は単層で、炭化物を少量含む暗灰黄色砂質シルトを主体とする。堆積土中から遺物は出土していない。

(4)ピット（第170・176図）

V区からは中近世のピット72基（Pit1 ～ 71・77）が検出された。平面形は円形や楕円形のものもあるが、不整形のものが多い。規模も様々で、長軸16 ～ 59cmを測り、検出面からの深さは6 ～ 30cmである。分布状況をみると調査区東端に多く分布しており、中央部から西部にかけてはやや希薄になる。Pit1 ～ 71はいずれも天地返し堆積土



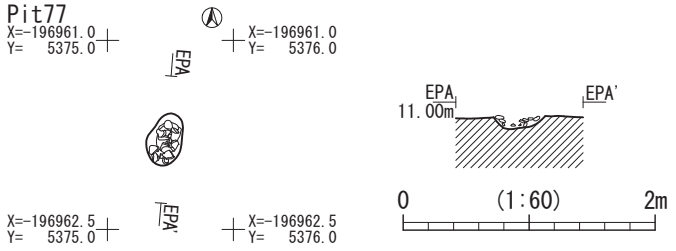
SX11 性格不明遺構 堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SX11	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	炭化物を少量含む。	SX11 → SD1

第175図　V区SX11性格不明遺構

と類似するオリーブ褐色砂質シルトを主体とする。各ピットの配置関係をみると、大部分が天地返しに沿って分布することから、その痕跡の可能性もある。

Pit77は個別図を掲載した(第176図)。平面形は楕円形を呈し、検出された規模は長軸42㎝、短軸28㎝、検出面からの深さは10㎝である。底面から壁面にかけて緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。内部からは径5㎝から拳大の円礫が多数出土したが、堆積土中から土器類は確認されていない。



第176図　V区ピット

ピット（表土直下）　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit1	V区	16	（円形）	(24) × (19)	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD4 → Pit1
Pit2	V区	17	（円形）	(20) × (12)	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit3	V区	17	円形	30 × 25	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit4	V区	17	円形	31 × 30	16	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit5	V区	17	（円形）	(27) × (8)	12	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit6	V区	17	円形	31 × 29	30	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit7	V区	17	（楕円形）	(42) × (29)	21	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit8	V区	17	楕円形	27 × 22	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit9	V区	17	楕円形	32 × 27	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit10	V区	16・17	円形	29 × 29	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit11	V区	16	楕円形	29 × 23	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit12	V区	16	（円形）	25 × (20)	9	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit13	V区	16	（円形）	18 × (15)	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	Pit13 → Pit14
Pit14	V区	16	不整円形	26 × 24	15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	Pit13 → Pit14
Pit15	V区	16	円形	29 × 28	26	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit16	V区	16	不整円形	22 × 18	12	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit17	V区	16	円形	24 × 21	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit18	V区	16	不整円形	28 × 27	21	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit19	V区	16	楕円形	26 × 21	15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit20	V区	15・17	不整円形	24 × 22	7	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit21	V区	16	（円形）	(13) × (7)	6	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit22	V区	16	（楕円形）	(23) × (18)	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit23	V区	16	円形	23 × 22	8	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD4 → Pit23
Pit24	V区	16	円形	24 × 21	16	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD4 → Pit24
Pit25	V区	16	（円形）	(13) × (9)	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD4 → Pit25
Pit26	V区	16	（方形）	(18) × (12)	10	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit27	V区	16	（円形）	(21) × (11)	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit28	V区	16	楕円形	19 × 14	7	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit29	V区	16	不整円形	19 × 17	8	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit30	V区	17	楕円形	41 × 34	12	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit31	V区	17	（円形）	(34) × (12)	20	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit32	V区	17	円形	26 × 25	15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD3 → Pit32
Pit33	V区	17	円形	24 × 21	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit34	V区	17	長楕円形	59 × 24	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD3 → Pit34
Pit35	V区	17	（円形）	(25) × (24)	25	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit36	V区	17	（円形）	(29) × (16)	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit37	V区	17	不整円形	30 × 26	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD3 → Pit37
Pit38	V区	17	楕円形	40 × 33	24	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD2・3→Pit38
Pit39	V区	17	楕円形	33 × 27	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD2 → Pit39
Pit40	V区	17	不整円形	28 × 26	16	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SD2 → Pit40
Pit41	V区	17	（円形）	(19) × (9)	20	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit42	V区	17	（不整円形）	(25) × (15)	14	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit43	V区	17	不整楕円形	31 × 28	24	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit44	V区	17	楕円形	44 × 31	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit45	V区	17	（不整楕円形）	(23) × (16)	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit46	V区	17	不整円形	41 × 38	21	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit47	V区	15	楕円形	33 × 26	23	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit48	V区	15	円形	25 × 24	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit49	V区	15	円形	23 × 20	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit50	V区	14・15	楕円形	32 × 27	13	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit51	V区	14	楕円形	28 × 23	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit52	V区	15	楕円形	42 × 35	30	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit53	V区	16	楕円形	34 × 28	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit54	V区	15	楕円形	34 × 28	22	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit55	V区	7・8	不整楕円形	40 × 37	44	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	Pit55 → SD1
Pit56	V区	7	（円形）	(54) × (22)	7	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit57	V区	7・8	不整円形	38 × 36	24	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit58	V区	8	不整楕円形	46 × 41	24	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit59	V区	8	不整円形	35 × 32	48	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit60	V区	8	（円形）	(41) × (22)	20	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit61	V区	12	円形	27 × 24	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit62	V区	12	楕円形	33 × 26	19	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit63	V区	11	円形	27 × 26	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit64	V区	11	円形	26 × 25	11	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit65	V区	11	不整円形	27 × 25	12	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit66	V区	12	円形	25 × 22	14	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit67	V区	11	不整円形	42 × 38	15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit68	V区	8	不整楕円形	43 × 33	22	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SK14 → Pit68
Pit69	V区	7	円形	27 × 25	22	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit70	V区	3	円形	30 × 30	72	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit71	V区	7	円形	18 × 16	9	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit77	V区	15	楕円形	42 × 28	10	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。φ 5cm～拳大の円礫を多量含む。	

第３節　古墳時代後期～終末期の遺構と遺物（第177 ～ 183図）

本節では、Ⅴ区のⅣ層上面で検出された古墳時代後期～終末期に帰属する遺構や遺物について記述する。該当する遺構は、竪穴住居跡が2軒である。Ⅳ区と比較して遺構の分布密度は希薄であるが、居住域がⅤ区に伸びていることが確認された。また、調査区の北側でも東西方向に流れる河川跡が検出されたことから、Ⅴ区においてもⅡ期官衙外溝想定域は河川の浸食によって失われたことが考えられる。

(1)竪穴住居跡（第178 ～ 182図）

Ⅴ区からは調査区西半部から2軒の竪穴住居跡が重複して検出された。

SI17　竪穴住居跡（第178 ～ 180図）

[位置・残存] Ⅴ区西半部南側、8・9グリッドに位置する。本遺構の南側両隅を含む南辺は調査区外に伸びており、また撹乱などによって遺構の一部が失われている。

[重複] 新旧関係は、SD1、SK12・SK13・SK17よりも古く、SI18よりも新しい。

[規模・形態] 検出された範囲は、南北（長軸）404cm、東西（短軸）390cmである。平面形は方形を呈すると推定される。

[主軸方位] 新カマドの煙道部を基準に主軸方位を求めると、N-98° -Wである。

[堆積土] 17層に分層された。1・2層は住居堆積土である。3層は周溝内堆積土である。4 ～ 11層は新カマドに関連する層位で、6 ～ 9層は天井部及び煙道部崩落土、10・11層は袖部構築土である。12層は貼り床土、13・14層は旧カマド煙道部堆積土、15 ～ 17層は住居掘り方土である。

[壁面] 検出された範囲での壁面は、直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は西壁で7cm、北壁で10cm、東壁で14cmである。

[床面] 全面貼り床構造で、ほぼ平坦である。住居中央付近には良好な硬化面が形成される。検出された範囲の床面積は約13㎡である。

[柱穴] 4基検出された。いずれのピットにも柱痕跡は認められないが、規模や位置関係から、P2・P4が主柱穴であると考えられる。平面形は円形を呈し、規模はP2が長軸30cm、短軸28cm、P4が長軸51cm、短軸47cmで、床面からの深さはP2が13cm、P4が21cmである。P3・P5については、P2とP4の間に位置し、平面形は円形と楕円形を呈する。規模はP3が長軸26cm、短軸23cm、P5が長軸23cm、短軸17cmで、床面からの深さはP3が13cm、P5が19cmである。

[周溝] 検出された範囲では、カマド周辺を除き壁面に沿って全周する。規模は幅11 ～ 23cm、深さは3 ～ 6cmであり、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には、深さ10cm前後の掘り方が確認された。

[カマド] カマドの造り替えがあり、旧カマドは北壁に造られているが、新カマドは位置を変えて西壁に造られている。

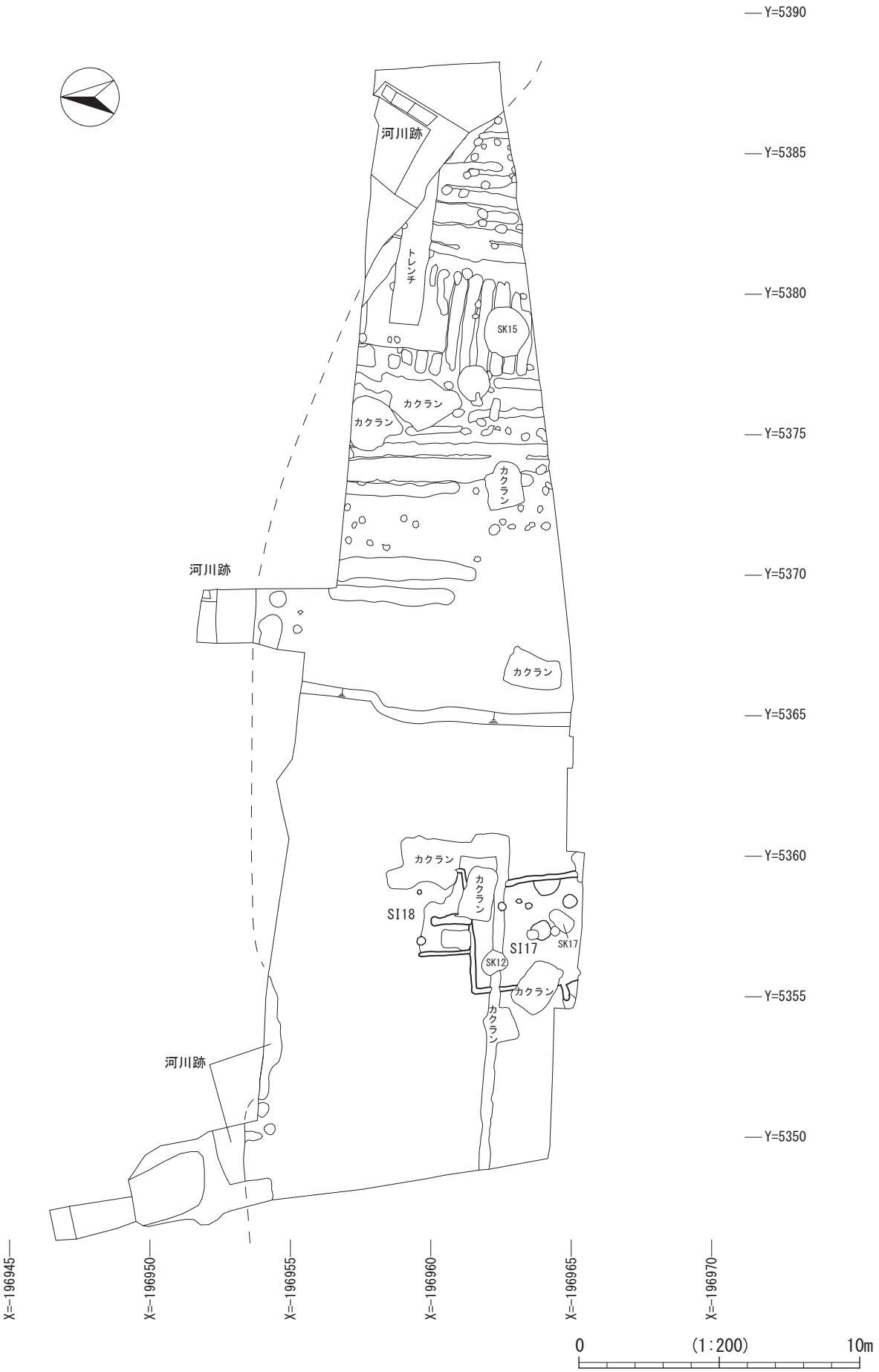
新カマドは西壁中央やや南寄りに位置し、壁面に対してほぼ直交して付設される。袖部は南側が長さ65cm、幅31cmであり、壁面に直交して直線的に伸びるが、北側の袖部は撹乱によって失われている。袖下には不定形な浅い掘り方が確認され、Ⅳ層の黄褐色シルトを主体として構築されている。

火床面は、北側約1/3が撹乱によって失われており、現存する範囲は、幅約40cm、奥行き64cm、奥壁高は9cmである。底面は皿状に浅く窪み、層厚2 ～ 3cmの焼土塊が堆積している。

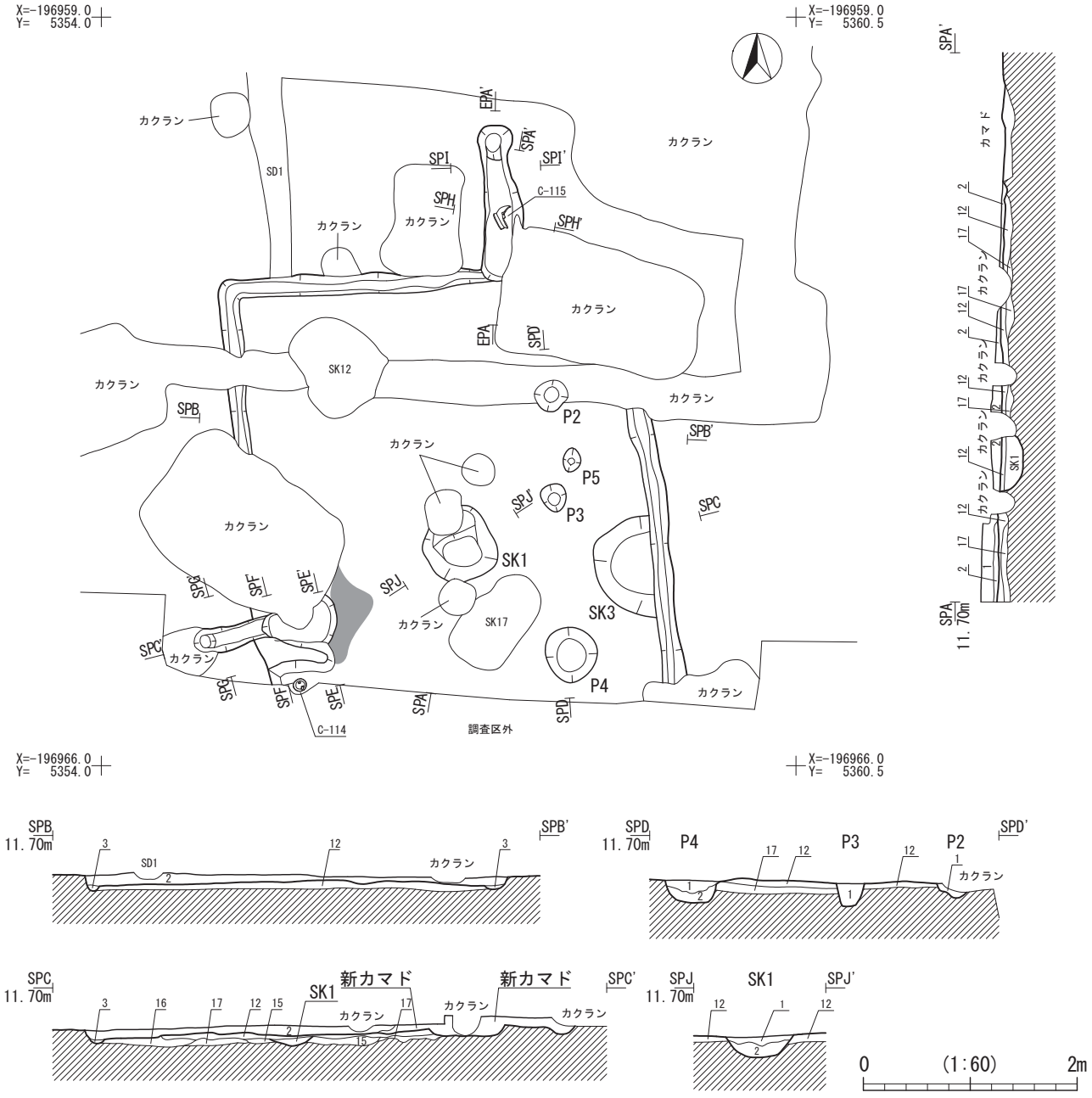
煙道部は長さ64cm、幅19 ～ 24cm、深さは4 ～ 9cmである。煙出し部には煙道部底面から深さ約5cmの掘り込みが認められる。

旧カマドは北壁中央やや東寄りに位置し、煙道部のみが検出された。煙道部は長さ146cm、幅24 ～ 36cm、深さは4 ～ 9cmである。煙出し部には煙道部底面から深さ約4cmのピット状の掘り込みが認められる。

[土坑] 土坑は2基検出された。SK1は、本遺構のほぼ中央に位置する。撹乱を受けて一部が失われている。平面形



第１７７図　Ｖ区遺構配置図（Ⅳ層上面）

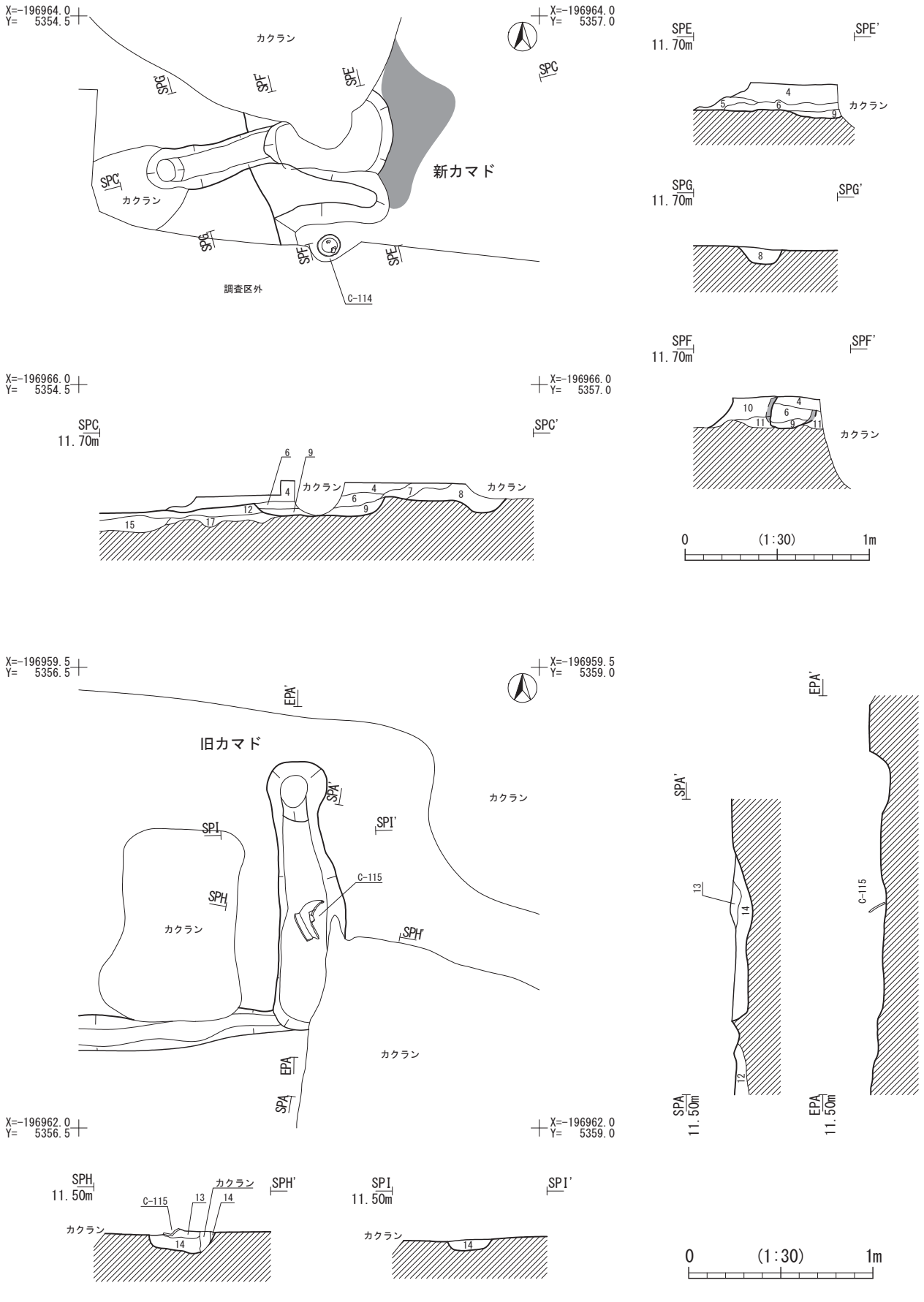


第178図　Ⅴ区ＳＩ17竪穴住居跡（1）

は不整楕円形を呈し、規模は長軸67㎝、短軸65㎝、床面からの深さは23㎝である。底面から壁面にかけて内湾ぎみに立ち上がり、断面形は椀状を呈する。

SK3は、東側周溝際の中央やや南寄りに位置し、平面形は半円形を呈する。規模は南北96㎝、東西57㎝、床面からの深さは5㎝で、断面形は浅い皿状を呈する。新カマドの対辺に位置することから、出入口施設の可能性も推定される。

[出土遺物] 本遺構からは、堆積土及び床面直上、新旧カマド内から平箱で約1箱分の遺物が出土した。そのうち図示可能な土師器坏1点・甕1点・甑1点を掲載した(第180図)。1は坏の完形品で、新カマド脇の床面直上から正位で出土した。口縁部と体部との境に稜をもたず、底部は丸底で半球形の器形である。口縁部は内外面ともヨコナデ調整で、体部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整である。2は甕の口縁部～胴上半部片で、旧カマドの煙道部



第179図　Ⅴ区SI17竪穴住居跡（2）

SI17　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト塊をやや多く含む。
P2	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト塊をやや多く含む。
P3	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 3cmの 10YR8/1 灰白色粘土質シルト塊を微量含む。
P4	1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	φ1 ～ 3cmの 10YR8/2 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
	2	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y7/2 灰黄色粘土質シルト塊を少量含む。
SK1	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	φ2 ～ 10cmの 10YR8/2 灰白色粘土質シルト塊をやや多く含む。
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ1 ～ 5cmの 10YR8/2 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
SK2	−	−	−	−	SK17 に変更のため欠番。
SK3	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ5mmの炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。

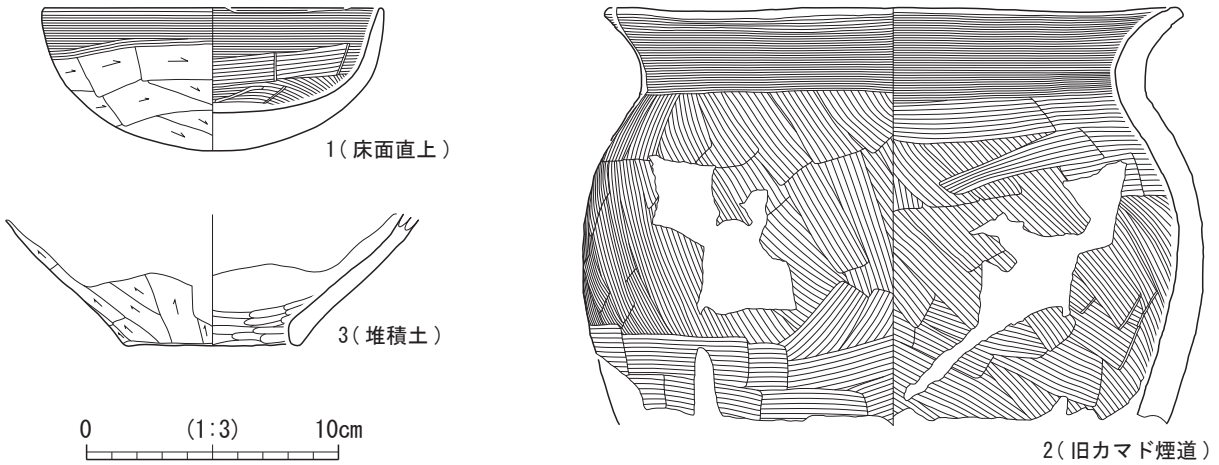
SI17　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	φ5mmの炭化物を微量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト塊を少量含む。
周溝	3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト塊を少量含む。
カマド	4	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 2cmの炭化物をやや多く、φ1cmの焼土塊を少量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y8/2 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
	5	2.5Y6/2	灰黄色	シルト	φ5mmの炭化物を少量、焼土を微量含む。
	6	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	φ1 ～ 3cmの焼土塊をやや多く、φ0.5 ～ 1 cmの炭化物を多量に含む。
	7	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	φ1cm前後の炭化物をやや多く、φ1 ～ 2cmの焼土塊を少量、φ1 ～ 3cmの 2.5Y7/2 灰黄色シルト塊をやや多く含む。
	8	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	焼土・炭化物を微量含む。
	9	2.5YR4/3	にぶい赤褐色	シルト	φ1 ～ 4cmの焼土塊を多量、φ1 ～ 3cmの炭化物をやや多く含む。
カマド袖	10	2.5Y6/8	明黄褐色	シルト	締まりやや強い。
	11	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	締まりやや強い。
貼り床	12	2.5Y8/2	灰白色	粘土質シルト	φ3 ～ 5cmの 2.5Y5/1 黄灰色シルト塊を少量含む。
旧カマド	13	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	炭化物を少量含む。
	14	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ1cm前後の焼土塊を微量、炭化物を微量含む。
掘り方	15	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルトを少量、炭化物を少量含む。
	16	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	φ1 ～ 5cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量、φ1 ～ 3cmの 2.5Y4/1 黄灰色シルト塊を少量含む。
	17	2.5Y7/2	灰黄色	シルト	φ2 ～ 3cmの 2.5Y8/2 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。

SI17　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	−	−	−	欠番
P2	円形	30 × 28	13	主柱穴
P3	円形	26 × 23	13	
P4	円形	51 × 47	21	主柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P5	楕円形	23 × 17	19	
SK1	不整楕円形	67 × 65	23	床下土坑
SK2	−	−	−	SK17 に変更のため欠番
SK3	半円形	96 × 57	5	出入口施設？



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量（cm）			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	C-114	V区	SI17	床直	土師器	坏	略完形	13.4	−	5.6	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ・一部ヘラミガキ		45
2	C-115	V区	SI17 旧カマド	堆積土	土師器	甕	口縁～胴部	(22.6)	−	(16.6)	口縁部ヨコナデ、胴部上半斜位ヘラナデ、胴部下半横位ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、胴部斜位ヘラナデ		45
3	C-116	V区	SI17	堆積土	土師器	甑	底部 1/4 弱	−	(7.0)	(5.2)	縦位ヘラケズリ	下端部横位ヘラミガキ		45

第180図　V区SI17竪穴住居跡出土遺物

から出土した。胴部上位に最大径をもつ胴張り甕で、口縁部は外反する。口縁部内外面はヨコナデ、胴部内外面はヘラナデ調整である。3は甑の胴部下端で、堆積土中から出土した。底部は単口式で、外面は縦位ヘラケズリ、内面は横位ヘラミガキ調整である。

他には、土師器坏片や甕の口縁部・胴部片、須恵器坏の口縁部片などが出土しているが、いずれも細片であるため図示し得なかった。

SI18　竪穴住居跡(第181・182図)

[位置・残存] Ⅴ区西半部中央、7・8グリッドに位置する。本遺構の大部分は撹乱及び遺構間との重複により壊されている。

[重複] 新旧関係はSI17よりも古い。

[規模・形態] 検出された範囲は、南北185cm、東西305cmである。平面形は方形を呈すると推定される。

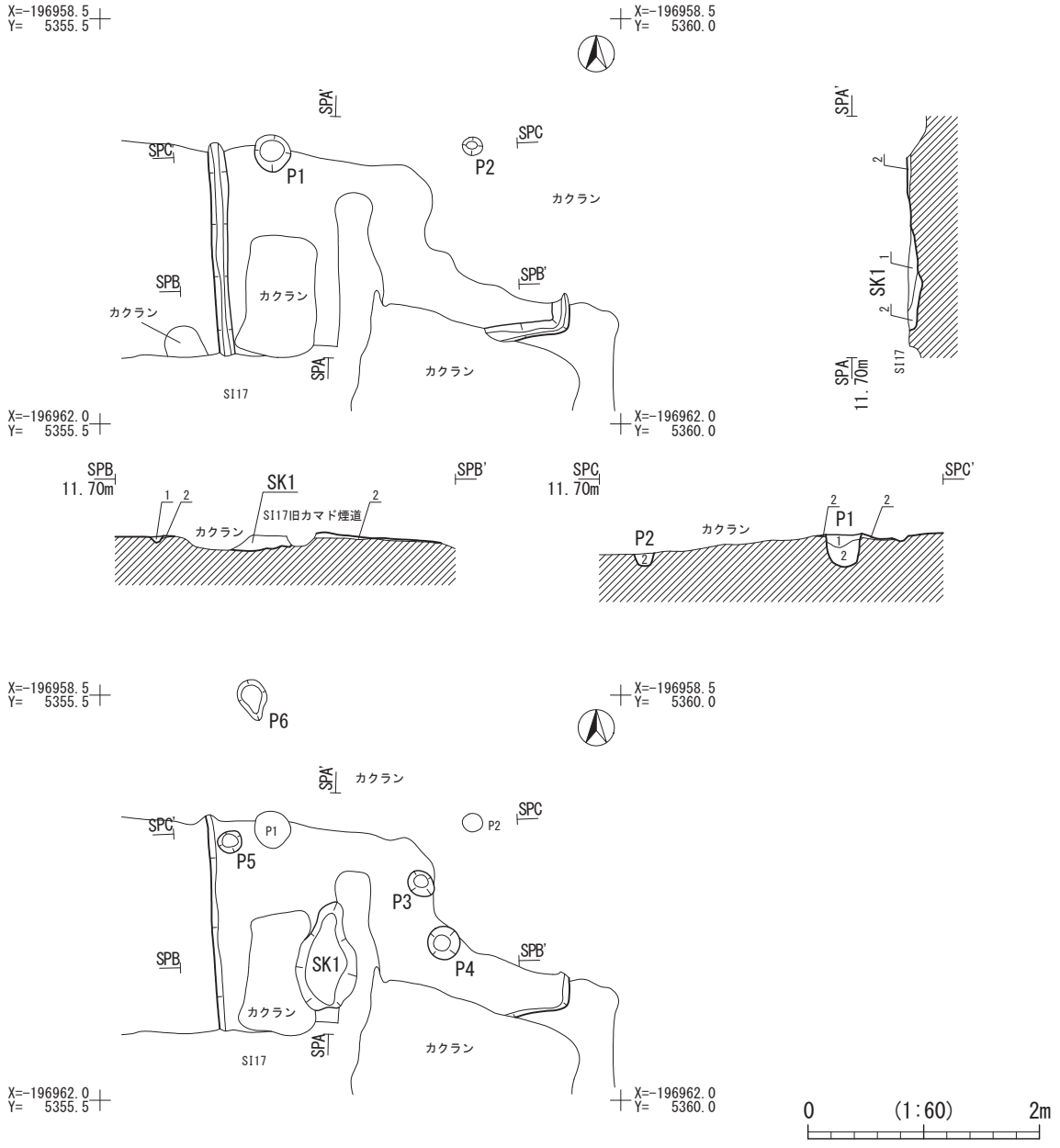
[方向] 西壁を基準に主軸方位を求めると、N-3° -Wである。

[堆積土] 2層に分層された。1層は周溝内堆積土、2層は貼り床土である。

[壁面] 遺構上部は削平を受けて壊されており、検出面において壁は残存していない。

[床面] 残存部は全面貼り床構造で、ほぼ平坦である。検出された範囲の床面積は約4.9㎡である。

[柱穴] 6基検出された。いずれのピットにも柱痕跡は認められないが、規模や位置関係から、P1・P2が主柱穴であると考えられる。平面形は円形を呈する。規模はP1が長軸33cm、短軸32cm、床面からの深さは28cmである。P2



第181図　Ⅴ区SI18竪穴住居跡

SI18　堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
周溝	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	φ2 ～ 3cmの 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト塊を少量含む。
貼り床	2	10YR7/1	灰白色	粘土質シルト	φ1 ～ 2cmの 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト塊を少量含む。

SI18　施設堆積土註記表

部位	層位	土色		土性	備考
P1	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	炭化物を少量、φ2 ～ 3cmの 2.5Y7/3 浅黄色シルト塊を少量含む。
P2	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
P3	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
P4	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
P5	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
P6	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト	炭化物を少量、φ1 ～ 2cmの 2.5Y8/1 灰白色粘土質シルト塊を少量含む。
SK1（床下土坑）	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	φ1 ～ 2cmの炭化物を少量含む。
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	φ1 ～ 6cmの炭化物をやや多く含む。

SI18　施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P1	円形	33 × 32	28	主柱穴
P2	円形	17 × 16	11	主柱穴
P3	楕円形	26 × 21	10	掘り方検出
P4	円形	28 × 28	17	掘り方検出

遺構名	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	備考
P5	不整円形	21 × 19	15	掘り方検出
P6	不整楕円形	36 × 24	6	掘り方検出
SK1	（楕円形）	（92） ×（53）	11	床下土坑

は径17cm、検出面からの深さは11cmである。P3 ～ P6は掘り方内から検出されている。平面形は円形もしくは楕円形を呈する。規模は長軸21 ～ 36cm、短軸19 ～ 28cm、検出面からの深さは6 ～ 17cmである。

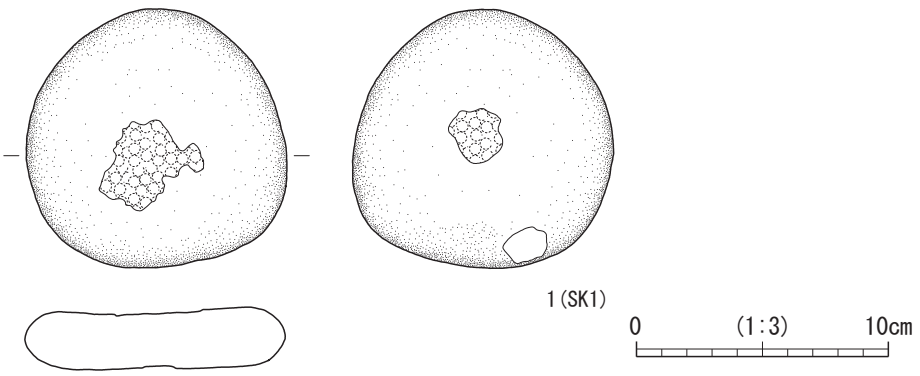
[周溝] 検出された範囲では壁面に沿って全周する。規模は幅11 ～ 16cm、深さは3 ～ 6cmであり、断面形はU字状を呈する。

[掘り方] 貼り床の直下には、深さ5cm前後の掘り方が確認される。

[カマド] 本遺構からカマドは確認されていない。

[床下土坑] 南側中央付近から床下土坑(SK1)が1基検出された。西側は撹乱を受け、東側はSI17の旧カマド煙道部に壊されているが、平面形は楕円形を呈すると推定される。検出された規模は長軸92cm、短軸53cm、検出面からの深さは11cmである。

[出土遺物] 本遺構からは、検出時及びSK1の堆積土中から平箱で約1/2箱弱分の遺物が出土した。そのうち図示可能な資料は、礫石器の1点である(第182図)。扁平な自然礫を用いた敲石で、SK1の堆積土中から出土した。正裏面ともに中央の平坦面に弱い敲打痕が認められる。石材は流紋岩である。他には、土師器坏の口縁部片や、甕の底部片、小型甕の口縁部片などが出土しているが、いずれも細片のため図示し得なかった。

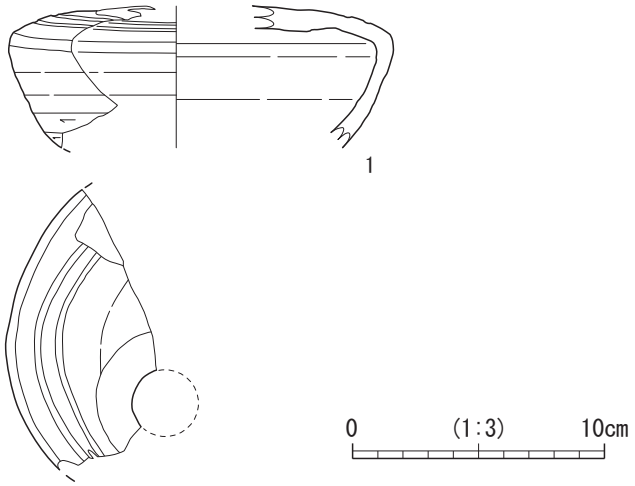


図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	特徴・備考	写真図版
							長さ	幅	厚さ				
1	Kc-c-09	V区	SI18SK1	堆積土	礫石器	敲石	10.2	10.4	2.3	214.5	流紋岩	完形　敲2（正裏）	45

第182図　V区SI18竪穴住居跡出土遺物

(2)遺構外出土遺物(第183図)

遺構外からは平箱で約1/2箱分の遺物が出土した。出土した遺物の大半はⅣ・Ⅴ区の主要時期である7世紀中～後半の年代幅に収まり、本調査区から検出された竪穴住居跡の年代観とほぼ一致する。そのうち図示可能な須恵器平瓶1点を掲載した(第183図)。胴部片で、肩部に凹線が2条めぐり、胴部下半には回転ヘラケズリ調整が施される。他には、土師器坏・甕、須恵器蓋などが出土しているが、いずれも細片であるため図示し得なかった。



図版番号	登録番号	調査区	出土地点	層位	種別	器種	部位	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
								口径	底径	器高				
1	E-046	Ⅴ区	8Gr.	Ⅳ層	須恵器	平瓶	肩部～胴部1/4弱	－	－	(5.8)	肩部～胴部上半ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、胴部下半回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	SK14(近代)混入 胴部最大径15.3cm	45

第183図　Ⅴ区遺構外出土遺物

第4節　古墳時代前期～中期の遺構と遺物(第184・185図)

本節では、Ⅴ区のⅥ層上面で検出された古墳時代前期～中期に帰属する遺構や遺物について記述する。該当する遺構は、小溝状遺構4条、ピット5基である。なお、遺構に伴う遺物の出土はなく、遺構外で7グリッドから土師器甕の口縁部片1点と礫石器1点が出土しているが、図示は省略した。

(1)小溝状遺構群(第185図)

Ⅴ区西端部からはSM145～148の計4条の小溝状遺構が検出された。検出された規模は、長さ360～1075cm、幅24～36cm、検出面からの深さは5～9cmで、断面形はU字状を呈する。北側は河川によって浸食されており、南側は調査区外へ伸びている。検出された範囲では4条ともほぼ平行して南北方向に走る。遺構の方位や規模から、Ⅳ区小溝状遺構B群の東端に属すると考えられる。

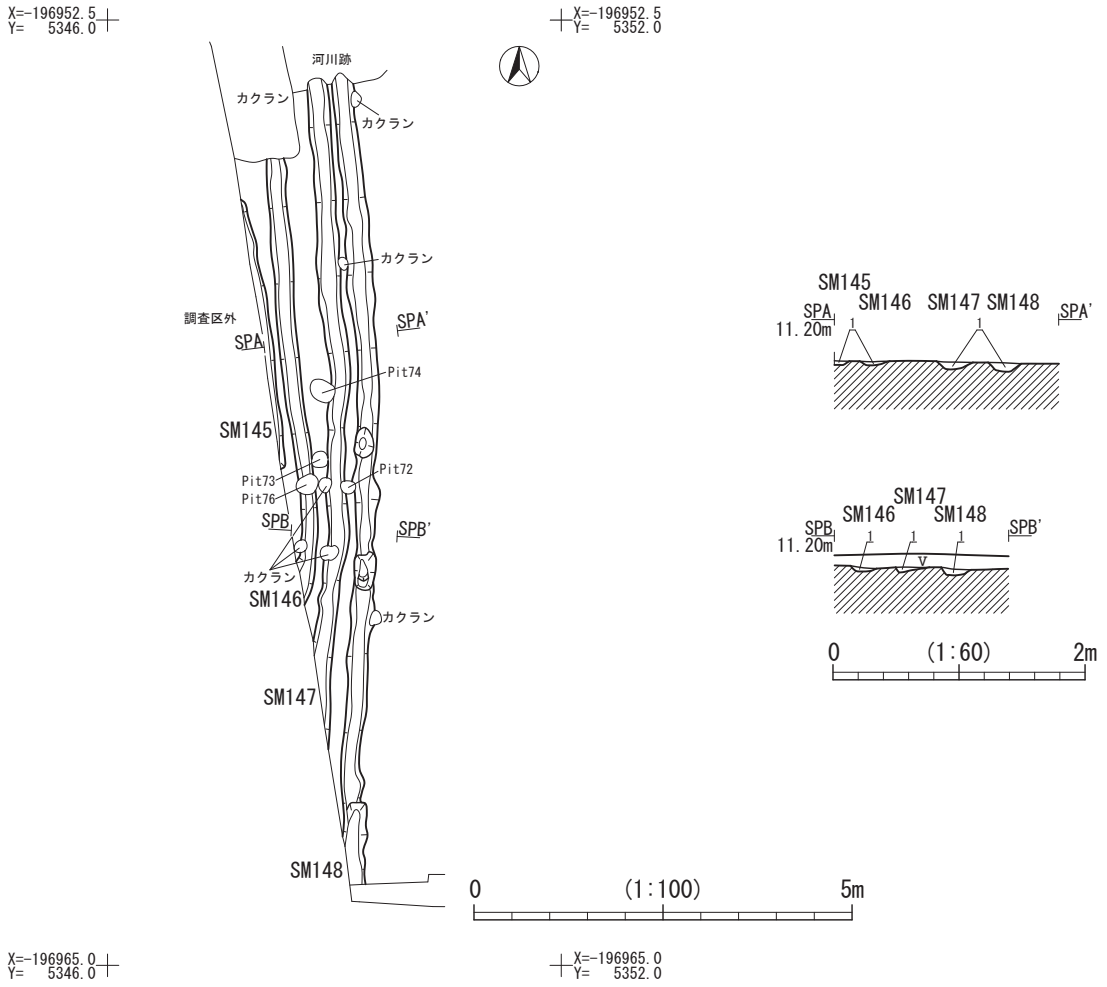
(2)ピット(第184図)

Ⅴ区からは古墳時代のピット5基(Pit72～76)が検出された。平面形は円形や楕円形のものもあるが、不整形なものが多い。規模はPit72～74・76が、長軸17～34cm、検出面からの深さは13～18cmである。いずれも小溝状遺構と重複しており、それらよりも新しい。Pit75は規模が長軸45cm、検出面からの深さは8cmである。ピットはいずれも近接した位置にあるが、掘立柱建物跡や柱穴列を抽出するには至らなかった。これらのピットの詳細については観察表に記載した。

第184図　Ⅴ区遺構配置図（Ⅵ層上面・弥生下層調査区）

ピット（Ⅵ層上面）　観察表

遺構名	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）		層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
				長軸×短軸	深さ						
Pit72	Ⅴ区	3	円形	20 × 17	13	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SM147・148→Pit72
Pit73	Ⅴ区	3	円形	24 × 22	15	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SM146・147→Pit73
Pit74	Ⅴ区	3	楕円形	34 × 26	17	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SM147→Pit74
Pit75	Ⅴ区	6	不整楕円形	45 × 37	8	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	
Pit76	Ⅴ区	3	不整楕円形	30 × 24	18	1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	締まりと粘性が弱い。	SM146→Pit76



小溝状遺構　観察表

遺構名	グリッド	方向	規模（cm）	深さ	層位	土色		土性	備考	重複（旧→新）
SM145	2・3	N-9° -W	360 × （14）	5	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	
SM146	2 ～ 4	北半：N-5° -W 南半：N-6° -E	590 × 24	5	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SM146 →Pit73・76
SM147	2 ～ 4	北半：N-5° -W 南半：N-5° -E	890 × 30	9	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SM147→ Pit72・73・74
SM148	2 ～ 4	北半：N-5° -W 南半：N-2° -E	1075 × 36	8	1	10YR3/3	暗褐色	シルト	φ2 ～ 3㎜の炭化物を少量、10YR5/6 黄褐色シルト塊を微量含む。	SM148→Pit72

第185図　Ⅴ区小溝状遺構群

第5節　弥生時代の調査（第184図）

Ⅳ区Ⅵ層の炭化物集中や遺物の分布状況から、Ⅴ区においても弥生時代後期の遺構や遺物の状況を確認するため、Ⅵ層上面の調査終了後、弥生時代としたⅥ層以下が良好に残存している調査区西半部に下層調査区を設定して層位的な発掘を行った。なお、発掘区は8グリッド内と12グリッド内に4m四方の調査区を設定し、前者を弥生下層調査区1、後者を弥生下層調査区2とした。

弥生下層調査区1では、Ⅴb層直下にⅥc層が確認され、以下Ⅵd・e層が良好に残存していた。Ⅳ区で炭化物集中箇所の検出された層に比定されるⅥa・b層は確認されず、遺物も出土していない。

弥生下層調査区2では、Ⅴb層直下にⅥa·b層が残存しており、炭化物集中箇所が1ヶ所確認された。平面形は不整形で、検出面からの深さは5 ～ 13㎝である。底面は緩やかな起伏をもち、断面形は浅い皿状を呈する。明瞭な掘り込みは認められず、遺物は出土していない。

以上のことから、Ⅴ区においてもⅣ区で検出された炭化物集中5や炭化物集中6、炭化物集中7と類似する炭化物集中域が部分的に形成されている様相が確認された。しかし、両下層調査区から遺物の出土はなく、詳細は不明である。

第9章　自然科学分析

第1節　郡山遺跡第190次調査Ⅳ区の古環境

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

宮城県仙台市太白区郡山に所在する郡山遺跡は、名取川とその支流の広瀬川に挟まれた標高9～12mに立地する。本遺跡は郡山官衙跡を中心とし、周辺では同時期の集落跡が発見されている。そのうち官衙は建て替えが認められ、古い時期をⅠ期官衙、新しい時期をⅡ期官衙としている。今回の発掘調査区であるⅣ区はⅡ期官衙の北東隅付近に相当し、竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の遺構が検出されているほか、窪地状地形が認められており、また調査区の北側には河川跡が認められている。

今回の分析調査では、調査区壁面及び窪地状地形1内に設定されたベルトを対象に、古環境変遷、窪地状地形の利用状況に関する情報を得ることを目的として、珪藻分析、花粉分析・寄生虫卵分析、植物珪酸体分析、種実遺体分析、土壌理化学分析を実施する。

1.試料

分析調査対象は、調査区南壁、窪地状地形1内B-B'ベルト(以下、「B-B'ベルト」と略称)、西壁の3地点である。南壁及びB-B'ベルトは窪地状地形1内に設定されており、調査所見から古墳時代前期以降の堆積土が観察された。西壁は河川跡から微高地にかけて設定されており、古墳時代前期以前と推定される灰～灰褐色の砂を主体とした微高地構成層と褐色の旧表土とみられる土壌層が観察された。

土壌試料は、当社技師1名が平成20年11月7日に現地に赴き、観察記載の上採取した。採取試料は、南壁では8点(試料番号1～8)、B-B'ベルトでは5点(試料番号9～13)、西壁からは2点(試料番号14･15)である(第21･150図)。これらの試料を用いて、珪藻分析9点、花粉分析2点、寄生虫卵分析7点、植物珪酸体分析7点、種実遺体分析4点、土壌理化学分析7点を実施する。分析試料の詳細、及び分析項目一覧を表1に示す。

2.分析方法

(1)珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法(4時間放置)の順に物理･化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラッ

表1　分析試料の詳細及び分析項目一覧

地区	地点	層位	試料番号	分析項目 *						備考	
				珪藻	花粉	寄生虫	珪酸体	種実	土理		
Ⅳ区	南壁	Ⅱa	1							窪地状地形1(古墳前期以降)	
		整地-2	2	1		1	1	1	1		整地層（SB1時点）
		1	3				1				
		2	4	1		1	1	1	1		
		4	5	1		1	1	1	1		
		6	6	1		1	1	1	1		古墳前期・中期の遺物出土
		7	7	1	1		1				古墳前期・中期の遺物出土
		Ⅵb	8								
	B-B'ベルト	3	9	1		1			1		
		4上位	10	1		1			1		
		4下位	11	1		1			1		整地前旧表土？
		6	12	1							古墳前期・中期の遺物出土
		7	13								古墳前期・中期の遺物出土
	西壁	Ⅴb	14		1		1			(古墳前期以前)	
		Ⅵd	15								
合計				9	2	7	7	4	7		

* 珪藻：珪藻分析、花粉：花粉分析、寄生虫：寄生虫卵分析、珪酸体：植物珪酸体分析、種実：種実遺体分析
土理：土壌理化学分析

クスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか(1998)、Kramm er(1992)、Kramm er & Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)、渡辺ほか(2005)、小林ほか(2006)などを参照し、分類基準は、Round et al.(1990)に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は柳沢(2000)に従う。

同定結果は、中心類(Centric diatoms;広義のコアミケイソウ綱Coscinodiscophyceae)と羽状類(Pennate diatoms)に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類(Araphid pennate diatoms:広義のオビケイソウ綱Fragilariophyceae)と有縦溝羽状珪藻類(Raphid pennate diatoms;広義のクサリケイソウ綱Bacillariophyceae)に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については、Vos & de Wolf(1993)を参考とするほか、塩分濃度に対する区分はLowe(1974)に従い、真塩性種(海水生種)、中塩性種(汽水生種)、貧塩性種(淡水生種)に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種(貧塩性種)については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については渡辺ほか(2005)の環境指標種を参考とする。

(2)花粉分析・寄生虫卵分析

花粉分析は試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛,比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9,濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類を対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料ではこの限りではない)。

寄生虫卵分析は花粉分析と同様の処理手順を施し、重液による有機物の分離が終了した時点で処理を止める。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。

結果は、花粉・胞子化石については同定及び計数結果の一覧表として、寄生虫卵については1ccあたりに含まれる個数として表示する。

(3)植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム,比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)、及びこれらを含む珪化組織片を近藤(2004)の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生や燃料材について検討するために、植物珪酸体群集を図化する。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

(4)種実遺体分析

試料200ccを水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕

微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実や炭化材(主に4㎜角以上)を抽出する。

現生標本及び石川(1994)、中山ほか(2000)などとの対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。炭化材は、70℃ 48時間乾燥後の重量と最大径を表示する。分析後は、種実を容器に入れ、70％程度のエタノール溶液で液浸し保管する。

(5)土壌理化学分析

pH(H2O)はガラス電極法、電気電導度(EC)は白金電極法、腐植含量はチューリン法、全窒素量は硫酸分解－水蒸気蒸留法、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法(土壌標準分析・測定法委員会,1986)でそれぞれ行う。以下に各項目の操作工程を示す。

・試料調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2㎜の篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5㎜篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

・pH(H2O)

風乾細土試料10.0 g を秤り取り、25mlの蒸留水を加えてガラス棒で撹拌する。30分間放置後、再びガラス棒で懸濁状態とし、pHメーター(ガラス電極法)でpH(H2O)を測定する。

・電気伝導度(EC)

風乾細土試料10.0gを秤り取り、50mlの蒸留水を加えて1時間振とうする。振とう後、すみやかにECメーター(白金電極法)で電気伝導度を測定する。

・有機炭素量・腐植含量

粉砕土試料0.100 ～ 0.500 g を100ml三角フラスコに正確に秤り取り、0.4Nクロム酸・硫酸混液 10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2Ｎ硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値及び加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土％)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(％)を算出する。

・全窒素量

粉砕土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤り、分解剤約3.0gと硫酸10mlを加え加熱分解する。分解後、蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素量(％)を求める。さらに、有機炭素量を全窒素量で除し、炭素率(C/N)を算出する。

・全リン酸量(P2O5)

粉砕土試料1.00 g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO 3)約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO 4)約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P2O5mg/g)濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全リン酸量(P2O5mg/g)を求める。

3.結果

(1)珪藻分析

結果を表2、第186図に示す。いずれの試料も珪藻化石が豊富に産出する。完形殻の出現率は約70％で、化石の保存状態も良好である。産出分類群数は、合計で39属100分類群である。以下、地点ごとに述べる。

表２　珪藻分析結果（1）

種類	生態性			環境	南壁					B-B' ベルト			
	塩分	pH	流水	指標種	2	4	5	6	7	9	10	11	12
Bacillariophyta（珪藻植物門）													
Centric Diatoms（中心型珪藻類）													
Aulacoseira alpigena（Grun.）Kramm er	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	1	–	–	1	–	–	2	1	–
Aulacoseira crassipunctata Kramm er	Ogh-ind	ac-il	l-ph		6	3	3	2	4	4	10	4	2
Aulacoseira distans（Ehr.）Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	–	–	–	–	–	1	3	–	–
Aulacoseira italica（Ehr.）Simonsen	Ogh-ind	ind	l-ph	U	2	1	–	1	2	1	4	–	5
Aulacoseira spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	1	–	–	1	1	–	–	–
Orthoseira roeseana（Rabh.）O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	–	–	–	–	1	–	–	–
Cyclotella ocellata Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Araphid Pennate Diatoms（無縦溝羽状珪藻類）													
Diatoma mesodon（Ehren.）Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	r-bi	K,T	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Pseudostaurosira brevistriata（Grun.）Williams & Round	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	–	–	1	–	–	–	–	2	1
Staurosira venter（Ehren.）H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	–	–	2	–	–	–	2	2	1
Staurosirella pinnata（Ehr.）Williams & Round	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	–	–	–	1	–	–	–	–	–
Staurosirella lapponica（Grun. ）Williams & Round	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	–	–	–	–	–	1	–	2	–
Synedrella parasitica（W.Smith）Round	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Ulnaria ulna（Nitzsch）Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	1	1
Raphid Pennate Diatoms（有縦溝羽状珪藻類）													
Monoraphid Pennate Diatoms（単縦溝羽状珪藻類）													
Karayevia laterostrata（Hust.）Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	ind	ind	T	1	–	–	–	–	–	1	–	–
Planothidium lanceolatum（Breb. ex Kuetz.）Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	–	–	–	–	–	–	4	–
Achnanthidium subhudsonis（Hustedt）H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Cocconeis euglypta Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Cocconeis lineata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	–	–	–	2	–	–	–
Cocconeis placentula Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Biraphid Pennate Diatoms（双縦溝羽状珪藻類）													
Amphora copulata（Kuetz.）Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	1	–	–	–	–
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	12	6	15	21	17	4	2	–	2
Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Cymbopleura naviculiformis（Auerswald）Kramm er	Ogh-ind	ind	ind	O,U	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Encyonema silesiacum（Bleisch）D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	–	–	–	1	1	–
Placoneis elginensis（Greg.）E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	–	–	2	–	–	–	1	3	9
Placoneis elginensis var. neglecta（Krasske）H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	1	–	1	1	–	–
Placoneis palaelginensis Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	–	–	1	–	–	–	1	1	–
Gomphonema parvulum（Kuetz.）Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	–	–	1	1	–	1	1	2	2
Gomphonema pumilum var. rigidum E.Reichardt et Lange-B.	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Reimeria sinuata（W.Greg.）Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	–	–	1	–	–	1	1	2	–
Rhoicosphenia abbreviata（C.Agardh）Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Diploneis elliptica（Kuetz.）Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Diploneis oblongella（Naegeli）Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	1	–	–
Diploneis ovalis（Hilse）Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	–	–	–	–	–	–	–	1
Eolimna tantula（Hust.）	Ogh-ind	ind	r-ph	RI,U	1	6	4	2	–	10	10	7	16
Geissleria decussis（Oestrup）Lange-B. et Metzeltin	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	–	–	–	–	–	–	–	–	2
Navicula hambergii Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI	–	1	–	–	–	–	1	–	–
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB,T	–	1	1	1	–	1	10	2	4
Navicula ignota var. palustris（Hust.）Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Navicula subnympharum Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		–	–	–	–	–	–	–	2	–
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	7	7	1	–	–	–
Stauroneis borrichii（Pet.）Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	4	6	3	3	3	2	4	5	4
Stauroneis kriegeri Patrick	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	2	2	7	12	6	3	7	1
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	–	–	–	3
Stauroneis thermicola（Petersen）Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Stauroneis undata Hustedt	Ogh-ind	ind	unk		–	–	–	–	2	–	1	–	–
Frustulia vulgaris（Thwait.）De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	1	–	–	2	–	–	2	2
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	1	–	–
Diadesmis biceps Arnott ex Grunow in Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	12	42	25	4	2	22	11	7	12
Diadesmis contenta（Grun.ex Van Heurck）D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	4	2	9	1	2	2	3	1	3
Luticola cohnii（Hilse）D.G.Mann	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	–	1	3	3	–	1	–	1	5
Luticola mutica（Kuetz.）D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	50	57	45	24	29	40	44	30	19
Luticola paramutica（Bock）D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	3	5	2	–	4	–	–	1
Luticola ventricosa（Kuetz.）D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	RI,U	1	–	–	–	1	–	–	–	–
Neidium affine（Ehr.）Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi		–	–	–	1	7	–	–	–	–
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-ind	ac-il	ind	RA	1	2	2	–	–	3	1	4	–
Neidium ampliatum（Ehr.）Kramm er	Ogh-ind	ac-il	l-ph		–	–	–	5	8	–	–	–	–
Neidium bisulcatum（Lagerst.）Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	–	–	–	–	–	–	–	2	–
Neidium longiceps（W.Greg.）R.Ross	Ogh-hob	ac-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	1	–
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	ac-bi	ind	RA,S	8	3	1	2	1	–	1	–	–

表２　珪藻分析結果（2）

種類	生態性			環境	南壁					B-B' ベルト			
	塩分	pH	流水	指標種	2	4	5	6	7	9	10	11	12
Caloneis angustivalva Boye P.	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	2	1	1	–	1	1	2	5
Caloneis hyalina Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	–	1	–	–	–	–	–	–
Caloneis lagerstedtii（Lagerst.）Cholnoky	Ogh-ind	al-il	ind	S	–	–	1	2	–	–	1	1	–
Caloneis lauta Carter & Bailey-Watts	Ogh-ind	ind	ind		–	–	–	1	–	1	–	–	–
Caloneis leptosoma Kramm er & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	–	–	1	1	–	–	1	–	–
Caloneis truncatula（Grunow）	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Diatomella balfouriana（W.Smith）Greville	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	–	–	–	1	–	–	–
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	2	6	1	2	1	3	8	3	–
Pinnularia borealis var. brevicostata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	1	–	–	–	–	–
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Pinnularia mesolepta（Ehr.）W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	–	–	–	–	5	–	–	–	–
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	–	–	–	1	3	–	–	–	–
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	3	5	2	–	–	2	3	1
Pinnularia schoenfelderi Kramm er	Ogh-ind	ind	ind	RB	8	–	3	7	1	–	1	2	–
Pinnularia silvatica Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	–	–	–	1	3	–	1	–	–
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	3	3	5	1	–	2	1	3	1
Pinnularia subcapitata var. paucistriata（Grun.）Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	U	6	3	5	23	13	4	2	1	2
Pinnularia subrupestris Kramm er	Ogh-hob	ac-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	1
Sellaphora bacillum（Ehr.）D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Sellaphora pupula（Kuetz.）Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	1	–
Sellaphora pseudopupula（Krasske）Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind		1	–	–	–	–	–	–	–	–
Sellaphora seminulum（Grun.）D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S,RB	–	–	–	–	–	–	–	–	1
管縦溝類													
Hantzschia amphioxys（Ehr.）Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	61	46	42	45	44	72	55	70	77
Nitzschia vitrea Norman	Meh				–	–	–	–	1	–	–	–	–
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	RB,U	–	2	–	4	2	1	3	6	2
Nitzschia inconspicua Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	–	1	–	–	–	–	–	–	–
Nitzschia palea（Kuetz.）W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	1	1	2	1	2	–	1	–	1
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	–	–	–	–	–	1	–	–	2
Nitzschia frustulum（Kuetz.）Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	3	–	2	1	–	–	–	–	–
Nitzschia cf. perminuta（Grun.）Peragallo	Ogh-ind	al-il	ind	RI,U	3	1	–	7	4	2	3	–	–
Nitzschia tubicola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	–	–	1	–	–	–	–	–	–
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	1	–	–	–	–
Epithemia adnata（Kuetz.）Brebisson	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	–	–	1	–	1	1	–
Epithemia sorex Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Tryblionella debilis Arnott	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	–	–	1	–	–	–	–	–	–
Rhopalodia gibberula（Ehr.）O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	–	–	1	6	4	–	–	6	5
翼管縦溝類													
Surirella linearis W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	U	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Surirella minuta Brebisson	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	1	3	19	–	–	1	–
短縦溝類													
Eunotia incisa W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O,U	–	–	1	–	–	–	–	1	–
Eunotia minor（Kuetz.）Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	–	–	1	–	–	–	–	–	1
海水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	1	0	0	0	0
淡水～汽水生種					1	4	4	11	8	1	4	14	9
淡水生種					201	202	197	189	196	199	202	187	192
珪藻化石総数					202	206	201	200	205	200	206	201	201

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性　pH：水素イオン濃度に対する適応性　C.R.：流水に対する適応性

Meh：汽水生種　al-bi：真アルカリ性種　l-bi：真止水性種

Ogh-Meh：淡水ー汽水生種　al-il：好アルカリ性種　l-ph：好止水性種

Ogh-hil：貧塩好塩性種　ind：pH 不定性種　ind：流水不定性種

Ogh-ind：貧塩不定性種　ac-il：好酸性種　r-ph：好流水性種

Ogh-hob：貧塩嫌塩性種　ac-bi：真酸性種　r-bi：真流水性種

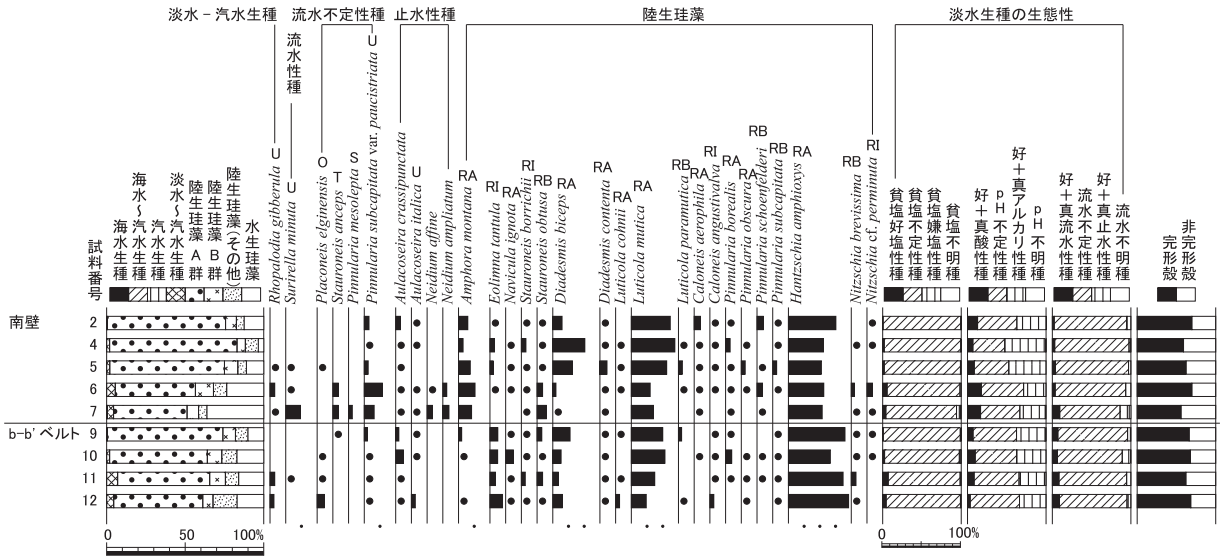
Ogh-unk：貧塩不明種　unk：pH 不明種　unk：流水不明種

環境指標種群

K: 中～下流性河川指標種，N: 湖沼沼沢湿地指標種，O: 沼沢湿地付着生種（安藤 ,1990）

S: 好汚濁性種，U: 広域適応性種，T: 好清水性種（以上は Asai & Watanabe,1995）

R: 陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分、伊藤・堀内 ,1991）



第186図　主要珪藻化石群集の層位分布

海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも 100 個体以上検出された試料について示す。なお、●は 2 %未満の産出を示す。
（環境指標種，O: 沼沢湿地付着生種，S: 好汚濁性種，U: 広域適応性種，T: 好清水性種，RA: 陸生珪藻 A 群，RB: 陸生珪藻 B 群，RI: 未区分陸生珪藻）

・南壁

試料番号7,6は、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻が全体の60 ～ 70%と多産する。これに次いで、淡水域に生育する水生珪藻が全体の20 ～ 35%産出する。陸生珪藻の主要種は、耐乾性の高い陸生珪藻A群のHantzschia amphioxysが約20%、同じく陸生珪藻A群のLuticola mutica、Amphora montanaが約10%産出する。水生珪藻は、好流水性のSurirella minuta、流水不定性で付着性のPinnularia subcapitata var. paucistriataが比較的多く、同じ生態性のStauroneis anceps、好止水性のNeidium ampliatum等も産出する。

試料番号5-2は、陸生珪藻が全体の約90%と優占する。主要種は、陸生珪藻A群のLuticola mutica、Hantzschia amphioxys が約20 ～ 30%、同じく陸生珪藻A群のDiadesmis bicepsが10 ～ 20%産出する。水生珪藻は、流水不定性で付着性のPinnularia subcapitata var. paucistriataなどが低率ながら産出する。

・B-B'ベルト

試料番号12-9は、陸生珪藻が約80%と優占する。また、珪藻化石群集も近似しており、陸生珪藻A群のHantzschia amphioxys が約30 ～ 40%産出し、同じく陸生珪藻A群のLuticola muticaが約20%認められる。これに付随して、陸生珪藻A群のDiadesmis biceps、未区分陸生珪藻のEolimna tantulaなどを伴う。水生珪藻は全般的に少ないが、試料番号12から流水不定性で沼沢湿地付着生種のPlaconeis elginensis、好止水性のAulacoseira italicaなどが産出する。

(2)花粉分析・寄生虫卵分析

結果を表3に示す。表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。花粉分析を実施した南壁試料番号7及び西壁試料番号14からは、花粉化石がほとんど検出されず、定量解析を行えるだけの個体数を得ることができなかった。わずかに産出する種類をみると、木本花粉ではモミ属、ツガ遺族、マツ属、ブナ属が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科が、1-2個体認められるのみである。検出された花粉化石の保存状態は悪く、全ての花粉外膜が破損あるいは溶解の影響を受けていた。

寄生虫卵分析を実施した7試料(南壁2・4・5・6、B-B'ベルト9～11)からは、寄生虫卵は1個体も検出されなかった。花粉化石もほとんど検出されず、わずかにモミ属、クマシデ属－アサダ属等の木本花粉、イネ科、フウロソウ属、ヨモギ属、キク亜科等の草本花粉が認められるのみである。それら花粉化石の保存状態も、上記花粉分析試料同様に悪い。

表３　花粉分析・寄生虫卵分析結果

種　類	南壁					B-B' ベルト			西壁
	2	4	5	6	7	9	10	11	14
木本花粉									
モミ属	－	1	－	－	－	－	1	1	1
ツガ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1
マツ属	－	－	－	－	1	－	－	－	－
クマシデ属－アサダ属	－	－	－	－	－	1	－	－	－
ブナ属	－	－	－	－	－	－	－	－	2
草本花粉									
イネ科	1	1	－	4	1	－	－	1	－
カヤツリグサ科	－	－	－	－	－	－	－	－	1
フウロソウ属	－	－	1	－	－	－	－	－	－
ヨモギ属	1	2	1	1	－	－	－	－	1
キク亜科	－	3	－	3	1	－	－	1	－
不明花粉	－	－	1	－	－	－	－	－	－
シダ類胞子									
シダ類胞子	4	2	1	4	3	1	2	6	8
合　計									
木本花粉	0	1	0	0	1	1	1	1	4
草本花粉	2	6	2	8	2	0	0	2	2
不明花粉	0	0	1	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子	4	2	1	4	3	1	2	6	8
総計（不明を除く）	6	9	3	12	6	2	3	9	14
寄生虫卵									
寄生虫卵 [個 /cc]	0	0	0	0	－	0	0	0	－

(3)植物珪酸体分析

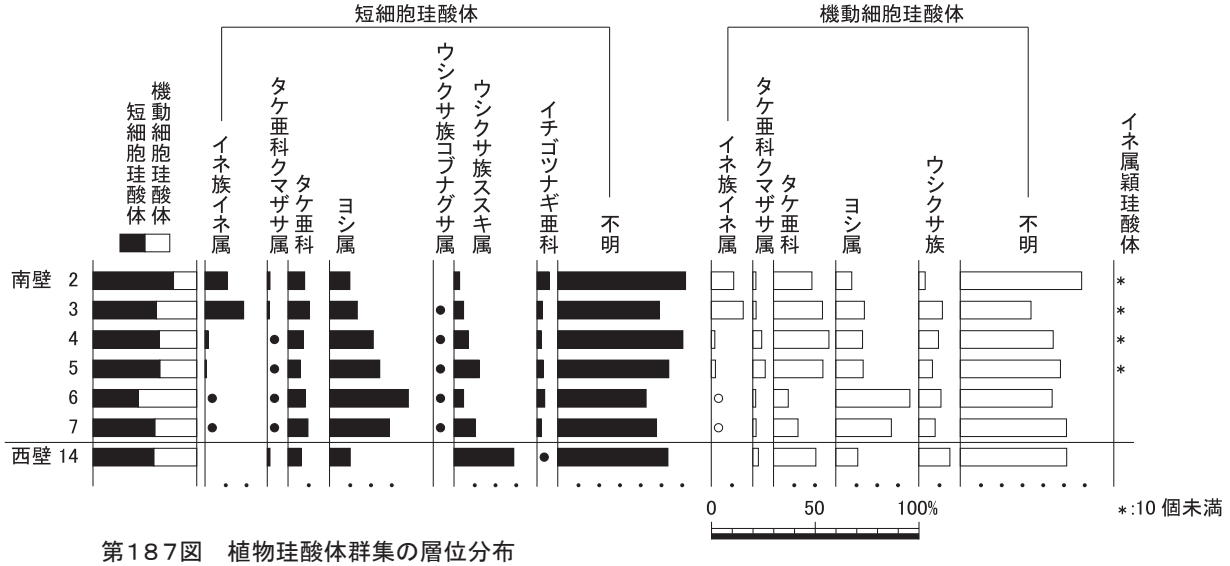
結果を表4、第187図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。そのため、概して不明の割合が高い。以下、地点ごとに述べる。

・南壁

試料番号7,6ではヨシ属の産出が目立ち、タケ亜科、コブナグサ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。また、栽培植物のイネ属もわずかに検出され、葉部に形成される短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体がみられる。

上位の試料番号5,4では同様な分類群が認められるものの、ヨシ属が減少し始め、タケ亜科機動細胞珪酸体の増加がみられる。またイネ属も引き続き検出され、葉部の植物珪酸体とともに籾殻に形成されるイネ属穎珪酸体もみられる。

試料番号3,2でも同様にクマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属などが認められるが、下位層と比較してイネ属が急増する。また、イネ属穎珪酸体もみられる。なお、試料番号2ではイネ属がやや減少する。



第187図　植物珪酸体群集の層位分布

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1%未満を示す。また、珪化組織片の産状を＊で示す。

・西壁

試料番号14では、タケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。この中では、ススキ属短細胞珪酸体の産出が目立つ。なお、南壁の試料で認められたイネ属に由来する珪酸体は、産出しなかった。

(4)種実遺体分析

結果を表5に示す。種実は、試料番号2から栽培種のイネの炭化胚乳が1個検出された。その他に、炭化材が試料番号2から0.05g(最大径8㎜)、試料番号4,5,6から0.01g未満(最大径6㎜;試料番号4)検出された。以下に、イネ胚乳の形態的特徴を記す。

・イネ(Oryza sativa L.)　イネ科イネ属

胚乳は炭化しており黒色。長さ4.35㎜、幅2.98㎜、厚さ2.07㎜のやや偏平な長楕円体。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2-3本の隆条が縦列する。

表4　植物珪酸体分析結果

種類	南壁 2	3	4	5	6	7	西壁 14
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ族イネ属	48	36	3	2	1	1	-
タケ亜科クマザサ属	6	2	1	1	1	1	2
タケ亜科	36	20	15	16	9	18	10
ヨシ属	44	26	43	66	41	54	16
ウシクサ族コブナグサ属	-	1	1	1	1	1	-
ウシクサ族ススキ属	12	9	14	33	5	19	46
イチゴツナギ亜科	26	5	4	8	4	4	1
不明キビ型	204	76	108	132	39	75	68
不明ヒゲシバ型	30	8	3	4	2	7	4
不明ダンチク型	42	11	12	10	5	7	13
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ族イネ属	14	19	2	3	1	1	-
タケ亜科クマザサ属	2	2	5	9	2	2	3
タケ亜科	24	29	31	36	10	15	23
ヨシ属	10	17	15	20	50	34	12
ウシクサ族	4	14	11	10	15	10	17
不明	76	42	52	73	62	65	58
合　計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	448	194	204	273	108	187	160
イネ科葉身機動細胞珪酸体	130	123	116	151	140	127	113
総　計	578	317	320	424	248	314	273
珪化組織片							
イネ属穎珪酸体	3	3	1	1	-	-	-

表5　種実遺体分析結果

地区	地点	試料番号	分析量 (cc)	分析量 (g)	種類 / 部位 / 状態	重量 (g)	大きさ (炭化材は最大径) (㎜)
Ⅳ区	南壁	2	200	333.32	イネ 胚乳 炭化	-	長さ 4.35, 幅 2.98, 厚さ 2.07
					炭化材	0.05	8
		4	200	341.42	炭化材	<0.01	6
		5	200	341.56	炭化材	<0.01	3.5
		6	200	356.23	炭化材	<0.01	2

(5)土壌理化学分析

結果を表6に示す。土壌の化学性を特徴付ける基本的な調査項目であるpH(H2O)は、一連の試料で6.3 ～ 6.4の微酸性を示し、極端な酸性化やアルカリ化を示す試料は認められない。土壌中の水溶性塩類の指標となる電気伝導度(EC)も0.10 ～ 0.12dS/mといずれも低い値であり、水溶性塩類に富む状況もみられない。

有機炭素量は0.61 ～ 1.12%(腐植換算で1.05 ～ 1.93%)であり、いずれの試料も蓄積された有機物が少ない特徴にある。また、全窒素量も0.06 ～ 0.08%と少なく、炭素率(C/N)も10 ～ 15の一般的な土壌の範囲にある。

全リン酸量は1.37 ～ 1.56P205mg/gであり、Bowen(1983)、Bolt･Bruggenwert(1980)、川崎ほか(1991)、天

表6　土壌理化学分析結果

地区	地点	層位	試料番号	土性	土色		pH (H2O)	EC (dS/m)	有機炭素量 (%)	腐植含量 (%)	全窒素量 (%)	炭素率 C/N	全リン酸量 P205 (mg/g)
Ⅳ区	南壁	整地 -2	2	LiC	10YR3/2	黒褐色	6.3	0.10	0.80	1.38	0.07	11	1.44
		2	4	LiC	10YR2/2	黒褐色	6.3	0.11	1.04	1.79	0.08	13	1.51
		4	5	LiC	10YR2/2	黒褐色	6.3	0.11	1.11	1.91	0.08	14	1.56
		7	6	LiC	10YR2/2	黒褐色	6.4	0.10	1.04	1.79	0.07	15	1.32
	B-B' ベルト	3	9	SiC	10YR3/3	暗褐色	6.4	0.11	0.61	1.05	0.06	10	1.37
		4 上位	10	SiC	10YR3/2	黒褐色	6.3	0.12	0.87	1.50	0.07	12	1.44
		4 下位	11	LiC	10YR2/2	黒褐色	6.4	0.12	1.12	1.93	0.08	14	1.54

1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
2) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編 ,1984）の野外土性による。
SiC･･･ シルト質埴土（粘土 25 ～ 45%、シルト 45 ～ 75%、砂 0 ～ 30%）
LiC･･･ 軽埴土（粘土 25 ～ 45%、シルト 0 ～ 45%、砂 10 ～ 55%）
3) 腐植含量：有機炭素量に 1.724 を乗じて算出。
4) 炭素率（C/N）：有機炭素量を全窒素量で除して算出。

野ほか(1991)の事例から推定される土壌に含まれるリン酸の天然賦存量の上限が約3.0P205mg/g程度であることを踏まえれば、一般的な値である。

4.考察

(1)古環境変遷

・堆積環境

古墳時代前期遺物包含層(自然層)とされる南壁の試料番号7,6及びB-B'ベルトの試料番号12,11は、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群が多産することが特徴であった。また、水域に生育するものとしては、Surirella minutaなどの好流水性種やPinnularia subcapitata var. paucistriataなどの流水不定性種が比較的多く検出された。このうち、前種は試料番号7に多く、電解質成分の多い富栄養水域で、とくに山地河川などの流水中に多いとされている。また、後種は沼沢や水田に多く、水田では水のない冬季にも生存するとされている。よって、古墳前期遺物包含層が堆積する頃は、通常は乾燥した好気的環境に置かれており、降水時などにはしばしば水が溜まるような土壌環境であったと考えられる。なお、南壁試料番号7は好流水性種が多産したことから、一時的な流水の流れ込みも考えられる。

また、整地前の旧表土の可能性がある南壁試料番号5及びB-B'ベルト試料番号11や南壁試料番号4及びB-B'ベルト試料番号10、SB1時点の古代造成土とされる南壁試料番号2及びB-B'ベルト試料番号9は、陸生珪藻A群が多産することが特徴である。よって、これらの土壌は、乾燥状態にあった旧表土、もしくは表土などの好気的環境で堆積した土壌を使用した整地層と考えられる。

・古植生

花粉分析・寄生虫卵分析行った南壁などの窪地状地形1内及び西壁試料では、花粉化石の保存が悪くほとんど検出されなかったため、古植生推定のための定量解析を行うことはできなかった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは取り込まれた花粉が消失したという原因が想定される。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。珪藻分析の結果では陸生珪藻が優占し、これらの試料の堆積場は好気的環境であったことが窺える。また、わずかに検出される花粉化石の保存状態は悪く、ほとんどの花粉外膜が破損・溶解していた。よって、今回花粉化石の保存が悪かった理由として、堆積時に取り込まれた花粉・シダ類胞子がその後の経年変化により分解・消失したためと考えられる。

一方、植物珪酸体分析の結果をみると、窪地状地形1が形成される以前の旧表土の可能性がある西壁の試料番号14では、検出された植物珪酸体の分類群からタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたと考えられる。短細胞珪酸体の産出が目立ったススキ属あるいは検出されたタケ亜科は、開けた明るい場所に生育する「人里植物」が多く含まれており、花粉化石で検出されたカヤツリグサ科、ヨモギ属も同様である。このことから、周辺には乾燥した開けた明るい場所が広がっていた可能性がある。なお、湿潤な場所に生育するヨシ属も認められ、カヤツリグサ科の一部には水湿地生植物も含まれることから、至近に湿潤な場所の存在した可能性もある。なお、花粉分析結果からは、周辺にモミ属、ツガ属、ブナ属等の木本類の生育していたことが窺える。

窪地状地形1内の土層をみると、自然層とされる古墳時代前期遺物包含層からSB1整地層(試料番号7-2)にかけて、同様の植物珪酸体群集が認められた。花粉化石の産状も含めると、本遺跡の周辺にタケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科、フウロソウ属、ヨモギ属、キク亜科などの草本類が、周辺の森林にはモミ属、マツ属、クマシデ属－アサダ属等の木本類が生育していたと思われる。本遺跡西方の沖積地(郡

山低地)に立地する富沢遺跡では、古墳時代から平安時代の層位でイネ属、タケ・ササ類、ヨシ属、ススキ属などが認められており(株式会社古環境研究所,2007)、今回の結果と調和的である。

なお、古墳時代前期遺物包含層(南壁試料番号7,6)では、ヨシ属の産出が目立った。これらの試料では、珪藻化石の産状から後代に比べ湿潤な場所であった可能性も指摘されていることから、窪地状地形1のヨシ属が生育していた可能性がある。ただし、上位層のSA1整地前の旧表土やSA1整地層ではヨシ属が減少し、陸生珪藻の産出も目立つようになることから、埋め立て等を経て窪地状地形1内の乾燥化が進んだと考えられる。

(2)窪地状地形の利用状況

調査区Ⅳ区西側で検出された窪地状地形1の位置や掘立柱建物跡が検出されることなどの考古学的所見から、Ⅱ期官衙当時の土地利用のひとつとして排泄物の処理と関連が指摘されている。そこで今回は、当時の土地利用状況に関する情報を得る目的で、分析調査を複合実施した。当社ではトイレ遺構の検証にあたっては、1)寄生虫卵の産状、2)食物残渣(可食植物の種実遺体、骨などの産状、3)昆虫遺骸の産状、4)土壌理化学性(リンなどの過多、未分解物質の偏在)把握、5)脂肪酸・ステロール組成の把握(コプロスタノールなどの多産)、6)花粉化石の産状(花ごと食べる種類の多産)、7)珪藻化石の産状(海産物付着種等の多産)など、複数の分析項目を組み合わせることにより、より詳細な情報を得ることが可能となると考えるからである。以下に今回の分析調査結果に基づき、古代当時の調査地点付近の土地利用状況、特に排泄物の処理に関わる痕跡がみられるかを中心に検討を進めたい。

寄生虫は、それに感染した中間宿主、あるいは寄生虫卵に汚染されたものなどを摂取することで、終宿主(ヒト)に感染する。寄生虫卵は普通の土壌中にも含まれるが、糞便などの堆積物で多産する調査事例も報告されている(例えば金原・金原,1992,1993;金原ほか,1995など)。今回の分析結果では、寄生虫卵は1個体も検出されなかった。なお、寄生虫卵の分解に対する抵抗性は、花粉化石と同程度とされている(黒崎ほか,1993)。今回分析対象とした試料では花粉化石の産状が悪く、前述のように大半が分解・消失したと考えられることから、寄生虫卵も分解の影響を受けている可能性もある。また、今回の分析対象試料からは、海草付着生種等海生の珪藻化石や、花ごと食する種類の花粉化石の多産などは認められなかった。

また種実遺体分析では、窪地状地形1南壁の整地層(試料番号2)から、栽培種のイネの炭化した胚乳が検出された。当時の郡山遺跡周辺域におけるイネの食利用と、火を受け炭化したことが推定される。ただし、検出部位は可食部の胚乳である点や炭化していることを考慮すると、人が摂取しその後排泄した痕跡とは考えにくく、調査地点付近が排泄物処理に関わる行為に利用されたことを示唆する結果とは考えがたい。さらに、土壌の洗い出しを行った結果、骨などの動物遺存体や糞食昆虫などは検出されなかった。一方、植物珪酸体分析結果では、SB1造成前の旧表土(試料番号3)や整地層(試料番号2)でイネ属の産出が目立った。イネ属の植物珪酸体は水田層などの稲作耕土にも含まれるが、イネ属の植物体は生活資材として利用されることから、何らかの用途で窪地状地形1内へ持ち込まれたイネ属の植物体(稲藁や籾殻)に由来する可能性もある。

さらに、土壌の理化学性についてみると、pH(H2O)はいずれも微酸性を示し、いずれの試料もほぼ一定した値を示していることから、無機酸や有機酸などの酸性物質やアルカリ化を促す塩基類が特定試料において過多に存在しているような状況にはないことが確認された。また電気伝導度(EC)も、塩類の過多を示唆するような範囲にはなかった。なお、糞尿に含まれるアンモニア態窒素は土壌に還元された後、酸化的条件下では硝酸態窒素に変化する。特殊な土壌を除けば、電気伝導度は硝酸態窒素の含有量と正の相関関係が高いことを踏まえれば、今回分析対象とした試料に含まれる硝酸態窒素が多いものとはいえない。さらに、土壌に蓄積された有機物も少なく、炭素率(C/N)を見ても窒素過多を示唆するような値ではない。また、糞尿中には窒素のほかにリンなどの成分も多く含まれるが、全リン酸量が相対的に高い値を示す試料も認められない。したがって、土壌の理化学性の面からみて、今回の分析試料において糞尿等排泄物の痕跡を指摘することは難しい。

以上の各分析結果を総合すると、今回調査対象とした窪地状地形1は、排泄物の処理や便所と関係するような土地利用はされていなかったことが示唆される。

なお、今回の分析結果から、Ⅱ期官衙に先行する古墳時代前期当時この窪地には降雨時などに水域が存在していたことや、さらにこれに先行する微高地の利水過程で比較的開けた空間が存在したこと等を明らかにすることができた。しかし、Ⅱ期官衙当時における窪地状地形の土地利用状況については、具体的に推定するに至らなかった。今後、さらに遺構・遺物の分析結果などとともに今回の分析結果を総合解析することにより、調査対象としたⅣ区付近の土地利用状況が明らかにされることがのぞまれる。

引用文献

天野　洋司・太田　健・草場　敬・中井　信,1991,中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量.土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編,28-36.

安藤　一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.

Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10, 35-47.

Bowen,H.J.M.,1979,Environmental Cemistry of Elements.［浅見　輝男・茅野　充男(訳),1983,環境無機化学,元素の循環と生化学,博友社,297p.］

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY.［岩田　進午・三輪　睿太郎・井上　隆弘・陽　捷行(訳),1980,土壌の化学.学会出版センター,309p.］

土壌標準分析・測定法委員会編,1986,土壌標準分析・測定法.博友社,354p.

原口　和夫・三友　清史・小林　弘,1998,埼玉の藻類　珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.

石川　茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

伊藤　良永・堀内　誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.

伊藤　良永,2007,珪藻分析の歩みと動向.PALYNO No.5,パリノ・サーヴェイ株式会社出版刊行会,61-66.

株式会社古環境研究所,2007,富沢遺跡第138次調査区におけるプラント・オパール分析.富沢遺跡第138次発掘調査報告書,仙台市教育委員会,16-18.

金原　正明・金原　正子,1992,花粉分析及び寄生虫.藤原京跡の便所遺構－右京七条一坊西北坪－, 奈良国立文化財研究所,12-15.

金原　正明・金原　正子,1993,史跡松江城二ノ丸番所跡SK-04内堆積土の分析.史跡松江城発掘調査報告書,松江市教委区委員会,51-56.

金原　正明・金原　正子・中村　亮仁,1995,大宮坊跡(厠跡)における自然科学的分析.史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ,石川県鹿島町教育委員会,51-70.

川崎　弘・吉田　澪・井上　恒久,1991,九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量. 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編,23-27.

小林　弘・出井　雅彦・真山　茂樹・南雲　保・長田　啓五,2006,小林弘珪藻図鑑.第1巻,㈱内田老鶴圃,531p.

近藤　錬三,2004,植物ケイ酸体研究.ペドロジスト,48,46-64.

小杉　正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用.第四紀研究,27,1-20.

Kra mm er, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.

Kra mm er, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.

Kra mm er, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Surirellaceae. In: Suesswasserflora

von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.

Lowe, R.L,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. 334p. In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinati.

三宅　尚・中越　信和,1998,森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態.植生史研究,6,15-30.

中村　純,1967,花粉分析.古今書院,232p.

中山　至大・井之口　希秀・南谷　忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会,1984,野外土性の判定.ペドロジスト懇談会編　土壌調査ハンドブック,博友社,39-40.

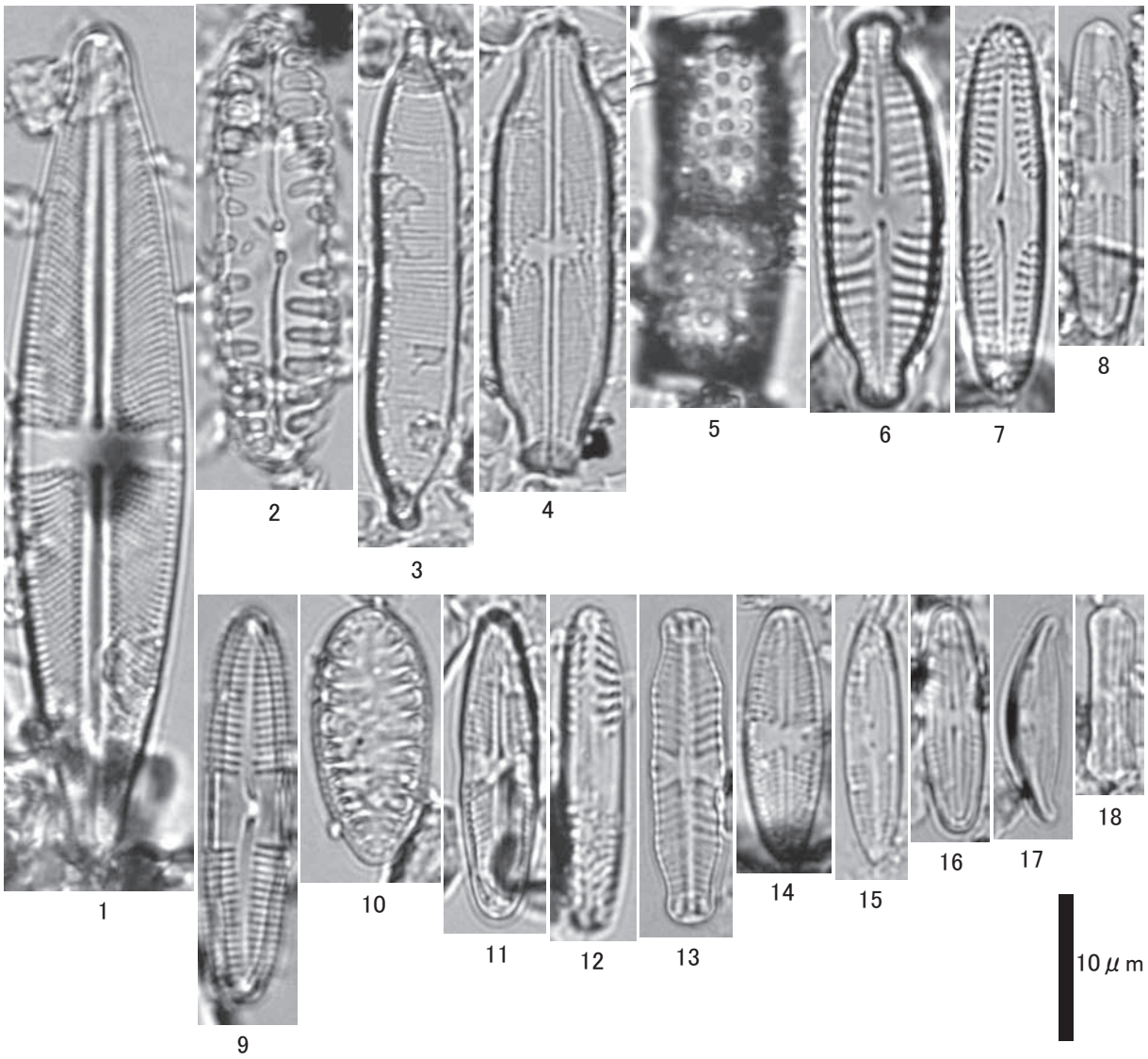
Round, F. E.., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.

徳永　重元・山内　輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

Vos, P.C. & H. de Wolf,1993,Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects.Hydrobiologica,269/270,285-296.

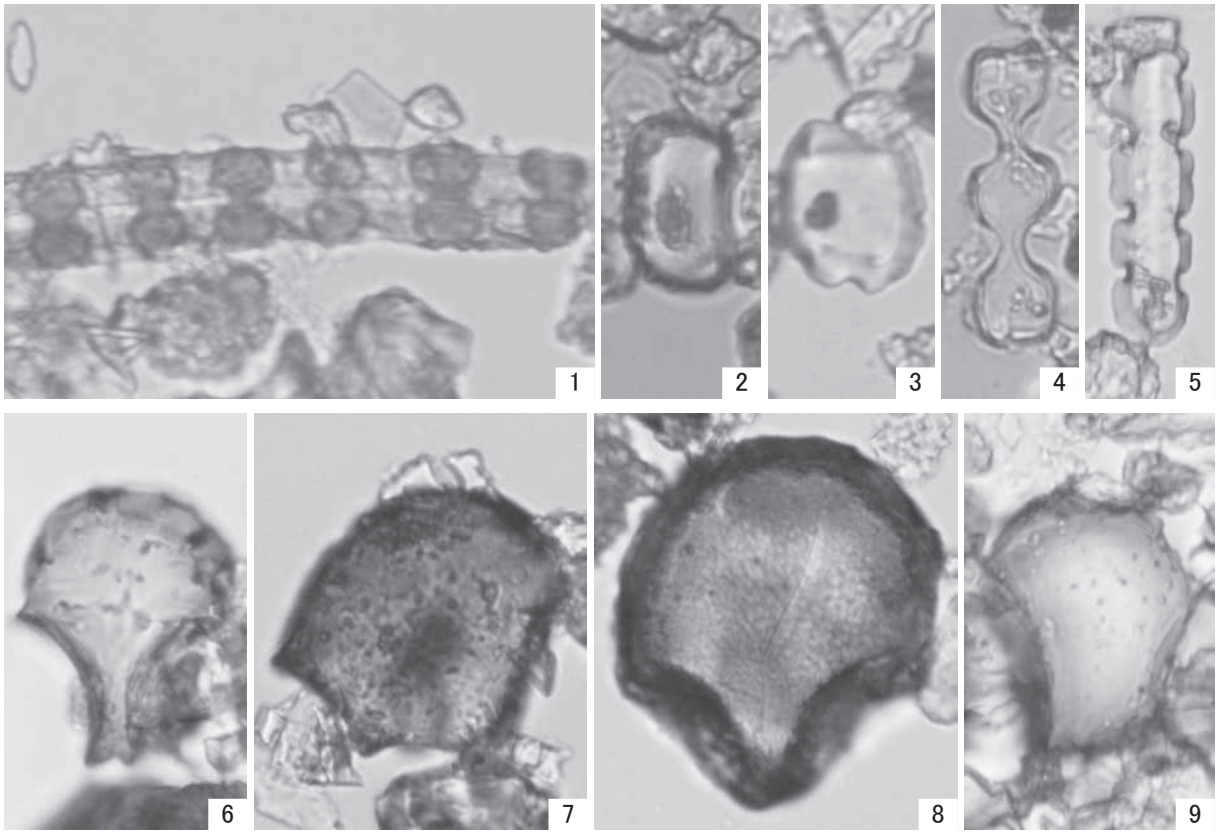
渡辺　仁治・浅井　一視・大塚　泰介・辻　彰洋・伯耆　晶子,2005,淡水珪藻生態図鑑.内田老鶴圃,666p.

柳沢　幸夫,2000,Ⅱ-1-3-2-(5)計数・同定.化石の研究法－採集から最新の解析法まで－,化石研究会,共立出版株式会社,49-50.



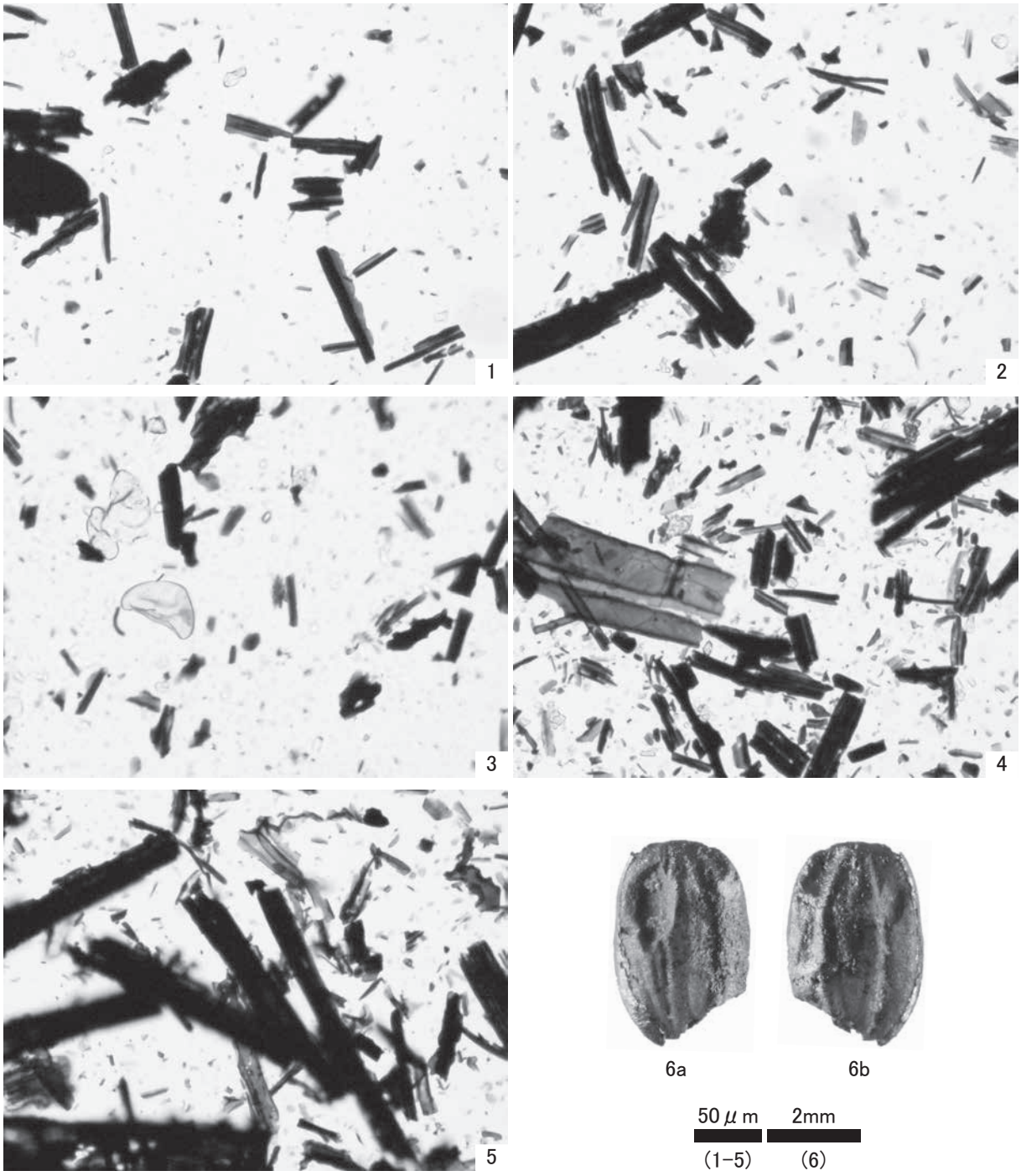
1 . *Stauroneis anceps Ehrenberg* (Ⅳ区南壁;6)
2 . *Pinnularia borealis Ehrenberg* (Ⅳ区南壁;4)
3 . *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow(Ⅳ区南壁;4)
4 . *Neidium affine* (Ehr.)Cleve(Ⅳ区南壁;7)
5 . *Aulacoseira crassipunctata* Krammer (Ⅳ区B–B'ベルト;10)
6 . *Placoneis elginensis* (Greg.)E.J.Cox (Ⅳ区B–B'ベルト;12)
7 . *Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata* (Grun.)Cleve(Ⅳ区南壁;5)
8 . *Eolimna tantula* (Hust.)(Ⅳ区南壁;5)
9 . *Caloneis leptosoma* Krammer & Lange–Bertalot(Ⅳ区南壁;5)
10. *Surirella minuta* Brebisson(Ⅳ区南壁;6)
11. *Stauroneis obtusa* Lagerstedt(Ⅳ区南壁;6)
12. *Pinnularia obscura* Krasske(Ⅳ区B–B'ベルト;10)
13. *Navicula ignota* Krasske(Ⅳ区B–B'ベルト;11)
14. *Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann(Ⅳ区南壁;4)
15. *Caloneis aerophila* Bock(Ⅳ区南壁;2)
16. *Stauroneis borrichii* (Pet.)Lund(Ⅳ区B–B'ベルト;10)
17. *Amphora montana* Krasske(Ⅳ区南壁;4)
18. *Diadesmis biceps* Arnott ex Grunow in Van Heurck(Ⅳ区南壁;4)

第188図　珪藻化石



1．イネ属短細胞列(Ⅳ区南壁;2)
2．クマザサ属短細胞珪酸体(Ⅳ区南壁;2)
3．ヨシ属短細胞珪酸体(Ⅳ区南壁;6)
4．ススキ属短細胞珪酸体(Ⅳ区西壁;14)
5．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(Ⅳ区南壁;2)
6．イネ属機動細胞珪酸体(Ⅳ区南壁;2)
7．クマザサ属機動細胞珪酸体(Ⅳ区南壁;5)
8．ヨシ属機動細胞珪酸体(Ⅳ区南壁;6)
9．ウシクサ族機動細胞珪酸体(Ⅳ区西壁;14)

第１８９図　植物珪酸体



1．プレパラート内の状況(Ⅳ区南壁;2)
2．プレパラート内の状況(Ⅳ区南壁;5)
3．プレパラート内の状況(Ⅳ区南壁;7)
4．プレパラート内の状況(Ⅳ区B–B'ベルト;10)
5．プレパラート内の状況(Ⅳ区西壁;14)
6．イネ 胚乳(Ⅳ区南壁;2)

第１９０図　花粉分析・寄生虫卵分析プレパラート内の状況・種実遺体

第2節　郡山遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

郡山遺跡は、宮城県仙台市太白区郡山3丁目3（北緯38° 13′ 32″、東経140° 53′ 38″）に所在し、広瀬川と名取川の合流点西側に立地する。測定対象試料は、河川跡33層出土木炭（No.4：IAAA-91410、No.5：IAAA-91411）、合計2点である。（第22図）

2　測定の意義

古墳時代前期～終末期の遺構面を浸食している河川跡の時期を明らかにする。

3　化学処理工程

(1)メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

(2)酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

(3)試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。

(4)液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO2）を精製する。

(5)精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

(6)グラファイトを内径1㎜のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4　測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

(1)年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。

(2)14C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ13Cによって補正された値である。14C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、14C年代の誤差（±1σ）は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3)δ13C は、試料炭素の13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により13C/12Cを測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

(4)pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。

(5)暦年較正年代とは、年代が既知の試料の14C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の14C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であ

り、1標準偏差(1σ=68.2%)あるいは2標準偏差(2σ=95.4%)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない14C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.1較正プログラム(Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

6　測定結果

No.4の14C年代は1010±30yrBPである。暦年較正年代(1σ)で見ると、10世紀末から11世紀前半の確率が高い。

No.5については、年代値を明示できない範囲の古い値となった。

炭素含有率はNo.4が40%弱とやや低い。No.5は60%を超えている。化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-91410	No.4	遺構：河川跡　層位：33層	木炭	AaA	**-26.00 ± 0.36**	**1,010 ± 30**	**88.16 ± 0.35**
IAAA-91411	No.5	遺構：河川跡　層位：33層	木炭	AAA	**-25.98 ± 0.35**	**>53,400**	**<0.13**

[#3203]

参考

IAAA-91411に関しては、測定時のバックグラウンド(DEAD：標準とする試料)及び過去に測定を行ったバックグラウンドの平均値と同レベルの測定値が得られた。よって化学処理のバックグラウンドレベルの誤差を考慮し、サンプル試料を測定した際の14C濃度の誤差(3σ)の範囲内で、可能性のある最高の14C濃度に相当する年代値を報告する。

すなわち記載の年代値よりも古いと考えられる。なお、δ13C値はサンプル試料の測定値である。

測定番号	δ ^{13}C補正なし		暦年較正用	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)	(yrBP)		
IAAA-91410	1,030 ± 30	87.98 ± 0.34	1,012 ± 31	990AD - 1033AD (68.2%)	905AD - 912AD (0.7%) 971AD - 1050AD (81.9%) 1085AD - 1124AD (9.8%) 1137AD - 1152AD (3.0%)
IAAA-91411	>53,400	<0.13	>53,403		

[参考値]

参考文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

第10章　総　括

今回の郡山遺跡第190次調査は郡山遺跡の北部において実施された。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代終末期にかけての遺構や遺物が検出され、郡山Ⅰ期官衙・Ⅱ期官衙の成立以前にも居住域を含む生活空間の一部として利用されていたことが明らかとなった。それらは弥生時代後期、古墳時代前期、同中期、同後期から終末期に時期区分され、郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙期も含まれる。調査地点は広瀬川右岸の自然堤防に立地し、郡山Ⅱ期官衙の北辺の外郭大溝と外溝との中間域に位置する。検出された遺構は、竪穴住居跡18軒（竪穴遺構1基含む）、掘立柱建物跡7棟、材木列1条、柱穴列6条、土坑、小溝状遺構群、性格不明遺構などである。他に窪地状地形とした自然地形の窪地が2ヶ所あり、一方の窪地状地形上面には整地層の形成が認められた。検出した整地層は部分的であるが、官衙期に行われた整地事例として注目される。

古代の遺構分布は、調査区中央の南北約20ｍ、東西約100ｍの範囲で確認され、河川による浸食を受けた北側と調査区外である南側には、幾つかの遺構が広がっていく状況が確認された。Ⅱ期官衙の外溝北辺の推定位置については河川跡の浸食線よりも約5ｍ北側にあることが明らかになったが、河川によって遺構面が失われており、外溝北辺部分が第190次調査区内に存在していたかは判然としない。確認調査の成果を含めても同様である。しかし、外溝の推定位置に隣接して、居住域が広く形成されていた状態であったことは確認できた。調査区の南側約30ｍに位置するⅡ期官衙期の外郭大溝北辺と、検出された居住域との関係については今後の課題である。ここでは総括として出土遺物と検出遺構についての基本的な内容を述べ、方四町Ⅱ期官衙の区画施設と造営尺について藤原宮との検討を行った。

第1節　検出された遺構と遺物

(1)出土遺物

郡山遺跡第190次調査から出土した遺物には、弥生時代後期から古墳時代終末期までの土器類が含まれている。これらは仙台平野における土器編年（仙台市史編さん委員会1995、仙台市教育委員会2010）をもとに、以下のように大別5期、細別7期に分けられ、その変遷を第191～193図に示した。

1期：弥生時代後期（第191図1～7）

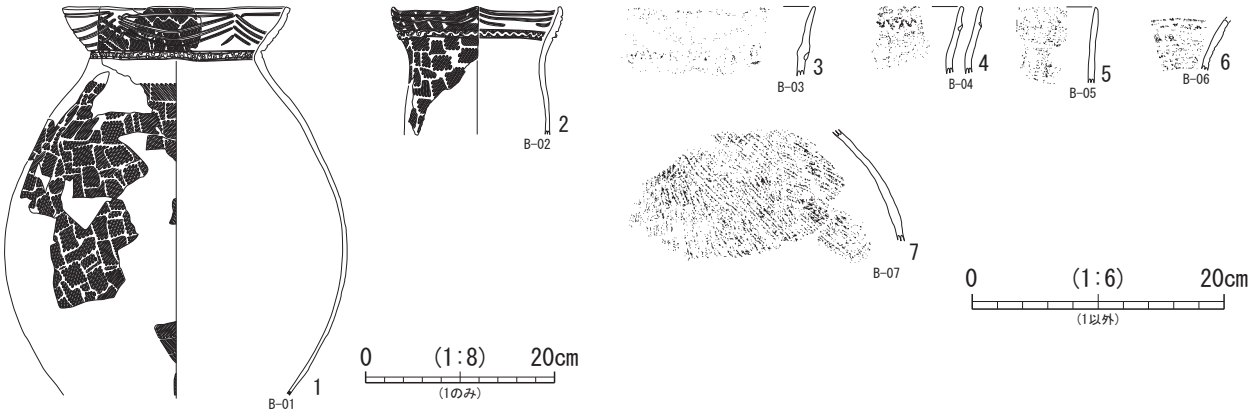
Ⅳ区基本層Ⅵ層出土の土器を基準資料とする。天王山式土器の時期である。この時期の遺物は1～7の7点である。器種は1･7が壺、2～6が甕である。1の壺は復元資料で、以下に特徴を述べると、口縁部は横位LR縄文を地文とし、3条一体の横長の連弧文が表出され、上面には一条の沈線が加えられる。口唇部連弧文の頂部下端には「ハ」字状の沈線が施される。頸部は2条の平行沈線の後に交互刺突文が加えられる。頸部下は無文帯となり、その直下に横回転のLR縄文が帯状に施文され、以下は縦方向の施文になる。7の壺胴部片は斜位の撚糸文Rが施文される。2の甕はLR縄文を地文とし、口縁部には2条の横長の連弧文と頂部下端に「ハ」字状の沈線が加えられる。また、頸部には2条の平行沈線が加えられ、交互刺突文が施される。3～5は口縁部片で、3は頸部に連続刺突文、4は口縁部直下に交互刺突文が加えられる。5はLR縄文を地文とし、口唇部にも縄文が押圧される。6は口縁直下の破片で、2条の平行沈線が3段並び、沈線内には連続刺突文が加えられる。これらの土器の中には、頸部に施された交互刺突が形骸化した資料が含まれる点で天王山式土器の中でも新しい様相と考えることができる。

2期：古墳時代前期（第191図8～19）

Ⅳ区基本層Ⅵ層上面で確認した窪地状地形1･2の堆積土下層より出土した土師器類を基準資料とする。塩釜式土器の時期である。資料は8～19の12点で、器種は小型丸底坩（8）、鉢（9）、小型器台（10･11）、複合口縁壺（12）、直口縁壺（13･18･19）、大小の甕類（14～17）などである。これらの土師器は、小型精製土器と複合口縁壺を含む塩

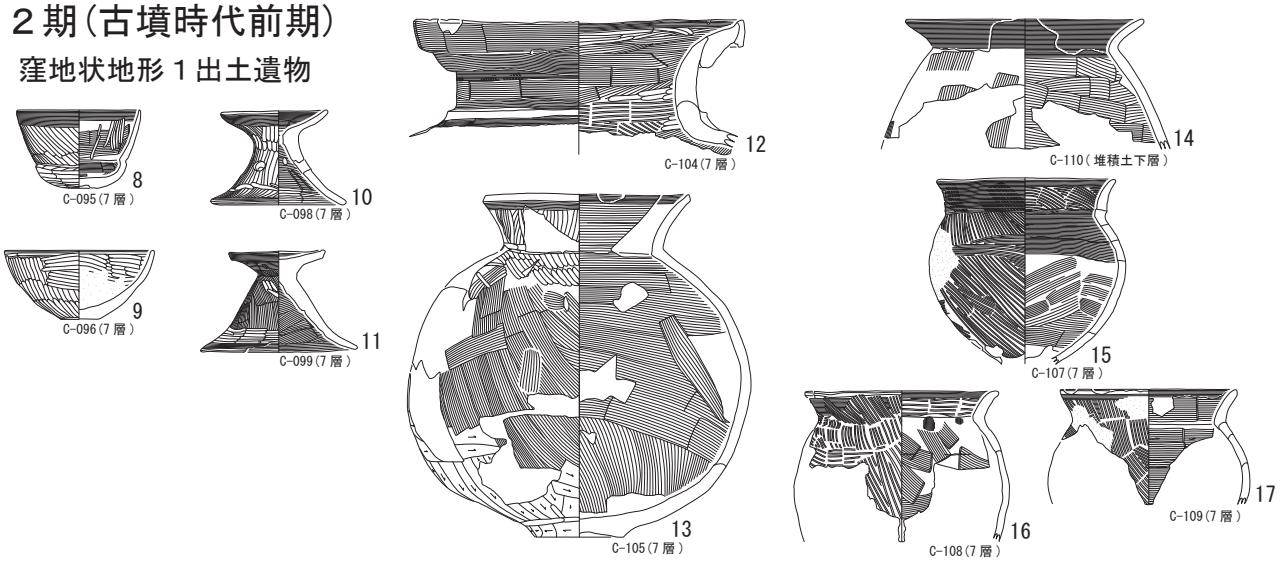
1期(弥生時代後期)

Ⅵ層出土遺物

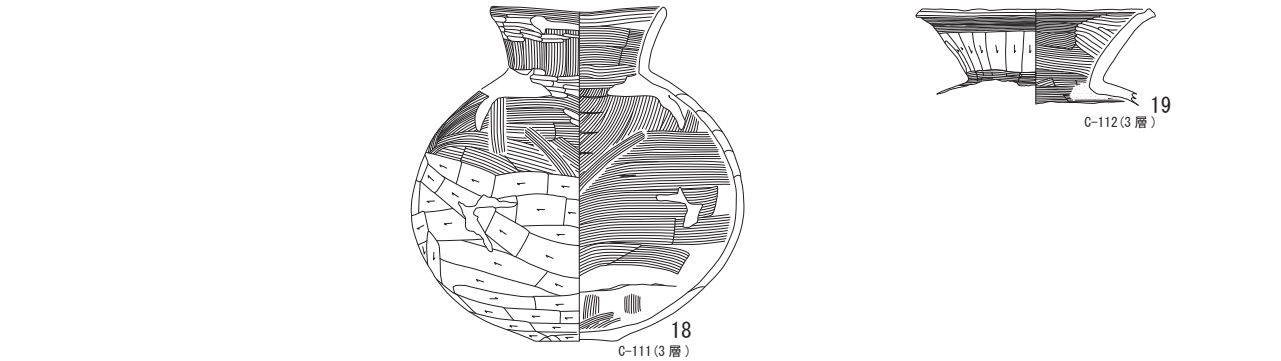


2期(古墳時代前期)

窪地状地形１出土遺物

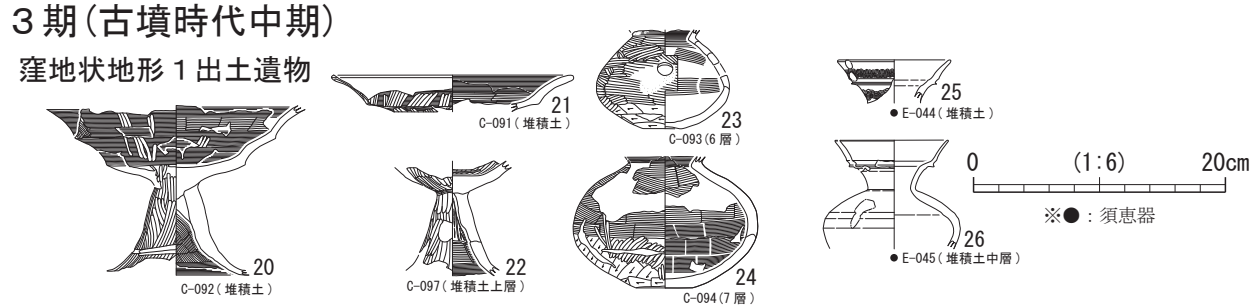


窪地状地形２出土遺物



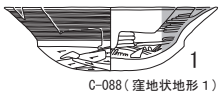
3期(古墳時代中期)

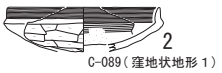
窪地状地形１出土遺物



第191図　1～3期出土基準資料

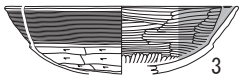
４a期(古墳時代後期)


1
C-088(窪地状地形１)


2
C-089(窪地状地形１)

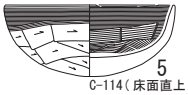
４b期(古墳時代終末期)

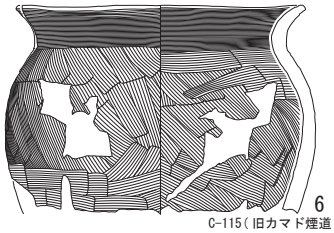
SI11竪穴住居跡出土遺物


3
C-048(床面直上)

4
C-047(SK2)

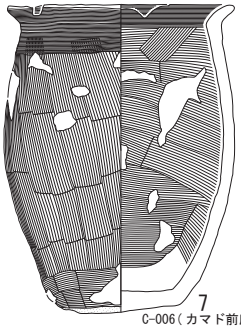
SI17竪穴住居跡出土遺物


5
C-114(床面直上)

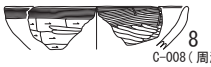

6
C-115(旧カマド煙道)

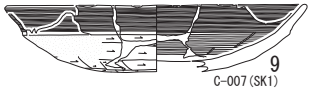
５a期(Ⅰ期官衙の時期)

SI1竪穴住居跡出土遺物


7
C-006(カマド前床面直上)

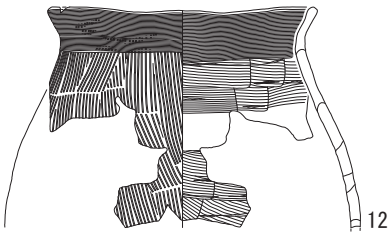
SI2竪穴住居跡出土遺物


8
C-008(周溝)


9
C-007(SK1)

10
E-007(堆積土下層)

11
E-008(堆積土下層)


12
C-010(堆積土下層)

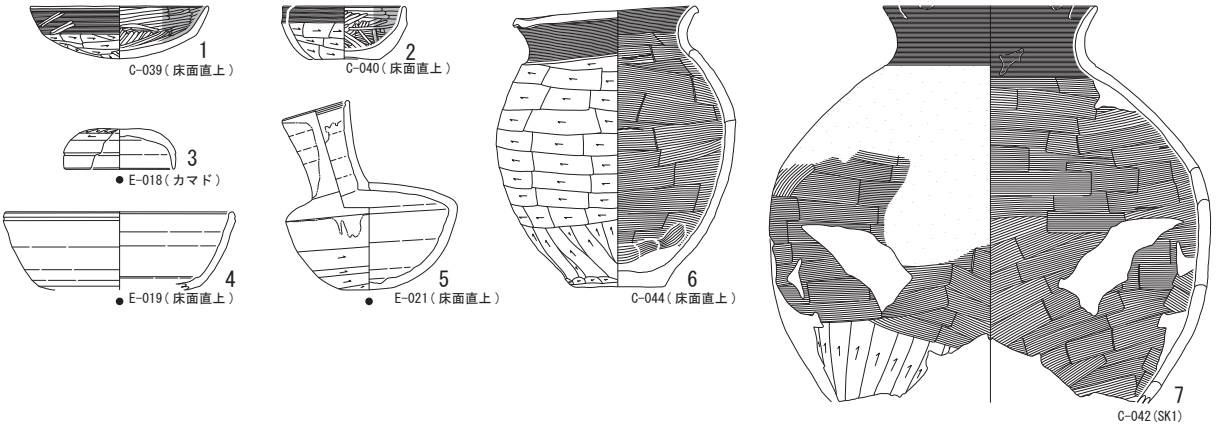
0 (1:6) 20cm

※●：須恵器

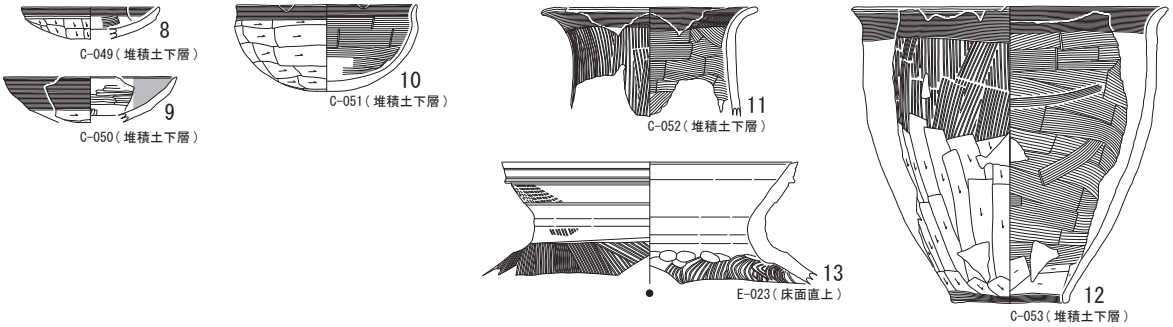
第１９２図　４a～５a期遺構内出土基準資料

５a期（Ⅰ期官衙の時期）

SI8竪穴住居跡出土遺物

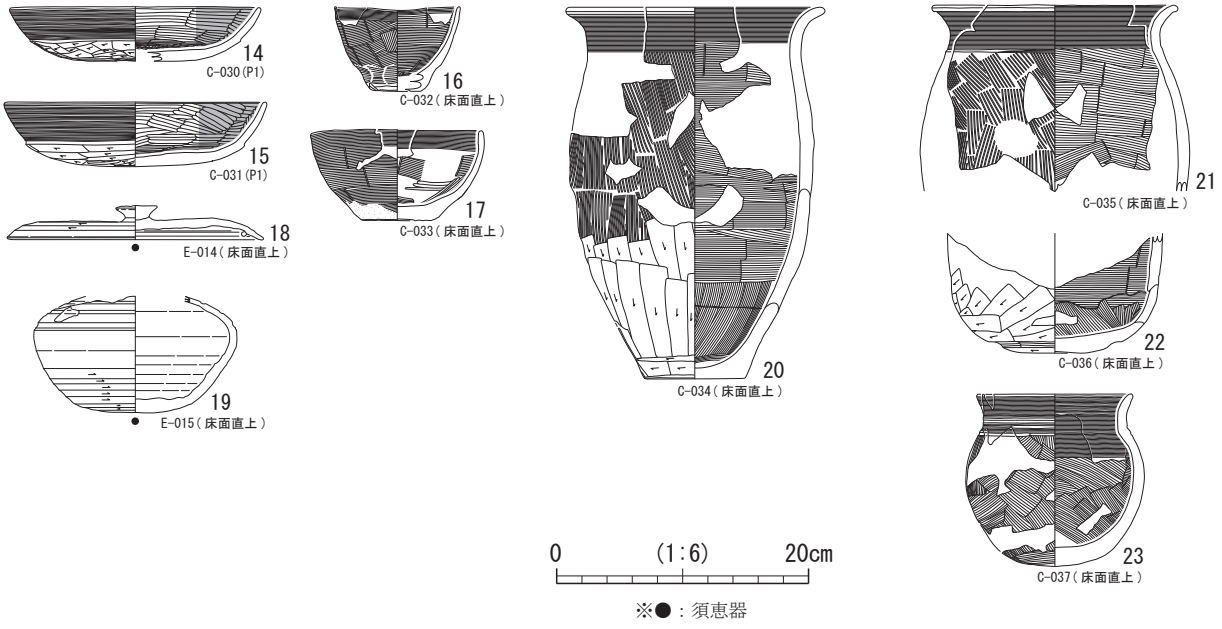


SI13竪穴住居跡出土遺物



５b期（Ⅱ期官衙の時期）

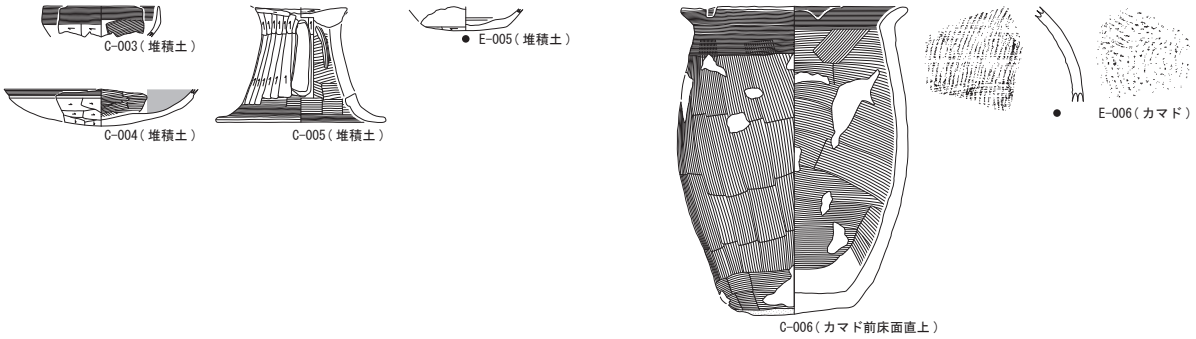
SI6竪穴住居跡出土遺物



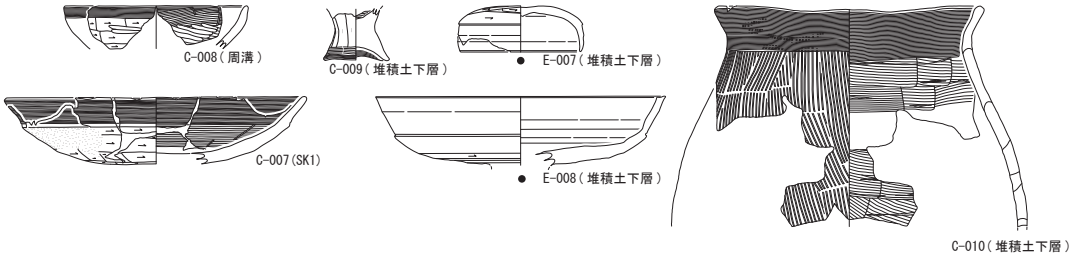
※●：須恵器

第１９３図　５a・５b期遺構内出土基準資料

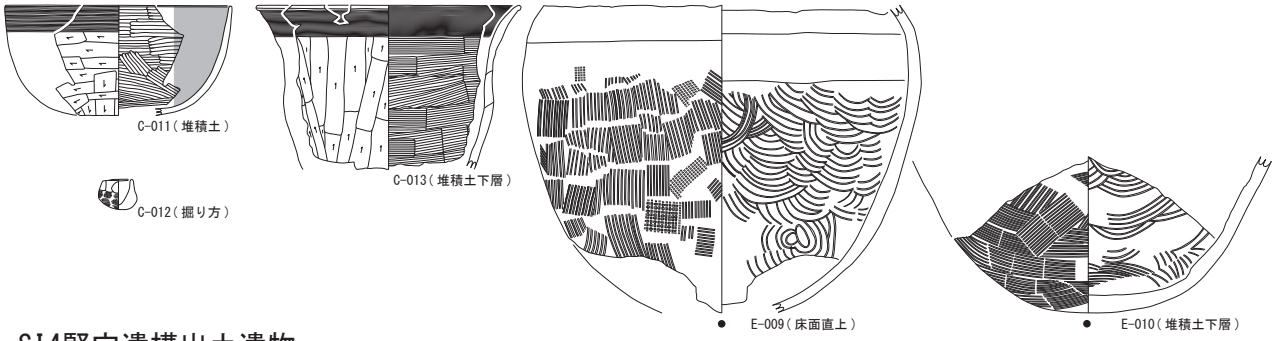
SI1竪穴住居跡土遺物



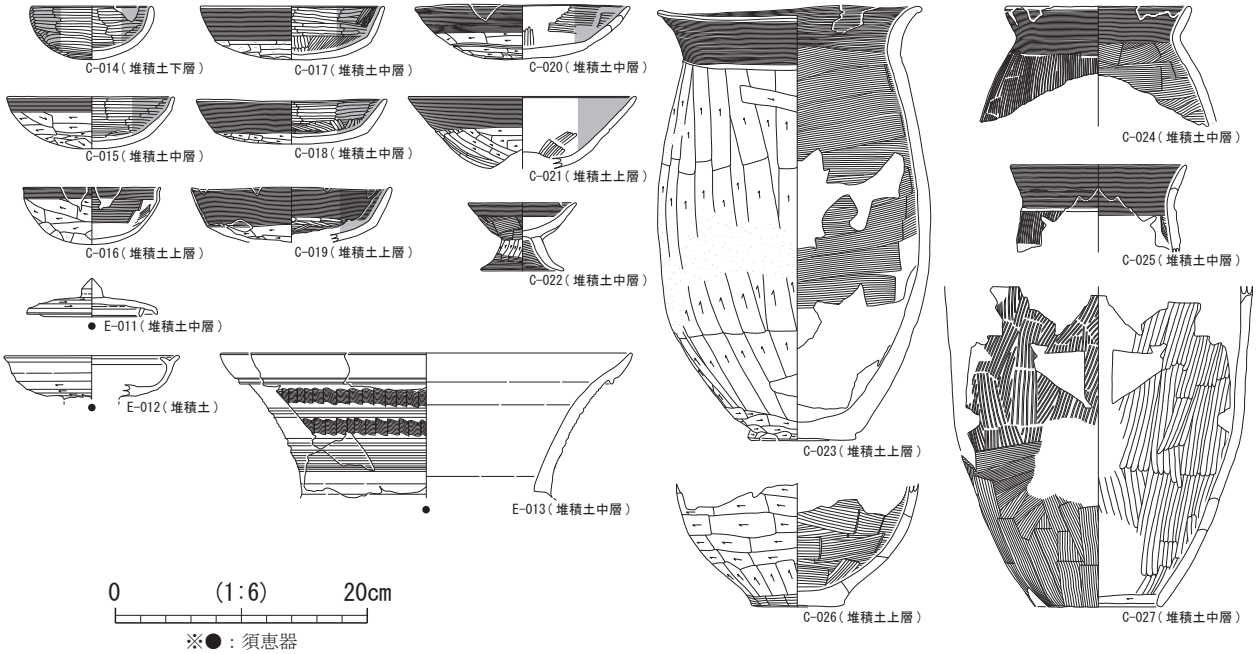
SI2竪穴住居跡出土遺物



SI3竪穴住居跡出土遺物



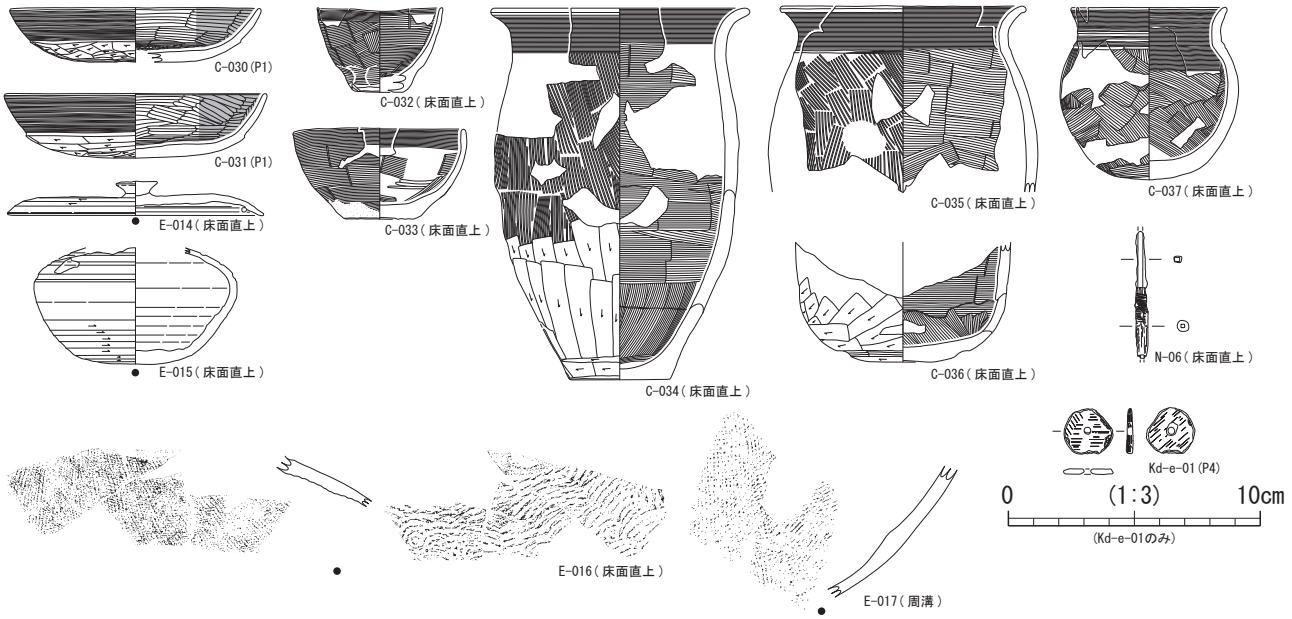
SI4竪穴遺構出土遺物



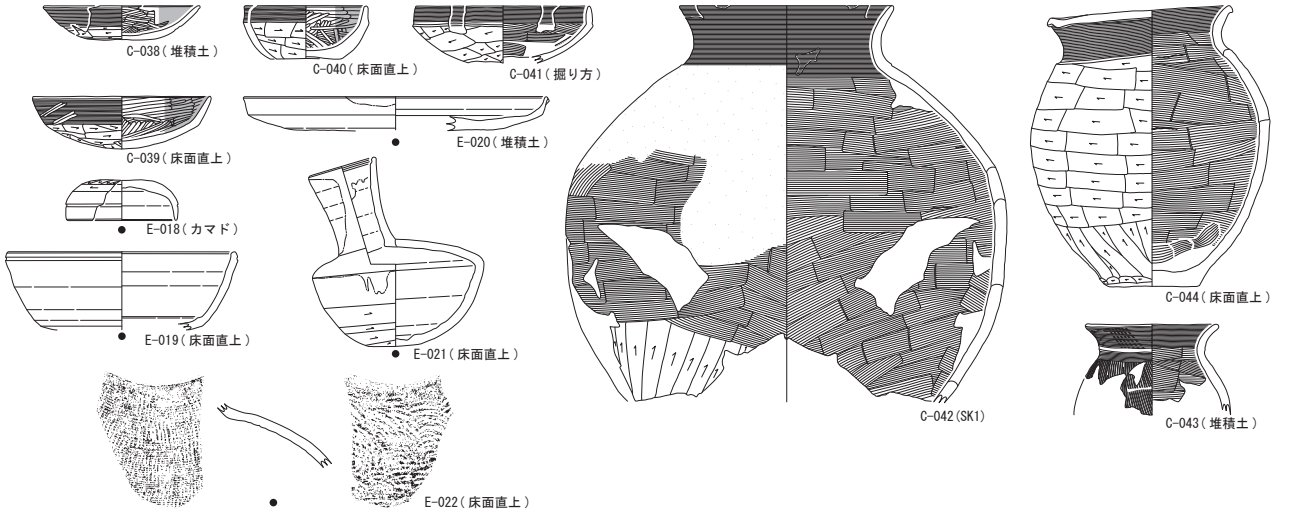
第１９４図　各遺構内出土遺物（１）

SI5竪穴住居跡出土遺物

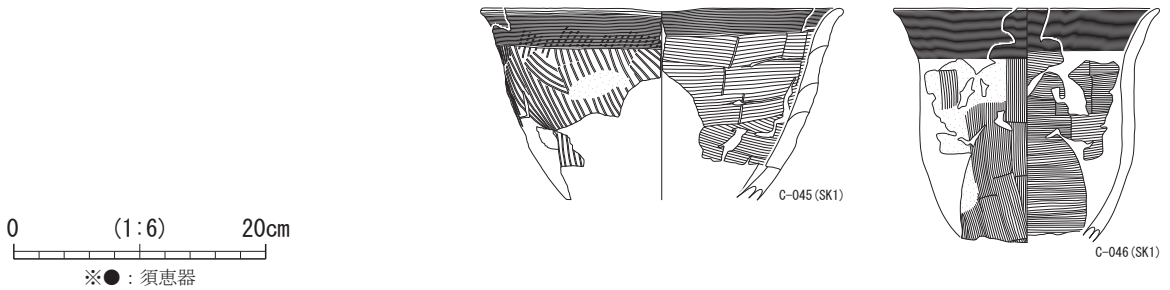
SI6竪穴住居跡出土遺物



SI8竪穴住居跡出土遺物

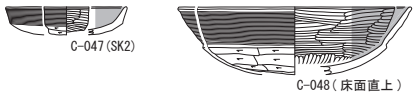


SI10竪穴住居跡出土遺物

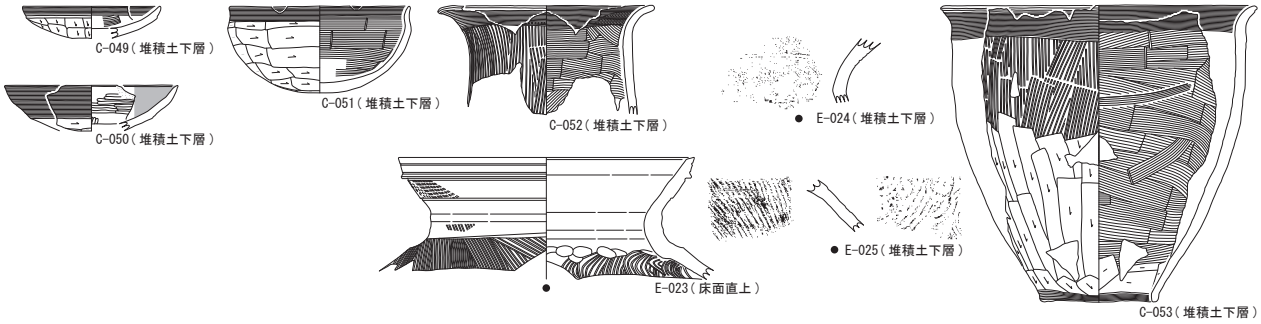


第１９５図　各遺構内出土遺物（２）

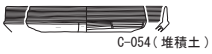
SI11竪穴住居跡出土遺物



SI13竪穴住居跡出土遺物

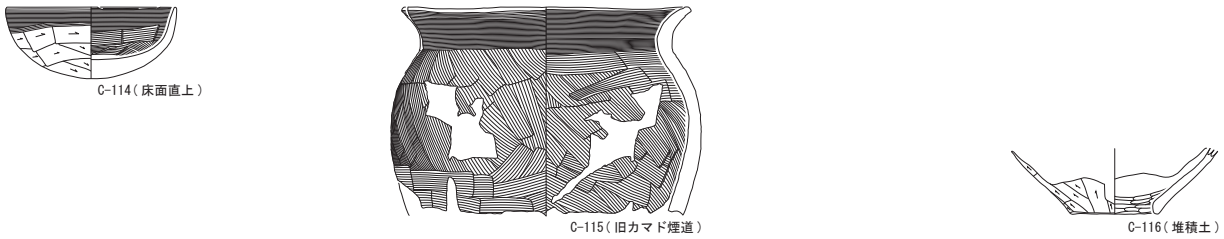


SI15竪穴住居跡出土遺物

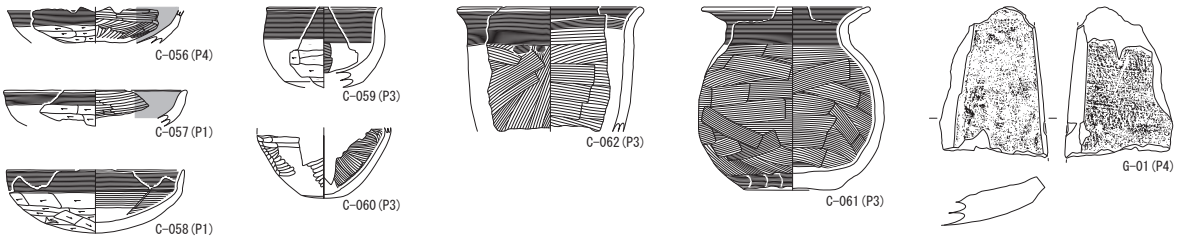


SI16竪穴住居跡出土遺物

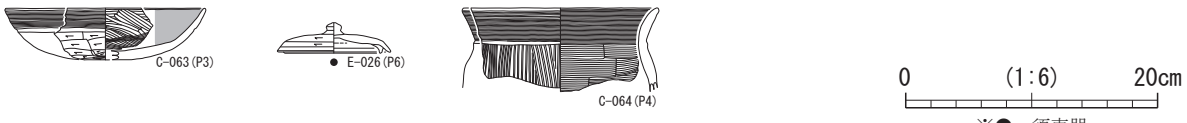
SI17竪穴住居跡出土遺物



SB1掘立柱建物跡出土遺物

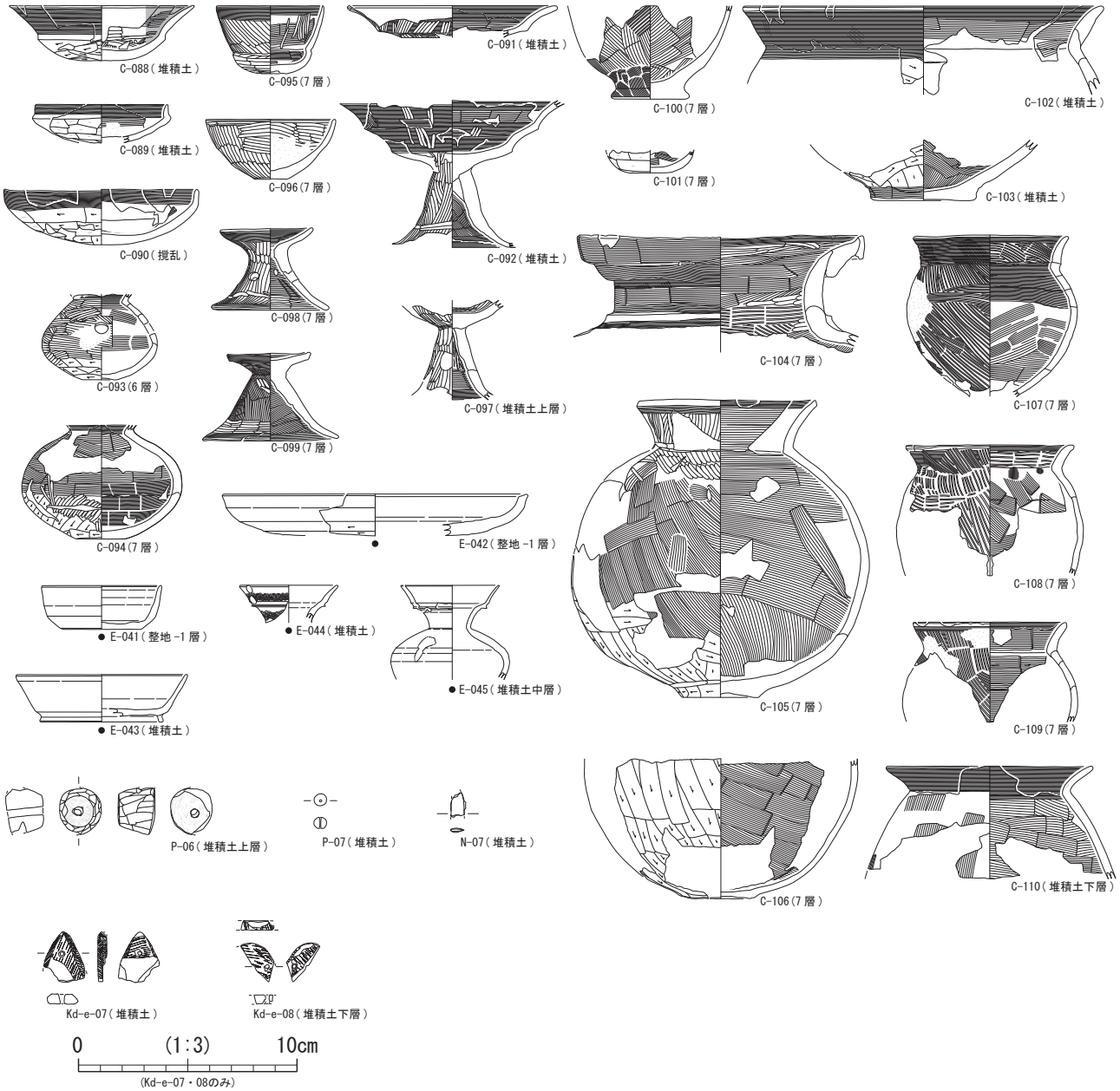


SA1柱穴列出土遺物

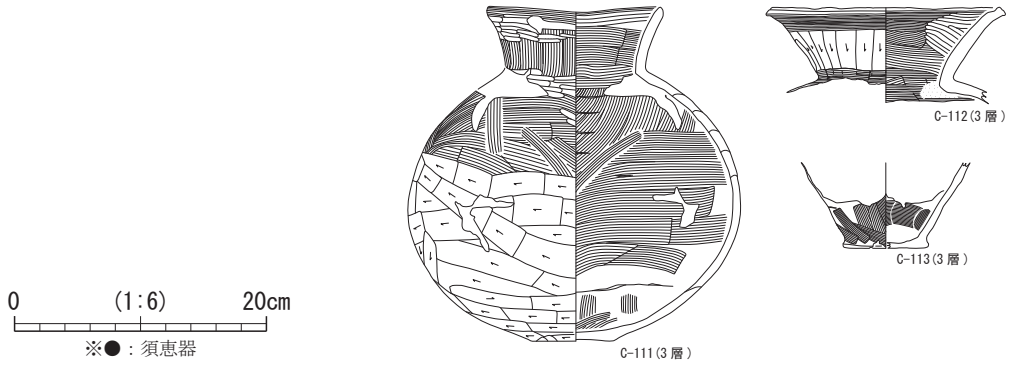


第196図　各遺構内出土遺物(3)

窪地状地形１出土遺物



窪地状地形２出土遺物



第１９７図　窪地状地形出土遺物

釜式土器であり、これまでの編年的研究(次山1992、辻1994・1995、仙台市教育委員会2010)からその後半に比定され、年代は概ね4世紀後半と考えられる。

3期：古墳時代中期(第191図20 ～ 26)

Ⅳ区基本層Ⅵ層上面で確認された窪地状地形1の堆積土下層～中層にかけて出土した土師器を基準資料とする。南小泉式～引田式土器の時期である。土師器高坏のうち、2点(第191図20・21)の坏部外面には稜が形成される。須恵器蹴は陶邑編年のTK208型式と考えられ、引田式に伴う可能性がある。

4期：古墳時代後期～終末期(第192図1 ～ 5)

4期は2期に細分される。4a期は遺構に伴う資料がなかったため、窪地状地形1の堆積土上層出土の遺物を示した。4a期は住社式新段階、4b期は栗囲式期である。

4a期：古墳時代後期(第192図1・2)　Ⅳ区基本層Ⅵ層上面で検出された窪地状地形1の堆積土上層より出土した土師器2点を示した。住社式土器の時期で、年代は6世紀末と考えられる。1の坏は口縁部が大きく外反し、内面にはヘラミガキと黒色処理が施される。2の坏は内屈する口縁部を特徴とする南小泉型関東系土器である。

4b期：古墳時代終末期(第192図3 ～ 6)　Ⅳ・Ⅴ区基本層Ⅳ層上面で確認されたSI11・SI17出土の土器を基準資料とする。栗囲式土器の時期で、年代は概ね7世紀初頭から前葉と考えられる。SI11の坏(3)は口縁部が直線的に外傾し、内面にはヘラミガキと黒色処理が施されている。SI17の坏(5)は半球形の器形で厚い底部を特徴とする。

5期：古墳時代終末期(郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙の時期)(第192図7 ～ 12、第193図1 ～ 23)

5期は2期に細分される。5a期は郡山Ⅰ期官衙の時期、5b期は郡山Ⅱ期官衙の時期である。

5a期：郡山Ⅰ期官衙の時期(第192図7 ～ 12、第193図1 ～ 12)　Ⅳ区基本層Ⅳ層上面で検出されたSI1・SI2・SI8・SI13より出土した土器を基準資料とする。土師器13点(第192図7 ～ 9・12、第193図1・2・6・7 ～ 12)、須恵器6点(第192図10・11、第193図3 ～ 5・13)の計19点である。年代は7世紀中葉から後葉と考えられる。SI8・SI13の土師器坏類は、口縁部が外傾して内面に黒色処理される在地の一群が主体であるが、清水型関東系土器(第193図10)が含まれる(仙台市教育委員会2010)。また、SI2の大型坏(第192図9)は偏平な器形を特徴とする。土師器甕類には、SI2・SI13出土のハケメ調整の甕(第192図12、第193図11)と、SI1・SI8出土のヘラナデ調整の甕(第192図7、第193図7)、SI8出土のヘラケズリ調整の甕(第193図6)などがある。須恵器類には、SI2・SI8出土の蓋(第192図10、第193図3)と高盤(第192図11)、坏(第193図4)、平瓶(第193図5)、SI13出土の甕(第193図13)などがある。平瓶は湖西窯系の製品と考えられる。

5b期：郡山Ⅱ期官衙前半の時期(第193図14 ～ 23)　Ⅳ区基本層Ⅳ層上面で検出されたSI6出土の土器を基準資料とする。土師器8点(第193図14 ～ 17・20 ～ 23)、須恵器2点(第193図18・19)の計10点である。年代は7世紀後半から8世紀初頭と考えられる。全体に土師器坏類(第193図14・15)は偏平化が進み、大型化が顕著となる。須恵器蓋(第193図18)も同様な傾向を示している。

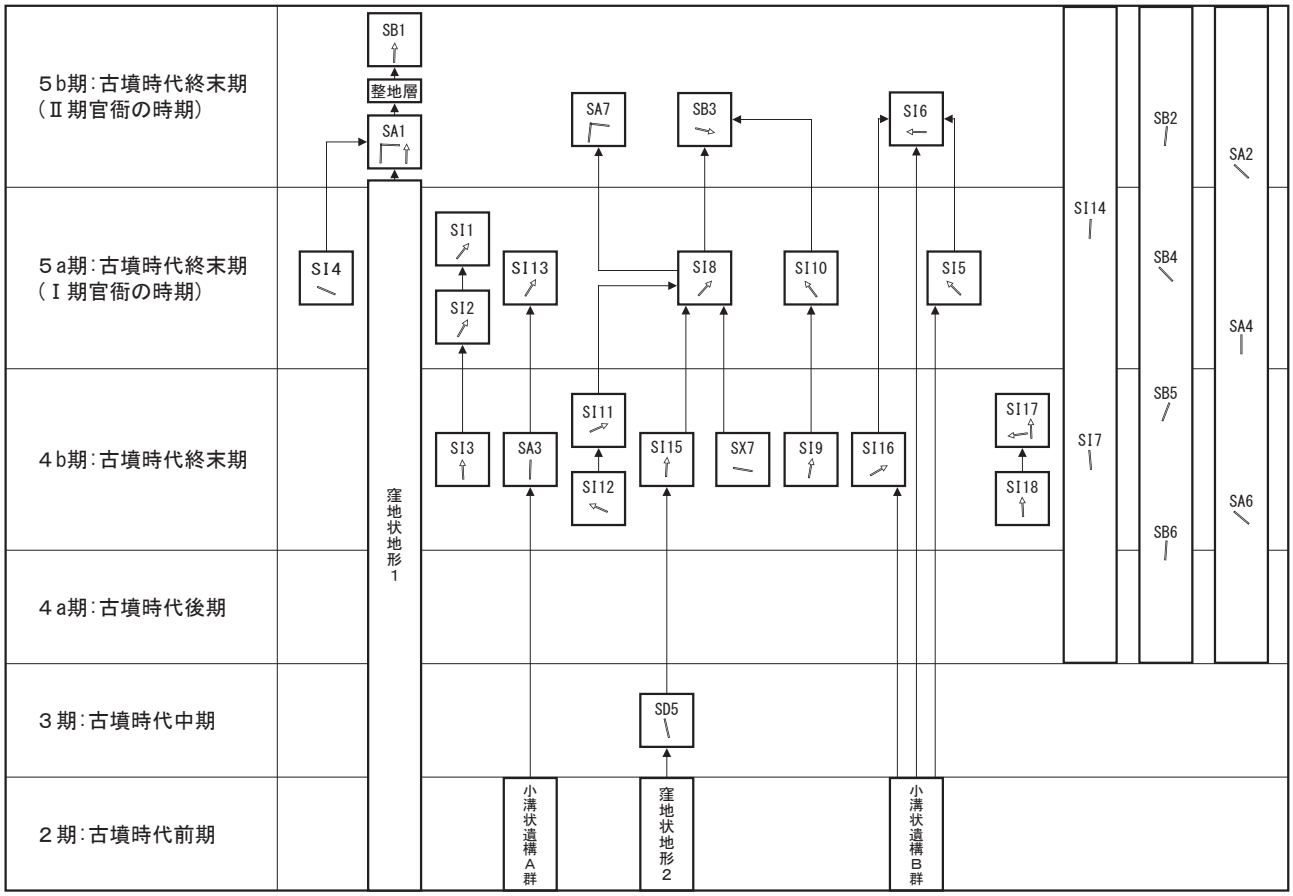
6期：中世以降　出土数量は極めて少ないが中世の陶磁器片などが出土している。

(2)検出遺構

前述した出土遺物による時期区分と遺構間の新旧関係からⅣ・Ⅴ区の遺構を時期別に模式図で示したのが第198図である。竪穴住居跡については、平面形や規模、主軸方向、内部施設などをもとに属性を抽出し、項目別に一覧表(表7)を作成した。

1期:弥生時代後期　天王山式の時期で、遺物のみ出土した。遺物は郡山遺跡や西台畑遺跡でもわずかに出土している。

2期:古墳時代前期　2期の遺構は2ヶ所の小溝状遺構群と、遺物が出土した窪地状地形1・2がある。両者の関係は、窪地状地形が古く、小溝状遺構群が新しい。小溝状遺構群は、調査区の中央と東側の2ヶ所(A・B群)で発見され、方向は概ね南北方向である。残存状況の良好なB群は東西約20ｍの範囲で確認され、本文では重複関係から3小期



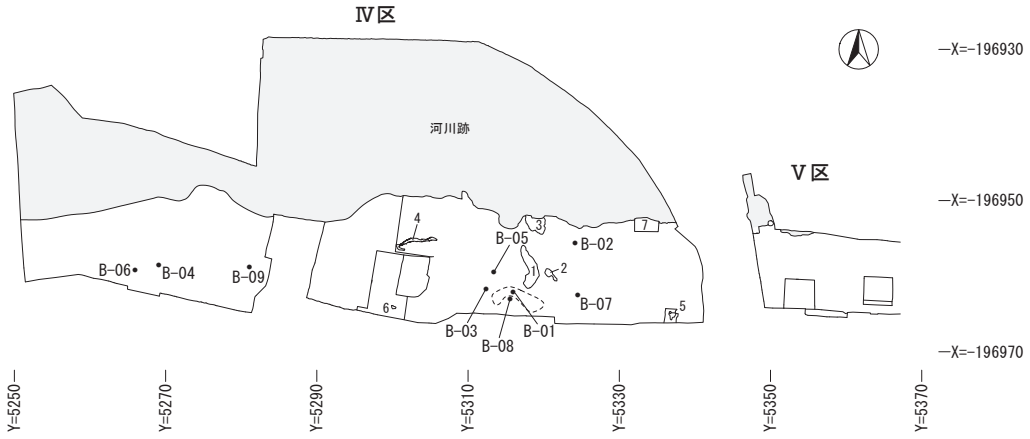
第198図　第190次調査Ⅳ・Ⅴ区検出遺構時期別変遷模式図

表７　郡山遺跡第 190 次調査　Ⅳ・Ⅴ区　竪穴住居跡一覧表

住居番号	調査区	平面形・規模				主軸方位		カマド		煙道部		その他の施設	時期区分※	備考
		平面形	長軸×短軸（cm）	床面標高（m）	床面積（㎡）	方位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	長さ（cm）	煙出し部			
SI1	Ⅳ区	方形	392 × 378	11.10	12.0	N-38° -E	カマド	北東壁中央	住居内	−	−	P4・5（カマド関連）貯蔵穴１・土坑１	5a 期 ★	支脚１対（自然礫）カマド前に炭化物範囲
SI2	Ⅳ区	方形	434 × −	11.10	14.0	N-30° -E	東壁（長軸）	−	−	−	−		5a 期 ★	
SI3	Ⅳ区	方形	460 × 446	11.05	16.0	N-3° -W	西壁（長軸）	−	−	−	−	P5（出入口施設）土坑２	4b 期	
SI4	Ⅳ区	楕円形	378 × 308	10.80	5.0	N-67° -W	北西－南東（長軸）	−	−	−	−		5a 期	竪穴遺構
SI5	Ⅳ区	（方形）	（730 × 480）	11.05	−	N-45° -W	西壁（長軸）	−	−	−	−	貯蔵穴１土坑２	5a 期	大型住居
SI6	Ⅳ区	（方形）	756 ×（584）	11.20	(48.0)	N-89° -W	カマド煙道部	西壁中央	住居内	180	ピット状	P5（出入口施設）焼土跡１	5b 期 ★	大型住居
					−	N-66° -W	旧カマド煙道部	西壁北側	−	(154)	ピット状			別遺構の可能性もあり（煙道部のみ検出）
SI7	Ⅳ区	（長方形）	（380） × 355	11.20	(10.0)	N-5° -W	東壁（長軸）	−	−	−	−		4 ～ 5 期	
SI8A	Ⅳ区	方形	664 × 626	11.40	32.0	N-42° -E	カマド	北東壁中央	住居内	−	−	P6（出入口施設）貯蔵穴１	5a 期 ★	
SI8B	Ⅳ区	方形	556 × 496	11.40	23.0	N-56° -E	南西壁（長軸）	−	−	−	−			
SI9	Ⅳ区	（方形）	466 ×（268）	11.10	−	N-9° -E	東壁	−	−	−	−		4b 期	
SI10	Ⅳ区	（方形）	446 ×（406）	11.20	(14.0)	N-37° -W	南東壁（長軸）	−	−	−	−	貯蔵穴１	5a 期	
SI11	Ⅳ区	方形	395 × 373	11.30	11.0	N-66° -E	カマド	北東壁中央	住居内	−	−	P1（出入口施設）	4b 期 ★	
SI12	Ⅳ区	（方形）	506 × −	11.30	(20.0)	N-66° -W	カマド	北西壁中央	住居内	−	−		4b 期	
SI13	Ⅳ区	（方形）	495 × 440	11.30	(16.0)	N-32° -E	カマド	北東壁中央	住居内	(185)	ピット状		5a 期 ★	
SI14	Ⅳ区	（方形）	480 × −	11.25	−	N-3° -E	東壁（長軸）	−	−	−	−		4 ～ 5 期	
SI15	Ⅳ区	−	−	11.40	−	N-3° -E	西壁	−	−	−	−	焼土跡１	4 ～ 5 期	
SI16	Ⅳ区	方形	554 × 538	11.10	(27.0)	N-29° -W	北西壁（長軸）	−	−	−	−	貯蔵穴１	4b 期	
SI17	Ⅴ区	（方形）	（404） × 390	11.25	(13.0)	N-98° -W	新カマド	西壁中央？	住居内	64	−	SK3（出入口施設）土坑１	4b 期 ★	
						N-6° -W	旧カマド	北壁東寄り	住居内	146	−			
SI18	Ⅴ区	（方形）	304 × −	11.30	(4.9)	N-3° -W	西壁	−	−	−	−	土坑１	4b 期	

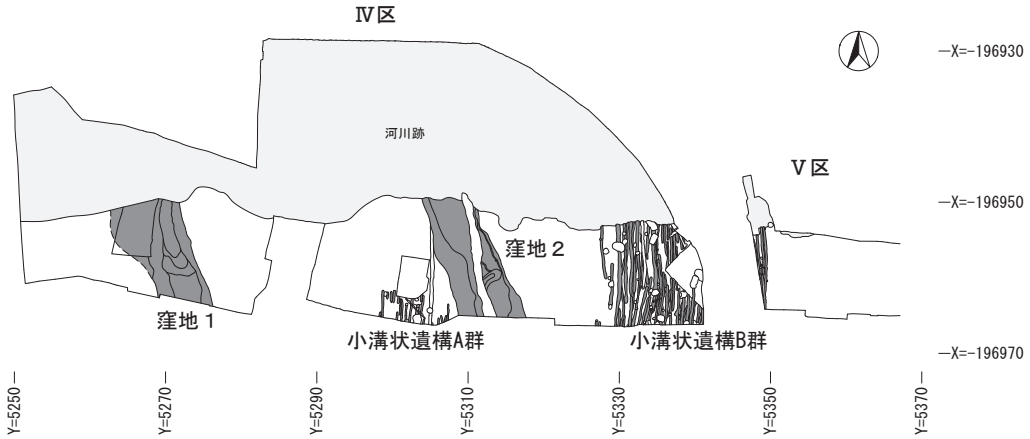
※時期区分中の★印：基準資料出土遺構

１期（弥生時代後期）

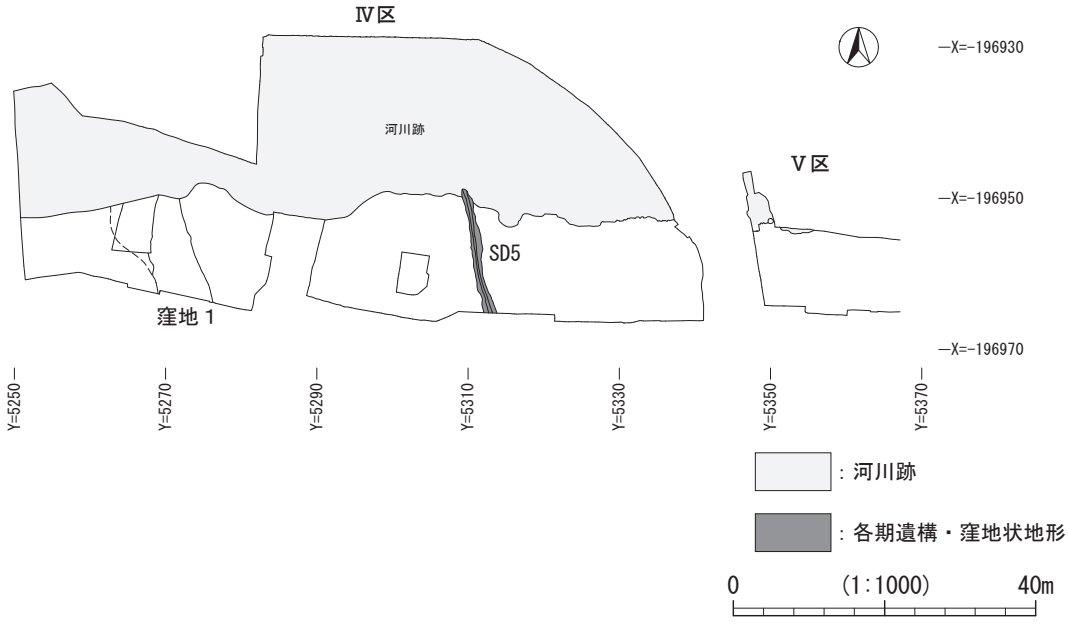


※1～7：炭化物集中箇所　　B-01土器片主要分布範囲

２期（古墳時代前期）

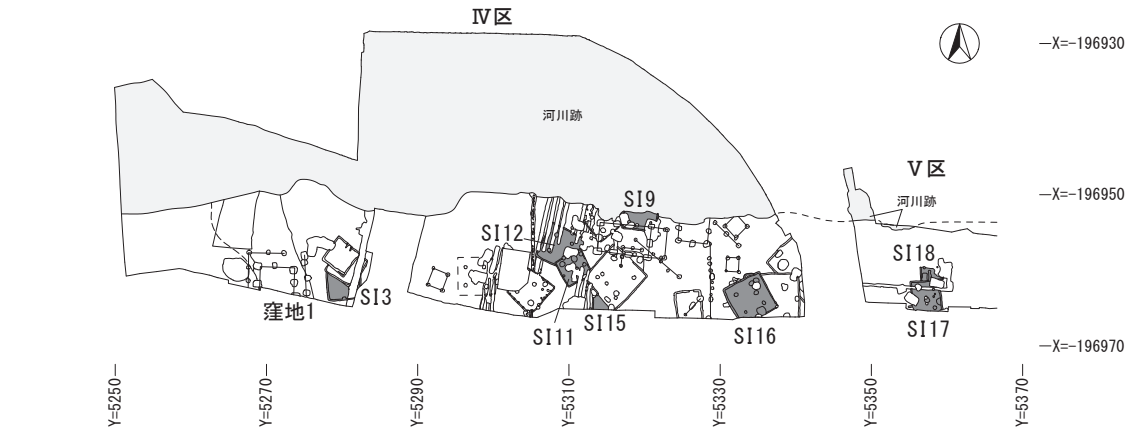


３期（古墳時代中期）

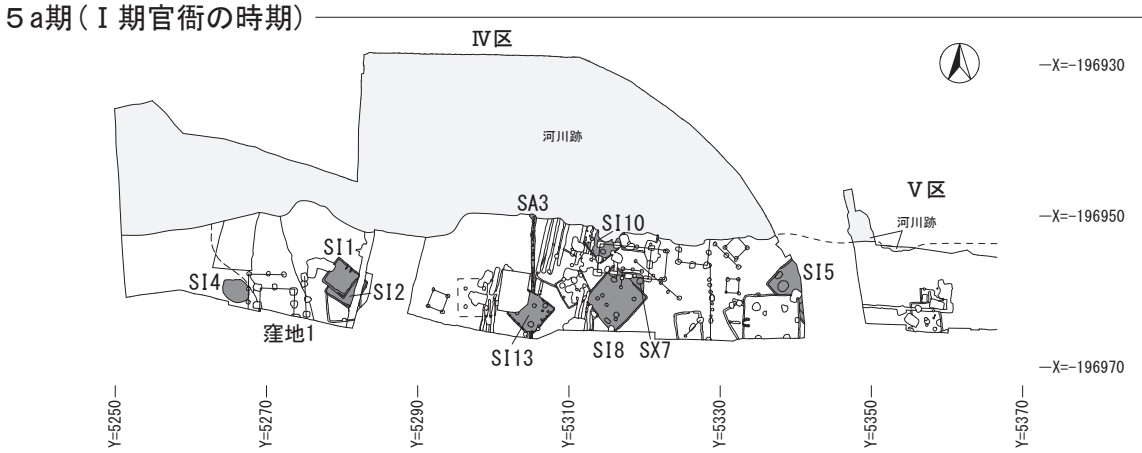


第１９９図　Ⅳ・Ⅴ区主要遺構配置図（１～３期）

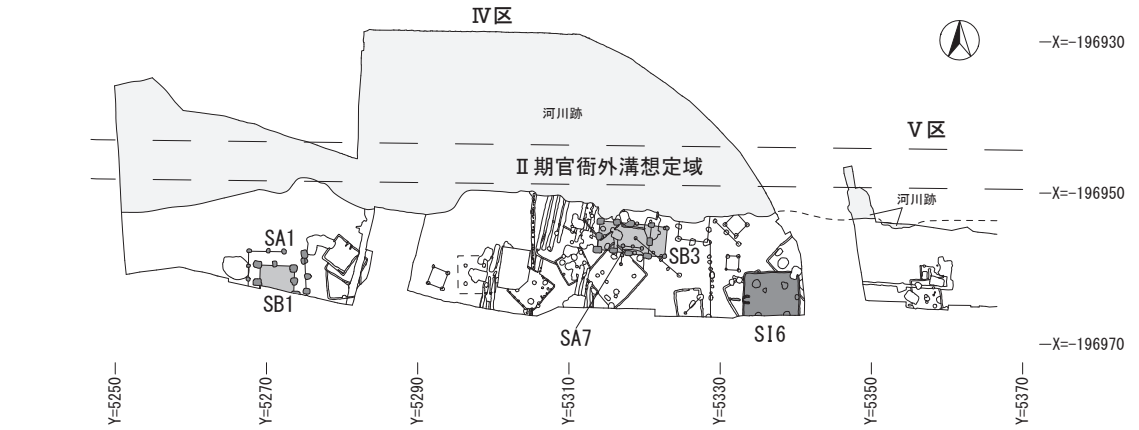
４a・b期（古墳時代後期・終末期）

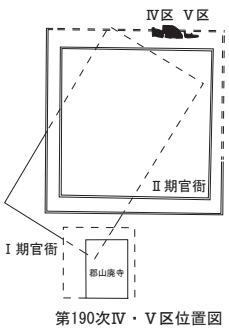


５a期（Ⅰ期官衙の時期）

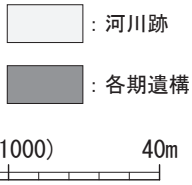


５b期（Ⅱ期官衙の時期）





第190次Ⅳ・Ⅴ区位置図



第２００図　Ⅳ・Ⅴ区主要遺構配置図（４a～５b期）

に分けて説明した。両群は基本層Ⅴb層に形成され、郡山遺跡では最も古い段階の耕作痕と考えられる。窪地状地形1・2は、東西約30ｍの間隔で南北方向に並行するように発見された。規模は長さ14 ～ 16ｍ、幅6 ～ 8ｍで、深さは60 ～ 100㎝である。北側は河川により浸食されている。窪地状地形1の堆積土下層及び隣接する西側平坦面からは古墳時代前期の土器がまとまって出土した。

3期：古墳時代中期　この時期の遺構は、基本層Ⅳb層上面で検出されたSD5溝跡1条である。

4a･b期：古墳時代後期～終末期　4a期には遺構は確認されていない。4b期の遺構は、竪穴住居跡8軒(SI3・SI9・SI11・SI12・SI15・SI16・SI17・SI18)と、材木列1基(SA3)や性格不明遺構1基(SX7)である。竪穴住居跡は規模は4.0ｍ未満(SI11･SI17)と4.5 ～ 5.5m(SI3･SI9･SI12･SI16)に分けられる。主軸方位でみると、5軒(SI3・SI9・SI15・SI17・SI18)が北方向、2軒(SI12･16)が北西方向、1軒(SI11)が北東方向である。カマドは3軒(SI11・SI12・SI17)で確認され、SI11が北東カマド、SI12が北西カマド、SI17が西カマドである。明確な居住域の形成は4b期からで、これ以後、居住域として継続していく。

5a期：古墳時代終末期(郡山Ⅰ期官衙の時期)　5a期の遺構は竪穴住居跡7軒(SI1・SI2・SI4・SI5・SI8・SI10・SI13・SI16)、竪穴遺構1基(SI4)、材木列1条(SA3)、性格不明遺構1基(SX7)などである。竪穴住居跡は、規模は4ｍ未満1軒(SI1)、4 ～ 6ｍ未満4軒(SI2・SI8B・SI10・SI13)、6ｍ以上2軒(SI5・SI8A)に分けられる。主軸方向は、4軒(SI1・SI2・SI8A・SI13)が北東方向、2軒(SI5・SI10)が北西方向で、それぞれ北東、北西方向に振れている。カマドは4軒(SI1・SI8・SI13)で確認され、いずれも北東カマドである。また、SI13には周溝内に壁柱穴が確認されている。

5b期：古墳時代終末期(郡山Ⅱ期官衙前半の時期)　5b期の遺構は竪穴住居跡1軒(SI6)、掘立柱建物跡2棟(SB1･SB3)、柱穴列2条(SA1･SA7)で構成される。SI6は一辺7.5ｍの方形で、西カマドである。主軸方向はN-89° -Wである。主柱穴は4本で、出入口施設や周溝も確認されている。カマドは西壁中央付近に構築され、約180㎝の煙道を有する。SB1は東西2間、南北2間もしくはそれ以上の側柱建物と推定される。南北棟とすると主軸方位はN-1° -Eである。SB3は桁行3間、梁行2間の東西棟で、東に廂が付く。主軸方位はN-86° -Wである。SA1は窪地状地形1の堆積土上層で確認された柱穴列である。検出面はSB1の整地層下で、SB1との関連性はない。柱穴列は「L」字形の部分と、東側列では柱穴の形状や規模、深さなどが異なっている。

6期:中世以降　6期の遺構は小溝状遺構群6群、土坑、杭列、ピットなどで構成される。検出面は基本層Ⅱc層上面で、杭列やピットの一部は近代まで下る可能性がある。

第2節　方四町Ⅱ期官衙の区画施設と造営尺について(第201・202図)

今回の第190次調査区は、方四町Ⅱ期官衙北辺大溝の北側に位置し、いくつかの調査区に外溝の存在が想定されたが、いずれも、想定箇所は旧河道によって遺構面が浸食されており、外溝の検出はできなかった。また、Ⅳ区・Ⅴ区の調査区では、外溝想定位置のすぐ南側で、古墳時代後期の4a期(6世紀末葉)以降、継続的な居住域としての土地利用が認められ、5b期：Ⅱ期官衙の時期(7世紀末葉～8世紀初頭)にも、南辺の大溝と外溝の間のように遺構がない状況ではなかった。これは、北辺外溝の存在形態を再検討する必要が生じたことを意味している。ここでは、それを行っていくために、材木列・大溝とともに方四町Ⅱ期官衙の区画施設について、研究の現状を整理し、検討を加えておきたい。

材木列・大溝による区画施設の存在は、1980年の調査で知られ、調査の進展によって、『郡山遺跡Ⅴ』(仙台市教育委員会1985)において、方四町Ⅱ期官衙の区画施設の大きさ：四町四方が報告され、材木列は東西428.44ｍ、南北422.73ｍで、東西長の方がやや長いことが指摘されていた。その後、郡山遺跡の西方にある富沢遺跡の条里水田の検討が日本測地系の座標値を用いて行われ、一辺109ｍ(一町)、方向角N -0.75° ± 0.30° - Eの条里型土地割

が復元され、それを東方へ延長すると、第201図のように、西辺大溝芯々（南北4町）の両端及びその間の3点が、この土地割の交点となっていること、大溝の方向角もほぼ同じであることが知られた。これは、Ⅱ期官衙が、方格地割を伴って成立していることを示しており、Ⅱ期官衙の中央には南北に細長い幅約10ｍの区画（計画線）の存在も指摘されていた（斎野2000）。2000年代になると、外溝の存在が明らかとなり、ほぼ同時期の藤原宮（第202図）との区画施設の類似性（註１）から、井上（2004）の研究をもとに、座標値を用いて、令大尺「一尺＝35.2 ～ 35.6㎝前後」の区切りのいい数値による計画線の復元がなされており（仙台市教育委員会2006、平間・斎藤2008）、Ⅱ期官衙は、外溝の範囲を藤原宮と比較すると、東西長、南北長は約1/2で、面積は約1/4であると推定している（註2）。しかし、外溝の計画性、形態、機能については、今回の調査成果が示すように、慎重な扱いが求められ、令大尺によるⅡ期官衙区画施設の計画線の復元にも、再検討の必要性が指摘されている（仙台市教育委員会2010a）。

そのため、ここでは、区画施設の各辺の長さと、その造営の基準となる一尺の長さと尺数の検討を、方四町Ⅱ期官衙と藤原宮を対象として行うことにする。7世紀の造営尺に関して、Ⅱ期官衙の時期に先行して存在する一尺の長さには、近年の研究で、山田寺Ⅱ期（7世紀中葉）の二つの尺が確認されている（奈良文化財研究所2002）。一つは、山田寺大垣に用いられた「一尺＝29.5 ～ 29.6㎝」、もう一つは、山田寺金堂・回廊・中門に用いられた「一尺＝30.24㎝」である。この２種類の尺について、便宜的に、前者をＸ尺、後者をＹ尺とする。そして、それに加えて、井上（2004）が藤原宮で指摘する大尺「一尺＝35.2 ～ 35.6㎝前後」がある。これを、便宜的にＺ尺とする。このＺ尺の長さは、藤原宮の検出遺構から得られた「一尺＝29.3 ～ 29.6㎝」を小尺として、大尺はその1.2倍であることから求めている。なお、仮に山田寺のＸ尺を小尺として大尺を求めると、「一尺＝35.40 ～ 35.52㎝」となる。また、想定される区画施設各辺の尺数は、Ⅱ期官衙では、A1：1200尺、A2：1440尺（360尺×4町）、A3：1500尺、A4：1800尺（360尺×5町）を設定、藤原宮では、その2倍のB1：2400尺、B2：2880尺（360尺×8町）、B3：3000尺、B4：3600尺（360尺×10町）を設定した。表8には、それぞれの一尺長を算出し、その数値のなかに、Ｘ尺、Ｙ尺、Ｚ尺各近似値（二重線囲いの数値）の存在と、東西長と南北長の差を示した。

この表からは、以下のことが知られる。

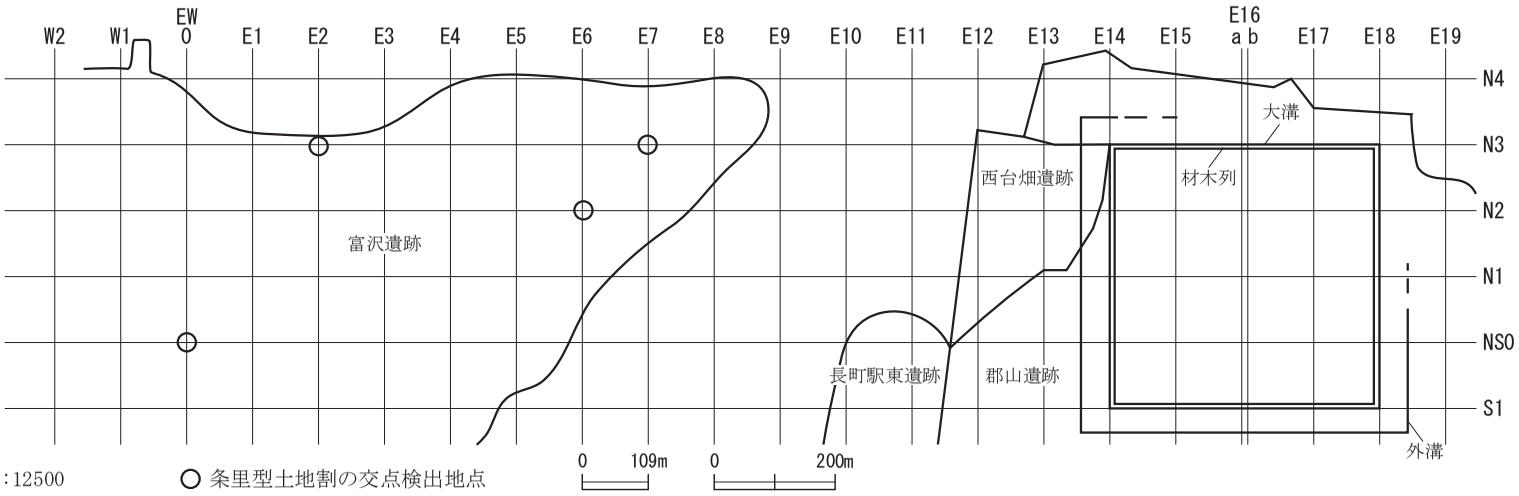
①方四町Ⅱ期官衙の材木列、大溝、外溝、藤原宮の大垣、内濠の長さは、南北長より東西長が長く、藤原宮の条坊計画線の長さは、南北長と東西長が同じである。

②方四町Ⅱ期官衙では、南北長A2：1440尺（360尺×4町）の場合に、材木列でＸ尺近似値、大溝芯々間でＹ尺近似値、藤原宮では、南北長B3：3000尺の場合に、内濠芯々間でＸ尺近似値、大垣でＹ尺近似値（註3）、条坊計画線間では、B3：3000尺の場合にＺ尺近似値、B4：3600尺（360尺×10町）の場合にＸ尺近似値が、それぞれ、造営尺に用いられている（註4）。

③方四町Ⅱ期官衙の材木列・大溝と藤原宮の内濠・大垣は、南北長に、区切りのいい尺数を同じにして、2種類の造営尺（Ｘ尺近似値・Ｙ尺近似値）を用いている共通性がある。Ⅱ期官衙では、360尺（一町）×4単位と理解され、西辺大溝は、富沢遺跡における条里型土地割の存在を裏付ける。

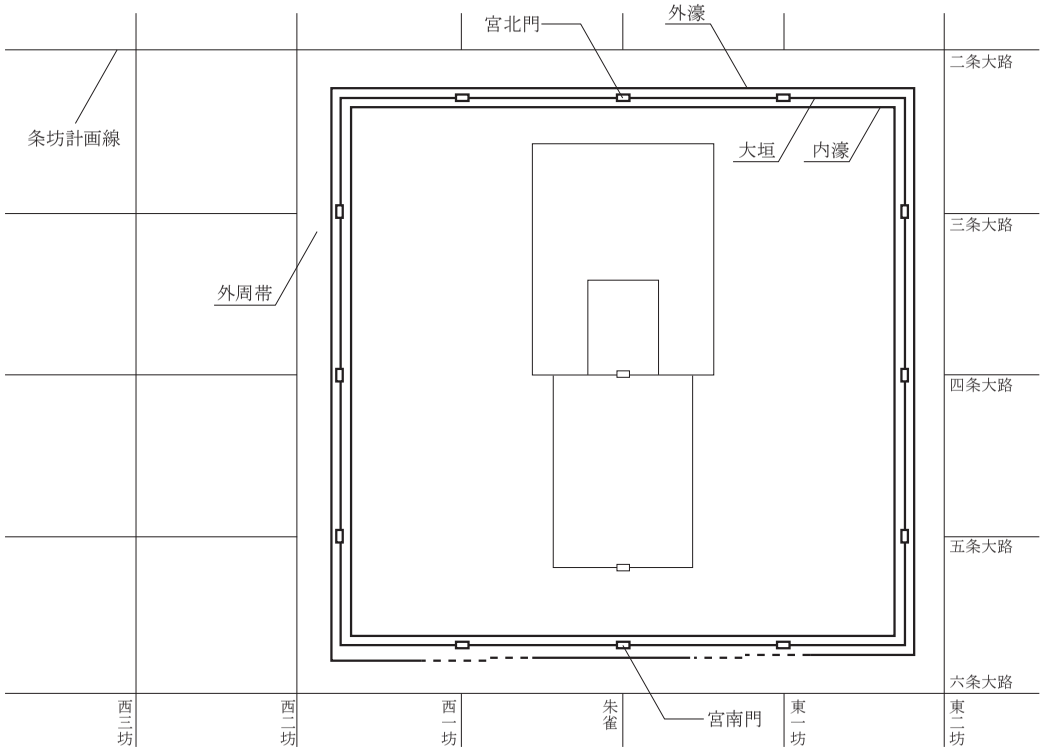
④方四町Ⅱ期官衙の外溝には、藤原宮の条坊計画線と、造営尺の共通性は認められない。外溝は、その南北長・東西長からＸ尺・Ｙ尺・Ｚ尺に近似する造営尺は得られず、材木列あるいは大溝から等距離に位置する施設と扱うべきであろう。なお、藤原宮の条坊は、宮域造営に先行して施工されており、造営尺がＺ尺（B3：3000尺）なのか、Ｘ尺（B4：3600尺＝360尺×10町）なのかは、未だ課題とされよう。

以上のことから、方四町Ⅱ期官衙の区画施設：材木列・大溝と藤原宮の区画施設：内濠・大垣は、2種類のほぼ同じ造営尺（Ｘ尺近似値とＹ尺近似値）を用いていること、南北長（東辺･西辺）を区切りのいい尺数としていること、南北長より東西長がやや長いことが共通している。また、Ⅱ期官衙と藤原宮には、方格地割を伴うことも共通し、前者が条里型土地割、後者が条坊と異なることは、遺跡の性格に起因すると考えられる。



S=1:12500　○ 条里型土地割の交点検出地点

第２０１図　郡山遺跡Ⅱ期官衙の区画施設と方格地割計画線



S=1:12500　0　109m　0　200m

第２０２図　藤原宮の区画施設と条坊計画線

表8　郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙・藤原宮の区画施設各辺の長さと造営尺の推定

郡山遺跡Ⅱ期官衙		長さ(m)	一尺長(cm)				東西長・南北長差(m)
			A1：1200尺	A2：1440尺 (360尺×4町)	A3：1500尺	A4：1800尺 (360尺×5町)	
南北長	材木列(※1)	423.29 ～ 423.80	35.2742 ～ 35.3167	29.3951 ～ 29.4306	28.2193 ～ 28.2533	23.5161 ～ 23.5444	1.31 ～ 7.65＜東西長
	大溝芯々間(※2)	436.04 ～ 438.00	36.3367 ～ 36.5000	30.2806 ～ 30.4167	29.0693 ～ 29.2000	24.2244 ～ 24.3333	8.0 ～ 10.0＜東西長
	外溝芯々間(※3)	535.29 ～ 537.80	44.6980 ～ 44.8167	37.2424 ～ 37.3472	35.7527 ～ 35.8533	29.7939 ～ 29.9878	0.31 ～ 8.65＜東西長
東西長	材木列(※1)	425.11 ～ 430.94	35.4258 ～ 35.9117	29.5215 ～ 29.9264	28.3407 ～ 28.7293	23.6172 ～ 23.9411	1.31 ～ 7.65＞南北長
	大溝芯々間(※2)	446.00 ～ 446.04	37.1667 ～ 37.1700	30.9722 ～ 30.9750	29.7333 ～ 29.7360	24.7778 ～ 24.7800	8.0 ～ 10.0＞南北長
	外溝芯々間(※3)	538.11 ～ 544.94	44.8425 ～ 45.4117	37.3688 ～ 37.8431	35.8740 ～ 36.3293	29.8950 ～ 30.2744	0.31 ～ 8.65＞南北長
藤原宮(※4)		長さ(m)	一尺長(cm)				東西長・南北長差(m)
			B1：2400尺	B2：2880尺 (360尺×8町)	B3：3000尺	B4：3600尺 (360尺×10町)	
南北長	内濠芯々間	883.44	36.8100	30.6750	29.4480	24.5400	18.96＜東西長
	大垣	906.80	37.7833	31.4861	30.2266	25.1888	18.6＜東西長
	条坊計画線間	1063.80	44.3250	36.9375	35.4600	29.5500	± 0
東西長	内濠芯々間	902.40	37.6000	31.3333	30.0800	25.0666	18.96＞南北長
	大垣	925.40	38.5583	32.1319	30.8466	25.7055	18.6＞南北長
	条坊計画線間	1063.80	44.3250	36.9375	35.4600	29.5500	± 0

※1：材木列の長さは、仙台市教育委員会(2006)にもとづいた。
※2：大溝芯々間の長さは、斎野(2000)にもとづいた。
※3：外溝芯々間の長さは、外溝北辺、東辺に存在が確認されていない部分が多いこともあり、材木列の長さに、材木列からの距離(56.5m ～ 57.0m)を加えて求めた。
※4:「大垣」、「条坊計画線間」の長さは井上(2004)にもとづいた。「内濠芯々間」の長さは井上(2004)から算出した。また、外濠は、南北長を特定できないため、対象から除いた。　(2010 斎野作成)

註

1：藤原宮では、外濠と道路側溝との間は、遺構の存在しない外周帯が設けられており、これが、方四町Ⅱ期官衙南辺においては大溝と外溝の間に遺構が存在しない状況と類似すると考えられてきた。

2:仙台市教育委員会(2006)では、大溝、外溝の長さは、材木列側上端間で求めている。そのうち、外溝は、東西方向、南北方向ともに、材木列からほぼ等距離の位置(材木列－外溝材木列側上端間：55.3 ～ 55.5m)にあるが、南北長は533.03 ～ 533.51m、東西長は534.69mと報告されており、材木列の南北長と東西長の差(1.31 ～ 7.65m)が反映されておらず、検証が必要とされる。なお、藤原宮では、条坊計画線は両側に側溝を伴う条坊道路中心を通っており、外周帯の外縁は道路側溝によって画されている。これを南北方向でみると、宮北辺の二条大路、宮南辺の六条大路は、側溝芯々間で約16m、側溝幅は約1mであること(奈良国立文化財研究所2000：二条大路D1地点・B4地点、六条大路C18地点)から、宮側側溝上端は条坊計画線より約8.5m宮側に位置し、北辺と南辺の宮側側溝上端の南北長は約1046.80m(1063.80m－17m)で、大垣と宮側側溝上端の距離は約70mとなる。宮南面では、大

垣から外濠宮側上端の距離は14.5～23.0m、外濠の幅は5.5～6.0mである(井上2004)から、外周帯の幅は41～50mほどである。方四町Ⅱ期官衙では、南辺の大溝と外溝の上端間距離は44.7mで、藤原宮の外周帯の幅の範囲に含まれる。この数値を藤原宮との関連で理解するとすれば、外周帯幅の1/2ではなく、外周帯幅の実長を参考として、大溝から外溝までの距離を設定した可能性が考えられる。

３：井上(2004)は、藤原宮の中軸線における宮南門と北門の中心距離を3000尺(大垣南北長)とした場合に得られる「一尺＝30.2㎝」の数値について、これを造営尺とした先行研究成果：「藤原宮地割復元図」(奈良国立文化財研究所1976、井上前掲p174)を、多分に恣意的な方法によるものと批判するとともに、やや異例な単位尺として、「宮の大計画－大垣や主要部の地割－に限って用いられた可能性がかなり高い。」としている。

４：井上(2004)による「藤原宮地割復元図(単位は令大尺・条坊は計画線)」では、藤原宮の中軸線における宮南門と北門の中心距離906.8mを2550尺(大垣南北長)としており、一尺＝35.5608㎝のZ尺近似値が得られ、それに直交する大垣東西長925.4mは、より区切りのいい2600尺としているが、一尺＝31.7462㎝と、Z尺近似値を得られず、両者の一尺の長さも異なっている。また、藤原宮では、大垣の外側に、外濠が設けられており、大垣と外濠宮側上端間の距離は、南面において、西北角付近で約23.0m、中央付近で約17.7m、それより東方で約14.5mと、地点によって異なっており、いずれの数値で南北長を推定しても、X尺・Y尺・Z尺に近似する造営尺は得られず、東面において、その距離約20mの地点で東西長を推定しても、X尺・Y尺・Z尺に近似する造営尺は得られない。

第3節　まとめ

今回の郡山遺跡第190次調査によって、以下のことが明らかとなった。

・主に弥生時代後期から古墳時代終末期にかけての遺構と遺物を検出した。これらは1期：弥生時代後期、2期：古墳時代前期、3期：古墳時代中期、4期：古墳時代後期～終末期、5期：古墳時代終末期に時期区分される。Ⅳ区基本層Ⅱc層で検出した小溝状遺構群や土坑、杭列は6期中世以降の時期に位置づけた。

・1期は弥生時代後期の天王山式土器の時期である。Ⅳ区基本層Ⅵ層から遺物が出土した。

・2期は古墳時代前期の塩釜式土器の時期である。Ⅳ区で基本層Ⅴb層を耕作土とする小溝状遺構群を2群検出した。また、窪地状地形の堆積土からこの時期の遺物が出土した。

・3期は古墳時代中期の南小泉式土器～引田式土器の時期である。Ⅳ区でSD5溝跡1条を検出した。また、窪地状地形の堆積土からこの時期の遺物が出土した。

・4期は古墳時代後期の住社式土器の時期から古墳時代終末期の栗囲式土器にかけての時期である。4b期に竪穴住居跡や材木列などの遺構が検出されているが、遺物は4a期から認められることから、4a期を含めて居住域が形成されていると考えられる。竪穴住居跡の主軸方向には一定の方向性は認められない。

・5a期は古墳時代終末期の時期の中で、郡山遺跡Ⅰ期官衙の時期である。居住域が形成されている。竪穴住居跡の主軸方向は北東方向と真北方向が認められる。また、SA3材木列は真北方向を示す。

・5b期は古墳時代終末期の中で、郡山遺跡Ⅱ期官衙の時期である。居住域が継続して形成されている。竪穴住居跡、掘立柱建物跡の主軸方向は真北方向を基本としている傾向がある。

・5b期には調査区内に、郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙の北辺外溝の存在が想定されたが、その位置は河川による浸食で北辺外溝は検出されなかった。しかし、Ⅳ区・Ⅴ区の調査では、外溝想定位置のすぐ南側で、この時期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された。そのため、方四町Ⅱ期官衙は、北辺大溝の北側と南辺大溝の南側では、遺構群の展開が異なっていることが明らかとなった。

・5b期の方四町Ⅱ期官衙の区画施設について、研究の現状を整理し、藤原宮との比較・検討を行った結果、2種類の造営尺の存在、南北長を区切りのいい尺数としていること、方格地割を伴う点で、計画の共通性が知られた。し

かし、方四町Ⅱ期官衙の外溝を藤原宮の条坊計画線に対応させることは難しいと考えられ、今後、十分検討をしていく必要がある。

・中世以降とした基本層Ⅱｃ層上面検出の小溝状遺構群は、基本層Ⅱｂ層を耕作土とする畑跡と考えられる。

引用・参考文献（五十音順・敬称略）

相原淳一 2002「天王山式土器成立期に関する層位学的再検討」『宮城考古学』第4号 宮城県考古学会

石川日出志 2004「弥生後期天王山式土器成立期における地域間関係」『駿台史学』120

井上和人 2004『古代都城制条里制の実証的研究』学生社

工藤哲司 2004『鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第280集

工藤信一郎 2008「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の調査から」『第34回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会

工藤信一郎 2010「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の集落について」『宮城考古学』第12号　宮城県考古学会

国士舘大学考古学会編 2009『古代社会と地域間交流－土師器からみた関東と東北の様相－』六一書房

古代城柵官衙遺跡検討会 2008『第34回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会

古代城柵官衙遺跡検討会 2009『第35回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会

古代城柵官衙遺跡検討会 2010『第36回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会

斎野裕彦 2000「富沢遺跡・山口遺跡の条里型土地割の復元とその成立要因」『仙台市富沢遺跡保存館研究報告』3

斎野裕彦 2008「Ⅲ．弥生時代」『宮城考古学』第10号 宮城県考古学会

佐藤敏幸 2006「東北地方における7世紀から8世紀前半の土器研究史」『宮城考古学』第8号　宮城県考古学会

佐藤敏幸・大久保弥生 2007「宮城県の湖西産須恵器」『宮城考古学』第9号 宮城県考古学会

仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史』特別編2 考古資料

仙台市史編さん委員会 1999『仙台市史』通史編1 原始（改訂版）

仙台市史編さん委員会 2000『仙台市史』通史編2 古代中世

仙台市教育委員会 1979『栗遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第14集

仙台市教育委員会 1981『六反田遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第34集

仙台市教育委員会 1984『郡山遺跡Ⅳ－昭和58年度発掘調査－』仙台市文化財調査報告書第64集

仙台市教育委員会 1985『南小泉遺跡－第12次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第80集

仙台市教育委員会 1987『富沢－第15次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第98集

仙台市教育委員会 1990『下ノ内遺跡』仙台市文化財調査報告書第136集

仙台市教育委員会 1994『南小泉遺跡－第22・23次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第192集

仙台市教育委員会 1996『中在家南遺跡他』仙台市文化財調査報告書第213集

仙台市教育委員会 2004『鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第280集

仙台市教育委員会 2005『郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－』仙台市文化財調査報告書第283集

仙台市教育委員会 2006『郡山遺跡26』仙台市文化財調査報告書第296集

仙台市教育委員会 2007『長町駅東遺跡第4次調査』仙台市文化財調査報告書第315集

仙台市教育委員会 2008a『長町駅東遺跡第1・2次調査』仙台市文化財調査報告書第324集

仙台市教育委員会 2008b「郡山遺跡・長町駅東遺跡」『平成20年度宮城県遺跡調査発表会発表要旨』宮城県考古学会

仙台市教育委員会 2008c「春日社古墳」『平成20年度宮城県遺跡調査発表会発表要旨』宮城県考古学会

仙台市教育委員会 2008d「六反田遺跡・大野田古墳群（官衙関連遺構）」『平成20年度宮城県遺跡調査発表会発表要旨』宮城県考古学会

仙台市教育委員会 2009『長町駅東遺跡第3次調査』仙台市文化財調査報告書第340集

仙台市教育委員会 2010a『沼向遺跡第4 ～ 34次調査』仙台市文化財調査報告書第360集

仙台市教育委員会 2010b『郡山遺跡30』仙台市文化財調査報告書第373集

千田一志 2009「福島県会津盆地における弥生時代後期から古墳時代前期までの土器様相」『福島考古』第50号記念号　福島県考古学会

次山　淳 1992「塩釜式土器の変遷とその位置づけ」『究班－埋蔵文化財研究会15周年記念文集』埋蔵文化財研究会

辻　秀人 1994「東北南部における古墳出現期の土器編年－その1会津盆地－」『東北学院大学論集』第26号　東北学院大学学術研究会

辻　秀人 1995「東北南部における古墳出現期の土器編年－その2」『東北学院大学論集』第27号　東北学院大学学術研究会

東北古代土器研究会 2005『東北古代土器集成－古墳後期～奈良・集落編－〈宮城〉』研究報告2

東北古代土器研究会 2008『東北古代土器集成－須恵器・窯跡編－〈陸奥〉』研究報告3

長島榮一 2009「官衙からみた関東系土師器」『古代社会と地域間交流－土師器からみた関東と東北の様相－』六一書房

中村五郎 2009「天王山式メモ2008年」『福島考古』第50号記念号　福島県考古学会

奈良国立文化財研究所 2000「資料編 藤原京主要条坊遺構の概要」『研究論集ＸＩ』奈良国立文化財研究所学報第60冊

奈良文化財研究所 2002『山田寺発掘調査報告』奈良文化財研究所学報第63冊

平間亮輔・斎藤義彦 2008「郡山遺跡の遺構群の変遷」『第34回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』　古代城柵官衙遺跡検討会

村田晃一 2002「7世紀集落研究の視点(1)」第4号 宮城県考古学会

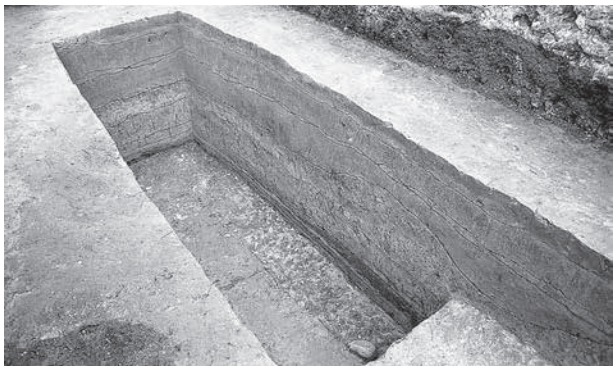
柳沢和明 2010「多賀城市山王・市川橋遺跡における住社式～栗囲式期集落跡の様相」『宮城考古学』第12号 宮城県考古学会

写　真　図　版

1. Ⅱ区6・9・10トレンチ遠景（東から）

2. Ⅵ・Ⅶ区21～25トレンチ遠景（西から）

3. Ⅰ区1トレンチ全景（東から）



4. Ⅰ区3トレンチ東壁土層断面（南から）

5. Ⅰ区5トレンチ西壁土層断面（東から）

6. Ⅲ区11トレンチ天地返し全景（西から）

7. Ⅳ区15トレンチ全景（南から）

8. Ⅴ区19トレンチ全景（南から）

写真図版1　確認調査（1）

1. Ⅶ区24トレンチ全景（東から）

2. Ⅶ区24トレンチ北壁土層断面（南東から）

3. Ⅶ区28トレンチ北壁土層断面（南から）

4. Ⅵ区29トレンチ全景（東から）

5. Ⅴ区30トレンチ全景（南から）

6. Ⅲ区31トレンチ全景（北から）

7. Ⅲ区31トレンチ東壁土層断面（西から）

8. Ⅲ区32トレンチ天地返し全景（北から）

写真図版2　確認調査（2）

1. Ⅱ区調査区遠景（北西から）

2. Ⅱ区東側調査区全景（北東から）

3. Ⅱ区西側調査区全景（北東から）

4. Ⅱ区調査区西壁土層断面（南東から）

5. Ⅱ区SB1全景（南西から）

写真図版３　Ⅱ区調査区全景・掘立柱建物跡（1）

1. Ⅱ区SB1P8土層断面（東から）

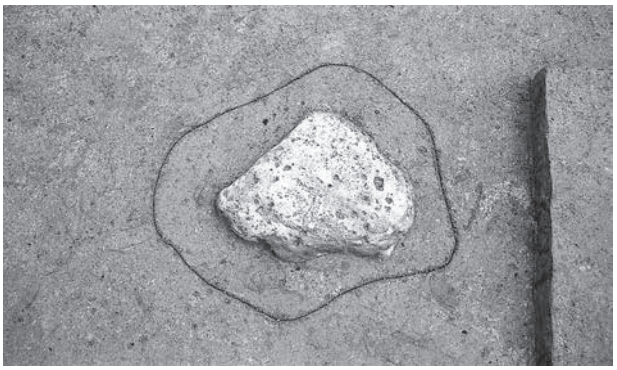
2. Ⅱ区SB1P27土層断面（東から）

3. Ⅱ区SB1P16土層断面（東から）

4. Ⅱ区SB1P11土層断面（北から）

5. Ⅱ区SB1P13礎石検出状況（南から）

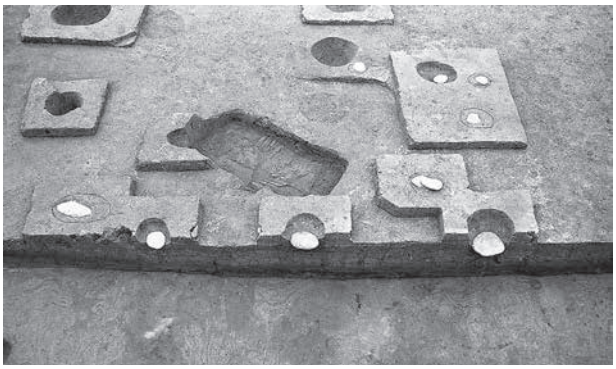
6. Ⅱ区SB1P19礎石検出状況（南から）



7. Ⅱ区SB1P20礎石検出状況（南から）

8. Ⅱ区SB1P22礎石検出状況（南から）

写真図版4　Ⅱ区掘立柱建物跡（2）

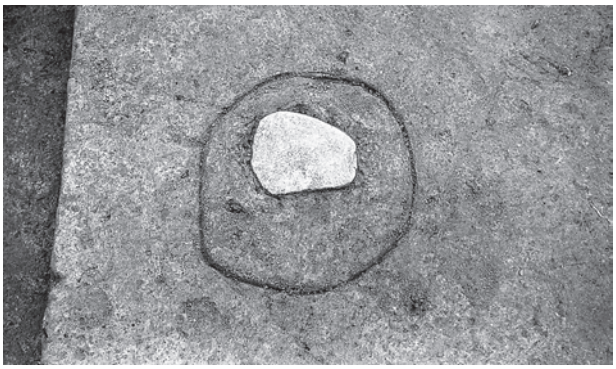


1. Ⅱ区SA1全景（西から）

2. Ⅱ区SA1P1土層断面（西から）

3. Ⅱ区SA1P2土層断面（西から）

4. Ⅱ区SA1P3土層断面（西から）



5. Ⅱ区SA1P4礎石検出状況（南から）

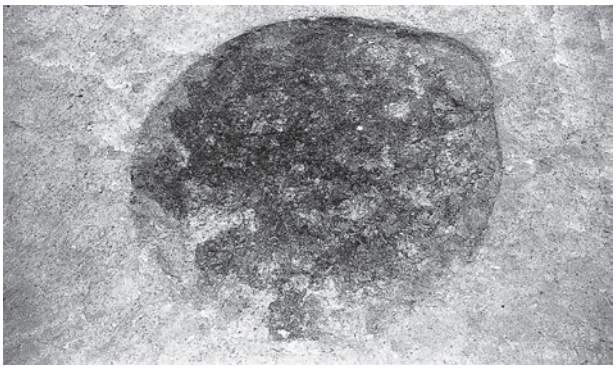
6. Ⅱ区SD1全景（北から）

7. Ⅱ区SD2全景（南西から）

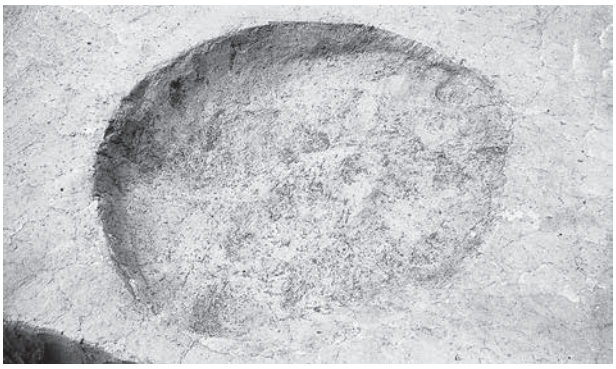
8. Ⅱ区SX1全景（東から）

写真図版５　Ⅱ区柱穴列・溝跡・性格不明遺構（1）

1. Ⅱ区SX2・3全景（東から）

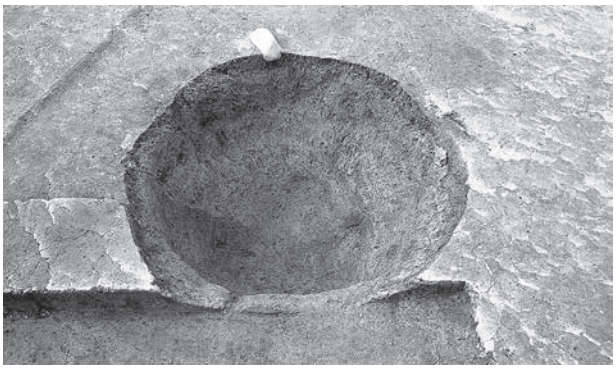


2. Ⅱ区SK1炭化物検出状況（南から）

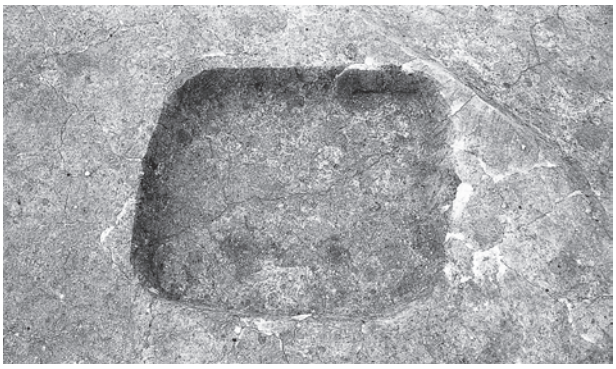


3. Ⅱ区SK1全景（南から）

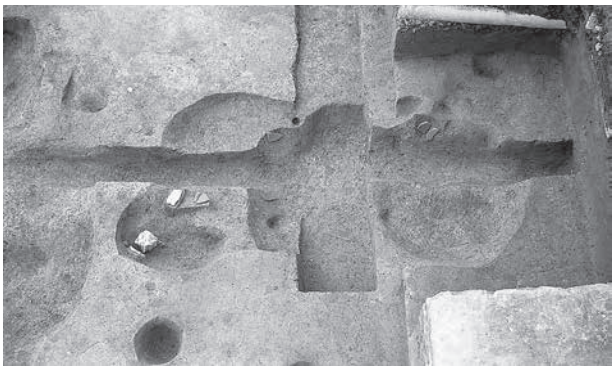
4. Ⅱ区SK2全景（西から）



5. Ⅱ区SK3全景（南から）



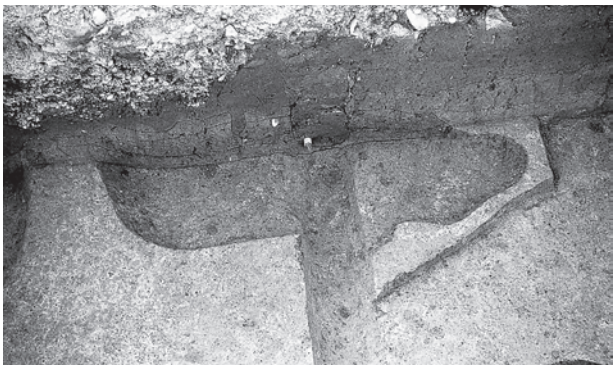
6. Ⅱ区SK4全景（南西から）



7. Ⅱ区SK6遺物出土状況（北から）

8. Ⅱ区SK8全景（北から）

写真図版6　Ⅱ区性格不明遺構（2）・土坑（1）



1. Ⅱ区SK9全景（東から）

2. Ⅱ区SK10全景（東から）

3. Ⅱ区SM1～5全景（南から）

4. Ⅱ区SM6～14全景（南から）

5. Ⅱ区SM15～36全景（東から）

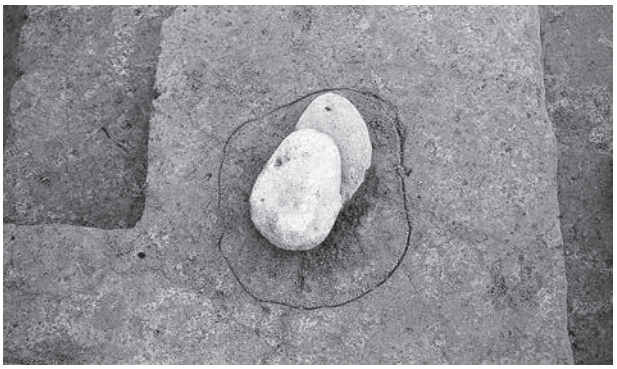
6. Ⅱ区SM38～49全景（北から）

7. Ⅱ区SK8、SM50～66全景（北から）

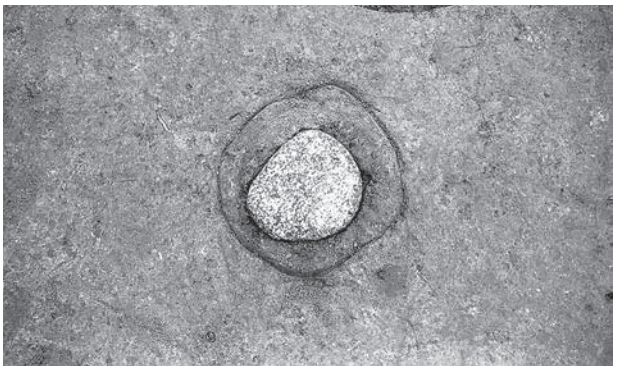
8. Ⅱ区SM67～85全景（南から）

写真図版7　Ⅱ区土坑（2）・小溝状遺構群

1. Ⅱ区Pit68礎石検出状況（東から）



2. Ⅱ区Pit69礎石検出状況（南から）



3. Ⅱ区Pit71礎石検出状況（南から）

4. Ⅱ区Pit72礎石検出状況（南から）

5. Ⅱ区Pit73土層断面（南から）

6. Ⅱ区Pit82礎石検出状況（東から）

7. Ⅱ区Pit98礎石検出状況（東から）

8. Ⅱ区Pit99礎石検出状況（南から）

写真図版８　Ⅱ区ピット

1. Ⅳ区調査区遠景（東から）

2. Ⅳ区西側調査区全景（東から）

3. Ⅳ区西側調査区全景（北西から）

4. Ⅳ区東側調査区全景（西から）

5. Ⅳ区東側調査区全景（南東から）

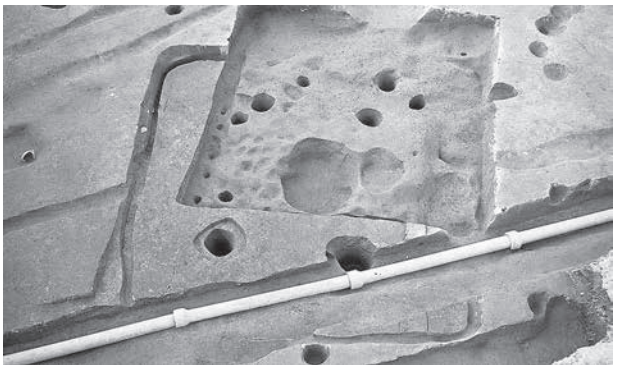
写真図版９　Ⅳ区調査区全景

1. Ⅳ区SI1全景（南西から）

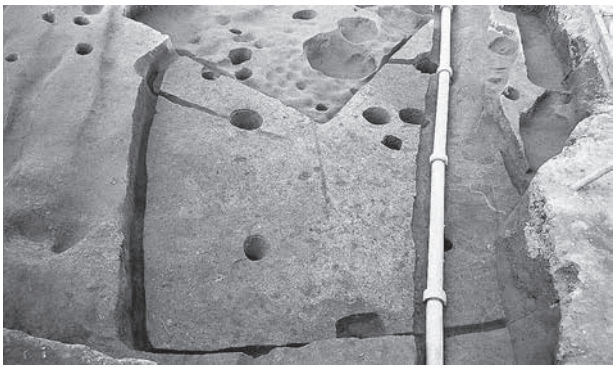
2. Ⅳ区SI1掘り方全景（南西から）

3. Ⅳ区SI1カマド全景（南西から）

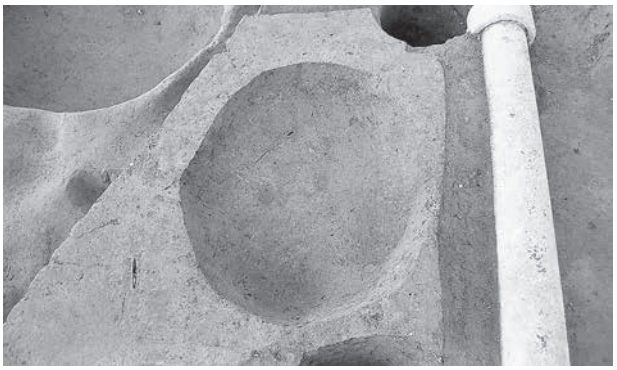
4. Ⅳ区SI1SK1礫出土状況（南から）



5. Ⅳ区SI2全景（南東から）



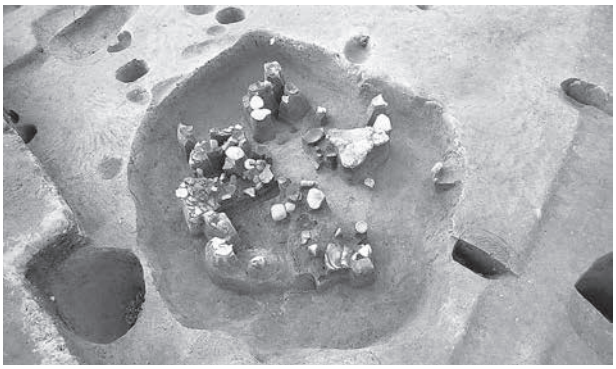
6. Ⅳ区SI3全景（南東から）



7. Ⅳ区SI3SK1全景（南から）

8. Ⅳ区SI4全景（西から）

写真図版10　Ⅳ区竪穴住居跡・竪穴遺構（1）



1. Ⅳ区SI4遺物出土状況(南東から)

2. Ⅳ区SI4東西土層断面(南東から)

3. Ⅳ区SI5全景(南から)

4. Ⅳ区SI5P1遺物出土状況(南西から)

5. Ⅳ区SI5SK1全景(南東から)

6. Ⅳ区SI5SK2遺物出土状況(南東から)

7. Ⅳ区SI5SK3全景(南西から)

8. Ⅳ区SI7全景(南から)

写真図版11　Ⅳ区竪穴住居跡・竪穴遺構(2)

1. Ⅳ区SI6全景（東から）

2. Ⅳ区SI6カマド遺物出土状況（東から）

3. Ⅳ区SI6カマド全景（東から）

4. Ⅳ区SI6P1遺物出土状況（北から）

5. Ⅳ区SI6旧カマド煙道部全景（東から）

6. Ⅳ区SI9全景（北から）

7. Ⅳ区SI10全景（北西から）

8. Ⅳ区SI10SK1遺物出土状況（北西から）

写真図版12　Ⅳ区竪穴住居跡（3）

1. Ⅳ区SI8A全景（南西から）

2. Ⅳ区SI8B周溝全景（南西から）

3. Ⅳ区SI8Aカマド遺物出土状況（南西から）

4. Ⅳ区SI8Aカマド全景（南西から）

5. Ⅳ区SI8Aカマド遺物出土状況（南西から）

6. Ⅳ区SI8ASK1遺物出土状況（南西から）

7. Ⅳ区SI11全景（南西から）

8. Ⅳ区SI12全景（東から）

写真図版13　Ⅳ区竪穴住居跡（4）

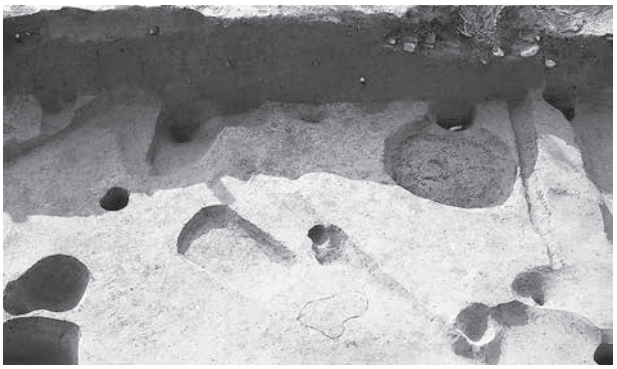
1. Ⅳ区SI13全景（南東から）

2. Ⅳ区SI13掘り方全景（南西から）

3. Ⅳ区SI13カマド全景（南西から）

4. Ⅳ区SI13遺物出土状況（南西から）

5. Ⅳ区SI14全景（西から）



6. Ⅳ区SI15全景（北から）

7. Ⅳ区SI16全景（南東から）

8. Ⅳ区SI16SK1全景（南東から）

写真図版14　Ⅳ区竪穴住居跡（5）

1. Ⅳ区SB1・SA1全景（東から）

2. Ⅳ区SB1P1遺物出土状況（北から）

3. Ⅳ区SB2全景（北から）

4. Ⅳ区SB3全景（東から）

5. Ⅳ区SB3全景（東から）

6. Ⅳ区SB4・SA2全景（北西から）

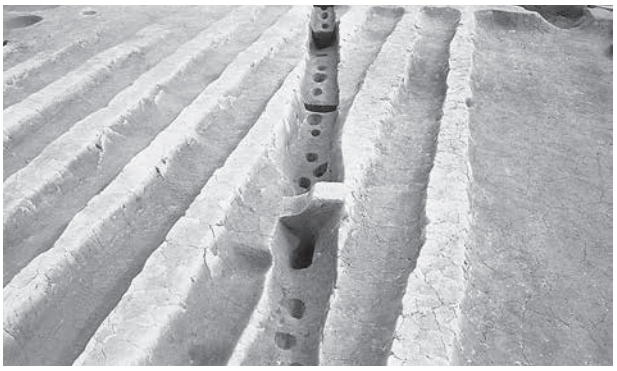
7. Ⅳ区SB5全景（北から）

8. Ⅳ区SB6全景（北から）

写真図版15　Ⅳ区掘立柱建物跡・柱穴列

1. Ⅳ区SA3掘り方全景（南から）

2. Ⅳ区SA3中央部柱痕跡検出状況（南から）



3. Ⅳ区SA3北半部柱痕跡全景（北から）

4. Ⅳ区SA3南半部柱痕跡全景（北から）

5. Ⅳ区SA3A–A’土層断面（北から）

6. Ⅳ区SA3E–E’土層断面（北から）

7. Ⅳ区SA3G–G’土層断面（南から）

8. Ⅳ区SA3J–J’土層断面（南から）

写真図版16　Ⅳ区材木列

1. Ⅳ区窪地状地形１全景（北から）

2. Ⅳ区窪地状地形１遺物出土状況（北西から）

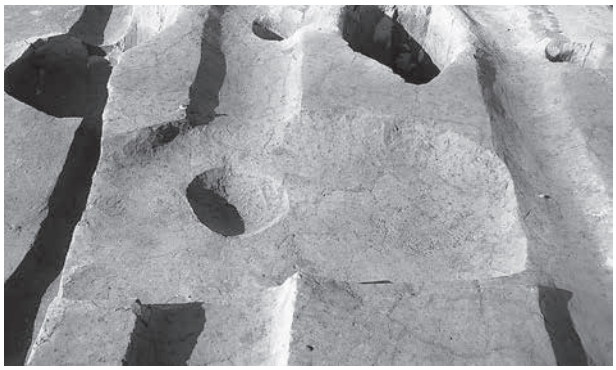
3. Ⅳ区窪地状地形１遺物出土状況（西から）

4. Ⅳ区SX2全景（北から）

5. Ⅳ区SX3遺物出土状況（北から）

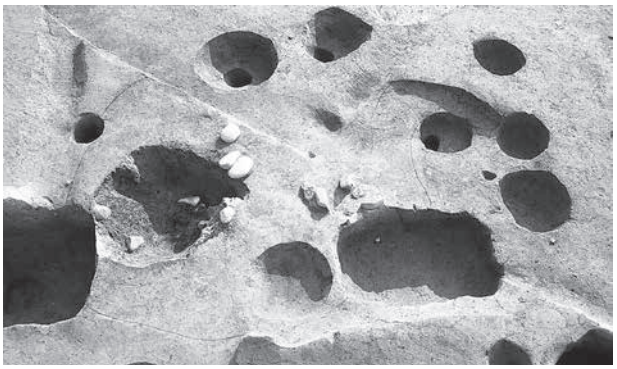
6. Ⅳ区SX4遺物出土状況（南から）

7. Ⅳ区SX5全景（東から）



8. Ⅳ区SX6全景（南から）

写真図版17　Ⅳ区性格不明遺構（1）



1. Ⅳ区SX7全景（北から）

2. Ⅳ区SX7SK1全景（北から）

3. Ⅳ区SX20遺物出土状況（北から）

4. Ⅳ区河川跡全景（東から）

5. Ⅳ区河川跡土層断面（東から）

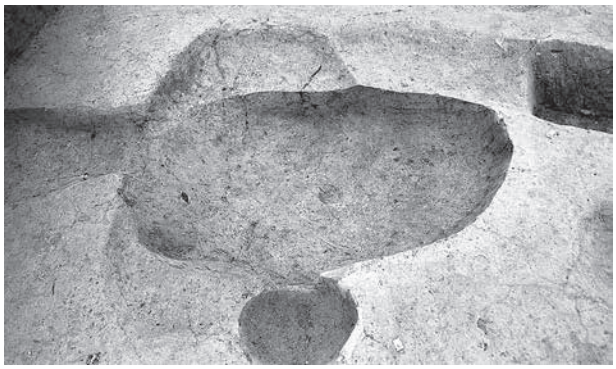
6. Ⅳ区河川跡土層断面（南東から）

7. Ⅳ区河川跡遺物出土状況（東から）

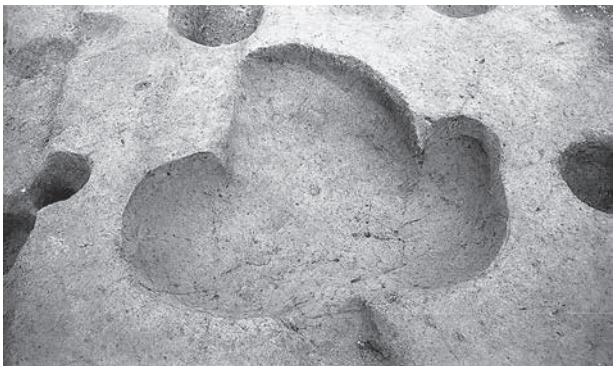
8. Ⅳ区河川跡炭化材出土状況（北西から）

写真図版18　Ⅳ区性格不明遺構（2）・河川跡

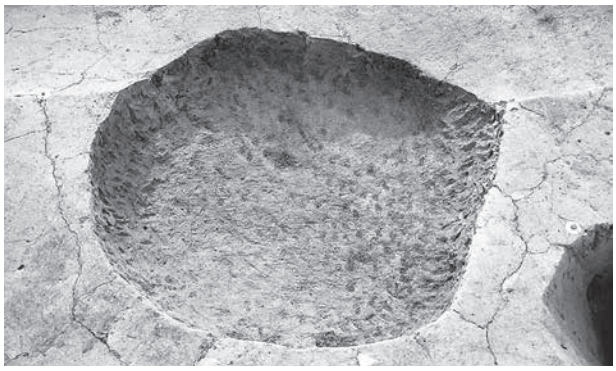
1. Ⅳ区SK4遺物出土状況（東から）



2. Ⅳ区SK5全景（東から）



3. Ⅳ区SK5・6全景（南から）



4. Ⅳ区SK7全景（東から）

5. Ⅳ区SK9土層断面（南から）

6. Ⅳ区SK9全景（南から）

7. Ⅳ区SK10遺物出土状況（北東から）

8. Ⅳ区SK10全景（北東から）

写真図版19　Ⅳ区土坑

1. Ⅳ区SD5・窪地状地形２全景（北西から）

2. Ⅳ区窪地状地形２遺物出土状況（北から）

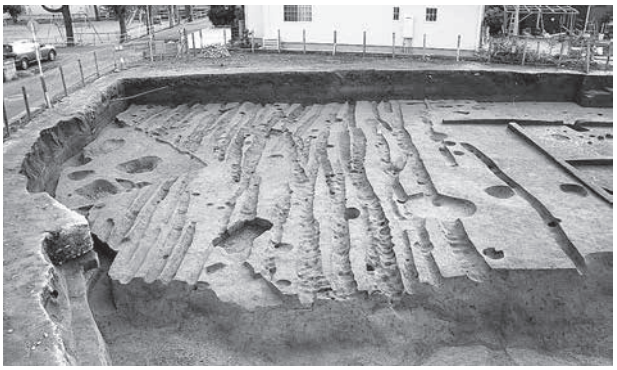
3. Ⅳ区SD5全景（南から）

4. Ⅳ区SD5（調査区南壁）土層断面（北から）

5. Ⅳ区SD５B–B’土層断面（北西から）

6. Ⅳ区小溝状遺構Ａ・Ｂ群全景（東から）

7. Ⅳ区小溝状遺構Ａ群全景（西から）



8. Ⅳ区小溝状遺構Ｂ群全景（北から）

写真図版20　Ⅳ区Ⅵ層上面遺構

1. Ⅳ区東側調査区Ⅵ面全景（北西から）

2. Ⅳ区炭化物集中1～3全景（南から）

3. Ⅳ区炭化物集中1・2全景（南から）

4. Ⅳ区炭化物集中2全景（南西から）

5. Ⅳ区炭化物集中3全景（東から）

6. Ⅳ区炭化物集中3炭化材出土状況（北東から）

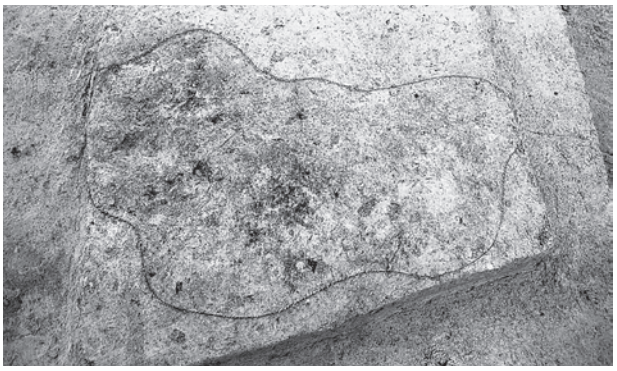
7. Ⅳ区炭化物集中3検出状況（南西から）

8. Ⅳ区炭化物集中4検出状況（北から）

写真図版21　Ⅳ区Ⅵ層調査（1）

1. Ⅳ区炭化物集中５検出状況（南から）

2. Ⅳ区炭化物集中５全景（南から）



3. Ⅳ区炭化物集中６検出状況（西から）

4. Ⅳ区炭化物集中６全景（西から）

5. Ⅳ区炭化物集中７全景（南から）

6. Ⅳ区Ⅵ層遺物出土状況（南西から）

7. Ⅳ区Ⅵ層遺物出土状況（北西から）

8. Ⅳ区Ⅵ層（61Grid）遺物出土状況（西から）

写真図版22　Ⅳ区Ⅵ層調査（2）

1. Ⅴ区調査区全景（東から）

2. Ⅴ区調査区全景（西から）

写真図23　Ⅴ区調査区全景

1. Ⅴ区SK11全景（東から）

2. Ⅴ区SK12全景（東から）

3. Ⅴ区SK13全景（南西から）

4. Ⅴ区SK14全景（東から）

5. Ⅴ区SK15全景（南から）

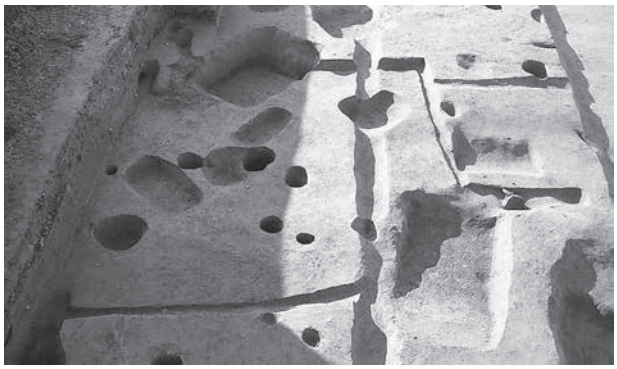
6. Ⅴ区SK16全景（南東から）

7. Ⅴ区SK17全景（南東から）

8. Ⅴ区SD2～4全景（東から）

写真図版24　Ⅴ区土坑・溝跡

1. Ⅴ区SI17・18掘り方全景（東から）

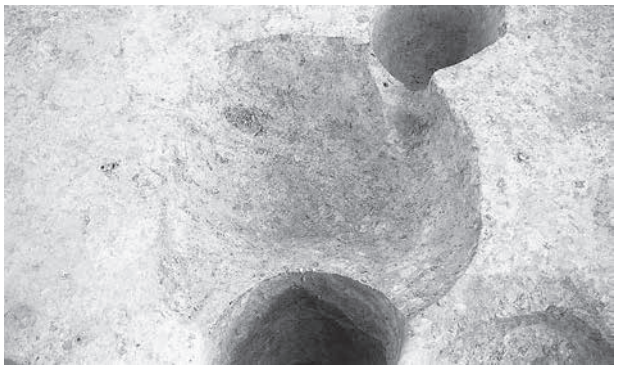


2. Ⅴ区SI17全景（東から）

3. Ⅴ区SI17新カマド全景（東から）

4. Ⅴ区SI17遺物出土状況（北東から）

5. Ⅴ区SI17旧カマド全景（南から）



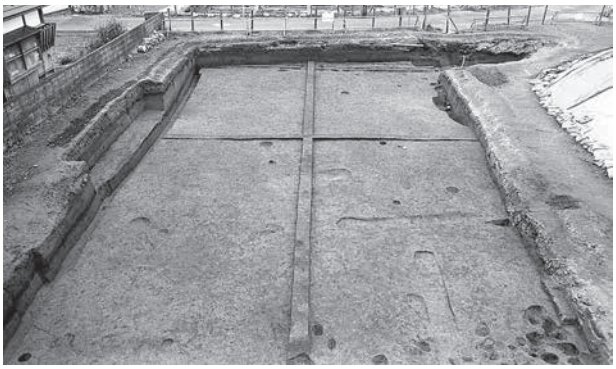
6. Ⅴ区SI17SK1全景（北西から）

7. Ⅴ区SI18全景（南から）

8. Ⅴ区SI18SK1検出状況（西から）

写真図版25　Ⅴ区竪穴住居跡

1. Ⅴ区東側河川跡土層断面（北西から）



2. Ⅴ区Ⅵ層上面調査区西側全景（東から）

3. Ⅴ区Ⅵ層上面小溝状遺構全景（北から）

4. Ⅴ区調査区西側弥生下層調査区全景（東から）

5. Ⅴ区弥生下層調査区１全景（北から）

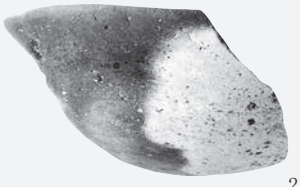
6. Ⅴ区弥生下層調査区１土層断面（北から）

7. Ⅴ区弥生下層調査区２全景（北から）

8. Ⅴ区弥生下層調査区２南壁土層断面（北から）

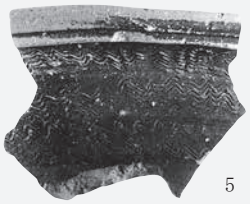
写真図版26　Ⅴ区河川跡・Ⅵ層上面・弥生下層調査区

1
Kd-a-01(第 24 図-1)



2
C-001(第 25 図-1)

4
E-001(第 25 図-3)



5
E-002(第 25 図-4)

3
C-002(第 25 図-2)

6
E-003(第 25 図-5)

7
E-004(第 25 図-6)

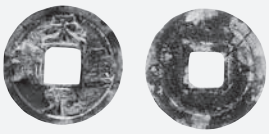
8
N-03(第 31 図-1)

9
N-04(第 31 図-2)

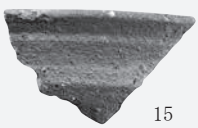
10
N-05(第 45 図-1)

11
Kd-a-02(第 45 図-2)

12
P-01(第 45 図-3)



13
N-01(第 49 図-1)



15
I-01(第 52 図-1)

16
I-02(第 52 図-2)

14
N-02(第 49 図-2)

1:14T　2 ～ 7:河川跡　8･9:SA1　10:SK3　11:SK8　12:SK9　13･14:SX1　15･16:Ⅱ区

写真図版27　Ⅳ区確認調査・河川跡、Ⅱ区柱穴列・土坑・性格不明遺構・遺構外出土遺物

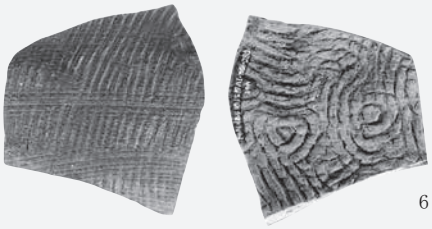
1
C-003(第 71 図-1)

2
E-005(第 71 図-5)

3
C-004(第 71 図-2)

4
C-005(第 71 図-3)

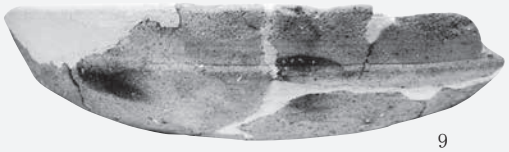
5
C-006(第 71 図-4)



6
E-006(第 71 図-6)

7
Kd-a-03(第 71 図-7)

8
Kd-a-04(第 71 図-8)



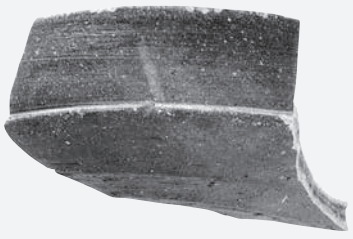
9
C-007(第 73 図-1)

10
C-008(第 73 図-2)

11
C-010(第 73 図-4)

12
C-009(第 73 図-3)

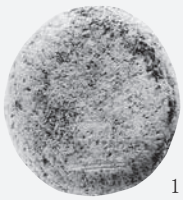
13
E-007(第 73 図-5)



14
E-008(第 73 図-6)

1 ～ 8:SI1　9 ～ 14:SI2

写真図版28　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(1)

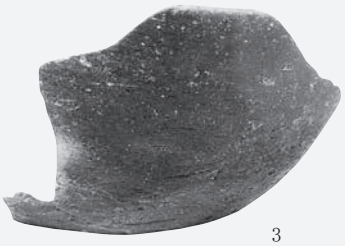


1

Kc-a-01(第 73 図-7)

2

Kc-a-02(第 73 図-8)



3

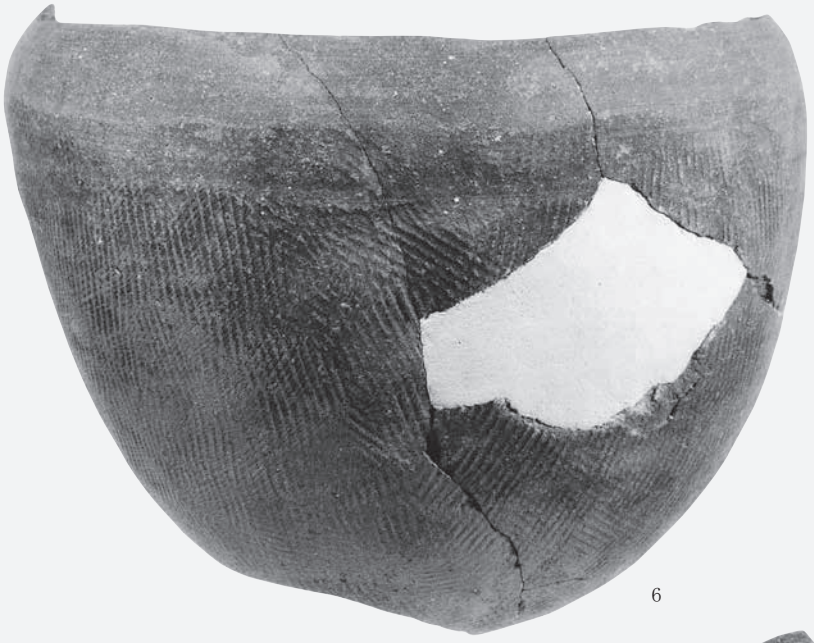
C-011(第 75 図-1)

4

C-012(第 75 図-2)

5

C-013(第 75 図-3)



6

E-009(第 75 図-4)

E-009 内面部分

7

E-010(第 75 図-5)

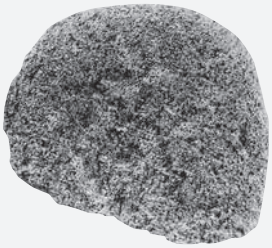
1·2:SI2　3 ～ 7:SI3

写真図版29　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(2)

1
Kc-a-03(第 76 図-6)

2
Kc-c-01(第 76 図-7)

3
Kc-c-02(第 76 図-8)



4
Kc-g-02(第 76 図-10)

5
Kc-g-01(第 76 図-9)

6
C-014(第 78 図-1)

7
C-015(第 78 図-2)

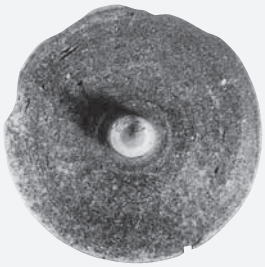
8
C-016(第 78 図-3)

9
C-017(第 78 図-4)

10
C-018(第 78 図-5)

11
C-019(第 78 図-6)

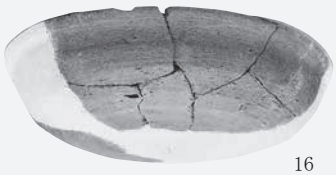
12
C-020(第 78 図-7)



15
E-011(第 78 図-10)

13
C-021(第 78 図-8)

14
C-022(第 78 図-9)



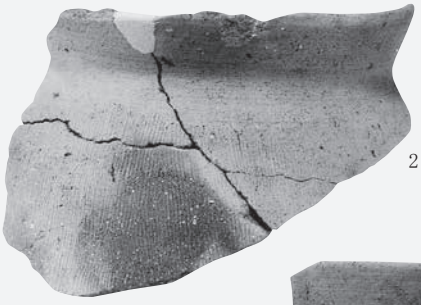
16
E-012(第 78 図-11)

1 ～ 5:SI3　6 ～ 16:SI4

写真図版30　Ⅳ区竪穴住居跡・竪穴遺構出土遺物(3)

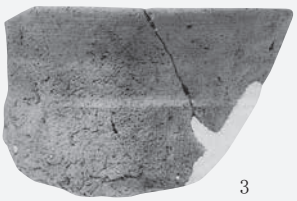
1

C-023(第 79 図-12)



2

C-024(第 79 図-13)



3

C-025(第 79 図-14)

4

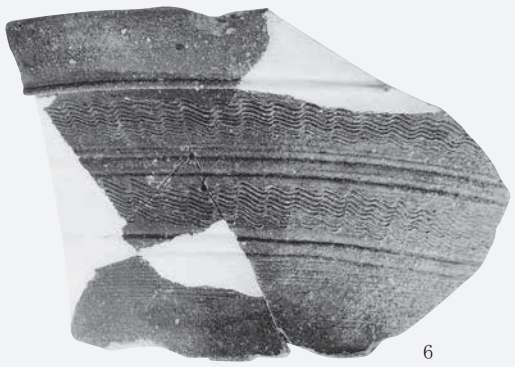
C-026(第 79 図-15)

5

C-027(第 79 図-16)

C-023 底部拡大

C-026 底部拡大



6

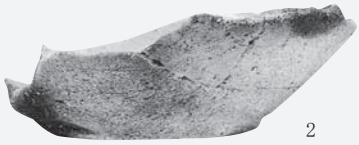
E-013(第 79 図-17)

1 ～ 6:SI4

写真図版31　Ⅳ区竪穴遺構出土遺物(4)

1

C-028(第 82 図-1)



2

C-029(第 82 図-2)

4

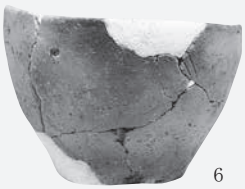
C-030(第 86 図-1)

3

kc-g-03(第 82 図-3)

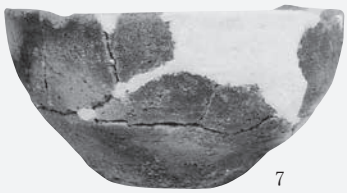
5

C-031(第 86 図-2)



6

C-032(第 86 図-3)

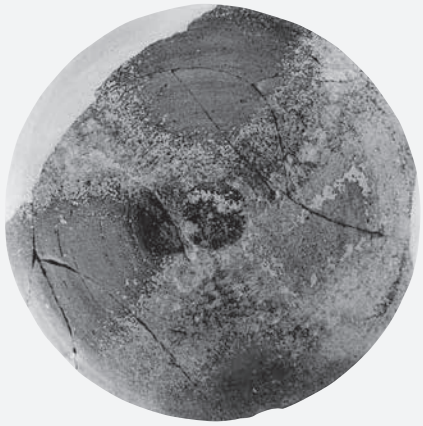


7

C-033(第 86 図-4)

8

E-015(第 86 図-6)



9

C-034(第 86 図-7)

10

E-014(第 86 図-5)

1 ～ 3:SI5　4 ～ 10:SI6

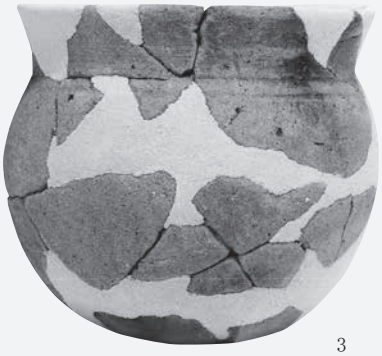
写真図版32　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(5)

1

C-035(第 86 図-8)

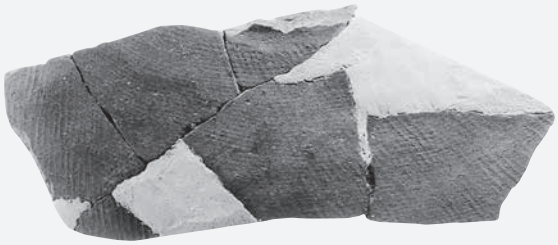
2

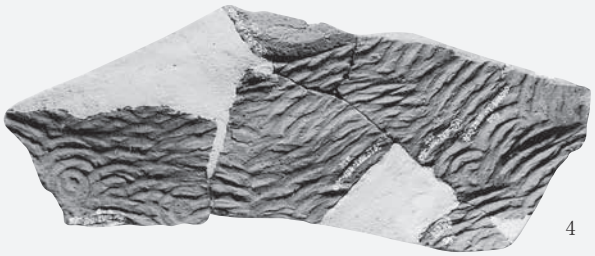
C-036(第 86 図-9)



3

C-037(第 86 図-10)





4

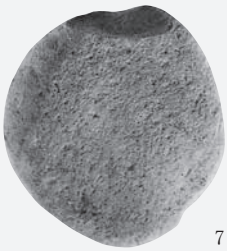
E-016(第 87 図-11)

5

E-017(第 87 図-12)

6

Kc-h-01(第 87 図-14)



7

Kc-h-02(第 87 図-15)

8

Kd-a-05(第 87 図-16)

9

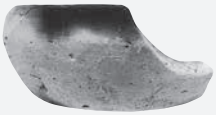
N-06(第 87 図-13)

10

Kd-e-01(第 87 図-17)

13

C-038(第 92 図-1)



14

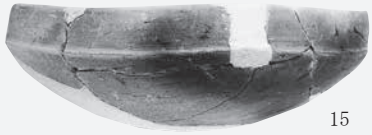
C-040(第 92 図-3)

11

Kc-c-03(第 89 図-1)

12

Kd-a-06(第 89 図-2)



15

C-041(第 92 図-4)

16

C-039(第 92 図-2)

1 ～ 10:SI6　11･12:SI7　13 ～ 16:SI8A

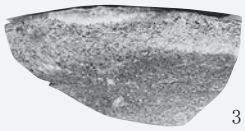
写真図版33　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(6)

1

E-018(第 92 図-5)

2

E-019(第 92 図-6)

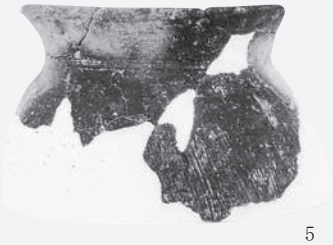


3

E-020(第 92 図-7)

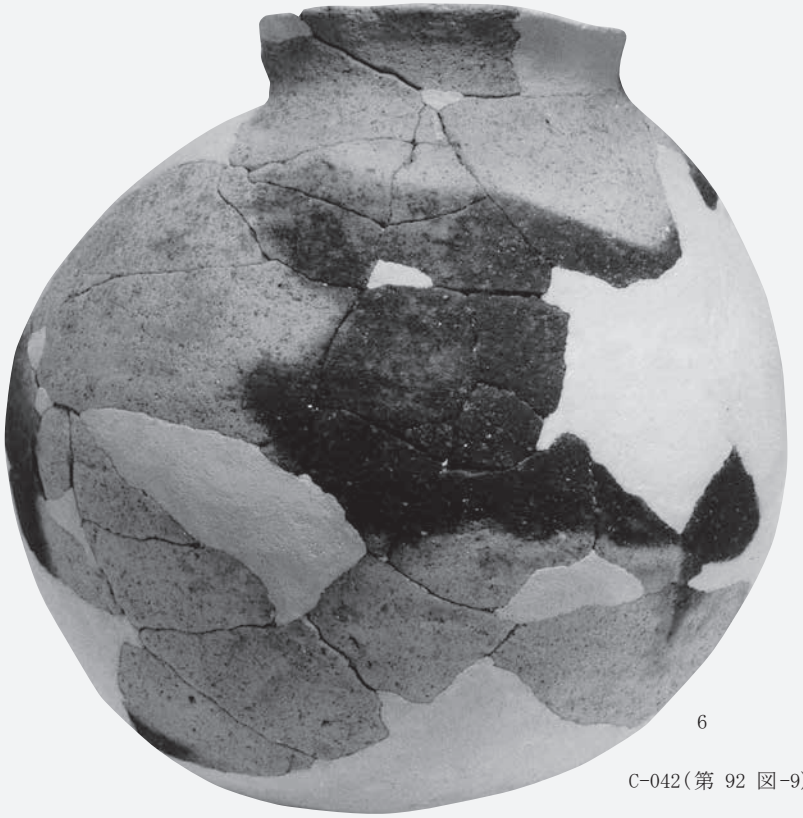
4

E-021(第 92 図-8)



5

C-043(第 92 図-10)

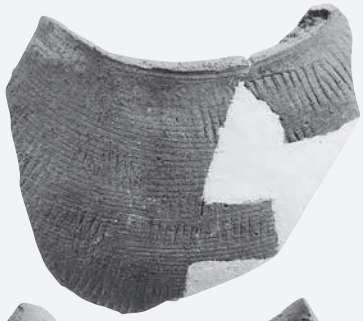


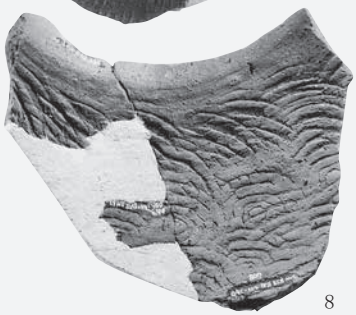
6

C-042(第 92 図-9)

7

C-044(第 92 図-11)





8

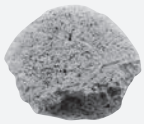
E-022(第 92 図-12)

9

Kc-c-04(第 93 図-13)

10

Kc-h-03(第 93 図-14)

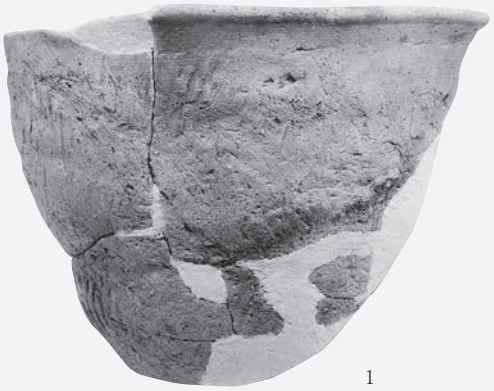


11

Kc-h-04(第 93 図-15)

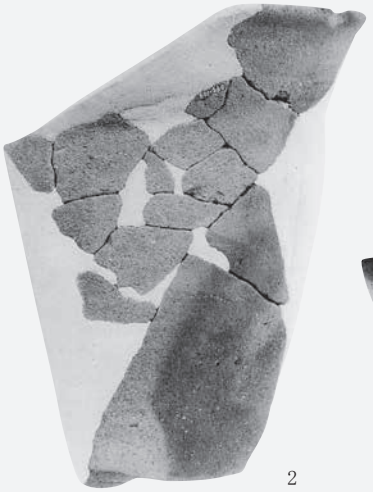
1 ～ 11:SI8A

写真図版34　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(7)



1

C-045(第 97 図-1)



2

C-046(第 97 図-2)

3

C-047(第 99 図-1)

4

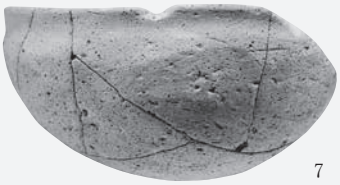
C-048(第 99 図-2)

5

C-049(第 103 図-1)

6

C-050(第 103 図-2)

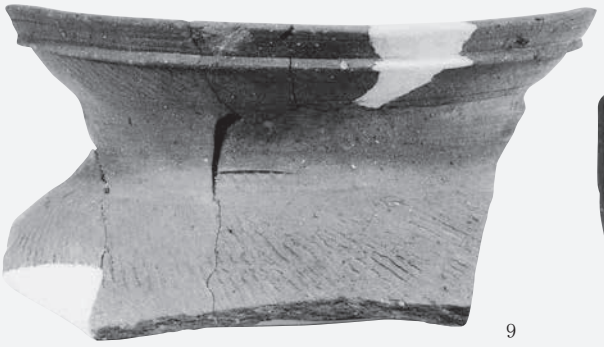


7

C-051(第 103 図-3)

8

C-052(第 103 図-4)



9

E-023(第 103 図-6)

10

C-053(第 103 図-5)

E-023 外面拡大

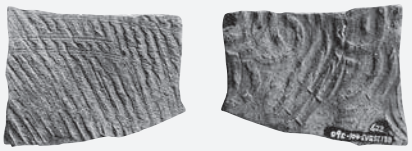
E-023 内面拡大

1･2:SI10　3･4:SI11　5 ～ 10:SI13

写真図版35　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(8)

1

E-024(第 103 図-7)



2

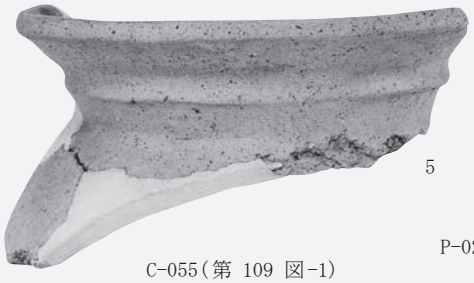
E-025(第 103 図-8)

3

Kc-h-05(第 103 図-9)

4

C-054(第 107 図-1)

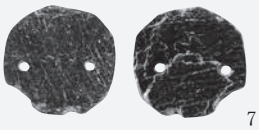


5

C-055(第 109 図-1)

6

P-02(第 109 図-2)



7

Kd-e-02(第 109 図-3)

8

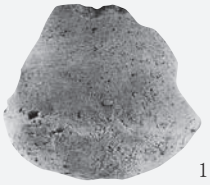
C-056(第 112 図-1)

9

C-057(第 112 図-2)

10

C-058(第 112 図-3)



11

C-059(第 112 図-4)

12

C-060(第 112 図-5)

13

C-061(第 112 図-6)

14

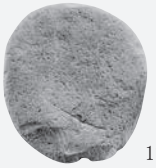
C-062(第 112 図-7)

15

G-01(第 112 図-8)

16

P-03(第 112 図-9)



17

Kc-h-06(第 113 図-11)

18

Kc-c-05(第 113 図-10)

19

Kd-a-07(第 113 図-12)

1 ～ 3:SI13　4:SI15　5 ～ 7:SI16　8 ～ 19:SB1

写真図版36　Ⅳ区竪穴住居跡出土遺物(9)・掘立柱建物跡出土遺物

1

C-063(第 121 図-1)

2

E-026(第 121 図-2)

3

C-064(第 121 図-3)

4

C-065(第 130 図-1)

5

C-066(第 130 図-2)

6

G-02(第 130 図-3)

G-02 分割裁線

7

E-027(第 130 図-4)

8

C-067(第 130 図-5)

1 ～ 3:SA1　4 ～ 6:SK4　7:SK5　8:SK10

写真図版37　Ⅳ区柱穴列・土坑出土遺物

1

Kc-a-04(第 132 図-1)

2

C-068(第 135 図-1)

3

E-028(第 135 図-2)

4

E-029(第 135 図-3)

5

C-069(第 135 図-4)

6

C-070(第 135 図-5)

7

Kd-h-01(第 135 図-6)

8

E-030(第 137 図-1)

9

C-071(第 137 図-2)

10

Kc-a-05(第 137 図-3)

1:SX7　2:SX3　3 ～ 7:SX4　8 ～ 10:Pit

写真図版38　Ⅳ区性格不明遺構・ピット出土遺物

1

C-072（第 141 図-1）

2

C-073（第 141 図-2）

3

C-074（第 141 図-3）

4

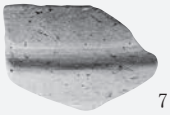
C-075（第 141 図-4）

5

C-076（第 141 図-5）

6

C-077（第 141 図-6）



7

C-078（第 141 図-7）

8

C-079（第 141 図-8）

9

C-080（第 141 図-9）

10

C-081（第 141 図-10）

11

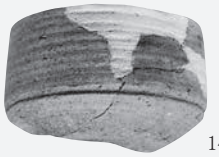
C-083（第 141 図-12）

12

C-082（第 141 図-11）

13

C-084（第 141 図-13）



14

E-031（第 141 図-15）

15

E-032（第 141 図-16）

16

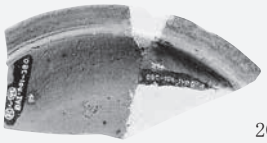
C-085（第 141 図-14）

17

E-033（第 141 図-17）

19

E-035（第 141 図-19）



20

E-036（第 141 図-20）

18

E-034（第 141 図-18）

1 ～ 20：Ⅳ区

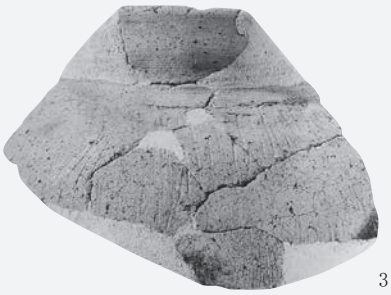
写真図版39　Ⅳ区遺構外出土遺物（1）

1

E-037（第 141 図-21）

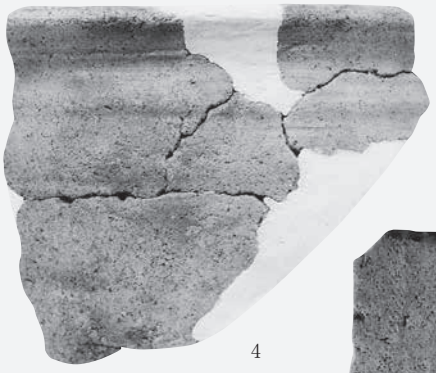
2

E-038（第 141 図-22）



3

C-086（第 142 図-23）

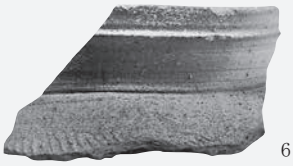


4

C-087（第 142 図-24）

5

E-039（第 142 図-25）



6

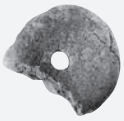
E-040（第 142 図-26）

7

G-03（第 142 図-27）

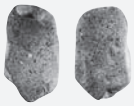
8

F-01（第 142 図-28）



9

P-04（第 142 図-29）



10

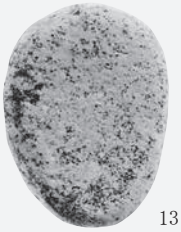
P-05（第 142 図-30）

11

P-06（第 142 図-31）

12

Ka-e1-01（第 143 図-32）

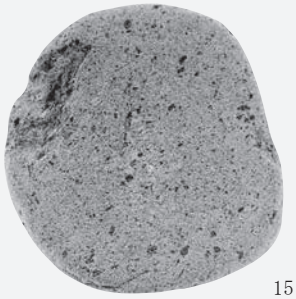


13

Kc-a-06（第 143 図-33）

14

Kc-a-07（第 143 図-34）



15

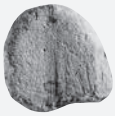
Kc-c-06（第 143 図-35）

16

Kc-c-07（第 143 図-36）

17

Kd-a-11（第 144 図-40）



18

Kd-a-12（第 144 図-41）

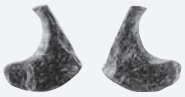
1 ～ 18：Ⅳ区

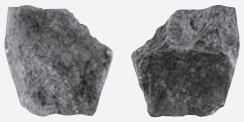
写真図版40　Ⅳ区遺構外出土遺物(2)

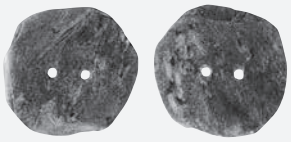
1
Kd-a-08(第 143 図-37)

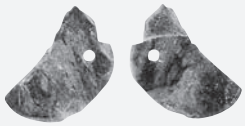
2
kd-a-09(第 144 図-38)

3
Kd-a-10(第 144 図-39)

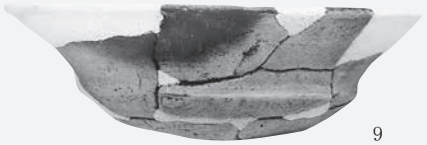

4
Kd-e-03(第 144 図-42)


5
Kd-e-04(第 144 図-43)

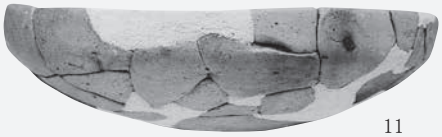

6
Kd-e-05(第 144 図-44)


7
Kd-e-06(第 144 図-45)

8
Kd-i-01(第 144 図-46)

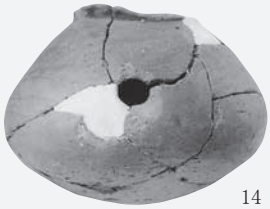

9
C-088(第 152 図-1)

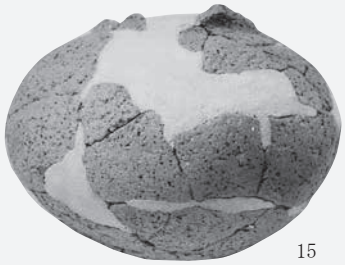
10
C-089(第 152 図-2)


11
C-090(第 152 図-3)

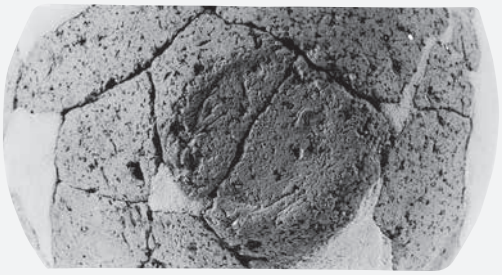
12
C-091(第 152 図-4)

13
C-092(第 152 図-5)

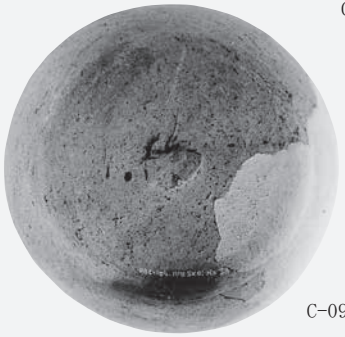

14
C-093(第 152 図-6)

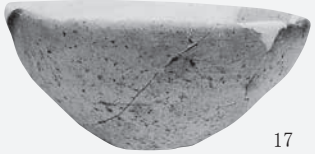

15
C-094(第 152 図-7)

C-093 底部拡大


C-094 底部拡大

16
C-095(第 152 図-8)


C-095 底部拡大


17
C-096(第 152 図-9)

1 ～ 8:Ⅳ区　9 ～ 17:窪地状地形 1

写真図版 41　Ⅳ区遺構外出土遺物(3)・窪地状地形1出土遺物(1)

1

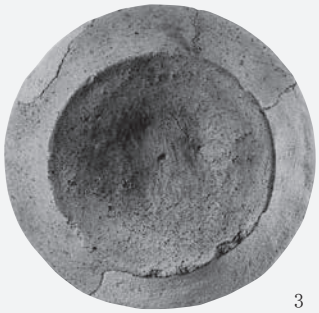
C-097（第 152 図-10）

4

C-100（第 152 図-13）

2

C-098（第 152 図-11）



3

C-099（第 152 図-12）

5

C-101（第 152 図-14）

6

C-102（第 152 図-15）

7

C-103（第 152 図-16）

8

C-104（第 153 図-17）

1 ～ 8：窪地状地形 1

写真図版 42　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物（2）

1

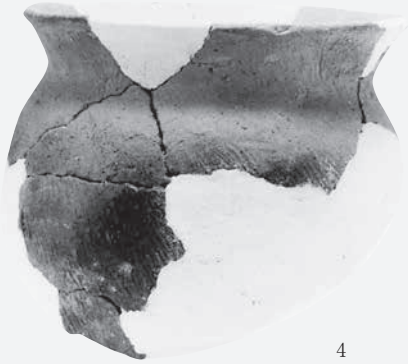
C-105(第 153 図-18)

2

C-107(第 153 図-20)

3

C-106(第 153 図-19)

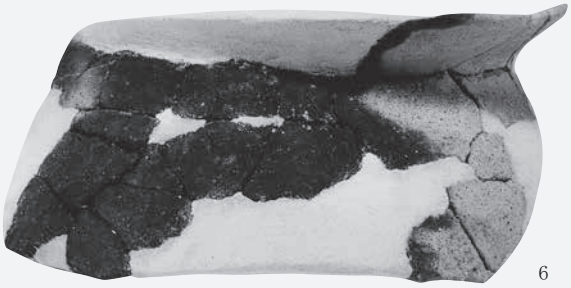


4

C-108(第 153 図-21)

5

C-109(第 153 図-22)



6

C-110(第 153 図-23)

1 ～ 6: 窪地状地形 1

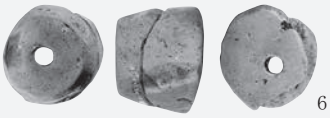
写真図版 43　Ⅳ区窪地状地形1出土遺物(3)

1
E-041(第 154 図-24)

2
E-042(第 154 図-25)

3
E-043(第 154 図-26)

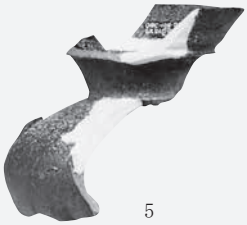
4
E-044(第 154 図-27)



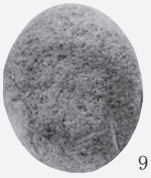
6
P-07(第 154 図-29)

7
P-08(第 154 図-30)

8
N-07(第 154 図31)



5
E-045(第 154 図-28)

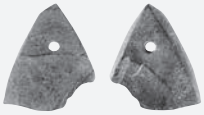


9
Kc-a-08(第 154 図-32)

10
Kc-c-08(第 154 図-33)

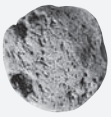
11
Kd-a-13(第 154 図-34)

12
Kd-a-14(第 154 図-35)



13
Kd-e-07(第 154 図-36)

14
Kd-e-08(第 154 図-37)



15
Kd-i-02(第 154 図-38)

16
C-111(第 156 図-1)

18
C-113(第 156 図-3)

17
C-112(第 156 図-2)

19
Kc-a-09(第 156 図-4)

1 ～ 15:窪地状地形１　16 ～ 19:窪地状地形２

写真図版44　Ⅳ区窪地状地形1・2出土遺物(4)

S-01(第 157 図-1)

1

2

S-02(第 157 図-2)

3

B-02(第 160 図-2)

4

B-03(第 160 図-3)

5

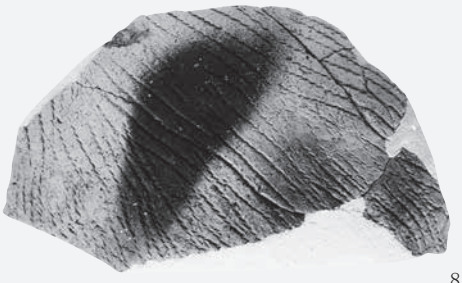
B-04(第 160 図-4)

6

B-05(第 160 図-5)

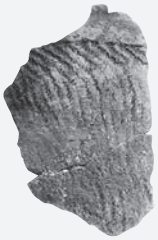
7

B-06(第 160 図-6)



8

B-07(第 160 図-7)



9

B-08(第 160 図-8)

10

B-09(第 160 図-9)

11

N-08(第 174 図-1)

12

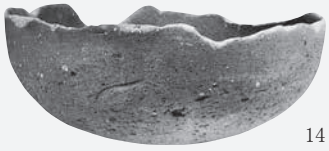
N-09(第 174 図-2)

13

Kd-j-01(第 174 図-3)

16

C-115(第 180 図-2)

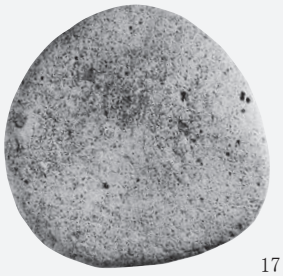


14

C-114(第 180 図-1)

15

C-116(第 180 図-3)



17

Kc-c-09(第 182 図-1)

18

E-046(第 183 図-1)

1 ～ 10;Ⅳ区　11･12:SK15　13:SK16　14 ～ 16:SI17　17:SI18　18:Ⅴ区

写真図版45　Ⅳ区遺構外出土遺物、Ⅳ区Ⅵ層出土遺物(1)、Ⅴ区土坑・竪穴住居跡・遺構外出土遺物

1

B-01（第 160 図-1）

B-01 口縁部文様拡大

B-01 胴部文様拡大

1：Ⅳ区

写真図版46　Ⅳ区Ⅵ層出土遺物(2)

報　告　書　抄　録

ふりがな	こおりやまいせきだい190じちょうさ
書名	郡山遺跡第190次調査
副書名	仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路長町八木山線発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第389集
編著者名	工藤信一郎　水野一夫　秋山重美　石川真紀　伊藤貴宏　松本秀明
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-8671　宮城県仙台市青葉区二日町１番１号　TEL 022-214-8839
発行年月日	2011年12月22日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
郡山遺跡（こおりやまいせき） 第190次調査（だいじちょうさ） （長町八木山線（ながまちやぎやません））	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし） 太白区郡山三丁目他（たいはくくこおりやまさんちょうめほか）	04100	01003	38° 13′ 32″	140° 53′ 38″	20080417 〜 20090306	確認調査 1,282㎡	長町八木山線の建設事業に伴う確認調査及び本調査
				世界測地系準拠		20090401 〜 20100312	本調査 4,136㎡	
						20100712 〜 20111222	整理作業	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郡山遺跡	遺物包含層	弥生時代後期		弥生土器	・天王山式土器の出土
	生産跡	古墳時代前期〜中期	性格不明遺構（窪地状地形） 小溝状遺構群、溝跡	土師器・須恵器 埴輪・石製品	
	官衙跡 集落跡	古墳時代後期〜終末期	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 材木列、柱穴列 性格不明遺構 土坑、ピット	土師器・須恵器・瓦 鉄製品・石製品 礫石器	・郡山Ⅱ期官衙期における北辺大溝北側での居住域の発見 ・郡山官衙期の整地層
		（古代〜中世）	河川跡		・河川跡は古代面を浸食
		中世以降	掘立柱建物跡 柱穴列、土坑 小溝状遺構群 溝跡、ピット	陶磁器・銭貨・硯	

要約	郡山遺跡第190次調査は、長町八木山線の建設事業に伴うもので、郡山遺跡Ⅱ期官衙の北辺域を対象とした。調査は弥生時代、古墳時代から中世にかけて行い、各時代で貴重な成果を得た。特にⅡ期官衙期とされる外溝北辺の推定位置付近には、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出された。このことによりⅡ期官衙北辺大溝の北側には、居住域が形成されていた状況が明らかになった。外溝北辺の存否については、想定部分が河川の浸食によって壊されており、特定できなかった。

仙台市文化財調査報告書第389集

郡山遺跡第190次調査

－仙台市あすと長町土地区画整理事業に関連する都市計画道路
長町八木山線発掘調査報告書－

2011年12月

発　行　　仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町１番１号
文化財課　℡ 022(214)8839
印　刷　　八幡印刷株式会社
福島県いわき市平字田町82-13番地
℡ 0246-23-1471